

Copyright © EFI, 2006-2014

本書を事前に書面による承諾を得ることなく、印刷、複写、その他何らかの方法にてコピーまたは複製することは、その形態を問わず禁じられています。

本プログラムの使用、あるいは本書に含まれる瑕疵または欠落により、何らかの損害が生じたとしても、EFI はいかなる責務も負うことはありません。本書の情報は印刷時におけるソフトウェアの状態を示しています。EFI は随時、技術的な記載情報に変更を加える権利を有しています。

本書で言及されている製品名の権利は、それらの製品の製造元に帰属します。

Acrobat、Adobe、および PostScript は、米国ならびにその他の諸国における Adobe Systems Incorporated の登録商標または商標です。

HKS は、HKS Trademark Association の登録商標です。

PANTONE® は Pantone, Inc. の登録商標です。

その他のサードパーティの著作権、および注意事項

Portions Copyright(c) 1990, 1994 Regents of The University of Michigan.

不許複製・禁無断転載

Portions Copyright(c) 1983 Regents of the University of California.

All rights reserved.

ソースおよびバイナリ形式での再配布と使用は、変更の有無に関わらず、下記のすべての条件を満たす場合のみ許可されます。

ソース・コードを再配布する場合は、上記の著作権情報、この条件リスト、および次の免責条項を、そのまま残しておくこと。

バイナリ形式で再配布する場合は、上記の著作権情報、この条件リスト、および次の免責条項を複製し、付属マニュアルまたはその他の付属資料内に添付すること。

本ソフトウェアの機能または使用に言及しているあらゆる広告資料に、次の文言を明示すること。本製品には、カリフォルニア大学パークレー校にて開発され、外部開発者による貢献を盛り込んだソフトウェアが含まれています。

同校ならびに開発貢献者の名前を、個々の当該組織または個人より書面による事前承諾を得ることなく、本ソフトウェアから派生した製品の保証や販促に使用することは禁じられています。

本ソフトウェアは、同校理事会および開発貢献者により「現状のまま」提供されており、商用性ならびに特定用途への適合性の暗黙的保証を含む、明示ならびに暗黙のいかなる保証も伴いません。本ソフトウェアの使用に起因して、代替商品またはサービスの調達、使用、データ、または利益の損失、事業の中断その他の、直接的、間接的、特殊、典型的、偶発的、または必然的な損害を蒙ったとしても、因果関係の如何に関わらず、契約、無過失責任、あるいは（意図的または意図せぬ）不法行為等、いかなる責任理論にも拠らず、またそのような損害の可能性を事前に告知されていたかどうかに関係なく、同校理事会および開発貢献者はいっさいの責任を負いません。

Copyright(c) 1983 Regents of the University of California.

Copyright (c) 1990, 1991 Regents of The University of Michigan.

Portions Copyright (c) 1990, 1991 Regents of The University of Michigan.

不許複製・禁無断転載

本ソフトウェアと添付文書は、いかなる用途にも、無料にて使用、コピー、変更、および配布できます。ただし、上記の著作権通知をすべてのコピーに明示し、同じ著作権通知とこの許可通知を添付文書に明示すること、およびミシガン大学の名称（The University of Michigan）を、書面による事前承諾を得ることなく、ソフトウェアの配布に関連する広告や公示に使用しないことを条件とします。本ソフトウェアは、明示ならびに暗黙的ないかなる保証も伴わない「現状のまま」で提供されます。

Research Systems Unix Group

The University of Michigan

c/o Mike Clark

535 W. William Street

Ann Arbor, Michigan

+1-313-763-0525

netatalk@itd.umich.edu

2014年5月発行

目次

はじめに	15
プログラムのアーキテクチャ	15
システムに必要な条件	16
サポート OS	16
ハードウェア	16
オンラインヘルプ	17
表記	17
FIERY XF CONTROL	18
FIERY XF の起動	22
Fiery XF サーバの起動	22
Fiery XF クライアントの起動	23
Fiery XF サーバへのログオン	23
はじめに FIERY XF	27
ユーザインターフェース	27
Job Explorer	27
System Manager	30
プロパティインスペクタ	31
全体的な設定	32
一般 Fiery XF 操作	32
ジョブ処理	32
ログオフして Fiery XF を終了	36
キーボードショートカット	37

ライセンス	43
ソフトウェアのライセンス	43
ライセンスファイルを再度生成する	48
ライセンス情報の表示	50
システムコンフィグレーションの作成	51
セットアップウィザード / アシスタントのシステムコンフィグレーションを作成する	52
System Manager でシステムコンフィグレーションの作成	58
システムコンフィグレーションのオンライン / オフライン設定	65
ワークスペース	71
ワークスペースの選択	71
ワークスペースのカスタマイズ	72
ワークスペースの作成	72
ワークスペースの編集	75
カスタムワークスペースの削除	75
ワークスペースの割り当て	76
ジョブリストとプレビューウィンドウ	77
プレビューのアクティベーション	77
ジョブ・リスト	78
ジョブリストのカスタマイズ	78
サムネイル画像	79
ジョブのコピーと移動	80
プレビューウィンドウ	81
プレビューウィンドウの外観の変更	81
ページの配置のための表示オプション	82

ジョブの編集	91
ジョブの回転	91
ジョブのミラーリング	92
ジョブの拡大縮小	92
ジョブのクロップ	95
シート上のページの位置合わせ	98
POSTSCRIPT と PDF ジョブ	99
プリントエンジン	99
EPS ジョブ検出	100
In-RIP セパレーション	101
ページサイズの定義	103
作業カラースペースを適用する	104
コンポジットジョブでのオーバープリント	105
PDF ジョブに埋め込まれていないフォント	106
複数ページのジョブを単一ページとして読み込む	107
TIFF/IT と SCITEX のジョブ	108
分版ジョブ	109
ネスティング	111
ネスティングを設定する	111
ネスティング：ユーザインターフェイス	113
ネスト済みページを変更する	114
ネスト済みページとシートの管理	115
ネスト済みページの位置を揃える	118
一般的なネスティング設定	119

タイリング	121
タイリング：ユーザインターフェイス	122
タイリングの変更	123
一般的なタイリング設定	125
ステップ & リピート	128
ステップ&リピートの変更	129
ステップ&リピートの名前の変更	130
ジョブの統合	131
フッター	134
ジョブチケット	135
コントロールストリップとメディアウェッジ	136
フッターのレイアウト	139
プロファイルとレンダリングインテントの選択	142
メディアプロファイル	143
ソースプロファイルとシミュレーション（リファレンス）プロファイル	144
レンダリングインテント	148
デバイスリンクプロファイル	150
モニタのプロファイル	152
最適化プロファイルの作成	154
システム設定	154
リニアリゼーションデバイスの設定	155
Color Tools の起動	156
一般的なヒント	157
ベースリニアリゼーションファイルを作成または編集する	157

印刷メディアプロファイルを作成する	159
測定値からプロファイルを作成する	160
印刷メディアプロファイルの最適化	162
デバイスリンクプロファイルを作成する	163
シミュレーション（リファレンス）プロファイルの作成	164
モニタのプロファイルを作成する	166
プロファイルコネクタ	167
プロファイルの編集	168
プロファイルの検査	169
プリンタの再リニアリゼーション	170
視覚的カラー補正を実行する	172
版特性の修正	173

Fiery XF と印刷メディアプロファイルの更新 175

更新 Fiery XF	175
印刷メディアプロファイルの更新	177
外部ソースから標準 Fiery XF ファイルのアップロード	178

サードパーティ製のメディアプロファイル 179

サードパーティ製の CMYK / OG の印刷メディアプロファイル	179
サードパーティ製の RGB 印刷メディアプロファイル	180
サードパーティのプロファイリングソフトウェアを使用した印刷メディアプロファイルの作成	183

色調整を行う 185

ジョブの色の微調整	185
不純色を除去する	186
ブラックインク	186
プロセスカラーとセカンダリカラー	186

グレースケールに変換	188
色のネガを作成する	188
ジョブの読み込みと印刷	189
ジョブの読み込み	189
ジョブを印刷する	191
ホットフォルダを介した印刷	193
Fiery XF でホットフォルダを作成する	193
Windows ユーザの設定	197
UNIDRIVER による印刷	200
Windows	200
Macintosh	203
仮想プリンタを使った印刷	212
Fiery XF で仮想プリンタをセットアップする	212
グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータの設定	213
Windows から Fiery XF Windows サーバへの印刷	213
Macintosh から Fiery XF Macintosh サーバへの印刷	217
Macintosh から Fiery XF Windows サーバへの印刷	218
Macintosh から Fiery XF Windows サーバへの印刷	220
グラフィックプログラムから Fiery XF 仮想プリンタへの印刷	221
ファイルへ出力	223
FIERY 出力デバイスへの印刷	224
VUTEK プリンタへの印刷	226
Fiery XF の設定	226

CADDON CAN:VIEW キャビネットに印刷する	229
Fiery XF の設定	229
Caddon ハードウェアとソフトウェアのセットアップ	230
色精度の検証	230
クロップのマーク	232
GROMMET マーク	234
FOTOBA のクロップマーク	237
KIPCut マーク	239
用紙カット用ファイル作成	241
コンター裁断情報	241
グラフィックスプログラムのコンター裁断情報	242
Fiery XF のコンター裁断情報	242
境界線の周りのコンター裁断情報 (level 1 cut)	243
Fiery XF でカッターの設定	243
i-cut カッター	244
Zünd カットセンター	246
印刷およびカットデバイス	248
Cut Server	251
コンター裁断情報を管理する	253
コンター裁断情報を処理する	258

ADVANCED LAYOUT	261
1 ビットファイル	263
JDF の統合	267
JDF 接続の設定	268
Fiery XF 内のベースリニアリゼーションファイルにプリント MIS のデータベースの マッピング	270
Fiery XF における JDF ジョブ	271
JDF ジョブ情報の表示	272
コンテンツファイルを追加する	272
Fiery XF での JDF ジョブの編集	274
バックアップと復元	275
システムコンフィグレーションのバックアップ作成	275
環境設定の保存	277
スポット カラー	279
スポット カラーの定義	279
スポット カラーテーブルを選択	283
スポット カラーテーブルを編集する	284
未定義のスポット カラーを出力	285
ジョブからスポット カラーを対象外とする	286
インクシーケンスを変更する	286
検索順序を変更する	287
ソースプロファイルの使用を強制する	288
PANTONE PLUS スポット カラーライブラリ	290
スポット カラーテーブルの削除	290

COLOR EDITOR	291
Color Editor の起動	292
「環境設定」ダイアログボックス	294
「カラー定義」タブ	296
「測定と表示」タブ	297
「グラデーション」タブ	298
Color Editor のスポット カラーを追加する	298
エイリアスの作成	300
スポット カラーをプリンタのインクチャンネルに割り当てる	302
カラーグラデーションを追加する	304
L*a*b* スポット カラーのカラー精度を確認する	305
L*a*b* スポット カラーをプリンタのカラースペースに変換する	309
L*a*b* スポット カラーを最適化する	309
Color Editor における一般的な操作	311
新しいスポット カラーテーブルを作成する	311
スポット カラーテーブルを開く。	312
スポット カラー名の置換	312
スポット カラーのインポート	313
スポット カラーテーブルを Fiery XF ワークフローに適用	314
FIERY XF ワークフローにおける色濃度の検証	316
Fiery XF でのワークフローの検証	316
ISO 12647-7 に対応したブルーフの実現	327
VERIFIER	329
検証を開始	330
設定 Verifier	331
ISO 12647-7 に対応したブルーフの実現	337
検証結果の分析	339

検証結果の印刷	344
Verifier ユーザーインターフェースのカスタマイズ	345
一般設定	348
測定データの保存と読み込み	349
異なる Fiery XF サーバにログオンする	352

サイト間でカラーの一貫性を検証する 353

Remote container の作成	353
受信者側でリモートジョブを処理するには	354

DOT CREATOR 359

ハーフトーンスクリーニング	359
Fiery XF でのスクリーニングの方法	360
Dot Creator の起動	363
スクリーニングファイルの作成	364
印刷メディアプロファイルにスクリーニングファイルを組み込む	366
スクリーン角度の変更	367

ジョブ速度を上げる 368

一般的なヒント	368
「RIP して即時に印刷」	369
RIP 解像度	369
双方向印刷	370
Adobe のプリントエンジン	370
マルチスレッドのハーフトーン処理	371
負荷分散	371
優先度の高い印刷	373

印刷品質の向上	374
一般的なヒント	374
「RIP して即時に印刷」	375
RIP 解像度	375
双方向印刷	376
印刷済みジョブの長さを補正する	376
独特の印刷特性をシミュレートする	377
グラデーションのスムージング	379
照明条件をシミュレートする	379
プログラムの構造	380
デフォルトのフォルダ	380
プロファイルフォルダとシステムフォルダの変更	384
クリーンアップ FIERY XF	385
トラブルシューティング	387
サーバおよびログオンにおける問題	387
ライセンスの問題	389
印刷の問題	392
カラーマネージメントの問題	395
印刷メディアプロファイルの問題	396
USB デバイスの問題	398
EFI サポート	399
ナレッジセンター	400
オンラインユーザフォーラム	400
Fiery Global University	400

アンインストール	401
機能と設定のサマリー	402
タブ	405
ペイン	406
用語集	534
索引	542

はじめに

Fiery XF 製品グループは、高品質かつ一貫した色再現を求めるすべてのユーザーに最適なツールです。

Fiery XF は校正、プロダクション、写真市場および署名と表示や有償印刷市場をターゲットにしています。これは、Windows と Macintosh の両方のオペレーティングシステム上で実行される ICC 対応のクライアント / サーバアプリケーションです。そのモジュラー設計はあらゆる規模の操作に適しており、ユーザー独自の要件を満たす柔軟性があることを意味しております。

Fiery XF は次のことを可能にします：

- プリンタ、印刷構成、インクの組み合わせから最大色域を達成します。これは、Fiery XF のインテリジェントなクリーンカラー技術、タイリング、詳細ステップ&リピート、最終調整における色調整技術、専門的な仕上げ技術が必須とされるプロダクション負荷の高い環境では最低必要条件となっています。
- プロ仕様の印刷機やその他プリンタで達成される色をシミュレートし、これにより、真に ISO 12467-7/8 に対応した検証印刷や構成出力を従来型プリンタで再現するのを可能にします。

プログラムのアーキテクチャ

Fiery XF には、モジュール型クライアント / サーバ・アーキテクチャが採用されています。これによりユーザーは、自身のワークフローの要件に合わせて、EFI Colorproof XF を極めて柔軟にカスタマイズできます。あるサーババージョンは、無数のクライアントバージョンからアクセスすることができます。Fiery XF サーバと同じコンピュータ上に Fiery XF クライアントをインストールする必要はありません。

ソフトウェアの基本パッケージは、次の各コンポーネントが含まれています。

- Fiery XF (1 つのサーバ・ソフトウェアと無限の数のクライアント・ソフトウェアが含まれています。)
 - サーバは、ソフトウェアの中核部です。サーバはサービスとしてバックグラウンドで動作しており、ジョブ処理を実行します。サーバソフトウェアをインストールすると、コンピュータを再起動する度にサーバが自動的に起動するようになります。
 - クライアントソフトウェアは、ユーザインターフェイスを提供します。クライアント側で設定したすべての設定やアクションは、サーバに送信され、処理が開始されます。

- Printer Option M（最大 18 インチの 1 台のプリンタ用）

この基本パッケージには、多彩なオプションを追加することができます。適切なオプションを使用すれば、他社製品をいっさい使用する必要なく、理想的なワークフローを構築できます。

システムに必要な条件

Fiery XF をインストールして実行するには、次のシステム要件が必要です。

サポート OS

サーバ	<ul style="list-style-type: none">• Windows 7 (64 ビット)• Windows 8 (64 ビット)• Windows 2008 R2• Windows 2012 Servers• Macintosh OS X10.710.9
クライアント	<ul style="list-style-type: none">• Windows 7 (32 ビットおよび 64 ビット)• Windows 8 (64 ビットおよび 32 ビット)• Windows 2012 Servers• Macintosh OS X10.710.9

ハードウェア

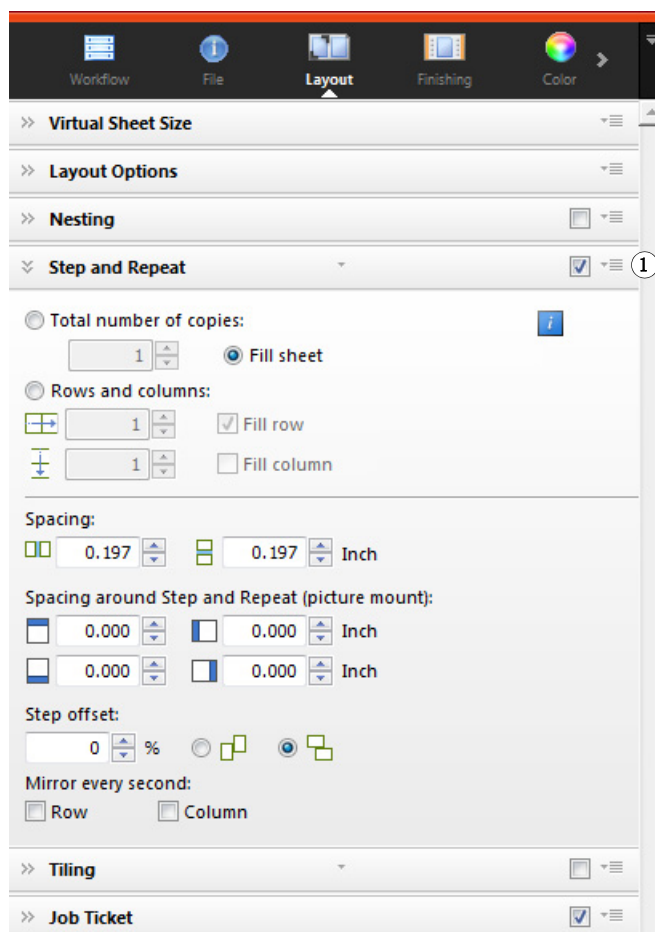
現在のハードウェアの詳細要件については、当社ウェブサイトをご覧ください
<http://w3.efi.com/fiery-wide-format/product-overview/marketing-materials>。

オンラインヘルプ

Fiery XF には包括的なヘルプシステムがあります：

- オンラインヘルプ (HTML および PDF 形式) には、Fiery XF 各機能の設定および使用方法についての詳細情報が記載されています。「ヘルプ」メニューからヘルプを開くことができます。
- 文脈対応ヘルプは、各ペインの設定を簡単に説明しています。プロパティインスペクタのメニューボタンから文脈対応ヘルプにアクセスできます。メニューボタンを右クリックし、「ヘルプ」をクリックします。

プロパティインスペクタ
1 「メニュー」ボタン



表記

本書で使用されている画面コピーは、Windows 7 のものと MacintoshOS X 10.8.2 のプラットフォームが混在しています。どのプラットフォームやオペレーティングシステムのバージョンが使用されているかにより、画面上のイメージは本書に掲載されるものとは若干異なる場合があります。

FIERY XF CONTROL

Fiery XF Control は次の目的で使用されます：

- Fiery XF サーバステータスの制御
- Fiery XF ソフトウェアのライセンス付与
- ソフトウェアアップデートとメディアプロファイルのダウンロードとインストール
- プロファイルフォルダとシステムフォルダの新しい保存先の定義

Fiery XF Control はタスクバーのステータス領域（Windows）またはサーバソフトウェアを実行しているコンピュータのドック（Macintosh）にあります。



Fiery XF Control アイコンが表示されていない場合、タスクバー（Windows のみ）と Fiery XF Control アイコンを表示するために以下のステップに従ってください。

常に WINDOWS タスクバーを表示するには

Windows タスクバーはデフォルトでは表示されていません。

- 1 ポインターを画面の下に移動します。
- 2 タスクバーを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 3 タスクバーの「スタートメニュー・プロパティ」ダイアログボックスから、「タスクバー」タブをクリックします。
- 4 「タスクバーのデザイン」で、「タスクバーを固定する」をオンにし、「タスクバーを自動的に隠す」をオフにします。
- 5 「OK」をクリックします。

FIERY XF CONTROL アイコンを表示するには

Fiery XF Control アイコンがタスクバー (Windows) またはドック (Macintosh) に表示されない場合は、以下の手順を試してください：

- Windows 7 または Windows 8 では、Fiery XF Control が非表示アイコンになっていないことを確認します。タスクバーのステータス領域の画面の下部にポインタを移動します。タスクバーのステータス領域で上向きの矢印をクリックし、「カスタマイズ」をクリックします。「通知領域アイコン」ダイアログボックスが表示されます。EFI_XF_Control.exe では、「アイコンと通知の表示」を選択し、「OK」をクリックします。

Windows タスクバー

- 1 隠れているアイコンを表示するための上向きの矢印
- 2 非表示のアイコンを表示するように設定をカスタマイズ




- Windows の場合、「スタート」をクリックし、「全てのプログラム」を選択し、EFI をクリックし、Fiery XF > Fiery XF Control の順にクリックします。
- Macintosh の場合、「アプリケーション」> Fiery XF > 「サーバ」の順に選択し、Fiery XF Control アプリケーションをドックにドラッグします。

FIERY XF CONTROL から処理を開始するには

1 Fiery XF Control アイコンを右クリックし項目をクリックします。

次のタスクのために Fiery XF Control を使用することができます：

ショートカットメニューコマンド	説明
Fiery XF オンライン・アップデート	インターネットにアクセスできるコンピュータから Fiery XF アップロードプログラムをダウンロードし、インストールします。
Fiery XF プロファイルのオンライン・アップデート	インターネットにアクセスできるコンピュータから新規または更新されたメディアプロファイルをダウンロードしてインストールします。
Fiery XF サーバの停止	<p>Fiery XF サーバを停止します。Fiery XF サーバを停止して、「サーバファイルのメンテナンス」を起動する必要があります。現在 Fiery XF で作業していない場合は、Fiery XF サーバを一時的に停止することによって、RAM の空き容量を増やすことができます。</p> <p>Fiery XF サーバが実行されていないとき、Fiery XF Control アイコンが赤く点灯します。</p> 
Fiery XF サーバの起動	<p>Fiery XF サーバが実行中でなければ、Fiery XF サーバを起動します。</p> <p>Fiery XF Control アイコンが赤の場合は、Fiery XF サーバが実行されていません。</p>
Fiery XF サーバの再起動	<p>Fiery XF サーバを一度停止してから、再起動します。</p> <p>Fiery XF サーバを再起動することにより、いくつかの処理速度が加速する可能性があります。例えば、サーバを再起動すると、新規プロファイルの検出速度が速くなる場合があります。</p>
Fiery XF クライアントの起動	Fiery XF クライアントの起動このコマンドは、サーバおよびクライアントが同じコンピュータ上にインストールされている場合のみ使用できます。
Fiery XF サーバコンフィグレーション (Windows のみ)	Fiery XF サーバはサービスとして実行します。このコマンドを使って、サービスを開始または停止させます。このコマンドを使って、ネットワークアクセス権をサーバに割り当てます。ホットフォルダから印刷するには、ネットワークへのアクセス権が必要です。

ショートカットメニューコマンド	説明
Fiery XF の起動	新しいライセンスファイルを生成し、インストールします。
dongle ID を表示する	コンピュータに接続されている dongle の dongle ID を表示します。ソフトウェアのライセンスの取得には、dongle ID が必要になります。
ライセンス情報を表示する	現在インストールされているライセンスとその有効期限に関する情報を表示します。
Fiery XF Control 自動起動 (Windows の場合) 「オプション」 > 「ログイン時に開く」 (Macintosh の場合)	コンピュータを起動するたびに Fiery XF Control が自動的に起動します。Fiery XF Control を自動的に起動させたくない場合は、チェックマークをオフにするために、このコマンドをクリックします。
サーバファイルのメンテナンス	デフォルトの場所から別の場所にプロファイルフォルダとシステムフォルダを移動します。例えば、C ドライブ上のディスク領域を解放するために別のパーティションに印刷メディアプロファイルを移動することができます。
終了 (Windows) 終了 (Macintosh の場合)	Fiery XF Control を終了します。Windows では、Fiery XF Control アイコンが、ステータス領域に表示されなくなります。Macintosh では、Fiery XF Control アイコンが青に変わります。 Fiery XF Control を再び利用可能にするには： <ul style="list-style-type: none"> Windows の場合、「スタート」をクリックし、「全てのプログラム」を選択し、EFI をクリックし、Fiery XF > Fiery XF Control の順にクリックします。Windows 7 または Windows 8 をお使いの場合は、管理者権限を持っていることを確認してください。 Macintosh では、Fiery XF Control アイコンをクリックします。アイコンは緑色 (サーバが実行している場合) または赤 (サーバが実行されていない場合) に変わります。必要に応じて、Fiery XF サーバを起動します。

43 頁の「ソフトウェアのライセンシング」

175 頁の「更新 Fiery XF」

177 頁の「印刷メディアプロファイルの更新」

384 頁の「プロファイルフォルダとシステムフォルダの変更」

392 頁の「印刷の問題」

FIERY XF の起動

Fiery XF はサーバ/クライアントプログラムです。サーバはクライアントによって送信された要求を処理する責任があります。無制限の数の Fiery XF クライアントが、Fiery XF サーバにログオンすることができます。

Fiery XF サーバの起動

Fiery XF Control アイコンはタスクバーのステータス領域 (Windows) またはサーバソフトウェアを実行しているコンピュータのドック (Macintosh) にあります。

通常、コンピュータの起動時に Fiery XF サーバが自動的に起動します。

Fiery XF Control アイコンが緑の場合は、Fiery XF サーバが実行中で、クライアントがログオンできる状態にあることを示しています。



Fiery XF Control アイコンが赤の場合は、Fiery XF は実行されていません。Fiery XF サーバを起動します。

FIERY XF サーバを起動するには

- 1 Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF サーバの起動」をクリックします。

Fiery XF Control アイコンが緑になり、Fiery XF サーバが実行されていることを示します。

関連参照：

18 頁の「[Fiery XF Control](#)」

Fiery XF クライアントの起動

Fiery XF サーバが実行中であることを確認してください。Fiery XF サーバが実行していないと、Fiery XF クライアントは動作しません。

FIERY XF クライアントを起動するには

1 次のいずれかを行います。



- Windows では、デスクトップのプログラム・アイコンをダブルクリックします。
Macintosh では、Dock にあるプログラム・アイコンをクリックします。



- Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF クライアントの起動」をクリックします。
- Windows の場合、「スタート」ボタンをクリックし、「全てのプログラム」をポイントし、EFI > Fiery XF > Fiery XF クライアントの順にクリックします。

エラーメッセージが表示された場合は、有効なライセンスがインストールされていることを確認してください。

関連参照：

43 頁の「[ライセンス](#)」

Fiery XF サーバへのログオン

Fiery XF サーバとクライアントが同じコンピューターにインストールされている場合は、初めてソフトウェアを起動する際に、Fiery XF クライアントが自動的にデフォルトの管理者として自動的にサーバにログオンします。Fiery XF サーバとクライアントが別のコンピュータにインストールされている場合、「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

A screenshot of a 'Login...' dialog box. It has a title bar with 'Login...' and a close button (X). The dialog contains three sections: 'User' with a 'User name:' label and a text box containing 'admin'; 'Password:' with a text box containing ten dots; and 'Server IP Address' with a dropdown menu showing 'localhost'. At the bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

次のいずれかに該当する場合は、「ログイン」ダイアログボックスも表示されません。

- Fiery XF サーバが実行していません。
- ドングルが正しく挿入していません。
- ソフトウェアライセンスを検出することができません。
- 以前のユーザが Fiery XF を終了するときにログオフしました。
- ファイアウォールの設定が正しく設定していません。

ネットワークでファイアウォールが使用されている場合は、必ずサーバとクライアント間の通信が可能になるように構成される必要があります。サーバとクライアントのコンピュータでは次のポートを有効にしてください。

ポート	用途
50005 ~ 50026	Fiery XF サーバと Fiery XF クライアントとの間の通常の通信
8010	JDF コネクターサービス
4108.	Epson SpectroProofer
8051、8052、8053、 8054、8061、8062、 8063、8064	Fiery XF サーバと APPE プロセス間通信（最大 4 回）
27000、27009、60000	ライセンス管理 /Cut Server
8020、8022	Fiery XF サーバと VUTEk プリンタ間の JDF 統合性と接続性
20020 ~ 20021 (UDP のみ)	Fiery XF 検索

さらに、次のアプリケーションがファイアウォールを介して通信できるか確認してください。

Fiery XF	Windows アプリケーション	Macintosh アプリケーション
サーバ	EFI_XF_Server EFI 認証ウィザード EFI_XF_Control ProfileUpdater Updater plink pscp	EFI XF サーバ EFI 認証ウィザード EFI XF Control Profilupdater Updater
クライアント	EFI_XF_Client EFI_ClientPtchr EFI_ClientPatcher ColorEditor Color Tools EFIDotCreator EFI_Fiery XF HelpU EFIColorVerifier Fiery デバイスリンカー . Fiery プリンタプロファイラ RGB_Profile_Connector* App2* (カットサーバ)	Fiery XF クライアント EFI_ClientPtchr ColorEditor Color Tools EFI ドットクリエーター Fiery XF ヘルプ EFIColorVerifier Fiery デバイスリンカー . Fiery プリンタプロファイラ EFI RGB プロファイルコネクタ *

* インストールした場合のみ

Windows のファイアウォールについては、ポートとアプリケーションの設定はインストーラから自動的に行われます。

FIERY XF サーバにログオンするには

Fiery XF は 2 人のデフォルトのユーザと一緒にインストールされます。

- 「管理者」権限を持つユーザ（パスワード：admin）は、System Manager でシステムコンフィグレーションを作成、設定、管理することができます。最小のシステムコンフィグレーションでは、1 ユーザ、1 ワークフロー、1 出力デバイスで構成されています。
- 「ゲスト」ユーザ（パスワード：guest）は、自分のジョブを印刷、管理することはできますが、System Manager へのアクセス権限はありません。

1 「ログイン」ダイアログボックスで、ユーザー名とパスワードを入力します。

初めて Fiery XF を起動する場合、デフォルトの管理者としてログオンします。デフォルトの管理者としてログオンすると、システムコンフィギュレーションの作成及び設定ができます。

Fiery XF でユーザとして過去に設定されている場合、自身のログイン資格情報を使用してログオンすることができます。

2 Fiery XF 「サーバコンピュータの IP アドレス」を選択するか、入力します。

ドロップダウンリストボックスにサブネットワーク内の有効な Fiery XF サーバの一覧が IP アドレスと共に表示されます。

前回のセッションの最後に前のユーザがログオフしている場合もログインダイアログボックスが表示されます。Fiery XF サーバとクライアントが同じコンピュータにインストールされている場合は、IP アドレスではなく「localhost」と入力できます。「localhost」と入力することは、IP アドレス 127.0.0.1 を使用するのと同じです。

3 「OK」をクリックします。

Fiery XF クライアントが起動します。接続されているサーバがプログラムウィンドウの下に表示されます。

Fiery XF を起動するたびに、クライアントは最後に接続されたサーバにログオンします。

異なる Fiery XF サーバにログオンするには

現在のセッションから、異なる Fiery XF サーバにログオンすることができます。

1 「ファイル」メニューで、「ログイン」をクリックします。

「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

2 ユーザー名とパスワードを入力します。**3 Fiery XF 「サーバコンピュータの IP アドレス」を選択するか、入力します。****4 「OK」をクリックします。**

関連参照：

22 頁の「[Fiery XF サーバの起動](#)」

43 頁の「[ライセンス](#)」

389 頁の「[ライセンスの問題](#)」

25 頁の「[Fiery XF サーバにログオンするには](#)」

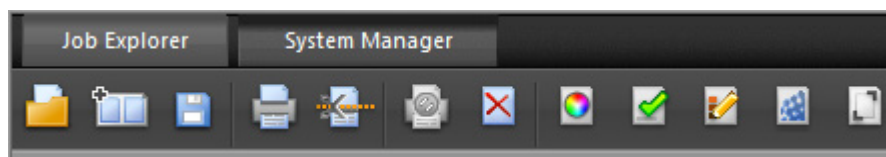
はじめに FIERY XF

ユーザーインターフェース

Fiery XF には 2 つのプログラムウィンドウがあります。Job Explorer と System Manager です。

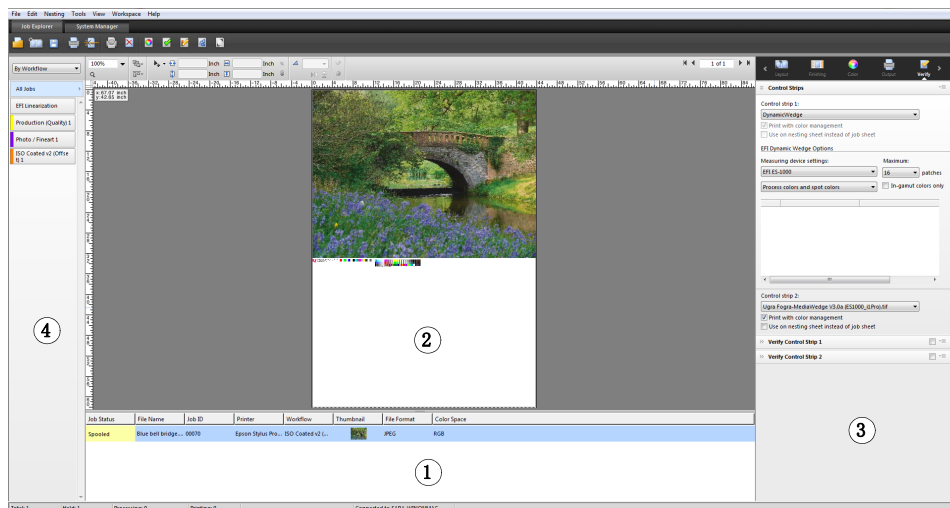
- Job Explorer では、ジョブを読み込み、ジョブを調整したりプレビューを表示したり、設定を行うことができます。
- System Manager は、システムコンフィグレーションを作成し、設定するウィンドウです。

適切なタブをクリックして、各ウィンドウを表示することができます。



Job Explorer

Job Explorer では、ジョブを読み込み、ジョブを調整したりプレビューを表示したり、設定を行うことができます。



凡例	説明
1	ジョブリストには、読み込まれているジョブの概要が表示されます。ジョブステータスやファイル名等、ジョブごとの情報が確認できます。ジョブリストに表示される情報をカスタマイズすることができます。
2	選択したジョブが、プレビューウィンドウでプレビューされます。
3	プロパティインスペクタでは、ジョブリストで選択されたジョブのジョブ設定を行うことができます。
4	セレクトはフィルタの役割を果たします。ワークフロー、プリンタ、またはジョブのステータスに応じてジョブがリストされます。「すべてのジョブ」ボタンをクリックすると、すべてのワークフローからジョブを表示することができます。デフォルトでは、セレクトは非表示になっています。

JOB EXPLORER ウィンドウをカスタマイズするには

Job Explorer は4つの領域に分かれています：

- ジョブリスト
- 「プレビュー」ウィンドウ
- プロパティインスペクタ
- セレクト

プレビューウィンドウ、プロパティインスペクタ、およびセレクトを非表示にすることができます。ジョブリストは非表示にできません。

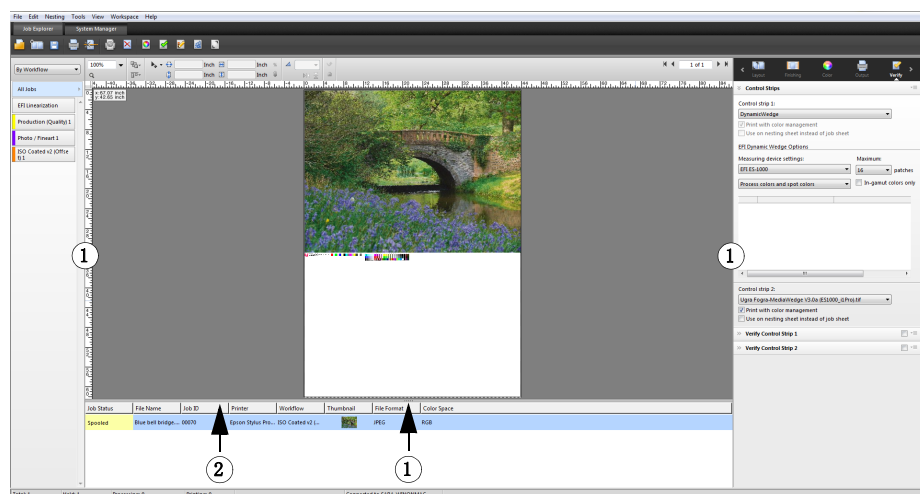
1 次のいずれかを行います。

- 「ワークスペース」メニューで、「プレビューを隠す」、「セクタを隠す」、または「プロパティインスペクタを隠す」をクリックします。
- 両方向矢印が変わるまで、領域の端にマウスポインタを置き、クリックします。

プレビューウィンドウを非表示にするには、ポインタが中央にあるサッシバー上にある必要があります。

Job Explorer

- 1 表示 / 非表示するにはクリック
- 2 サイズを変更するにはドラッグ



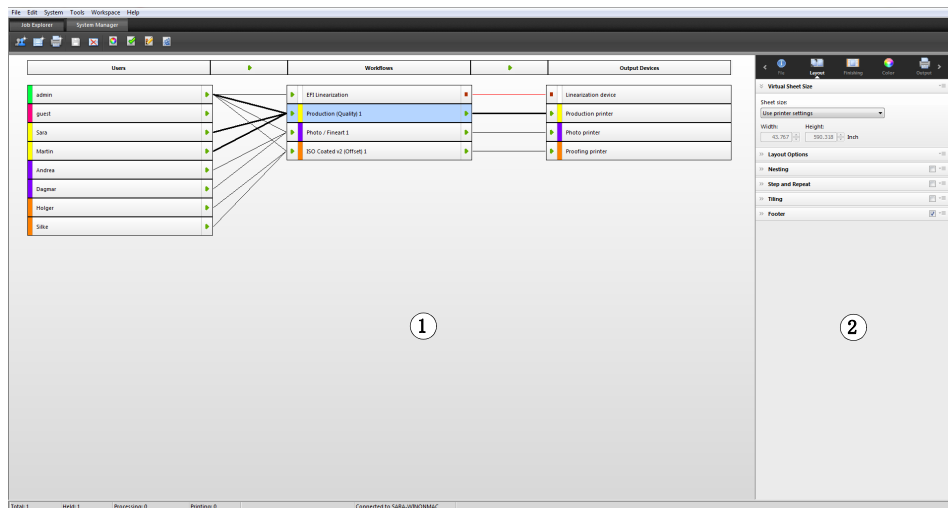
また、ジョブリストのジョブを右クリックし、適切なコマンドをクリックして、プロパティインスペクタを表示または非表示にすることができます。

関連参照：

78 頁の「[ジョブリストのカスタマイズ](#)」

System Manager

System Manager は、システムコンフィグレーションを作成し、設定するウィンドウです。System Manager へは管理者権限を持つユーザーのみがアクセスできます。



凡例	説明
1	レイアウト領域は、システムコンフィグレーションを作成、構成および管理するために使用されます。 レイアウト領域は、どのユーザーがどのワークフローに印刷することができ、どのワークフローがどの出力デバイスに印刷されるかを示します。 レイアウト領域では、ワークフローの特定段階で印刷ジョブを中断することができます。これは、システムコンフィグレーションに変更を加える必要がある場合、例えば、1台のプリンタが保守を行う必要があり、異なる出力デバイスからワークフローを印刷するように変える場合等に便利かもしれません。
2	プロパティインスペクタでは、レイアウト領域で選択されているユーザー、ワークフロー、またはプリンタを設定することができます。

関連参照：

58 頁の「[System Manager でシステムコンフィグレーションの作成](#)」

67 頁の「[システムコンフィグレーションをオフラインに設定するには](#)」

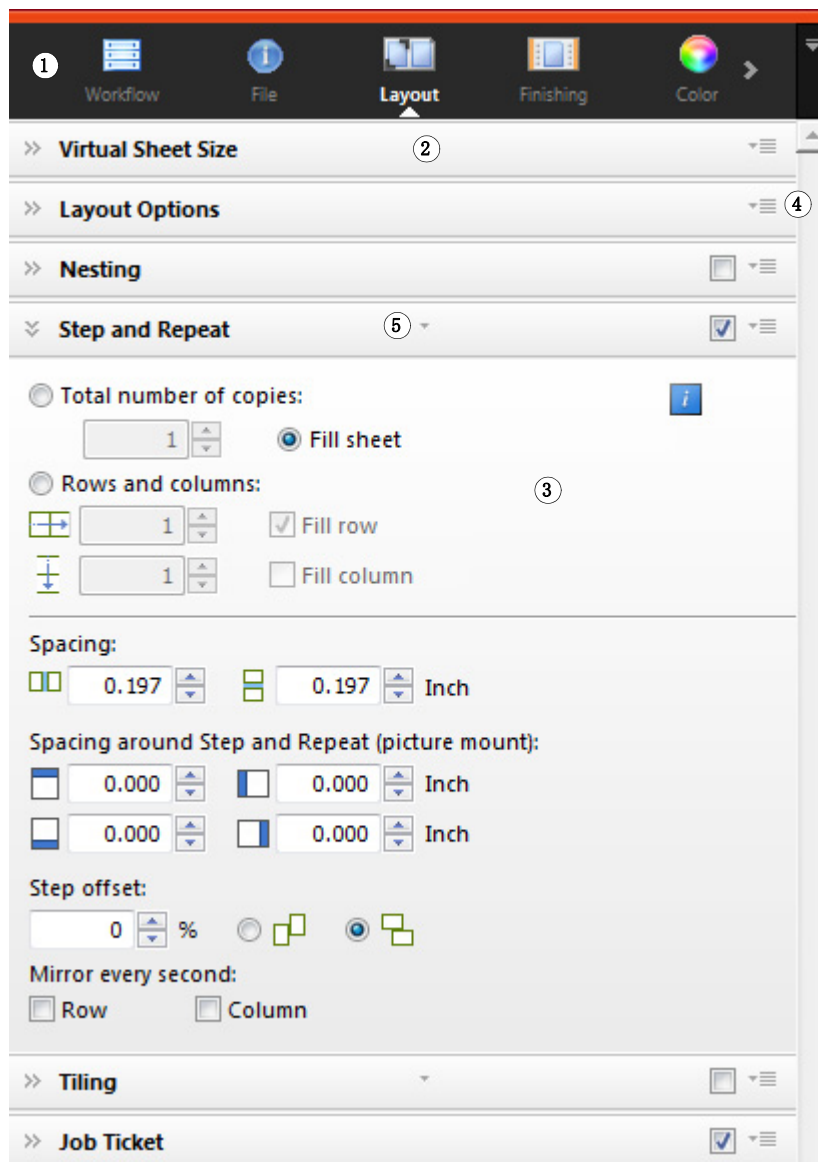
プロパティインスペクタ

ジョブおよびワークフローの設定はタブ上で調整されています。各タブはペインに分割されています。例えば、「ワークフロー」タブは基本的な情報、プレビュー、および速度のペインで構成されます。

ペインは利用可能な設定を表示するために展開する必要があります。ペインを展開するには、ペインバーをクリックします。

プロパティインスペクタ

- 1 タブバー
- 2 ペインバー（折りたたまれたペインで）
- 3 展開されたペイン
- 4 「メニュー」ボタン
- 5 プリセットメニュー



メニューボタンを使って、日常の作業に必要なタブとペインだけを表示するよう、プロパティインスペクタをカスタマイズすることができます。メニューボタンからも文脈対応ヘルプにアクセスできます。文脈対応ヘルプは、各ペインの設定を簡単に説明しています。

全体的な設定

以下は、ユーザインターフェースの外観に影響する設定です。

表示言語を変更するには

デフォルトでは、Fiery XF は、オペレーティング・システムの言語で表示されます。Windows の表示言語を変更するには、以下の手順に従ってください。Macintosh では「システム環境設定」の言語環境から言語を変更できます。

PC でサポートされているアジア系言語を表示するには、Fiery XF がダブルバイトフォント対応のオペレーティングシステムで動作している必要があります。

- 1 **System Manager を開きます。「編集」メニューで、「言語」をクリックし、言語をクリックします。**
- 2 **新しい言語を有効にするため、Fiery XF を再起動します。**

表示言語を変更した場合、その言語用のヘルプセットを必ずインストールしてください。そうでない場合は、ヘルプは利用できません。追加言語のヘルプセットは、ソフトウェアメディアからインストールできます。

測定システムを変更するには

デフォルトでは、オペレーティングシステム用に設定されている測定システムが使用されます。

- 1 **「編集」メニューで、測定システムをポイントし、測定システムをクリックします。**

ミリメートル、センチメートル、メートル、インチ、フィートの中から選択できます。

一般 Fiery XF 操作

ジョブ処理

以下は、Fiery XF を使った毎日の作業で必要となる操作です。

ジョブを読み込むには

次のファイル形式をサポートしています :PostScript、PDF、TIFF、JPEG、JPEG2000、RAW、EPS、Delta Lists、Scitex CT/LW、TIFF/IT、DCS1/DCS2、RPF、PSDOneBit Option がインストールされている場合は 1 ビットファイルもサポートされています。他のすべての形式のファイルは読み込むことはできませんが、処理することはできません。

1 次のいずれかを行います：



- ツールバーで、「ジョブのインポート」を選択します。
- 「ファイル」メニューで、「ジョブのインポート」をクリックします。
- ジョブリスト内の任意の場所を右クリックし、「ジョブのインポート」をクリックします。
- 例えば、デスクトップやネットワークフォルダから、ジョブリストにファイルを直接ドラッグします。

小さなジョブであれば、Fiery XF に即時ロードされます。より大きなジョブや複数ジョブの場合は、ロードにより長い時間がかかることがあります。この場合には、Fiery XF ステータスバーのプログレスバーに、現在のステータスが表示されます。ロード中のジョブをキャンセルするには、プログレスバーの右にある灰色の下矢印をクリックします。矢印をクリックすると、現在ロード中の個々のジョブの進行状況が表示されます。

ジョブのロード

- 1 プログレスバー
- 2 ジョブのロードのキャンセル

Job Status	File Name	Job ID	Printer	Workflow	File Format	Color Space
Spooled	EAGS_Season4to...	00090		EFI Linearization	PDF	CMYK
Spooled	EAGS_Season4to...	00091		EFI Linearization	PDF	CMYK
Spooled	EAGS_Season4to...	00092		EFI Linearization	PDF	CMYK
Spooled	EAGS_Season4to...	00093		EFI Linearization	PDF	CMYK
Spooled	EAGS_Season4to...	00094		EFI Linearization	PDF	CMYK
Spooling (00 %)	EAGS_Season4to...	00095		EFI Linearization	PDF	CMYK

Uploading 100%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (2).pdf
Uploading 100%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (3).pdf
Uploading 100%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (4).pdf
Uploading 100%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (5).pdf
Uploading 100%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (6).pdf
Uploading 100%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (7).pdf
Uploading 100%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (8).pdf
Uploading 55%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (9).pdf
Uploading 53%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (4).pdf
Uploading 31%	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL - Kopie (4).pdf
Pending	EAGS_Season4to_Banner_3M_v2_FINAL.pdf

①

ジョブの左側にある「キャンセル」ボタンをクリックすると、ジョブのロードが停止されます。

変更を保存するには

- 1 ジョブ一覧でジョブをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「保存」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「保存」をクリックします。
- ジョブリストでジョブを右クリックし、「保存」をクリックします。

変更を保存しない場合は、別のプログラムビューに切り替える際に、保存するかを確認するメッセージが表示されます。

ジョブを印刷するには

「保留」ジョブとしてジョブを読み込む場合、または、ワークフロー終了時に当該ワークフローがオフラインに設定されている場合、準備が整った段階で（例えば、ジョブ設定を適用後に）手動でジョブをプリンタに送信することができます。

- 1 プリンタの電源が入っていること、および用紙がセットされていることを確認します。
- 2 ジョブ一覧でジョブをクリックします。
- 3 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「印刷」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「印刷」をクリックします。
- ジョブリストでジョブを右クリックし、「印刷」をクリックします。

ジョブをリセットするには

ジョブの変更には満足していない場合は、元の状態にシートを戻すことができます。

- 1 ジョブ一覧でジョブをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。



- 「編集」メニューから、「ページをリセット」をクリックします。
- ツールバーで、「リセット」をクリックします。
- ジョブリストでジョブを右クリックし、「ページをリセット」をクリックします。

ジョブを削除するには

- 1 ジョブ一覧でジョブをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「ジョブの削除」を選択します。
 - ジョブリストでジョブを右クリックし、「削除」をクリックします。
- ジョブがジョブリストから削除されます。

ジョブの処理をキャンセルするには

追加のジョブ設定が必要な場合は、ジョブの処理をキャンセルすることにより、ジョブが不必要に印刷されることを防ぐことができます。

- 1 ジョブ一覧でジョブをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「印刷を取り消す」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「キャンセル」をクリックします。
- ジョブリストでジョブを右クリックし、「キャンセル」をクリックします。

ジョブの処理が停止します。ジョブは、ジョブリスト内に残ります。印刷コマンドを選択することにより、ジョブの処理を再開することができます。

バーチャルシートサイズを設定するには

デフォルトでは、ジョブは出力デバイス用に設定されている印刷メディアに等しくなっています。必要に応じて、デフォルト設定を上書きしたバーチャル用紙サイズを設定することができます。次のタイプのジョブを処理するのに、バーチャルシートサイズの設定が役立つかもしれません：

- ネスティング

出力デバイスが特大メディアまたはロール紙用に設定されている場合、ネスティングの管理が困難になる可能性があります。より標準的なシートサイズを定義すると、ネストするページのレイアウトがコントロールしやすくなります。

- 出力ファイルジョブ

適切なライセンスをお持ちの場合は、異なる印刷メディアサイズをサポートする出力デバイス用の出力ファイルを作成することができます。

- 1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「レイアウト」タブで、「バーチャルシートサイズ」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「レイアウト」タブで、「バーチャルシートサイズ」ペインを開きます。

- 2 「シートサイズ」で「シートサイズ」を選択します。

または、「カスタムサイズ」を選択し、ボックスに必要な幅と高さを入力します。

- 3 変更を保存します。



カスタムワークフローテンプレートを作成するには

Fiery XF ではデフォルトのテンプレートを多く提供しています。それぞれのテンプレートには、プレプレス、印刷生産、写真印刷、切断輪郭等、プリント生成特定のワークフローに対応するカラーマネジメント設定がセットアップされています。

細かい要件に合わせてデフォルトのテンプレートから設定を変え、これをカスタムテンプレートとして保存することができます。カスタムテンプレートとしてワークフロー設定を保存すると、同じ設定を持つ複数のワークフローを簡単に作成できます。複数のプリンタに印刷するために同一のワークフローを設定する必要があります。各ワークフローが 1 台のプリンタに接続することができるため、これは重要です。

ワークフローを設定したら、次の手順を実行します：

- 1 **System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。**
- 2 **「ファイル」メニューで、「テンプレートとして保存」をクリックします。**
「テンプレートとして保存」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 **一意の名前を定義し、「保存」をクリックします。**

次にワークフローを作成するときには、「カスタム」の下のセクションで新しいテンプレートが使えるようになっています。

関連参照：

189 頁の「[ジョブの読み込みと印刷](#)」

ログオフして Fiery XF を終了

FIERY XF を終了するには

- 1 **次のいずれかを行います。**
 - Windows では、「ファイル」メニューから「終了」をクリックします。
 - Windows では、プログラムウィンドウの上部、右上隅にある「閉じる」ボタンをクリックします。
 - Macintosh では、「Fiery XF クライアント」メニューで「Fiery XF クライアントを終了する」をクリックします。
 - Macintosh では、プログラムウィンドウの上部、左上隅にある「閉じる」ボタンをクリックします。

変更を加えた場合は、Fiery XF を閉じる前にそれらを保存するかを確認する画面が表示されます。次回 Fiery XF を起動するときには、プログラムが同じユーザ資格情報を使用して自動的にログオンします。

複数のユーザーが同じコンピュータを使用している場合は、Fiery XF を終了する前にログオフして、次に使うユーザがあなたのワークフローにログオンしないようにします。

ログオフして FIERY XF を終了するには

Fiery XF を起動するたびに、クライアントは最後に選択されたサーバに自動的にログオンします。複数のユーザーが同じコンピュータを使用している場合は、Fiery XF クライアントを終了する際に Fiery XF からログオフすることができます。これにより、次にクライアントが起動したときにログインウィンドウが表示され、各ユーザーが自身のワークフローにログオンするようになります。

1 「ファイル」メニューで「ログオフして終了する」をクリックします。

変更を加えた場合は、Fiery XF を閉じる前にそれらを保存するかを確認する画面が表示されます。

関連参照：

23 頁の「[Fiery XF サーバへのログオン](#)」

キーボードショートカット

多くの操作でキーボードショートカットが利用できます。基本的には、それらは一般的なグラフィックスプログラムで使用しているショートカットと対応しています。

キー組み合わせの場合、個別のイメージに提供できるショートカットの多くは、ネスティング上の複数のジョブ選択にも適用できます。

• オプションの起動

機能	ファンクションキー
Color Tools の起動	<F2> <Alt>+<Apple>+<F2>
Verifier の起動	<F3> <Alt>+<Apple>+<F3>
Color Editor の起動	<F4> <Alt>+<Apple>+<F4>
Dot Creator の起動	<F5> <Alt>+<Apple>+<F5>
EFI XF アップローダーの起動	<F7> <Alt>+<Apple>+<F7>
Media Mapper の起動	<F9> <Alt>+<Apple>+<F9>

- ツールバーの起動

機能	ファンクションキー
変換ツールバー	<T>
クロップツールバー	<C>
タイリング編集ツールバー	<E>
拡大縮小ツールバー	<Z>

- 一般

機能	キーの組み合わせ
Job Explorer と System Manager の間のスイッチ	<F6> <Alt>+<Apple>+<F6>
システム情報を表示する	<F10> <Alt>+<Apple>+<F10>
選択したページのショート カットメニューを表示する (「 編集」メニュー)	ページ上で右クリック
選択したシートのショート カットメニューを表示する (「 ネスティング」メニュー)	ページ上で右クリック
ショートカットメニューを表 示する (「表示」メニュー)	<Shift>+ シート上で右クリック
ページの選択	ページ上でクリック
ページの拡大縮小 (クロップツールが選択されて いる時)	ページハンドル上をクリック。次に <Alt> キーを押してカーソルをドラッグします。
ページのクロップ (変換ツールが選択されている 時)	ページハンドル上をクリック。次に <Alt> キーを押してカーソルをドラッグします。
ページの回転	ページの縁をクリックしてイメージをド ラッグ。回転は 90、180、270、360 度に自 動的にスナップします。
反転	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<I> • <Apple>+<I>
ページのリセット	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<Shift>+<R> • <Apple>+<Shift>+<R>

機能	キーの組み合わせ
プレビューウィンドウの最大表示	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<Shift>+<M> • <Apple>+<Shift>+<M>
次のページ	<Ctrl>+<Page down>
前のページ	<Ctrl>+<Page up>
最初のページへ	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<Home> • <Apple>+<Alt>+<Page down>
最後のページへ	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<End> • <Apple>+<Alt>+<Page up>
より詳細なページレイアウトのためのクロスヘアを表示 / 隠す	<Tab>

- ページ配置

機能	キーの組み合わせ
シート上でページを 0.5mm 移動する	矢印キー
シート上でページを 10 mm 移動する	<Shift>+ 矢印キー
シートをランダムに移動する	<Space bar>+ マウスをドラッグ
シートを上 / 下にスクロール	<ul style="list-style-type: none"> • <Page up>/<Page down> • ホイールを上 / 下にスクロール
シートを左 / 右にスクロール	<ul style="list-style-type: none"> • <Shift>+<Page up>/<Page down> • <Ctrl>+ ホイールを上 / 下へスクロール
シートの上 / 下端へスクロール	<Home>/<End>
シートの左 / 右端へスクロール	<Shift>+<Home>/<End>

- ネスティングジョブ

機能	キーの組み合わせ
すべてのジョブを選択	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<A> • <Apple>+<A>
ページを選択に追加する	<Shift>+ ページ上でクリック
クロップされた領域のジョブを選択	マウスをクリックし、投げ縄ツールをドラッグ
ページを選択から解除する	<Shift>+ ページ上でクリック
選択したページを移動する	ページを選択してドラッグ
選択したページを削除し、クリップボードへコピーする (ページの配置を解除)	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<X> • <Apple>+<X>
選択したページを削除する	<Ctrl>+<Backspace>
選択したページをコピーする	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<C> • <Apple>+<C>
選択したページをクリップボードから貼り付ける	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<V> • <Apple>+<V>
ネスティングを更新する	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<Alt>+<R> • <Apple>+<Alt>+<R>
シートを追加する	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<Alt>+<+> • <Apple>+<Alt>+<+>
ページをロックする	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<L> • <Apple>+<L>
ページをロック解除する	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<Alt>+<L> • <Apple>+<Alt>+<L>

- 拡大 / 縮小

機能	キーの組み合わせ
拡大 / 縮小	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<+>/<-> • <Apple>+<+>/<-> • <Alt>+ ホイールをスクロール
シートをウィンドウに合わせる	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<0> • <Apple>+<0>
実際のサイズに合わせる	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<Alt>+<0> • <Apple>+<Alt>+<0>
選択部分をウィンドウに合わせる	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<F> • <Apple>+<F>
選択をウィンドウにあわせ、1段階縮小する	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<Alt>+<F> • <Apple>+<Alt>+<F>
2段階拡大する	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<スペースバー>+ マウスをクリック • <Apple>+<スペースバー>+ マウスをクリック
2段階縮小する	<ul style="list-style-type: none"> • <Alt>+<スペースバー>+ マウスをクリック
選択した領域を拡大 / 縮小	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+ なげなわをドラッグ • <Apple>+ なげなわをドラッグ

- ルーラー、ガイド、グリッド

機能	キーの組み合わせ
ルーラーの表示 / 非表示	<ul style="list-style-type: none"> • <Ctrl>+<R> • <Apple>+<R>
ルーラーを新しいゼロ座標に設定する	前のウィンドウの左上隅 (縦のルーラーと横のルーラーが交わる点) からカーソルをドラッグする
ルーラーをデフォルトのゼロ座標に戻す	前のウィンドウの左上隅 (縦のルーラーと横のルーラーが交わる点) をダブルクリックする
ガイドの作成	ルーラーからカーソルをドラッグする

機能	キーの組み合わせ
ガイドの位置を変更する	ガイドを選択して新しい位置へドラッグする
ガイドを削除	ガイドをドラッグして、ルーラの中で放す (ガイドのみをロック解除する)
ガイドの表示 / ガイドを隠す	<ul style="list-style-type: none">• <Ctrl>+< ; >• <Apple>+< ; >
ガイドをロック / ロック解除	<ul style="list-style-type: none">• <Ctrl>+<Alt>+< ; >• <Apple>+<Alt>+< ; >
グリッドの表示 / 非表示	<ul style="list-style-type: none">• <Ctrl>+< “ >• <Apple>+< “ >
スナップ先を上書きする	<Shift>+ カーソルをドラッグ

ライセンス

Fiery XF はモジュール型ソフトウェアで、さまざまなワークフローのニーズに合わせてカスタマイズできるように設計されています。本ライセンス管理システムでは、選択したコンフィグレーションに含まれるオプションだけがソフトウェアで表示されます。

Fiery XF またはその追加オプションを購入すると、EAC（エンタイトルメントアクセスコード）と呼ばれるコードが与えられます。EAC には、購入した製品と出力オプションに関する情報が含まれています。EAC は、製品使用許諾証明書に印刷されています。ソフトウェアの違法コピーを防止するため、EFI では dongle と呼ばれるハードウェアを使用しています。

dongle もソフトウェアと同梱されています。各 dongle は、電子的に組み込まれた ID によって一意に識別されます。ライセンスの取得手続きでは、dongle ID を使用して、ソフトウェアと dongle の間に固定のリンクを作成します。

ライセンスファイルは、購入したソフトウェア構成と同じ数だけ生成します。Fiery XF を起動したときに検出されないライセンスファイルがあると、そのライセンスに対応するソフトウェア部分は利用できません。ライセンスファイルが 1 つも検出されない場合、Fiery XF は起動せず、エラーメッセージが表示されます。

ライセンスファイルは、製品の登録時に生成されます。ライセンス・ファイルを生成するには、コンピュータがインターネットに接続されている必要があります。

ソフトウェアのライセンシング

通常は、ソフトウェアのインストール手順の中でライセンスファイルは生成されてインストールされます。ただし、新しく Fiery XF オプションを購入した場合は、新規にライセンスファイルを生成する必要がある場合もあります。

ライセンス・ファイルを生成するには、次が必要です：

- インターネットに接続しているコンピュータが必要です。インターネットに接続しているコンピューターを持っていない場合は、製品を購入した正規代理店にライセンスファイルを作るよう依頼することができます。
- 製品パッケージに含まれている製品使用許諾証明書に記載されている EAC が必要です。
- Dongle ID が必要です。Fiery XF サーバがインターネットに接続できるコンピュータにインストールされている場合、dongle ID は自動的に検出されます。Fiery XF サーバがインターネットに接続できないコンピュータにインストールされている場合、ライセンシング作業を行う前に dongle ID をメモしておいてください。

ドングル ID を確認するには

ドングル ID は、Fiery XF Control に表示されます。Fiery XF Control はタスクバーのステータス領域 (Windows) またはサーバソフトウェアを実行しているコンピュータのドック (Macintosh) にあります。



Fiery XF Control アイコンが表示されていないか、または別の色で表示される場合、次の操作を行います：

- Fiery XF Control が使用可能な状態になっていることを確認します。
- Windows のタスクバーが表示されていることを確認してください。
- Windows では、Fiery XF Control が非表示アイコンになっていないことを確認します。

1 Fiery XF サーバソフトウェアを実行しているコンピュータの USB ポートにドングルを差し込みます。

コンピュータに接続されているドングルは、Fiery XF ドングルのみであることを確認します。複数のドングルが差し込まれている場合問題が発生することがあります。ドングルを検出するまでに最長で 1 分かかることがあるので、次の操作を行うのを待ってください。

2 Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「ドングル ID を表示する」をクリックします。

新しいライセンスファイルを自動で生成し、インストールするには (インターネットアクセスが必要になります)

Fiery XF サーバソフトウェアを実行しているコンピュータにインターネットアクセスがある場合、この方法を用います。

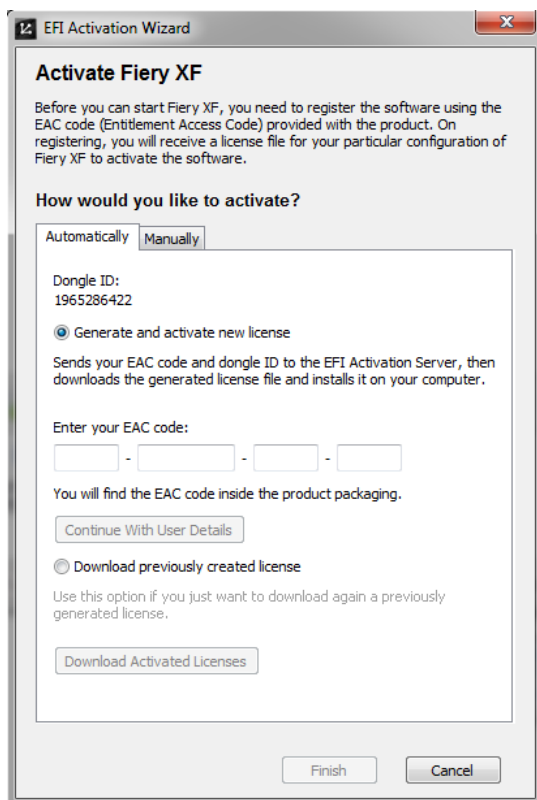
旧バージョンからソフトウェアをアップグレードする場合は、FlexLM フォルダにある既存のライセンスファイルを削除しないでください。それらのファイルは、新しいライセンス・ファイルに加えて必要となるものです。

追加オプションにより Fiery XF の既存のコンフィグレーションを拡張する場合は、以下の作業を始める前にソフトウェアのすべてのクライアントバージョンを終了しているかを確認します。

- 1 **ドングルがコンピュータの USB ポートに正しく接続されているか確認します。**
- 2 **「アクティベーションウィザード / アシスタント」を起動します。次のいずれかを行います。**
 - Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF を起動」をクリックします。
 - System Manager を開きます。「システム」メニューで、「アクティベーションウィザード」をクリックします。
- 3 **使用許諾契約書をお読みください。使用許諾契約の条項に同意する場合は、「はい」をクリックします。**

使用許諾契約の条項に同意しない場合は、使用許諾手続きが中断されます。

4 「自動」タブをクリックします。



5 「新しいライセンスの生成と認証」を選択します。

6 該当するボックスに EAC コードを入力して、「ユーザ詳細で続きます」をクリックします。

EAC コードは大文字小文字を区別します。

7 製品の登録に関する説明を読みます。「次のステップ」をクリックします。

8 ユーザ情報の詳細を入力します。

以前に EFI の製品登録をしている場合は、E メールアドレスを入力して「確認」をクリックすると、自動的にユーザ情報が入力されます。

9 「ライセンスのインストール」をクリックします。

ライセンスファイルが生成され、コンピュータの「FlexLM」フォルダにダウンロードされます。

10 「終了」をクリックして「Activation Wizard/Assistent」を終了します。

この方法によりライセンスファイルをダウンロードしようとしたときに問題が発生した場合は、代わりに、アクティベーション用 Web サイトからライセンスファイルを生成することができます。

ライセンスを自動的に検出できない場合、Fiery XF サーバを再起動しなければならない場合があります。

アクティベーション WEB サイトからライセンスを生成するには

Fiery XF サーバを実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできない場合に、この方法を用います。

- 1 インターネットにアクセスできるコンピュータから、Web サイト「<http://activation.efi.com>」にアクセスします。

「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 言語ボタンをクリックします。

- 3 ボックス内に EAC コードを入力し、「送信」をクリックします。

EAC コードは大文字小文字を区別します。

- 4 製品リストの左側にあるチェックボックスをオンにして、ライセンス認証を行いたい項目を指定します。「次へ」をクリックします。

- 5 ドングルの ID を入力します。「次へ」をクリックします。

- 6 E メールアドレスを入力します。「次へ」をクリックします。

E メールアドレスは製品情報などを EFI から送信するために使われます。

- 7 ユーザ情報の詳細を入力します。「次へ」をクリックします。

- 8 「ユーザのプロフィール」、「エンタイトルメント情報」を確認します。「次へ」をクリックします。

変更したい場合は、「前へ」をクリックして前のダイアログボックスに戻ります。

- 9 ライセンスファイルを受け取る方法を指定します。

次のいずれかの方法を選択します：

- 「ファイルに保存」をクリックすると、生成されたライセンスファイルはコンピュータ上の指定した場所に保存されます。ライセンスファイルは拡張子 *.lic のテキストファイルとして保存されます。
- 「E メールを送信」をクリックすると、表示されている E メールアドレスにファイルが送信されます。指定した E メールアドレスにライセンスファイルが送信されたことを知らせるダイアログボックスが開きます。

- 10 「ログアウト」をクリックしてウェブサイトを終了します。

- 11 指示に従って、手動でライセンスファイルをインストールします。

アクティベーションウィザード / アシスタントを使用して手動でライセンスファイルをインストールするには

この方法を用いて、以前に生成したライセンスファイルをインストールします。

旧バージョンからソフトウェアをアップグレードする場合は、FlexLM フォルダにある既存のライセンスファイルを削除しないでください。それらのファイルは、新しいライセンス・ファイルに加えて必要となるものです。

追加オプションにより Fiery XF の既存のコンフィグレーションを拡張する場合は、以下の作業を始める前にソフトウェアのすべてのクライアントバージョンを終了しているかを確認します。

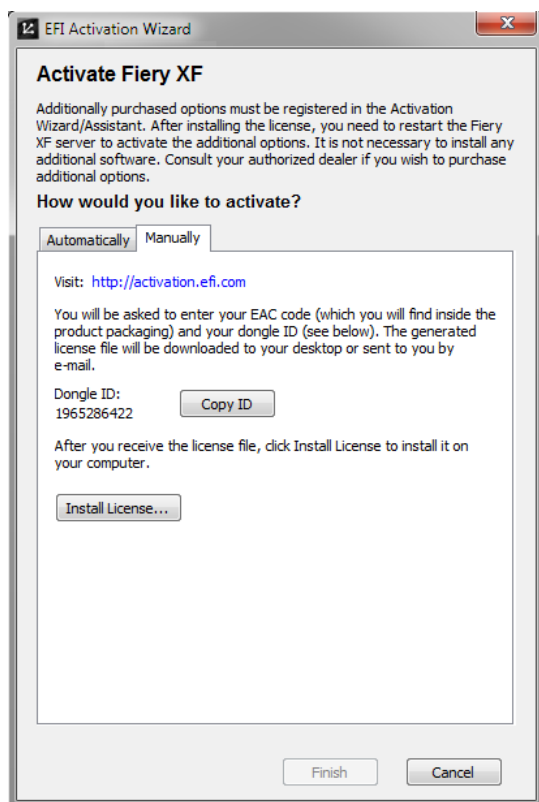
- 1 ライセンスファイルを Fiery XF サーバソフトウェア（例：デスクトップ）を実行しているコンピュータにコピーします。
- 2 「アクティベーションウィザード/アシスタント」を起動します。

次のいずれかの方法を使います：

- Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF を起動」をクリックします。
 - System Manager を開きます。「システム」メニューで、「アクティベーションウィザード」をクリックします。
- 3 使用許諾契約書をお読みください。使用許諾契約の条項に同意する場合は、「はい」をクリックします。

使用許諾契約の条項に同意しない場合は、使用許諾手続きが中断されます。

- 4 「手動」タブをクリックします。



- 5 「ライセンスのインストール」をクリックし、ライセンスファイルを参照します。
- 6 ライセンスファイルを選択し、「開く」をクリックします。

ライセンスファイルがコンピュータの「FlexLM」フォルダにコピーされます。

7 「完了」をクリックします。

ライセンスを自動的に検出できない場合、Fiery XF サーバを再起動しなければならない場合があります。

関連参照：

18 頁の「[Fiery XF Control](#)」

20 頁の「[Fiery XF サーバの再起動](#)」

44 頁の「[ドングル ID を確認するには](#)」

46 頁の「[アクティベーション Web サイトからライセンスを生成するには](#)」

ライセンスファイルを再度生成する

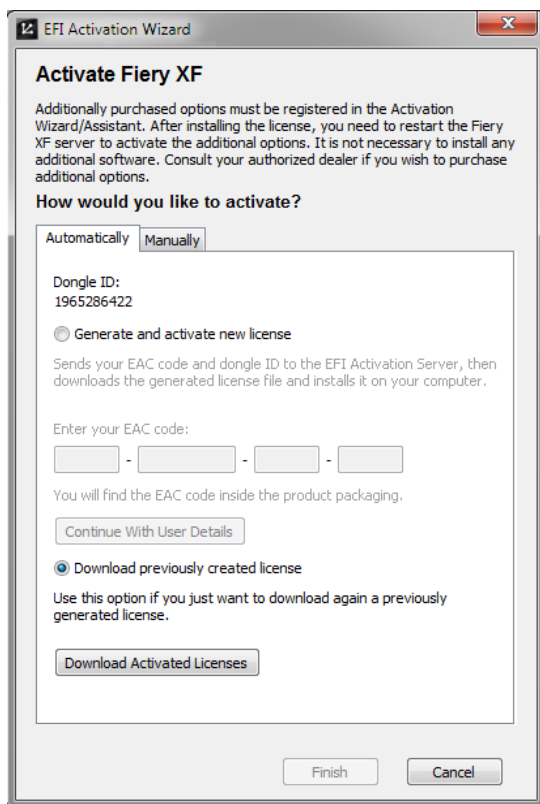
ライセンスを再度生成しなければならない場合もあります。例えば、別のコンピュータ上も Fiery XF を再インストールした後。唯一の前提条件は、同じドングルを使用しなければならないということです。

ライセンスファイルを生成するには

- 1 **ドングルがコンピュータの USB ポートに正しく接続されているか確認します。**
- 2 **「Activation Wizard/Assistant」を起動します。次のいずれかを行います。**
 - Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF を起動」をクリックします。
 - System Manager を開きます。「システム」メニューで、「アクティベーションウィザード」をクリックします。
- 3 **使用許諾契約書をお読みください。使用許諾契約の条項に同意する場合は、「はい」をクリックします。**

使用許諾契約の条項に同意しない場合は、使用許諾手続きが中断されます。

4 「自動」タブをクリックします。



5 「以前作成されたライセンスをダウンロードします」を選択し、「起動されたライセンスのダウンロード」をクリックします。

ライセンスファイルが生成され、コンピュータの「FlexLM」フォルダにダウンロードされます。

6 「終了」をクリックして「Activation Wizard/Assistant」を終了します。

この方法によりライセンスファイルをダウンロードしようとしたときに問題が発生した場合は、代わりに、アクティベーション用 Web サイトからライセンスファイルを再度生成することができます。

ライセンスを自動的に検出できない場合、Fiery XF サーバを再起動しなければならない場合があります。

関連参照：

20 頁の「Fiery XF サーバの再起動」

46 頁の「アクティベーション Web サイトからライセンスを生成するには」

ライセンス情報の表示

現在インストールされているライセンスとその有効期限を表示できます。

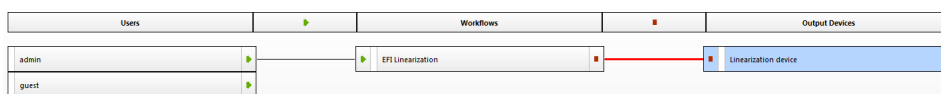
ライセンス情報を表示するには

1 次のいずれかを行います。

- Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「ライセンス情報を表示する」をクリックします。
- 「ヘルプ」メニューから、Fiery XF 「サーバ情報」をクリックします。

システムコンフィグレーションの作成

Fiery XF には、1つのワークフローと1つの出力デバイスという2つのユーザからなるデフォルトのシステムコンフィグレーションが1つインストールされています。System Manager でシステムコンフィグレーションを表示させることができます。



「管理者」権限を持つユーザ（パスワード：admin）は、System Manager でシステムコンフィグレーションを作成、設定、管理することができます。

「ゲスト」ユーザ（パスワード：guest）は、Job Explorer 内で自分のジョブを印刷、管理することはできますが、System Manager へのアクセス権限はありません。EFI XF Fiery XF の使用頻度が比較的低い場合は、「ゲスト」を使用すれば、ユーザとして定義する必要なく、素早くかつ簡単にログオンできます。

「EFI Linearization」および出力デバイスの「Linearization device」のワークフローは、Color Tools および Color Profiler Suite との組み合わせで使用し、プリンタのリニアリゼーションとプロファイルの作成を行います。管理者権限を持つユーザのみが、このシステムコンフィグレーションを介してジョブを印刷することができます。

システムコンフィグレーションは以下を使って設定できます。

- セットアップウィザード/アシスタント

セットアップウィザード/アシスタントでは、最低限の手順でデフォルトユーザ用の基本システムコンフィグレーションを論理的に設定することができます。必要に応じて、System Manager でワークフロー設定を後で微調整できます。通常、Fiery XF を初めて起動する際にシステムコンフィグレーションがすでに作成されています。

- System Manager :

System Manager では、利用可能なすべての設定にアクセスして、追加のユーザ、ワークフロー、および出力デバイスを作成することができます。また、既存のシステムコンフィグレーションへ変更を加えることもできます。

出力デバイスを設定するには、使用する出力デバイス用のメディアプロファイルがコンピュータにインストールされている必要があります。インストール時にメディアプロファイルをインストールしなかった場合は、ここでそれらをインストールすることができます。次のいずれかの方法でメディアプロファイルをインストールします：

- EFI の最新のメディアプロファイルを Web サイトからダウンロードしてください。
- メディアプロファイル DVD からメディアプロファイルをインストールします。詳細については、クイックスタートガイドを参照してください。

関連参照：

177 頁の「印刷メディアプロファイルの更新」

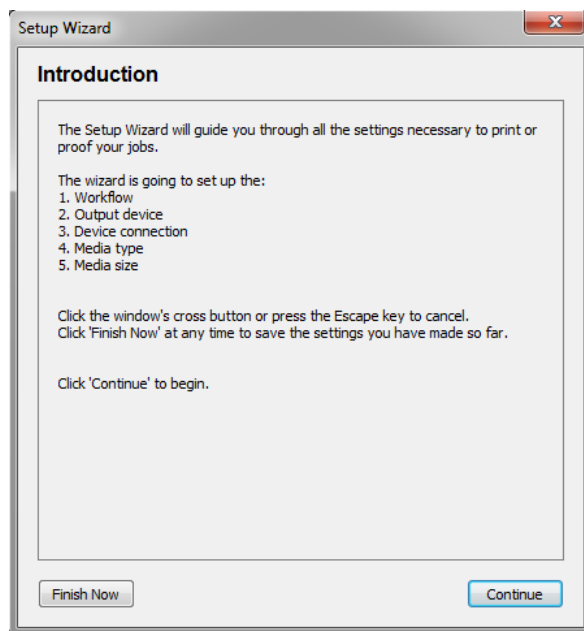
セットアップウィザード / アシスタントのシステムコンフィグレーションを作成する

コンフィグレーションを使ってシステムコンフィグレーションを作成すると、ユーザが指定したオリジナルサイズと、適用されるカラーマネージメントでジョブを出力できます。

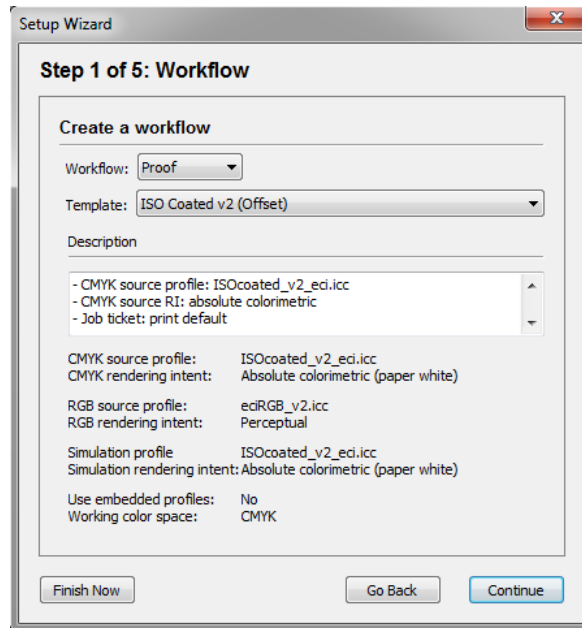
セットアップウィザード / アシスタントでシステムコンフィグレーションを設定するには

次の手順の中でいつでも「終了」をクリックしてセットアップを中止できます。中止するまでの設定は保存されます。

- 1 **System Manager** を開きます。「システム」メニューから「セットアップウィザード (Windows)」または「セットアップアシスタント (Macintosh)」を選択します。



2 「続ける」をクリックします。



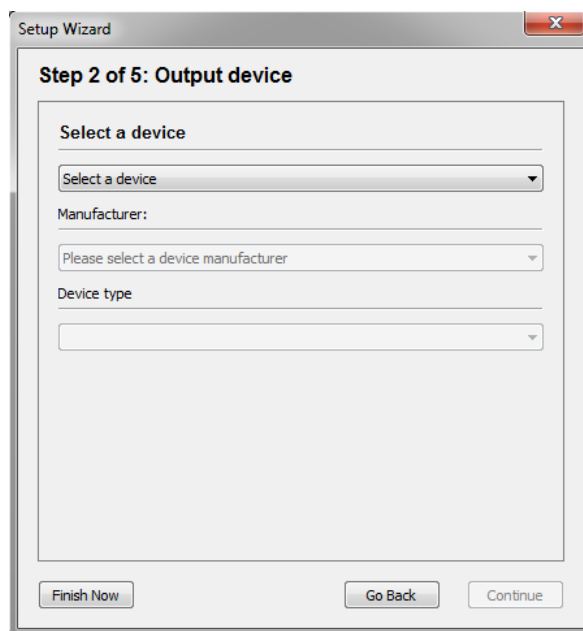
3 「ワークフロー」から、ワークフロー環境を選択します。プルーフ、写真、印刷生産。

または、事前に業界固有の設定で定義されていないワークフローを作成するには「カスタム」を選択します。

4 「テンプレート」から、お客様のワークフロー要件に最も適したテンプレートを選択します。

Fiery XF ではデフォルトのテンプレートを多く提供しています。それぞれのテンプレートには、プレプレス、印刷生産、写真印刷、切断輪郭等、プリント生成特定のワークフローに対応するカラーマネジメント設定がセットアップされています。

- 5 「続ける」をクリックします。



- 6 「デバイスの選択」にある「新しい出力デバイスを作成」を選択します。

または、System Manager で出力デバイスを設定するには、「なし」を選択します。

- 7 出力デバイスのメーカーを選択します。

次のオプションのいずれに対して出力デバイスを設定するには、メーカーとして「EFI」を選択します。ファイル出力オプション、Fiery オプション、ソフトウェア出力オプション。

- 8 出力デバイスのタイプを選択します。

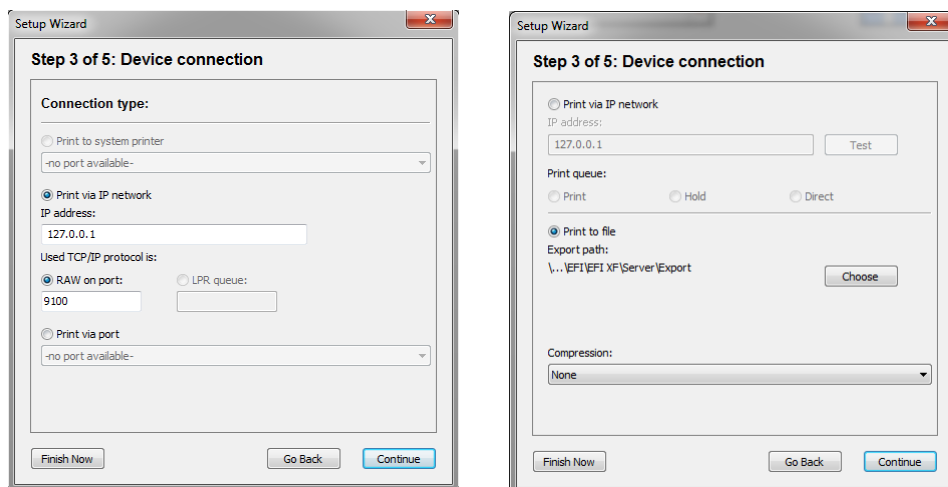
選択すると、該当する出力デバイス用にインストールされたメディアプロファイルが表示されます。

メディアプロファイルがインストールされていなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。この場合、セットアップをキャンセルし、適切なメディアプロファイルをインストールする必要があります。

EFI の最新のメディアプロファイルを Web サイトからダウンロードすることができます。または、メディアプロファイル DVD からメディアプロファイルをインストールできます。詳細については、クイックスタートガイドを参照してください。

9 「続ける」をクリックします。

選択した出力デバイスのタイプに合ったダイアログボックスが開きます。



10 次のいずれかの接続タイプを選択します：

- システムプリンタとして Fiery XF サーバソフトウェアに実行しているコンピュータに設定されている Windows プリンタに印刷する場合は、「システムプリンタに印刷」を選択します。次に、ドロップダウンリストボックスからプリンタを選択します。

この設定は Windows に対してのみ有効です。システムプリンタは、Fiery XF でサポートされているプリンタである必要があります。

- ネットワークプリンタに印刷するには、「IP ネットワーク経由で印刷」を選択します。

ネットワーク プリンタの IP アドレスを入力します。次のいずれかを行います：

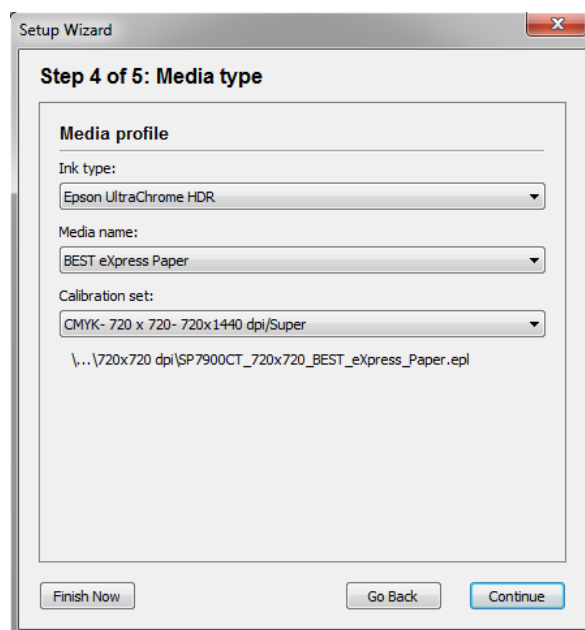
- Fiery Command WorkStation を除くすべての出力デバイスの場合：データ転送に使用されている TCP/IP プロトコルのタイプを選択します。ほとんどのプリンタは、RAW プロトコルをサポートし、ポート 9100 に印刷します。LPR プロトコルは、通常、Unix システムか複数のインターフェースを持つプリントサーバ用に予約されています。このフィールドは何も入力しなくても構いません。お使いのプリンタのマニュアルを参照するか、それでも確信が持てない場合は、システム管理者にお問い合わせください。
- Fiery Command WorkStation の場合：キュー名（「印刷」、「保留」または「直接」）を選択します。
- USB 接続でサーバコンピュータに接続されているプリンタに印刷する場合は、「ポート経由で印刷」を選択します。Fiery XF の起動時にプリンタの電源が入っている必要があります。そうでない場合は、プリンタを検出することはできません。

- PDF / TIFF 形式に印刷したり、Caddon can:view 出力デバイス上にソフトブールーフを作成したり、Fiery 出力デバイスに出力するには、「ファイルに出力する」を選択します。

エクスポートパスを確認します。必要に応じて「選択」をクリックし、別フォルダを選択します。残りの設定手続きを完了します。利用可能な設定は、ファイル出力のタイプによって異なります。

- 「JDF ポート経由で印刷」を選択し、VUTEk プリンタへの JDF 接続を設定します。

11 「続ける」をクリックします。



12 インクの種類 プリンタに装着されているインクのタイプを選択します。

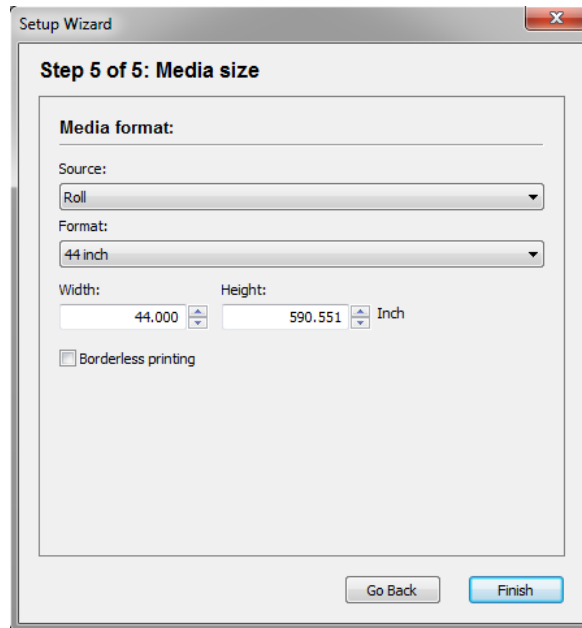
13 使用する印刷メディア名を選択します。

Fiery XF では、メディア、インク、および解像度の組み合わせに適したメディアプロファイルが提供されています。また、既存プリンター用に作成済みのカスタムメディアプロファイルを適用することもできます。

14 キャリブレーション設定を選択します。

キャリブレーション設定は印刷条件の設定を定義し、プリンタの動作が確実にメディアに最適なように調整されます。

15 「続ける」をクリックします。



16 メディア固有の設定を行います。

ロール紙またはカット紙、いずれかの印刷メディアのソースを選択します。印刷メディアフォーマットを選択します。または、必要な寸法を入力することにより、カスタムサイズを定義します。

17 「完了」をクリックします。

ワークフローと出力デバイスがこれでセットアップされます。必要に応じて、System Manager でシステムコンフィグレーションを微調整できます。

関連参照：

482 頁の「[接続](#)」

177 頁の「[印刷メディアプロファイルの更新](#)」

223 頁の「[ファイルへ出力](#)」

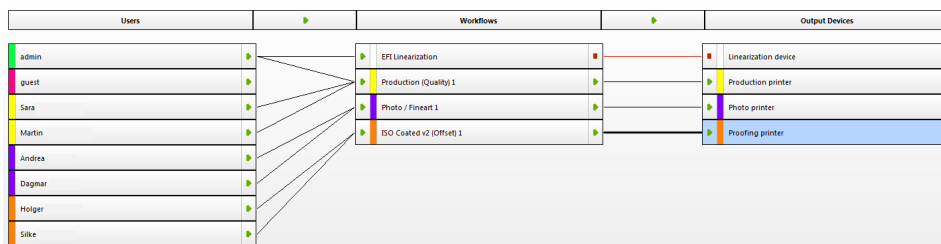
224 頁の「[Fiery 出力デバイスへの印刷](#)」

226 頁の「[VUTEk プリンタへの印刷](#)」

229 頁の「[Caddon can:view キャビネットに印刷する](#)」

System Manager でシステムコンフィグレーションの作成

System Manager で、細かいニーズに合わせたシステムコンフィグレーションを作成することができます。



新規ユーザを作成するには

Fiery XF で新規ユーザを作成することができます。各ユーザは一意のパスワードが与えられ、ソフトウェアの選択された領域へのアクセス権限を得ます。

1 次のいずれかを行います。



- ツールバーで「ユーザを新規作成」をクリックします。
- レイアウト領域で、既存のユーザを右クリックし、「ユーザを新規作成」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで「新規」をポイントし、「ユーザー」をクリックします。

「ユーザを新規作成 1」が作成されます。

2 一意のユーザ名を定義します。次のいずれかを行います。

- レイアウト領域で、「ユーザを新規作成 1」をダブルクリックしてデフォルト名を上書きした後で、<Enter> キーを押します。
- 「プロファイル」タブで、「ユーザアカウント」ペインを開き、「ユーザを新規作成 1」を上書きします。

3 「プロファイル」タブで「ユーザアカウント」ペインを開きます。

- パスワードを定義します。該当するボックス内にもう一度パスワードを入力して確認します。

このようにして既存のユーザパスワードを変更することもできます。

ただし、「管理者」権限を持つユーザのデフォルトのパスワードを変更し、当該ユーザが管理者権限を持っている唯一のユーザである場合、このパスワードを紛失した場合は System Manager にアクセスすることはできなくなります。

- ユーザのロールを選択します。

管理者は、System Manager でシステムコンフィグレーションを作成、セットアップ、管理することや、Job Explorer でジョブを読み込んだり、ジョブ固有の設定を作成する権限があります。

ユーザはジョブを読み込んだり、Job Explorer でジョブ固有の設定を作成する権限があります。

4 「プロファイル」タブで「ワークスペース」を開き、ワークスペースを割り当てます。

ワークスペースは Fiery XF のカスタム ビューです。各ユーザが見ることのできる Fiery XF の基本領域を定義します。既定のワークスペースは、Fiery XF 機能の特定の範囲へのアクセスを可能にします。

- FULL は Fiery XF のライセンスされた全機能へのアクセスを可能にします。
- PRODUCTION は、プロダクションワークフローに必要なすべての設定へのアクセスを可能にしますが、プルーフィング環境を特に対象とした設定は非表示となります。
- PROOFING は、プルーフィングワークフローに必要なすべての設定へのアクセスを可能にしますが、プロダクション環境を特に対象とした設定は非表示となります。

ユーザは、カスタムのワークスペースを生成し、割り当てることもできます。

5 ユーザに色を割り当てます (オプション)。

色を割り当てることにより、より簡単にユーザを識別することができます。たとえば、1つのグループのすべてのユーザに特定の色を割り当てることができます。次のいずれかを行います。

- レイアウト領域で、ユーザを右クリックし、「カラーの指示」をクリックしてから色をクリックします。
- レイアウト領域で、ユーザ名の左側の白ストライプをクリックし、色をクリックします。

使用可能な基本カラーを一つを選択するか、カスタムカラーを定義することもできます。カスタムカラーを定義するには、「カスタムカラーの定義」をクリックします。カスタムカラーは RGB カラースペースで定義する必要があります。色を定義したら、「カスタムカラーに追加」をクリックします。

「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

6 変更を保存します。



ワークフローを作成するには

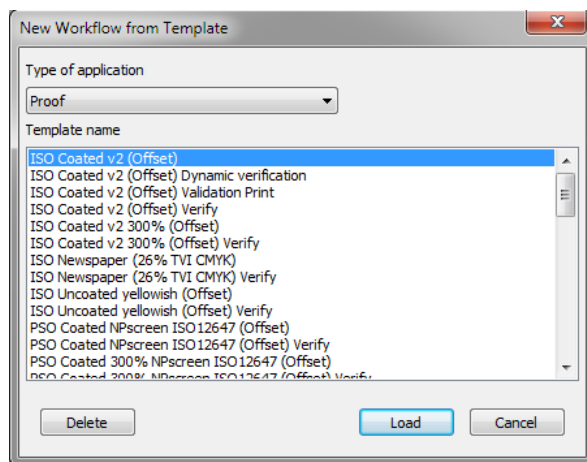
Fiery XF でワークフローを新規作成することができます。ワークフローテンプレートは、様々なワークフローシナリオで利用できます。

1 次のいずれかを行います。



- ツールバーで「ワークフローを新規作成」をクリックします。
- レイアウト領域で、既存のワークフローを右クリックし、「ワークフローを新規作成」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで「新規」をポイントし、「ワークフロー」をクリックします。

「テンプレートによる新規ワークフロー」ダイアログが表示されます。



2 ワークフロー環境のタイプを選択します。プルーフ、写真、プロダクション。

3 ワークフロー要件に最も適したテンプレートを選択します。

Fiery XF ではデフォルトのテンプレートを多く提供しています。それぞれのテンプレートには、プレプレス、印刷生産、写真印刷、切断輪郭等、プリント生成特定のワークフローに対応するカラーマネジメント設定がセットアップされています。

最初は、デフォルトワークフローのみがテンプレートとして使用できます。しかし、細かい要件に合わせてデフォルトのテンプレートから設定を変え、これをカスタムテンプレートとして保存することができます。

4 「読み込む」をクリックします。

新しいワークフローが作成されます。このワークフローは、連続した番号が追加されるだけで、ワークフローテンプレートと同じ名前になっています。

5 ワークフローの一意の名前を定義します。次のいずれかを行います。

- レイアウト領域で、「ワークフローを新規作成」をダブルクリックしてデフォルト名を上書きした後で、<Enter> キーを押します。
- 「ワークフロー」タブで、「基本的な情報」ペインを開いて、デフォルト名を上書きします。

6 必要なワークフロー設定を行います。

たとえば、特殊なカラープロファイルを適用したり、ジョブをネスティングとして集合的に出力したり、すべてのジョブを均一サイズとなるように拡大縮小することができます。ワークフローで行った設定は、そのワークフローで読み込むすべてのジョブに適用されます。

7 ワークフローにカラーを割り当てます (オプション)。

カラーを割り当てることにより、より簡単にワークフローを識別することができます。たとえば、同じプリンタに印刷されているすべてのワークフローに特定の色を割り当てることができます。次のいずれかを行います。

- レイアウト領域で、ワークフローを右クリックし、「カラーの指示」をクリックしてから色をクリックします。
- レイアウト領域で、ワークフロー名の左側の白ストライプをクリックし、色をクリックします。

使用可能な基本カラーを一つを選択するか、カスタムカラーを定義することもできます。カスタムカラーを定義するには、「カスタムカラーの定義」をクリックします。カスタムカラーは RGB カラースペースで定義する必要があります。カラーを定義したら、「カスタムカラーに追加」をクリックします。

「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。



8 変更を保存します。

新規出力デバイスを作成するには

1 次のいずれかを行います。



- ツールバーで「出力デバイスを新規作成」をクリックします。
- レイアウト領域で、既存の出力デバイスを右クリックし、「出力デバイスを新規作成」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで「新規」をポイントし、「出力デバイス」をクリックします。

「出力デバイスを新規作成 1」という名前の出力デバイスが作成されます。

2 出力デバイスの一意的な名前を定義します。次のいずれかを行います。

- レイアウト領域で、「出力デバイスを新規作成 1」をダブルクリックしてデフォルト名を上書きした後で、<Enter> キーを押します。
- 「デバイス」タブで、「情報」ペインを開き、「出力デバイスを新規作成 1」を上書きします。

3 「デバイス」タブで、「情報」ペインを開きます。

- 「メーカー」から、お使いの出力デバイスのメーカーを選択します。

次のオプションのいずれに対して出力デバイスを設定するには、メーカーとして「EFI」を選択します。ファイル出力オプション、Fiery オプション、ソフトプルーフ出力オプション。

- 「デバイスタイプ」でお使いのデバイスタイプを選択します。

メディアプロファイルがインストールされていなかった場合は、情報アイコンが表示されます。この場合、作業を続行する前に、適切なメディアプロファイルをインストールする必要があります。

必要に応じてソフトウェア DVD からメディアプロファイルをインストールできます。詳細については、クイックスタートガイドを参照してください。または、EFI の最新のメディアプロファイルを Web サイトからダウンロードすることができます。

4 「デバイス」タブで「接続」ペインを開き、接続のタイプを選択します。

- システムプリンタとして Fiery XF サーバソフトウェアに実行しているコンピュータに設定されている Windows プリンタに印刷する場合は、「システムプリンタに印刷」を選択します。次に、ドロップダウンリストボックスから「プリンタ」を選択します。

この設定は Windows に対してのみ有効です。システムプリンタは、Fiery XF でサポートされているプリンタである必要があります。

- ネットワークプリンタに印刷するには、「IP ネットワーク経由で印刷」を選択します。

ネットワーク プリンタの IP アドレスを入力します。プリンタへの接続が正しく行われているかどうかを確認するには、「テスト」をクリックします。接続をテストするには、プリンタの電源がオンになっている必要があります。エラーメッセージが表示された場合は、システム管理者に問い合わせてください。

データ転送に使用されている TCP/IP プロトコルのタイプを選択します。ほとんどのプリンタは、RAW プロトコルをサポートし、ポート 9100 に印刷します。LPR プロトコルは、通常、Unix システムが複数のインターフェースを持つプリントサーバ用に予約されています。このフィールドは空白でも構いません。お使いのプリンタのマニュアルを参照するか、それでも確信が持てない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Fiery Command WorkStation に印刷する場合、更なる設定が必要になります。

- USB 接続でサーバコンピュータに接続されているプリンタに印刷する場合は、「ポート経由で印刷」を選択します。Fiery XF の起動時にプリンタの電源が入っている必要があります。そうでない場合は、プリンタを検出することはできません。

- PDF / TIFF 形式に印刷したり、Caddon can:view 出力デバイス上にソフトブールーフを作成したり、Fiery 出力デバイスに出力するには、「ファイルに出力する」を選択します。

エクスポートパスを確認します。必要に応じて「選択」をクリックし、別フォルダを選択します。残りの設定手続きを完了します。利用可能な設定は、ファイル出力のタイプによって異なります。

- 「JDF ポート経由で印刷」を選択し、VUTEk プリンタへの JDF 接続を設定します。
- 「JDF ポート経由で印刷」を選択し、VUTEk プリンタへの JDF 接続を設定します。

接続を設定するには「接続」をクリックします。

5 「メディア」タブで「印刷構成」ペインを開きます。

- インクの種類 プリンタに装着されているインクのタイプを選択します。
- 使用する印刷メディア名を選択します。

Fiery XF では、メディア、インク、および解像度の組み合わせに適したメディアプロファイルが提供されています。また、既存プリンター用に作成済みのカスタムメディアプロファイルを適用することもできます。

- キャリブレーション設定を選択します。

キャリブレーション設定は印刷条件の設定を定義し、プリンタの動作が確実にメディアに最適なように調整されます。「カタログ」をクリックして各キャリブレーション設定が作成された印刷条件を表示します。

印刷メディアタイプ、インクの種類、キャリブレーション設定を選択すると、Fiery XF は自動的に設定の組合せに適したメディアプロファイルを選択します。

6 「メディア」タブで、「メディア設定」ペインを開き、メディアに適した設定を行います。

ロール紙またはカット紙、いずれかの印刷メディアのソースを選択します。印刷メディアフォーマットを選択します。または、必要な寸法を入力することにより、カスタムサイズを定義します。

7 「オプション」タブから「特別なプリンタ設定」ペインを開き、プリンタに適した設定を行います。

8 出力デバイスにカラーを割り当てます (オプション)。

カラーを割り当てることにより、より簡単に出力デバイスを識別することができます。たとえば、同じ種類のメディアに印刷されているすべての出力デバイスに特定の色を割り当てることができます。次のいずれかを行います。

- レイアウト領域で、出力デバイスを右クリックし、「カラーの指示」をクリックしてから色をクリックします。
- レイアウト領域で、プリンタ名の左側の白ストライプをクリックし、色をクリックします。

使用可能な基本カラーを一つを選択するか、カスタムカラーを定義することもできます。カスタムカラーを定義するには、「カスタムカラーの定義」をクリックします。カスタムカラーは RGB カラースペースで定義する必要があります。色を定義したら、「カスタムカラーに追加」をクリックします。

「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。



9 変更を保存します。

システムコンフィグレーションを作成後、オンラインに設定しておく必要があります。

関連参照：

36 頁の「カスタムワークフローテンプレートを作成するには」

65 頁の「システムコンフィグレーションのオンライン / オフライン設定」

72 頁の「ワークスペースの作成」

482 頁の「接続」

177 頁の「印刷メディアプロファイルの更新」

179 頁の「サードパーティ製のメディアプロファイル」

224 頁の「Fiery 出力デバイスへの印刷」

226 頁の「VUTEk プリンタへの印刷」

267 頁の「JDF の統合」

システムコンフィグレーションのオンライン/オフライン設定

Fiery XF で自動的に処理と出力を行うため、システムコンフィグレーションはずっと完全にオンラインであり続ける必要があります。

一方、何らかの変更を行うために、システムコンフィグレーションの一部を一時的にオフラインにする必要があるかもしれません。システムコンフィグレーションをオフラインに設定することにより、一時的に利用できないワークフローにジョブが入り込まないようにします。

システムコンフィグレーションを完全にオンラインに設定するには

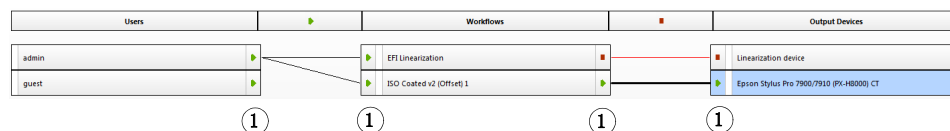
- 1 System Manager に移動します。レイアウト領域で、ユーザとワークフローを接続します。その後、このワークフローと出力デバイスを接続します。

「ユーザ」、「ワークフロー」、「出力デバイス」は、黒線によって接続状態が表示されます。ワークフローは無制限にユーザに接続することができますが、ワークフローは1つの出力デバイスにしかつなげることはできません。

オブジェクト（ユーザ、ワークフローまたは出力デバイス）のマージン領域からセカンドオブジェクトまでマウスを移動します。必ずマージン領域からドラッグしてください。中央からドラッグした場合、オブジェクトの表示順序が変更されます。

システムコンフィグレーションでオブジェクトを接続する

1 マージン領域



また、次のメニュー項目も使用することができます：

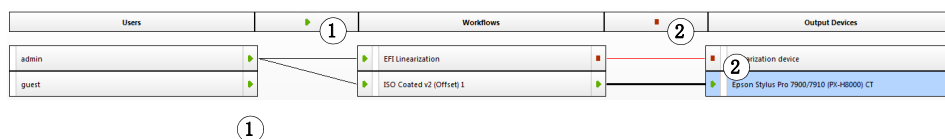
動作	説明
一人のユーザと1つのワークフローを接続するには	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト領域で、「ユーザ」を右クリックし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、ユーザをクリックします。「編集」メニューで、「ユーザ」をポイントし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、ワークフローを右クリックし、「接続済みのユーザ」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、ワークフローをクリックします。「編集」メニューで、「ワークフロー」をポイントし、「接続済みのユーザ」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。
一人のユーザとすべてのワークフローを接続するには	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト領域で、ユーザを右クリックし、「すべてのワークフローに接続」をクリックします。 レイアウト領域で、ユーザをクリックします。「編集」メニューで、「ユーザ」を右クリックし、「すべてのワークフローに接続」をクリックします。
すべてのユーザをすべてのワークフローに接続するには	<ul style="list-style-type: none"> 「編集」メニューで、「システム」を右クリックし、「すべてのワークフローに接続」をクリックします。
1つのワークフローを1つの出力デバイスに接続するには	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト領域で、ワークフローを右クリックし、「接続済みの出力デバイス」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、ワークフローをクリックします。「編集」メニューで、「ワークフロー」をポイントし、「接続済みの出力デバイス」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。
1つの出力デバイスを1つのワークフローに接続するには	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト領域で、出力デバイスを右クリックし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、出力デバイスをクリックします。「編集」メニューで、「出力デバイス」を右クリックし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。
1つの出力デバイスをすべてのワークフローに接続するには	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト領域で、出力デバイスを右クリックし、「出力デバイスをすべてのワークフローに接続」をクリックします。 レイアウト領域で、出力デバイスをクリックします。「編集」メニューで、「出力デバイス」を右クリックし、「出力デバイスをすべてのワークフローに接続」をクリックします。

2 システム設定が完全にオンラインになっていることを確認します。

完全にオンラインとなっているシステムコンフィグレーションは、ユーザから出力デバイスをつなぐ緑色の矢印によって示されます。赤い四角形は、システムコンフィグレーションのその印のついている段階がオフラインであることを意味します。

システムコンフィグレーションをオンラインに設定

- 1 オンライン
- 2 オフライン



次のいずれかを実行してください：

- すべての赤い四角形をクリックします。
- オブジェクトを右クリックし、以下の項目を（下表参照）をクリックします。
- オブジェクト（ユーザ、ワークフロー、または出力デバイス）をクリックします。「編集」メニューで該当する項目をポイントし、項目をクリックします。

オブジェクト	メニュー項目
ユーザ	「ユーザ名」はオフラインです
ワークフロー	ワークフローが新しいジョブを受け付けます ワークフローによるジョブの処理と印刷
出力デバイス	「プリンタ名」はオフラインです

システムコンフィグレーションをオフラインに設定するには

システムコンフィグレーションに、次のような変更を加えたいと思うときがあるかもしれません。例えば：

- ユーザを追加または削除する必要がある。
- ワークフローの設定を変更する必要がある。
- 別のプリンタにワークフローを接続する必要がある。
- 出力デバイスの保守を行う必要がある。

システムコンフィグレーションに変更を加えるには、ジョブ処理の適切な段階で、まず、システムコンフィグレーションを停止する必要があります。必要な変更の内容により、別のワークフローを使うか、一時的にワークフローを別の出力デバイスに接続することにより、ユーザが被る不便さを軽減することができるかもしれません。

次のようにシステムコンフィギュレーションを中断できます：

- システムコンフィグレーションからユーザ、ワークフロー、または出力デバイスを切断することができます。
- ある段階で、システムコンフィグレーションをオフラインに設定することができます。

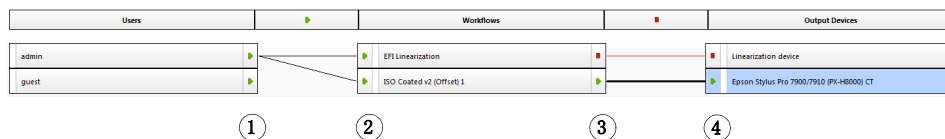
1 System Manager に移動します。レイアウト領域で、ワークフローのある必要な段階をオフライン設定します。

次のいずれかを実行してください：

- 緑色の矢印をクリックし、これを赤い四角形に変えます。
- オブジェクトを右クリックし、以下の項目を（下表参照）をクリックします。
- オブジェクト（ユーザ、ワークフロー、または出力デバイス）をクリックします。「編集」メニューで該当する項目をポイントし、項目をクリックします。

オブジェクト	メニュー項目
ユーザ	「ユーザ名」はオンラインです
ワークフロー	ワークフローが新しいジョブを受け付けます ワークフローによるジョブの処理と印刷
出力デバイス	「プリンタ名」はオンラインです

システムコンフィグレーションをオフラインに設定



1	ユーザがログオンしないようにします
2	ジョブの自動検出をしないようにします。例えば、もうホットフォルダは監視されなくなりました。
3	ジョブが Fiery XF によって自動的に処理されないようになりました。この段階でワークフローを停止するのは、保留ジョブを読み込むのと同じです。
4	ジョブが印刷されないようにします。

2 2つのオブジェクトを接続する線を右クリックし、「切断」をクリックします。

必要に応じて、ユーザ、ワークフロー、および出力デバイスを切断します。

また、次のメニュー項目も使用することができます：

動作	説明
一人のユーザを1つのワークフローから切断するには	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト領域で、「ユーザ」を右クリックし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、ユーザをクリックします。「編集」メニューで、「ユーザ」をポイントし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、ワークフローを右クリックし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、ワークフローをクリックします。「編集」メニューで、「ワークフロー」を右クリックし、「接続済みのユーザ」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。
一人のユーザをすべてのワークフローから切断するには	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト領域で、ユーザを右クリックし、「すべてのワークフローから切断」をクリックします。 レイアウト領域で、ユーザをクリックします。「編集」メニューで、「ユーザ」を右クリックし、「すべてのワークフローから切断」をクリックします。
すべてのユーザをすべてのワークフローから切断するには	<ul style="list-style-type: none"> 「編集」メニューで、「システム」を右クリックし、「すべてのユーザをすべてのワークフローから切断」をクリックします。
1つのワークフローを1つの出力デバイスから切断するには	<ul style="list-style-type: none"> レイアウト領域で、ワークフローを右クリックし、「接続済みの出力デバイス」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。 レイアウト領域で、ワークフローをクリックします。「編集」メニューで、「ワークフロー」を右クリックし、「接続済みの出力デバイス」をポイントし、その横にチェックマークのついていない項目をクリックします。

動作	説明
1つの出力デバイスを1つのワークフローから切断するには	<ul style="list-style-type: none">レイアウト領域で、出力デバイスを右クリックし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついている項目をクリックします。レイアウト領域で、出力デバイスをクリックします。「編集」メニューで、「出力デバイス」をポイントし、「接続済みのワークフロー」をポイントし、その横にチェックマークのついている項目をクリックします。
1つの出力デバイスをすべてのワークフローから切断するには	<ul style="list-style-type: none">レイアウト領域で、出力デバイスを右クリックし、「出力デバイスをすべてのワークフローから切断」をクリックします。レイアウト領域で、出力デバイスをクリックします。「編集」メニューで、「出力デバイス」を右クリックし、「出力デバイスをすべてのワークフローから切断」をクリックします。

ワークスペース

ワークスペースは Fiery XF のカスタム ビューです。これは、各ユーザが見て確認できる設定を定義します。ワークスペースは、ユーザ設定を行った Fiery XF 管理者によりユーザに割り当てられています。ユーザ独自のニーズに合わせて Fiery XF のビューをさらにカスタマイズできます。

管理者権限を持っていない場合は、割り当てられたワークスペースのみを選択し、カスタマイズすることができます。管理者権限を持っている場合は、Workspace Manager でさらにワークスペースを作成したり、管理をすることができます。

ワークスペースの選択

複数のワークスペースを割り当てられている場合は、異なるワークフロー環境用に設定された機能セットを持つワークスペースに切り替えることができます。

ワークスペースを選択するには

1 次のいずれかを行います。

- タブバーで、メニューボタンをクリックし、ワークスペースをポイントします。
- メニューバーで、「ワークスペース」をクリックします。

2 項目をクリックします。

次のいずれかの設定を選択します。

- デフォルトのワークスペース
 - FULL は Fiery XF のライセンスされた全機能へのアクセスを可能にします。
 - PRODUCTION は、プロダクションワークフローに必要なすべての設定へのアクセスを可能にしますが、プルーフリング環境を特に対象とした設定は非表示となります。
 - PROOFING は、プルーフリングワークフローに必要なすべての設定へのアクセスを可能にしますが、プロダクション環境を特に対象とした設定は非表示となります。

ユーザ設定により、デフォルトのワークスペースの一部またはすべてにアクセスできないかもしれません。

- カスタムワークスペース (利用可能な場合)

管理者権限を持っている場合は、独自のカスタムワークスペースを作成することができます。

関連参照：

72 頁の「ワークスペースの作成」

ワークスペースのカスタマイズ

不要なタブとペインを非表示にすることで、ワークスペースを簡素化することができます。目に見える機能の数を減らすと、ソフトウェア操作がより簡単になります。

タブを表示 / 非表示にするには

1 次のいずれかを行います。

- タブバーで、メニューボタンをクリックし、「表示」をポイントします。
- メニューバーの「ワークスペース」をクリックして、「プロパティのタブ」をポイントします。

メニューには、利用可能なタブが表示されます。

2 項目をクリックします。

タブを非表示にするには、その横にチェックマークが付いている項目をクリックします。

非表示になっているタブを表示するには、その横にチェックマークが付いていない項目をクリックします。すべての非表示タブを表示するには、「すべて表示」をクリックします。

ペインを表示 / 非表示にするには

1 ペインバーで、メニューボタンをクリックし、「非表示」をクリックします。

ペインは、プロパティインスペクタで非表示となっています。

非表示ペインを表示するには、プロパティインスペクタの任意の場所で右クリックし、「表示」をポイントし、横にチェックマークのない項目をクリックします。すべての非表示ペインを表示するには、「すべて表示」をクリックします。

ワークスペースの作成

管理者権限を持っている場合は、新しいワークスペースを作成したり、既存のワークスペースの編集をすることができます。Fiery XF にあるデフォルトのワークスペースを編集することはできません。

次の 2 つの方法でワークスペースを作成することができます：

- ワークスペースとして、現在のプログラムビューを保存することができます。
- Workspace Manager でワークスペースを作成することができます。

ワークスペースとして、現在のプログラムビューを保存するには

この種のカスタムワークスペースにより、設定を素早く簡単に保存し、将来のジョブでこれを適用することができます。

1 次のいずれかを行います。

- タブバーで、メニューボタンをクリックし、「ワークスペース」をポイントし、「ワークスペースを保存します」をクリックします。
- メニューバーで、「ワークスペース」をクリックし、「ワークスペース」をポイントしてから、「ワークスペースを保存します」をクリックします。

「ワークスペースを保存します」ダイアログボックスが表示されます。

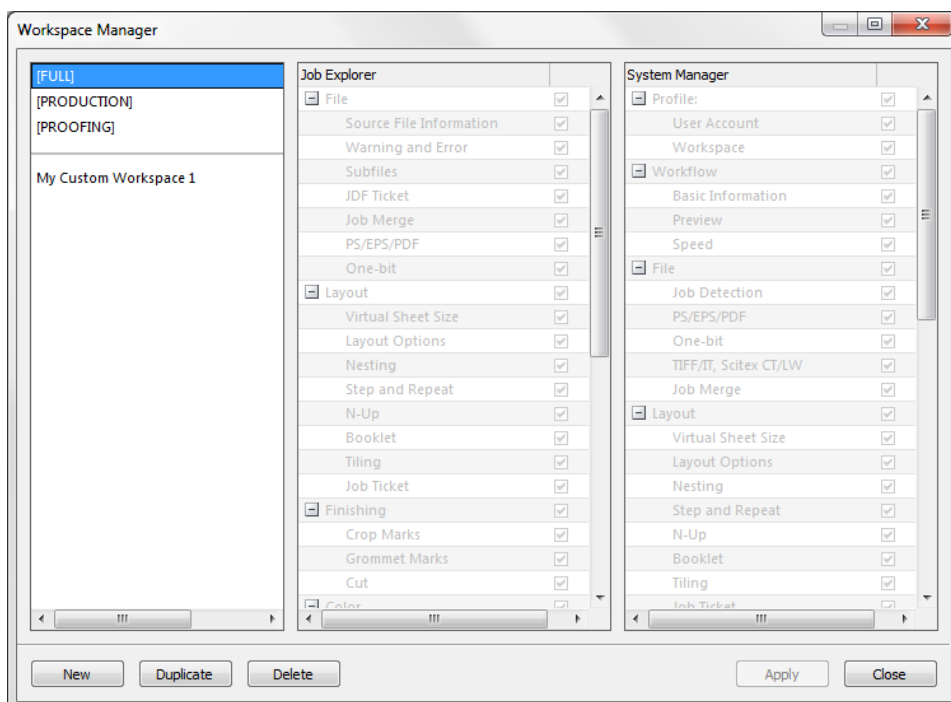
2 ワークスペース名を入力してください。

3 「保存」をクリックします。

ワークスペースは、管理者権限を持つすべてのユーザが利用できるように自動的になります。他のユーザには、手動で割り当てることができます。

WORKSPACE MANAGER でワークスペースを作成するには**1 次のいずれかを行います。**

- タブバーで、メニューボタンをクリックし、「ワークスペース」をクリックし、「ワークスペース」をポイントし、「Workspace Manager」をクリックします。
- メニューバーで、「ワークスペース」をクリックし、「Workspace Manager」をクリックします。

**2 次のいずれかを行います。**

- 「新規」をクリックします。新しいワークスペースは、デフォルトのワークスペース「FULL」に対応しています。これは Fiery XF のライセンスされた全機能へのアクセスを可能にします。
- 左側の列で、既存のワークスペース（デフォルトまたはカスタム）をクリックし、ワークスペースの設定をコピーするために「複製」をクリックします。

新しいワークスペースと複製されたワークスペースにデフォルトの名前がついて作成されます。一意の名前でデフォルト名を上書きし、<Enter> を押します。

3 System Manager と Job Explorer の列で、ワークスペースに含めるペインを選択します。

必要に応じて、チェックボックスにチェックを入れるか、既に入っているチェックを外します。デフォルト設定ではなく、各ペインで現在適用されている設定がワークスペースに保存されます。

4 次のいずれかを行います。

- 「適用」をクリックして、設定を保存します。「閉じる」をクリックします。
- 「閉じる」をクリックします。「確認」ダイアログボックスが表示されます。「はい」をクリックして、設定を保存し、Workspace Manager を終了します。

ワークスペースは、管理者権限を持つすべてのユーザが利用できるように自動的にになります。他のユーザには、手動で割り当てることができます。

関連参照：

76 頁の「ワークスペースを割り当てるには」

ワークスペースの編集

既存のワークスペースに変更を加えることができます。

ワークスペースを編集するには

1 次のいずれかを行います。

- タブバーで、メニューボタンをクリックし、「ワークスペース」をポイントし、「Workspace Manager」をクリックします。
- メニューバーで、「ワークスペース」をクリックし、「Workspace Manager」をクリックします。
- レイアウト領域で、ユーザをクリックします。「プロファイル」ペインで、「ワークスペース」タブを開き、「編集」をクリックします。

2 左側の列で、ワークスペースをクリックします。

3 System Manager と Job Explorer の列で、チェックボックスをオンまたはオフにします。

デフォルトの設定ではなく、各ペインの現在の設定がワークスペースで保存されます。

4 次のいずれかを行います。

- 「適用」をクリックして、設定を保存します。「閉じる」をクリックします。
- 「閉じる」をクリックします。「確認」ダイアログボックスが表示されます。「はい」をクリックして、設定を保存し、Workspace Manager を終了します。

ワークスペースが更新されます。ユーザは更新されたワークスペースにアクセスするために Fiery XF クライアントを再起動する必要があります。それまでは、オリジナルのワークスペースの設定は引き続き利用することができます。

カスタムワークスペースの削除

このカスタムワークスペースどのユーザ用にも選択されていないことを確認します。現在選択されているワークスペースを削除することはできません。

カスタムワークスペースを削除するには

1 次のいずれかを行います。

- タブバーで、メニューボタンをクリックし、「ワークスペース」をポイントし、「ワークスペースを削除します」をクリックします。
- メニューバーで、「ワークスペース」をクリックし、「ワークスペース」をポイントしてから、「ワークスペースを削除します」をクリックします。

「ワークスペースを削除します」ダイアログボックスが表示されます。

2 ワークスペース名をクリックします。

複数選択が可能です。

3 「削除」をクリックします。

「確認」ダイアログボックスが表示されます。

4 ワークスペースを削除するには、「はい」をクリックします。

5 「閉じる」をクリックして「ワークスペースを削除します」ダイアログボックスを閉じます。

ワークスペースの割り当て

新しいワークスペースを作成したときは、特定のユーザにこれを割り当てることができます。

ワークスペースを割り当てるには

1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、ユーザをクリックします。「プロファイル」タブで「ワークスペース」ペインを開きます。

2 ワークスペースの横にあるチェックボックスを選択します。

管理者権限のないユーザーは、ワークスペースでなされた System Manager 設定内容を見ることができません。

適切なチェックボックスをオフにして、ワークスペースへのユーザーのアクセスを拒否することができます。



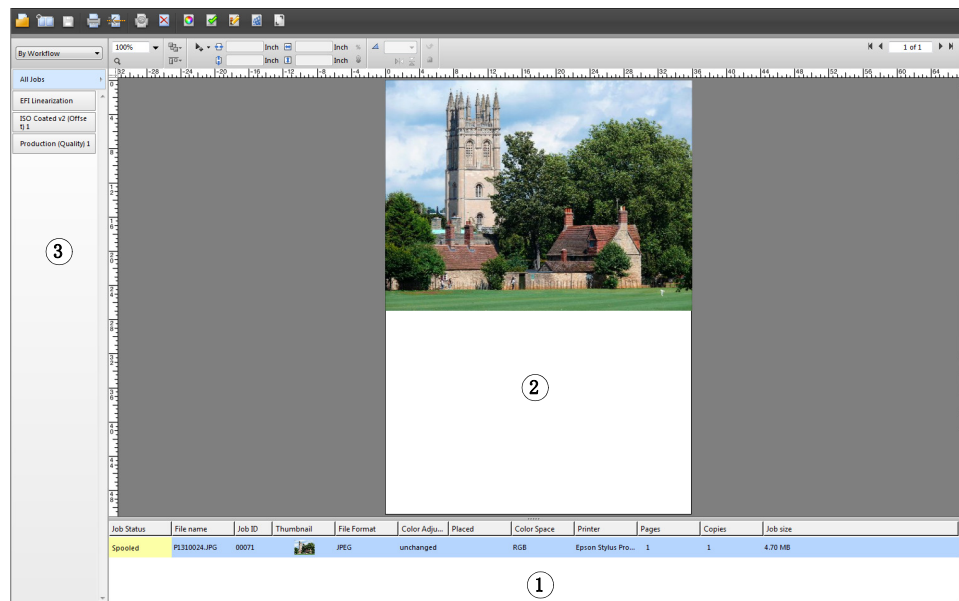
3 変更を保存します。

ジョブリストとプレビューウィンドウ

プレビューウィンドウには、ジョブリストで選択したジョブのイメージが表示されます。ジョブはバーチャル用紙サイズでプレビューされます。デフォルトでは、バーチャル用紙サイズは出力デバイスで選択された印刷メディアサイズと同じになります。

Job Explorer

- 1 ジョブリスト
- 2 「プレビュー」ウィンドウ
- 3 セレクタ



印刷前にプレビューしたジョブに変更を加えることができます。

関連参照：

35 頁の「バーチャルシートサイズを設定するには」

プレビューのアクティベーション

ワークフローがプレビューを作成するように設定されていない場合、ジョブはプレビューウィンドウにグレーボックスとして表示され、ジョブリストの「サムネイル」列は空になります。

単一のジョブのプレビューを強制したり、ワークフロー設定を変更することができます。

プレビューワークフローを設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「プレビュー」ペインを開きます。
- 2 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 3 インチあたりのドット数またはピクセルでプレビューの解像度を定義します。

プレビューイメージで個々のピクセルを編集する必要がある場合は、高解像度を選択することをお勧めします。解像度が高いほど、ズームイン ビューでのイメージが鮮明になり、より正確にイメージを編集できます。

- 4 ワークフローを保存します。
-

読み込んだジョブのプレビューを強制するには

- 1 次のいずれかを行います。
 - ジョブリストでジョブを右クリックし、「プレビュー」をクリックします。
 - ジョブ一覧でジョブをクリックします。「編集」メニューから「プレビュー」を選択します。

ジョブ・リスト

ジョブリストには、読み込まれているジョブの概要が表示されます。ジョブステータスはわかりやすいように色分けされています。

ジョブリストのカスタマイズ

ジョブリストに表示される情報をカスタマイズすることができます：

- 列を追加することができます。
 - 列の順序を並び替えることができます。
 - リストされるページの順番を並び替えることもできます。
 - ジョブリストをフィルタリングできます。
-

列を追加または削除するには

デフォルトの列見出しに加えて、ジョブ固有の情報を表示することができます。

- 1 ジョブリストで、任意の列見出しを右クリックし、項目をクリックします。

列を追加するには、その横にチェックマークが付いていない項目をクリックします。列を削除するには、その横にチェックマークが付いている項目をクリックします。「ジョブステータス」と「ファイル名」の列を非表示にすることはできません。

列の順序を並べ替えるには

- 1 列見出しを左または右にドラッグします。

「ジョブステータス」と「ファイル名」の列を並び替えることはできません。

ジョブの順序を並べ替えるには

デフォルトでは、ジョブは Fiery XF に読み込まれた順序でリストされています。しかし、任意の列見出しに従ってジョブを並び替えることができます。

- 1 列見出しをクリックします。

例えば、アルファベット順にジョブをソートするにはジョブ名をクリックするか、またはデータ量に応じてジョブを並び替えるにはジョブサイズをクリックします。

上向きまたは下向きの矢印が列見出しに表示され、ジョブが並び替えられます。再度、列見出しをクリックして、順序を逆順にします。

ジョブリストをフィルタリングするには

デフォルトでは、読み込まれたすべてのジョブは、ジョブリストに表示されます。セレクタを使ってジョブのリストをフィルタリングすることができます。例えば、特定のワークフローに読み込まれている、または特定のステータスを持つジョブのみを一覧表示することができます。選択された基準を満たしていないジョブは、ジョブリストには表示されません。

- 1 セレクタが表示されていることを確認してください。
- 2 セレクタの上部で、「ワークフロー順」、「ステータス順」、「プリンタ順」のいずれかを選択します。
- 3 セレクタで、(ワークフロー、ステータス、またはプリンタの)項目をクリックします。

ジョブリストには、指定された基準を満たすジョブのみが表示されます。すべてのジョブを再表示するには、「すべてのジョブ」をクリックします。

関連参照：

28 頁の「[Job Explorer ウィンドウをカスタマイズするには](#)」

サムネイル画像

ジョブリストには、コンテンツを簡単に認識するため、読み込んだすべてのジョブのサムネイル画像を表示することができます。サムネイル画像を表示するには、プレビュー設定がオンになっていることを確認してください。ジョブリストに「サムネイル」列が表示されていることも確認してください。

サムネイル画像のサイズを変更するには

- 1 ジョブリストで、ジョブを右クリックして「サムネイルサイズ」をポイントし、項目をクリックします。

小、中、大から選択することができます。

関連参照：

77 頁の「プレビューのアクティベーション」

78 頁の「ジョブリストのカスタマイズ」

ジョブのコピーと移動

ワークフローとプリンタ間で読み込んだジョブをコピーまたは移動することができます。

異なるワークフローにジョブをコピーまたは移動するには

- 1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストで、ジョブを右クリックして「ワークフローにコピー」または「ワークフローに移動」をポイントし、項目をクリックします。
- ジョブ一覧でジョブをクリックします。「編集」メニューで、「ワークフローにコピー」または「ワークフローに移動」をポイントし、項目をクリックします。

アクセス権を持つ任意のワークフローにジョブをコピーまたは移動することができます。

「ジョブの保留」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 次のいずれかを行います。

- すぐにジョブ処理を開始するには「いいえ」をクリックします。
- まず、ジョブを編集する場合は「はい」をクリックします。

ジョブが新しいワークフローにコピーまたは移動されます。前に行ったすべてのジョブの設定は、新しいワークフローの設定によって上書きされます。

異なるプリンタにジョブをコピーまたは移動するには

1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストで、ジョブを右クリックして「プリンタにコピー」または「プリンタに移動」をポイントし、項目をクリックします。
- ジョブ一覧でジョブをクリックします。「編集」メニューで、「プリンタにコピー」または「プリンタに移動」をポイントし、項目をクリックします。

アクセス権を持つ任意のプリンタにジョブをコピーまたは移動することができます。

「ジョブの保留」ダイアログボックスが表示されます。

2 次のいずれかを行います。

- すぐにジョブ処理を開始するには「いいえ」をクリックします。
- まず、ジョブを編集する場合は「はい」をクリックします。

ジョブは選択したプリンタに接続されている最初のワークフローにコピーまたは移動されます。すべてのジョブ設定も、ジョブと一緒に転送されます。選択したプリンタの印刷メディア設定を使用して、ジョブは印刷されます。

プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウの外観の変更

プレビュー領域のサイズを変更することができます：

- プレビューウィンドウのサイズを大きくすることができます。
- プレビューを拡大縮小することができます。
- プレビュー領域で拡大縮小することができます。

プレビューウィンドウのサイズを変更するには

1 次のいずれかを行います。

- 「表示」メニューの「プレビューの最大表示」をクリックします。

この設定は、全画面表示となるように、プレビューウィンドウのサイズを大きくします。Fiery XF の他のすべての部分は非表示となります。

Fiery XF プログラムを再度ウィンドウで表示するには、「プレビューの最大表示」をクリックして、チェックマークを外します。

- プレビューウィンドウとジョブのリストを区切る線に沿ってポインタを置きます。プレビューウィンドウのサイズを大きくするには、ポインタを下方向にドラッグします。ジョブリストのサイズを大きくするには、ポインタを上方向にドラッグします。

境界線の中央にあるサッシバーにポインタを置かないように注意してください。サッシバー上でポインタをクリックすると、プレビューウィンドウが非表示になります。

プレビューを拡大縮小するには

プレビューウィンドウに照らしてプレビューを拡大縮小することができます。

1 「表示」メニューで、「適応先」をポイントして、項目をクリックします。

デフォルトの設定は「画面に合わせる」となっています。プレビューウィンドウを全画面表示するように拡大します。

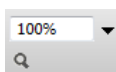
プレビューウィンドウの幅または高さに合わせてページを拡大縮小することができます。ネスティングでは、複数ページを選択し、プレビューウィンドウを全画面表示にすることができます。実際のサイズにページを拡大縮小することもできます。

プレビューページを拡大縮小するには

1 次のいずれかを行います。

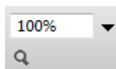
- ジョブ一覧でジョブをクリックします。
- プレビューウィンドウで、ページをクリックします。

2 次のいずれかを行います。



- ズームボックスで、拡大縮小率を入力するか選択します。

ドロップダウンリストボックスは、5%から4000%の拡大縮小率があります。



- ツールバーでは、ズームツールをクリックし、拡大したいプレビューの領域をクリックします。プレビューでクリックするたび、プレビューサイズは、100%増加します。ズームアウトするには、<Alt> キーを押しとズームツールをクリックします。

解除するまで、ズームツールは選択されたままです。ズームツールを解除するには、ツールバーの「ジョブの変換」をクリックします。

- 「表示」メニューで、「拡大」または「縮小」をクリックします。

「拡大」をクリックするたび、プレビューサイズは、100%増加します。「縮小」をクリックするたび、プレビューサイズは、100%減少します。

ページの配置のための表示オプション

シート上のページの配置にあたり、次の表示オプションが利用できます：

- ルーラー
- ガイド
- グリッド
- マーク
- ページフレーム

- オーバーラップ
- シートの余白

一部の表示オプションにガイドに磁気プロパティが与えられ、これにより、近くにあるページをこれらにスナップすることが可能です。

表示オプションを表示するには

- 1 「表示」メニューで、「表示オプション」をポイントして、項目をクリックします。

すべての表示オプションを表示するには、「すべてを表示」をクリックします。

表示オプションを非表示にするには、その横にチェックマークが付いている項目をクリックします。すべての表示オプションを非表示するには、「なし」をクリックします。

スナップ先機能を有効にするには

- 1 「表示」メニューで、「スナップ先」をポイントして、項目をクリックします。

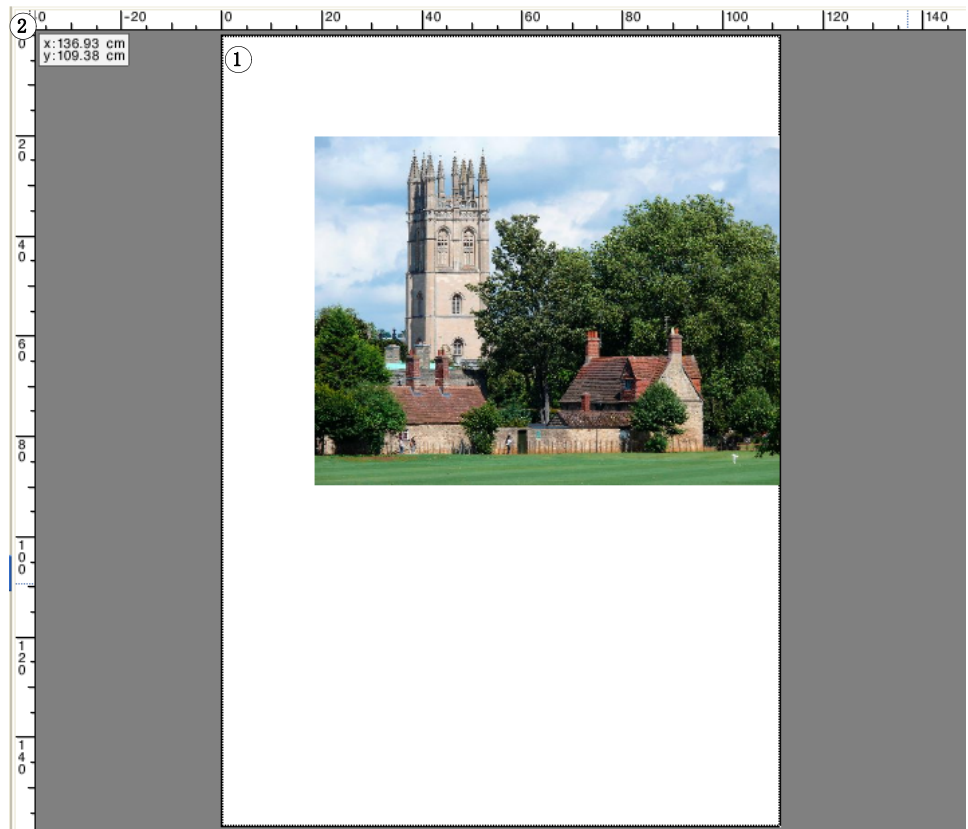
スナップ先機能がガイド、グリッドで利用可能です。ネスティングで、オブジェクトがお互いにスナップするようにすることができます。

ルーラー

プレビューウィンドウの上端と左端に沿ってルーラーを表示することができます。ルーラーは Fiery XF で設定されている測定システムで表示されます。

ルーラー

- 1 デフォルトは0、0座標と
なっています。
- 2 0、0座標を変更またはリ
セットするためのルー
ラー交差領域



デフォルトでは、0、0座標はシートの左上隅に配置されています。

異なる位置（例えば、ページの隅）を0,0の座標として設定するには、プレビューウィンドウのルーラー交差領域から必要な位置へポインタをドラッグします。

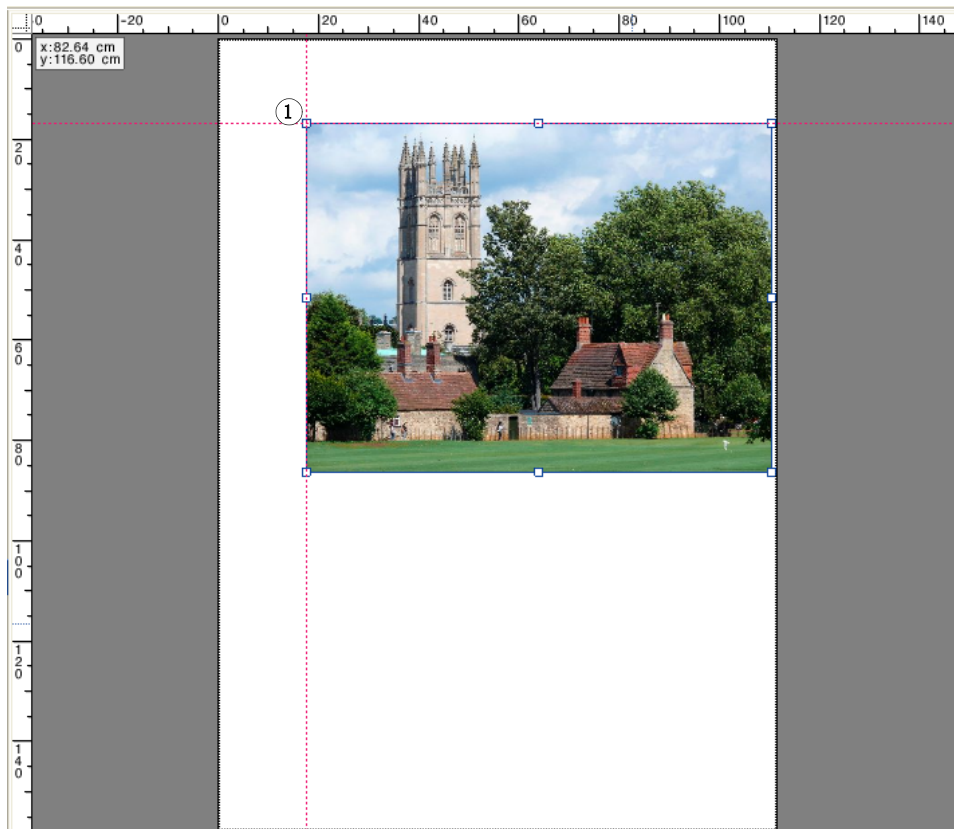
0、0座標をリセットするには、プレビューウィンドウのルーラーの交差領域をダブルクリックします。

ガイド

ガイドは印刷範囲外の線です。スナップ先機能をアクティブーションすることにより、ガイドに磁気プロパティが与えられ、これにより、近くにあるページがこれらにスナップされます。

ガイド

1 交差領域ガイド



ガイドを作成するには、水平または垂直ル??ーラーからポイントをドラッグします。

現在の位置でガイドをロックすることができます。「表示」メニューで「ガイドをロック」をクリックします。ガイドのロックを解除するには、チェックマークを削除するために、もう一度「ガイドをロック」をクリックします。

ガイドを移動するには、ガイドの上にポイントを置きます。行分割にポイントが変化します。新しい位置にガイドをドラッグします。「表示オプション」で「ガイドをロック」を選択している場合は、ガイド線は移動できません。

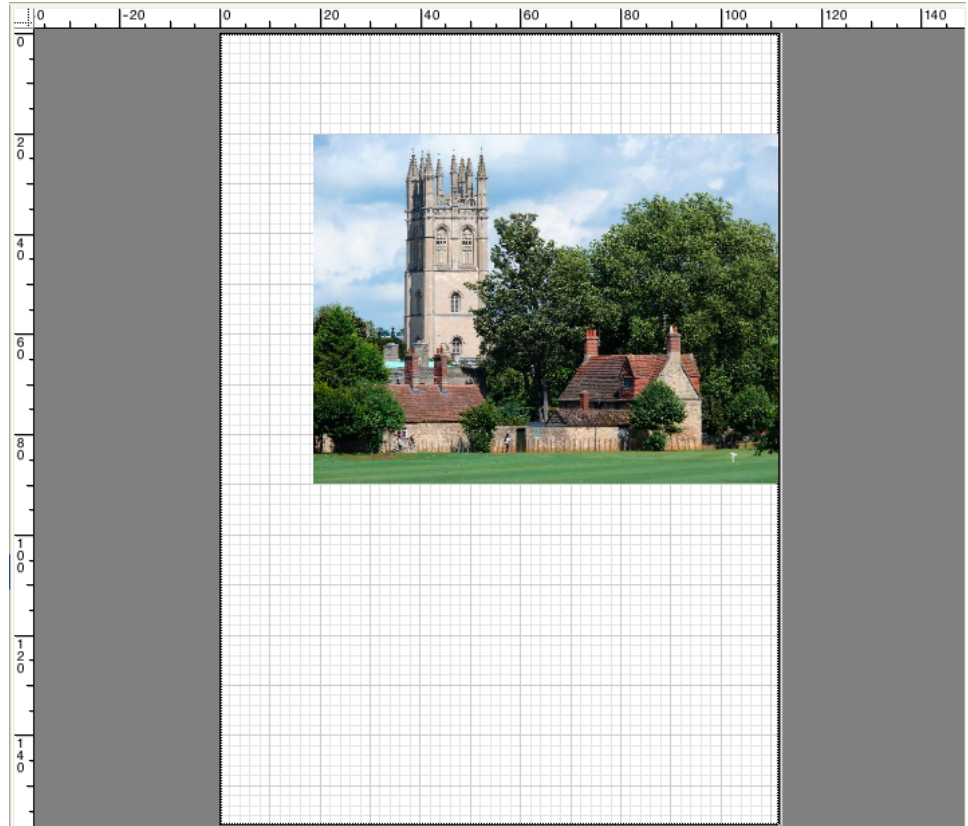
ガイドを削除するには、ガイドの上にポイントを置きます。行分割にポイントが変化します。水平のガイド線は上側のル??ーラーに、垂直のガイド線は左側のル??ーラーにドラッグアンドドロップします。

すべてのガイドを削除するには、「表示」メニューの「ガイドを消去」をクリックします。

Fiery XF 終了時にガイドが自動的に削除されます。

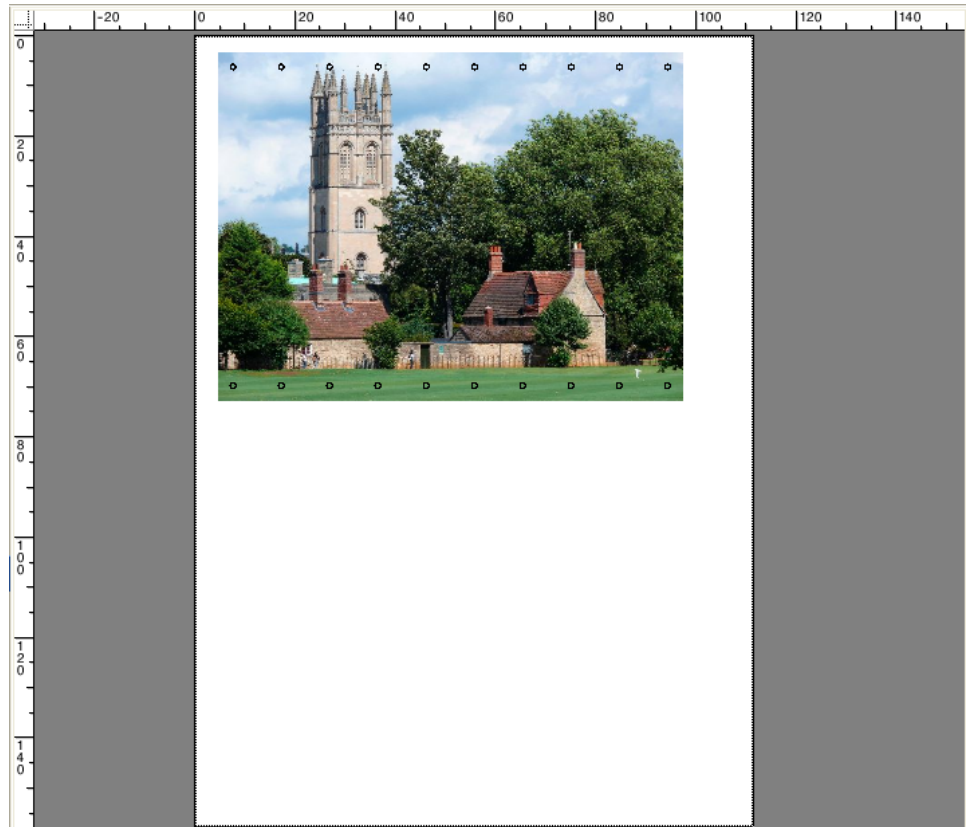
グリッド

グリッドは均等に配置された、印刷されない水平および垂直の直線から構成されます。グリッドの間隔は固定です。拡大/縮小を行うと、それに合わせて間隔も自動的に調整されます。スナップ先機能をアクティベーションすることにより、グリッドのマーキングに磁気プロパティが与えられ、これにより、近くにあるページがこれらにスナップされます。



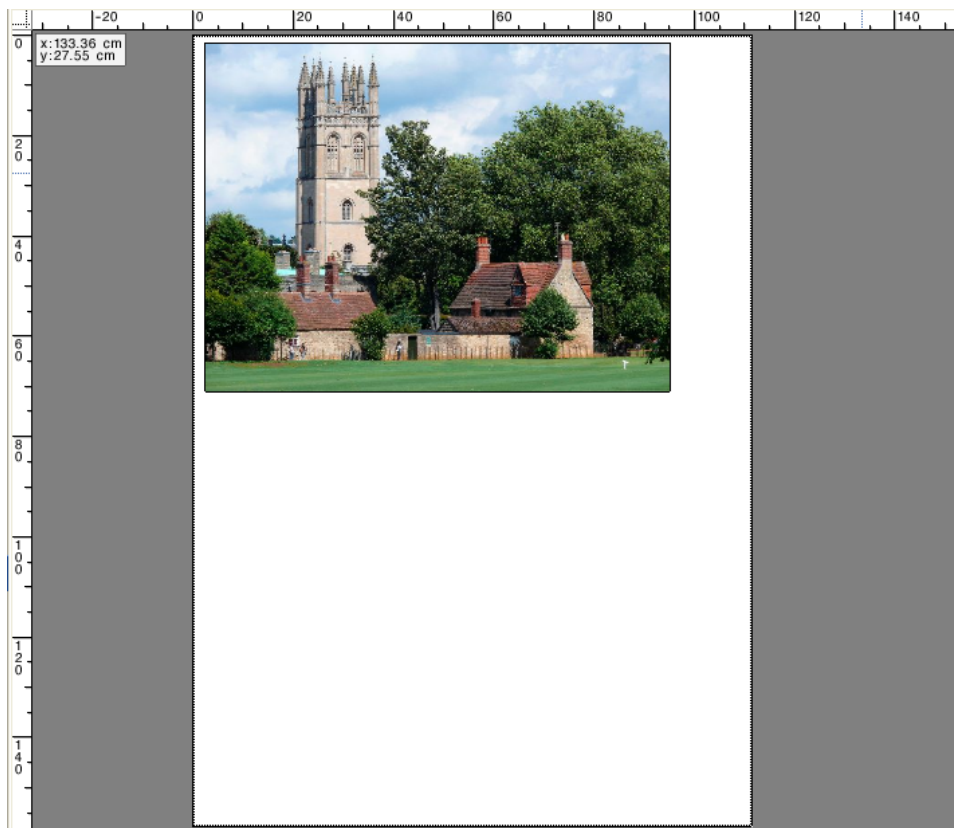
マーク

ク롭マークやカットマークのあるジョブを設定している場合は、プレビューでそれらを非表示にすることができます。シート上のページの位置は変更されません。



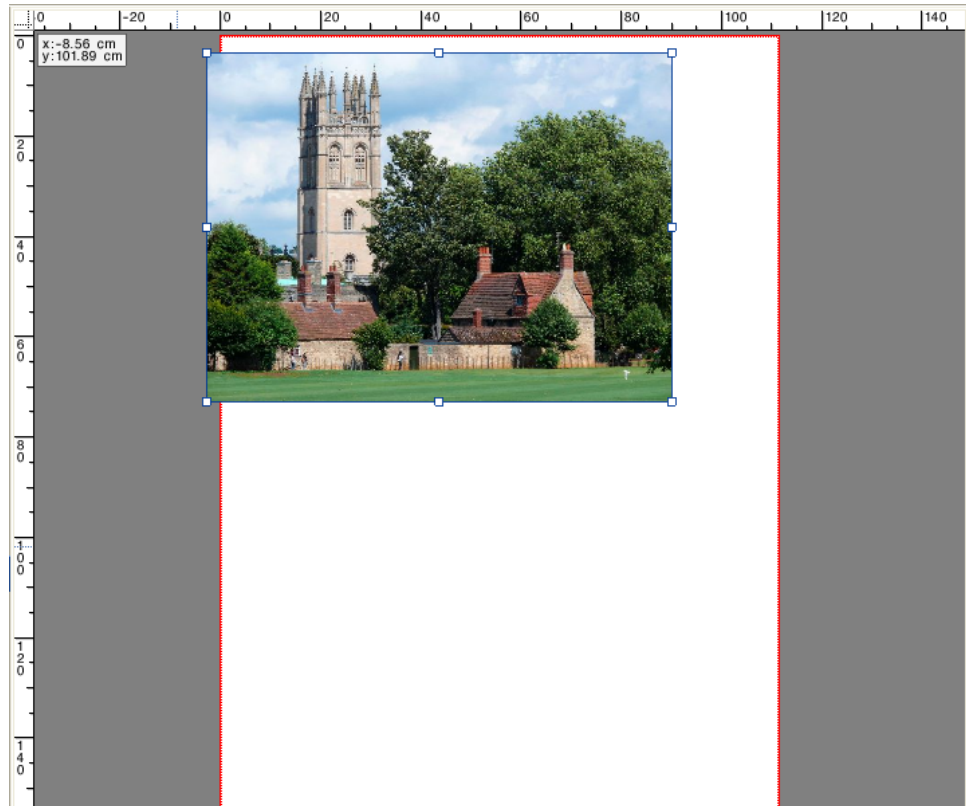
ページフレーム

黒の境界線を持つ各ページをプレビューすることができます。ページの境界線を表示することにより、ページがネスティングしている他のページと重なっているホワイトスペースがあるかどうかを確認することができます。



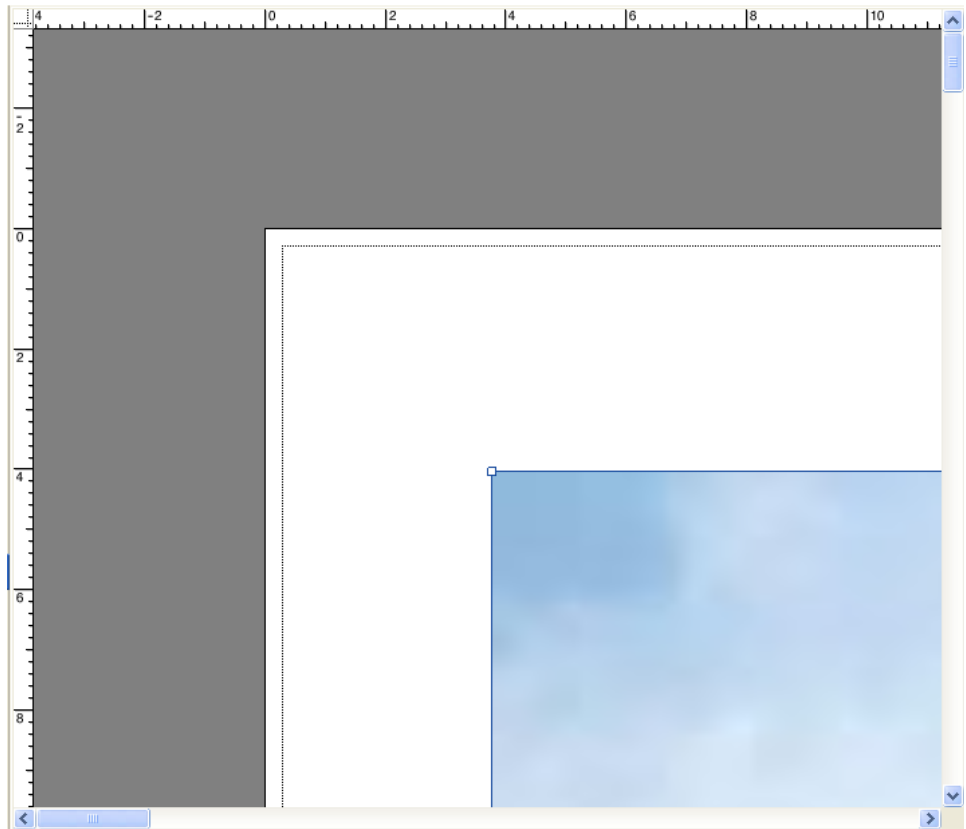
オーバーラップ

シートの端がオーバーラップしている、または他のページとオーバーラップしているページを表示することができます。オーバーラップしているページは赤枠で表示されます。



シートの余白

プリンタのファームウェアで定義されている印刷範囲外の余白を表示します。ページが印刷不可能なマージン内に配置されていることを確認することにより、印刷物での不要なクロップを回避することができます。



関連参照：

83 頁の「スナップ先機能を有効にするには」

ジョブの編集

プレビューウィンドウには、ジョブリストで選択したジョブのイメージが表示されます。印刷する前に、ジョブに手動で変更を加えることができます。

ワークフローが自動的にジョブのプレビューを作成するように設定されていない場合、ジョブはプレビューウィンドウにグレーボックスとして表示されます。この場合、手動でジョブの変更を行う前にプレビューの起動を行う必要があります。

ワークフローの設定に応じて、ジョブの処理は、ジョブリストにジョブが読み込まれ次第すぐに起動することがあります。変更を行う前にジョブが不必要に処理や印刷されないように次のオプションを使うことができます。

- ジョブの処理をキャンセルすることができます。
- 「保留」ジョブとしてジョブを読み込むことができます。
- ワークフローの終了時にオフラインに設定することもできます

「ステップ&リピート」や「タイリング」を作成した後でジョブの変更をすることはできません。変更が必要な場合は、まず「ステップ&リピート」や「タイリング」をリセットする必要があります。

関連参照：

35 頁の「[ジョブの処理をキャンセルするには](#)」

77 頁の「[プレビューのアクティベーション](#)」

189 頁の「[Fiery XF でジョブを読み込むには](#)」

67 頁の「[システムコンフィグレーションをオフラインに設定するには](#)」

ジョブの回転

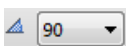
ジョブを 90 度、180 度、270 度回転させることができます。「最少メディア消費量」を選択した場合、印刷メディアの消費をこの方法で減らす場合、イメージが自動的に回転します。

ジョブを回転するには

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- 「レイアウト」タブで「レイアウトオプション」ペインを開きます。「回転」から回転の角度を選択します。
- プレビューウィンドウで、ページを右クリックし、「回転」をポイントし、回転の角度をクリックします。
- ツールバーで、「ジョブの変換」を選択します。「回転角度」ボタンの横の右下向き矢印をクリックし、回転の角度をクリックします。
- プレビューウィンドウで、ページの端のハンドルの上ではなく近くにポインタを置きます。ポインタが矢印の円に変わります。ページを回転させたい方向にポインタをドラッグします。マウスボタンを離すと、ページが90で割り切れる回転の最も近い角度に「スナップ」されます。



ジョブのミラーリング

水平または垂直軸に沿ってジョブを反転させることができます。

ジョブのミラーリングを行うには

1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- 「レイアウト」タブで「レイアウトオプション」ペインを開きます。「ミラー」で、チェックボックスを選択します。
- ツールバーで、「ジョブの変換」を選択します。「左右に反転」や「上下に反転」をクリックします。
- プレビューウィンドウでは、ページを右クリックし、「回転」をポイントし、「左右に反転」または「上下に反転」をクリックします。



ジョブの拡大縮小

拡大縮小率を適用することにより、ジョブの出力サイズを大きくしたり、小さくすることができます。

ジョブの拡大縮小を自由に行うには

プレビューイメージをドラッグして、ジョブを拡張縮小することができます。

プレビューウィンドウで、ページの隅にあるハンドル上にポインタを置きます。ポインタが両方向矢印に変わります。イメージをドラッグし、ページの拡大縮小を行います。



デフォルトでは、ページは比率を保持します。高さを変更する場合、幅はそれに従い調整され、その逆も同様です。異なる倍率を適用し、幅と高さの拡大縮小を行うには、「比例的な拡大縮小」ボタンをクリックし、比例的な拡大縮小を無効にします。比例的な拡大縮小を無効にすると、ボタンの背景が灰色になります。

イメージをドラッグする際に <Shift> キーを押したままにするか、「比例的な拡大縮小」ボタンをクリックすることにより、比例的な拡大縮小を有効にできます。比例的な拡大縮小を行こうにすると、ボタンの背景が青色になります。

シートサイズに合わせてジョブを拡大縮小するには

次の設定を使用できます。

設定	説明
シートサイズに合わせて ます	ジョブの幅や高さが先に実現したメディアの印刷可能な幅や高さに調整されます。
幅に合わせる	ジョブの幅は、印刷メディアの印刷可能な幅に調整されます。つまり、この設定では印刷したときに、イメージの高さが切り取られることがあります。 この設定の効果を確認し、ページが選択された印刷メディアのサイズに適切に収まることを確認するためにプレビューを使用することができます。
高さに合わせる	ジョブの高さは、印刷メディアの印刷可能な高さに調整されます。つまり、この設定ではイメージの幅が切り取られることがあります。 この設定の効果を確認し、ページが選択された印刷メディアのサイズに適切に収まることを確認するためにプレビューを使用することができます。 この設定はロール紙には使用できません。

1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- 「レイアウト」タブで「レイアウトオプション」ペインを開きます。「ページを拡大縮小」で、項目を選択します。
- プレビューウィンドウで、ページを右クリックし、「拡大縮小」をポイントし、「画面に合わせる」をポイントし、項目をクリックします。
- 「編集」メニューで「拡大縮小」をポイントし、「画面に合わせる」をポイントし、項目をクリックします。

パーセンテージを入力することによりジョブの拡大縮小をするには

パーセンテージを入力することによりジョブの拡大縮小ができます。100%を超える値を入力すると、ページのサイズが大きくなります。100%未満の値を入力すると、ページのサイズが小さくなります。

1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- 「レイアウト」タブで「レイアウトオプション」ペインを開きます。「ページを拡大縮小」で、「ジョブをパーセンテージで拡大縮小する」を選択します。ボックスに、幅や高さを入力します。



デフォルトでは、ページは比率を保持します。高さを変更する場合、幅はそれに従い調整され、その逆も同様です。異なる倍率を適用し、幅と高さの拡大縮小を行うには、「比例的な拡大縮小」ボタンをクリックし、比例的な拡大縮小を無効にします。比例的な拡大縮小を無効にすると、ボタンの背景が灰色になります。

- ツールバーで、「ジョブの変換」(1) をクリックし、倍率による拡大縮小を有効にするために%ボタン (2) をクリックします。幅または高さを定義するために、適切なボックス (4) (5) に値を入力します。

ツールバー

- 「ジョブの変換」ボタン
- 「パーセンテージで拡大縮小する」ボタン
- 「比例的な拡大縮小」ボタン
- 幅と高さのボックスを編集します。



デフォルトでは、ページは比率を保持します。高さを変更する場合、幅はそれに従い調整され、その逆も同様です。異なる倍率を適用し、幅と高さの拡大縮小を行うには、「比例的な拡大縮小」ボタン (3) をクリックし、比例的な拡大縮小を無効にします。比例的な拡大縮小を無効にすると、ボタンの背景が灰色になります。

- プレビューウィンドウで、ページを右クリックし、「拡大縮小」をポイントし、「倍率による」をポイントし、項目をクリックします。
- 「編集」メニューで「拡大縮小」をポイントし、「倍率による」をポイントし、項目をクリックします。

ジョブを数値で拡大縮小するには

数値としてページの寸法を定義することによって、ジョブを拡大縮小することができます。

1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- 「レイアウト」タブで「レイアウトオプション」ペインを開きます。「ページを拡大縮小」で、「ジョブを数値で拡大縮小する」を選択します。ボックスに、幅や高さを入力します。



デフォルトでは、ページは比率を保持します。高さを変更する場合、幅はそれに従い調整され、その逆も同様です。異なる倍率を適用し、幅と高さの拡大縮小を行うには、「比例的な拡大縮小」ボタンをクリックし、比例的な拡大縮小を無効にします。比例的な拡大縮小を無効にすると、ボタンの背景が灰色になります。

- ツールバーで、「ジョブの変換」(1) をクリックし、倍率による拡大縮小を無効にするために%ボタン (2) をクリックします。倍率による拡大縮小を無効にすると、ボタンの背景が灰色になります幅または高さを定義するために、適切なボックス (4) に値を入力します。

ツールバー

- 1 「ジョブの変換」 ボタン
- 2 「倍率による拡大縮小」 ボタン
- 3 「比例的な拡大縮小」 ボタン
- 4 幅と高さのボックスを編集します。



デフォルトでは、ページは比率を保持します。高さを変更する場合、幅はそれに従い調整され、その逆も同様です。異なる倍率を適用し、幅と高さの拡大縮小を行うには、「比例的な拡大縮小」 ボタン (3) をクリックし、比例的な拡大縮小を無効にします。比例的な拡大縮小を無効にすると、ボタンの背景が灰色になります。

特大サイズののジョブを出力するには

デフォルトで、Fiery XF はオリジナルサイズでジョブを出力します。しかし、ジョブが印刷構成に完全に収まらない場合は、エラーメッセージが表示され、ジョブ処理が中断されます。Fiery XF に印刷メディアサイズを超えるジョブの印刷を指示することにより、特大印刷が可能です。この場合、イメージは印刷物でクリッピングされます。

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「レイアウト」 タブで、「レイアウトオプション」 ペインを開いて、「印刷可能範囲を超えるジョブの印刷」 チェックボックスを選択します。
- 2 ツールバーで、「印刷」 をクリックします。



クリッピングせずにジョブを出力するには、ジョブを拡大縮小するか、大規模な印刷メディアサイズに適したプリンタを設定することができます。

ジョブのクロップ

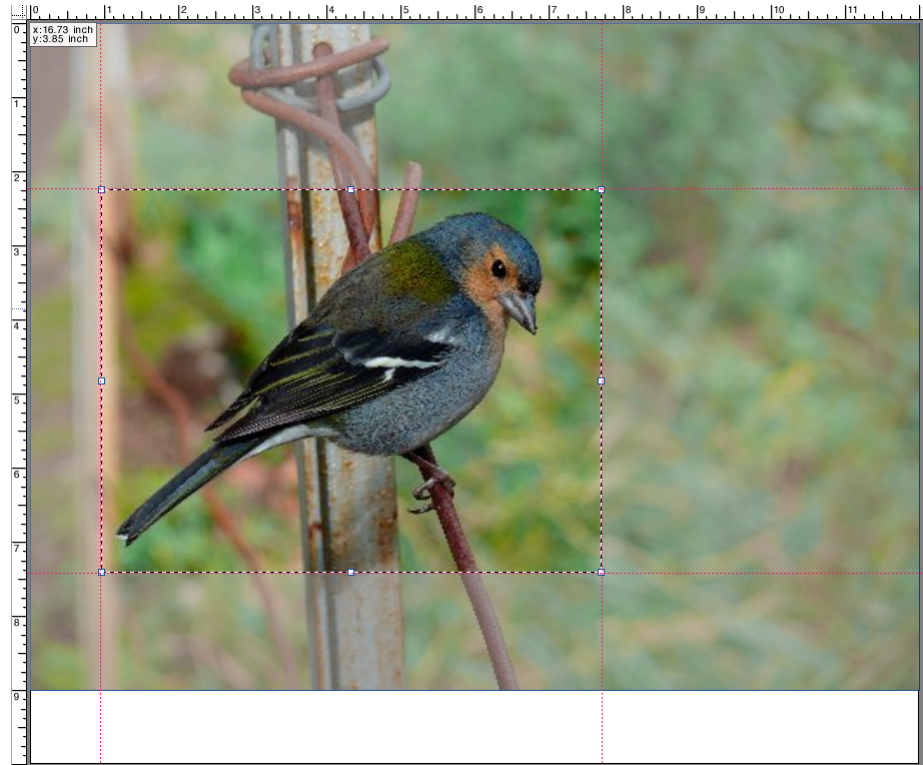
不要なバックグラウンドスペースを削除することで、イメージの焦点を広げることができます。

ジョブをクロップするには

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。
- 2 ツールバーで、「ジョブの変換」 ボタンの横にある下向き矢印をクリックし、「ジョブのクロップ」 をクリックします。



- 3 プレビューでは、クロップするページを選択するためにポインタをドラッグします。表示オプションを使って、正確に領域を指定することができます。

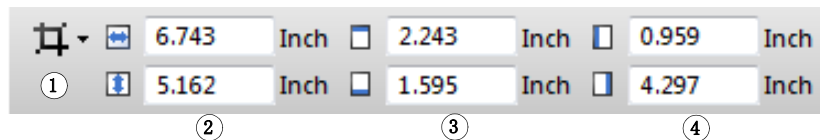


クロップする前に選択した領域を微調整することができます。

- クロップボックスの位置を変更するには、<Alt> キーを押したままにとクロップボックスの中心からポインタをドラッグします。
- クロップボックスのサイズを変更するには、次のいずれかの操作を行います：
 - クロップボックスの縁に沿ってハンドル上にポインタを置きます。ポインタが両方向矢印に変わります。次に、ポインタをドラッグします。
 - ツールバーで、適切なボックスに、新しい値を入力します。クロップ領域のサイズを変更できます。または、クロップ領域のイメージの端の間の余白幅を調整することもできます。

ツールバー

- 1 「ジョブのクロップ」ボタン
- 2 クロップ領域のイメージサイズ
- 3 上端 / 下端の余白幅
- 4 左 / 右余白幅



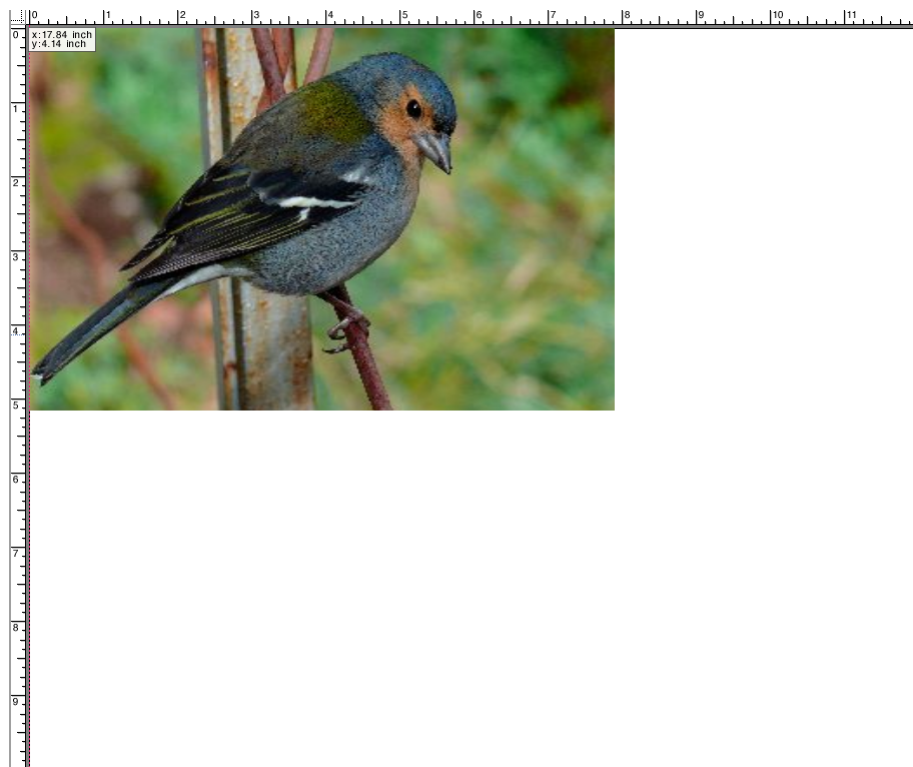


- 選択したクロップ領域をキャンセルするには、次のいずれかの手順を実行します。
 - <Esc> キーを押します。
 - ツールバーで、「リセット」をクリックします。
 - プレビューウィンドウ内の任意の場所を右クリックして、「クロップのキャンセル」をクリックします。

クロップボックスのサイズと位置の選択が終わったら、選択した領域をクロップするために次の作業を行います。

4 次のいずれかを行います。

- < Enter > キーを押します。
- マウスボタンをダブルクリックします。
- プレビューウィンドウ内の任意の場所を右クリックして、「クロップの適用」をクリックします。



トンボを使用する場合は、クロップ領域に合わせた新しいトンボが適用されます。

関連参照：

82 頁の「[ページの配置のための表示オプション](#)」

シート上のページの位置合わせ

シート上のページの位置や配置を直すことができます。

シート上のページの位置合わせをするには

1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- シート上のページの位置合わせ

「レイアウト」タブで「レイアウトオプション」ペインを開きます。「ページをシートに位置合わせする」で、ダイアグラム内のセルをクリックします。垂直方向と水平方向にページの位置合わせすることができます。この設定では、プリンタの余白も考慮されます。

垂直方向のページの位置合わせは、ロール紙ではできません。

- ジョブの余白を定義

「レイアウト」タブで「レイアウトオプション」ペインを開きます。「ジョブマージン」の適切なボックスに余白幅を入力します。この設定では、プリンタの余白も考慮されます。



適切なボタンをクリックし、上余白のみを定義することにより、すべての4つの辺に同じ余白を適用することができます。

ネスト済みページの余白を定義する場合は、プレビューを更新したときに、自動的に再位置合わせされないように、現在の位置でページをロックすることを忘れないでください。

- x/y 座標のタイプ

この設定は、シート上のページの左上隅の x/y 座標を定義します。ツールバーで、「ジョブの変換」をクリックし、該当するボックスに x/y 座標を入力します。

ツールバー

- 1 「ジョブの変換」ボタン
- 2 左余白
- 3 上余白



デフォルト設定では、プリンタの余白も考慮されます。上余白と左余白に「0」を入力することにより、Fiery XF にプリンタの余白を無視するように指示することができます。

シート上のページの位置を正確に配置するために、表示オプションを使うこともできます。

関連参照：

82 頁の「[ページの配置のための表示オプション](#)」

POSTSCRIPT と PDF ジョブ

PostScript および PDF のジョブに補足設定をすることができます。

プリントエンジン

Fiery XF は以下をサポートしています：

- Adobe PostScript 3 Engine (別名 Configurable PostScript Interpreter または CPSI)
 - CPSI は最大 127 まで分版されている PostScript レベル 3 ジョブや PDF ジョブを処理することができます。ジョブの処理中にジョブは PostScript 形式に変換されます。
 - CPSI はコンター裁断をサポートしています。
 - CPSI は PDF オブジェクトにタグ付けされるネイティブの ICC プロファイルや ICC プロファイルはサポートしていません。
- Adobe PDF Print Engine (別名 APPE)
 - APPE は PostScript 形式に変換しなくても最大 32 まで分版されている PDF ジョブを処理することができます。APPE が 32 以上に分版されている PDF ジョブを処理する場合、プリントエンジンは自動的に CPSI に切り替わります。処理することができる最大分版数は 127 です。
 - APPE がコンター裁断情報を持つ PDF ジョブを処理する場合、プリントエンジンは自動的に CPSI に切り替わります。
 - APPE は PDF オブジェクトにタグ付けされるネイティブの ICC プロファイルや ICC プロファイルをサポートしています。
 - APPE は CPSI より速く複合ジョブを処理できます。

使用している Adobe のプリントエンジンの数を増やすことによって、ジョブの処理をスピードアップすることができます。

別の PDF プリントエンジンに切り替えるには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。

2 「PDF プリントエンジン」で、項目をクリックします。

CPSI または APPE プリントエンジンを選択します。

3 変更を保存します。



別の IMAGE EPS/PDF プリントエンジンに切り替えるには

Image EPS/PDF プリントエンジンは、ジョブが EFI の内部モジュールまたは CPSI で出力されるかどうかを決定します。

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。

2 「Image EPS/PDF プリントエンジン」で、項目をクリックします。

- 「ネイティブ」をクリックして、PDF フレームに保存されている単一の EPS イメージを出力します。ESP イメージのみが出力され、周辺の PDF フレームは出力されません。イメージが RGB イメージの場合、選択されたソースプロファイルが適用されるため、この設定は、処理時間も早く、よりきれいに出力されます。この機能は、主に Photoshop から直接プリントするユーザーのために開発されました。
- PDF フレームのあるジョブの出力には「Adobe PostScript 3 Engine」をクリックします。ジョブが複数の EPS イメージを含む場合、この設定が自動的に適用されます。



3 変更を保存します。

関連参照：

370 頁の「[Adobe のプリントエンジン](#)」

EPS ジョブ検出

次の設定を EPS ジョブに適用することができます：

- すべての分版情報を受けるのに Fiery XF が待つ時間の長さを変更することができます。

デフォルトでは、分版ジョブを読み込む場合、Fiery XF はジョブが完了したと想定する前に 5 秒間待機します。しかし、大容量の分版 ESP ジョブでは、全ての色分解が 1 つのジョブとして処理可能となるまでにより長い時間が必要となる場合があります。逆に、EPS コンポジットファイルでは、待機時間を削減することにより、できるだけ早くジョブを出力することができます。

- ステップ&リピートジョブのイメージに現れる白い縁をなくすために、デフォルトの入力解像度を変更することができます。

Fiery XF が受信した PS ファイルや PDF ファイルの解像度を正しく抽出したり変換することが困難となる場合があります。丸め誤差エラーが起これば、これにより、イメージの右および下端に沿って白い縁が出力される原因となる可能性があります。ピクセルが失われる結果となります。この現象はステップ&リピートジョブでのみ生じるものです。空白が定義されていないにもかかわらず、細かい白線がイメージの間に見えることがあります。デフォルトの入力解像度を変更することによって、この問題を解決できます。

ジョブが完了するまでの待ち時間を変更するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。

2 「ジョブが完了するまでの待ち時間」で、Fiery XF がジョブごとに色分解情報を受信するのに待つ秒数を入力します。

3 変更を保存します。



デフォルトの入力解像度を変更するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。

2 「EPS ジョブ検出」で、新しい入力解像度を入力します。

1 ~ 720 dpi の値が可能です。イメージから入力解像度を選択することで、丸め誤差エラーを防ぐことができます。

3 変更を保存します。



In-RIP セパレーション

In-RIP セパレーションは、外部 DTP やグラフィックプログラムで定義され、単一のジョブファイルとして保存されたスポットカラーのことです。次のように In-RIP 情報を出力することができます：

- 分版ファイルとして In-RIP 情報を出力することができます。
- In-RIP 情報を出力デバイスのカラースペースに変換し、これをコンポジットジョブとして印刷することができます。

In-RIP セパレーションジョブのための設定を行うには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。

2 「PS / PDF」で、項目をクリックします。

設定	説明
有効	In-RIP セパレーション情報を持つ PDF のジョブは、分版ファイルとして印刷されます (C、M、Y、K とスポットカラー)。In-RIP 情報を持たないジョブは、コンポジットファイル (CMYK) として印刷されます。
無効	In-RIP 情報は無視されます。PDF ジョブはコンポジットファイル (CMYK) として印刷されます。事前に分版されているファイルは、In-RIP 情報が無くとも、常に分版ファイルとして印刷されます。
強制	<p>In-RIP 情報は、PostScript レベル 3 と PostScript レベル 2 のジョブと、Acrobat の古いバージョンで作成された PDF ファイルに適用されます。</p> <p>In-RIP セパレーションを含んだ PostScript ファイルには、通常、In-RIP 情報が確実に正確に解釈されるために特別の PostScript コマンドを必要とします。一方、全ての PostScript プリンタが in-RIP をサポートしているわけではありません。PostScript level 3 はサポートしていますが、PostScript level 2 はサポートしていません。</p> <p>In-RIP セパレーションを強制することにより、特別の PostScript コマンドが無い場合でも、当該ファイルを作成するのに使用した PostScript プリンタの種類に関わらず、グラフィックプログラムから In-RIP 情報を確実に処理することができます。</p> <p>In-RIP セパレーションの使用を強制しない場合、ジョブは次のよう出力されます：</p> <ul style="list-style-type: none"> • PostScript レベル 3 プリンタ用に作成された PostScript ジョブは、In-RIP セパレーションをサポートするプリンタで分版出力されます。プリンタが In-RIP セパレーションをサポートしていない場合、ジョブはコンポジット出力されます。 • スポットカラーのセパレーションが正しく解釈できないため、PostScript レベル 2 プリンタ用に作成された PostScript ジョブは、常にコンポジット出力されます。



3 変更を保存します。

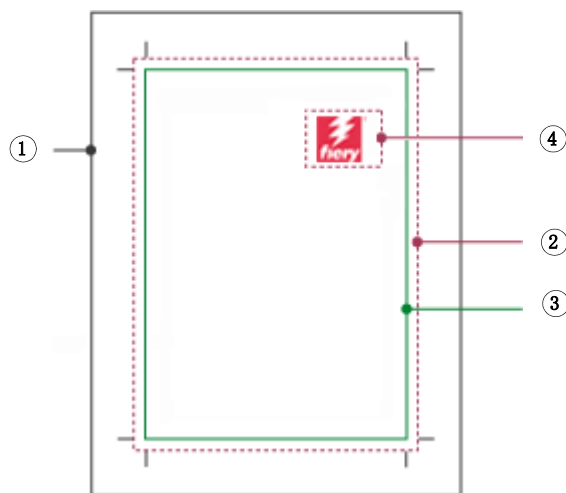
ページサイズの定義

- PDF ジョブ

PDF ジョブのページサイズは、メディアボックス、クロップボックス、ブリードボックス、アートボックス、またはトリムボックスで定義することができます。

PDF ファイル内のページボックス

- 1 メディアボックス
- 2 ブリードボックス
- 3 トリムボックス/クロップボックス
- 4 アートボックス



メディアボックス	ページの幅と高さを指定します。メディアボックスは、用紙の端からはみ出した要素（ブリードやクロップマーク等）を含めるために、実際に印刷されるページの寸法より若干大きめです。
ブリードボックス	プロダクション環境での出力時に、ページのコンテンツのどこまで切り取るべきかを定義します。
トリムボックス	トリム後の仕上がりページの寸法を定義します。これは、ページ順を編成する面付けアプリケーションで使用されます。
クロップボックス	表示または印刷時にページのコンテンツのどこまで切り取るべきかを定義します。
アートボックス	プロダクション環境での出力時に、ページのコンテンツのどこまで切り取るべきかを定義します。

- PostScript ジョブ

PostScript ジョブのページサイズは、境界線で定義されています。Fiery XF はこのページのサイズ情報を入手し、処理することができます。一方、ページサイズの定義は、一部グラフィックスプログラムから印刷する場合に生じる丸め誤差のため、必ずしも同一のものとはなりません。このような低精度は、印刷物のイメージをゆがませる可能性があります。これらジョブからのページサイズ情報を無視し、ジョブ処理中にページサイズを内部計算するよう Fiery XF に指示することができます。

サイズ定義を指定するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。

2 「サイズ定義」で、項目をクリックします。

- PDF ジョブでは、適切なページサイズの定義を選択します。
- PostScript ジョブでは、「ページサイズを計算する」を選択します。この場合、ページサイズはジョブ処理中に Fiery XF によって計算されます。ジョブから情報を引き出す場合よりも処理速度は遅いですが、印刷はより正確なものになります。

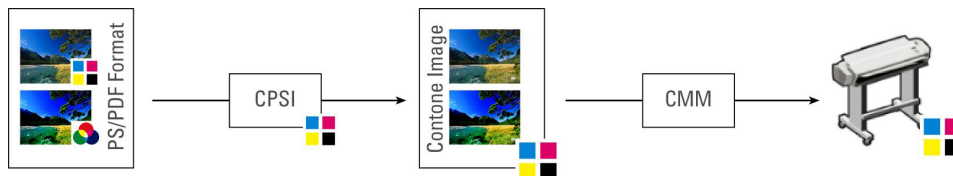


3 変更を保存します。

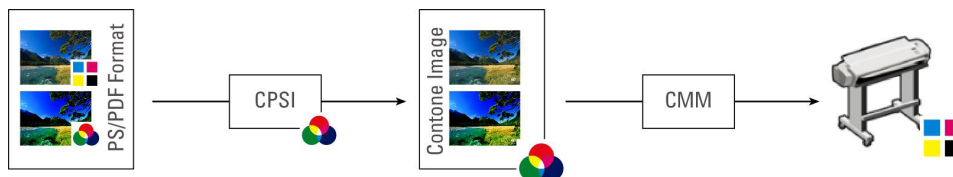
作業カラスペースを適用する

どのソースプロファイルを PDF ジョブに適用するかを決定することができます。主に RGB イメージを含む PDF ジョブでは、RGB ソース プロファイルを適用することにより、最高のカラー品質を確保します。

CMYK ワークフロー



RGB ワークフロー



作業カラースペースを適用するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。

2 「作業カラースペース」から、項目をクリックします。

次の点に注意してください：

- CMYK はブルーフィングワークフローで使用される必要があります。
- CMYK はコンター裁断情報を持つ PostScript ジョブで使用される必要があります。これは、RGB 作業カラースペースがすべてのスポット カラーをコンター裁断情報が抽出されるのを防ぐ RGB に変換されるためです。

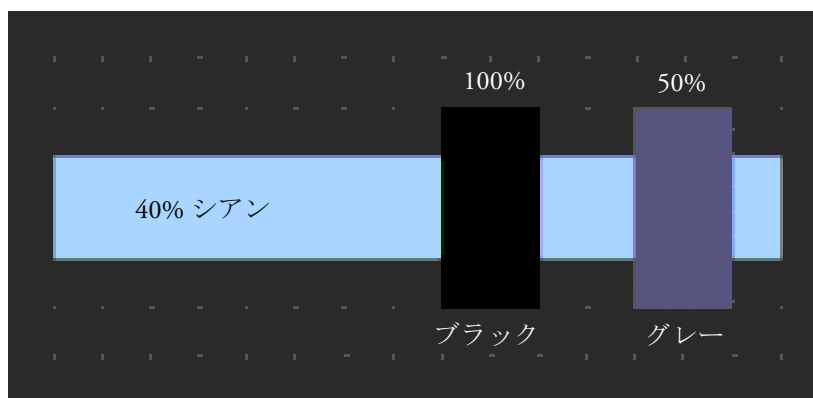


3 変更を保存します。

コンポジットジョブでのオーバープリント

あるインク層を別のインク層の上に意図的に印刷することをオーバープリントといいます。オーバープリントは、トラッピングの必要性を避けるためや、色の間にギャップができないように使われることがあります。

印刷機では、一度にインク一色のみが文書上に印字されます。つまり、各印刷版は一色のコンポーネントでのみ構成されています。色分版ファイルは、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックに加えて、ジョブに含まれる任意のスポット カラーで作成されます。



上記の例は、100%ブラックと50%グレーの2つの要素が40%シアンの他の形状と重なるときの何が起きるかを示したものです。

印刷されると、ブラックはシアンをオーバープリントします。これは、シアン要素が、100%ソリッドブラックインクを通しては見えないためです。シアンをロックアウトすると、印刷機の印刷ユニット間に若干であってもずれが存在する場合に2つの要素によって白いギャップが生まれます。

50%グレーの場合には、グレーが置かれるためにホワイトホール（またはロックアウト）がシアンに残る様になっています。ロックアウトがシアンプレート上で実行されていない場合は、グレーインクはシアンと混ざり、暗いシアンの領域を作り出します。

重複する色は互いにその上には印刷されないため、複合ジョブとして重複する色を印刷することはできません。しかし、Fiery XF で、コンポジットジョブでのオーバープリントの効果をシミュレートすることができます。

コンポジットジョブでオーバープリントをシミュレートするには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。

2 「コンポジットジョブでのオーバープリントをシミュレートする」を選択します。

この設定は、セパレート済みジョブには有効ではありません。



3 変更を保存します。

Spot Color オプションのライセンスがある場合、オーバープリントは、In-RIP セパレーションの設定に取り込まれます。従って、次の場合にのみコンポジットジョブでのオーバープリントをシミュレートすることをお勧めします：

- スポットカラーオプションのライセンスファイルがインストールされていない場合
- スポットカラーオプションのライセンスファイルはインストールされていますが、In-RIP セパレーションジョブは無効になっている場合

PDF ジョブに埋め込まれていないフォント

PDF ジョブに埋め込まれていないフォントが含まれている場合、デフォルトでは、無いフォントは単純にフォントクーリエで置換されます。しかし、無いフォントを検出した場合にジョブの処理を停止するよう Fiery XF に指示を出すこともできます。ジョブの処理を停止することにより、印刷を実行する前に、無いフォントを埋め込み、再度ジョブを読み込む機会が与えられます。

非埋め込みフォントのワークフローを設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- 2 「フォントがない場合、ジョブ処理を停止する」を選択します。
- 3 変更を保存します。



非埋め込みフォントを含む PDF または PostScript ジョブを読み込む場合は、無いフォントは「ファイル」タブの「警告 / エラー」ペインに一覧表示されます。

非埋め込みフォントのあるジョブを印刷するには

非埋め込みフォントが検出されたためにジョブが停止した場合は、ワークフロー設定を上書きして、ジョブの処理を続行することができます。ジョブの処理を続行すると、不足しているフォントは、Courier で置き換えられます。

- 1 ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- 2 「フォントがない場合、ジョブ処理を停止する」の選択を外します。
- 3 変更を保存します。



複数ページのジョブを単一ページとして読み込む

デフォルトでは、複数ページの PDF ファイルは、Fiery XF に単一ジョブとして読み込まれます。変更を加えると、ジョブの設定がすべてのページに適用されます。

ただし、希望する結果をいつも実現できるわけではありません。例えば、1 ページのある領域をクロッピングした場合、その設定はすべてのページに適用されません。また、クロップマークを異なるサイズのページが含まれている PDF に適用した場合、同様の問題が発生する可能性があります。それぞれのページを別々に読み込むことによりこの問題を解決できます。

複数ページのジョブを単一ページとして読み込むには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。
- 2 「複数ページの PDF ファイルを単独ページのジョブに分割」を選択します。
- 3 変更を保存します。



TIFF/IT と SCITEX のジョブ

TIFF/IT や Scitex CT/LW のジョブは、CT（画像データ）、LW（テキストデータ）ファイルと、場合により、最後のページで構成されています。

複数のファイルを同一ジョブの一部であるとしてすべて検出されるように、設定することができます。

TIFF / IT ファイルや SCITEX ファイルが正しく検出されるようにするには

- 1 **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「TIFF/IT, Scitex CT/LW」ペインを開きます。

- 2 「優先するファイル形式」から、項目を選択します。

TIFF/IT ファイルに優先度を与えると、ジョブの処理を開始する前に両方のファイルが検出されるまで Fiery XF は待ちます。

ファイルの 1 つだけで構成される CMYK TIFF ファイルに優先順位を与えると、ファイルが検出されると同時に Fiery XF はジョブの処理を開始します。

- 3 **ジョブの認識のための項目を選択します。**

多くのファイルは、最後のページで作成されます。最後のページは、CT ファイルと LW ファイルが同じジョブの一部であるとして検出されることを確実にします。

最終ページを使用できない場合、Fiery XF はファイルを名前によって照合しようとし、ファイル名の最後の文字が異なる場合、同じジョブに属するものとして検出されません。Fiery XF に適切な数の文字を無視するように指示し、両方のファイルが事実上同じ名前に短縮されるようにすることができます。

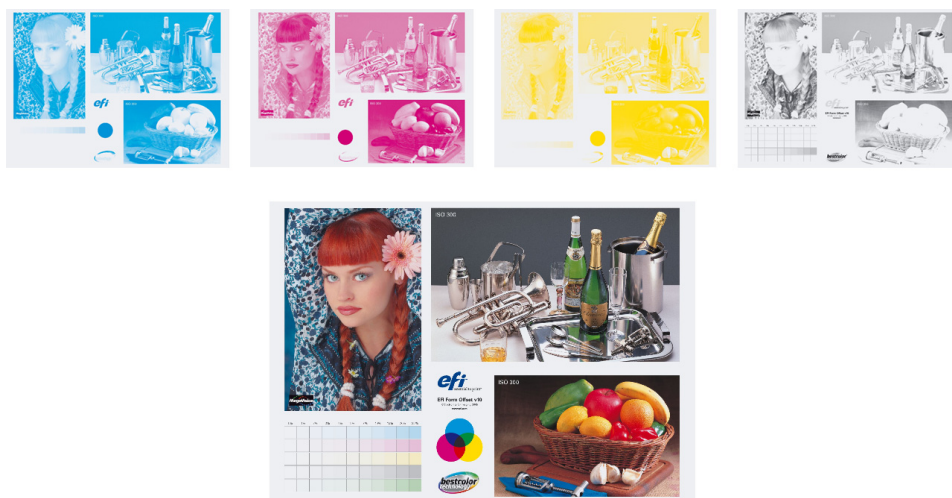
最後のページがなく、Fiery XF がその名前からファイルとジョブを合致することができない場合、ジョブを組み合わせることはできません。



- 4 **変更を保存します。**

分版ジョブ

オフセット印刷機でイメージを印刷するには、イメージを、少なくとも次の4つの基本的なインクに分離する必要があります：シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック。各単色層は他の層の上に別々に印刷され、異なる色が無数にあるかのような印象を作り出します。このプロセスは、プロセス色分解として知られています。



Fiery XF では、スポットカラーのあるジョブを含む CMYK ジョブ、RGB ジョブ、マルチカラーのジョブで分版出力できます。

分版ファイルを印刷するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「出力」タブで、「詳細印刷オプション」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブをクリックします。「出力」タブで、「詳細印刷オプション」ペインを開きます。

2 「分版ジョブ」で、項目を選択します。

- すべての分版ジョブを1つのコンポジットジョブに統合することができます。
- カラーに含まれるそれぞれの色分解を印刷することができます
- グレースケースに含まれるそれぞれの色分解を印刷することができます

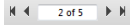
3 「カラーの反転」を選択します（オプション）。

この設定は色のネガを作成するのに使用されます。コンポジットジョブ又は分版ジョブ（カラーとグレースケール）の色を反転させることができます。



4 変更を保存します。

デフォルトでは、「印刷」をクリックするとすべての分解された色が印刷されます。ただし、印刷されるジョブから1つまたは複数の分離された色を省略することができます。



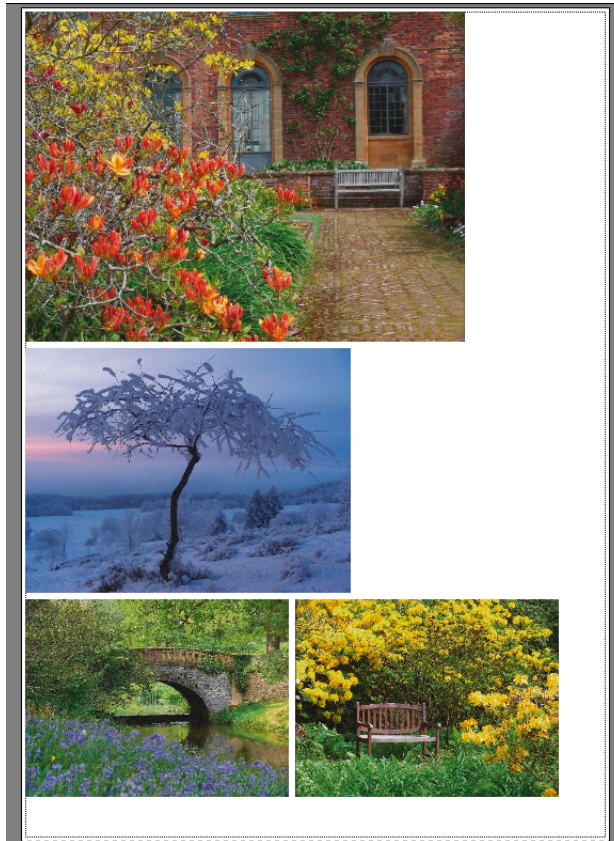
ツールバーのボタンを使って、プレビューで分解された色をスクロールすることができます。

関連参照：

286 頁の「ジョブからスポットカラーを対象外とする」

ネスティング

ネスティング機能は、複数のファイルを単一のジョブとしてまとめて出力します。



ネスティングを設定する

次のものを作成できます：

- ネスティングワークフロー

ネスティングワークフローでは、すべてのジョブがネスティングの一部として印刷されます。Fiery XF はワークフロー設定に従ってネスティングシートのページを配置します。定義された状態に達したときに、ジョブが処理されます。

- 手動ネスティング

手動で作成されたネスティングでは、どのジョブがネストされ、どのようにシート上に配置されるかに関して完全なコントロールを持っています。

ネスティングのワークフローを設定するには

ネスティングワークフローでは、次のいずれかの基準が満たされた場合に、ジョブの処理が自動的に開始されます：

- 指定された割合が埋められた
- 指定した行数に達した
- 最後にジョブが読み込まれてから定義された時間が経過した

この設定は、他の2つの設定を上書きします。つまり、シートやラインの最小パーセンテージが満たされていない場合でも、一定期間の後にネスティング処理が行われます。

- 1 **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「レイアウト」タブで「ネスティング」ペインを開きます。
- 2 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 3 「ネスティング」ペインで、設定を完了します。

設定を使って、次の項目を定義してください：

- ネスティングを作成するための基準
- ネスト済みページのレイアウト（拡大縮小、方向、回転、間隔）

- 4 **ワークフローを保存します。**

Fiery XF はすべてのジョブを現在のネスティングに自動的に追加し、これをワークフロー設定に従って出力します。

手動設定をするには

Fiery XF で既に読み込まれているジョブからネスティングを作成することができます。印刷部数を選択することにより、印刷されるジョブをネスティングすることができます。

「保留」ジョブとしてジョブを読み込むことで、ジョブリストにジョブが追加された時点で処理を開始しないようにすることをお勧めします。一方で、ホットフォルダを介して読み込まれたジョブ等、一部のジョブは「保留」ジョブとして読み込むことができません。この場合、ジョブの処理をキャンセルしたり、ワークフローエグジットでワークフローをオフラインにし、不必要にジョブが処理されないようにします。

- 1 **Job Explorer** を開きます。次のいずれかを行います。

- ジョブリスト内で、一つまたは複数のジョブを右クリックします。「新規ネスティング」をクリックします。
- ジョブリスト内で、一つまたは複数のジョブをクリックします。ツールバーの「ネスティングの作成」をクリックします。



「セレクト」で「すべてのジョブ」をクリックすることで、さまざまなワークフローで読み込まれているジョブからネスティングを作成することができます。異なるワークフローでジョブを選択する場合、どのワークフローでネスティングを作成するかを選択するためにダイアログボックスが表示されます。ワークフローを選択し、「選択」をクリックします。

ネスティングが作成されます。デフォルトでは、ネスト済みジョブは出力デバイス用に設定されている印刷メディア上に配置されます。必要に応じて、デフォルト設定を上書きした印刷メディアサイズを設定することができます。

関連参照：

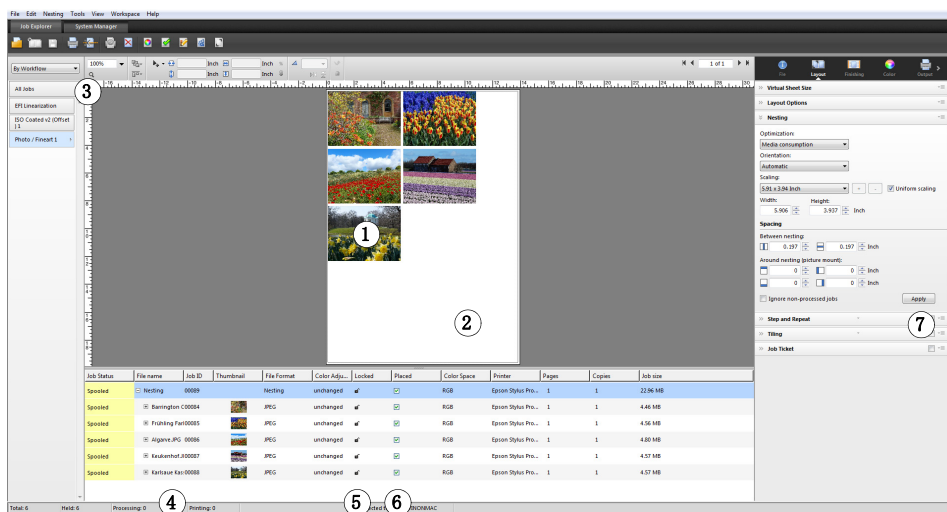
428 頁の「ネスティング (System Manager)」

430 頁の「ネスティング (Job Explorer)」

35 頁の「バーチャルシートサイズを設定するには」

192 頁の「印刷部数を定義するには」

ネスティング：ユーザーインターフェイス



凡例	説明
1	メディア上に配置されたジョブのイメージ。でサポートされているファイル形式すべてが配置可能です。
2	ネスティングシート。デフォルトでは、ネスト済みジョブはプリンタ用に設定されている印刷メディア上に配置されます。バーチャルシートサイズを選択することにより、デフォルトのシートサイズを上書きすることができます。バーチャルシートは、デフォルトのシートサイズよりも大きくしたり、小さくしたりすることができます。ネスティングシートが大きい場合は、タイリングとしてネスティングを出力することができます。
3	「すべてのジョブ」ボタンをクリックします。クリックすると読み込まれたジョブがすべて表示されます。これにより、異なるワークフローで読み込まれているジョブのネスティングを手動で作成することができます。
4	ジョブリストのツリー表示これは、ネスト済みページのネスティングを示しています。

凡例	説明
5	シート上の現在の位置でページをロックします。ページをロックまたはロック解除するには、南京錠のアイコンをクリックします。ロックしたページは編集できず、シート上での配置を変更することもできません。変更を加えるには、ページをロック解除する（南京錠を開く）必要があります。
6	配置済みおよび未配置のページを示しています。配置済みページはプレビューで表示され、印刷することができます。未配置のページは、プレビューで表示されず、印刷することはできません。ジョブを配置するまたは配置を解除するには、該当するチェックボックスをオンまたはオフにします。ネスティングシートに収まりきれない大きなジョブは縮小しないと配置できません。
7	[適用] ボタン。「ネスティング」ペインでの設定に応じてネストされたページを並べ替え、プレビューを更新するためにクリックします。

ネスト済みページを変更する

色調整、クロッピング、ミラーリング等、ジョブの設定をネスト済みページに適用することができます。

拡大縮小や回転等、ネスティング設定がジョブの設定を上書きすることに注意してください。そのため、例えば、ネスティングがページの統一した拡大縮小を設定する場合、異なる拡大縮小率を個々のジョブに適用することはできません。

上または左の余白を定義するか、座標を入力することによりページを配置することができます。シート上のページの位置を正確に配置するために、表示オプションやスナップ先機能を使うこともできます。

あなたの変更を加えた場合、プレビューを更新して、新しい設定に従ってページを並べ替えます。

プレビューを更新するには

- 1 ジョブリストでネスティングをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
 - 「レイアウト」タブで、「ネスティング」ペインを開いて、「適用」をクリックします。
 - 「ネスティング」メニューで、「適用」をクリックします。

ページが並び替えられました。

必要に応じて、現在の状態と位置でロックすることにより、プレビューを更新した際にページが並び替えられないようにすることができます。

関連参照：

82 頁の「ページの配置のための表示オプション」

91 頁の「ジョブの編集」

98 頁の「シート上のページの位置合わせ」

120 頁の「ページをロックするには」

ネスト済みページとシートの管理

新しいネスティングは、常に、ネスティングを作成したときに選択したページと 1 枚のシートで構成されています。このセクションでは、新しいページやシートの追加方法、不要になったページやシートの削除方法について説明します。

新しいページをネスティングするには

ネスティング設定がジョブの設定を上書きすることに注意してください。例えば、ページに均一の拡大縮小するようにネスティングを設定している場合は、ジョブの拡大縮小率はネスティングに追加されるときに自動的に変更されます。同様に、印刷メディアスペースを節約するために、ネスティングがページの回転を許可していれば、ジョブの回転が取り消される場合があります。

1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストで、ネスティングを右クリックし、「ジョブをネスティングに追加する」をクリックします。
- ジョブリストから、ジョブリストのネスティングにジョブをドラッグします。

ページがネスティングに配置されます。ネスティングシートに収まりきれない大きなページは、自動的に配置することはできません。この場合、拡大縮小率を下げます。その後、ジョブリストで、新しいジョブに対しては「配置済み」を選択し、プレビューを更新します。

ネスト済みページを削除するには

1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストでネスト済みページを右クリックし、「削除」をクリックします。
- ジョブリストで、ネスト済みページをクリックし、 キーを押します。
- プレビューで、ページを右クリックし、「削除」をクリックします。

ネスティングからページを削除するには

1 ジョブリストでネスト済みページを右クリックし、「ネスティング」から「削除」をクリックします。

ジョブは、ジョブのリストに残りますが、ネスティングの一部ではなくなりました。

ネスト済みページを複製するには

ネスト済みページのコピーを作成することができます。ページが既にネスティングの一部である必要があります。

1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストでジョブを右クリックします。「編集」メニューから「複製」を選択します。
- プレビューで、ジョブを右クリックし、「複製」をクリックします。
- プレビューで、ジョブを選択します。「編集」メニューから「複製」を選択します。

「複製イメージ」ダイアログボックスが表示されます。

2 作成したい複製の数を入力し、「イメージを複製」をクリックします！

複製されたページはネスティングに入れられますが、自動的に配置されません。

3 プレビューを更新します。

個々のジョブの設定を複製されたイメージごとに適用できます。ただし、オリジナルを削除した場合、すべての複製されたイメージも削除されます。

単純なステップ&リピートを作成するためにコピー&ペースト (Ctrl + C と Ctrl + V) を使用してジョブの複製を作成することもできます。その後、「適用」をクリックし、複製したページを用紙上に並び替えます。複製したページと同様に、オリジナルを削除した場合、コピーも削除されます。

複製したページを削除するには

1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストで、複製したページを右クリックし、「削除」をクリックします。
- プレビューで、複製したページを右クリックし、「複製の削除」をクリックします。

新規ネスティングシートを追加し、ページをこれに移動するには

新規ネスティングは、常に、1枚のシートで構成されます。シートに収まりきらないページ数をネスティングする場合、追加のシートが自動的に作成されます。

手動ネスティングでは、手動で新規シートを追加することができ、そこにページを移動します。ページが既にネスティングの一部である必要があります。ジョブを1つのネスティングから他のネスティングに移動することはできません。

ネスティングがロール紙で設定されている場合は、新しいシートを追加することはできません。

1 ジョブリストでネスティングをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

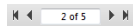
- プレビューウィンドウの空の領域を右クリックし、「新規シート」をクリックします。
- 「ネスティング」メニューで、「新規シート」をクリックします。
新規シートが追加されます。

3 新規シートに移動するネスト済みページを選択します。

ジョブリストまたはプレビューのページをクリックできます。

4 「編集」メニューから「切り取り」を選択します。

ページがクリップボードに追加されます。

5 新規シートを開きます。

ツールバーのボタンを使って、新規シートにスクロールすることができます。または、「ネスティング」メニューから「開く」をポイントし、シートをクリックします。

6 「編集」メニューから「貼り付け」を選択します。

ページがクリップボードから挿入されます。

7 新規シート上の必要な位置にページを移動します。**8 現在の位置でページをロックします。**

プレビューをアップデートするときに、シート上の固定位置にページをロックし、ページが並び替えられたり、別のシートに移動しないようにする必要があります。

ネスティングシートを削除するには**1 次のいずれかを行います。**

- 「ネスティング」メニューで、「シートを削除」をクリックします。
- プレビューウィンドウの空の領域を右クリックし、「シートを削除」をクリックします。

シートは削除されます。削除されたシートが複数枚のページを含んでいる場合、ページにはジョブリスト内に残りますが、配置されていません。「配置済み」を選択し、プレビューを更新することによって、ページを並べ替えることができます。

関連参照：

82 頁の「[ページの配置のための表示オプション](#)」

98 頁の「[シート上のページの位置合わせ](#)」

120 頁の「[ページをロックするには](#)」

ネスト済みページの位置を揃える

シート上で互いに相対ネストされたページを揃えることができます。また、重複ページのレイヤーの順序を指定することもできます。

ネスト済みページの位置を揃えて、均等にするには

1 ネスティング内の複数のページを選択します。次のいずれかを行います。

- ジョブリストで、<Ctrl> キーを押したままにし、必要なページを選択します。
- プレビューで、<Shift> キーを押したままにし、必要なページを選択します。
- プレビューで、ページを右クリックし、「」をポイントし、「すべて」をクリックします（ネスト内のすべてのページの位置を揃え、均等化するため）。

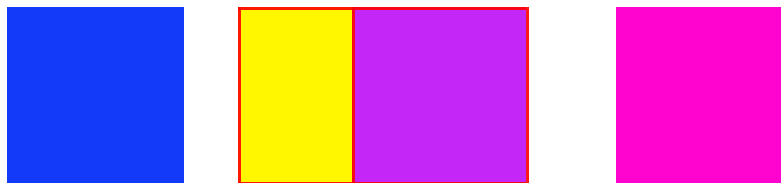
2 次のいずれかの方法により、選択したページの位置を揃えます：



- ツールバーで、「位置揃え」をクリックし、位置揃えの種類をクリックします。
- プレビュー内の任意の場所を右クリックして、位置揃えの種類をクリックします。
- 「編集」メニューで、「位置揃え」をポイントし、位置揃えの種類をクリックします。

シート上で互いに相対しているページを揃えることができます。エッジ（イメージの端）の上・下・左・右のいずれかを選択し、整列することができます。または、「垂直方向の中央」、「水平方向の中央」に配置することもできます。

上エッジで位置揃え



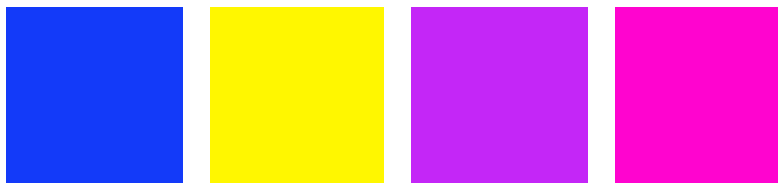
3 次のいずれかの方法により、位置を揃えられたページをシート上で均等に配置することができます：



- ツールバーで、「位置揃え」をクリックし、均等化の種類をクリックします。
- プレビュー内の任意の場所を右クリックして、均等化の種類をクリックします。
- 「編集」メニューで、「位置揃え」をポイントし、均等化の種類をクリックします。

シート上で互いに相対しているページを均等化することができます。イメージの端（上・下・左・右）または、垂直方向や水平方向の中央位置に従って、ページを均等化することができます。

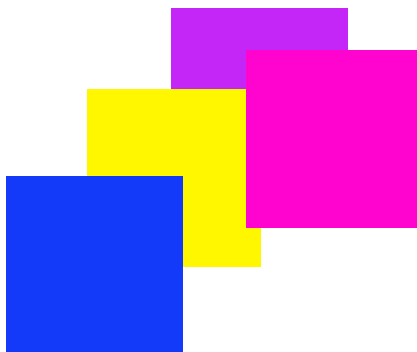
その後、水平に均等配置



ページが並び替えられました。

重複ページのレイヤーの順序を変更するには

重複ページをネストすることができます。プレビューを更新したときに並び替えられないよう、重複ページはシート上でロックされる必要があります。



1 プレビューでは、重複するページを選択します。

重複ページは赤い枠線で識別されます。

2 異なる層にページを上げたり下げたりします。次のいずれかを行います。

- ツールバーで、「順序」をクリックし、順序の種類をクリックします。
 - プレビュー内の任意の場所を右クリックして、順序の種類をクリックします。
 - 「編集」メニューで、「順序」をポイントし、順序の種類をクリックします。
- レイヤーの順序が変更されます。



関連参照：

120 頁の「[ページをロックするには](#)」

一般的なネスティング設定

ネスティングの名前を変更するには

新規ネスティングはデフォルト名がつけられて作成されます。デフォルトの名前を一意の名前で上書きすることができます。

1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストで「ネスティング」というファイル名を右クリックし、「名前の変更」をクリックします。
- ジョブリストで「ネスティング」というファイル名をクリックします。その後、再びマウスの左ボタンをクリックします。

編集可能なボックスにファイル名が変更されます。

2 新しい名前で「ネスティング」を上書きします。

ネスティング名を右クリックすると、コピー、ペースト、カット、および削除のコマンドが使えます。

3 変更を適用するには、ボックスの外側の任意の場所をクリックします。

フッターを追加するには

ネスティングのシートごと、ページごとにフッターを印刷することができます。フッターには次の情報を含めることができます：

- ジョブ関連の情報を含んだジョブチケット
- 色精度を検証するための1つまたは2つのコントロールストリップ

ネスティングフッター

- 1 ページフッター
- 2 シートのフッター



ネスト済みページの配置を変更するには

シートの端（左、右、上または下）でネスト済みページの位置を揃えることができます。底部の位置揃えは、ロール紙では利用できません。

ページをロックするには

現状のまま、シート上の現在の位置にページをロックすることができます。プレビューを更新したときにページが変更されたり、並び替えられないようにページをロックすることができます。

1 ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 「ロック済み」列で、南京錠アイコンをクリックします。

「ロック済み」列がジョブリストに表示されない場合は、任意の列見出しを右クリックし、「ロック済み」をクリックします。

関連参照：

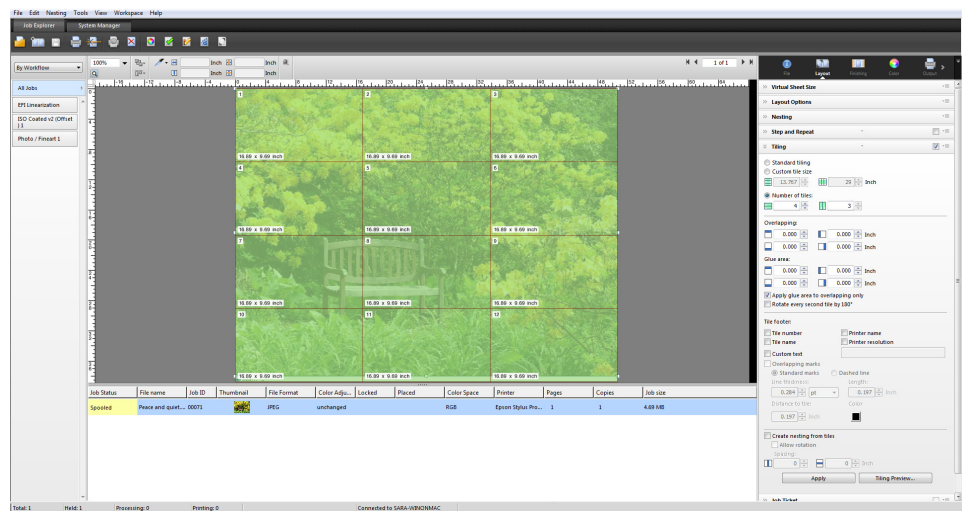
98 頁の「シート上のページの位置合わせ」

134 頁の「フッター」

タイリング

プロダクションオプションのライセンスをお持ちの場合は、お使いのプリンタの最大サイズを通常超えるイメージを印刷するタイリング機能を使うことができます。イメージはタイルとして印刷され、印刷後に、つなぎ合わせて、拡大サイズのポスターやバナーを作成することができます。

単一ジョブ、ネスティング、ステップ&リピートから、タイルを作成することができます。



タイリングのワークフローを設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「レイアウト」タブで「タイリング」を開きます。
- 2 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 3 「タイリング」ペインで、設定を完了します。
- 4 ワークフローを保存します。

ジョブを読み込む際、Fiery XF はワークフロー設定に従って自動的にタイリングを作成します。

手動タイリングを作成するには

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブをクリックします。「レイアウト」タブで「タイリング」を開きます。
- 2 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 3 「タイリング」ペインで、設定を完了します。
- 4 「適用」をクリックします。

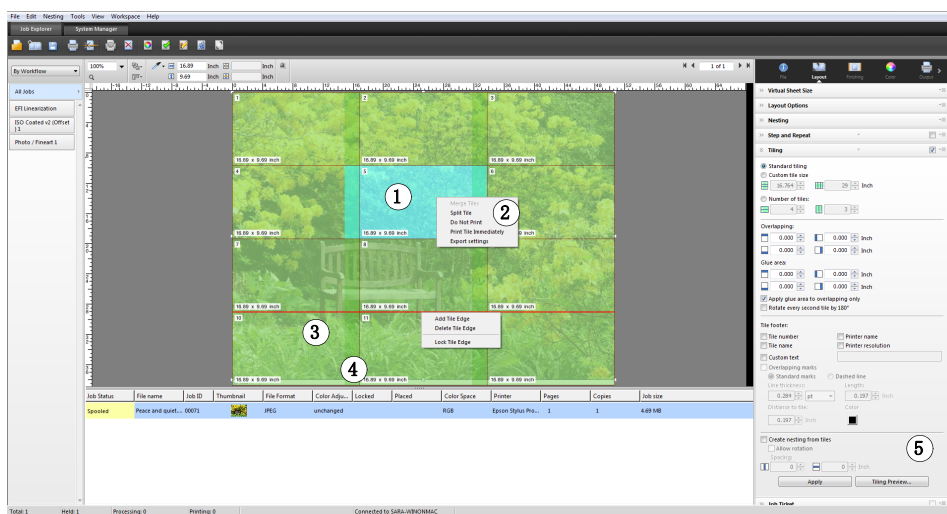
タイルが作成中です。標準タイリングを選択した場合、デフォルトのタイルサイズは出力デバイス用に設定した印刷メディアサイズに等しくなっています。

関連参照：

436 頁の「タイリング (System Manager)」

438 頁の「タイリング (Job Explorer)」

タイリング：ユーザインターフェイス



凡例	説明
1	選択したタイルが、明るい青で表示されます。
2	個々のタイルを印刷するか、ジョブから外すことができます。
3	選択したタイルエッジが赤で表示されます。このツールでタイルのエッジを固定できます。固定したエッジは、灰色で表示されます。
4	タイルの印刷時、重複（のりしろ）部分の幅を指定できます。
5	[適用] ボタン。「タイリング」ペインで行った設定に従ってタイルを作成したり、プレビューを更新するためにクリックします。

タイリングの変更

オリジナルのジョブに変更を加えるには

タイルが組み合わせられた状態でページのレイアウトオプション（スケーリング、方向、回転、位置揃え）を変更することはできません。レイアウトオプションを変更するには、ペインバーにあるチェックボックスをオフにして、まず、タイリングを無効にする必要があります。変更後、ペインバーのチェックボックスを再度選択します。その後、タイリングを更新するために「適用」をクリックします。

タイリングを更新するたびに、デフォルトの設定が適用されます。従って、カスタムタイルを作成した場合は、ジョブを変更する前に、プリセットとして設定を保存することをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。タイリングを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

行と列のサイズを変更するには

人の顔の中心でタイルが分割されるような目障りな組合せを避けるためにタイルの行と列のサイズを変えることができます。



1行または列のサイズを変更すると、近隣する行または列がそれに合わせて拡大または縮小します。選択した印刷メディアのサイズを超えるタイルを作成することはできません。

1 次のいずれかを行います。

- タイルの端上でマウスボタンを押したままにします。タイルの端をあつらしい位置までドラッグし、マウスボタンを放します。端をの x/y 座標をもつと簡単に指定できるように、プレビューウィンドウには現在のポインタ位置が表示されています。
- タイルの端をクリックします。ツールバーで、適切なボックスにタイルの端の x/y 座標を入力します。
- タイルをクリックします。ツールバーで、適切なボックスに新しい幅や高さを入力します。



個々のタイルのサイズを変更するには

人の顔の中心でタイルが分割されるような目障りな組合せを避けるために個々のタイルのサイズを変えることができます。



1 次のいずれかを行います：

- <Alt> キーとマウスボタンをタイルの端で押したままにします。タイルの端をあつらしい位置までドラッグし、マウスボタンを放します。端をの x/y 座標をもつと簡単に指定できるように、プレビューウィンドウには現在のポインタ位置が表示されています。
- <Alt> キーを押したまま、タイルの端をクリックします。<Alt> キーを放します。ツールバーで、適切なボックスにタイルの端の x/y 座標を入力します。



一般的なタイリング設定

現在の位置でタイルの端をロックするには

イメージ内の固定位置でタイルの端をロックすることができます。タイルの端をロックすることで、目障りな場所で組み合わせられるのを防ぐことができます。

1 次のいずれかを行います。



- タイルの端をクリックします。ツールバーで、南京錠ボタンをクリックします。
- タイルの端を右クリックし、「タイルエッジのロック」をクリックします。

複数のタイルを選択するには

1 次のいずれかを行います。

- 隣接しないタイルを選択するには、<Ctrl> キーを押したままにと、それぞれのタイルをクリックします。
- 隣接するタイルを選択するには、<Shift> キーを押したままに、選択したい最初のタイルをクリックします。次に、選択したい最後のタイルをクリックします。その間にある行上のすべてのタイルも選択されます。

タイルをマージするには

1 2つ以上の隣接するタイルを選択します。

2 選択したタイルを右クリックして、「タイルをマージ」をクリックします。

タイルがマージされます。ただし、マージ後の新しいタイルサイズが選択したメディアサイズを越える場合には、マージができません。

タイルを複数のタイルに分割するには

1 タイルを右クリックして、「タイルを分割」をクリックします。

「タイルを分割」ダイアログボックスが表示されます。

2 水平方向および垂直方向のタイルの数を入力し、「OK」をクリックします。

タイルは定義された数の小さなタイルに分割されます。最小のタイルサイズは1平方インチです。

タイルを非表示にするには

プレビューでタイルを非表示にすることができます。タイルを非表示とすることで、より明確にイメージを表示することができます。

1 次のいずれかを行います。

- 「表示」メニューで、「表示オプション」をポイントして、「タイル」をクリックします。

タイル分割されたページを表示するには、このコマンドを再度クリックします。



- ツールバーで、「ジョブの変換」を選択します。

組み合わされたタイルイメージを表示するには、ツールバーで「タイルジョブ」をクリックします。

タイル設定をエクスポートするには

各タイルの幅、高さ、x/y 座標と、重複情報を Excel 形式の仕様シートとして保存できます。この仕様シートは、作業を行うインストールスタッフが印刷されたタイルをつなぎ合わせるのに便利です。

1 タイルを右クリックし、「設定のエクスポート」をクリックします。

タイルの設定は、「作業」フォルダ内の Excel ファイルとして保存されます。

タイルとタイリングを印刷するには

1 次のいずれかを行います。

- タイリングファイルを印刷するには、通常の印刷コマンドを使用します。
- 個々のタイルを印刷するには、タイルを右クリックして、「タイルを今すぐ印刷」をクリックします。
- 印刷ジョブから個々のタイルを削除するには、タイルを右クリックし、「印刷しない」をクリックします。

WYSIWYG のタイトルのプレビューを表示するには

1 つまたはすべての WYSIWYG のタイトルのプレビューを表示することができます。

1 「タイリング」 ペインから、「タイリングガイド」 をクリックします。

「タイリングプレビュー」 ウィンドウが表示されます。



「タイリングプレビュー」 ウィンドウには、2 つのタブがあります。1 つまたはすべてのタイトルを同時にプレビューすることができます。タイトルは、タイトル番号順に重ねて表示されます。周囲のタイトルのタイトル番号も表示されます。

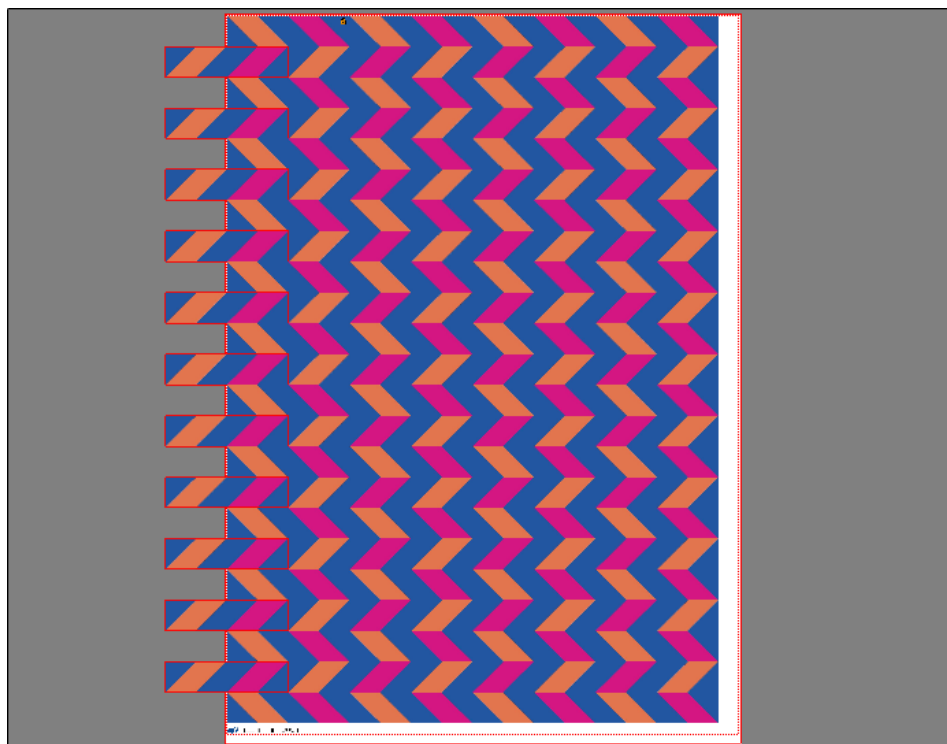
タイトルは、「タイリングプレビュー」 ウィンドウで編集することはできません。しかし、Job Explorer でタイトルのサイズを変更すると、「タイリングプレビュー」 ウィンドウにすぐに変更が適用されます。

次の操作を行うために、ウィンドウの下部にあるツールを使用できます。

- 別のタイトルをプレビューするためにタイトルをスクロールする。
- 複数ページのジョブのページをスクロールする。
- プレビューページを拡大縮小する。拡大縮小率を入力または選択する。ドロップダウンリストボックスは、5%から 4000%の拡大縮小率があります。
- PDF ファイルとしてプレビューを保存し、印刷後にタイトルをつなぎ合わせるためのガイドとして使用します。ドロップダウンリストボックスから、1 つまたはすべてのタイトルを保存するかどうかを選択し、「保存」 をクリックします。

ステップ & リピート

ジョブの複数のコピーを複製するために、ステップ&リピート機能を利用することができます。利用可能な設定は、様々な面白い壁紙のパターンを可能にします。



単一または複数ページのジョブからステップ&リピートを作成することができます。ジョブに複数のページがある場合は、各ページがステップ&リピートの1ページを構成します。設定は、全ページに同じように適用されます。これにより、ステップ&リピートジョブを両面印刷で出力することができます。

デフォルトでは、出力デバイス用に選択されている印刷メディアのサイズに基づいてステップ&リピートは作成されます。必要に応じて、デフォルト設定を上書きした印刷メディアサイズを設定することができます。

ステップ&リピートのワークフローを設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「レイアウト」タブで、「ステップ&リピート」ペインを開きます。
- 2 ペイン内の「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「ステップ&リピート」 ペインで設定を完了します。

4 ワークフローを保存します。

ジョブを読み込む際、Fiery XF はワークフロー設定に従って自動的にネステップ & リピートを作成します。

ステップ&リピートを作成するには

ステップ&リピートを作成する前に、拡大縮小、回転、色調整等のジョブ設定を適用することをお勧めします。

1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「レイアウト」タブで、「ステップ&リピート」ペインを開きます。

2 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「ステップ&リピート」ペインで設定を完了します。

4 「適用」をクリックします。

ステップ&リピートが作成されます。

ステップ&リピート生成後、元のジョブの右上隅にある南京錠アイコンは、ジョブを変更することはできないことを示しています。ジョブの設定を適用するには、すべてのコピーをまず削除する必要があります。

関連参照：

432 頁の「ステップ&リピート (System Manager)」

434 頁の「ステップ&リピート (Job Explorer)」

35 頁の「バーチャルシートサイズを設定するには」

91 頁の「ジョブの編集」

129 頁の「ステップ&リピートの変更」

ステップ&リピートの変更

ステップ&リピート生成後、元のジョブの右上隅にある南京錠アイコンは、ジョブを変更することはできないことを示しています。色調整、クロッピング、ミラーリングジョブ等の設定をステップ&リピートジョブに適用するには、「ステップ&リピート」ペインバーにあるチェックボックスをオフにし、まずすべてのコピーを削除する必要があります。変更後、ペインバーのチェック ボックスを再度選択します。次に、ステップアンドリピートを更新するために「適用」をクリックします。

上または左の余白を定義するか、座標を入力することによりページを配置することができます。シート上のページの位置を正確に配置するために、表示オプションやスナップ先機能を使うこともできます。

異なるタイプのステップ&リピート設定で作業することが多い場合は、その設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。一度ステップ&リピートを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

関連参照：

82 頁の「ページの配置のための表示オプション」

98 頁の「シート上のページの位置合わせ」

ステップ&リピートの名前の変更

ステップ&リピートの新規作成にはデフォルト名がつけられます。デフォルトの名前を一意的な名前の上書きすることができます。

ステップ&リピートの名前を変更するには

1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストで「StepAndRepeat」というファイル名を右クリックし、「名前の変更」をクリックします。
- ジョブリストで「StepAndRepeat」というファイル名をクリックします。その後、再びマウスの左ボタンをクリックします。

編集ボックスにファイル名が変更されます。

2 新しい名前です「StepAndRepeat」を上書きします。

ステップ&リピート名を右クリックすると、コピー、ペースト、カット、および削除のコマンドが使えます。

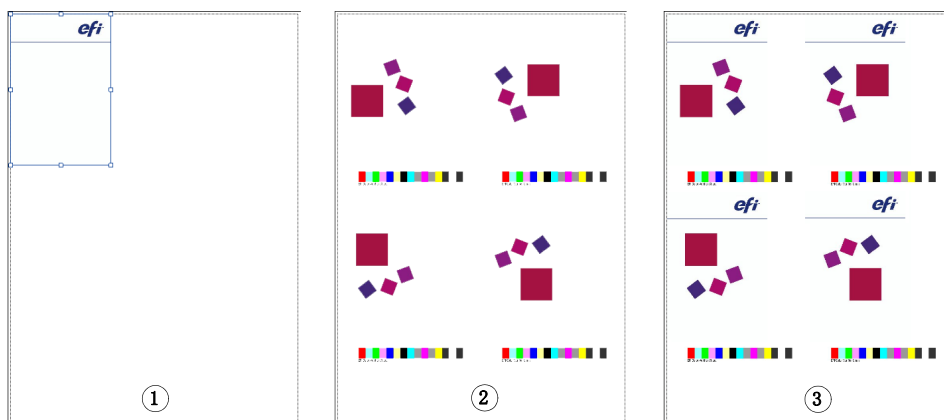
3 変更を適用するには、ボックスの外側の任意の場所をクリックします。

ジョブの統合

ジョブの統合機能を使って、1つのジョブの上に別のジョブを重ねていくことができます。マスタージョブは、コンテンツ・ジョブの背景イメージを形成します。

ジョブの統合

- 1 マスタージョブ
- 2 マルチページの内容ファイル（ネスティングとして Fiery XF にインポート）
- 3 統合済みファイル



任意の2つのジョブを統合することができます。唯一の前提条件は次のとおりです。

- 「マスタ」ファイルと「コンテンツ」ファイルは同じ用紙サイズでなければなりません。プラスマイナス 0.1 インチのサイズの違いは許容範囲内です。
- 「コンテンツ」ジョブの背景色は、100% 透明でなければなりません。
- 「マスタ」ファイルと「コンテンツ」ジョブの拡張子は同じでなければなりません。

「コンテンツ」ジョブが複数ページの文書である場合は、「マスター」ジョブは「コンテンツ」ファイルのすべてのページに背景として適用されます。

ページレイアウトの設定（回転、拡大縮小など）やクロップマークがコンテンツジョブに適用されている場合は、設定も統合されたジョブに適用されます。しかし、カラーマネージメント設定は転送されません。

自動的なジョブの統合のワークフローを設定するには

- 1 System Manager に移動します。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- 2 「ファイル」タブで「ジョブの統合」ペインを開きます。
- 3 ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

4 該当するボックスに、マスター（背景）とコンテンツのジョブのファイル名を入力します。

ファイル名には、マスタとコンテンツの両方のジョブに共通するキーワードを含める必要があります。

以下の表は、ジョブの統合ジョブ名のいくつかの例を示しています。

マスタとコンテンツのジョブのファイル名	共通のキーワード	次によって識別されるマスタファイル:	次によって識別されるコンテンツファイル:
2013_Master_Customer.pdf 2013_Content_Customer.pdf EFI_Master.pdf EFI_Content.pdf	2013, カスタマ EFI	マスター	コンテンツ
2013_EFI.pdf 2013_Exhibition.pdf EFI_January_2013.pdf Exhibition_January_2013.pdf	2013 January_2013	EFI	エキシビション



5 変更を保存します。

マスタ ??ーとコンテンツのジョブを読み込むとき、Fiery XF はこれらを自動的に統合します。コンテンツ・ジョブはマスタ・ジョブの上に重ねられます。マスタ・ジョブは、ジョブリストから消えます。

マスターとコンテンツのジョブを一緒に読み込む必要があります。最初にマスター。ジョブとコンテンツ・ジョブを読み込む場合、ジョブを統合することはできません。

ジョブを手動で統合するには

手動で統合されたジョブは、特定の命名規則に従う必要はありません。

- 1 Job Explorer に移動します。ジョブリストで「マスター」（背景用）ジョブとなるジョブをクリックします。
- 2 「ファイル」タブで「ジョブの統合」ペインを開きます。
- 3 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 4 「マスター・ジョブ」を選択します。
- 5 変更を保存します。
- 6 ジョブリストでマスター・ジョブの上に重ねられるジョブをクリックします。
- 7 「ファイル」タブで「ジョブの統合」ペインを開きます。



- 8 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 9 「コンテンツ・ジョブ」を選択します。
- 10 ドロップダウンリストボックスから、背景として使用するマスター・ジョブを選択します。
- 11 **変更を保存します。**



コンテンツ・ジョブは定義されたマスター・ジョブの上に重ねられた状態で表示されます。

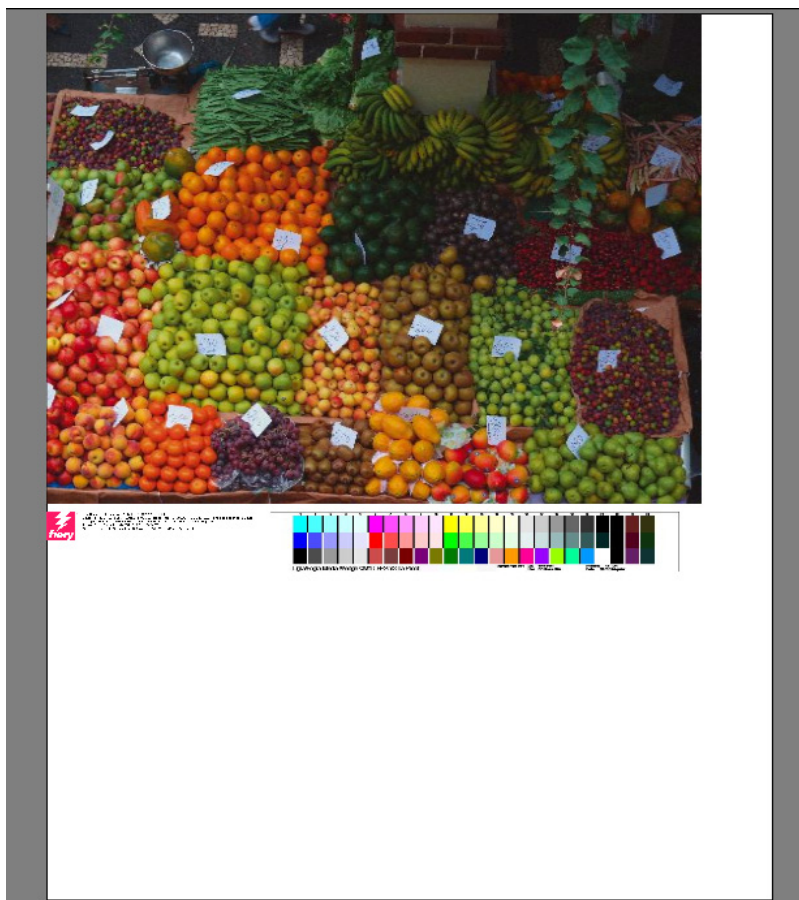
自動的にジョブを統合した場合と異なり、マスター・ジョブは統合後もジョブリストに残ります。マスター・ジョブを Job Explorer に読み込む限り、これを別のコンテンツ・ジョブに適用することができます。

フッター

各ページまたはシートの下部にフッターを印刷することができます。

フッターには次の情報を含めることができます：

- ジョブ関連の情報を含んだジョブチケット。ジョブチケットは特定の印刷結果を達成するためにどのような設定が適用されたかを伝えます。
- 最大2つのコントロールストリップまたは印刷構成 ウェッジ。コントロールストリップとメディアウェッジを使用してプルーフィングジョブの色濃度を確認することができます。



デフォルトでは、ジョブチケットはフッターの左側に印刷され、1つまたは2つのコントロールストリップがそのすぐ隣に印刷されます。ジョブチケットとコントロールストリップは、すべてのネスト済みジョブや十分な幅のないシートで自動的に別の行に配置されます。

ジョブチケット

ジョブチケットはイメージと最大4行のテキストで構成されます。

ジョブチケットを作成するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。
ネスティングのためのジョブチケットを作成するには、ネスト済みのページではなく、ネスティングジョブをクリックします。

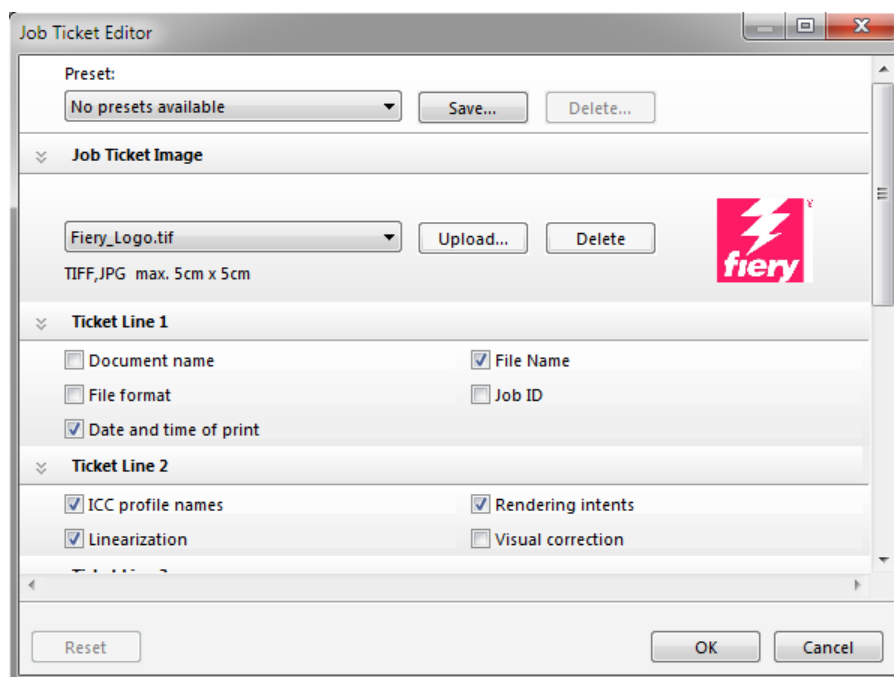
2 「レイアウト」タブで「ジョブチケット」ペインを開きます。

3 ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

4 「ページのジョブチケット」または「ネスティングのジョブチケット」を選択します。

- 単一ジョブでは、「ページのジョブチケット」を選択します。
- ネスティングでは、ネスティング全体に対する1つのジョブチケットを作成するために「ネスティングのジョブチケット」を選択します。「ページのジョブチケット」を選択し、ネスティングの各ページのジョブチケットを作成します。ネスティングは両方のジョブチケットのタイプを持つことができます。

5 「編集」をクリックして、デフォルトのジョブチケットの設定を確認または編集します。



ジョブチケットの設定がペイン上に配置されます。ペインバーの任意の場所をクリックすることによって、各ペインの設定を展開したり折りたたんだりすることができます。

デフォルトでは、ジョブチケットには、Fiery のロゴが含まれています。「アップロード」をクリックし、画像ファイルを参照することにより、独自の画像ファイルで Fiery のロゴを外すことができます。JPEG または TIFF 形式で任意の画像ファイルをアップロードすることができます。または、まったく画像を含めたくない場合は、「なし」を選択します。

画像の最大許容サイズは、最大 5 x 5cm です。このサイズを超えるファイルをアップロードする場合、幅と高さが均等に縮小されたサイズで出力されます。5 x 5 cm 以下のファイルの場合は、そのままの大きさを出力されます。カラーマネジメントが有効になっており、画像は常に出力される色が管理されます。

1 ? 6 行目の内容を指定するには、適切なチェックボックスを選択します。6 行目は、カスタムテキストになっています。

異なるタイプのジョブチケットで作業することが多い場合は、その設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。一度ジョブチケットを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

6 「OK」をクリックします。

コントロールストリップとメディアウェッジ

コントロールストリップと印刷構成のウェッジは、カラーパッチの行で構成されています。分光光度計 (色測定デバイス) とカラーチェッカープログラム (Verifier 等) を使って、カラーパッチを測定し、印刷物間のカラー一貫性を検証することができます。

Verifier オプションのライセンスをお持ちの場合、ISO 12647-7 対応を検証するために、リファレンス (例えば、FOGRA MK 11) に対して、印刷物の色を測定することができます。

次から選択できます：

- Fiery XF に同梱されているコントロールストリップまたはメディアウェッジ。
- 独自のコントロールストリップ。コントロールストリップファイルは、ControlStrip フォルダに保存する必要があります。Fiery XF は分版ジョブファイルを除き、すべてのサポートされているファイルを処理できます。サイズ制限はありません。
- ダイナミックウェッジ。ダイナミックウェッジは、ジョブの最も顕著な色で構成されています。従って、各ダイナミックウェッジは、ジョブに固有なものとなります。

コントロールストリップまたはメディアウェッジを選択するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

ネスティングのコントロールストリップを選択するには、ネスト済みページではなく、ネスティングジョブをクリックします。

2 「検証」タブで、「コントロールストリップ」ペインを開きます。

3 コントロールストリップまたはメディアウェッジを選択します。

お使いの測定デバイスと互換性のあるコントロールストリップを選択していることを確認してください。

4 カラーマネジメントをコントロールストリップに適用します (オプション)。

カラーマネジメントが適用される場合、カラーパッチは、選択されたリファレンスプロファイルの色域に圧縮されます。「カラーマネジメントを適用して印刷」を選択し、印刷メディアプロファイルの精度を確認します。

カラーマネジメントが適用されない場合、プリンタの全色域を使用してコントロールストリップが印刷されます。「カラーマネジメントを適用して印刷」のチェックボックスを外し、2機のプリンタの色精度を確認します。

5 ネスティングシートのコントロールストリップを選択します (オプション)。

デフォルトでは、コントロールストリップが、ページごとに印刷されます。

ネスティングでは、各ページのコントロールストリップを印刷したり、ネスティング全体に対して1回だけ印刷することができます。2つのコントロールストリップを選択することで、ネスト済みページとネスティングシートに1つずつコントロールストリップを選択することができます。

ネスティングフッター

- 1 ページフッター
- 2 シートのフッター



ダイナミックウェッジは、ページに対してのみ生成することができます。

6 コントロールストリップ 2 に関する上記の手順を繰り返します (オプション)。

測定デバイスが組み込まれた一部のプリンタには、ジョブあたり 1 つのコントロールストリップのみ測定可能なものもあります。

7 変更を保存します。

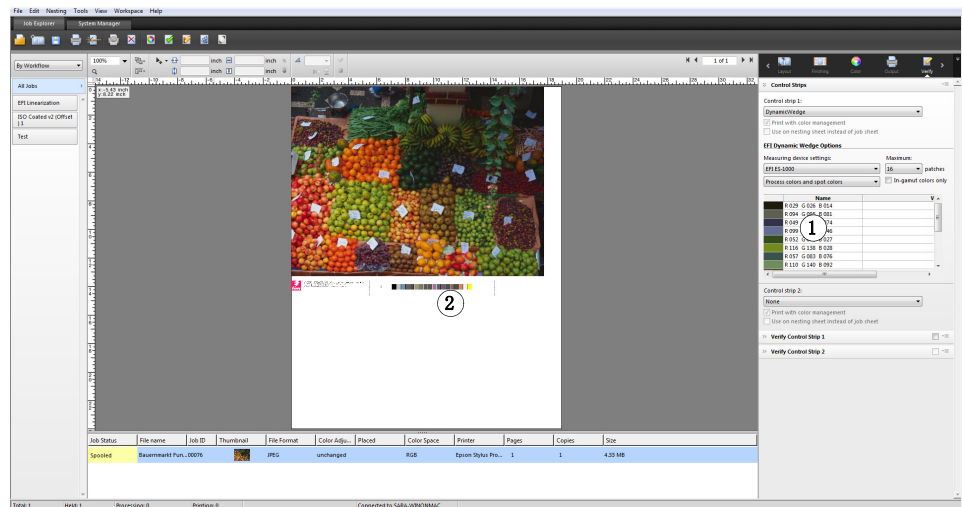


ダイナミックウェッジを選択するには

ダイナミックウェッジは、ジョブの最も顕著な色で構成されています。例えば、ジョブが主に青色の影で構成されている場合、ダイナミックウェッジには高い割合の青色パッチが含まれます。コントロールストリップの他のタイプと同様に、ダイナミックウェッジを用いて色精度を検証することができます。

ダイナミックウェッジ

- 1 ジョブから抽出されたダイナミックカラー
- 2 プレビューウィンドウの一般的なメディアウェッジ



1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 「検証」タブで、「コントロールストリップ」ペインを開きます。

ダイナミックウェッジはコントロールストリップ 1 でのみ利用可能です。

3 「DynamicWedge」を選択します。

ダイナミックウェッジは常にページ用に作成されます。ネ스팅では、シートのダイナミックウェッジを作成することはできません。

4 ダイナミックウェッジの測定に使用する測定デバイスを選択します。

5 ダイナミックウェッジに使用するカラーパッチの数を選択します。

16、32、または 64 色から選択できます。選択されたパッチ数よりも少ないパッチを使用することにより、すべてのジョブの主要色を再現することができる場合、少ないパッチが印刷されます。

6 プロセカラー (CMYK)、スポット カラー、またはその両方からなるダイナミックウェッジを作成するかどうかを選択します。

ダイナミックウェッジは、L*a*b* のスポット カラーのグラデーションも表示することができます。L*a*b* スポット カラーのグラデーションを定義するには、スポット カラーオプションのライセンスが必要です。

7 「ガモット内カラーのみ」を選択します (オプション)。

この設定は、色域外の色をプリンタの色域の外縁にマッピングします。これにより、ダイナミックウェッジはプリンタの色域内の色のみで構成され、従って、プリンタにより現実的に再現できるようになります。

メディアプロファイルがどの程度プリンタの色域を再現することができるかを確認するには、この設定を選択します。印刷物の色がオリジナルジョブと一貫しているかを測定するには、この設定をオフにします。

Job Explorer で、「コントロールストリップ」ペインでこの設定の効果を確認することができます。警告メッセージは、プリンタの色域内にはない色の横に表示されます。「ガモット内カラーのみ」を選択すると、プリンタの色域内にある色で新しいダイナミックウェッジが作成されます。



8 変更を保存します。

プレビューの設定がオフになっていても、ジョブのプレビューは、常に、ダイナミックウェッジにより作成されます。プレビューには一般的な用紙ウェッジが表示されます。ジョブから抽出された色は、印刷物と、「コントロールストリップ」ペインの Job Explorer で表示されます。

関連参照：

316 頁の「[Fiery XF でのワークフローの検証](#)」

フッターのレイアウト

次のようにフッターのレイアウトを変更することができます：

- ジョブチケットとコントロールストリップを別の行に配置することができます。
- フッターやページの水平および垂直方向の端間の距離を変更することができます。
- ジョブチケットの幅と高さを変更することができます。
- ジョブチケットのフォントサイズを変更することができます。
- シートに合わせてフッターを再調整することができます。

ジョブチケットとコントロールストリップを別の行に配置するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。
ネスティングでは、ジョブチケットとコントロールストリップは、各ページの下に、別の行に自動的に配置されます。

2 「レイアウト」タブで「ジョブチケット」ペインを開きます。

3 「ページのジョブチケット」または「ネスティングのジョブチケット」タブで、「ページサイズを超えるべきではありません」をクリックします。



4 変更を保存します。

ネスティングでは、プレビューを更新する必要があるかもしれません。

フッターとページ間の距離を変更するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 「レイアウト」タブで「ジョブチケット」ペインを開きます。

3 フッターとページ間の水平方向または垂直方向の距離を入力します。

垂直方向の設定は、ページの下端とフッターの間の距離を変更します。水平方向の設定は、ページの左端に合わせてフッターをインデントします。ネスト済みページのページフッターは、インデントすることができません。



4 変更を保存します。

ネスティングでは、プレビューを更新する必要があるかもしれません。

ジョブチケットの幅と高さを変更するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 「レイアウト」タブで「ジョブチケット」ペインを開きます。

3 ジョブチケットの最大幅を入力します。

ジョブチケットのデフォルトの幅は、ページ幅から選択したコントロールストリップ幅を引いた値です。

4 ジョブチケットの最大高さを入力します。

ジョブチケット情報が 5cm 未満で表示することができる場合は、チケット高さを低くして、ジョブチケットとその下にあるコントロールストリップの間の不要な空白を防ぐことができます。

デフォルトの高さは、5センチメートルです。ジョブチケットの高さが定義された値を超えた場合は、チケットが切り取られて印刷されます。

5 フォントサイズを入力します。

フォントサイズを 6 ～ 72pt の範囲で指定できます。

**6 変更を保存します。**

ネスティングでは、プレビューを更新する必要があるかもしれません。

シートに合わせてフッターを再調整するには

ページの位置合わせを変更しても、フッターの配置は自動的に変更されません。例えば、ページが中央に配置された場合でも、フッターはシートに左揃えのままです。

ページとフッターの両方に配置設定を適用することができます。この場合、ページとフッターは 1 つのグループとして配置が変更されます。

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 「レイアウト」タブで「レイアウトオプション」ペインを開きます。**3 「フッターを整列します」をクリックします。**

ネスティングでは、この設定はネスト済みページのフッターではなく、ネスティングフッターに適用されます。

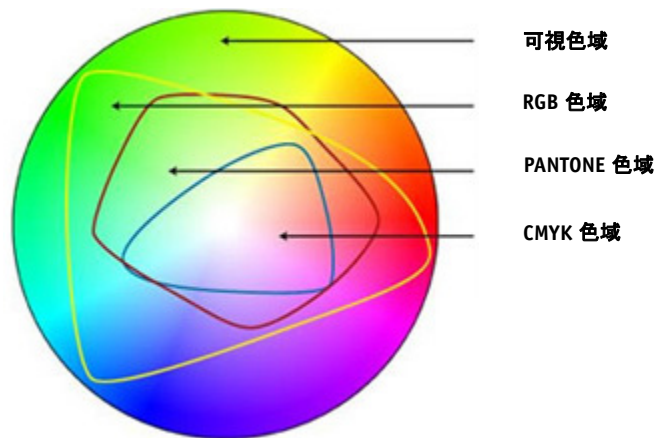
**4 変更を保存します。**

ネスティングでは、プレビューを更新する必要があるかもしれません。

プロフィールとレンダリングIntentの選択

カラーマネージメントの主な目的は、カラーデバイスの中から優れた組合せを得ることです。これは様々なデバイスで様々なカラースペースを使い色を表現しようとするときには決して簡単なことではありません。最も広く使われているカラースペースは、RGB（デジタルカメラ、モニタ、スキャナ用）とCMYK（インクジェットプリンタとオフセット印刷機用）です。

各カラースペースは、色域として知られている、色の異なる範囲を再現することができます。RGB カラースペースの色域は、CMYK の色域よりも大幅に広がっています。これに加え、すべてのデバイスが正確にカラースペースで定義されている色全域を再現できるわけではありません。デバイス間で出せる色には大きく異なり、同機種種の2機のプリンタでさえ、出力した色は若干異なっています。



この問題を解決するために、ICC (International Color Consortium) は、色再現をデバイス間で統一できるようにカラーマネージメントシステムの認識標準を制定しました。同標準は、ジョブの作成から出力までの色の再現を管理するための一連のプロファイルに基づいています。Fiery XF は次の項目を用いて色精度を実現しています：

- メディアプロファイル
- ソースプロファイル
- リファレンスプロファイル（シミュレーションプロファイル）
- レンダリングIntent
- モニタのプロファイル

メディアプロファイル

メディアプロファイルは、印刷メディアごとのプリンタの色再現プロパティを説明しています。色再現プロパティは、印刷メディアタイプ、インクの種類、印刷条件の組み合わせによって定義されます。

印刷メディアプロファイルを選択するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「メディア」タブで「印刷構成」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「出力」タブで「印刷設定」ペインを開きます。

2 インクの種類 プリンタに装着されているインクのタイプを選択します。

3 使用する印刷メディアの名前を選択します。

4 キャリブレーション設定を選択します。

キャリブレーション設定とは、印刷メディアプロファイルに結合されているベースリニアリゼーションファイルのことです。ベースリニアリゼーションファイルは印刷条件の設定を定義し、プリンタの動作が確実にメディアに最適なように調整されます。複数のキャリブレーション設定が可能な場合は、「カタログ」をクリックして各キャリブレーション設定が作成された印刷条件を表示します。

例えば、カタログを表示し、スクリーニングファイルを確認したり、ベースリニアリゼーションファイルの作成で使用されているハーフトーニング方法を確認することができます。v1 スクリーニングは「スクリーニング」ハーフトーニング方法を使用しています。v2 スクリーニングは「誤差拡散 (SE1)」ハーフトーニング方法または「確率的 (SE2)」スクリーニング方法を使用しています。

ベースリニアリゼーションファイルを作成し、既存の印刷メディアプロファイルに結合して、新しいキャリブレーション設定を作成することができます。

また、印刷メディアプロファイルに結合されていないベースリニアリゼーションファイルを選択することも可能です。メディアプロファイルに結合されていないベースリニアリゼーションファイルを選択すると、カラーマネージメントを適用せずに印刷することができます。これにより、プリンタの色再現プロパティを確認することができます。ベースリニアリゼーションファイル作成後は、これを EFI Media Profiles フォルダの適切なサブフォルダにコピーします。



5 変更を保存します。

関連参照：

157 頁の「[ベースリニアリゼーションファイルを作成または編集する](#)」

167 頁の「[プロファイルコネクタ](#)」

360 頁の「[Fiery XF でのスクリーニングの方法](#)」

ソースプロファイルとシミュレーション（リファレンス）プロファイル

ソースプロファイルは、当該ジョブのカラープロパティを説明します。カラー特性は、グラフィックスプログラム、または入力デバイスによって定義されます。ソースプロファイルは、従来型プリンタで出力した場合のカラー出力がどのようなものになるかを高い精度で予測することができます。RGB ソースプロファイルを使用することにより、鮮明な品質の高いカラー出力を得ることができます。RGB ソースプロファイルは、より大きな色の範囲を適用してジョブを処理します。

シミュレーション（リファレンス）プロファイルは、インクジェットプリンターで印刷機をシミュレートして印刷する場合の、シミュレート対象の印刷機のカラープロパティを説明しています。一般的な一連のプロファイルは Fiery XF にあります。

独自のカラーマネージメント設定をしたくない場合は、プリセットを選択することができます。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを選択することができます。プルーフィング、プロダクション、写真、ビジネスグラフィック、グレースケールへの変換のためのカラーマネージメントプリセットは Fiery XF にあります。ここには、標準的なワークフローのためにあらかじめ選択されたソースプロファイルとシミュレーションプロファイルが含まれています。

ソースプロファイルとシミュレーション（リファレンス）プロファイルを選択するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。

2 「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。

3 ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

4 「ソースプロファイル」で、CMYK ジョブのプロファイル、RGB ジョブのプロファイル、グレースケールジョブのプロファイルを選択します。

一般的に使用されるソースプロファイルは、各カラースペースであらかじめ選択されています。デフォルトのプロファイルを使用することも、ジョブにより適したソースプロファイルを選択することもできます。

Fiery XF にあるソースプロファイル、または入力デバイスにあるソースプロファイルを選択することもできます。カスタムソースプロファイルはリファレンスフォルダにコピーする必要があります。リファレンスフォルダにあるプロファイルだけ、Fiery XF で選択できます。

Fiery XF にはマルチカラーソースプロファイルはありませんが、ソースプロファイルの使用を強制することにより、5色、6色、7色のカスタムマルチカラープロファイルを実行することができます。

Fiery XF は読み込まれた各ジョブを分析し、自動的に正しいカラースペースのソースプロファイルを適用します。ジョブのカラースペースに対してソースプロファイルが選択されない場合は、エラーメッセージが表示されます。

5 「埋め込みプロファイルを使用 (使用可能な場合)」を選択します (オプション)。

この設定は、埋め込みソースプロファイルを持つ JPEG、TIFF、および PSD ジョブに適用されます。埋め込みソースプロファイルは、このペインで選択されているソースプロファイルを上書きします。埋め込まれたソースプロファイルを適用することにより、ジョブ処理中に入力デバイスのカラープロパティが必ず考慮されるようになります。

6 「シミュレーションプロファイル」で、シミュレーションプロファイルを選択します。

Fiery XF にあるシミュレーションプロファイルを読み込むことも、たとえば印刷業者から提供されたシミュレーションプロファイルを読み込むこともできます。

EFI は、追加的にカスタマイズされたプロファイルが多数用意しています。これらは、リファレンス追加フォルダのサブフォルダ内にあります。これらプロファイルまたはカスタムのシミュレーションプロファイルを使うには、リファレンスフォルダにコピーします。リファレンスフォルダにあるプロファイルだけ、Fiery XF で選択できます。

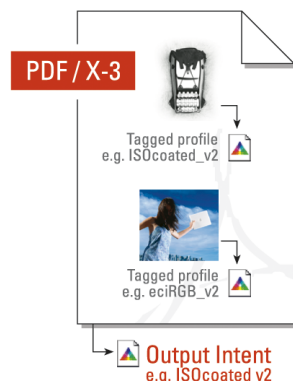
「メディアプロファイルを利用します」を選択することもできます。この場合、選択した印刷メディアプロファイルがシミュレーションプロファイルとして適用されます。これにより、出力デバイス、インク、印刷構成の組み合わせで得られる最大の可能扱いカラー範囲を利用できるようになります。

この設定は、異なるカラースペース (RGB, CMYK, Gray 等) におけるエレメントの組み合わせを含む PDF ジョブに適用でき、非常に便利です。シミュレーションプロファイルの代わりに印刷構成プロファイルを適用すると、RGB イメージの色再現が大幅に改善します。これは、印刷メディアプロファイルがより大きなカラースペースを持っているためです。ですから、RGB イメージはより細部まで色を再現し、印刷時にはより再度の高いカラーを再現します。

PDF 以外のジョブの場合、ジョブは直接直接印刷メディアプロファイルのカラースペースに変換されます。

7 「シミュレーションプロファイル」で、「PDF 出力インテントを使用 (使用可能な場合)」を選択します (オプション)。

この設定は、埋め込み出力インテントを持つ PDF / X ジョブに適用されます。埋め込み出力インテントは、このペインで選択されているソースプロファイルを上書きします。この設定は、選択された作業カラースペースを考慮します。



8 次のいずれかを行います。

- 「ソースプロファイル」で、CMYK ジョブのレンダリングインテント、RGB ジョブのレンダリングインテント、グレースケールジョブのレンダリングインテントを選択します。テーブルはジョブのタイプに最も適したレンダリングインテントを表示します。

レンダリングインテント	次のものを印刷するのに適しています
絶対カラーメトリック（用紙白計算）	用紙の白色部分シミュレーションのあるプローフ
知覚	写真
彩度	明るい、彩度高いビジネスグラフィック
知覚 - 絶対	大きなソースカラースペース（RGB）から、より小さなカラースペース（CMYK）へ変換する必要がある写真
相対カラーメトリック（用紙白無視）	用紙の白色部分シミュレーションのないプローフ
黒色点の補正による相対カラーメトリック	用紙の白色部分シミュレーションのあるまたはないプローフ
黒色点の補正による絶対カラーメトリック	黒色点の補正は、カラーメトリックレンダリングインテント上で実行可能です。これはイメージの暗いまたは陰の部分の詳細を維持するのに役立ちます。

- 「ダイナミックレンダリングIntentを利用します」を選択します" (オプション)。

この設定では、ジョブの色を分析し、それらが選択された出力デバイスで正確に再現できるかを判断します。この分析に基づいて、ジョブに最も適したレンダリングIntentが適用されます。

ジョブ分析の結果	適用されたレンダリングIntent	説明
すべてのカラーは出力デバイスの再現可能なガモットの範囲内にあります	相対カラーメトリック	このレンダリング・Intentは、ジョブのカラーを正確に再現し、ガモットの圧縮は不必要です。
一部のカラーが出力デバイスの再現可能なガモットの範囲外にあります	知覚	レンダリングIntentはジョブのカラーを圧縮し、すべてのカラーがガモットをクリッピングすることなく印刷可能です。

シミュレーションプロフィールは、ソースプロフィールに優先します。シミュレーションプロフィールが選択されている場合、シミュレーションプロフィールのダイナミックレンダリングIntentが適用されます。シミュレーションプロフィールが選択されていない場合、適切なソースプロフィールのレンダリングIntentが適用されます。



9 変更を保存します。

異なるプロフィールとレンダリングIntentを用いた作業を頻繁に行う場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。カラーマネジメントを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

関連参照：

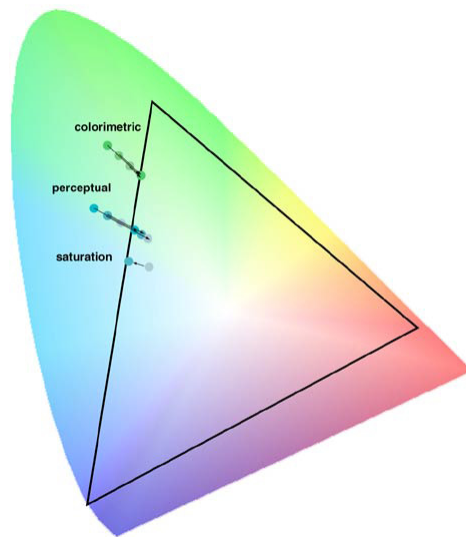
- 104 頁の「作業カラースペースを適用する」
- 148 頁の「レンダリングIntent」
- 288 頁の「ソースプロフィールの使用を強制する」
- 380 頁の「プログラムの構造」

レンダリングインテント

レンダリングインテントは、扱外カラー範囲外にあるカラーをどのように調整し、扱外カラー範囲内に納まるようにするかを説明しています。

ソースカラー空間の色域がプリンタの出力先のカラー空間の色域を超えることがよくあります。このとき、色の彩度がクリッピングされる傾向にあります（不正確に表現される）。このため、鮮やかな彩度の高いカラーで表現されるデジタルフォトをデジタルカメラやコンピュータモニタの RGB カラー空間で見ると、CMYK プリンタのより小さなカラー空間で印刷した場合と比較して、よりカラーがあせた感じで見えるのです。

イラストは、レンダリングインテントが扱外範囲外のカラーを利用可能なカラー空間で表現するとどのように異なって見えるかを示しています。



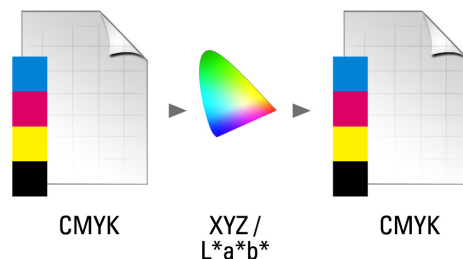
Fiery XF は以下のレンダリングインテントを使用しています。

レンダリングインテント	説明
絶対カラーメトリック (用紙の白色部分)	<p>このレンダリングインテントは、変換先の色域を変えていないため、色精度を維持しています。ただし、ターゲットカラースペースの色の範囲がソースカラースペースの色の範囲よりも小さい場合、ソースカラースペースの二つの異なるカラーがターゲットカラースペース内の同じカラーにマッピングされる可能性もあります。</p> <p>このレンダリングインテントは、リファレンスメディアのカラーもシミュレートします。たとえば、シミュレーション (リファレンス) プロファイル「ISOnewspaper26v4_gr.icc」をレンダリングインテント「絶対カラーメトリック (用紙の白色部分)」と共に選択すると、イメージがグレーの背景に印刷され、新聞用紙の色がシミュレートされます。</p>
知覚	<p>このレンダリングインテントは、すべてのカラーを圧縮し、これらを拡大縮小することによりターゲットカラースペースの色域に入れることで、人間の目で自然に見えるようにカラーの関係を保持します。すべてのカラーが影響を受けるため、通常、変換先のカラースペースの色域内にあり、通常その色を正確に再現できるカラーさえも圧縮されます。</p>
彩度	<p>「彩度」では、カラーの出力の正確さよりも、鮮明なカラーの保持が重要となります。元の色域が変換先の色域に拡大縮小されます。ただし、色相ではなく相対的な彩度が保持されます。つまり、変換先のカラースペースが元のカラースペースよりも小さい場合、色相がシフトすることがあります。</p>
知覚 - 絶対	<p>このレンダリングインテントは EFI によって開発されました。これは、シャドウ領域のイメージ定義に関するレンダリングインテント「知覚」の利点と、レンダリングインテント「絶対カラーメトリック」の色の精度および用紙白シミュレーションを組み合わせています。</p> <p>このレンダリングインテントでは、イメージデータが暗い部分の詳細を保持します。つまり、それは、影の部分でも色の濃淡がきちんと表現されることを意味します。</p>

レンダリングインテント	説明
相対カラーメトリック（用紙白無視）	「相対カラーメトリック」は、ソースカラー空間の白色点とターゲットカラー空間の白色点を比較し、すべてのカラーを調整します。変換先のカラー空間の色域内にある色は、すべて正確に再現されます。変換先のカラー空間の色域外にある色は、再現可能な、最も近い色に置き換えられます。
黒色点の補正による相対カラーメトリック 黒色点の補正による絶対カラーメトリック	元のカラー空間の黒色点に変換先のカラー空間と大きく異なる場合に、このチェックボックスを選択します。 黒色点の補正では、ソースカラー空間のダイナミックな色の範囲がターゲットカラー空間のダイナミックな色の範囲にマッピングされます。元の色の黒色点の方が暗い場合は、変換中にコントラストが失われます。 黒色点の補正機能を使用すると、グレーのシャドウが現れることがあります。ただしこの機能は、ソースカラー空間の暗い黒色点に適用すると良い結果が得られることがあります。 ソースカラー空間の最も暗い黒色点に変換先のカラー空間の黒色点よりも暗い場合、黒色点補正を適用すると、より詳細なシャドウを表示することができ、色の範囲のクリッピングを避けることができます。ただし、黒色点の違いをシャドウ部分の詳細表示で校正すると、ターゲットカラー空間のシャドウエリアから離れてしまうため、印刷結果は視覚的にはより良く見えますが、測定したカラー値は期待通りのものでないことがあります。

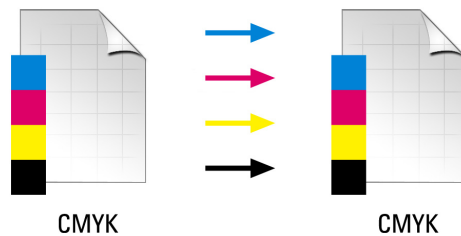
デバイスリンクプロファイル

通常のワークフローでは、入力デバイスのカラー空間は、デバイス独立の L*a*b* カラー空間（プロファイル接続空間として知られている）を介して出力デバイスのカラー空間に転送されます。このプロセスにはソース（転送元）プロファイルと、転送先プロファイルの2つの異なるプロファイルが必要となります。



デバイスリンクプロフィールは、入力デバイスのカラー空間を直接出力デバイスのカラー空間に変換する特別な ICC プロファイルで、これにより、出力デバイスは物的プリンタにもファイル形式にもなります。通常のソースまたは転送先プロフィールとは異なり、デバイスリンクプロフィールは、特定のカラー空間を説明しませんが、ソースカラー空間から転送先のカラー空間への変換を定義します。従って、デバイスリンクプロフィールを作成する基本となるのは、常に、一般的な ICC プロファイルです。

デバイス独立のカラー空間を経由した変換は不要な効果（滑らかではないグラデーション等）をもたらす可能性があるため、デバイスリンクプロフィールは、ほとんどの場合、直接的な CMYK 間の変換に適用されます。デバイスリンクプロフィールでは、スポットカラーが維持されるため、ソースプロフィールのブラックチャンネルを保持します。



入力カラー空間のブラックチャンネルを保持することは、デバイスリンクプロフィールを使用することの主な利点の 1 つです。このため、デバイスリンクプロフィールは、データ準備中（例えば、ISOcoated から ISOuncoated への変換等）によく使われます。

さらに、デバイスリンクプロフィールは、L*a*b* カラー空間を介さないため、他のカラーによる汚染を避けることができます。つまり、50%ブラックは 50%ブラックのまま保持されるのです。

しかし、デバイスリンクプロフィールは、他の ICC プロファイルのように、何にでも使用できるわけではありません。各デバイスリンクプロフィールは、それが作成されたソースおよび転送先プロフィールのある組み合わせに対してのみ使用することができます。

プリンタに出力するデバイスリンクプロフィールを選択するには

プリンタに出力するには、ベースリニアリゼーションファイルがあるプロフィールサブフォルダにデバイスリンクプロフィールをコピーします。

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、出力デバイスをクリックします。「メディア」タブで「印刷構成」ペインを開きます。
- 2 「メディア名」から、デバイスリンクプロフィール名を選択します。

デバイスリンクプロフィールは、プロフィールコネクタで定義された名前の下に表示されます。Fiery XF はデバイスリンクプロフィールが選択されている時適切なメッセージを表示します。



- 3 変更を保存します。

ファイルに出力するデバイスリンクプロファイルを選択するには

ファイル出力オプションのライセンスをお持ちの場合は、TIFF または PDF 形式でジョブを出力することができます。

ファイル形式に出力するには、デバイスリンクプロファイルがリファレンスフォルダに保存されている必要があります。

- 1 **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、出力デバイスをクリックします。「デバイス」タブで、「接続」ペインを開きます。
- 2 「接続タイプ」で、**デバイスリンクプロファイルを使用する** を選択します。
- 3 「デバイスリンクプロファイル」から、**デバイスリンクプロファイル名を選択** します。

デバイスリンクプロファイルは、プロファイルコネクタで定義された名前の下に表示されます。Fiery XF はデバイスリンクプロファイルが選択されている時適切なメッセージを表示します。

- 4 「プロファイル」で**シミュレーション (リファレンス) プロファイルを選択** します。

ジョブがデバイスリンクプロファイルに組み込まれているソースプロファイルとは異なるカラースペースで作成された場合、このプロファイルが適用されます。

- 5 「PostScript 以外のファイルの入力解像度を維持する」を選択します (オプション)。

この設定は、元のイメージの解像度 (サイズ) に影響を及ぼすことなしにデジタルファイルのセットを 1 つのカラースペースに変換する場合に便利です。



- 6 **変更を保存** します。

関連参照：

163 頁の「[デバイスリンクプロファイルを作成する](#)」

223 頁の「[ファイルへ出力](#)」

380 頁の「[プログラムの構造](#)」

モニタのプロファイル

モニタのプロファイルはコンピュータ画面でのカラー精度をシミュレートし、検証するために利用されます。これは「ソフト・プルーフイング」と言います。しかし、プリンタによってカラー出力が大きく異なることがあるのと同様に、モニタによって表示されるカラーがわずかに異なることがあります。この問題を克服するには、モニタを特定の標準に定期的に校正することが重要です。モニタの校正は次の 2 つのステップからなります。

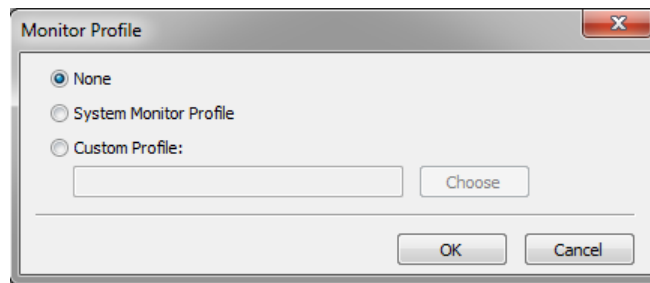
- 値を設定するためにモニタ上での輝度設定と制御設定を調整する。
- モニタのプロファイルを作成する。それによってホワイト・ポイント、ガンマ、RGB 蛍光の設定を指定します。

Windows および Macintosh コンピュータは、オペレーティングシステムソフトウェアの一部として標準モニタのプロファイルを提供します。Fiery XF では、独自に作成したモニタのプロファイルか、またはオペレーティングシステムによって提供されたモニタのプロファイルを選択できます。

モニタのプロファイルを選択するには

- 1 「編集」メニューで「モニタのプロファイル」をクリックします。

「モニタのプロファイル」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 次のいずれかを行います。

- 「システム・モニタ・プロファイル」をクリックし、オペレーティングシステムにあるモニタプロファイルを選択します。
- 「カスタムプロファイル」をクリックして、独自に作成したモニタプロファイルを参照するために「選択」をクリックします。

- 3 「OK」をクリックします。

最適化プロファイルの作成

Fiery XF は、お使いの出力デバイスの色再現性を向上する一連のツールの管理者権限をユーザに付与します。

- Color Tools は、Fiery XF の標準コンポーネントです。これを使って、既存のメディアプロファイルを最適化したり、他社製品のメディアプロファイルと統合させることができます。
- Color Profiler Suite は、独自のメディアプロファイル、シミュレーション（リファレンス）プロファイル、デバイスリンクプロファイルを作成および編集するための追加的ツールを提供しています。Color Profiler Suite には、追加のライセンスが必要です。

Fiery XF で選択した各メディアプロファイルには、それに結合されたベースリニアリゼーションがあります。ベースリニアリゼーションファイルは、特定出力デバイス用に作成されています。しかし、全く同じ出力デバイスはなく、大量生産された同機種プリンタでさえ、カラープロパティに若干の差異があります。出力デバイスは、間違いなくメディアプロファイルが作成された出力デバイスとは異なるカラープロパティを持っているでしょう。

次の方法により、カラー出力を向上させることができます：

- ベースリニアリゼーションのインク制限を再定義し、お使いのプリンタの色再現が、メディアプロファイルが最初に作成されたリファレンスプリンタのそれと一致させることができます。
- ベースリニアリゼーションファイルとメディアプロファイルをお使いの出力デバイスに合わせて新規作成することができます。この方法はより正確で、全体的により良いカラー成果を実現します。

システム設定

プログラムのインストール中に、System Manager でデフォルトのリニアリゼーションワークフロー、およびデフォルトのリニアリゼーションデバイスが作成されます。リニアリゼーションデバイスをリニアリゼーションワークフローに接続する必要があります。管理者権限を持つユーザのみが、このシステムコンフィグレーションを介してジョブを印刷することができます。

Color Tools を使用する場合、チャートの印刷とカラーパッチの測定が必要となります。チャートはリニアリゼーションワークフローを介して自動的に処理され、リニアリゼーションデバイス上に印刷されます。本プロセス中、ワークフローのすべてのカラーマネージメント設定（プロファイルやレンダリングインテント）は色出力に影響を与えるため、これらは無視されます。ベースリニアリゼーションファイルを作成する際には、すべてのカラー測定がプリンタのカラー能力にのみ基づいて行われることが重要です。

リニアリゼーションデバイスの設定

Color Tools を起動できるようになる前に、リニアリゼーションデバイスの設定を行う必要があります。リニアリゼーションデバイスは、最適化したいカラー再現プロパティを持つ出力デバイスと全く同じ設定でセットアップされる必要があります。

既に出力デバイスを設定している場合は、リニアリゼーションデバイスにこの設定を転送できます。ベースリニアリゼーションファイルを新規作成したり、既存のメディアプロファイルを最適化したい場合、これはリニアリゼーションデバイスをセットアップする迅速な方法です。その後、適切なカラーツールが自動的に起動します。

また、他の出力デバイスのように手動でリニアリゼーションデバイスを設定することもできます。この場合、Color Tools は自動的に起動しません。

プリンタ設定をリニアリゼーションデバイスに転送するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、既に設定されている出力デバイスを右クリックし、以下の項目のいずれかをクリックします：
 - 「デバイスのリニアリゼーション」をクリックし、ベースリニアリゼーションファイルを新規作成します。
 - 既存のベースリニアリゼーションファイルのインク濃度を最適化するために「デバイスを再リニアリゼーションします」をクリックします。
- System Manager を開きます。レイアウト領域で、既に設定されている出力デバイスをクリックします。「デバイス」タブで、「PrintConfiguration」ペインを開きます。「キャリブレーション設定」から、「新規リニアリゼーション」と「プロファイル」をクリックします。

プリンタ設定が自動的にリニアリゼーションデバイスに転送されます。リニアリゼーションデバイスが以前に別のプリンタ用に設定されている場合は、現在の設定が上書きされるという警告が表示されます。

関連参照：

156 頁の「[Color Tools の起動](#)」

Color Tools の起動

Color Tools を起動できるようになる前に、リニアリゼーションデバイスの設定を行う必要があります。

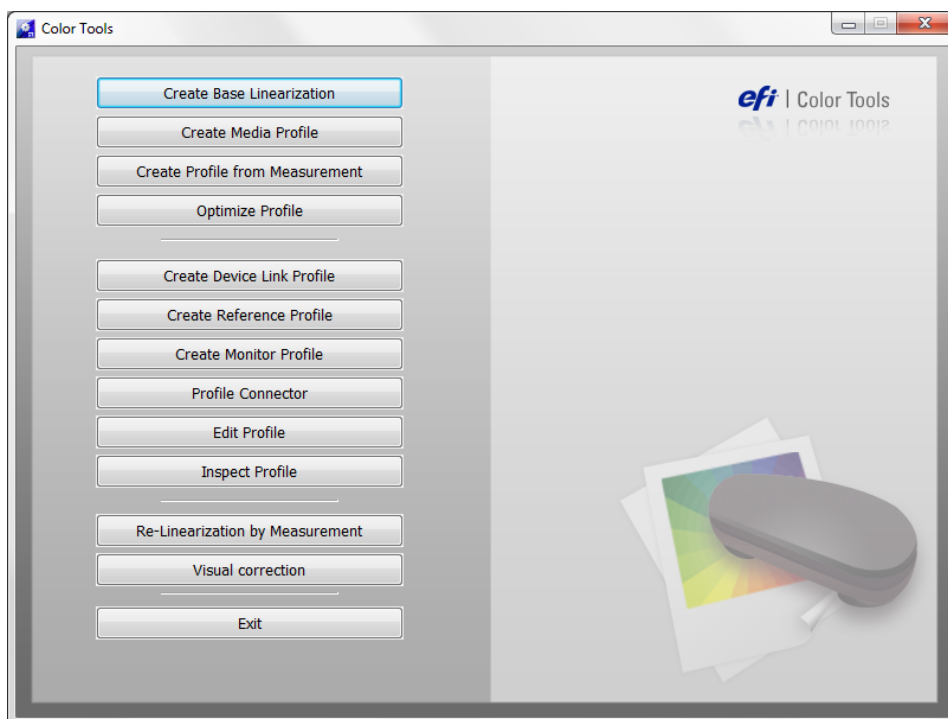
COLOR TOOLS を起動するには

1 次のいずれかを行います。



- ツールバーで Color Tools をクリックします。
- 「ツール」メニューから、Color Tools をクリックします。

利用可能なツールの一覧と一緒にスタート画面が表示されます。Color Profiler オプションのライセンスをお持ちではない場合、スタート画面が若干違って見えることにご留意ください。Color Profiler オプションは、プロファイルの作成関連ツールを提供しています。



異なる出力デバイスから設定を転送することによってリニアリゼーションデバイスを設定するた場合、Color Tools はスタート画面を飛ばして、直接適切なツールを起動します。開いているツールを閉じれば、いつでもスタート画面に戻ることができます。

2 ツールを起動するための適切なボタンをクリックします。

テーブルは利用可能なツールを表示しています：

ツール	Color Tools	Color Profiler Suite
ベースリニアリゼーションの作成	はい	はい
印刷メディアプロファイルを作成する	いいえ	はい
測定値からプロファイルを作成します。	いいえ	はい
プロファイルの最適化	はい	はい
デバイスリンクプロファイルの作成	いいえ	はい
リファレンスプロファイルの作成	いいえ	はい
モニタプロファイルを作成します	いいえ	はい
プロファイルコネクタ	はい	はい
プロファイルを編集します	いいえ	はい
プロファイルを検査します	いいえ	はい
測定による再リニアリゼーション	はい	はい
視覚的補正	はい	はい

関連参照：

155 頁の「[リニアリゼーションデバイスの設定](#)」

一般的なヒント

多くのツールは、カラーパッチを印刷・測定することを要求し、ユーザが測定デバイス（分光光度計）を持っていることを確かめます。内蔵型デバイスを含め、多くの異なる測定デバイスがサポートされています。

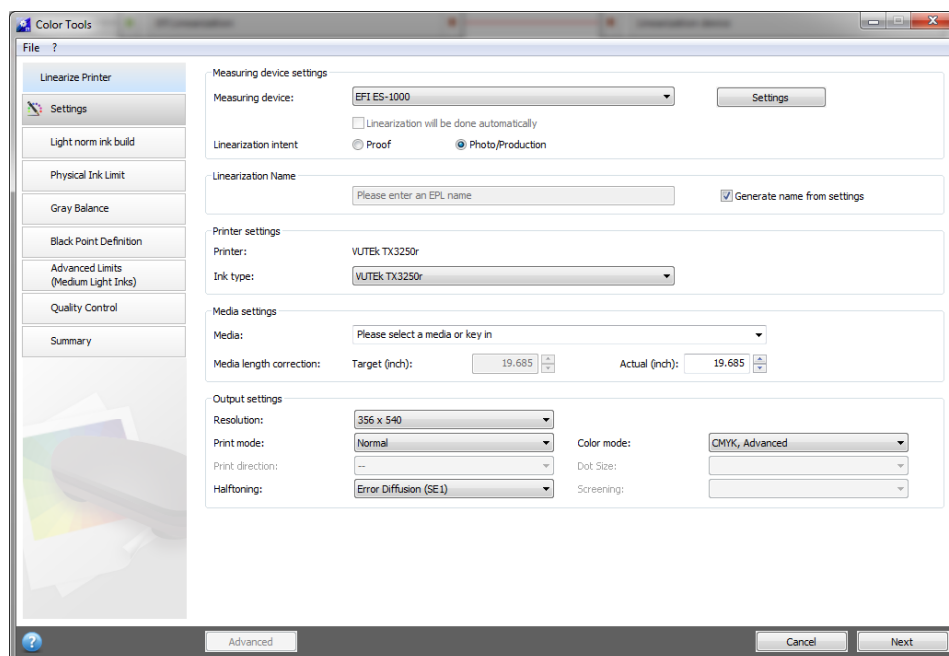
測定時の問題を避けるため、すべてのリニアリゼーションチャートは元のサイズで印刷される必要があります。ですから、リニアリゼーションワークフローが拡大縮小されていないことを確認します。

ベースリニアリゼーションファイルを作成または編集する

印刷メディアプロファイルはベースリニアリゼーションファイルに基づいています。出力デバイスと印刷メディアタイプのある組み合わせに対する色の最大密度を達成しつつ、できる限り使用するインク量を最小限に抑えるのに必要なインク品質に関する詳細情報を含んでいます。

ベースリニアリゼーションファイルの新規作成

- 1 測定デバイスに接続します。
- 2 Color Tools を起動し、「ベースリニアリゼーションを作成」をクリックします。



- 3 「情報」ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってベースリニアリゼーションの作成を完了します。

ベースリニアリゼーションファイルはいつでも保存でき、それを、後日、完了することもできます。「ファイル」メニューで、「ベースリニアリゼーションの保存」をクリックします。

ベースリニアリゼーションファイルの作成が完了したら、次のいずれかの操作を行います：

- メディアプロファイルを続けて作成する。
- 既存のメディアプロファイルにベースリニアリゼーションファイルを結合する。
- Fiery XF 内のベースリニアリゼーションファイルを選択する。メディアプロファイルに結合されていないベースリニアリゼーションファイルを選択すると、カラーマネージメントを適用せずに印刷することができます。これにより、プリンタの色再現プロパティを確認することができます。

ベースリニアリゼーションファイルを編集するには

未完成のベースリニアリゼーションファイルの作成を完了したり、カスタムの、またはデフォルトのベースリニアリゼーションファイルを編集することができます。

- 1 測定デバイスに接続します。
- 2 Color Tools を起動し、「ベースリニアリゼーションを作成」をクリックします。
- 3 次のいずれかを行います。

- 「ファイル」メニューで、「ベースリニアリゼーションのロード」をクリックし、ベースリニアリゼーションファイルを参照し、「開く」をクリックします。

この設定を使って、未完成のベースリニアリゼーションファイルを読み込み、中断したところから再開します。唯一の前提条件は、同じ測定デバイスを使用しなければならないということです。

- 最初のチャートを印刷したら、「データのインポート」をクリックします。

この設定を使って、他社のプログラムを使って入手した測定値を読み込みます。既存の測定値は、ベースリニアリゼーションファイルを新規作成するための基準として使用されます。プリンタ内蔵型以外なら、どの測定デバイスも使用することができます。

または、プロファイルコネクタにある既存のベースリニアリゼーションファイルへ素早く簡単に変更を加えることもできます。

関連参照：

- 143 頁の「メディアプロファイル」
- 155 頁の「リニアリゼーションデバイスの設定」
- 159 頁の「ベースリニアリゼーションファイルを編集するには」
- 159 頁の「印刷メディアプロファイルを作成する」
- 167 頁の「プロファイルコネクタ」

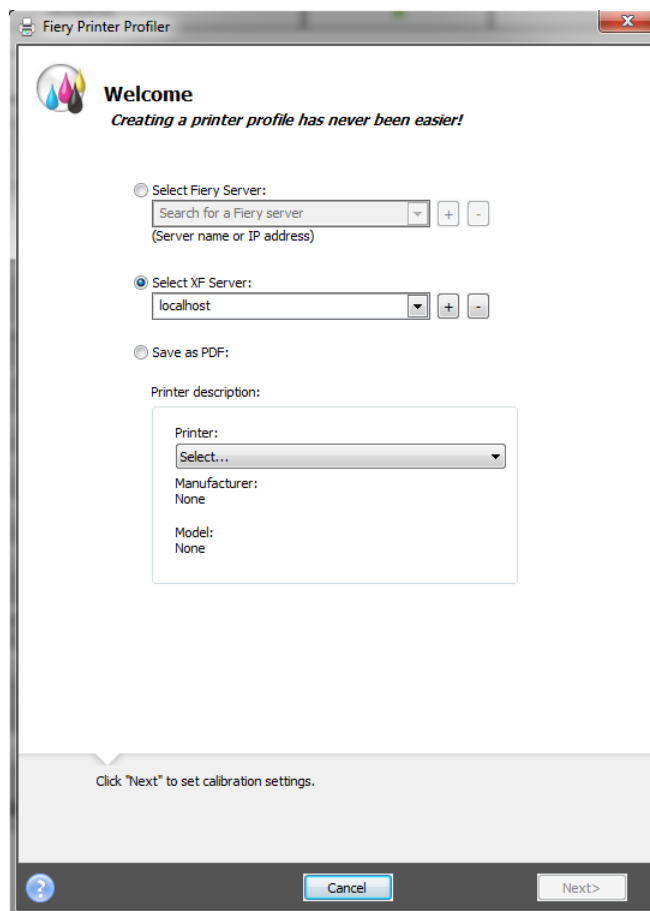
印刷メディアプロファイルを作成する

メディアプロファイルを作成するときは、プリンタや印刷構成の特定の組み合わせに対して作成します。印刷メディアプロファイルを作成するには、まずベースリニアリゼーションファイルを作成する必要があります。

リニアリゼーションデバイスをファイルに出力するように設定されている場合は、メディアプロファイルを作成することはできません。

メディアプロファイルを作成するには

- 1 Color Tools を起動し、「印刷メディアプロファイルを作成します」をクリックします。



- 2 「情報」 ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってモ印刷メディアプロファイルの作成を完了します。

印刷メディアプロファイルを作成したら、Fiery XF でそれを選択します。

関連参照：

143 頁の「メディアプロファイル」

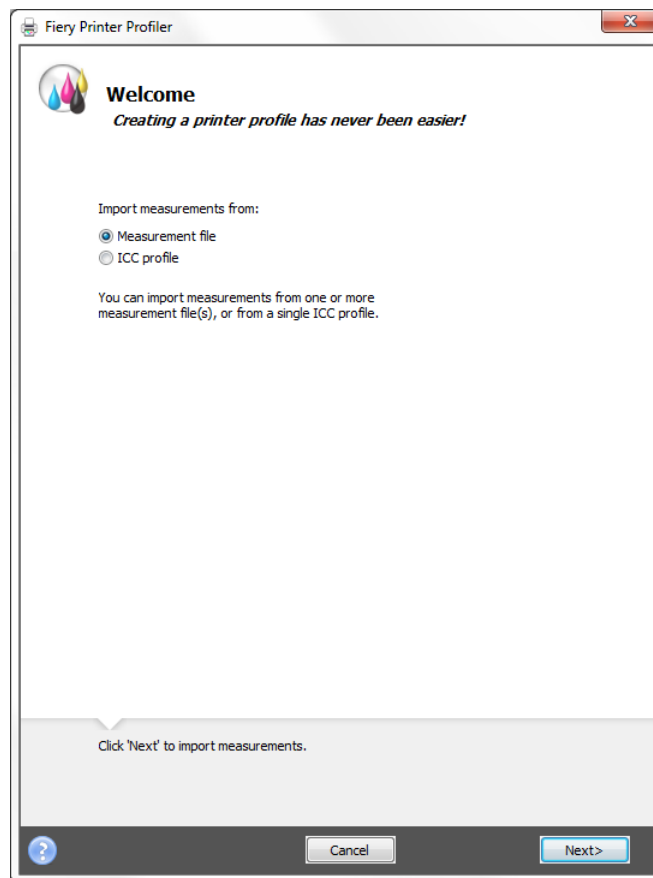
測定値からプロファイルを作成する

「測定値からプロファイルの作成」ツールを起動する歳に、すでに測定値を持っている場合（IT8 ファイルまたは既存の ICC プロファイル）、測定値からプロファイルを直接新規作成することができます。また、この方法により、測定値を変えずに既存のプロファイル設定を簡単に更新することもできます。

1つまたは複数の IT8 ファイルや、単一のプロファイルから測定値をインポートすることもできます。複数のファイルから測定値をインポートする場合は、インポートされた一連の測定値の平均値からプロファイルが作成されます。プリンタの出力が安定していない場合や、複数のプリンタで共通するプロファイルを作成しようとしている場合、複数の測定値の平均値を使用することをお勧めします。

測定値からプロファイルを作成するには

- 1 Color Tools を起動し、「測定値からプロファイルの作成」をクリックします。



- 2 「情報」 ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってプロファイルを作成します。

プロファイルを作成したら、Fiery XF でそれを選択します。

関連参照：

143 頁の「メディアプロファイル」

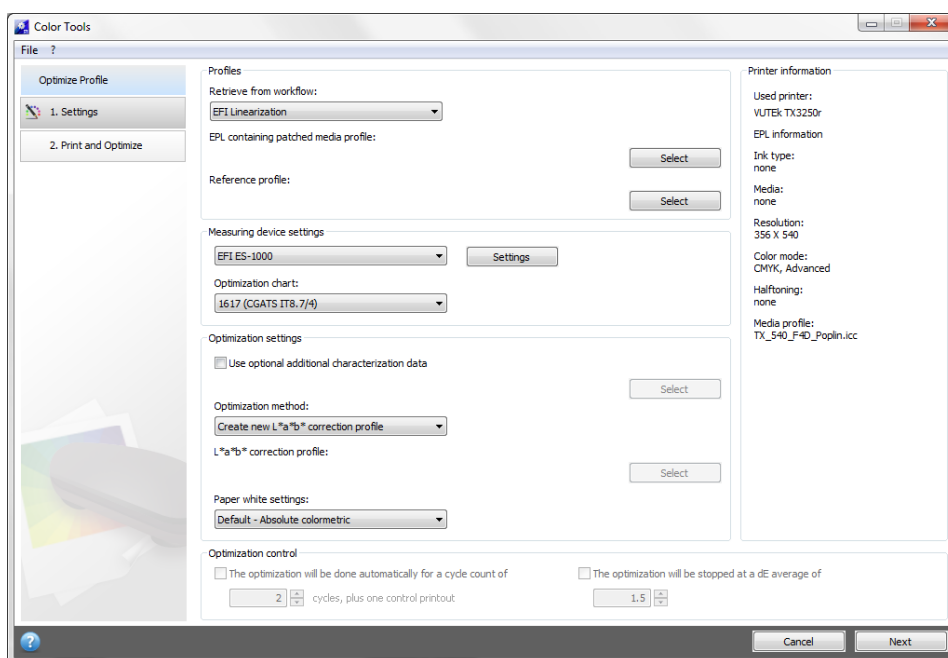
印刷メディアプロファイルの最適化

L*a*b* 最適化ファイルを印刷構成プロファイルに適用することで、カラー精度を大幅に改善することができます。L*a*b* 最適化は、シミュレーション（リファレンス）プロファイルの扱いカラー範囲により適しています。

しかし、まず印字品質を確認し、最適化が本当に必要であることを確認します。

メディアプロファイルを作成するには

- 1 測定デバイスに接続します。
- 2 Color Tools を起動し、「プロファイルの最適化」をクリックします。



- 3 「情報」ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってモ印刷メディアプロファイルの最適化を完了します。

L*a*b* 最適化はいつでも保存でき、それを、後日、完了することもできます。「ファイル」メニューで、「最適化されたジョブの保存」をクリックします。

最適化の最終段階で L*a*b* 最適化を印刷メディアプロファイルに適用することができます。デフォルトで L*a*b* 最適化を適用したくない場合は、Fiery XF で、それをいつでも選択することができます。

L*A*B* 最適化を編集するには

未完成の L*a*b* 最適化を完了することができます。

- 1 測定デバイスに接続します。
- 2 Color Tools を起動し、「プロファイルの最適化」をクリックします。

3 次のいずれかを行います。

- 「ファイル」メニューで、「最適化されたジョブのロード」をクリックし、最適化中のジョブを参照し、「開く」をクリックします。

この設定を使って、未完成の最適化中のジョブを読み込み、中断したところから再開します。唯一の前提条件は、同じ測定デバイスを使用しなければならないということです。

- 最初のチャートを印刷したら、「データのインポート」をクリックします。

この設定を使って、他社のプログラムを使って入手した測定値を読み込みます。既存の測定値は、L*a*b* 最適化を新規作成するための基準として使用されます。プリンタ内蔵型以外なら、どの測定デバイスも使用することができます。



4 「情報」ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってモ印刷メディアプロファイルの最適化を完了します。

最適化の最終段階で L*a*b* 最適化を印刷メディアプロファイルに適用することができます。デフォルトで L*a*b* 最適化を適用したくない場合は、Fiery XF で、それをいつでも選択することができます。

FIERY XF で L*a*b* 最適化を選択するには

L*a*b* 最適化が Fiery XF で選択されるためには、プロファイル/バランスフォルダにある必要があります。必要に応じて、次の手順に進む前に L*a*b* 最適化ファイルをバランスフォルダにコピーしてください。

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。

2 「L*a*b* 最適化」で、「L*a*b* 最適化」を選択します。



3 変更を保存します。

関連参照：

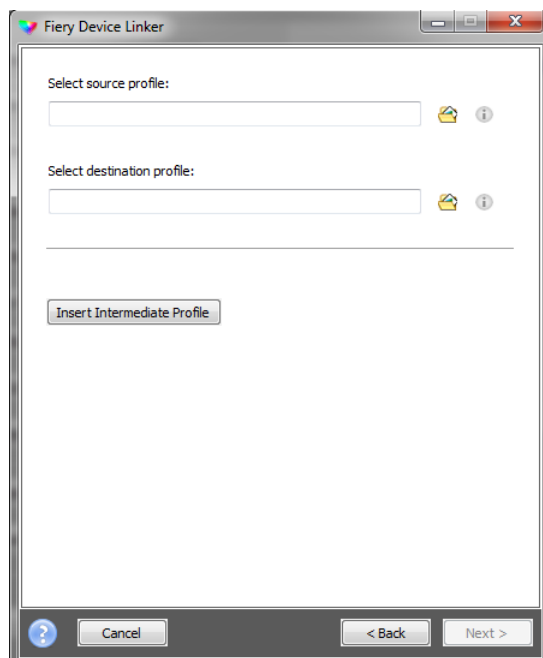
162 頁の「L*a*b* 最適化を編集するには」

163 頁の「Fiery XF で L*a*b* 最適化を選択するには」

デバイスリンクプロファイルを作成する

デバイスリンクプロファイルは、ソースカラースペース（印刷構成プロファイル）と変換先カラースペース（シミュレーション（参考）プロファイル）を1つのプロファイルに統合します。デバイスリンクプロファイルは、2つの別々のプロファイルが適用される場合よりも、より正確なカラーを再現する傾向があります。デバイスリンクプロファイルを作成するには

- 1 Color Tools を起動し、「デバイスリンクプロファイルの作成」をクリックします。



- 2 「情報」 ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってデバイスリンクプロファイルの作成を完了します。

デバイスリンクプロファイルを作成したら、これをベースリニアリゼーションファイルに結合する必要があります。

関連参照：

150 頁の「[デバイスリンクプロファイル](#)」

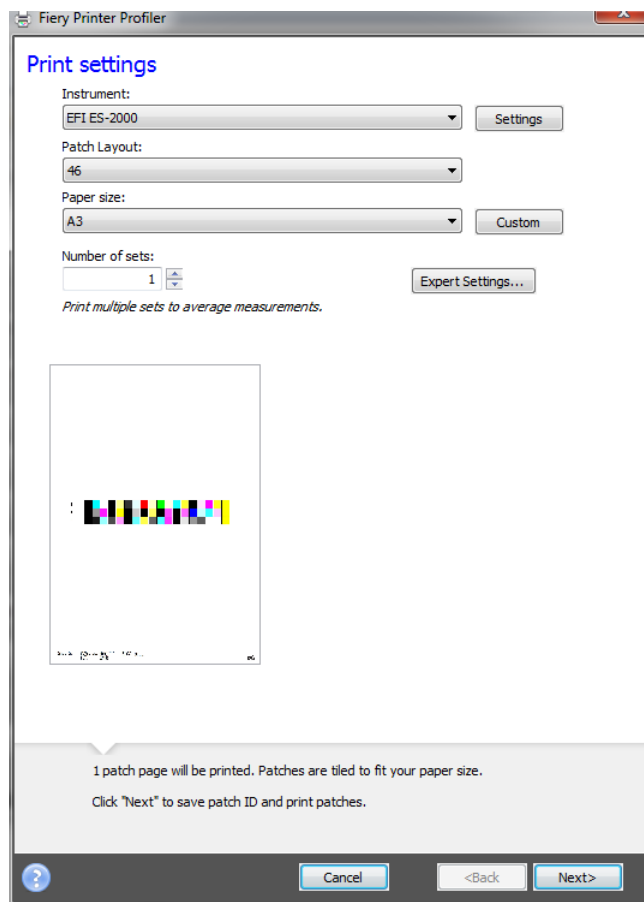
167 頁の「[プロファイルコネクタ](#)」

シミュレーション（リファレンス）プロファイルの作成

シミュレーション（リファレンス）プロファイルは、インクジェットプリンターで印刷機をシミュレートして印刷する場合の、シミュレート対象の印刷機のカラー特性について説明しています。

シミュレーション（リファレンス）プロファイルを作成するには

- 1 Color Tools を起動し、「リファレンスプロファイルの作成」をクリックします。



- 2 「情報」ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってシミュレーション（リファレンス）プロファイルの作成を完了します。

シミュレーション（リファレンス）プロファイルを作成したら、Fiery XF でそれを選択します。

参照フォルダにあるシミュレーション（リファレンス）プロファイルだけ、Fiery XF で選択できます。

関連参照：

144 頁の「ソースプロファイルとシミュレーション（リファレンス）プロファイル」

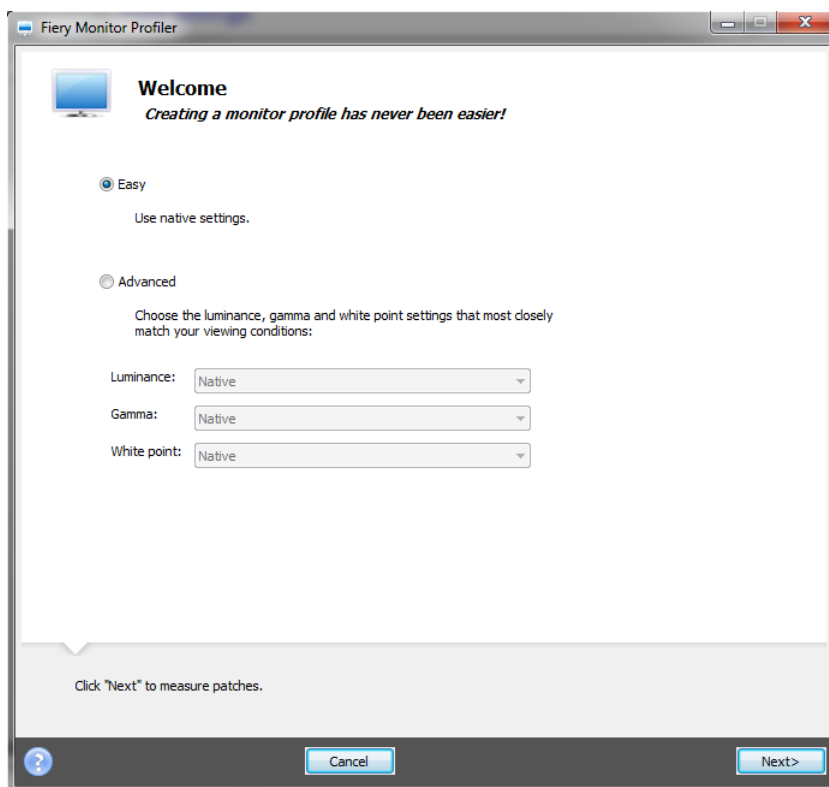
380 頁の「プログラムの構造」

モニタのプロファイルを作成する

モニタのプロファイルはコンピュータ画面でのカラー精度をシミュレートし、検証するために利用されます。これは「ソフト・ブルーフィング」と言います。しかし、プリンタによってカラー出力が大きく異なることがあるのと同様に、モニタによって表示されるカラーがわずかに異なることがあります。この問題を克服するには、モニタを特定の標準に定期的に校正することが重要です。

モニタのプロファイルを作成するには

- 1 Color Tools を起動し、「モニタプロファイルを作成します」をクリックします。



- 2 「情報」ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってモニタのプロファイルの編集を完了します。

モニタのプロファイルを作成したら、Fiery XF でそれを選択します。

関連参照：

152 頁の「[モニタのプロファイル](#)」

プロファイルコネクタ

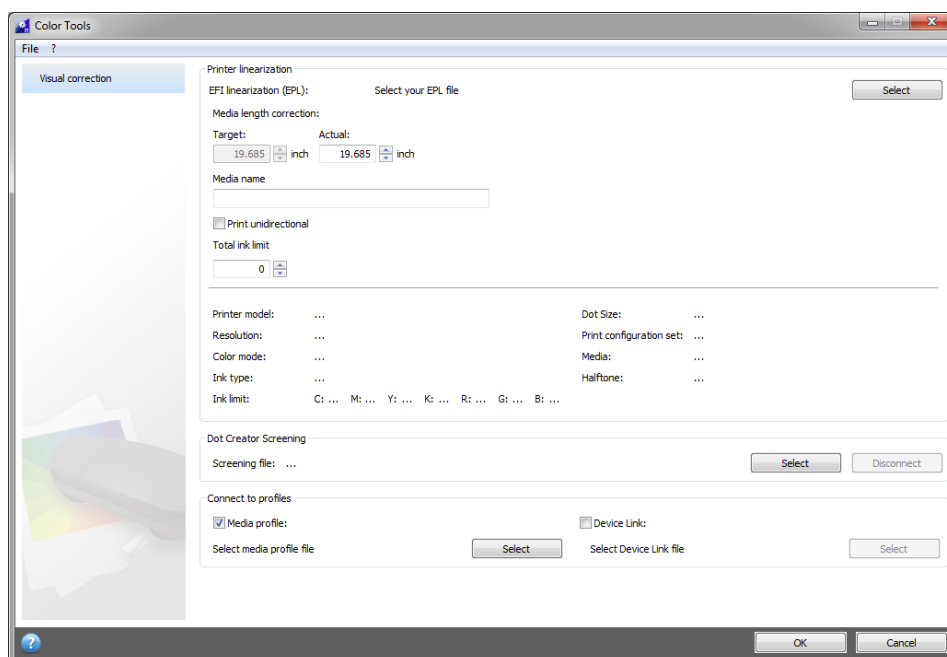
プロファイルコネクタを使って、ベースリニアリゼーションファイルを印刷メディアプロファイルやデバイスリンクプロファイルに結合することができます。

また、プロファイルコネクタを用いて、既存のベースリニアリゼーションファイルに迅速に変更を加えることができます。たとえば次のように入力します。

- Dot Creator で作成したスクリーニングファイルを v2 スクリーニングのために組み込むことができます。
- 印刷方向を変更することができます。
- インク全体の制限を変更することができます。
- 印刷されたジョブの長さにおける不整合を修正することができます。

印刷メディアプロファイルやデバイスリンクプロファイルにベースリニアリゼーションファイルを接続するには

- 1 Color Tools を起動し、「プロファイルコネクタ」をクリックします。





2 「情報」 ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってベースリニアリゼーションファイルを変更します。

完了すると、ベースリニアリゼーションファイルは、メディアプロファイルフォルダに自動的に保存されます。

ベースリニアリゼーションファイルの変更が完了したら、次のいずれかの操作を行います：

- Fiery XF で新しいベースリニアリゼーションファイルを選択します。
- Fiery XF でデバイスリンクプロファイルを選択します。
- 既存のメディアプロファイル用に新しいベースリニアリゼーションを選択します。

関連参照：

143 頁の「[メディアプロファイル](#)」

150 頁の「[デバイスリンクプロファイル](#)」

359 頁の「[Dot Creator](#)」

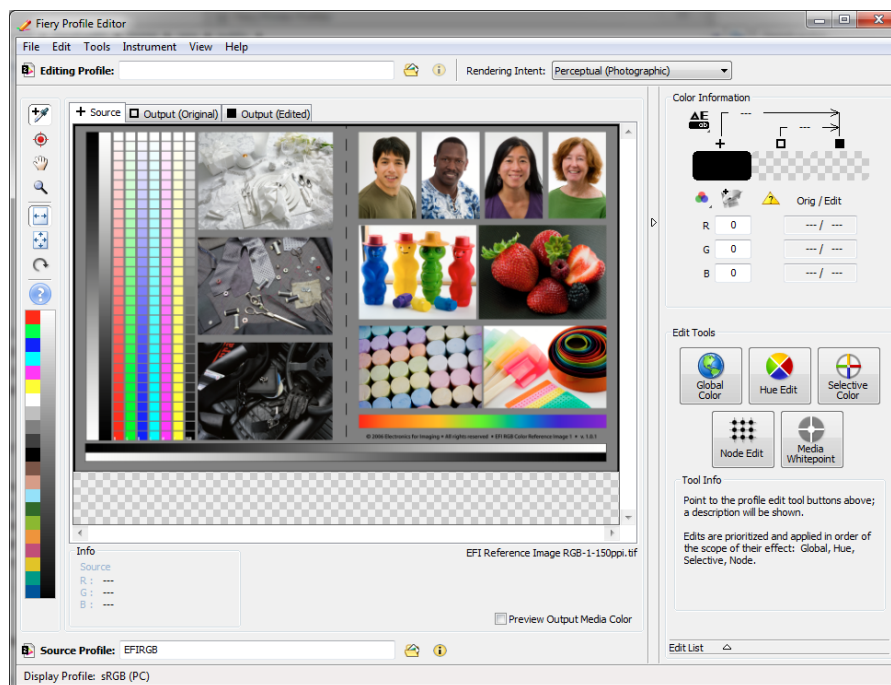
376 頁の「[印刷済みジョブの長さを補正する](#)」

プロファイルの編集

プロファイルエディタは、既存の CMYK または RGB シミュレーション（リファレンス）プロファイルを変更するためのツールです。たとえば、これを使ってコントラストや彩度を設定したり、印刷構成の白色点を正確に入力することができます。プロファイルエディタは、カラー出力を変更するために、主に生産市場で使用されることが意図されています。

シミュレーション（リファレンス）プロファイルを編集するには

- 1 Color Tools を起動し、「プロファイルを編集します」をクリックします。



- 2 「情報」 ボタンをクリックし、画面上の指示に従ってモニタのプロファイルの編集を完了します。

編集済みシミュレーション（リファレンス）プロファイルを保存する場合、新しい名前で作成されます。

関連参照：

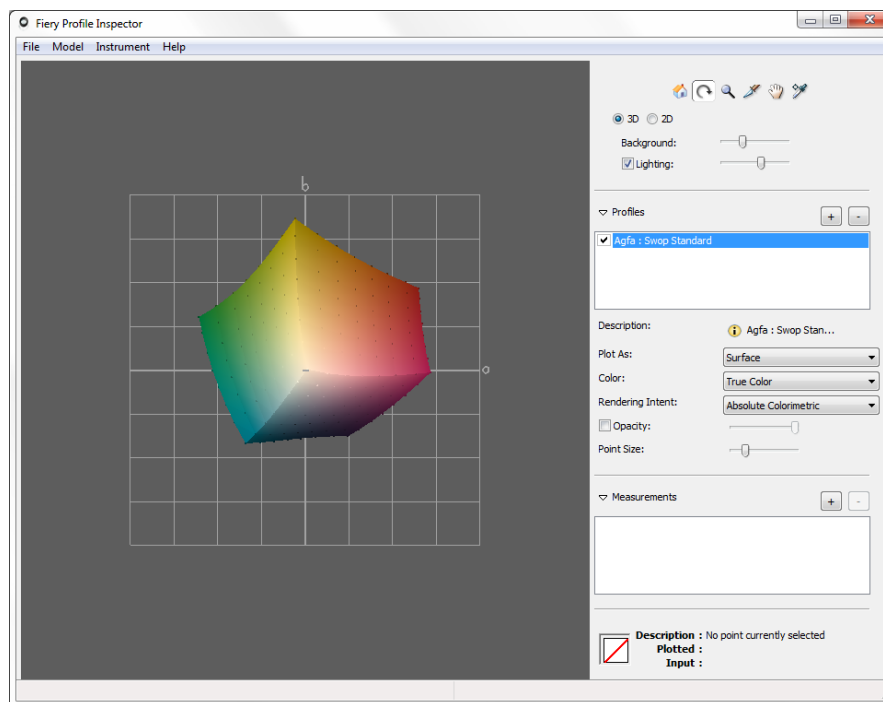
144 頁の「ソースプロファイルとシミュレーション（リファレンス）プロファイル」

プロファイルの検査

Profile Inspector プロファイルインスペクタは、RGB、CMYK、ICC という名のついたプロファイルの色域を単体または組合せで検査、比較するためのツールです。プロファイルは、3次元モデルとして表示されます。

ICC プロファイルの色域を表示するには

- 1 Color Tools を起動し、「プロファイルを検査します」をクリックします。



- 2 「情報」 ボタンをクリックし、画面上に指示に従って色域を表示したり、比較します。

プリンタの再リニアリゼーション

すべてのプリンタは（大量生産された同機種プリンタでさえ）、わずかに異なる色のプロパティを持っています。これに加えて、プリンタの色再現は、時間経過に従って変わることがあります。

再リニアリゼーションを実行することにより、色の逸脱を補正することができます。再リニアリゼーションは、インク濃度を印刷メディアプロファイルが作成されたリファレンスプリンタのものに調整するため、確実にプリンタの色再現プロパティが一定のままになります。

次のような場合には再リニアリゼーションを実行することをお勧めします：

- 実際にご使用のプリンタ上では作成されていないメディア・プロファイル（たとえば、Fiery XF に付属しているメディアプロファイル）を使用する場合。
- プリンタヘッドを交換した後。
- プローフが先のプルーフ結果と一致しなくなった場合。例えば、インクのにじみがあったり、インクがメディア上に均等に適用されていない場合や、メディアにインクが多く使用されすぎているために印刷が荒れている場合。

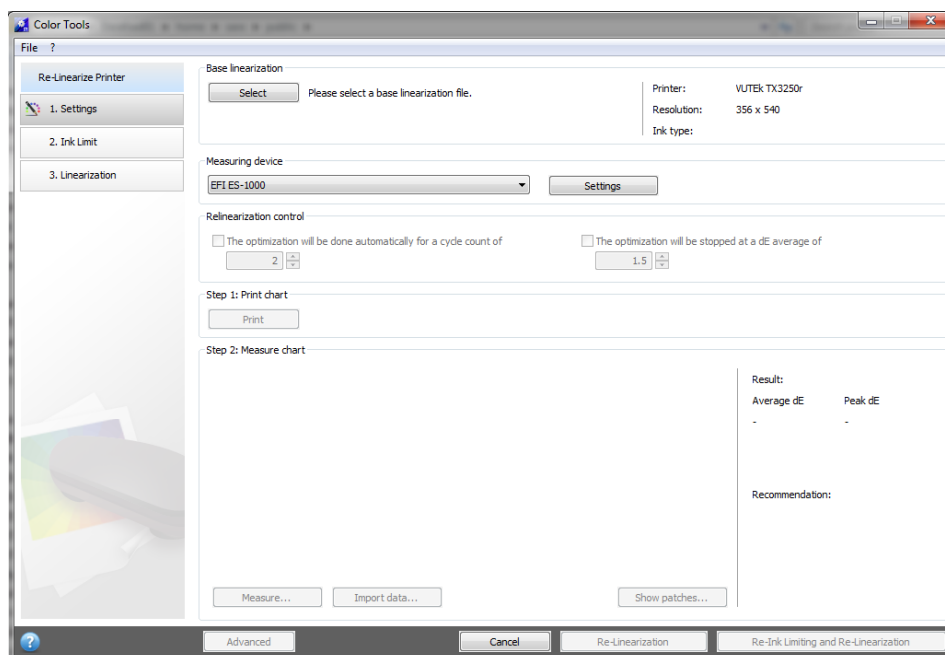
原則として、再リニアリゼーションは、2週間に1回程度の間隔で実行することをお勧めします。

測定によりプリンタを再リニアリゼーションするには

測定によりプリンタを再リニアリゼーションする際は、ベースリニアリゼーションファイルで $L^*a^*b^*$ 値を最適化します。

- 1 測定デバイスに接続します。
- 2 Color Tools を起動し、「測定による再リニアリゼーション」をクリックします。

また、出力デバイスからリニアリゼーションデバイスに設定を転送することによって、測定による再リニアリゼーションツールを直接起動することもできます。この方法で測定による再リニアリゼーションツールを起動する場合、多くのプリンタ設定は既にセットアップされています。



- 3 「情報」ボタンをクリックして、画面上の指示に従って、プリンタの色再現性を元の状態に戻すベースリニアリゼーションファイルを新規作成します。

現在のベースリニアリゼーションファイルを上書きするか、新しい名前で結果を保存して新しいベースリニアリゼーションファイルを作成することができます。新しいベースリニアリゼーションファイルを作成する場合、Fiery XF でそれを選択する必要があります。

関連参照：

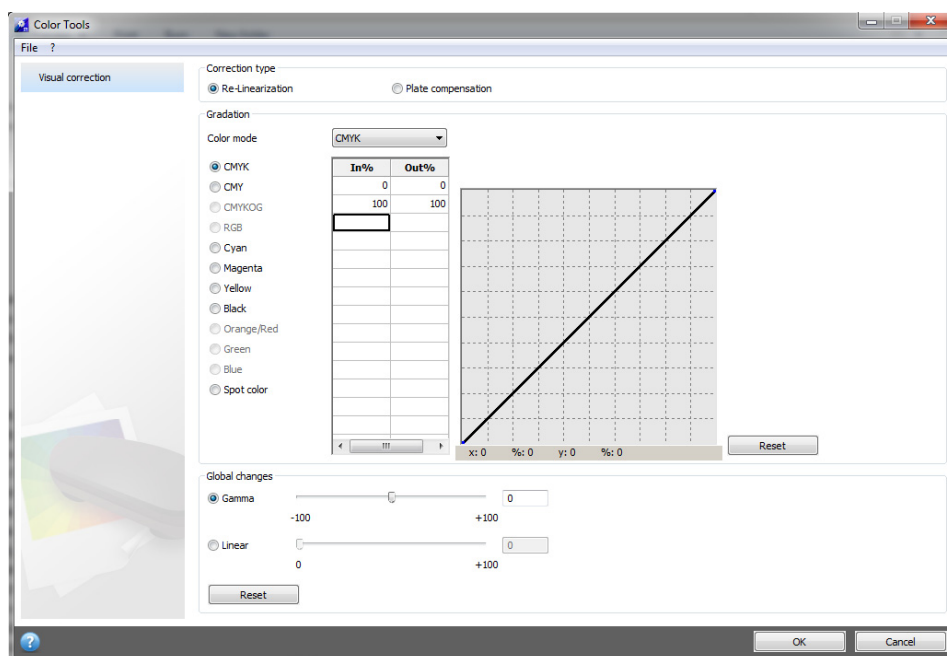
143 頁の「メディアプロファイル」

視覚的カラー補正を実行する

「視覚的補正」ツールを使って、個々のインクチャンネルのインクカーブを修正することができます。視覚的補正は、完全に手動のカラー調整に基づいているので、使用経験の豊富なユーザーによる応急的な方法としてのみ実行される必要があります。

視覚的カラー補正を実行するには

- 1 **Color Tools** を起動し、「視覚的補正」をクリックします。



- 2 **情報ボタン**をクリックし、画面の指示に従います。

視覚的補正ファイルを作成したら、Fiery XF でそれを選択します。

FIERY XF で視覚的補正ファイルを選択するには

次のステップを続行する前に、視覚的補正ファイルが「バランス」フォルダにあることを確認します。別の保存先に元々保存されている場合はファイルを手動で「バランス」フォルダにコピーすることができます。

- 1 **次のいずれかを行います。**

- **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「メディア」タブで「印刷構成」ペインを開きます。
- **Job Explorer** を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「出力」タブで「印刷設定」ペインを開きます。

2 「視覚的補正」で視覚的補正ファイルを選択します。



3 変更を保存します。

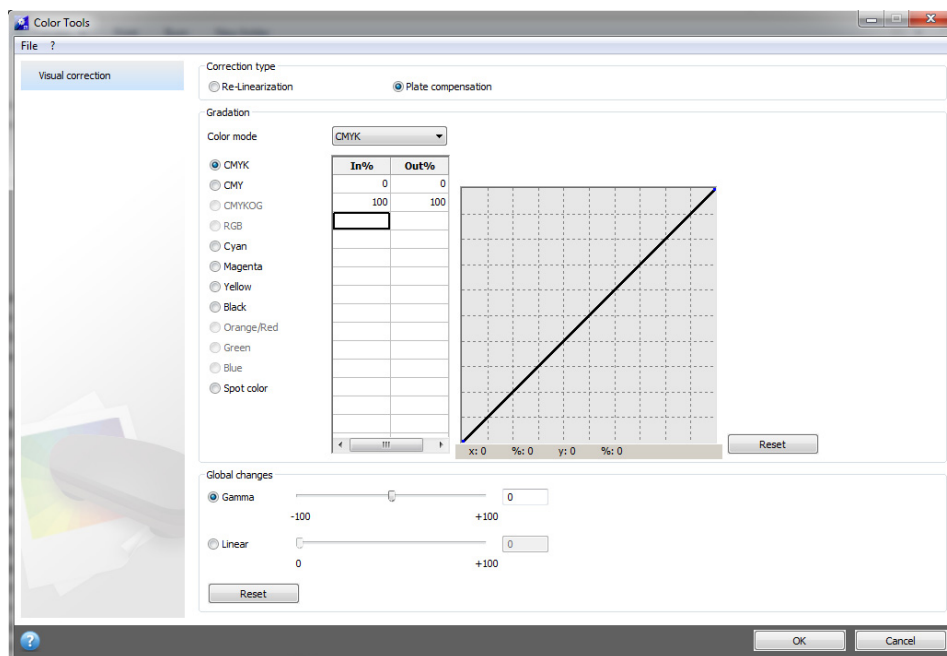
版特性の修正

1 ビットファイルによく適用される版特性を修正できます。版特性は、スクリーンドットが版セッターに出力される時のサイズを制御します。視覚的補正ツールを使って、異なる印刷構成上で異なるドットゲインの補正を行うことができます。しかし、変更は、完全に手動の調整に基づいているので、使用経験の豊富なユーザーによる応急的な方法としてのみ実行される必要があります。

カラーマネージメントは、通常、適切にカラーマネージメントを適用するのに入力されるリニアデータに依存しているため、カラー精度の高い出力のためには1ビットファイルのノンリニア版特性を補正する必要があります。版特性を修正する決まった方法はありません。しかし、コントーンファイル形式の場合には、簡単な方法を適用することで、50%パッチに5%増加することで55%を得ることができます。

版特性を変更するには

1 Color Tools を起動し、「視覚的補正」をクリックします。



2 情報ボタンをクリックし、画面の指示に従います。

版補正ファイルを作成したら、Fiery XF でそれを選択します。

FIERY XF で版補正を選択するには

次のステップを続行する前に、版補正ファイルが「バランス」フォルダにあることを確認します。別の保存先に保存されている場合はファイルを手動で「バランス」フォルダにコピーすることができます。

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。

2 「版補正」で、版補正ファイルを選択します。



3 変更を保存します。

関連参照：

380 頁の「[プログラムの構造](#)」

FIERY XF と印刷メディアプロファイルの更新

EFI は、製品発売後も、機能の向上やプリンタサポートを改善するために、製品開発を続けています。このため、定期的に更新手順を行い、お使いのソフトウェアと印刷メディアプロファイルを常に最新の状態にしておくことをお勧めします。

更新 Fiery XF

更新手順中に、Fiery XF サーバのすべての新規および変更されたファイルは適切なプログラムファイルにインストールされます。Fiery XF クライアントが同じコンピュータにインストールされる場合、クライアントとオプションが同時に更新されます。次回、Fiery XF サーバにログオンした際に、リモート Fiery XF クライアントとオプションが更新されます。

自動的に Fiery XF を更新するには、インターネットアクセスのある Fiery XF サーバが必要になります。

Fiery XF サーバがインターネットアクセスの無いコンピュータにインストールされている場合、ソフトウェア更新プログラムを入手して、手動でインストールすることができます。製品を購入した EFI 販売代理店から入手するか、インターネットアクセスのある Fiery XF サーバコンピュータからこれをコピーすることができます。

FIERY XF を自動的に更新するには

- 1 すべての Fiery XF プログラムを終了します。
- 2 Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF オンラインアップデート」をクリックします。

「アップデーター」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 更新済みファイルのコピーを保存する場合は、チェックボックスをオンにします。

このコピーを使って、インターネットアクセスの無いコンピュータのセカンド Fiery XF サーバを更新することができます。コピーは、デスクトップ上の別のフォルダに保存されます。

- 4 「次へ」をクリックします。

現在入手できるソフトウェア更新プログラムのリストを示すダイアログボックス表示されます。このボックスは、どの更新プログラムが利用可能かを表示し、そのファイルサイズおよびバージョン番号に関する情報も提供します。

- 5 インストールする更新プログラムを選択し、「次に進む」をクリックします。
- 6 更新されたファイルをダウンロードし、インストールを完了するには、画面上の指示に従ってください。

7 要求されている場合は、コンピュータを再起動します。

次回、リモート Fiery XF クライアントから Fiery XF サーバにログオンしたとき、更新手順を開始するためのダイアログボックスが表示されます。「インストール」をクリックして、Fiery XF クライアントとオプションを更新します。インストール後、更新されたファイルのコピーが「更新」フォルダに保存されます。

FIERY XF を手動で更新するには

この手順は、インターネットアクセスが無い場合に、Fiery XF をどの様に更新するかについて説明します。次の手順を実行するには、アップデートファイルが必要になります。製品を購入した EFI 販売代理店から入手するか、インターネットアクセスのある Fiery XF サーバコンピュータからこれをコピーすることができます。

- 1 更新ファイルの入った「EFI ダウンロード」フォルダを更新する Fiery XF サーバコンピュータにコピーします。
- 2 すべての Fiery XF プログラムを終了します。
- 3 「EFI ダウンロード」フォルダを開きます。
- 4 一度に1つずつサブフォルダを開き、プログラムのアップデートファイルをダブルクリックします。
- 5 画面に表示された指示に従って、手順を完了します。

次回、リモート Fiery XF クライアントから Fiery XF サーバにログオンしたとき、更新手順を開始するためのダイアログボックスが表示されます。「インストール」をクリックして、Fiery XF クライアントとオプションを更新します。インストール後、更新されたファイルのコピーが「更新」フォルダに保存されます。

インストールされている更新プログラムを確認するには

Fiery XF サーバとクライアントが同じコンピュータにインストールされている場合は、どの更新プログラムがインストールされたかを確認できます。

- 1 次のいずれかを行います。
 - Fiery XF を起動します。Windows では、?メニューで、「Fiery XF サーバ情報」をクリックします。
 - Fiery XF を起動します。Macintosh では、「ヘルプ」メニューで、「Fiery XF サーバ情報」をクリックします。
 - Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「ライセンス情報を表示する」をクリックします。

「情報更新」タブに、現在インストールされているアップデートプログラムの一覧が表示されます。

関連参照：

176 頁の「[Fiery XF を手動で更新するには](#)」

176 頁の「[Fiery XF を手動で更新するには](#)」

印刷メディアプロファイルの更新

Fiery XF サーバーがインターネットにアクセスできるコンピュータ上にインストールされている場合、新規および更新された印刷メディアプロファイルをダウンロードして自動的にインストールすることができます。

Fiery XF サーバがインターネットにアクセスできないコンピュータにインストールされている場合、製品をご購入になった EFI 販売代理店から新規および更新された印刷メディアプロファイルを手動でインストールすることができます。

自動的に印刷メディアプロファイルをインストールするには

- 1 Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF プロファイルオンラインアップデート」をクリックします。

「Profile Update Service」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「次へ」をクリックします。
- 3 「メーカー / 機種」列で、プリンタのメーカーをクリックします。
- 4 「印刷メディアプロファイル」列で、インストールしたい印刷メディアプロファイルのチェックボックスを選択します。

1 回のダウンロードで異なるプリンタメーカーの印刷メディアプロファイルを選択することができます。「ダウンロードリスト」をクリックして、選択した印刷メディアプロファイルのリストを表示できます。リストから印刷メディアプロファイルを追加または削除するには、「さらにプロファイルを追加する」をクリックし、「Profile Update Service」ダイアログボックスに戻ります。

- 5 オフラインアップデート
- 6 「完了」をクリックします。

手動で印刷メディアプロファイルをインストールするには

製品を購入した EFI 販売代理店から新規または更新された印刷メディアプロファイルを手動でインストールすることができます。

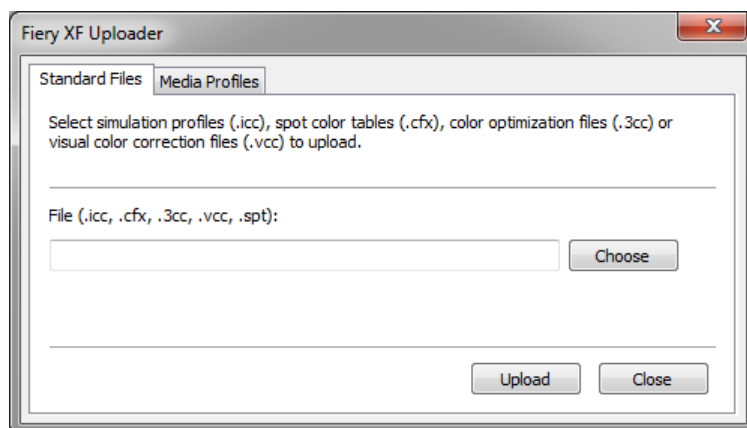
- 1 Fiery XF サーバがインストールされているコンピュータへ印刷メディアの更新ファイルをコピーします。
- 2 すべてのプログラムを終了します。
- 3 メディアアップデートファイルをダブルクリックします。
- 4 画面に表示された指示に従って、手順を完了します。

外部ソースから標準 Fiery XF ファイルのアップロード

標準 Fiery XF ファイル（ソースプロファイル (*.icc, *.icm)、スポット カラーテーブル (*.cxf)、L*a*b* 最適化ファイル (*.3cc)、視覚的色補正ファイル (*.vcc)、スクリーニングファイル (*.spt)）を外部データ記憶媒体やデスクトップからアップロードできます。Fiery XF アップローダは、正しいプログラムフォルダにファイルを直接コピーするため、手動でファイルを検索する手間を省きます。

標準 FIERY XF ファイルをアップロードするには

- 1 Fiery XF を起動します。
- 2 「ツール」メニューから、「Fiery XF アップローダ」をクリックします。
「Fiery XF アップローダ」ダイアログボックスが表示されます。



- 3 「標準ファイル」タブをクリックします。
- 4 「選択」をクリックし、ファイルを検索します。
必要に応じて、データ記憶媒体がコンピュータに接続されていることを確認してください。
- 5 ファイルを選択し、「開く」をクリックします。
- 6 「アップロード」をクリックします。
ファイルが正しくアップロードされたことを告げるメッセージが表示されます。
- 7 「OK」をクリックします。

サードパーティ製のメディアプロファイル

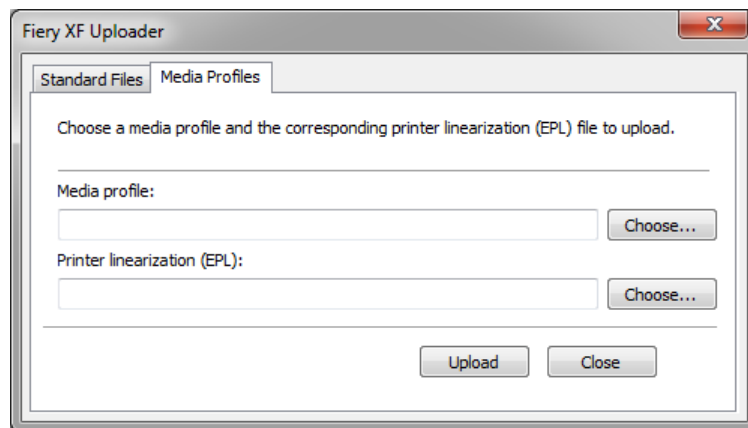
サードパーティ製の印刷メディアプロファイルを実行することができます
Fiery XF。

サードパーティ製の CMYK / OG の印刷メディアプロファイル

任意のサードパーティ製の CMYK / OG 印刷メディアプロファイルを既存のベースリニアリゼーションに結合することで、これを Fiery XF で使用することができます。

サードパーティ製の CMYK / OG の印刷メディアプロファイルをアップロードするには

- 1 「ツール」メニューから、「Fiery XF アップローダ」をクリックします。
「Fiery XF アップローダ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「印刷メディアプロファイル」タブをクリックします。



- 3 「印刷メディアプロファイル」から、「選択」をクリックして、サードパーティ製の印刷メディアプロファイルを参照します。
- 4 ファイルを選択し、「開く」をクリックします。
- 5 「プリンタリニアリゼーション (EPL)」から、「選択」をクリックし、「EFI Media Profiles」フォルダを参照します。
- 6 プリンタのフォルダを開き、印刷メディアタイプのサブフォルダとサードパーティ製の印刷メディアプロファイルに最も適合する解像度を開きます。
- 7 ベースリニアリゼーションファイルを選択し、「開く」をクリックします。

8 「アップロード」をクリックします。

ファイルが正しくアップロードされたことを告げるメッセージが表示されます。

9 「OK」をクリックします。

印刷メディアプロファイルは「マイプロファイル」フォルダにアップロードされ、Fiery XF で選択することができます。

関連参照：

142 頁の「[プロファイルとレンダリングインテントの選択](#)」

380 頁の「[デフォルトのフォルダ](#)」

サードパーティ製の RGB 印刷メディアプロファイル

RGB プリンタをお持ちの場合は、お使いのプリンタのメーカーや製紙メーカーが提供する RGB 印刷メディアプロファイルを使用することができます。しかし、まず、Fiery XF の特定メディアにプロファイルを結合する必要があります。RGB プロファイルコネクタと呼ばれる特別ツールは、この目的のために提供されています。Fiery XF のインストール時に RGB プロファイルコネクタをインストールしなかった場合、ここでインストールすることができます。

RGB プロファイルコネクタをインストールするには

- 1 ソフトウェア DVD をコンピュータの DVD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 ようこそ画面で、「Fiery XF をインストール」をクリックし、「選択機能」ダイアログボックスが表示されるまで、画面の指示に従います。
- 3 「カスタム」をクリックします。
- 4 「ツール」から、「RGB プロファイルコネクタ」を選択します。
- 5 画面の指示に従ってインストール作業を完了します。

詳細については、クイックスタートガイドを参照してください。

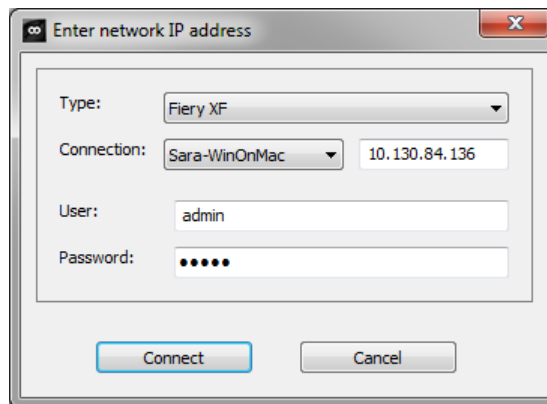
RGB メディアプロファイルを結合するには

RGB プロファイルコネクタを使用するには、RGB プリンタ用に出力デバイスを設定する必要があります。

1 次のいずれかを行います。

- Windows の場合、「スタート」ボタンをクリックし、「全てのプログラム」をポイントし、EFI > Fiery XF > RGB プロファイルコネクタの順にクリックします。
- Macintosh の場合は、を参照し「Fiery XF / クライアント / RGB プロファイルコネクタ」フォルダを参照し、「RGB プロファイルコネクタプログラム」ファイルをダブルクリックします。

「ネットワーク IP アドレスの入力」ダイアログボックスが表示されます。

**2 「タイプ」で、Fiery XF を選択します。****3 Fiery XF 「サーバコンピュータの IP アドレス」を選択するか、入力します。**

ドロップダウンリストボックスにサブネットワーク内の有効な Fiery XF サーバの一覧が IP アドレスと共に表示されます。

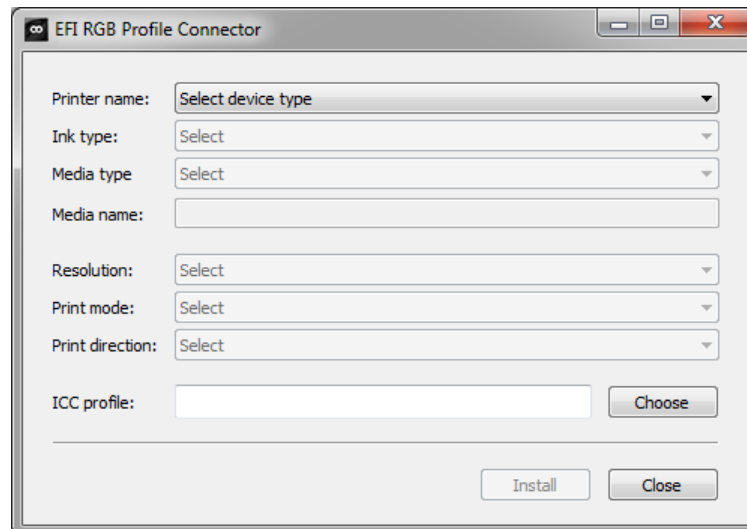
4 ユーザー名とパスワードを入力します。

Fiery XF ログイン資格情報でログオンします。

5 「接続」をクリックします。

Fiery XF サーバへの接続が設定されています。エラーメッセージが表示された場合は、Fiery XF が起動していることを確認してください。

「RGB プロファイルコネクタ」ダイアログボックスが表示されます。



6 「プリンタ名」で、RGB プリンタモデルを選択します。

7 「インクの種類」から、プリンタに挿入されているインクの種類を選択します。

8 「印刷メディアタイプ」で、RGB 印刷メディアプロファイルが作成された印刷メディアに最も適した印刷メディアタイプを選択します。

9 「メディア名」で、メディア名を入力します。

デフォルトでは、メディア名は、選択した印刷メディアタイプと同じです。名前はそのままにするか、カスタムメディア名を入力することができます。印刷メディアプロファイルは、ここで定義した名前で、Fiery XF で利用できるようになります。

10 RGB 印刷メディアプロファイルを作成するために使用された解像度、印刷モードと印刷方向を選択します。

この情報は、印刷メディアプロファイルと一緒に別紙に記載されているか、メーカーの Web サイトからダウンロードすることができます。

11 「選択」をクリックして RGB 印刷メディアプロファイルを参照します。

12 RGB 印刷メディアプロファイルを選択し、「開く」をクリックします。

13 「インストール」をクリックします。

新しいベースリニアリゼーションの組み合わせと ICC プロファイルが「EFI Media Profiles\My Profiles」フォルダにコピーされ、Fiery XF で選択することができます。

関連参照：

22 頁の「Fiery XF サーバの起動」

61 頁の「新規出力デバイスを作成するには」

143 頁の「印刷メディアプロファイルを選択するには」

サードパーティのプロファイリングソフトウェアを使用した印刷メディアプロファイルの作成

Color Profiler オプションのライセンスを持っていない場合には、任意のサードパーティ製のプロファイリングソフトウェアを使用して、Fiery XF で使う印刷メディアプロファイルを作成することができます。

サードパーティのプロファイリングソフトウェアを使用して印刷メディアプロファイルを作成するには



- 1 **Color Tools** を起動し、「ベースリニアリゼーションを作成」をクリックし、ベースリニアリゼーションファイルを作成します。

ベースリニアリゼーションファイルが作業フォルダ内に作成されます。

- 2 「マイプロファイル」フォルダにベースリニアリゼーションファイルを移動します。

- 3 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「メディア」タブで「印刷構成」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブをクリックします。「出力」タブで「印刷設定」ペインを開きます。

- 4 「インクの種類」から、ベースリニアリゼーションファイルを作成するために使用するインクの種類を選択します。

- 5 「メディア名」で、ベースリニアリゼーションファイルを作成するときに定義したメディア名を選択します。

- 6 「キャリブレーション設定」で、ベースリニアリゼーションファイルを選択します。

複数のファイルが利用可能であり、どれを選択すべきか分からないときは、「カタログ」をクリックして、ファイルプロパティを表示させます。正しいベースリニアリゼーションファイルは、それに結合された印刷メディアプロファイルがありません。

- 7 Job Explorer を開きます。リニアリゼーションワークフローのサードパーティ製ソフトウェアからプロファイリングチャートを読み込み、チャートを印刷します。

適用されたベースリニアリゼーションファイルを用いてジョブが印刷されます。カラーマネジメントは適用されません。

- 8 サードパーティ製のソフトウェアでは、印刷されたチャートを測定し、印刷メディアプロファイルを作成してください。

作成した印刷メディアプロファイルは、ベースリニアリゼーションファイルに基づいています。



- 9 **Color Tools** を起動し、「プロファイルコネクタ」をクリックします。ベースリニアリゼーションファイルと印刷メディアプロファイルを結合します。

印刷メディアプロファイルがリニアリゼーションファイルと同じフォルダにコピーされます。これで、Fiery XF で印刷メディアプロファイルを選択することができます。

関連参照：

143 頁の「印刷メディアプロファイルを選択するには」

157 頁の「ベースリニアリゼーションファイルを作成または編集する」

167 頁の「プロファイルコネクタ」

380 頁の「プログラムの構造」

色調整を行う

ジョブの色の微調整

プロダクションオプションのライセンスをお持ちの場合は、使いやすい色調整ツールを使って、CMYK と RGB のジョブの色の見た目を微調整することができます。

マルチカラージョブ（CMYKOG または CMYKRGB）、スポットカラーを含むジョブ、またはグレースケールジョブで色の調整を行うことはできません。

個々の色を微調整するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「色調整」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「色調整」ペインを開きます。

2 ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「カラー補正にスタティックウェッジを適用」を選択します（オプション）。

この設定は CMYK ジョブのみに適用することができます。プルーフィング環境では、色濃度は測定可能でなければなりません。コントロールストリップに変更を適用することで、測定値を用いて、色調整がすべてのジョブに適用されたことを確認することができます。

カラー補正はダイナミックウェッジには適用されません。

4 色を追加または削除するには、各カラーチャンネルの色補正スライダを動かします。または、パーセンテージを該当するボックスに入力することもできます。

System Manager で、CMYK と RGB のカラースペースを編集することができます。Job Explorer では、Fiery XF は自動的に選択したジョブのカラースペースを検出します。

5 明度、コントラスト、彩度を上げるまたは下げるために、適切なスライダを動かします。または、パーセンテージを該当するボックスに入力することもできます。

6 ぼかしやシャープネスを上げるまたは下げるためにスライダを動かします。または、パーセンテージを該当するボックスに入力することもできます。

7 変更を保存します。

Job Explorer では、ペインのバーにあるチェックボックスをクリアして再選択することにより、調整した内容とオリジナルによる効果を比較することができます。



異なるタイプの色調整で作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。プリセットバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。色調整のセットを適用したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

不純色を除去する

カラーマネジメント中に、色がプリンタの CMYK カラースペースに変換されます。このプロセスにより、少量の CMYK インクを強制的に純粋なカラー定義に加えることができます。

ブラックインク

100%ブラックがカラーマネジメントの対象となる場合、印刷時に汚い感じのブラックとなる CMYK に変換されます。ブラックインクの使用を強制することにより、全ての純粋ブラックの定義がカラーマネジメントの対象とならず、プリンタのブラックインクのみを使って出力するのを確実にすることができます。この設定は、文書やその他グラフィックプログラムで 100%ブラックとして定義されるエレメントに適用するのに非常に便利です。

純粋なブラックインクの使用を強制するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。

2 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「色最適化」から、「インクジェットブラックとしてのブラック」を選択します。

4 「しきい値」から、ブラックインクの割合 (%) を入力し、CMYK インクと混ぜるのではなく、純粋なブラックインクが利用される割合を設定することができます。

例えば、グレースケールイメージで、40%しきい値とは、39%ブラックが CMYK インクにより構成されることを意味し、40%ブラックでは、ブラックインクのみで印刷されます。文書や線図はほぼ常に 100%黒で定義されているため、しきい値設定により影響を受ける可能性は低くなります。



5 変更を保存します。

プロセスカラーとセカンダリカラー

生産オプションのライセンスをお持ちの場合、RGB から CMYK へカラースペースへ変換した際に生じた色調の不純物を除去することもできます。

プリンタは、シミュレーション（リファレンス）プロファイルで定義された色を再現しようとします。例えば、100%黄色は緑がかった色合いで定義されることがあります。この色合いを実現するために、シアンインクがイエローインクに追加されます。この場合、シアンは不純色となります。

Fiery XF に不純色の割合を無視し、純粋なイエローインクを使うように指示することにより、より彩度の高いイエローを実現できます。

この設定は、バナーやポスターでの使用に最適です。この設定により、グレー、肌色、スポットカラーなど、重要な色領域に影響を与えずに、生き生きとした鮮やかな色でジョブを印刷することができます。

プロセスカラーと不純色のセカンダリカラーを調整するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。

2 ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「色最適化」から、次のいずれかを選択します：

設定	説明
クリーンカラー	プロセスカラー（ブラックを除く）と不純色のセカンダリカラーを調整します。
インクジェットの黒色と同様のクリーン・カラーおよび黒色テキスト インクジェットの黒色と同様のクリーン・カラー、および黒色テキストとイメージ	プロセスカラー（ブラックを含む）と不純色のセカンダリカラーを調整します。 これらの設定は、「クリーンカラー」と「インクジェットブラックとしてのブラック」の組み合わせです。

4 「しきい値」から、「自動調整」または「手動調整」を選択します。

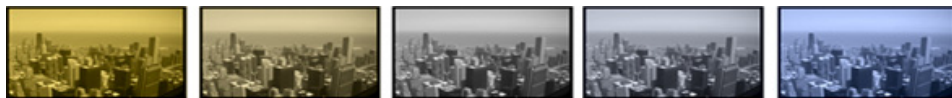
「自動調整」モードでは、Fiery XF が選択したプリンタ、メディア、プロファイルに合わせて最適な色調整を行います。「手動調整」モードでは、不純色をどの程度除去するかを設定することができます。「自動調整」の使用をお勧めします。



5 変更を保存します。

グレースケールに変換

ジョブをグレースケールに変換することができます。黄色っぽい色合い（ウォーム・グレー）から青っぽい色合い（クール・グレー）までの5段階で色合いを指定できます。



ジョブをグレースケールに変換するには

- 1 次のいずれかを行います。
 - System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。
 - Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。
- 2 ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 3 「詳細設定」から、「グレースケールに変換」を選択します。
- 4 グレーの色合いを選択するには、スライダを移動します。
- 5 変更を保存します。



色のネガを作成する

ジョブカラーを反転して色のネガを作成することができます。

色を反転させるには

- 1 次のいずれかを行います。
 - System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「出力」タブで、「詳細印刷オプション」ペインを開きます。
 - Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「出力」タブで、「詳細印刷オプション」ペインを開きます。
- 2 「分版ジョブ」で、「分版データの結合」を選択します。

この設定は、コンポジットジョブの色を反転させるために使用されます。
- 3 「カラーの反転」を選択します。
- 4 変更を保存します。



ジョブの読み込みと印刷

システムコンフィギュレーションを設定すると、ジョブを読み込んで、印刷を開始する準備が整います。

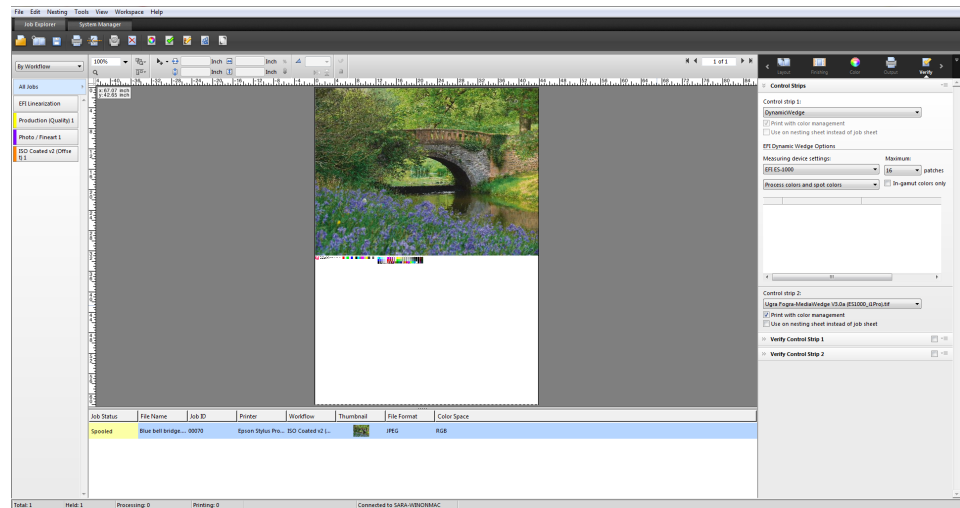
ジョブの読み込み

このセクションでは、Fiery XF での手動でのジョブの読み込み方法について説明します。

別の方法でジョブを読み込む場合の詳細については、本書の該当するセクションに記載されています。

FIERY XF でジョブを読み込むには

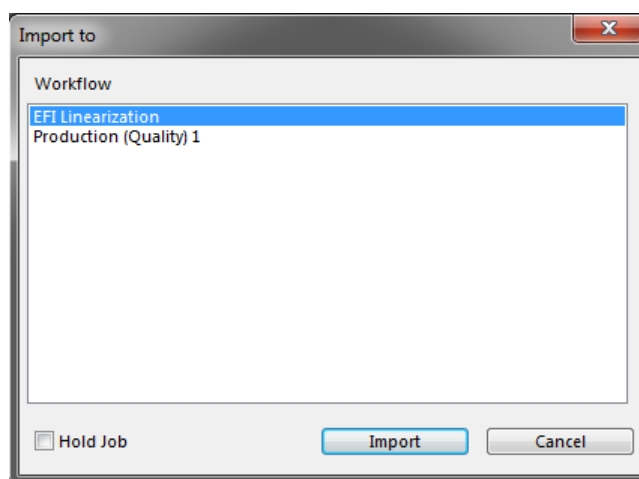
1 Job Explorer を開きます。



2 次のいずれかを行います。

- ツールバーで、「ジョブのインポート」を選択します。
- 「ファイル」メニューで、「ジョブのインポート」をクリックします。
- ジョブリスト内の任意の場所を右クリックし、「ジョブのインポート」をクリックします。
- 例えば、デスクトップやネットワークフォルダから、ジョブリストにファイルを直接ドラッグします。

「インポート先」ダイアログボックスが表示されます。



3 リストで、ワークフローを選択します。

ジョブに適した設定でセットアップされたワークフローを選択します。たとえば次のように入力します。

- 写真のワークフローにおいて、明るく鮮やかな色で印刷したいと思う写真を読み込みます。
- 印刷機の色を再現するように設定されているワークフローでプルーフイングジョブを読み込みます。

4 「ジョブの保留」を選択します（オプション）。

保留されたジョブは Fiery XF に読み込まれますが、自動的に印刷されません。準備ができたときに（例えば、ジョブ設定を適用後）、印刷を開始することができます。

ジョブがワークフロー設定に従って出力可能な場合、チェックボックスを選択する必要はありません。

5 「インポート」をクリックします。

ジョブが、ジョブリストに読み込まれます。

完全に自動化されたワークフローでは、ジョブがワークフロー設定に従って処理され、印刷されます。ジョブを編集する必要がある場合は、ジョブの処理をキャンセルし、ジョブごとの設定を行うことができます。

「ジョブの保留」ステータスでジョブを読み込む場合は、印刷する前に、ジョブごとの設定を行うことができます。

6 ジョブリストでジョブをクリックして、ジョブの設定を行います（オプション）。

7 変更を保存します。



関連参照：

424 頁の「レイアウト・オプション」

35 頁の「ジョブの処理をキャンセルするには」

193 頁の「ホットフォルダを介した印刷」

212 頁の「仮想プリンタを使った印刷」

ジョブを印刷する

次の場合、印刷は自動的に行われず、手動で行う必要があります：

- ジョブが「保留」ジョブとして読み込まれた場合。
- システムコンフィグレーションは、ワークフローエグジットでオフラインに設定されている場合。
- 以前にジョブ処理をキャンセルした場合。
- ジョブが一定作業の必要なエラーを生じた場合。

デフォルトでは、ジョブ全体が一部だけ印刷されます。つまり：

- 1 ページのジョブの場合、ジョブは全体が印刷されます。
- 複数ページのジョブの場合、すべてのページが印刷されます。
- 複数のシートを持つネスティングの場合には、すべてのシートが印刷されません。

印刷を開始する前には、部数を選択し、ページ範囲を指定し、複数のページまたはシートが印刷される順序を定義することができます。

印刷部数を定義するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「出力」タブから「印刷設定」ペインを開きます。
- Job Explorer ジョブ一覧でジョブをクリックします。「出力」タブから「印刷設定」ペインを開きます。

マルチページドキュメントの各ページを印刷するには、「ページまたはシートを印刷する」を選択し、必要なページ範囲を入力 — 例えば、「2,610-13」と入力して、2、6、10、11、12、13 ページを印刷します。印刷したいコピー数を入力します。

ページの範囲入力した場合、「ページ」設定から適切な項目を選択して、奇数ページと偶数ページを別に印刷できます。

印刷されるページの順番を並び替えることもできます。3 ページの文書を3部コピーする際のデフォルトの順番は以下の通りです。1, 1, 1, 2, 2, 2, 3, 3, 3. 並べ替えコピーでは、次の順序で印刷されます。1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3. 「逆の順番」を選択して印刷順序を逆にすることができます。



2 変更を保存します。

ジョブを印刷するには

- 1 印刷メディアがプリンタにセットされ、プリンタの電源がオンになっていることを確認します。
- 2 以下のいずれかの方法でジョブを印刷します：



- ツールバーで、「印刷」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「印刷」をクリックします。
- ジョブリストでジョブリストを右クリックし、「印刷」をクリックします。

関連参照：

65 頁の「システムコンフィグレーションのオンライン/オフライン設定」

189 頁の「ジョブの読み込み」

ホットフォルダを介した印刷

ホットフォルダは、既定のアクセス権限を持つフォルダのことです。ホットフォルダにより、Fiery XF をコンピュータにインストールしていないユーザがジョブを中央にあるフォルダにコピーすることが可能になります。ホットフォルダは、定期的に Fiery XF によって監視され、ホットフォルダにあるジョブは自動的に Fiery XF ワークフローで読み込まれ、ワークフロー設定に従って処理されます。

ホットフォルダを介してジョブを印刷するには、2つの方法があります：

- ホットフォルダにジョブを手動でコピーすることができます。
- Fiery XF を仮想プリンタとして設定できます。仮想プリンタを設定すると、グラフィックプログラムのプリントメニューで Fiery XF を選択することができます。このような方法で印刷するために送信されたジョブは、ホットフォルダから Fiery XF に読み込まれます。

ホットフォルダは、通常、ある特定のワークフローに対して設定されます。しかし、負荷分散を適用することにより、複数のワークフローでホットフォルダを監視するように設定することも可能です。この場合、ホットフォルダに配置されているジョブが利用可能となった最初のアイドルワークフローに自動的に転送されます。

関連参照：

212 頁の「[仮想プリンタを使った印刷](#)」

371 頁の「[負荷分散](#)」

Fiery XF でホットフォルダを作成する

ホットフォルダは次の場所で作成することができます：

- Fiery XF サーバ（ローカルホットフォルダ）と同じコンピュータ上
- Fiery XF サーバ（ネットワークホットフォルダ）とは異なるコンピュータ上

Windows では、次の要件を満たす必要があります：

- 両方のコンピュータが同じログイン資格でログオンされている必要があります。
- Windows ユーザーは、管理者ステータスでなければなりません。

FIERY XF でホットフォルダを設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- 2 グリーンの矢印をクリックして、ワークフローをオフラインにします。
- 3 「ファイル」タブで「ジョブ検出」ペインを開きます。「選択」をクリックし、ホットフォルダとして使用したいフォルダの場所を参照します。

ネットワーク上のフォルダを参照していることを確認してください。

ホットフォルダは、複数のユーザがそれらにアクセスできるように共有設定をしなければなりません。従って、ホットフォルダがハードディスクのルートレベルにあるフォルダのサブフォルダとなるように作成することをお勧めします。
(例：C:\フォルダ\ホットフォルダまたは Macintosh HD/ フォルダ/ホットフォルダ。次のことを守ってください：

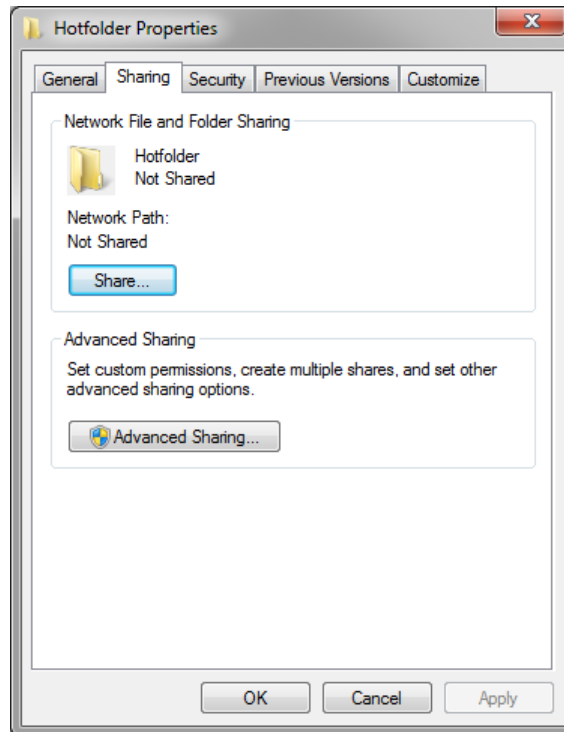
- 不要な読み取り / 書き込みアクセス問題を回避するために、デスクトップ上にホットフォルダを作成しないでください。
 - インターナルリンクとしてマッピングされているフォルダは選択しないでください。
- 4 「OK」をクリックします。
 - 5 ワークフローエントリにあるレッドボックスをクリックして、ワークフローをオンラインに戻します。

オンラインになったら、複数のユーザがそれらにアクセスできるように共有設定をしなければなりません。

共有フォルダ (WINDOWS の場合) としてホットフォルダを設定するには

ホットフォルダが、Fiery XF サーバーと同じコンピュータ上にある場合、次の手順を実行します。ホットフォルダと Fiery XF サーバーを別々のコンピュータにインストールされている場合は、両方のコンピュータが同じログイン資格で設定される必要があります。

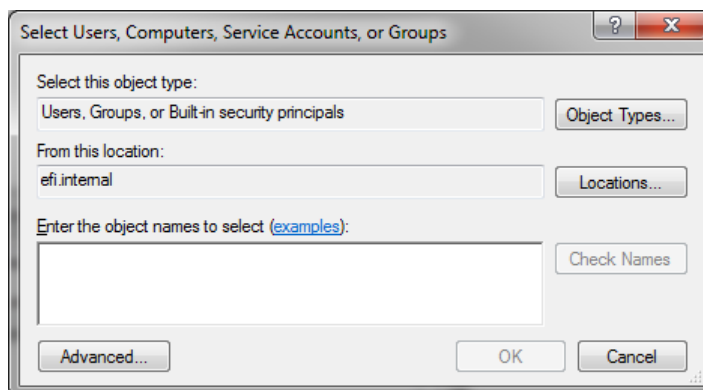
- 1 Windows エクスプローラで、ホットフォルダを含むフォルダを参照します (例 : C:\ フォルダ)。
- 2 フォルダを右クリックし、「プロパティ」 > 「共有タブ」の順にクリックします。



- 3 「詳細共有設定」をクリックします。
「詳細共有設定」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「このフォルダを共有する」を選択します。
- 5 「アクセス許可」をクリックします。
「アクセス許可」ダイアログボックスが表示されます。

6 共有フォルダへのアクセス権限を持つグループ名またはユーザー名を選択します。

グループまたはユーザーが表示されていない場合は、「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを追加します。



次を実行してください。

- Windows ユーザー名を入力し、「名前の確認」をクリックして、オブジェクトが存在していることを確認します。
 - リストで、ユーザー名をクリックし、「OK」をクリックします。
オブジェクトがグループリストに追加されます。
- 7 グループまたはユーザに読み取り全権を割り当てるか権限を変更します。**
- 8 「OK」をクリックしてすべてのダイアログボックスを閉じます。**

共有フォルダ（MACINTOSH の場合）としてホットフォルダを設定するには

- 1 ホットフォルダを含むフォルダを参照します（例：Macintosh HD/ フォルダ）。
- 2 フォルダを右クリックし、「情報を見る」をクリックします。
- 3 「一般」から、「共有フォルダ」を選択します。
- 4 「共有とアクセス権限」から、ユーザまたはユーザグループへの読み取りおよび書き込みアクセスを許可するため、権限を変更します。

ユーザまたはユーザグループが表示されない場合は、ユーザを新規作成します。
次を実行してください。

- 「共有とアクセス権限」から、「追加 (+)」をクリックします。
- 「新しい人」をクリックし、ユーザー名を入力します。
- パスワードを定義します。該当するボックス内にもう一度パスワードを入力して確認します。
- 「アカウントの作成」をクリックします。

5 「情報」ダイアログボックスを閉じます。

関連参照：

67 頁の「システムコンフィグレーションをオフラインに設定するには」

197 頁の「Windows ユーザの設定」

Windows ユーザの設定

Fiery XF サーバは Windows 上でサービスとして実行しています。デフォルトでは、ローカルコンピュータに対してログイン権限が定義されています。これは、Fiery XF はネットワークに配置されているフォルダと通信できないことを意味します。

Fiery XF がネットワークを介してホットフォルダと通信できるようにするには、次の要件を満たす必要があります：

- ホットフォルダと Fiery XF サーバを別々のコンピュータにある場合は、両方のコンピュータが同じログイン資格でログオンされている必要があります。両方のコンピュータ上でユーザの新規作成が必要かもしれません。
- Windows ユーザーは、管理者ステータスでなければなりません。

管理者権限を持つ Windows ユーザーを新規作成するか、既存のユーザーに管理者ステータスを割り当てることができます。

WINDOWS ユーザを新規作成するには

Fiery XF サーバとホットフォルダが別々のコンピュータにある場合、次の手順を実行してください。または、2 台目のコンピュータ上に既存ユーザを複製することもできます。

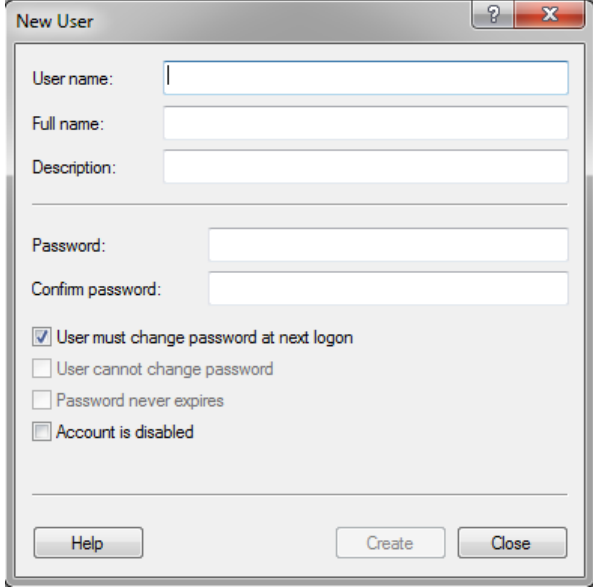
1 「コントロールパネル」で、「ユーザアカウント」>「ユーザアカウントの管理」の順にクリックします

「ユーザアカウント」ダイアログボックスが表示されます。

2 「詳細」タブをクリックします。

3 「詳細ユーザー管理」で、「詳細」をクリックします。

- 4 「名前」列で、「ユーザ」を右クリックし、「ユーザを新規作成」をクリックします。



- 5 ユーザー名を入力します。
- 6 パスワードを定義します。該当するボックス内にもう一度パスワードを入力して確認します。
両方のコンピュータに同じユーザー名とパスワードを使用してください。
- 7 パスワードに関連するすべてのチェックボックスをオフにします。
- 8 「作成」をクリックします。

管理者ステータスを WINDOWS ユーザに割り当てるには

- 1 「コントロールパネル」で、「ユーザアカウント」>「ユーザアカウントの管理」の順にクリックします
「ユーザアカウント」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「詳細」タブをクリックします。
- 3 「詳細ユーザー管理」で、「詳細」をクリックします。
- 4 「ローカルユーザーとグループ (ローカル)」列で、「ユーザー」をクリックします。
- 5 「名前」列で、「ユーザ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 6 「所属するグループ」タブをクリックし、「追加」をクリックします。

- 7 「選択するオブジェクト名を入力してください」に、「管理者」と入力し、「名前の確認」をクリックします。

名前は次のように表示されます：IP アドレス \ 管理者 または コンピュータ名 \ 管理者。

- 8 「OK」をクリックしてすべてのダイアログボックスを閉じます。

関連参照：

392 頁の「[印刷の問題](#)」

UNIDRIVER による印刷

Unidriver は、EFI によって開発された特殊なプリンタドライバです。仮想プリンタのように、Unidriver は任意のグラフィックプログラムから Windows や Macintosh の Fiery XF サーバに直接印刷することを可能にします。しかし、Unidriver には、次の利点があります：

- 複数の Fiery XF ワークフローを印刷することができます。
- Fiery XF で、同等のワークフローの設定を上書きするカスタム設定を行うことができます。カスタム設定はすべてのジョブ（他のグラフィックプログラムから送信したジョブを含む）に適用可能です。

Unidriver をインストールすることができるコンピュータ数に制限はありません。

Windows

このセクションでは、Windows でどのように Unidriver をインストール、設定、およびこれを使って印刷するかについて説明します。

UNIDRIVER をインストールするには

Unidriver が既に 1 台のコンピュータにインストールされている場合、別のコンピュータにプログラムファイルをコピーすることができます。デフォルトでは、Unidriver は `..EFI\Fiery Unidriver` フォルダにインストールされています。EFI-Unidriver フォルダを別のコンピュータのデスクトップにコピーします。その後、PrinterInstaller アプリケーションファイルをダブルクリックし、画面の指示に従います。

Unidriver が別のコンピュータにインストールされていないときは、以下で説明するように、インストール DVD からインストールすることができます：

- 1 **グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータの DVD-ROM ドライブにインストール DVD を挿入します。**

ようこそ画面が表示されます。

- 2 「Fiery ツール」をクリックし、UniDriver フォルダを開きます。
- 3 「Install EFI Unidriver」ダブルクリックして、および画面上の指示に従ってください。

UNIDRIVER をセットアップするには

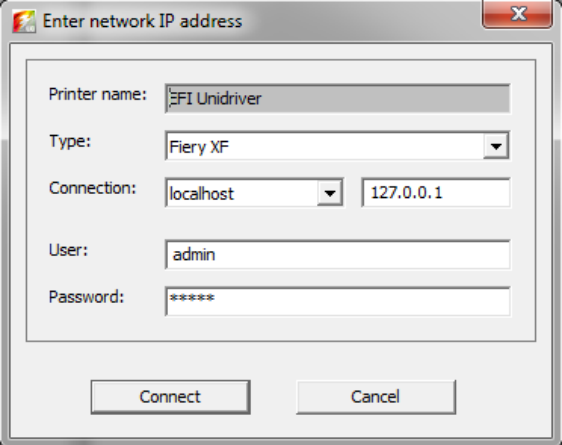
次の設定を実行する前に、Fiery XF が実行中であることを確認してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「デバイスとプリンタ」をクリックします。

- 2 EFI Unidriver を右クリックし、「印刷環境設定」をクリックします。

「EFI Unidriver 印刷環境設定」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 EFIUnidriver タブで、「設定の変更」をクリックします。



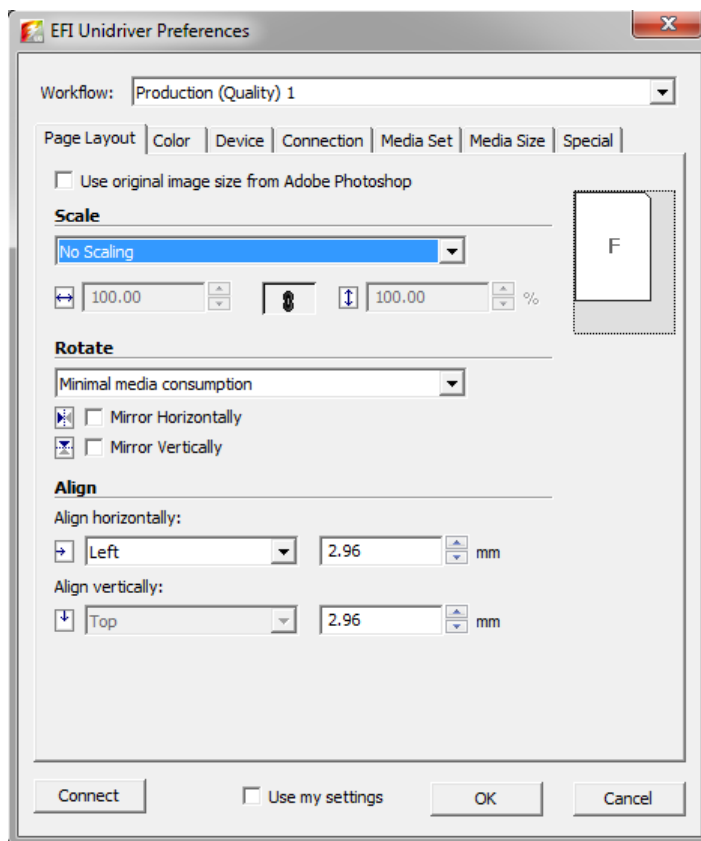
The screenshot shows a dialog box titled "Enter network IP address". It contains the following fields and controls:

- Printer name: EFI Unidriver
- Type: Fiery XF (dropdown menu)
- Connection: localhost (dropdown menu) and 127.0.0.1 (text input)
- User: admin
- Password: *****
- Buttons: Connect, Cancel

- 4 「タイプ」で、Fiery XF を選択します。
- 5 「接続」で、Fiery XF サーバがインストールされているコンピュータを選択します。または、Fiery XF サーバの IP アドレスを入力します。
- 6 「ユーザ」と「パスワード」から、Fiery XF ログイン資格情報を入力します。

7 「接続」をクリックします。

「Unidriver 環境設定」ダイアログボックスが表示されます。

**8 「ワークフロー」から、「ワークフロー」を選択します。**

タブは、選択したワークフローで Fiery XF になされた設定を表示します。Fiery XF のワークフロー設定を使用したくない場合、Unidriver で好みのカスタム設定を行うことができます。Unidriver 設定は、Fiery XF のワークフロー設定に優先します。変更終了後、「自分の設定を使用する」を選択します。

「接続」をクリックし、別の IP アドレスを選択すると、いつでも別の Fiery XF サーバにログオンできます。

9 「OK」をクリックして「EFI Unidriver 環境設定」ダイアログボックスを閉じます。

デフォルトでは、Unidriver はデフォルトのプリンタとしてインストールされます。Unidriver をデフォルトのプリンタにしたい場合は、次の操作を行います：「スタート」をクリックし、「デバイスとプリンタ」をクリックし、デフォルトのプリンタにしたいプリンタを右クリックして、「デフォルトのプリンタに設定」をクリックします。

ジョブを印刷するには

デフォルトでは、ジョブは Fiery XF のワークフロー設定に従って印刷されます。Unidriver で、ワークフローの設定を上書きするジョブ設定を適用することができます。

実行する必要がある操作は、使用しているグラフィックプログラムによって若干異なる場合があります。

- 1 **グラフィックプログラムで、ジョブファイルを開き、印刷コマンドを選択します。**
- 2 **印刷ダイアログボックスで、Unidriver プリンタを選択します。**
- 3 **次のいずれかを行います。**

- Unidriver でジョブの設定を行う必要がなければ、「OK」をクリックしてジョブを印刷します。

EFI eXpress へのログインに失敗したことを知らせるメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。Fiery XF サーバが実行中であることを確認してください。次に、「接続」をクリックし、Fiery XF にログオンします。

- 印刷前に Unidriver 設定を表示したり、変更を加える場合は「環境設定」または「プロパティ」等をクリックします。「Unidriver 環境設定」ダイアログボックスが表示されます。異なるワークフローを選択するか、または必要に応じて、設定を変更します。変更を適用するには、「自分の設定を使用する」をクリックしてください。

「自分の設定を使用する」チェックボックスをクリアすることにより、Fiery XF ワークフロー設定に戻すことができます。

Macintosh

このセクションでは、Macintosh でどのように Unidriver をインストール、設定、およびこれを使って印刷するかについて説明します。

インストールが完了したら、次のステップは、Unidriver をプリンタとして追加することです。この作業は、Unidriver をインストールしたコンピュータ上で行います。Fiery XF サーバが Unidriver と同じサブネット内にインストールされているか、異なるサブネットにインストールされているかにより、指示が異なります。該当する指示に従って、作業を進めてください。

UNIDRIVER をインストールするには

- 1 **グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータの DVD-ROM ドライブにソフトウェア DVD を挿入します。**

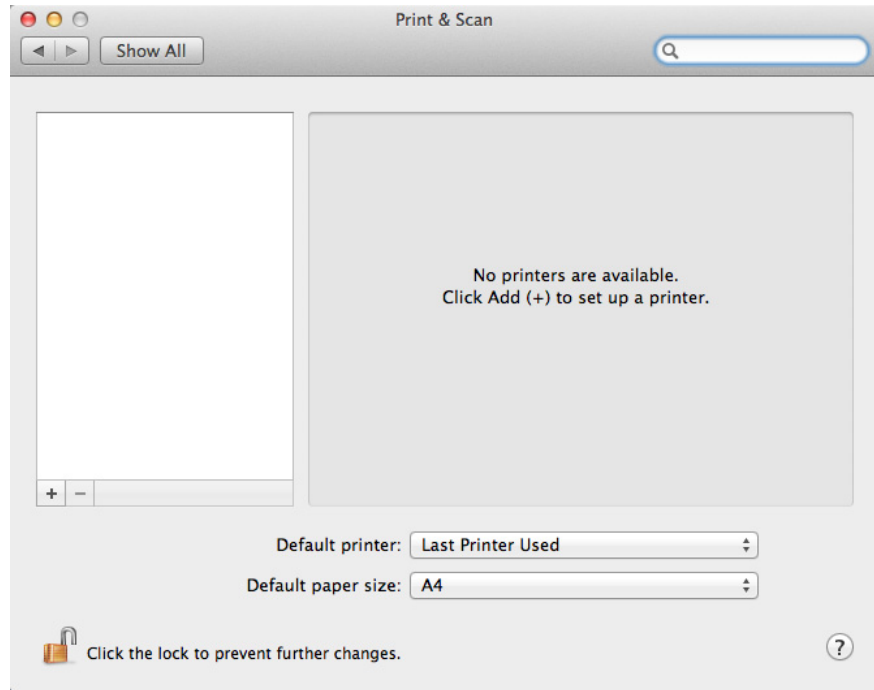
ようこそ画面が表示されます。

- 2 **「Fiery ツール」をダブルクリックし、UniDriver をダブルクリックし、「Fiery のインストール Unidriver」をクリックしてから、画面上の指示に従ってください。**

UNIDRIVER を同じサブネットにあるプリンタとして追加するには

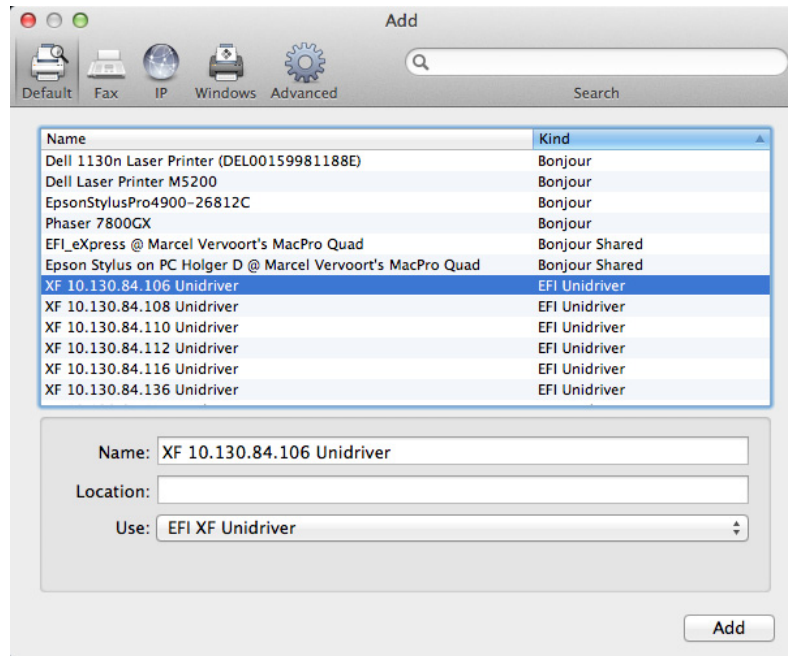
次の設定を実行する前に、Fiery XF が実行中であることを確認してください。

- 1 「システム環境設定」で「プリント&スキャン」を選択します。

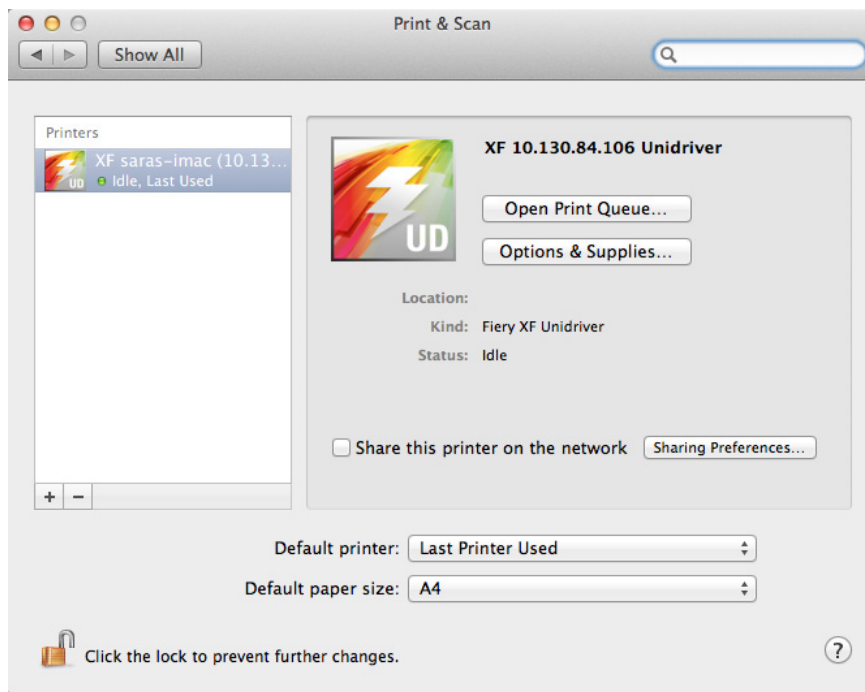


2 「追加 (+)」をクリックします。

メニューが開いたら、「プリンタまたはスキャナの追加」をクリックします。



- 3 プリンタ名リストから「デフォルト」タブで、Fiery XF サーバがインストールされているコンピュータ名を選択し、「追加」をクリックします。

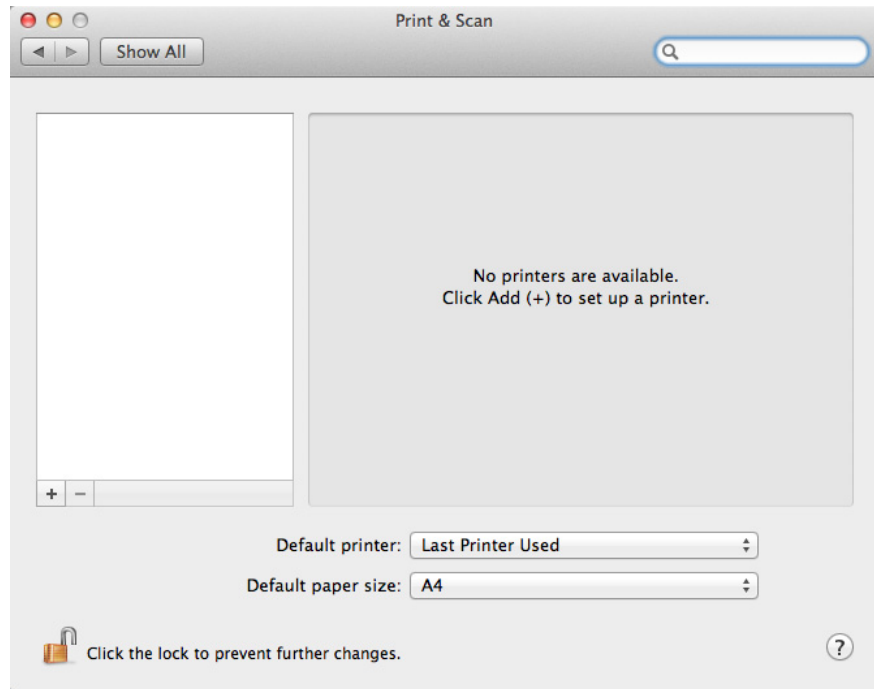


Fiery XF サーバーは、プリンタとして追加されます。

UNIDRIVER を別のサブネットにあるプリンタとして追加するには

次の設定を実行する前に、サーバーとなる Fiery XF が起動していることを確認してください。

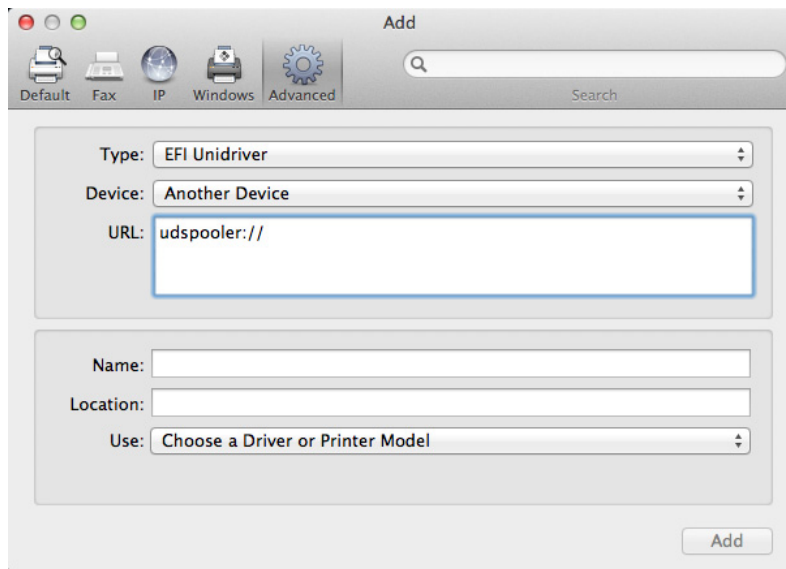
- 1 「システム環境設定」で「プリント&スキャン」を選択します。



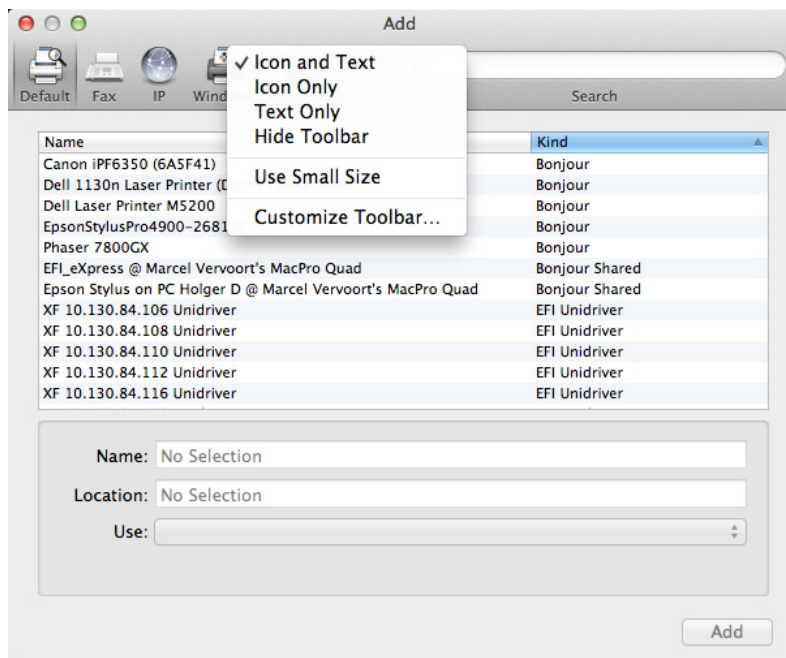
- 2 「追加 (+)」をクリックします。

メニューが開いたら、「プリンタまたはスキャナの追加」をクリックします。

3 「詳細」をクリックします。



「詳細」ボタンが無効になっている場合は、ツールバーを右クリックし、「ツールバーをカスタマイズ」をクリックします。次に、ツールバーに「詳細」ボタンをドラッグします。



4 「タイプ」から、「Fiery Unidriver」を選択します。

- 5 「デバイス」から、「他のデバイス」を選択します。
- 6 「URL」から、Fiery XF サーバがインストールされているコンピューターの IP アドレスを入力します。

URL は、次の構文に従う必要があります：`//ip=xxx.xxx.xxx.xxx/xf`。但し、「xxx.xxx.xxx.xxx」は、コンピューターの IP アドレスを表しています。

- 7 「名前」から、簡単に識別できる一意の名前を入力します。

これは、グラフィックプログラムで選択したプリンタの名前です。名前に Unidriver という言葉を含めることをお勧めします。

- 8 「使用」から、「その他」を選択します。

新しいダイアログボックスが表示されます。

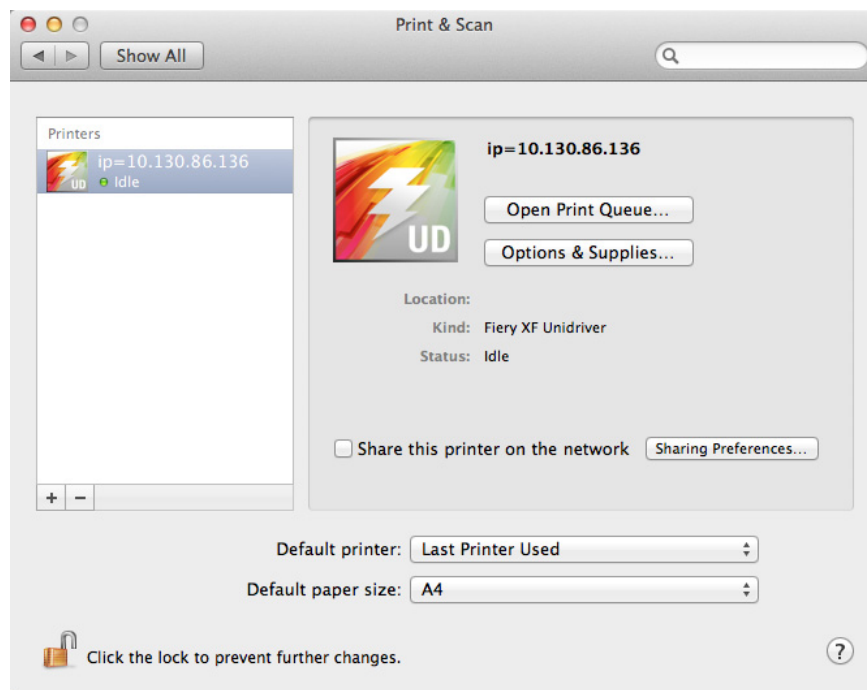
- 9 EFI_UD_XF.ppd ファイルを参照します。

PPD は次の場所にあります：`/Library/Printers/PPDs/contents/Resources/en.lproj` プロジェクトに位置しています。

- 10 PPD を選択して、「開く」をクリックします。

「詳細」タブに戻ります。

- 11 「追加」をクリックします。



Fiery XF サーバーは、プリンタとして追加されます。

ジョブを印刷するには

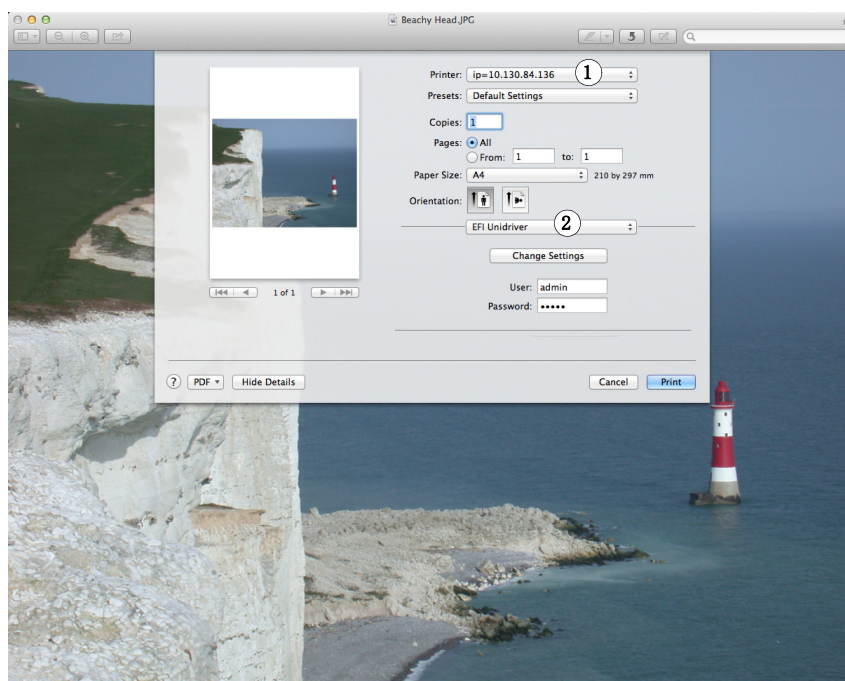
デフォルトでは、ジョブは Fiery XF のワークフロー設定に従って印刷されます。Unidriver で、ワークフローの設定を上書きするジョブ設定を適用することができます。

実行する必要がある操作は、使用しているグラフィックプログラムによって若干異なる場合があります。

- 1 グラフィックプログラムで、ジョブファイルを開き、印刷コマンドを選択します。
- 2 「印刷」ダイアログボックスで、Fiery XF サーバの IP アドレスを選択します。
- 3 ドロップダウンリストボックスから「EFI Unidriver」を選択します。

「印刷」ダイアログボックス

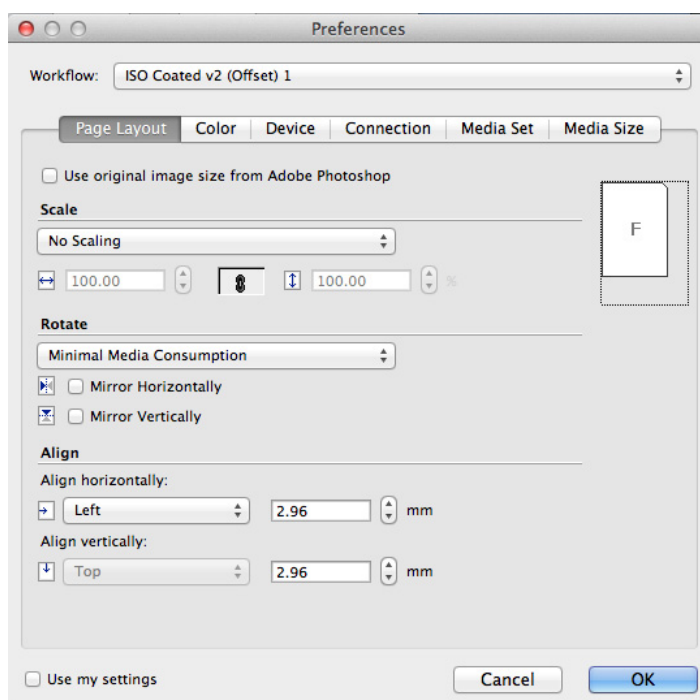
- 1 Fiery XF サーバの IP アドレスを選択
- 2 「EFI Unidriver」を選択



- 4 「ユーザ」と「パスワード」から、Fiery XF ログイン資格情報を入力します。

5 次のいずれかを行います。

- Unidriver でジョブの設定を行う必要がなければ、ジョブを印刷します。
ログインに失敗した旨を知らせるエラーメッセージが表示された場合、Fiery XF サーバが実行されていることを確認してください。その後、Fiery XF にログオンします。
- 印刷前に設定を表示したり、変更を加える場合は「設定の変更」をクリックします。「Unidriver 環境設定」ウィンドウが表示されます。



異なるワークフローを選択するか、または必要に応じて、設定を変更します。

「自分の設定を使用する」チェックボックスをクリアすることにより、Fiery XF ワークフロー設定に戻すことができます。

仮想プリンタを使った印刷

Fiery XF を仮想プリンタとして設定できます。仮想プリンタを設定することにより、グラフィックプログラムの印刷コマンドから Fiery XF に直接印刷することができます。

Fiery XF で仮想プリンタをセットアップする

グラフィックプログラムから直接印刷するには、Fiery XF で特定の設定をする必要があります。

仮想プリンタとして FIERY XF を設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- 2 グリーンの矢印をクリックして、ワークフローをオフラインにします。
- 3 「ファイル」タブで「ジョブ検出」ペインを開きます。
- 4 ホットフォルダを作成します。

Macintosh では、ホットフォルダに誰でも書き込みアクセス権限があることを確認してください。ホットフォルダがサブフォルダである場合は、すべての親フォルダも読み取りアクセス権限を持っている必要があります。アクセス権限を確認するには、フォルダを右クリックし、「情報を見る」をクリックします。「共有とアクセス権限」で、権限設定を必要に応じて変更してください。

- 5 「仮想プリンタの作成」をクリックします。
- 6 プリンタ名を入力します (オプション)。

この名前は、グラフィックプログラムでプリントダイアログボックスに表示されるプリンタ名です。デフォルトのプリンタ名を使用したり、カスタムのプリント名を入力することもできます。カスタムプリンタ名を入力する場合、特殊文字を含む名前を使用しないことをお勧めします。



- 7 変更を保存します。
- 8 ワークフローエントリにあるレッドの四角をクリックして、ワークフローをオンラインにします。
- 9 共有タブをクリックして「これらのプリンターを他のコンピューターと共有する」が選択されていることを確認します。

- Windows:

「スタート」をクリックし、「デバイスとプリンタ」をポイントしてから、仮想プリンタ上で右クリックし、「プリンタプロパティ」をクリックします。「共有」タブで、「このプリンタを共有する」を選択します。「ディレクトリに表示する」チェックボックスも選択します。仮想プリンタはネットワーク上の他のユーザのコンピュータにも表示されます。

- Macintosh:
「システム環境設定」を開きます。「プリント&スキャン」で、仮想プリンタが表示されていることを確認してください。プリンター一覧で、仮想プリンタを選択し、ネットワーク上でプリンタを共有するためのチェックボックスが選択されていることを確認してください。次に、「環境設定の共有」をクリックし、「プリンタの共有」が選択されていることを確認します。

一度 Fiery XF を設定すると、グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで特定の設定をする必要があります。

関連参照：

193 頁の「[Fiery XF でホットフォルダを作成する](#)」

213 頁の「[グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータの設定](#)」

グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータの設定

印刷前に、グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで、Fiery XF が仮想プリンタとして設定されていることが必要です。このセクションでは、Windows 7 と Macintosh OS X 10.8 のオペレーティングシステムでの設定方法を説明します。その他のオペレーティング・システムでは、多少異なる場合があります。

次のセクションの手順を実行する前に、次の点を確認してください：

- ワークフローは System Manager でオンラインになっている必要があります。
- 仮想プリンタは、プリンタの共有のために正しく設定されている必要があります。正しく設定されていない場合は、仮想プリンタをネットワーク内で検出することはできません。

関連参照：

65 頁の「[システムコンフィグレーションのオンライン / オフライン設定](#)」

212 頁の「[Fiery XF で仮想プリンタをセットアップする](#)」

Windows から Fiery XF Windows サーバーへの印刷

Windows では、Fiery XF は自動的に共有プリンタを作成し、そのほかの共有プリンタと同様に使用できます。

グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで以下の作業を行ってください。

ローカル Fiery XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには

Fiery XF サーバとグラフィックプログラムが同じコンピュータにインストールされている場合、仮想プリンタは、グラフィックプログラムのプリントメニューにすぐに表示されます。それ以上何の作業も必要ありません。お使いのグラフィックプログラムから仮想プリンタに印刷することができます。

リモート FIERY XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには（インターネットアクセスが必要になります）

Fiery XF サーバとグラフィックプログラムが異なるコンピュータにインストールされている場合、仮想プリンタを新しいプリンタとして追加する必要があります。グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで以下の作業を行ってください。

グラフィックプログラムを実行しているコンピュータがインターネットアクセスがある場合、この方法を用います。

- 1 **Web ブラウザを起動し、Fiery XF サーバのコンピュータ名か IP アドレスを入力し、<Enter>キーを押します。**

次のように記述します。

\\xx.xxx.xxx.xxx or \\ コンピュータ名

「リモートプリンタの表示」ウィンドウが開き、仮想プリンタが表示されます。

プリンタが見つからない場合は、正しくディレクトリにリストされるように設定されているかを確認してください。

- 2 **仮想プリンタをダブルクリックします。**

これで、お使いのグラフィックプログラムから仮想プリンタに印刷することができます。

次の点に留意してください：

Windows は、64 ビットまたは 32 ビットのオペレーティングシステム用にたった 1 つしかドライバを作成していません。Fiery XF サーバとグラフィックプログラムが異なるモードで Windows を実行しているコンピュータにインストールされている場合、追加の作業が必要です。

リモート FIERY XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには（インターネットアクセスは不要です）

Fiery XF サーバとグラフィックプログラムが異なるコンピュータにインストールされている場合、仮想プリンタを新しいプリンタとして追加する必要があります。グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで以下の作業を行ってください。

グラフィックプログラムを実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできない場合に、この方法を用います。

- 1 **「スタート」>「デバイスとプリンタ」>「プリンタの追加」の順にクリックします。**

「プリンタの追加」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 **「ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタの追加」を選択します。**

使用可能なプリンタの一覧が表示されます。

- 3 仮想プリンタが表示されない場合は、「探しているプリンタが表示されていません」を選択します。

名前または TCP / IP アドレスでプリンタを検索するためのダイアログボックスが表示されます。

- 4 「共有プリンタを名前を選択する」を選択し、仮想プリンタの名前を入力します。

次のように記述します。

\\ コンピュータ名 \ プリンタ名 または http:// コンピュータ名 / プリンタ / プリンタ名 / プリンタ

コンピュータ名が分からない場合は、Fiery XF サーバを実行しているコンピュータ上で検索することができます。「スタート」をクリックし、「コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定」で、コンピュータ名を探してください。

- 5 「次へ」をクリックします。

仮想プリンタがインストールされています。

- 6 「次へ」をクリックします。

- 7 仮想プリンタをデフォルトプリンタとして設定します (オプション)。

- 8 仮想プリンタが正しく動作していることを確認するためにテストページを印刷します (オプション)。

テストページが、Fiery XF のジョブリストに表示されます。

- 9 「完了」をクリックします。

これで、お使いのグラフィックプログラムから仮想プリンタに印刷することができます。

次の点に留意してください：

Windows は、64 ビットまたは 32 ビットのオペレーティングシステム用にたった 1 つしかドライバを作成していません。Fiery XF サーバとグラフィックプログラムが異なるモードで Windows を実行しているコンピュータにインストールされている場合、追加の作業が必要です。

FIERY XF WINDOWS 64 ビットおよび WINDOWS 32 ビットのオペレーティングシステムで仮想プリンタを設定するには

リモート仮想プリンタへの接続を設定後、異なるモードで Windows を動作しているコンピュータに Fiery XF サーバとグラフィックプログラムがインストールされている場合は、次のような追加の作業が必要になります。- たとえば、Fiery XF サーバが Windows 64 ビットオペレーティングシステムにインストールされており、グラフィックプログラムは Windows 32 ビットオペレーティングシステムにインストール場合です。

1 次を実行してください。

- Fiery XF Server がインストールされているコンピュータ：
 - 「スタート」をクリックし、「デバイスとプリンタ」をポイントしてから、仮想プリンタ上で右クリックし、「プリンタプロパティ」をクリックします。「詳細」タブで、ドライバ名をメモしておきます。デフォルトのドライバ名は「EFI XFFiery XF プリンタ」です。「OK」をクリックします。
 - 「ツール」フォルダからグラフィックプログラムを実行しているコンピュータのデスクトップに適切な PPD フォルダをコピーします。
- グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータ：
 - デスクトップで、先ほど Fiery XF サーバコンピュータからコピーした PPD フォルダを開きます。テキストプログラムで、EFI のセットアップ情報 ファイルを開きます。「EFI」から、先にメモした名前と全く等しくなるようにドライバ名を上書きします。たとえば、「EFI Colorproof X」を「EFI XF Fiery XF Printer」と上書きします。
 - 「スタート」をクリックし、「デバイスとプリンタ」にポインタを合わせてから、「プリンタの追加」をクリックします。「プリンタの追加」ダイアログボックスが表示されます。「ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタの追加」をクリックし、「次に進む」をクリックします。「探しているプリンタが表示されません」をクリックし、「次に進む」をクリックします。

「共有プリンタを名前を選択する」を選択し、Fiery XF 仮想プリンタのコンピュータ名または IP アドレスを入力後に仮想プリンタ名を入力します。次のように記述します。

\\xxx.xxx.xxx.xxx\仮想プリンタ名 または \\コンピュータ名\仮想プリンタ名。

コンピュータ名が分からない場合は、Fiery XF サーバを実行しているコンピュータ上で検索することができます。「スタート」をクリックし、「コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定」で、コンピュータ名を探してください。

「次へ」をクリックします。ドライバを検索するよう指示する画面が表示されたら、「参照」をクリックし、デスクトップ上の変更済み *.inf ファイルを参照し、「開く」をクリックします。画面の指示に従って作業を完了します。

関連参照：

212 頁の「Fiery XF で仮想プリンタをセットアップする」

215 頁の「Fiery XF Windows 64 ビットおよび Windows 32 ビットのエペレーティングシステムで仮想プリンタを設定するには」

221 頁の「グラフィックプログラムから Fiery XF 仮想プリンタへの印刷」

380 頁の「デフォルトのフォルダ」

Macintosh から Fiery XF Macintosh サーバへの印刷

グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで以下の作業を行ってください。

ローカル FIERY XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには

Macintosh OS X では、Fiery XF は自動的に共有プリンタを作成し、そのほかの共有プリンタと同様に使用できます。それ以上何の作業も必要ありません。お使いのグラフィックプログラムから仮想プリンタに印刷することができます。

同じサブネットにあるリモート FIERY XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには

Fiery XF サーバとグラフィックプログラムが異なるコンピュータにインストールされている場合、仮想プリンタを新しいプリンタとして追加する必要があります。

1 「システム環境設定」で「プリント&スキャン」を選択します。

2 「追加 (+)」をクリックします。

メニューが開いたら、「プリンタまたはスキャナの追加」をクリックします。

3 「デフォルト」タブ内、プリンター名一覧から、Fiery XF 仮想プリンタを選択します。

4 「使用」で、設定を確認します。

- Fiery XF クライアントがコンピュータにインストールされていれば、「EFI Colorproof XF」が選択されています。これは、適切な PPD が利用可能な状態にあることを意味しています。「追加」をクリックします。使用可能なプリンタの一覧に Fiery XF が追加されます。
- Fiery XF クライアントがコンピュータにインストールされていれば、「一般 PostScript プリンタ」が選択されています。これは、適切な PPD が利用可能な状態にないことを意味しています。この場合、Macintosh のソフトウェア DVD からインストールする必要があります。Macintosh ソフトウェア DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。次に、「使用」から「その他」を選択し、DVD 上の EFI Fiery XF.ppd を探し、「開く」をクリックします。PPD は Fiery ツールフォルダ内にあります。「追加」をクリックします。使用可能なプリンタの一覧に Fiery XF が追加されます。

異なるサブネットでリモート FIERY XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには

Fiery XF サーバとグラフィックプログラムが異なるコンピュータにインストールされている場合、仮想プリンタを新しいプリンタとして追加する必要があります。

1 「システム環境設定」で「プリント&スキャン」を選択します。

2 「追加 (+)」をクリックします。

メニューが開いたら、「プリンタまたはスキャナの追加」をクリックします。

3 「詳細」をクリックします。

「詳細」ボタンが無効になっている場合は、ツールバーを右クリックし、「ツールバーをカスタマイズ」をクリックします。次に、ツールバーに「詳細」ボタンをドラッグします。

4 「タイプ」から、「インターネット印刷プロトコル (http)」を選択します。

5 「デバイス」から、「他のデバイス」を選択します。

6 「URL」から、Fiery XF サーバーがインストールされているコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスと、続けて仮想プリンタ名を入力します。

次のように記述します。

http://xxx.xxx.xxx.xxx:631/ プリンタ / 仮想プリンタ名 or http:// コンピュータ名 :631/ プリンタ / 仮想プリンタ名

7 「使用」で、設定を確認します。

- Fiery XF クライアントがコンピュータにインストールされていれば、適切な PPD が利用可能であることを意味します。「プリンタソフトウェアの選択」を選択します。使用可能なプリンタのリストで、EFI Colorproof XF プリンタを選択し、「OK」をクリックします。「追加」をクリックします。使用可能なプリンタの一覧に Fiery XF が追加されます。
- Fiery XF クライアントがコンピュータにインストールされていなければ、適切な PPD が利用可能な状態にないことを意味します。この場合、Macintosh のソフトウェア DVD からインストールする必要があります。Macintosh ソフトウェア DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。次に、「使用」から「その他」を選択し、DVD 上の EFI Fiery XF.ppd を探し、「開く」をクリックします。PPD は Fiery ツールフォルダ内にあります。「追加」をクリックします。使用可能なプリンタの一覧に Fiery XF が追加されます。

異なるサブネットにある Fiery XF 仮想プリンタに印刷しようとするときに問題が発生する場合があります。グラフィックプログラムで仮想プリンタを選択することはできますが、Fiery XF でジョブは読み込まれません。

関連参照：

221 頁の「グラフィックプログラムから Fiery XF 仮想プリンタへの印刷」

222 頁の「Fiery XF 異なるサブネット内の Macintosh サーバに印刷するには」

Macintosh から Fiery XF Windows サーバへの印刷

グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで以下の作業を行ってください。

リモート Fiery XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには

Fiery XF サーバとグラフィックプログラムが異なるコンピュータにインストールされている場合、仮想プリンタを新しいプリンタとして追加する必要があります。グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで以下の作業を行ってください。

グラフィックプログラムを実行しているコンピュータがインターネットにアクセスできない場合に、この方法を用います。

1 「スタート」 > 「デバイスとプリンタ」 > 「プリンタの追加」の順にクリックします。

「プリンタの追加」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタの追加」を選択します。

使用可能なプリンタの一覧が表示されます。

3 仮想プリンタが表示されない場合は、「探しているプリンタが表示されていません」を選択します。

名前または TCP / IP アドレスでプリンタを検索するためのダイアログボックスが表示されます。

4 「共有プリンタを名前を選択する」を選択し、Fiery XF 仮想プリンタのコンピュータ名または IP アドレスを入力後に仮想プリンタ名を入力します。

次のように記述します。

http://xxx.xxx.xxx.xxx:631/ プリンタ / 仮想プリンタ名 or http:// コンピュータ名 :631/ プリンタ / 仮想プリンタ名

コンピュータ名が分からない場合は、Fiery XF サーバを実行しているコンピュータ上で検索することができます。「スタート」をクリックし、「コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定」で、コンピュータ名を探してください。

5 「次へ」をクリックします。

仮想プリンタがインストールされています。

6 「次へ」をクリックします。

7 仮想プリンタをデフォルトプリンタとして設定します（オプション）。

8 仮想プリンタが正しく動作していることを確認するためにテストページを印刷します（オプション）。

テストページが、Fiery XF のジョブリストに表示されます。

9 「完了」をクリックします。

これで、お使いのグラフィックプログラムから仮想プリンタに印刷することができます。

異なるサブネットにある Fiery XF 仮想プリンタに印刷しようとするときに問題が発生する場合があります。グラフィックプログラムで仮想プリンタを選択することはできますが、Fiery XF でジョブは読み込まれません。

関連参照：

222 頁の「[Fiery XF 異なるサブネット内の Macintosh サーバに印刷するには](#)」

Macintosh から Fiery XF Windows サーバへの印刷

グラフィックプログラムがインストールされているコンピュータで以下の作業を行ってください。

同じサブネットにあるリモート FIERY XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには

- 1 「システム環境設定」で「プリント&スキャン」を選択します。
- 2 「追加 (+)」をクリックします。
メニューが開いたら、「プリンタまたはスキャナの追加」をクリックします。
- 3 「Windows」タブで、ネットワーク上の Windows コンピュータを検索してください。
- 4 コンピュータを選択し、Fiery XF 仮想プリンタを選択します。
指示に従い、Windows のユーザパスワードでログインします。
- 5 「使用」で、設定を確認します。
 - Fiery XF クライアントがコンピュータにインストールされていれば、適切な PPD が利用可能であることを意味します。「プリンタソフトウェアの選択」を選択します。使用可能なプリンタのリストで、EFI Colorproof XF プリンタを選択し、「OK」をクリックします。「追加」をクリックします。使用可能なプリンタの一覧に Fiery XF が追加されます。
 - Fiery XF クライアントがコンピュータにインストールされていなければ、適切な PPD が利用可能な状態にないことを意味します。この場合、Macintosh のソフトウェア DVD からインストールする必要があります。Macintosh ソフトウェア DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。次に、「使用」から「その他」を選択し、DVD 上の EFI Fiery XF.ppd を探し、「開く」をクリックします。PPD は Fiery ツールフォルダ内にあります。「追加」をクリックします。使用可能なプリンタの一覧に Fiery XF が追加されます。

異なるサブネットでリモート FIERY XF 仮想プリンタへの接続をセットアップするには

- 1 「システム環境設定」で「プリント&スキャン」を選択します。
- 2 「追加 (+)」をクリックします。
メニューが開いたら、「プリンタまたはスキャナの追加」をクリックします。
- 3 「デフォルト」タブ内、プリンター名一覧から、Fiery XF 仮想プリンタを選択します。

4 「詳細」をクリックします。

「詳細」ボタンが無効になっている場合は、ツールバーを右クリックし、「ツールバーをカスタマイズ」をクリックします。次に、ツールバーに「詳細」ボタンをドラッグします。

5 「タイプ」から、「SPOOLSS 経由の Windows プリンタ」を選択します。**6 「デバイス」から、「他のデバイス」を選択します。****7 「URL」から、Fiery XF サーバーがインストールされているコンピュータの IP アドレスと Fiery XF 仮想プリンタ名を入力します。**

次のように記述します。

smb://xxx.xxx.xxx.xxx/ 仮想プリンタ名 または smb:// コンピュータ名 / 仮想プリンタ名

8 「使用」で、設定を確認します。

- Fiery XF クライアントがコンピュータにインストールされていれば、適切な PPD が利用可能であることを意味します。「プリンタソフトウェアの選択」を選択します。使用可能なプリンタのリストで、EFI Colorproof XF プリンタを選択し、「OK」をクリックします。「追加」をクリックします。使用可能なプリンタの一覧に Fiery XF が追加されます。
- Fiery XF クライアントがコンピュータにインストールされていなければ、適切な PPD が利用可能な状態にないことを意味します。この場合、Macintosh のソフトウェア DVD からインストールする必要があります。Macintosh ソフトウェア DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。次に、「使用」から「その他」を選択し、DVD 上の EFI Fiery XF.ppd を探し、「開く」をクリックします。PPD は Fiery ツールフォルダ内にあります。「追加」をクリックします。使用可能なプリンタの一覧に Fiery XF が追加されます。

グラフィックプログラムから Fiery XF 仮想プリンタへの印刷

Fiery XF 仮想プリンタに直接印刷するには、Fiery XF が正しく設定されている必要があります。

ジョブを印刷するには

1 Fiery XF を起動します。

Fiery XF が起動されていないと、グラフィックプログラムでプリンタとして使用することはできません。

2 グラフィックプログラムのイメージファイルを開き、印刷コマンドを選択します。**3 Fiery XF プリンタを選択します。**

「印刷」ダイアログボックスで行った設定（印刷部数等）は、Fiery XF の同様の設定内容を上書きします。

4 「OK」をクリックします。

ジョブが Fiery XF に送信され、ジョブリストに表示されます。

一般的なヒント：

- Windows では、ジョブを Fiery XF 仮想プリンタに送信する際に、Windows ユーザパスワードを入力するように求められます。ジョブごとにパスワードを再入力しなくても済むように、「このパスワードをキーチェーンに保存する」を選択します。
- グラフィックプログラムから直接ロール紙またはカスタムメディアサイズの用紙に印刷する場合、印刷可能な印刷メディアの長さは 2m 以下に制限されます。この問題を解決するには、ドラッグアンドドロップによりジョブの読み込みを試みてください。

FIERY XF 異なるサブネット内の MACINTOSH サーバに印刷するには

Fiery XF サーバが異なるサブネットにある Macintosh コンピュータにインストールされている場合に問題が発生する場合があります。グラフィックプログラムで Fiery XF 仮想プリンタを選択することはできますが、Fiery XF でジョブは読み込まれません。この場合、Common Unix Printing System (CUPS) バージョン 1.4.4 以降で設定を行う必要があります。OS X 10.6.4 以降を動作しているすべての Macintosh コンピュータでは、デフォルトでバージョン 1.4.4 がインストールされます。

1 Web ブラウザを起動し、<http://localhost:631/admin> と入力して、<Enter> キーを押します。

CUPS が起動します。

「Web インターフェースは現在無効になっています」というエラーメッセージが表示されたら、「ターミナル」を起動します。次のテキスト行を入力し、<Enter> キーを押します：

```
cupscctl WebInterface=yes
```

必要に応じて、cupscctl WebInterface=no と入力すれば、Web インターフェースを無効にすることができます。

2 CUPS のウィンドウで、「管理」タブをクリックします。

3 「サーバ設定」で、「インターネットからの印刷を許可する」を選択します。

4 「設定の変更」ボタンをクリックします。

関連参照：

212 頁の「[Fiery XF で仮想プリンタをセットアップする](#)」

ファイルへ出力

ファイル出力オプションのライセンスをお持ちの場合は、TIFF または PDF 形式でジョブを出力することができます。1つのライセンスで最大5つのファイル出力デバイスをセットアップできます。

ファイルに出力する出力デバイスを設定するには

- 1 「System Manager」を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「デバイス」タブで、「情報」ペインを開きます。
- 2 「メーカー」から、「EFI」を選択します。
- 3 「デバイスタイプ」から、ファイルへの出力形式を選択します。
- 4 「デバイス」タブで、「接続」ペインを開いて、設定を完了します。
- 5 レイアウト領域で、出力デバイスをワークフローに接続します。
- 6 変更を保存します。



関連参照：

65 頁の「システムコンフィグレーションのオンライン/オフライン設定」

482 頁の「[接続](#)」

FIERY 出力デバイスへの印刷

Fiery Option のライセンスをお持ちの場合は、Fiery XF で最大 5 台の Fiery 出力デバイスまで設定することができます。

Fiery Command WorkStation でジョブ設定を行わないことをお勧めしています。Fiery Command WorkStation で特定のジョブ専用の設定を行うと、Fiery XF のカラー・マネージメント設定を上書きするかたちで、Fiery Command WorkStation のカラー・マネージメント設定が適用されます。これは色出力の精度を損ないません。

FIERY 出力デバイスを設定するには

- 1 **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「デバイス」タブで、「情報」ペインを開きます。
- 2 「メーカー」から、「EFI」を選択します。
- 3 「デバイスタイプ」で、「EFI Fiery」を選択します。

Fiery XF は、Fiery Option に一般的なメディアプロファイルを提供しています。ですが、印刷結果の品質を高めるために、独自の印刷メディアプロファイルを作成することをお勧めしています。メディアプロファイルを作成するには、Color ProfilerOption のライセンスが必要です。

Color Profiler Suite で作成したカスタム印刷メディアプロファイルに名前を付ける際には、どのデバイス用のプロファイルであるかを容易に識別できる名前を選ぶことが大切です。それは、すべての Fiery 出力デバイスは、「セットアップ」ペインで「EFI Fiery」として選択されるからです。そのため「EFI Fiery」お洗濯するときには、すべての Fiery デバイスのメディアプロファイルが「印刷構成」ペインに表示されます。

Fiery 出力デバイスに直接印刷しない場合は、「EFI PDF Output」を選択することによって印刷ジョブを PDF 形式で保存することができます。ファイルを印刷するには、ファイル出力オプションが必要です。

- 4 「デバイス」タブで、「接続」ペインを開きます。
- 5 「接続タイプ」で、項目を選択します。

通常の設定は、「ファイルに出力する」になっています。しかし、必要に応じて、IP ネットワークプリンタに出力することができます。

Fiery Command WorkStation に出力するには、Fiery 出力デバイスの IP アドレスを入力します。次に、「LPR キュー」をクリックします。次のキュー名から 1 つを入力します：「印刷」、「保留」、「直接」。Fiery Command WorkStation のバージョンによっては、ポート 9100 経由の印刷もサポートしています。

- 6 「接続」ペインで、設定を完了します。



7 レイアウト領域で、出力デバイスをワークフローに接続します。

8 変更を保存します。

関連参照：

65 頁の「システムコンフィグレーションのオンライン/オフライン設定」

482 頁の「接続」

VUTEK プリンタへの印刷

VUTEk プリンタオプションのライセンスをお持ちの場合は、プリンタを 1 台設定することができます。

関連参照：

61 頁の「新規出力デバイスを作成するには」

Fiery XF の設定

VUTEk プリンタに印刷するとき印刷解像度を変更しないことをお勧めします。印刷解像度はすでに選択したカラープロファイルで定義されており、印刷解像度も選択したプリンタにより異なるため、著しい不一致が起こる可能性があります。

VUTEk プリンタを設定するには

- 1 「System Manager」を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「デバイス」タブで、「情報」ペインを開きます。
- 2 「メーカー」から、「EFI VUTEK」を選択します。
- 3 「デバイスタイプ」で「VUTEK プリンタ」を選択します。
- 4 「デバイス」タブで、「接続」ペインを開きます。
- 5 「接続タイプ」で、項目を選択します。

デフォルトでは、ジョブは、RTL および GIF 形式で印刷されます。RTL ファイルは、プリンタに送信されるデータファイルです。GIF ファイルは VUTEk PrintStation 上でジョブのプレビューを表示するために使用されます。GIF ファイルは、任意の従来のグラフィックスプログラムで開くことができます（RTL ファイルではできません）。

- ファイル出力

ファイルに出力すると、出力ファイルが RTL および GIF 形式で指定されたエクスポートフォルダに保存されます。必要に応じて、「特別なプリンタ設定」ペインから GIF ファイルを無効にすることができます。

出力ファイルの名前はカスタマイズ可能です。

- JDF ポート経由で印刷

VUTEk Pro、GS、GSr シリーズはすべて、JDF(ジョブ定義形式)をサポートしています。JDF により Fiery XF がメディア消費量やインク消費量等の情報をプリンタから得ることができます。JDF 対応プリンタをデバイスタイプとして選択すると、JDF ポート経由で印刷できます。

JDF ポート経由で印刷すると、出力ファイルは JDF / アップロードフォルダに RTL および GIF 形式で保存されます。

- 6 「接続」 ペインで、設定を完了します。
- 7 「メディア」 タブで、「印刷構成」 ペインを開き、設定を完了します。

Fiery XF は、VUTEk プリンタで使用する汎用プロファイルを提供します。希望に応じて、独自のプロファイルを作成できます。Color Profiler オプションは、メディアプロファイルを作成するのに使える一連のツールを提供しています。メディアプロファイルは EFI Media Profiles フォルダに保存されている必要があります。

- 8 「メディア」 タブで、「メディア設定」 ペインを開き、設定を完了します。
- 9 「オプション」 タブから「特別なプリンタ設定」 ペインを開きます。
- 10 「ヘッドコントロールバーを印刷」 を選択します (オプション)。

コントロールバーは色のストライプで表示され、使用できるプリンタのインクを示しています。各ジョブでコントロールバーを印刷することにより、インクがすべてインクノズルの流れを保ち、つまりを防ぎます。



コントロールバーおよびジョブごとの位置の概観を定義するために、設定を使います。

- 11 「RTL プレビュー生成」にある「RTL ファイルの GIF プレビューを生成する」チェックボックスを外します (オプション)。

プリンタがファイルに出力するよう設定されている場合、プリントファイルは RTL と GIF フォーマットで作成されます。GIF ファイルは VUTEk PrintStation 上でジョブのプレビューを表示するために使用されます。プレビューを表示する必要がない場合は、このチェックボックスを外します。JDF ポートを経由して印刷する場合は GIF ファイルを無効にすることはできません。

- 12 「解像度」 から「解像度」 を選択します。

プリンタの解像度を指定することができます。印刷するジョブが大きいほど、インチあたりのインク消費量が少なくなります。これは、印刷されるイメージが多くから表示されることになるためです。

お使いのプリンタが溶剤インクを使用している場合で、解像度を変更している場合、色濃度が低下することに注意してください。UV プリンタの印刷解像度を変更しないことをお勧めします。

13 レイアウト領域で、出力デバイスをワークフローに接続します。



14 変更を保存します。

関連参照：

65 頁の「システムコンフィグレーションのオンライン/オフライン設定」

482 頁の「接続」

485 頁の「印刷構成」

486 頁の「メディア設定」

154 頁の「最適化プロファイルの作成」

268 頁の「JDF 接続の設定」

CADDON CAN:VIEW キャビネットに印刷する

ソフトプルーフ出力オプションのライセンスをお持ちの場合は、Caddon can:view に印刷することができます。ソフトプルーフ出力オプションにより、高解像度の画面上での色出力をシミュレート、測定することができます。ソフトプルーフの色精度を検証することは、費用対効果があり、ブローフィングの品質に妥協することなく、印刷メディアを節約することができます。

信頼できるソフトプルーフを作成するには、すべてのデバイスが正確にキャリブレーションされており、ワークフロー全体で色濃度が等しいことを確保する必要があります。

Fiery XF の設定

このセクションでは、Fiery XF でワークフローや出力デバイスを設定するのに必要な手順について説明します。

ワークフローを設定するには

Caddon can:view に印刷するには、検証ワークフローを設定することをお勧めします。

次の点に注意してください：

- 1 つまたは 2 つのスタティックコントロールストリップのワークフローを設定することができます。ダイナミックウェッジはサポートされていません。
- 次の測定デバイスがサポートされています：ES-1000 および X-Rite i1。これらのデバイス用のコントロールストリップを選択していることを確認してください。

CADDON CAN:VIEW 用に出力デバイスを設定するには

- 1 「System Manager」を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「デバイス」タブで、「情報」ペインを開きます。
- 2 「メーカー」から、「EFI」を選択します。
- 3 「デバイスタイプ」で、「EFI Softproof Output」を選択します。

ソフトプルーフオプションを選択すると、「説明」ボックスが「デバイス ID」に変わります。

- 4 Caddon can:view デバイスのデバイス ID を入力します。

デバイス ID は、Caddon can:view キャビネットのシリアル番号です。Caddon can:view ソフトウェアの「環境設定」ダイアログボックスからデバイス ID を入手できます。

- 5 「デバイス」タブで、「接続」ペインを開いて、設定を完了します。
- 6 レイアウト領域で、出力デバイスをワークフローに接続します。
- 7 変更を保存します。



関連参照：

65 頁の「システムコンフィグレーションのオンライン/オフライン設定」

482 頁の「接続」

317 頁の「検証ワークフローを設定するには」

Caddon ハードウェアとソフトウェアのセットアップ

このセクションでは、Caddon ハードウェアとソフトウェアを設定するのに必要な手順について説明します。

CADDON CAN:VIEW キャビネットをセットアップするには

- 1 Caddon キャリブレーションウィザードを使用して Caddon can:view キャビネットのキャリブレーションを行います。

キャリブレーションウィザードを使用してモニタのプロファイルを作成し、ランプのキャリブレーションを行い、周囲光の状態を測定します。周囲の照明条件はハイエンドプレビューの際に考慮されます。このプロセスには、約 1 時間かかります。

詳細については、製品マニュアルを参照してください。

CADDON CAN:CONNECT をセットアップするには

Caddon can:connect ソフトウェアは、Caddon can:view キャビネット上で実行されます。プログラムは、分光光度イメージデータを表示、測定、分析するために使用されます。

Fiery XF に読み込まれたジョブも Caddon can:connect のジョブリストに表示されます。

- 1 「環境設定」ダイアログボックスで、Fiery XF サーバの IP アドレスを入力します。

詳細については、製品マニュアルを参照してください。

色精度の検証

ジョブの色精度を検証するには

- 1 お使いの測定デバイスが Caddon can:connect キャビネットに接続されていることを確認します。
- 2 Fiery XF で、ジョブを読み込みます。

3 ジョブを印刷します。

印刷ファイルを Caddon can:connect に送信し、キャビネット画面上に表示します。Fiery XF で、ジョブは「検証可能」というジョブステータスを受信します。

4 Caddon can:connect で、ジョブリストでジョブを右クリックし、「検証」をクリックします。

5 コントロールストリップを測定します。

詳細については、製品マニュアルを参照してください。

測定後、測定データとジョブステータスが Caddon can:connect と Fiery XF の「検証」ペインで同時に表示されます。

ジョブが検証に失敗した場合は、ジョブごとに最適化を行うことによって結果を改善することができるかもしれません。このプロセスは、シミュレーション（リファレンス）プロファイルの色域により適した補正プロファイルを作成することにより、ジョブのカラーマネージメントを最適化するものです。「最適化」をクリックし、ジョブを Caddon can:view キャビネットに再印刷します。その後、検証手順を繰り返します。

Verifier の測定データを開き、分析することができます - （例：シミュレーション（リファレンス）プロファイルと照合するため）。

関連参照：

189 頁の「[Fiery XF でジョブを読み込むには](#)」

192 頁の「[ジョブを印刷するには](#)」

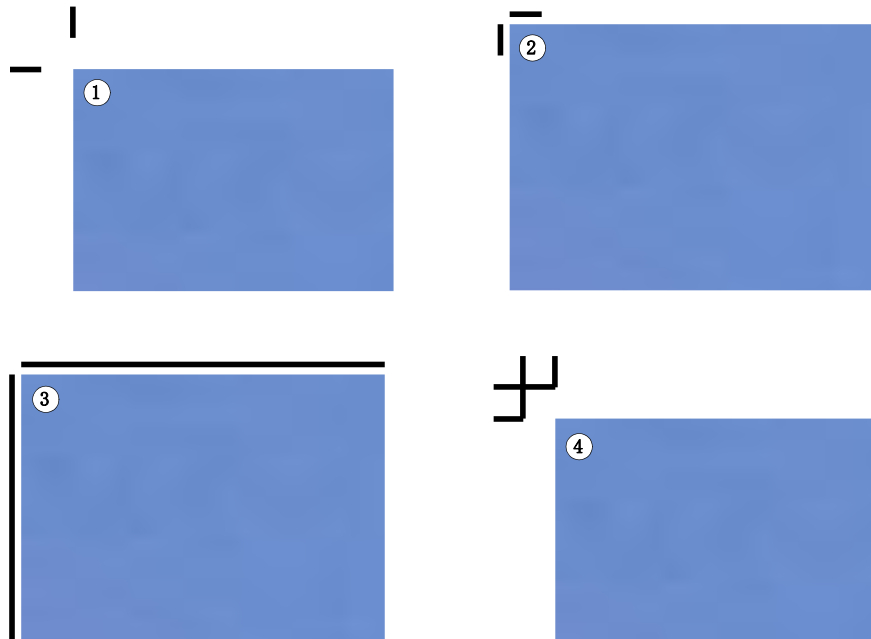
323 頁の「[ジョブの色精度を検証するには](#)」

クロップのマーク

クロップマークは、ページ、用紙、タイルの片隅に印刷され、トリムする箇所を表示する行です。

クロップマークの種類

- 1 標準
- 2 角のエッジング
- 3 フレーム
- 4 トンボ



クロップマークを設定するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「仕上げ」タブで、「クロップマーク」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブをクリックします。「仕上げ」タブで、「クロップマーク」ペインを開きます。

2 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「ページマーク」、「シートマーク」、または「タイルマーク」を選択します。

シートマークはネストされているファイルでのみ利用できます。

4 クロップマークの種類を選択します。

「標準」、「角」、「フレーム」、「トンボ」から選択します。プロダクションオプションのライセンスをお持ちの場合は、FOTOBA クロップマークも印刷することができます。

5 クロップマークの外観を定義します。

線の太さや長さだけでなく、クロップマークとジョブの間の距離も指定することができます。特定の種類のクロップマークでは、一部の設定が利用できません。

デフォルトの色はブラックです。ブラックボックスをクリックすると、別の色を選択することができます。

6 ブリード設定を定義します (オプション)。

ブリード設定は、イメージに対するクロップマークの相対位置を指定します。フレームを追加することにより、イメージとクロップマークの間にホワイトスペースを入れることができます。画像を切ることにより、定義した余白で四隅をクロップすることができます。不要な用紙の白色部分をなくしたり、イメージのサイズを小さくするためにイメージを切り取ります。

ブリード

- 1 フレームの追加
- 2 画像の切り取り



この「ブリード」オプションは、「オフセット」の設定も含めて適用されます。例えば、イメージから 1cm 離れた所にクロップマークを置き、1cm のブリードを持つフレームをついかさる場合、クロップマークはイメージから 2cm 離れた場所に配置されます。



7 変更を保存します。

異なるタイプのクロップマークで作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。一度クロップマークを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

関連参照：

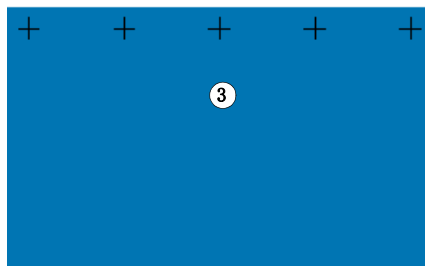
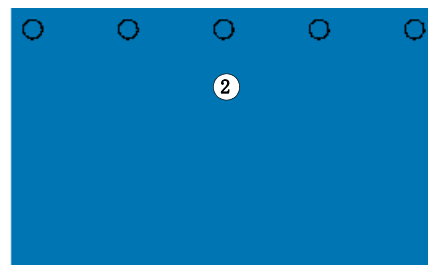
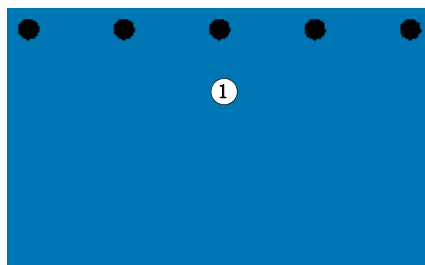
237 頁の「[FOTOBA のクロップマーク](#)」

GROMMET マーク

プロダクションオプションのライセンスをお持ちの場合は、Grommet マークを印刷することができます。Grommet マークは、Grommet マークを通してロッドを供給することにより広告バナーやフラッグをマウントするために、生産市場で広く使用されています。

Grommet マーク

- 1 円
- 2 輪
- 3 十字線



GROMMET マークを設定するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「仕上げ」タブで、「Grommet マーク」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブをクリックします。「仕上げ」タブで、「Grommet マーク」ペインを開きます。

2 ペイン内の「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「ページマーク」または「シートマーク」を選択します。

シートの Grommet マークはネストされているファイルでのみ利用できます。

4 Grommet マークの種類を選択します。

「円」、「輪」、「十字線」から選択します。

5 Grommet マークの外観を定義します。

直径と線の太さを指定することができます。線の太さは、円の Grommet マークには利用できません。

デフォルトの色はブラックです。ブラックボックスをクリックすると、別の色を選択することができます。

6 マージンを定義します (オプション)。

デフォルトでは、Grommet マークは、イメージの端に沿って配置されます。マージンの幅を定義し、「内部」あるいは「外部」を選択することにより、イメージの端に対する Grommet マークの位置を変更できます。すべての四隅にマージンが適用されます。

マージン

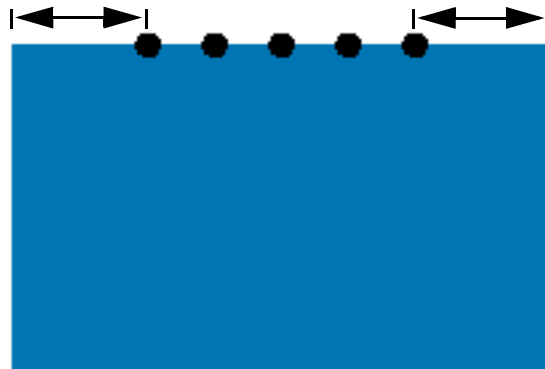
- 1 マージン無し (デフォルト)
- 2 マージンの内側
- 3 マージンの外側



7 ジョブの角から最初の Grommet マークまでの距離を定義します (オプション)。

この設定により、最後の Grommet マークの水平および垂直方向の位置を正確に修正できます。入力する値は、ジョブの角から Grommet マークの中心までの距離です。

ジョブの角からの距離



追加 Grommet マークは、次の設定に従い、2つのエンドポイントの間に配置されます。

8 次のいずれかを行います。

- Grommet マーク数を定義します。

各端には、異なる Grommet マーク数を定義することができます。ある端に全く Grommet マークが必要で無い場合、適切なボックスに「0」を入力します。

- Grommet マーク間のターゲット距離を定義します。

ある端に全く Grommet マークが必要で無い場合、適切なボックスに「0」を入力します。

総利用可能距離は、イメージの幅または高さと同しくなります。イメージの端がターゲット距離で正確に割り切れない場合、Grommet マーク間の距離は、これが均等に離れるように切り上げまたは切り下げられます。Grommet マークの実際の計算された距離が、入力した値の下に表示されます。

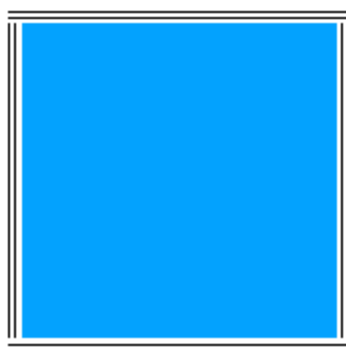


9 変更を保存します。

異なるタイプの Grommet マークで作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。一度 Grommet マークを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

FOTOBA のク ロ ッ プ マ ー ク

プロダクションオプションのライセンスをお持ちの場合は、FOTOBA クロップマークを印刷することができます。FOTOBA クロップマークは、各デバイスのカッターを正確に配置することを意図しています。FOTOBA カットマークオプションでは、FOTOBA Digitrim デバイス、XL、WR ロールカッターをフルサポートしています。



FOTOBA のク ロ ッ プ マ ー ク を 設 定 す る に は

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「仕上げ」タブで、「ク ロ ッ プ マ ー ク」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブをクリックします。「仕上げ」タブで、「ク ロ ッ プ マ ー ク」ペインを開きます。

2 ペイン内の「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「ページマーク」、「シートマーク」、または「タイルマーク」を選択します。

シートマークはネストされているファイルでのみ利用できます。

4 FOTOBA のク ロ ッ プ マ ー ク の タ イ プ を 選 択 し ま す 。

「FOTOBA DIGITRIM」、「FOTOBA XL」、「FOTOBA WR」から選択します。

5 FOTOBA XL または FOTOBA WR を選択した場合：「固定印刷媒体のトンボでカット（8 mm）」を選択します（オプション）。

この設定は、8mm のカッター間隔を適用します。カッター間隔は、複数のカッターを持つ裁断デバイスのカッター間の距離を定義します。カッター間隔はブリード設定に優先します。

ネスティングやステップ&リピートでは、この設定はページのみに適用することができます。

6 FOTOBA のクroppマークの外観を定義します。

選択した FOTOBA のクroppマークのタイプによって利用可能な設定は異なります。

FOTOBA DIGITRIM を選択した場合、水平方向のクroppマークの線の太さを定義することができます。

FOTOBA XL および FOTOBA WR を選択した場合、水平方向および垂直方向の線の太さで別々の設定を行うことができます。デフォルトでは、FOTOBA WR の垂直線の太さは「0」に設定されており、これにより、水平方向のクroppマーク（上部と下部）のみが表示されるようになっています。縦のクroppマークを追加するには、適切なボックスに値を入力します。

7 色を定義します（オプション）。

デフォルトの色はブラックです。ブラックボックスをクリックすると、別の色を選択することができます。

8 ブリード設定を定義します（オプション）。

ブリード設定は、イメージに対するクroppマークの相対位置を指定します。イメージの周りにフレームを追加すると、イメージとクroppマークの間にホワイトスペースを入れることができます。

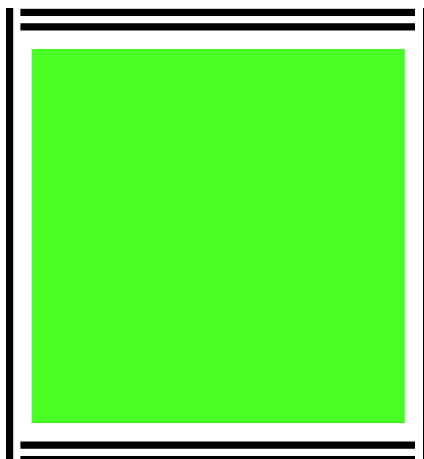


9 変更を保存します。

異なるタイプの FOTOBA マークで作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。一度 FOTOBA マークを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

KIPCut マーク

KIPCut オプションのライセンスをお持ちの場合は、KIP C7800 プリンタで KIPCut マークを印刷し、接続された FOTOBA KipCut カッターでそれらを切断することができます。KIPCut マークはステップ&リピートジョブ、または同じサイズにジョブが拡大縮小されるネスティングで主に使用されます。



KIPCut のクロップマークを設定するには

ワークフローテンプレート「KIPCut」はプロダクションアプリケーション用に提供されており、KIPCut マークのついたジョブのワークフローを設定するのに役立ちます。次ではニーズに合わせてワークフローをカスタマイズする方法について説明します。

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「仕上げ」タブで、「クロップマーク」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「仕上げ」タブで、「クロップマーク」ペインを開きます。

2 ペイン内の「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「ページマーク」、「シートマーク」、または「タイルマーク」を選択します。

シートマークはネストされているファイルでのみ利用できます。

4 「KIPCut」を選択します。

5 KIPCut のクロップマークの外観を定義します。

垂直方向と水平方向のクロップマークの線の厚さを定義することができます。

幅の広いジョブでは、右側の KIPCut マークを削除することで印刷可能な用紙幅を広げることができます。適切なチェック・ボックスを選択します。

6 オフセットマー지를設定します (オプション)。

オフセットは、ページの上下の印刷されない余白を定義しています。オフセットマーゼンにより、プリンタからカッターまでの滑らかで正確な紙送りを確実にします。

7 KIPCut マークとジョブの間の距離を定義します。

8 ブリード設定を定義します (オプション)。

ブリード設定は、イメージに対する KIPCut マークの相対位置を指定します。イメージと KIPCut マークの間にホワイトスペースを挿入するには、正のブリード値を入力します。切断後の仕事の周りの不要なホワイトスペースを除去するには、負のブリード値を入力します。負のブリードを入力することにより、刃がジョブ内部を切り取り、イメージが小さくなることに注意してください。

Fiery XF でジョブを縮小し、切断後の下の寸法を維持することにより、これを防ぐことができます。

EFI は、Fiery XF、KIP C7800 プリンタ、FOTOBA KipCut カッタを使用して FOTOBA KIPCut マークを印刷・切断する方法を説明した説明書を別途用意しています。当社の Web サイトまでアクセスしてください：

<http://w3.efi.com/services/proofing-services/knowledge-center>。



9 変更を保存します。

異なるタイプの KIPCut マークで作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーメニューでプリセットを作成することができます。一度 KIPCut マークを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

用紙カット用ファイル作成

以下の切り取りライセンスがあります。

- プロダクションオプション
 - Grommet マークを設定することができます。
 - FOTOBA マークを設定することができます。
- Cut Marks Option
 - i-cut レベル 1 や 2、EuroSystems OptiSCOUT Design 7 (SUMMA F シリーズ) 等、異なる様々な切り取りマークの種類を設定することができます。
 - Zünd カットセンターへの接続を設定し、ZCC 形式で切り取り情報を印刷できます。

- KIPCut オプション

KIP C7800 プリンタで印刷し、FOTOBA KIPCut カッターで裁断するように KIPCut マークを設定することができます。

- 印刷&切り取りオプション

このオプションは、様々な印刷&カット・デバイスのサポートを提供しています。

- 切り取りサーバオプション

このオプションは、直接 Fiery XF でサポートされていない様々な追加的カッターやルーティングテーブルにジョブを出力します。

これらすべての3つのオプションでは、Spot Color オプションも必要となります。Spot Color オプションは、コンター裁断情報が別ファイルとしてエクスポートされるのを確実にする in-RIP セパレーションを可能にします。

関連参照：

234 頁の「Grommet マーク」

237 頁の「FOTOBA のクロップマーク」

239 頁の「KIPCut マーク」

コンター裁断情報

コンター裁断情報を利用してジョブを処理するには：

- コンター裁断情報は、グラフィックスプログラムで適切に作成されなければなりません。
- コンター裁断情報の名前は Fiery XF で定義する必要があります。

グラフィックスプログラムのコンター裁断情報

Fiery XF がジョブからコンター裁断情報を抽出するには、グラフィックプログラムの画像ファイルを作成する際に以下を確認します。

- コンター裁断情報は CMYK のスポットカラーとして定義する必要があります。
- コンター裁断情報は、異なるレイヤー上に作成してください。
- コンター裁断情報は別のレイヤーに保存することができます。
- コンター裁断情報のあるレイヤーはジョブの最上位のレイヤーになければなりません。例えば、Illustrator では、コンター裁断情報のあるレイヤーはレイヤーリストの一番上に無ければなりません。

ジョブにたくさんの透明度が含まれる場合、RIPing 速度を遅くする可能性があります。この問題を解決するために、全ての透明度レベルを均一とすることをお勧めします。Illustrator では、「オブジェクト」メニューで、「透明度を均一にする」をクリックし、全てのストロークがアウトラインに変換されるようチェックボックスを外します。

すべての透明度が均一化されると、ジョブの最上レイヤーに無くても、コンター裁断情報が抽出できるようになります。

Fiery XF は、業界で一般的に使用されるデフォルトのコンター裁断情報名の一覧を表示します。それぞれの名前は、個別の裁断の種類を表します。Fiery XF はデフォルト名で自動的にコンター裁断情報を検出します。デフォルトのコンター裁断情報は次のとおりです。

- Regmark
- Crease
- Kiss Cut
- Laser Cut
- Pen Plot
- Router Cut
- Score
- Through Cut
- CutContour
- Die line

Fiery XF のコンター裁断情報

Fiery XF は自動的にデフォルトのコンター名を検出します。コンター裁断情報がデフォルト以外の名前で作成されている場合は、System Manager で定義するか、Job Explorer で選択することができます。System Manager で定義されている場合、コンター裁断情報は、この先のすべてのジョブで全体的に利用可能となります。Job Explorer で読み込んだジョブに対してあるコンター裁断情報を選択する場合、そのジョブでのみ有効となります。

Fiery XF はすべてのコンター裁断情報を別々に処理する必要があります。in-RIP セパレーションはコンター裁断情報が別ファイルとしてエクスポートされるのを確実にします。コンター裁断情報が Fiery XF で検出できない場合、コンポジットジョブのスポットカラーであるかのように、層を処理します。

関連参照：

244 頁の「i-cut カッター」

246 頁の「Zünd カットセンター」

248 頁の「印刷およびカットデバイス」

251 頁の「Cut Server」

境界線の周りのコンター裁断情報（level 1 cut）

カッターが Fiery XF で設定されている場合、非ベクトルグラフィックス周りのコンター裁断情報を自動的に作成することができます。たとえば、TIFF のジョブを読み込む場合、Fiery XF はドキュメントの周りのコンター裁断情報を作成します。

選択したカットデバイスに応じて、さまざまな切断方法が利用可能です。裁断方法を選択するには、System Manager を開きます。「仕上げ」バーで「切り取り」タブを開きます。輪郭色テーブルの「輪郭ソース」列で、「境界線」を選択します。「方法」列で、選択した項目をダブルクリックします。次に、下矢印をクリックし、他の切断方法をクリックします。

Fiery XF でカッターの設定

Fiery XF は i-cut カッター、Zünd カットセンター、またはその他サポートされている任意の印刷・カットデバイスに直接出力することができます。さらに、Cut Server オプションのライセンスをお持ちの場合、広範な追加カッターから登録マークを、様々なメーカーからルーティングテーブルをプロセスすることができます。

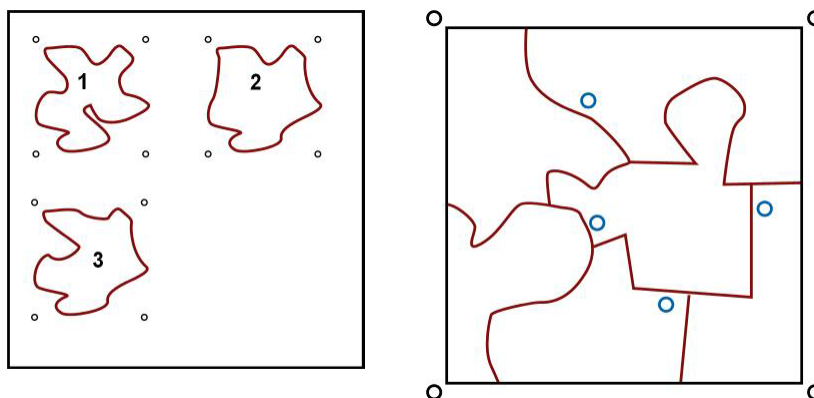
i-cut カッター

i-cut マークは、一般的に使用されているグラフィックプログラムで定義されている複雑で入り組んだ切り取りパスを保存することを可能にします。i-cut マークは内蔵または外付けカッターや、印刷・裁断プロッターの方向ガイドの役割を果たします。

Fiery XF は i-cut マークレベル 1、レベル 2、レベル 3、レベル 5 をサポートしています。I-cut マークレベル 4 (バーコード) はサポートしていません。

i-cut

- 1 i-cut レベル 1 (ネスティング内)
- 2 i-cut レベル 2



- i-cut レベル 1 は境界線を長方形の切り取りパスに変換します。
i-cut マークはテーブル上のメディアセットの位置を定義します。これらは自動的にジョブの周りに配置されます。ブリード値を編集して切り取りマークの位置を調整できます。個々のマークの位置を追加、削除、または変更することはできません。
- i-cut レベル 2 は Fiery XF が EPS や PDF ジョブから i-cut マークのついたファイルや複雑で入り組んだコンター裁断情報を抽出、保存することを可能にしています。
- i-cut レベル 3 は i-cut 層名が EPS や PDF ジョブから抽出されるようにします。
- i-cut レベル 5 は、i-cut 登録マークを境界線内に挿入します。

I-CUT マークを設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
ワークフローテンプレート「コンター裁断」はプロダクションアプリケーション用に提供されており、i-cut レベル切り取りマークのついたジョブのワークフローを設定するのに役立ちます。
- 2 「仕上げ」バーで「切り取り」タブを開きます。
- 3 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 4 「デバイスのメーカー」で、「iCut」を選択します。
- 5 「デバイスタイプ」で、「i-cut」を選択します。

6 「切り取りマークのタイプ」で、「i-cut タイプ」を選択します。

「i-cut filled」から、「i-cut reverse」または「i-cut ring」を選択します。

7 次のいずれかを行います。

- イメージの水平方向と垂直方向のエッジに沿っていくつ i-cut マークを配置するかを定義します。

i-cut マークの最小数は、垂直方向および水平方向、それぞれ2つです。

- イメージの各エッジにある2つの i-cut マークの距離を定義します。

本設定により、エッジの長さが定義された距離で正確に割り切れない場合に、最後の i-cut マークとイメージの角の間のギャップが大きくなる可能性があります。

8 「背景を付けて印刷」をクリックします（オプション）。

いくつかの印刷メディアタイプでは、切り取りマークが見難い場合があります。この設定では、黄色味がかかった背景にカットマークを印刷することにより問題を解決できます。

9 「カットマーク間の最小間隔」をクリックします（オプション）。

本設定では、ネストされたページ間の切り取りマークとステップ&リピート要素を印刷します。

10 ブリード設定を定義します（オプション）。

ブリード設定は、i-cut マークのイメージに対する相対位置を指定します。i-cut マークは、切断機用の方向ガイドです。イメージの周りにフレームを追加すると、イメージと i-cut マークの間にホワイトスペースを入れることができます。画像を切ることにより、定義した余白で四隅をクロップすることができます。不要な用紙の白色部分をなくしたり、イメージのサイズを小さくするためにイメージを切り取ります。境界線（i-cut レベル1）内、またはコンター裁断情報（i-cut レベル2）内で i-cut マークを動かすことはできません。

**11 「エクスポートパス」で、「コンター裁断情報」ファイルを保存するフォルダを選択します。**

デフォルトのフォルダを使用しない場合は、「選択」をクリックして、別のフォルダを参照します。

次のコンター裁断情報ファイルはジョブの処理中に作成されます：

- i-cut レベル1 は *.cut ファイルを作成します。
- i-cut レベル2 *.cut ファイルと *.ai ファイルを作成します。

12 「コンター裁断」で「EPS/PDF から輪郭パスを抽出」を選択します。

EPS / PDF ジョブから輪郭パスを抽出しない場合、またはジョブに輪郭パスが含まれていない場合、境界線は自動的にコンター裁断情報として使用されます。

13 デフォルト以外のコンター裁断情報を定義します（オプション）。

ジョブがデフォルト名以外の名前で保存されているコンター裁断情報を含むことが多い場合は、ここでこれらを定義することができます。System Manager で定義したコンター裁断情報は自動的にすべてのワークフローに適用されます。

- テーブルで「追加 (+)」をクリックします。
新しい行が輪郭色テーブルに追加されます。
- 「輪郭ソース」列の「スポット カラー名の入力」にグラフィックプログラムのコンター裁断情報の名前を正確に上書き入力します。その後、< Enter > キーを押します。
- 「方法」列で、選択した項目をダブルクリックします。次に、下矢印をクリックし、他の切断方法をクリックします（オプション）。または、「ユーザ定義」をクリックし、カスタムの切断方法を定義します。

異なるコンター裁断情報名でジョブを作成することが多い場合は、Job Explorer でジョブごとにこれを選択することができます。

異なるタイプの切り取りマークで作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。一度切り取りマークを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

**14 変更を保存します。**

関連参照：

253 頁の「[コンター裁断情報を管理する](#)」

Zünd カットセンター

Zünd カットセンターではジョブごとに複数の切り取りパスを保存できます。Zünd カットセンターで作業する場合は、利用可能なカットツール、裁断される素材、品質要件を基に最適な選択肢を継続的に提供することにより、カットプロセス中、ソフトウェアが動的にユーザをアシストします。

ZÜND カットセンターを設定するには**1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。**

ワークフローテンプレート「Zund Cut Server Connectivity」はプロダクションアプリケーション用に提供されており、i-cut レベル切り取りマークのついたジョブのワークフローを設定するのに役立ちます。

2 「仕上げ」パーで「切り取り」タブを開きます。**3 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。**

4 「デバイスのメーカー」で、「Zünd」を選択します。

「印刷後に切り取りサーバに送信」チェックボックスが自動的に選択されています。印刷後に Zünd カットセンターに切り取りデータを自動的に送信して欲しくない場合は、このチェックボックスを外します。

5 「デバイスタイプ」で「Zünd G3 シリーズカッター」を選択します。**6 「切り取りマークのタイプ」で、「Zünd マークタイプ」を選択します。**

"Zünd サークル (カメラ) "、"Zünd 逆サークル (カメラ) "、"Zünd クロス (マニュアル) "、および "Zünd 逆クロス (マニュアル) " から選択します。

7 イメージの各エッジにある 2 つの Zünd マークの距離を定義します。

本設定により、エッジの長さが定義された距離で正確に割り切れない場合に、最後の Zünd マークとイメージの角の間のギャップが大きくなる可能性があります。

8 「背景を付けて印刷」をクリックします (オプション)。

いくつかの印刷メディアタイプでは、切り取りマークが見難い場合があります。この設定では、黄色味があった背景にカットマークを印刷することにより問題を解決できます。

9 「カットマーク間の最小間隔」をクリックします (オプション)。

本設定では、ネストされたページ間の切り取りマークとステップ&リピート要素を印刷します。

10 ブリード設定を定義します (オプション)。

ブリード設定は、Zünd マークのイメージに対する相対位置を指定します。イメージの周りにフレームを追加すると、イメージと Zünd マークの間にホワイトスペースを入れることができます。

11 「エクスポートパス」から、次のいずれかの操作を行います：

- 「エクスポートパス」をクリックし、「コンター裁断情報」ファイルを保存するフォルダを選択します。

デフォルトのフォルダを使用しない場合は、「選択」をクリックして、別のフォルダを参照します。

- 「IP アドレス」をクリックし、Zünd カットセンターに直接コンター裁断情報ファイルを送信します。

Zünd カットセンターの IP アドレスを入力します。次に、IP ポートを入力します。IP ポートは 50000 となる可能性があります。詳細については、Zünd カットセンターのマニュアルを参照してください。

テストをクリックすると、Zünd カットセンターへの接続が正しく設定されているかを確認できます。接続をテストするには、ZCC ソフトウェアを起動する必要があります。エラーメッセージが表示された場合は、システム管理者に問い合わせてください。

* ZCC ファイルがジョブの処理中に作成されます。

12 「コンター裁断」で「EPS/PDF から輪郭パスを抽出」をクリックします。

EPS / PDF ジョブから輪郭パスを抽出しない場合、またはジョブに輪郭パスが含まれていない場合、境界線は自動的にコンター裁断情報として使用されます。

13 デフォルト以外のコンター裁断情報を定義します (オプション)。

ジョブがデフォルト名以外の名前で保存されているコンター裁断情報を含むことが多い場合は、ここでこれらを定義することができます。System Manager で定義したコンター裁断情報は自動的にすべてのワークフローに適用されます。

- テーブルで「追加 (+)」をクリックします。

新しい行が輪郭色テーブルに追加されます。

- 「輪郭ソース」列の「スポットカラー名の入力」にグラフィックプログラムのコンター裁断情報の名前を正確に上書き入力します。その後、< Enter > キーを押します。
- 「方法」列で、選択した項目をダブルクリックします。次に、下矢印をクリックし、他の切断方法をクリックします (オプション)。

いくつかの裁断方法では、「詳細設定」が利用できます。ペンをクリックし、「輪郭の詳細設定」ダイアログボックスを開きます。線の長さ、ビット直径、溝切りの角度、Z 奥行を変えることができます。

- 「モード」列で「標準」をダブルクリックします。次に、下矢印をクリックし、モードをクリックします (オプション)。

モードは、速度と品質に影響を与えます。速度設定により、印刷物が最も迅速に裁断されますが、切り取りラインが正確でないかもしれません。品質設定では、より正確な切り取りが行われますが、時間はかかります。

異なるコンター裁断情報名でジョブを作成することが多い場合は、Job Explorer でジョブごとにこれを選択することができます。

異なるタイプの切り取りマークで作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。一度切り取りマークを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

**14 変更を保存します。**

関連参照：

253 頁の「[コンター裁断情報を管理する](#)」

印刷およびカットデバイス

Fiery XF は様々な異なる印刷とカットデバイスで登録マークを印刷し、切り取ることができます。印刷とカットデバイスをプリンタとして Fiery XF で設定する必要があります。

印刷とカットデバイスをプリンタとして設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。
- 2 「デバイス」タブで「接続」ペインを開き、プリンタの設定を行います。
- 3 「メディア」タブで、「印刷構成」ペインを開き、メディアを選択します。
- 4 「オプション」タブから「特別なプリンタ設定」ペインを開きます。「コンター裁断」で、モードを選択します。

次の設定を使用できます。

印刷モード	説明
印刷	ジョブを印刷しますが、コンター裁断情報を切り取りません。
印刷およびカット	ジョブ印刷のみ（用紙カットなし）
カットのみ	コンター裁断情報を切り取りますが、印刷をしません。



- 5 変更を保存します。

ワンステップで印刷およびカットを行うには

印刷後にジョブをすぐに切断するには、次の手順を実行します。

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- 2 「仕上げ」バーで「切り取り」タブを開きます。
- 3 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 4 「デバイスのメーカー」で、「なし」を選択します。
- 5 「コンター裁断」で「EPS/PDF から輪郭パスを抽出」をクリックします。

EPS / PDF ジョブから輪郭パスを抽出しない場合、またはジョブに輪郭パスが含まれていない場合、境界線は自動的にコンター裁断情報として使用されます。

- 6 デフォルト以外のコンター裁断情報を定義します（オプション）。

System Manager で定義したコンター裁断情報は自動的にすべてのワークフローに適用されます。ジョブが常に同じ名前を使用する場合は、コンター裁断情報を定義しておくると便利です。

- テーブルで「追加 (+)」をクリックします。
新しい行が輪郭色テーブルに追加されます。
- 「輪郭ソース」列の「スポット カラー名の入力」にグラフィックプログラムのコンター裁断情報の名前を正確に上書き入力します。その後、< Enter > キーを押します。

異なるコンター裁断情報名でジョブを作成することが多い場合は、Job Explorer でジョブごとにこれを選択することができます。

異なるタイプの切り取りマークで作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。一度切り取りマークを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。



7 変更を保存します。

ツーステップで印刷およびカットを行うには

別々のステップでジョブを切断するには、次の手順を実行します。たとえば、切断前にジョブをラミネートする場合は、この方法を使用します。

- ジョブを印刷するには：
 - System Manager を開きます。レイアウト領域で、出力デバイスをクリックして、「オプション」タブを開きます。
 - 「コンター裁断」で、印刷モード「印刷」を選択します。その後、「プリンタ切り取りマークを有効にする」をクリックします。
 - レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「仕上げ」バーで「切り取り」タブを開きます。
 - ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
 - 「コンター裁断」で「EPS/PDF から輪郭パスを抽出」をクリックします。
EPS / PDF ジョブから輪郭パスを抽出しない場合、またはジョブに輪郭パスが含まれていない場合、境界線は自動的にコンター裁断情報として使用されます。

- ジョブを切り取るには：
 - Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「出力」タブから「特別なプリンタ設定」ペインを開きます。
 - 「コンター裁断」で、「カットのみ」モードを選択します。
 - ツールバーの「印刷およびカット」をクリックします。
または、ジョブリストでジョブを右クリックし、「印刷およびカット」をクリックします。



関連参照：

482 頁の「[接続](#)」

485 頁の「[印刷構成](#)」

253 頁の「[コンター裁断情報を管理する](#)」

Cut Server

Cut Server オプションは、シームレスにジョブ出力と仕上げプロセスを結合することにより生産性を向上させます。一つのライセンスで4つの別々のコンピュータまでソフトウェアをインストールし、Fiery XF でそれぞれに対し、最高2つの別々のカッターを設定できます。したがって、並列で8基まで切断装置を駆動することができます。

Cut Server では様々なカッターやルーティングテーブルを用いて登録マークを切断することができるため、各カッターに対して異なるソフトウェアアプリケーションで作業する必要がなくなります。

CUT SERVER をインストールするには

Cut Server はどの Windows コンピュータにもインストールしていただけます。Fiery XF サーバは、同じコンピュータ上にインストールする必要はありません。

- 1 Windows コンピュータの DVD-ROM ドライブにソフトウェア DVD を挿入します。
「ようこそ」画面で、「インストール」をクリックします Fiery XF。
- 2 Windows Explorer で DVD の内容を表示させます。
- 3 EFiCut Server フォルダを開き、自動実行アプリケーションファイルをダブルクリックします。
- 4 画面に表示される指示に従ってインストールを実行し、サーバを再起動してください。
- 5 Fiery XF サーバソフトウェアを実行しているコンピュータ上で Cut Server ライセンスをインストールします。

FIERY XF を設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- 2 「仕上げ」パーで「切り取り」タブを開きます。
- 3 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 4 「デバイスのメーカー」で、「カッターメーカー」を選択します。
「印刷後に切り取りサーバに送信」チェックボックスが自動的に選択されています。この設定により、ジョブが Cut Server にまず送信され、その後、本ペインで選択したカッターに転送されるようになります。印刷後にカッターに切り取りデータを自動的に送信して欲しくない場合は、このチェックボックスを外します。
- 5 「デバイスタイプ」で「カッタータイプ」を選択します。
- 6 「切り取りマークのタイプ」で、「切り取りマークのタイプ」を選択します。
- 7 「エクスポートパス」で、「コンター裁断情報」ファイルを保存するフォルダを選択します。

デフォルトのフォルダを使用しない場合は、「選択」をクリックして、別のフォルダを参照します。エクスポートフォルダも Cut Server でホットフォルダとして設定する必要があります。ホットフォルダが既に Cut Server で設定されている場合、ここでエクスポートフォルダとして選択します。

* ai ファイルと xml ジョブチケットが、ジョブの処理中に作成されます。

8 「コンター裁断」で「EPS/PDF から輪郭パスを抽出」をクリックします。

EPS / PDF ジョブから輪郭パスを抽出しない場合、またはジョブに輪郭パスが含まれていない場合、境界線は自動的にコンター裁断情報として使用されます。

9 デフォルト以外のコンター裁断情報を定義します（オプション）。

System Manager で定義したコンター裁断情報は自動的にすべてのワークフローに適用されます。ジョブが常に同じ名前を使用する場合は、コンター裁断情報を定義しておくくと便利です。

- テーブルで「追加 (+)」をクリックします。
新しい行が輪郭色テーブルに追加されます。
- 「輪郭ソース」列の「スポットカラー名の入力」にグラフィックプログラムのコンター裁断情報の名前を正確に上書き入力します。その後、< Enter > キーを押します。
- 「方法」列で、選択した項目をダブルクリックします。次に、下矢印をクリックし、他の切断方法をクリックします（オプション）。

異なるコンター裁断情報名でジョブを作成することが多い場合は、Job Explorer でジョブごとにこれを選択することができます。

異なるタイプの切り取りマークで作業することが多い場合は、各グループの設定をプリセットとして保存しておくことをお勧めします。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。ペインバーのプリセットメニューからプリセットを作成することができます。一度切り取りマークを設定したら、次回からはプリセット名を選択するだけで済みます。

**10 変更を保存します。****CUT SERVER を設定するには****1 Cut Server を起動します。次のいずれかを行います。**

- デスクトップ上のプログラムアイコンをダブルクリックします。
- 「スタート」をクリックし、「全てのプログラム」を選択し、EFI > EFI Cut Server > EFI Cut Server の順にクリックします。

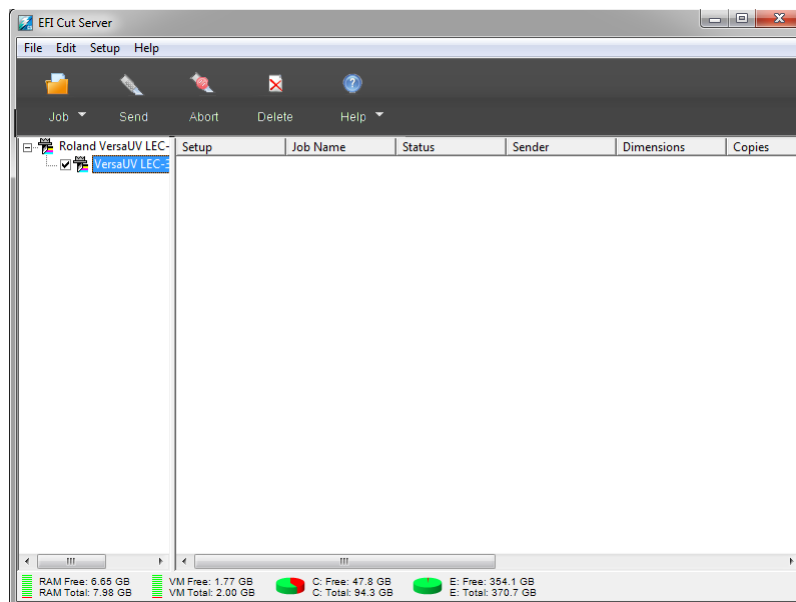
「EFI Cut Server ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

2 ドロップダウンリストボックスから Cut Server ライセンスがインストールされている Fiery XF サーバを選択します。**3 「選択」をクリックします。**

「セットアップの追加」ダイアログボックスが表示されます。

4 画面の指示に従って用紙カットデバイスを設定します。

その後、プログラムのウィンドウが表示されます。



5 「編集」メニューで「環境設定」をクリックします。ホットフォルダが設定されていることを確認してください。

ホットフォルダは、Fiery XF のエクスポートフォルダと一致している必要があります。Fiery XF で定義したエクスポートフォルダを参照します。「OK」をクリックします。

Cut Server は Windows コンピュータにインストールされている必要がありますが、Windows または Macintosh のいずれかにインストールされている Fiery XF サーバからジョブを受信することができます。

Cut Server の使用方法に関する詳細については、「切り取りサーバ」のヘルプを参照してください。

関連参照：

43 頁の「ライセンス」

253 頁の「コンター裁断情報を管理する」

コンター裁断情報を管理する

Fiery XF で正しくコンター裁断情報を持つジョブを処理するには、次の基準を満たしている必要があります：

- グラフィックスプログラムでは、コンター裁断情報はスポットカラーで作成される必要があります。
- スポットカラーは Fiery XF で定義されなければなりません。

コンター裁断情報を「保留」ジョブとして読み込むことをお勧めします。これにより、ジョブの処理が開始される前にコンター裁断情報の設定を確認することができます。

既知のスポット カラーに対してデフォルトではないコンター裁断情報を定義するには

以下に該当する場合はこれらの手順に従ってください：

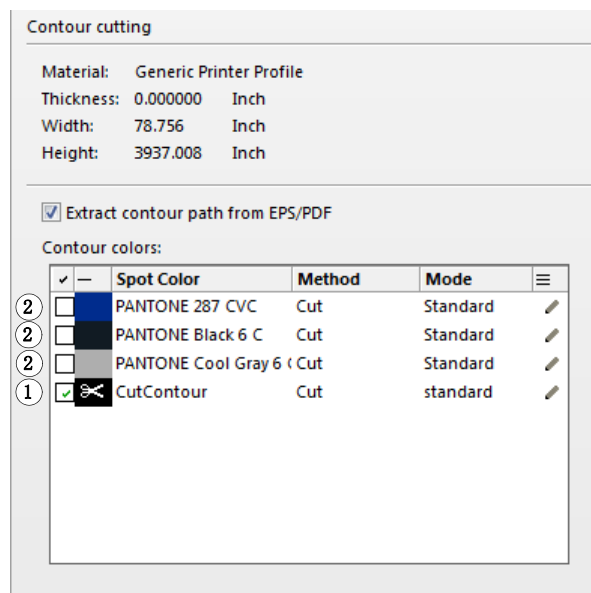
- このコンター裁断情報は既知のスポット カラーです。
- このコンター裁断情報はデフォルトのコンター裁断情報ではありません。

- 1 **Job Explorer** を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「仕上げ」バーで「切り取り」タブを開きます。

輪郭色テーブルは、ジョブのコンター裁断情報を示しています。

コンター裁断情報のあるジョブ

- 1 デフォルトコンター裁断情報
- 2 未定義のコンター裁断情報



「CutContour」はFiery XFで検出されているデフォルトの輪郭色です。他の3つのコンター裁断情報は認識されているスポットカラーですが、Fiery XFでコンター裁断情報として定義されていません。

テーブルが未明のスポットカラーを表示する場合、不明なスポットカラーを定義する必要があります。

- 2 「コンター裁断」で「EPS/PDFから輪郭パスを抽出」をクリックします。

EPS/PDFジョブから輪郭パスを抽出しない場合、またはジョブに輪郭パスが含まれていない場合、境界線は自動的にコンター裁断情報として使用されます。

- 3 必要なそれぞれのコンター裁断情報の横にあるチェックボックスをオンにします。

チェックボックスを選択することで、Fiery XFがコンター裁断情報を抽出するようになります。



4 変更を保存します。

Contour cutting

Material: Generic Printer Profile
Thickness: 0.000000 Inch
Width: 78.756 Inch
Height: 3937.008 Inch

Extract contour path from EPS/PDF

Contour colors:

<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Spot Color	Method	Mode	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 287 CVC	Cut	Standard	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE Black 6 C	Cut	Standard	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE Cool Gray 6 C	Cut	standard	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	CutContour	Cut	standard	

はさみのアイコンはどのコンター裁断情報が抽出されるかを示します。

不明なスポットカラーのコンター裁断情報を選択するには

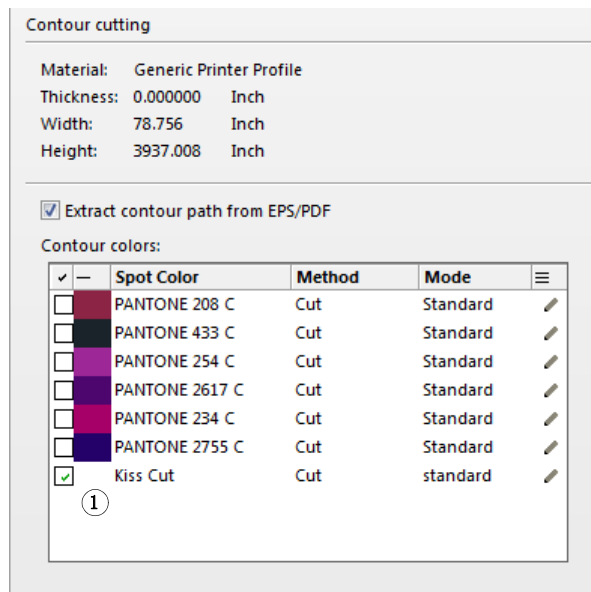
以下に該当する場合はこれらの手順に従ってください：

- このコンター裁断情報はデフォルトのコンター裁断情報です。
- このコンター裁断情報は不明なスポットカラーです。

Fiery XF で認識されないスポット カラーで定義されているコンター裁断情報は以下のように表示されます：

不明なスポット カラーにある
コンター裁断情報を持つジョ
ブ

1 「切り取り」ペイン



まず最初に、スポット カラーを定義し、その後コンター裁断情報を選択する必要があります。

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。


スポット カラーテーブルは、不明なスポット カラーを示しています。

	Name	Source	Map to
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 208	PANTONE	PANTONE 208 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 433	PANTONE	PANTONE 433 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 254	PANTONE	PANTONE 254 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 2617	PANTONE	PANTONE 2617 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 234	PANTONE	PANTONE 234 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 2755	PANTONE	PANTONE 2755 C
<input checked="" type="checkbox"/>	Kiss Cut	Unknown	

- 2 不明なスポット カラーを定義します。



3 変更を保存します。

	Name	Source	Map to
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 208	PANTONE	PANTONE 208 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 433	PANTONE	PANTONE 433 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 254	PANTONE	PANTONE 254 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 2617	PANTONE	PANTONE 2617 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 234	PANTONE	PANTONE 234 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 2755	PANTONE	PANTONE 2755 C
<input checked="" type="checkbox"/>	 Kiss Cut	PANTONE	PANTONE WARM RED C

4 「仕上げ」バーで「切り取り」タブを開きます。

輪郭色テーブルは、ジョブのコンター裁断情報を示しています。

5 「EPS/PDF から輪郭パスを抽出」を選択します。

6 必要なそれぞれのコンター裁断情報の横にあるチェックボックスをオンにします。











7 変更を保存します。

Contour cutting

Material: Generic Printer Profile
 Thickness: 0.000000 Inch
 Width: 78.756 Inch
 Height: 3937.008 Inch

Extract contour path from EPS/PDF

Contour colors:

<input type="checkbox"/>	Spot Color	Method	Mode	
<input type="checkbox"/>	PANTONE 433 C	Cut	Standard	
<input type="checkbox"/>	PANTONE 2755 C	Cut	Standard	
<input type="checkbox"/>	PANTONE 2617 C	Cut	Standard	
<input type="checkbox"/>	PANTONE 208 C	Cut	Standard	
<input type="checkbox"/>	PANTONE 234 C	Cut	Standard	
<input type="checkbox"/>	PANTONE 254 C	Cut	Standard	
<input checked="" type="checkbox"/>	 Kiss Cut	Cut	standard	

はさみのアイコンはどのコンター裁断情報が抽出されるかを示します。

関連参照：

242 頁の「グラフィックスプログラムのコンター裁断情報」

255 頁の「不明なスポット カラーのコンター裁断情報を選択するには」

280 頁の「読み込まれたジョブのスポット カラーを定義するには」

コンター裁断情報を処理する

コンター裁断情報を印刷する前に、以下を確認します：

- in-RIP セパレーションが「強制」に設定されていることを確認してください。in-RIP セパレーションを強制することで、コンター裁断情報が分版ファイルとして出力することができます。
- 作業カラースペースが「CMYK」に設定されていることを確認します。RGB 作業カラースペースがすべてのスポット カラーをコンター裁断情報が抽出されるのを防ぐ RGB に変換します。

Advanced Layout オプションのライセンスをお持ちの場合、メディア消費量を大幅に抑えることができる場合があります。Advanced Layout オプションは、この裁断情報に従いジョブをネスティングすることにより特定のジョブの形状を考慮する詳細ネスティング機能を持ったツールです。コンター裁断情報を作成するために Advanced Layout オプションを使用することもできます。

コンター裁断情報のあるジョブを出力するには：

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。



- ツールバーの「印刷およびカット」をクリックします。
- ジョブリストで、ジョブを右クリックし、「印刷およびカット」をクリックします。

印刷対象からコンター裁断情報を除外するには

切り取りファイルを作成しないことにより、ジョブからコンター裁断情報を対象外とすることができます。この場合、コンター裁断情報を持つ分版ジョブがコンポジット印刷されます。

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「仕上げ」バーで「切り取り」タブを開きます。
- 2 「コンター裁断」で「EPS/PDF から輪郭パスを抽出」のチェックボックスを外します。
- 3 変更を保存します。
- 4 ジョブを印刷します。



出力対象からコンター裁断情報のあるカラー分版ジョブを外すには

コンター裁断情報層を持つ分版ジョブを対象外とするジョブを出力することができます。

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポットカラー」タブを選択します。
- 2 スポットカラーテーブルでは、コンター裁断情報のチェックボックスをオフにします。

	Name	Source	Map to
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 208	PANTONE	PANTONE 208 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 433	PANTONE	PANTONE 433 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 254	PANTONE	PANTONE 254 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 2617	PANTONE	PANTONE 2617 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 234	PANTONE	PANTONE 234 C
<input checked="" type="checkbox"/>	PANTONE 2755	PANTONE	PANTONE 2755 C
<input type="checkbox"/>	Kiss Cut	PANTONE	PANTONE WARM RED C

- 3 変更を保存します。
- 4 ジョブを印刷します。

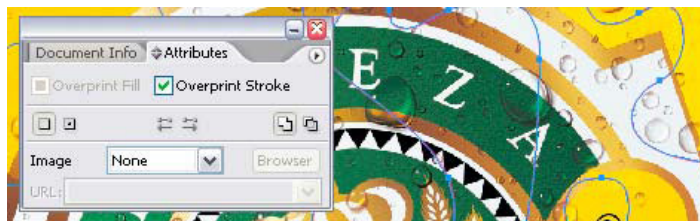
コンター裁断情報を持つ分版ジョブが出力対象から外されます。コンター裁断情報はジョブから抽出もコンポジット出力もされません。

印刷物から切り取りマークの表示を消すには

通常、裁断用マークは出力物に印刷されることはありません。しかし、ごくまれに裁断線が白い線で印刷されることがあります。これは、ほとんどの場合裁断用マーキングが白抜き印刷になるよう設定されているためです。



この場合、Enfocus PitStop 等の外部プログラムでファイルを開き、オーバープリント設定に変更する必要があります。



。

設定をオーバープリントに変更後、出力は次のようになります。



関連参照：

101 頁の「[In-RIP セパレーション](#)」

104 頁の「[作業カラースペースを適用する](#)」

261 頁の「[Advanced Layout](#)」

ADVANCED LAYOUT

Advanced LayoutOption は、スマートなネスティングプログラムです。このオプションは、Fiery XF の標準のネスティング機能には含まれない多くのプロ仕様の機能を提供しています。Advanced LayoutOption のライセンスをお持ちの場合は、次のことができます：

- アウトラインに基づいてジョブをネストする
- イメージコンテンツを複製する自動ブリードのある個々のイメージの形状に基づいたコンター裁断情報を作成します。
- 完璧に位置がそろえられた両面印刷の作成
- 印刷品質が滑らかとなるように、コンター裁断情報を最適化します。
- スマートネスティング周辺に i-cut マークとス Grommet マークを配置



ジョブが出力準備ができた状態にあることを仮定しています。Advanced Layout で、ジョブは拡大縮小することができますが、他の方法で編集することはできません。

Advanced Layout は、以下のファイル形式をサポートしています。JPG、TIFF、PSD、PDF、イメージ EPS。

ADVANCED LAYOUT にジョブをエクスポートするには

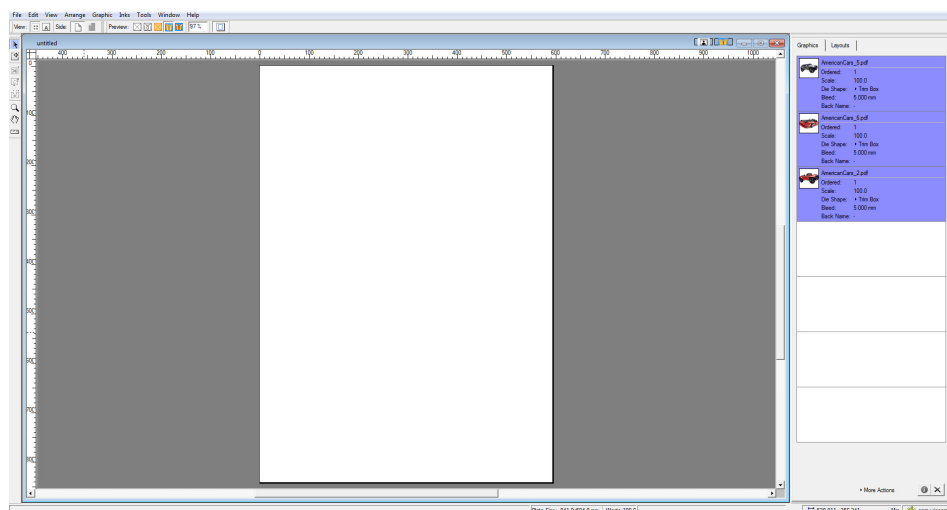
1 Job Explorer を開きます。次のいずれかを行います。

- ジョブリストで、一つまたは複数のジョブを右クリックし、「詳細レイアウト」をクリックします。
- ジョブリスト内で、一つまたは複数のジョブをクリックします。ツールバーで、「レイアウト」をクリックします。



同時に異なるワークフローから複数のジョブを選択した場合は、Advanced Layout で使用するワークフローを選択するように求める確認画面が表示されます。ワークフロー設定は1セットだけ、エクスポートできます。

ジョブがエクスポートされ、Advanced Layout プログラム ウィンドウが開きます。



プログラムウィンドウがジョブを右側に表示し、左側に空のレイアウト（版）を表示します。Fiery XF からのジョブをエクスポートするときに Advanced Layout が実行されていない場合、版は Fiery XF 出力デバ??イスで選択された印刷メディアと同じサイズになります。Advanced Layout が既に起動していれば、Advanced Layout の現在の版サイズが使用されます。必要に応じて、Advanced Layout で新しい版サイズを定義することができます。

ジョブの外観に影響を与える Fiery XF からのすべてのワークフロー設定（拡大縮小やスポットカラーの定義等）は、ジョブと共に Advanced Layout にエクスポートされます。反対に、ジョブ設定は次のような最低限の情報のみエクスポートされます：拡大縮小率や定義された印刷部数。

スマートネスティングを作成したら、これを印刷するために Fiery XF に送り返すことができます。より詳しい情報は、Advanced Layout ヘルプを参照してください。

1 ビットファイル

OneBit オプションのライセンスをお持ちであれば、イメージセッター、プレートセッター、またはデジタル印刷といったプリプレス業界のソリューションによって作成された 1 ビットファイルを処理することができます。

1 ビットファイルを作成するために、これらの出力デバイスには、PostScript /PDF ファイルをスクリーンドットに変換する統合 RIP が備わっています。スクリーンドット情報は、1 ビットの TIFF ファイルの形式で保存されます。1 つの TIFF ファイルが 1 つの色分解（色分解）の情報をもちます。

これらのファイルは外部 RIP によってすでにリッピングされているため、1 ビットファイルの処理中に Fiery XF の統合 RIP は適用されません。デジタルプルーフの印刷時に、必要なスクリーン情報（スクリーンドットの形やサイズ、スクリーン線数）が単に 1 ビットファイルから抽出されます。

このため、OneBit Option で出力されるデジタルプルーフは色精度が高いだけでなく、最終印刷実行の正確なスクリーン表現も提供します。従って、OneBit オプションは、モアレパターンやロゼットが発生しているかどうかをチェックするための理想的なツールです。

次の 1 ビットファイル形式をサポートしています：Tiff G4、Tiff G3、Packbit、LZW 圧縮 Tiff、圧縮されていない Tiff、Presstek、Huffman、PCX、Len、Harlequin、Pagebuffer、Founder、DSC1/DCS2（コピードット形式）

スクリーニング方法が異なるため、1 ビットファイルの出力には、レーザープリンタは使用しないことをお勧めします。レーザースクリーニングと 1 ビットスクリーニングの両方をジョブに適用する場合は、高品質のプルーフを作成することはできません。レーザープリンタは、面付けプルーフの作成のみに適しています。

1 ビットファイルによく適用される版特性を修正できます。版特性は、スクリーンドットが版セッターに出力されるときにサイズを制御します。

1 ビットファイルのワークフローを設定するには

1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「1 ビット」ペインを開きます。

2 次のいずれかを行います。

- ジョブが完了するまでの待ち時間を入力します。

この設定は、同じジョブに属する 1 ビットジョブが着信するのを Fiery XF がどれくらい待つかを決定します。この時間が過ぎると、Fiery XF は、すべての 1 ビットファイルを受信したとみなし、印刷を開始します。

- 「ジョブにおける 1 ビットファイル数」を選択し、数値を入力します。

この設定では、各ジョブにいくつ 1 ビットファイルがあるかを定義します。Fiery XF は定義された 1 ビットファイル数を受信してから、印刷を開始します。

この設定は、「ジョブが完了するまでの待ち時間」を上書きし、待ち時間が終了したときに自動的にジョブが印刷開始されるのを防ぎます。すべての 1 ビットファイルを受信されるとすぐに印刷を開始するので、不要なアイドルタイムを防ぐことができます。

3 「ジョブごとのサブディレクトリ」を選択します (オプション)。

この設定では、ジョブごとにサブディレクトリを作成するかどうかを定義されます。1 ビットファイルが、1 ビットファイル保存用のサブディレクトリを自動的に生成する RIP によって生成された場合は、この設定を選択する必要があります。

4 「ファイル名が色分解の名前を含む」から、1 ビットファイルのファイル命名規則に合う文字列を選択するか、定義します。

この設定により、Fiery XF が、ジョブ名と、各ジョブに属するすべての 1 ビットファイルを正しく認識することが確実になります。処理するすべてのファイルにとって一般的な文字列を選択してください。

デフォルトでは、Fiery XF はファイル名を右から左に分析し、ファイル拡張子を考慮に入れません。

変数には次の意味があります。

%j	ジョブ名を表します。
%c	1 ビットファイルの名前を表します。
%f	「無視」を意味します。これは、ほとんどの場合、一部の RIP ソリューションによってファイル名に自動的に追加される連続番号 (たとえば、フィルム番号) を無視するように Fiery XF に指示するために利用されます。番号を挿入することによって、無視される文字数 (例えば、%4f) を定義することができます。

例：

1 ビットのファイル名	文字シーケンス	説明
01_efiflyer_(cyan).tif 02_efiflyer_(magenta).tif 03_efiflyer_(yellow).tif 04_efiflyer_(black).tif	%f_%j_(%c).tif	<ul style="list-style-type: none"> • Fiery XF は下線をセパレータとして使用するファイル进行处理します。 • Fiery XF は括弧で色分解が行われているファイル进行处理します。 • Fiery XF はファイル名で最初の下線までのすべての文字を無視します（右から左に読み取る場合）。

5 「ファイル名を左から右へ分析する」を選択します（オプション）。

デフォルトでは、Fiery XF はファイル名を右から左に分析します。ただし、ファイル名を左から読み取る方がよい場合もあります。

例：

1 ビットのファイル名	文字シーケンス	説明
efiflyer-(cyan)-00157.tif efiflyer-(magenta)-00158.tif efiflyer-(yellow)-00159.tif efiflyer-(black)-00160.tif efiflyer-(cyan)-01-00.tif efiflyer-(magenta)-02-00.tif efiflyer-(yellow)-03-00.tif efiflyer-(black)-04-00.tif	%j(%c)%5f.tif	<ul style="list-style-type: none"> • Fiery XF はハイフンをセパレータとして使用するファイル进行处理します。 • Fiery XF は括弧で色分解が行われているファイル进行处理します。 • Fiery XF ファイル名で次のダッシュの後のすべての文字を無視します（左から右に読み取る場合）

6 「ファイルヘッダーから色分解を抽出する」を選択します（オプション）。

この設定を選択すると、1 ビットファイルのファイル名からではなく、ファイルヘッダー（1 ビットファイル自身に含まれている情報）からカラー情報が抽出されます。

この設定は、1 ビットファイルの名前で個々の色分解を識別できない場合に役立ちます（一部の RIP デバイスは色分解をファイル名の一部として保存しません）。

Macintosh バージョンの Fiery XF を使用している場合は、ファイル名が 32 文字で切り捨てられるため、色分解を識別できないことがあります。その場合は、この設定を使用して問題を簡単に回避できます。また、Fiery XF に読み込む前にファイル名を変更することもできます。

7 「プルーフ方式」で、項目を選択します。

プルーフ方式	説明
面付けプルーフ	印刷に進む前に最後のチェックを行う場合は、この項目を選択します。 面付けプルーフは色精度が高くないことに注意してください。従って、この設定は、印刷コピーの要素の内容と完全性をチェックする目的でのみ使用する必要があります。
校正出力	色の正確なスクリーンプルーフを作成するには、この項目を選択します。 校正出力はカラーマネージメントが適用されています。したがって、校正出力は、多くの場合、顧客と印刷業者の間の拘束力のある色契約とみなされます。校正出力は、通常、印刷に進む前に生成される最後のプルーフです。
シャープドットによる校正出力	素早く、色の正確なスクリーンプルーフを作成するには、この項目を選択します。 印刷品質は、標準の校正出力の印刷品質よりも少し低くなる場合があります。



8 変更を保存します。

1 ビットジョブのプルーフ方式を変更するには

1 ビットジョブの設定は、ワークフローレベルで行われます。Job Explorer で、プルーフ方式のみを変更することができます。プルーフ方式は、印刷品質と印刷速度に影響を与えます。

1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで、「1 ビット」ペインを開きます。

2 「プルーフ方式」で、項目を選択します。

次の設定を指定できます。

- 面付けプルーフ
- 校正出力
- シャープドットによる校正出力



3 変更を保存します。

関連参照：

413 頁の「1 ビット (System Manager)」

414 頁の「1 ビット (Job Explorer)」

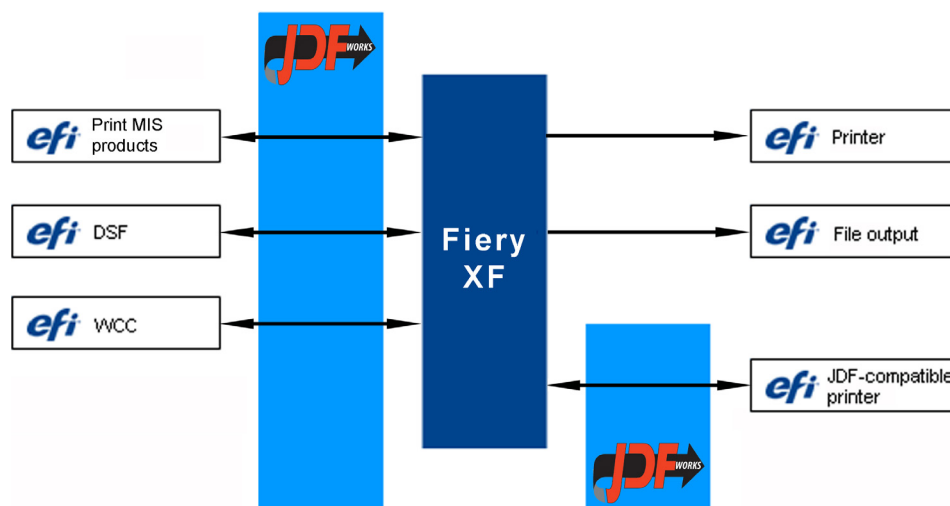
173 頁の「版特性の修正」

JDF の統合

JDF は、Fiery XF と他の JDF 対応デバイス間の双方向通信を可能にします。Fiery XF は JDF 対応デバイスと EFI や他メーカーのプログラムをサポートしています。

JDF を Fiery XF ワークフローに統合することができます：

- Fiery XF は現在のジョブステータスに関する情報を情報管理システム（プリント MIS デバイス）に送信できます。
- Fiery XF はプリンタからメディア消費量とインク消費量に関する情報を受け取ることができます。
- JDF デバイスの特定の組み合わせでサポートされている場合、Fiery XF はプリント MIS デバイスから印刷可能なジョブを受信し、プリンタに送信することができます。



次の JDF/JMF ファイル形式をサポートしています。

- MIME パッケージ
- コンテンツ（URL）付き JDF/JMF
- コンテンツなし JDF/JMF

JDF 接続の設定

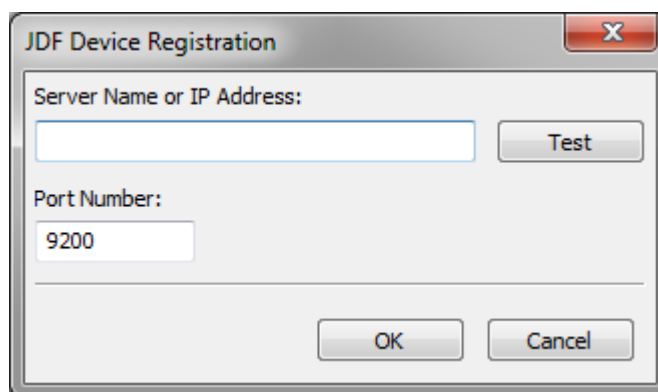
JDF 接続をセットアップするには、Fiery XF のプリント MIS デバイスと、出力装置で特定の設定が必要になります。

JDF の接続をセットアップする前に、以下の点を確認してください：

- ワークフロー名と出力デバイス名は特殊文字が含んでいないこと。
- ワークフローが使用可能な出力デバイスに接続されていること。

プリント MIS デバイスへの JDF 接続をセットアップするには

- 1 System Manager を開きます。「ツール」メニューから、「システム情報」をクリックします。
- 2 「一般設定」から、「JDF コミュニケーションコミュニケーションを有効にする」を選択し、「OK」をクリックします。
- 3 「編集」メニューで、「JDF デバイス登録」をクリックします。



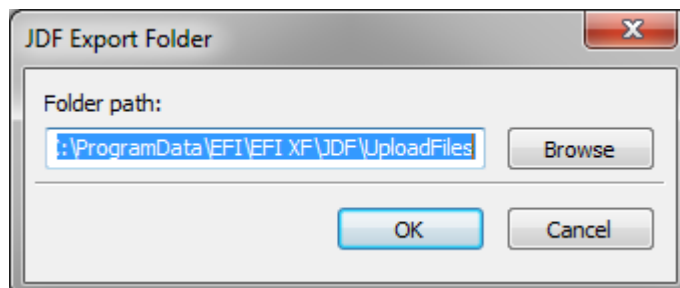
- 4 MIS ソフトウェアがインストールされているワークステーションの IP アドレスおよびポート番号を入力します。

デフォルトポート番号は、http モードでは「9200」、https モードでは「12443」です。「テスト」ボタンをクリックして接続を確認することができます。

JDF 対応出力デバイスへの JDF 接続をセットアップするには

- 1 System Manager を開きます。「ツール」メニューで、「システム情報」が選択されていることを確認します。
- 2 「一般設定」から、「JDF コミュニケーションコミュニケーションを有効にする」を選択し、「OK」をクリックします。

- 3 「編集」メニューで、「JDF エクスポートフォルダ」をクリックします。



デフォルトでは、処理済みのジョブは、JDF エクスポートフォルダに保存されます。プリンタはこのフォルダからジョブを確認します。お使いのコンピュータのコンフィグレーションで可能であれば、C ドライブ上の空きディスク容量を解放するために、別のパーティション上のフォルダを指定することをお勧めします。

- 4 レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「デバイス」タブで、「接続」ペインを開きます。
- 5 「接続タイプ」で、「JDF のポート経由で印刷」を選択します。

VUTEk プリンタのライセンスが 1 つあれば、JDF ポートまたはファイル出力を介して無制限の数の出力デバイスから印刷できます。唯一の前提条件は、リニアリゼーションデバイスを含むすべての出力デバイスを同じ VUTEk プリンタで印刷するように設定しておく必要があるということです。

- 6 プリンタの IP アドレスおよび IP ポートを入力します。

デフォルトの IP ポートは 8013 です。詳細については、システム管理者にお尋ねください。

「接続」ボタンをクリックして接続を確認することができます。接続をテストするには、プリンタの電源がオンになっている必要があります。エラーメッセージが表示された場合は、システム管理者に問い合わせてください。



- 7 変更を保存します。

関連参照：

51 頁の「[システムコンフィグレーションの作成](#)」

61 頁の「[新規出力デバイスを作成するには](#)」

226 頁の「[VUTEk プリンタへの印刷](#)」

Fiery XF 内のベースリニアリゼーションファイルにプリント MIS のデータベースのマッピング

Fiery XF のメディア名を選択すると、ベースリニアリゼーションファイルが適用されます。ベースリニアリゼーションファイルは、当該ジョブの印刷設定の詳細（プリンタ機種、インクの種類、インクの数、および印刷解像度）を含んでいます。プリント MIS デバイスと Digital StoreFront は、メディアタイプをそれぞれ異なる方式で管理します。メディアサイズはデータベースに保存されますが、データベースのエントリには、印刷設定の詳細が含まれません。

印刷 MIS デバイスからデータベースエントリを使用できるように、Media Mapper と呼ばれる特別なツールが提供されています。このツールを使用すると、Fiery XF 内のベースリニアリゼーションファイルに各データベースエントリをリンクさせることができます。

Fiery XF でプリント MIS デバイスへの JDF 接続を設定するとき、データベースのコンテンツも自動的に Fiery XF に送信されます。データベースは定期的に同期化されます。

FIERY XF 内のベースリニアリゼーションファイルにプリント MIS のデータベースをマッピングするには

1 「ツール」メニューから「メディアのマッピング」をクリックします。

「メディアのマッピング」ダイアログボックスが表示されます。左側にプリント MIS データベースから印刷メディアのリストが表示されます。右側に Fiery XF で利用可能な印刷メディア名が表示されます。

2 「XF メディア」から、メーカー、プリンタ、インクの種類を選択します。

3 次のいずれかを行います。

- プリント MIS メディアを左側から Fiery XF メディア名にドラッグします。
- MIS メディアを右クリックし、「マップ」をクリックします。

ベースリニアリゼーションファイルの印刷設定が表示されます。一部の印刷メディアは複数のベースリニアリゼーションファイルを持っている場合があるので注意してください。ドロップダウンリストボックスから、希望の印刷設定のために作成したベースリニアリゼーションファイルを選択します。

4 「保存」をクリックします。

JDF ジョブを読み込むとき、Fiery XF はプリント MIS メディアにリンクされているベースリニアリゼーションファイルを適用します。

印刷メディアマッピングの詳細は CSV ファイルにエクスポートすることができます。「編集」メニューで、「印刷メディアカタログをエクスポート」をクリックします。

マッピングされていないメディアの JDF ジョブを処理するには

受信される JDF ジョブのために選択されているメディアがベースリニアリゼーションファイルにマッピングされていない場合、ジョブは、Fiery XF でエラーステータスとなります。ジョブを右クリックし、「メディアのマッピング」をクリックすることにより、ジョブを適切なベースリニアリゼーションファイルにリンクすることができます。「メディアのマッピング」ダイアログボックスが表示されます。ワークフロープリンタがあらかじめ選択されています。または、プリント MIS データベースのエントリに新しいベースリニアリゼーションファイルを作成することができます。

関連参照：

158 頁の「ベースリニアリゼーションファイルの新規作成」

270 頁の「Fiery XF 内のベースリニアリゼーションファイルにプリント MIS のデータベースをマッピングするには」

Fiery XF における JDF ジョブ

JDF Connector はサービスの 1 つとして実行されます。サーバが起動すると、JDF Connector も自動的に起動します。Fiery XF サーバが作動していない場合は、JDF 接続は中断されます。

JDF ジョブがどのように Fiery XF に読み込まれるかは添付されるコンテンツファイル数により異なります。1 つのコンテンツファイルを持つジョブは、単一ジョブとして読み込まれます。コンテンツファイルが無い、または複数のコンテンツファイルを持つジョブは、ネスティングとして読み込まれます。

ジョブ名は保持されます。JDF ジョブがジョブ名を指定せずに送信される場合、デフォルトのジョブ名がつけられます。必要に応じて、名前を変更できます。

ジョブリストで、ジョブステータスは「JDF ステータス」列に表示されます。この列が表示されていない場合、追加することができます。状況を表わすメッセージは次のとおりです。

ステータス	意味
送信中	JDF ジョブを読み込み中です。
受信済み	JDF ジョブは印刷準備ができています。
未完了	読み込まれた JDF ジョブにはコンテンツがありません。ジョブ処理を開始するには、コンテンツを追加する必要があります。
完了	ジョブ処理は完了しました。

関連参照：

78 頁の「ジョブリストのカスタマイズ」

273 頁の「JDF ジョブにコンテンツファイルを追加するには」

JDF ジョブ情報の表示

ジョブを送信する前に、JDF 対応プログラムで次の情報を入力する必要があります。

- ジョブ ID
- 顧客 ID、名前、説明

次の情報はオプションです：

- コンテンツまたはコンテンツへの URL
- ジョブ名
- ジョブの説明
- 印刷メディアサイズ
- 印刷の向き
- 印刷物の数

FIERY XF で、JDF ジョブ情報を表示するには

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「ファイル」タブで「JDF チケット」ペインを開きます。
- 2 「詳細」をクリックします。

「JDF ジョブプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。次の詳細が表示されます：

- ジョブ
- メディア、メディア消費量、メディア消耗
- インク、インクの消費量
- 印刷時間

コンテンツファイルを追加する

Fiery XF に送信された JDF コンテナに、コンテンツファイルの無いまたは複数ファイルとなっても、ファイルを追加できます一つのコンテンツファイルのみから作成された JDF ジョブにさらにコンテンツを追加することはできません。

JDF ジョブにコンテンツを追加するには、次の方法のいずれかを使用します：

JDF ジョブにコンテンツファイルを追加するには

- 1 ジョブリストで、JDF コンテナを右クリックして、「コンテンツファイルの追加」をクリックします。

「ジョブのインポート」ダイアログボックスが表示されます。

Fiery XF でサポートされている任意の形式でファイルを追加することができます。Fiery XF に追加されたコンテンツファイルは、自動的に配置されることも、メディア上で調整されることもありません。

- 2 あなたがコンテンツとして追加したいジョブを参照し、「開く」をクリックします。

これでジョブが JDF コンテナに追加されます。

- 3 ジョブリストで、各コンテンツファイルに対して、「配置済み」をクリックします。

「配置済み」列が表示されていない場合、追加することができます。

- 4 「レイアウト」タブで「ネスティング」ペインを開きます。

- 5 「適用」をクリックして、シート上の画像を配置します。

JDF チケットを割り当てることにより、JDF ジョブへのコンテンツファイルを追加することができます。

JDF チケットを割り当てるには

MIS に対応した環境では、JDF ジョブが Fiery XF へ送信された方法にかかわらず、ジョブのトラッキングを行うことをお勧めします。

JDF チケットは Fiery XF に読み込まれる各 JDF ジョブごとに生成されます。しかし、場合により、グラフィックスプログラムから直接読み込むなど、別の方法でジョブを読み込む必要がある場合があります。これは、画像が JDF にサポートされていない形式である場合等に必要となる場合があります。この場合、JDF チケットを割り当てることによって、ジョブを追加することができます。

- 1 ジョブリストで、JDF ジョブに追加したいジョブをクリックします。
- 2 「ファイル」タブで「JDF チケット」ペインを開きます。
- 3 ドロップダウンリストボックスの「JDF チケットの添付」から、JDF ジョブを選択し、「適用」をクリックします。

JDF チケット名はジョブ ID とファイル名で構成されています。ジョブがデフォルト名で読み込まれている場合は、識別しやすくするための一意の名前に変更することができます。

ジョブは移動され、JDF ジョブの一部となります。

関連参照：

78 頁の「ジョブリストのカスタマイズ」

Fiery XF での JDF ジョブの編集

通常、Fiery XF に送信された JDF ジョブは、ジョブリストに表示された時点で処理が開始されます。そのため、Fiery XF で JDF ジョブを編集する必要がある場合は「保留」モードに設定しておく必要があります。必要な変更を加えたあとで、手動で印刷を開始してください。

他のジョブと同様にコンテンツファイルを編集することができます。JDF ジョブに複数のコンテンツファイルが含まれている場合、ネスティング設定も可能です。

コンテンツファイルを削除するには

1 次のいずれかを行います。

- ジョブリストでコンテンツファイルを右クリックし、「削除」をクリックします。
- ジョブリストで、コンテンツファイルを右クリックします。ツールバーで、「ジョブの削除」を選択します。
- ジョブリストで、コンテンツファイルを右クリックします。 キーを押します。

関連参照：

67 頁の「システムコンフィグレーションをオフラインに設定するには」

91 頁の「ジョブの編集」

118 頁の「ネスト済みページの位置を揃える」

バックアップと復元

設定のバックアップを作成することで、Fiery XF を素早く簡単に以前の状態に復元することができます。バックアップには次の2つのタイプがあります。

- システムコンフィグレーションのバックアップ：

Fiery XF を再インストールする前に、お使いのシステムコンフィグレーションのバックアップを作成します。その後、新しくインストールする際にシステムコンフィグレーションのバックアップファイルを読み込むことにより、Fiery XF を素早く簡単に以前の状態に復元することができます。

- 環境設定のバックアップ作成

一定期間ごとに繰り返しジョブを出力する必要がある場合は、環境設定のバックアップを作成します。環境設定のバックアップを保存して復元することによって、毎回、全く同じ設定で出力することができます。また、環境設定のバックアップを使用して、顧客に正確なワークフロー/プリンタ情報を提供することができます。

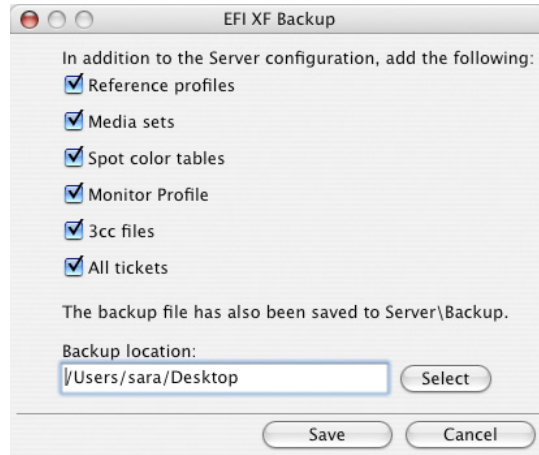
システムコンフィグレーションのバックアップ作成

システムコンフィグレーションのバックアップは次の項目を保存します：

- Fiery XF サーバコンフィグレーション
- すべてのユーザ設定
- すべてのワークフロー設定（ワークスペース、選択したプリセット、ベースリニアリゼーションファイル、スポットカラー、プロファイルを含む）
- すべてのプリンタ設定

システムコンフィグレーションのバックアップを作成するには

- 1 **System Manager** を開きます。「ファイル」メニューで、「バックアップ」をクリックします。



- 2 **バックアップする項目のチェックボックスをオンにします。**

サーバコンフィグレーションはデフォルトで保存されます。

- 3 **バックアップの場所を指定します。**

デフォルトでは、システムコンフィグレーションのバックアップは2つの場所（「バックアップ」フォルダとデスクトップ）に保存されます。2つ目の保存先を変更するには、「選択」をクリックし、新しい保存先を参照します。

- 4 **「保存」をクリックします。**

バックアップファイルが正常に保存されるとダイアログボックスが表示されます。

- 5 **「OK」をクリックしてバックアップ作業を終了します。**

システムコンフィグレーションを復元するには：

システムコンフィギュレーションを復元すると、同じ名前のすべての既存のファイルが上書きされます。すべてのバックアップが作成されていないユーザ、ワークフロー、プリンタ設定は、それぞれのデフォルト値にリセットされます。

- 1 **System Manager** を開きます。「ファイル」メニューで、「復元」をクリックします。

「復元」ダイアログボックスが表示されます。「バックアップ」フォルダの内容が表示されます。

- 2 **バックアップファイルをクリックします。**

バックアップファイルが空の場合は、「選択」をクリックしてバックアップファイルを参照します。バックアップ作業中に異なる保存先を定義しない限り、ファイルはデスクトップ上にあります。バックアップファイルを選択し、「開く」をクリックします。

3 「OK」をクリックします。

バックアップファイルが正常に復元されるとダイアログボックスが表示されます。

4 「OK」をクリックし、Fiery XF サーバを再起動し、復元されたシステムコンフィグレーションを表示します。

環境設定の保存

環境設定のバックアップファイルは以下の項目を保存します：

- すべてのワークフロー設定（選択したプロファイル、プリセット、ベースリニアリゼーションファイル、スポットカラーを含む）
- プリンタ設定

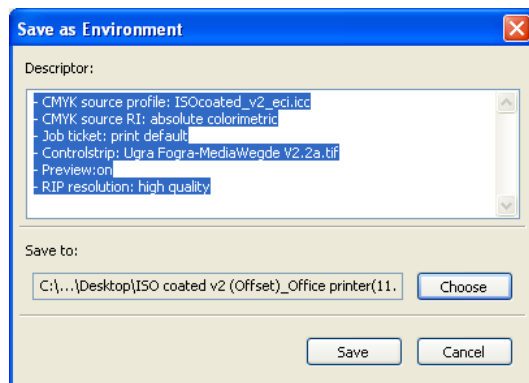
環境設定を保存するには：

ワークフローまたはジョブの環境設定を保存することができます。

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」メニューで、「環境として保存」をクリックします。
- System Manager を開きます。レイアウト領域で、ワークフローを右クリックし、「環境として保存」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブをクリックします。「ファイル」メニューで、「環境として保存」をクリックします。
- Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブを右クリックし、「環境として保存」をクリックします。

「環境として保存」ダイアログボックスが表示されます。ワークフローの環境設定を保存する場合は、ワークフロー設定が表示されます。ジョブの環境設定では、自分のジョブの説明を入力することができます。



2 バックアップの場所を指定します。

デフォルトでは、環境設定のバックアップファイルは2つの場所（「環境」フォルダとデスクトップ）に保存されます。2つ目の保存先を変更するには、「選択」をクリックし、新しい保存先を参照します。

3 「保存」をクリックします。

バックアップファイルが正常に保存されるとダイアログボックスが表示されます。

4 「OK」をクリックしてバックアップ作業を終了します。

環境設定を復元するには

環境設定は System Manager で復元することができます。

1 次のいずれかを行います。

- レイアウト領域で、空の領域を右クリックし、「環境をインポート」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「環境のインポート」をクリックします。

「環境のインポート」ダイアログボックスが表示されます。「環境」フォルダの内容が表示されます。

2 バックアップファイルをクリックします。

バックアップファイルが空の場合は、「選択」をクリックしてバックアップファイルを参照します。バックアップ作業中に異なる保存先を定義しない限り、ファイルはデスクトップ上にあります。バックアップファイルを選択し、「開く」をクリックします。

3 「上書き許可」を選択します（オプション）。

チェックボックスを選択すると、一意の名前の付いた名前のファイルのみ復元されます。同じ名前のすべての既存のファイルは上書きされます。

4 「OK」をクリックします。

正常に復元されたら、この旨を示すダイアログボックスが表示されます。

5 「OK」をクリックします。

- 適切な出力オプションのライセンスが有効である場合は、ワークフローと出力デバイスは復元され、互いに接続されます。しかし、復元された環境設定により印刷を行う前に、プリンタの接続を確認してください。
- 出力オプションのライセンスの数が不十分である場合は、ワークフローと出力デバイスは復元されますが、互いに接続されません。
- 有効な出力オプションのライセンスがない場合は、ワークフローは復元されますが出力デバイスは復元されません。

スポット カラー

スポット カラーは、一回のプリントランで既にあるインクで印刷することができる色のことです。これとは対照的に、プロセスカラー印刷では、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックを混ぜて他の色を作成します。

スポット カラーを使用すると、プロセスカラーに比べてより鮮やかな広範囲のカラーを再現することができます。その結果、会社のロゴなどはスポット カラーを使用して印刷します。多くのメーカーがスポット カラーとこれらの色の印刷例を示した一連の見本帳を作成しています。

Fiery XF は内部スポット カラーライブラリで主要スポット カラーメーカーによるスポット カラーを管理します。これらの色は、Fiery XF で自動的に検出されます。

Fiery XF で名前が不明なスポット カラーを含むジョブを読み込む場合、ジョブが正しく出力されるにはそれを定義する必要があります。

スポット カラーでジョブを定義し、処理するには、スポット カラーオプションが必要になります。

スポット カラーの定義

次の場所でスポット カラーを定義することができます

- Job Explorer :

Job Explorer は Fiery XF で既に読み込まれているジョブのスポット カラーを定義する迅速かつ簡単な方法です。

- Color Editor :

Color Editor はスポット カラーの定義、測定、編集を包括的に行うプログラムです。

定義されているスポット カラーは、スポット カラーテーブルに保存されます。ある単一ジョブに対してスポット カラーテーブルを選択することも、これをワークフローに取り込むこともできます。

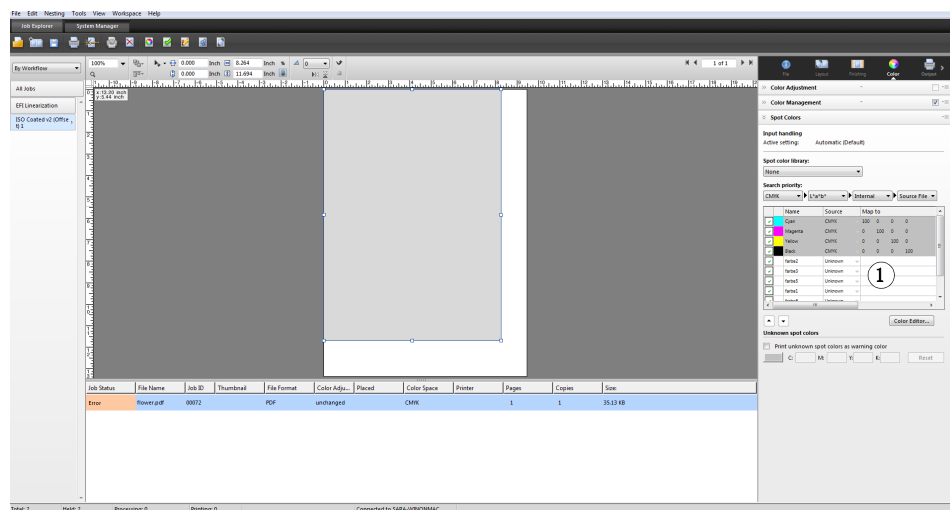
読み込まれたジョブのスポット カラーを定義するには

未定義のスポット カラーを持つジョブを読み込む場合、このジョブはプレビューウィンドウでグレーボックスとして表示されます。エラーメッセージが表示され、ジョブの処理が中断されます。

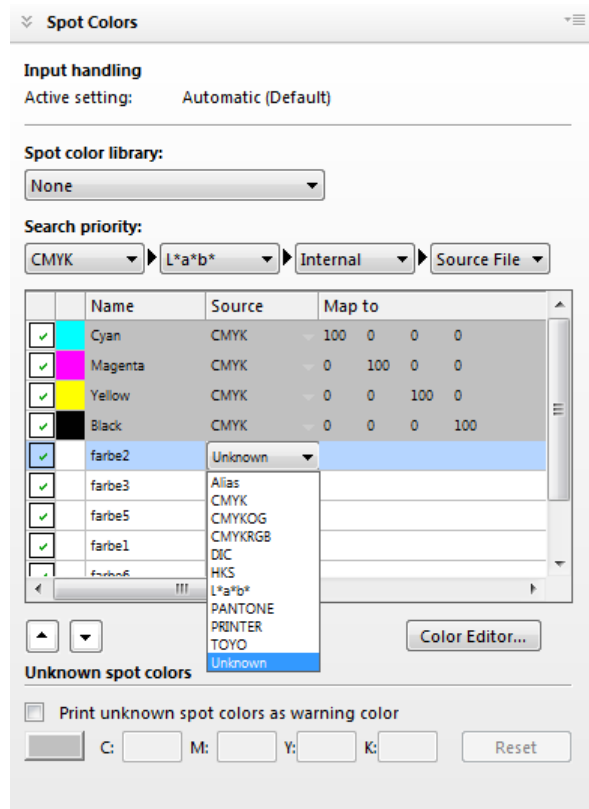
- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」ペインを選択します。

スポット カラー定義テーブルで、未定義のスポット カラーは「不明」と記載されています。

「スポット カラー」タブ 1 不明なスポット カラー



- 2 テーブルの「ソース」列で、不明スポット カラーの横にある下向き矢印をクリックし、定義したいスポット カラーの種類をクリックします。



- 内蔵のスポット カラー ライブラリからカラーをマッピングして、スポット カラーを定義できます。内蔵のスポット カラーライブラリには、主要スポット カラーメーカーによる無数のスポット カラーがあります。「PANTONE」、 「HKS」、 「TOYO」 または 「DIC」 から選択します。
- 選択したカラー空間にカラー値を入力してスポット カラーを定義することも可能です。「CMYK」、 「CMYKOG」、 「CMYKRGB」 または 「L*a*b*」 を選択します。
- カスタムスポット カラーにある別のスポット カラーにエイリアスを作成することにより、スポット カラーを定義することができます。「エイリアス」 を選択します。
- スポット カラーや、ホワイトインク、クリアインク、またはメタリックインクを含んだプリンタインクチャンネルにあるスポット カラーを割り当てることができます。「PRINTER」 を選択します。

3 テーブルの「マップ先」列で、不明なスポット カラーを定義します。

下表は、「マップ先」列の記入例を記したものです。

「ソース」列	説明	「マップ先」列
CMYK、 CMYKOG、 CMYKRGB、 L*a*b*	選択したカラースペースでスポット カラーを定義します。	適切なボックスに必要な色の値を入力します。
PANTONE、 HKS、TOYO、 DIC	内部スポット カラーライブラリから色を選択します。	リストをスクロールして、使用するスポット カラーを選択します。
エイリアス	2つのスポット カラーの間のリンクを作成します。オリジナルカラーに行なわれた任意の変更は、自動的にエイリアスにも適用されます。	シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、または現在のスポット カラーテーブルから任意のカスタムスポット カラーを選択します。
プリンタ	<p>プリンタのインクが使用されるようにプリンタのインクチャンネルを選択します。お使いのプリンタが白インク、クリアインク、またはメタリックインクをサポートしている場合、オリジナルのスポット カラー定義に加えて、これらのプリンタインクを割り当てることができます。追加されるインクは、オリジナルのスポット カラーの後ろまたは上に印刷されます。</p> <p>「PRINTER」での設定は、金色または銀色のメタリックカラーが多く使用される包装産業でよく使用されています。</p> <p>カラーマネージメントは、ジョブの処理中にプリンタのインクを使用しません。</p>	<p>使用したいプリンタのインクチャンネルを選択します。</p> <p>一部の設定は、「反転」相当語句を持っています。これらは名前内の「INV」の文字が認識されます。</p> <p>反転設定を選択した場合、反転した割合の量のインクが適用されます。つまり、100%カラーには0%カラー、100%インクには0%カラー、30%カラーには70%カラーが適用されます。</p> <p>反転設定を巧みに利用することで、いかなるカラーのメディアセットでも最終印刷物をシミュレートすることができます。</p>

4 テーブルの「適用」列で、プリンタごとにカラーを選択します（オプション）。

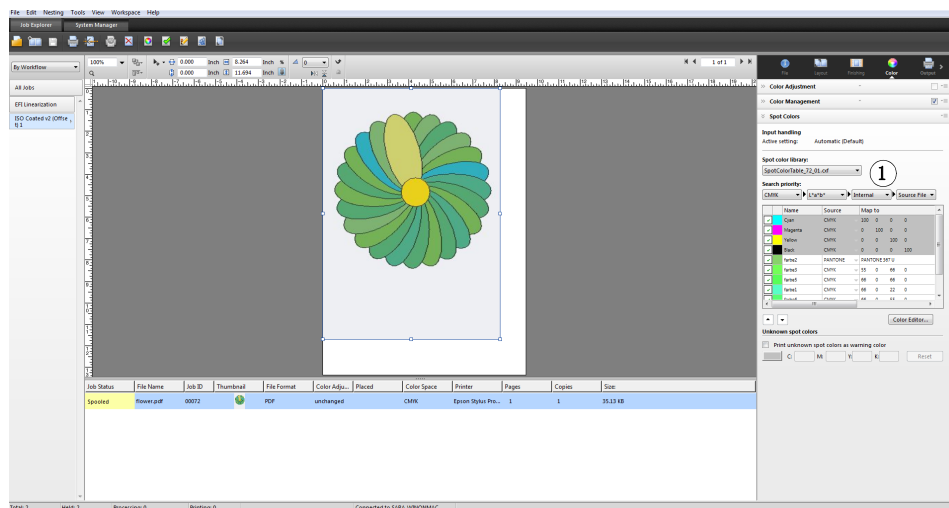
お使いのプリンタが白インク、クリアインク、またはメタリックインクをサポートしている場合、オリジナルのスポット カラー定義に加えて、これらのプリンタインクを割り当てることができます。追加されるインクは、オリジナルのスポット カラーの後ろまたは上に印刷されます。本機能により、特にお使いのプリンタがマルチパス（多重層）印刷をサポートしていれば、多くの興味深い特殊効果を作成することができます。この様な特殊効果を作成するには、プリンタ固有の設定を「特別なプリンタ設定」ペインで行わなければなりません。EFIはプリンタインクの Fiery XF ワークフローへの取り込み方に関する説明文を別途提供しています。当社の Web サイトまでアクセスしてください：
<http://w3.efi.com/services/proofing-services/knowledge-center>。



5 変更を保存します。

スポット カラーテーブルが作成され、プレビューが更新されます。これには数分間かかる場合があります。

「スポット カラー」タブ 1 選択されたスポット カラーテーブル



スポット カラーテーブルは、現在のジョブに含まれているすべてのプリセットのスポット カラーです。異なるジョブに対して同じスポット カラーテーブルを選択することも、ワークフローに取り込むこともできます。

関連参照：

283 頁の「スポット カラーテーブルを選択」

291 頁の「Color Editor」

スポット カラーテーブルを選択

ある単一ジョブに対してスポット カラーテーブルを選択することも、これをワークフローに取り込むこともできます。

あるスポット カラーテーブルをワークフローに統合することにより、これらスポット カラーを含んだすべてのジョブで、これらスポット カラーが自動的に検出されるようにすることができます。

スポット カラーフォルダに保存されたスポット カラーテーブルのみ Fiery XF で選択することができます。

スポット カラーテーブルを選択するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。

2 「スポット カラーライブラリー」から、カスタムスポット カラーテーブルを選択します。



3 変更を保存します。

スポット カラーテーブルを編集する

Job Explorer で、次のように、スポット カラーテーブルを編集することができます：

- 新しいスポット カラーを追加することができます
- スポット カラーの定義を変更することができます。
- 異なるスポット カラーをエイリアスするスポット カラーを微調整することができます。

変更を保存するたびに、新しいスポット カラーテーブルが作成されます。新しいスポット カラーテーブルは、元の名前に引き続いて増分番号がついて保存されます。従って、必要に応じて、簡単に、以前のスポット カラーテーブルに戻すことができます。

既存のスポット カラーテーブルに新しいスポット カラーを追加するには

1 未定義のスポット カラーを含むジョブを読み込みます。

2 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。

3 「スポット カラーライブラリー」から、カスタムスポット カラーテーブルを選択します。

4 不明なスポット カラーを定義します。

5 変更を保存します。



スポット カラーの定義を変更するには

1 編集したいスポット カラーを含むジョブを読み込みます。

- 2 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。
- 3 「スポット カラーライブラリー」から、カスタムスポット カラーテーブルを選択します。
- 4 スポット カラーの定義テーブルで、必要な変更を行います。
- 5 変更を保存します。



内部スポット カラーをエイリアスするスポット カラーを編集するには

スポット カラーメーカーのスポット カラーはデバイス独立の L*a*b* カラースペースで定義され、編集できない名前（例：PANTONE YELLOW C や TOYO 0008 等）で保存されています。

出力したものが期待していたものと異なる場合は、色調整を行うことができます。カラー値を調整するには、スポット カラーをお使いのプリンタのカラースペースの編集可能な値に変換する必要があります。

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。
- 2 「スポット カラーライブラリー」から、カスタムスポット カラーテーブルを選択します。
- 3 テーブルの「ソース」列で、スポット カラーの横にある下向き矢印をクリックしてから、「インクジェット」をクリックします。
スポット カラーが、選択したプリンタのカラースペースで表示されます。
- 4 カラー値を編集して必要な色 ?? 調整を行います。
- 5 変更を保存します。



Color Editor でスポット カラーテーブルを編集することもできます。選択したスポット カラーテーブルを開くには、Color Editor をクリックします。

関連参照：

[280 頁の「読み込まれたジョブのスポット カラーを定義するには」](#)

[291 頁の「Color Editor」](#)

未定義のスポット カラーを出力

未定義のスポット カラーを持つジョブを読み込む場合、このジョブはプレビューウィンドウでグレーボックスとして表示されます。エラーメッセージが表示され、ジョブの処理が中断されます。不明なスポット カラーをまず定義せずにジョブを出力したい場合は、印刷物上で簡単に認識できる警告カラーですべての不明なスポット カラーを置換することができます。

不明なスポット カラーのあるジョブを印刷するには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」ペインを選択します。
- Job Explorer を開きます。ジョブリストで、不明なスポット カラーを含むジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」ペインを選択します。

2 「不明なスポット カラーを印刷する」から、チェックボックスを選択します。

デフォルトの警告色はオレンジ色ですが、該当するボックスに CMYK 値を入力することにより、カスタムの警告カラーを定義することができます。また、「リセット」ボタンをクリックすることにより、いつでもデフォルトの警告色に戻ることができます。



3 変更を保存します。

ジョブからスポット カラーを対象外とする

ジョブからスポット カラーを対象外とすることができます。スポット カラーを対象外とする利点は次のとおりです。

- 各色を個別ファイルとして印刷することができます。
- あなたは、不明のスポット カラーを定義せずにジョブを印刷することができます。

ジョブからスポット カラーを対象外するには

1 Job Explorer ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。

2 スポット カラーの定義テーブルの最初の列のチェックボックスを必要に応じてオフにします。

チェックボックスをクリアすることによって、ジョブからこれを対象外とすることができます。デフォルトでは、すべてのスポット カラーが選択されています。



3 変更を保存します。

インクシーケンスを変更する

デフォルトでは、スポット カラーは、グラフィックファイルで定義された順番に関わらず、プロセスカラーの上に印刷されます。しかし、インクシーケンスは印刷結果に著しい影響を与える可能性があります。スポット カラーがプロセスカラーの上に印刷される場合、プロセスカラーの下に印刷されるスポット カラーが全く違って見えます。

印刷されるジョブカラーの順番を並び替えることもできます。しかし、プロセスカラーはブロックとして処理され、個々に動かすことはできません。これは、すべてのプロセスカラーのカラー出力は、スポットカラー定義ではなく、シミュレーション（リファレンス）プロファイルにより決定されているためです。

インクシーケンスを変更するには

- 1 Job Explorer ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。
- 2 スポット カラーの定義テーブルで、1つの色をクリックします。
- 3 スポット カラー定義テーブルから、矢印ボタンをクリックし、一覧内でカラーの順位を上げたり下げたりします。
- 4 変更を保存します。



検索順序を変更する

ジョブの処理中、Fiery XF は各スポット カラー定義を指定された検索順序で検索します。デフォルトの検索順位は、適用されるワークフローテンプレートの種類により異なります。校正ワークフローの検索順位は、生成ワークフローの検索順位とは異なります。Fiery XF は、指定した検索順序に従って、検出した各スポット カラーの最初のインスタンスを適用します。

あるスポット カラー名が複数あり、それぞれに異なるカラー値の定義を持つ場合、例えば、設定した CMYK カラー値を持つソースファイルに埋め込まれたスポット カラーを再定義している場合には、デフォルトの検索順位を変更すると便利かもしれません。印刷結果は、使われるスポット カラーの定義により大きく異なる可能性があります。

上記の例では、デフォルトの検索順序を使用して、Fiery XF は CMYK カラー定義を適用しました。検索順序を変更することで、Fiery XF にソースファイルからスポット カラーの定義を適用することを強制することができます。

検索順序を変更するには

- 1 次のいずれかを行います。
 - System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」ペインを選択します。
 - Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポット カラー」ペインを選択します。
- 2 「検索の優先順位」から、Fiery XF がスポット カラーを検索する優先順位を定義します。

4 種類すべてを検索順位の定義に含める必要はありません。また、検索対象となるスポット カラーソース数を絞るために、「なし」を選択することもできます。4 種類すべてに対して「なし」を選択すると、スポット カラー検索機能が無効となります。この場合、すべてのスポット カラーは「不明」と表示され、ジョブの処理を続行できません。

ソースプロファイルの使用を強制する

送信される各 PostScript や TIFF のジョブは、CMYK またはマルチカラー (CMYKOG / CMYKOGB / CMYKRGB) カラースペースのいずれで作成されたかを判断するために分析されます。この分析に基づいて、Fiery XF はカラーマネージメント設定で選択された適切な CMYK またはマルチカラーソースプロファイルを適用します。

Fiery XF は PostScript や TIFF のいずれの形式でもマルチカラーを処理することができますが、可能な限り、PostScript 形式を使用することをお勧めします。

デフォルトでは、下記のように、Fiery XF は PostScript や TIFF ジョブを処理します：

- PostScript ジョブ

マルチカラーソースプロファイルを PostScript ジョブに適用するには、ジョブやプロファイルが同じインクチャンネルに対して作成されている必要があります。ジョブがソースプロファイルでは欠落しているインクチャンネルを含んでいる場合、それらの色はスポットカラーとして処理されます。

下記の表は、マルチカラーソースプロファイルがどのように PostScript ジョブに適用されるかを示しています。

ジョブのカラースペース	選択されるマルチカラーソースプロファイル	適用されるソースプロファイル
CMYK	なし	CMYK
CMYKOG	CMYKOG	CMYKOG
CMYKOG	CMYKOG	CMYKOG スポットカラーとして B を定義します。
CMYKRGB	CMYKOG	CMYK スポットカラーとして RGB を定義します。
CMYKRGB	CMYKRGB	CMYKRGB

- TIFF ジョブ

色情報は、ファイルヘッダーが利用可能であれば、ここから読み取られます。この場合、ソースプロファイルは、PostScript ジョブ用として適用されます。

色情報がファイルヘッダーから読み取ることができない場合は、色自体ではなく、チャンネルの数がのみが重要となります。7インクチャンネルを使用してジョブを処理するには、7色のマルチカラーソースプロファイルなら何でも使うことができます。ジョブは常にマルチカラープロファイルのカラーを使用して処理されます。

デフォルト設定に上書きして、Fiery XF に特定のソースプロファイルを適用させるよう強制することができます。

ソースプロファイルの使用を強制するには

- 1 System Manager を開きます。「カラー」タブで「スポット カラー」タブを選択します。
- 2 「入力処理」から、1つの項目をクリックします。
 - CMYK に強制

下表は、CMYK ソースプロファイルの使用を強制した場合の効果を示しています。

ジョブのカラーペース	ファイル形式	適用されるソースプロファイル：CMYK
CMYKOG/ CMYKOGB/ CMYKRGB	PostScript	CMYK が印刷されます。OG / OGB / RGB は、スポット カラーとして処理されます。
CMYKOG/ CMYKOGB/ CMYKRGB	TIFF	CMYK が印刷されます。マルチカラーチャンネルが失われます。

- マルチカラーに強制

下表は、マルチカラーソースプロファイルの使用を強制した場合の効果を示しています。

ジョブのカラーペース	ファイル形式	適用されるソースプロファイル：マルチカラー
CMYKOG/ CMYKOGB/ CMYKRGB	PostScript TIFF	マルチカラーソースプロファイルとジョブが同数のインクチャンネルを持っている場合、すべての色が印刷されます。 マルチカラーソースプロファイルよりインクチャンネルが欠落している場合、それらの色はスポット カラーとして処理されます。

RGB およびグレースケールのジョブがこれらの設定に影響されることはありません。

関連参照：

144 頁の「ソースプロファイルとシミュレーション (リファレンス) プロファイルを選択するには」

PANTONE PLUS スポット カラーライブラリ

標準的な PANTONE 内部スポット カラーライブラリから、PANTONE PLUS に切り替えることができます。PANTONE PLUS は、コンテンポラリーなメタリックや、パステル、ネオンカラーを含むスポット カラーライブラリです。PANTONE PLUS カラーライブラリを選択すると、すべての PANTONE スポット カラー定義に適用されます。

PANTONE PLUS スポット カラーライブラリを選択するには

- 1 **System Manager** を開きます。「ツール」メニューから、「システム情報」をクリックします。

「システム情報」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「一般設定」で、「PANTONE PLUS のカラー定義を使用」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

直ちに新しい設定が有効になります。再起動の必要はありません Fiery XF。

スポット カラーテーブルの削除

スポット カラーテーブルは「プログラムデータ \EFI\Fiery XF\サーバ\プロファイル\スポットカラー」フォルダに保存されています。「スポットカラー」フォルダを開き、不要となったスポット カラーテーブルを削除します。

また、Fiery XF をクリーンアップすることで、スポット カラーテーブルを削除することもできます。

関連参照：

385 頁の「[クリーンアップ Fiery XF](#)」

COLOR EDITOR

スポットカラーは、一回のプリントランで既にあるインクで印刷することができる色のことです。これとは対照的に、プロセスカラー印刷では、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックを混ぜて他の色を作成します。

スポットカラーを使用すると、プロセスカラーに比べてより鮮やかな広範囲のカラーを再現することができます。その結果、会社のロゴなどはスポットカラーを使用して印刷します。多くのメーカーがスポットカラーとこれらの色の印刷例を示した一連の見本帳を作成しています。

Fiery XF は内部スポットカラーライブラリで主要スポットカラーメーカーによるスポットカラーを管理します。これらの色は、Fiery XF で自動的に検出されます。

Fiery XF で名前が不明なスポットカラーを含むジョブを読み込む場合、ジョブが正しく出力されるにはそれを定義する必要があります。

スポットカラーでジョブを定義し、処理するには、スポットカラーオプションが必要になります。

次の場所でスポットカラーを定義することができます

- Job Explorer :

Job Explorer は Fiery XF で既に読み込まれているジョブのスポットカラーを定義する迅速かつ簡単な方法です。

- Color Editor :

Color Editor はスポットカラーの定義、測定、編集を包括的に行うプログラムです。

定義されているスポットカラーは、スポットカラーテーブルに保存されます。ある単一ジョブに対してスポットカラーテーブルを選択することも、これをワークフローに取り込むこともできます。

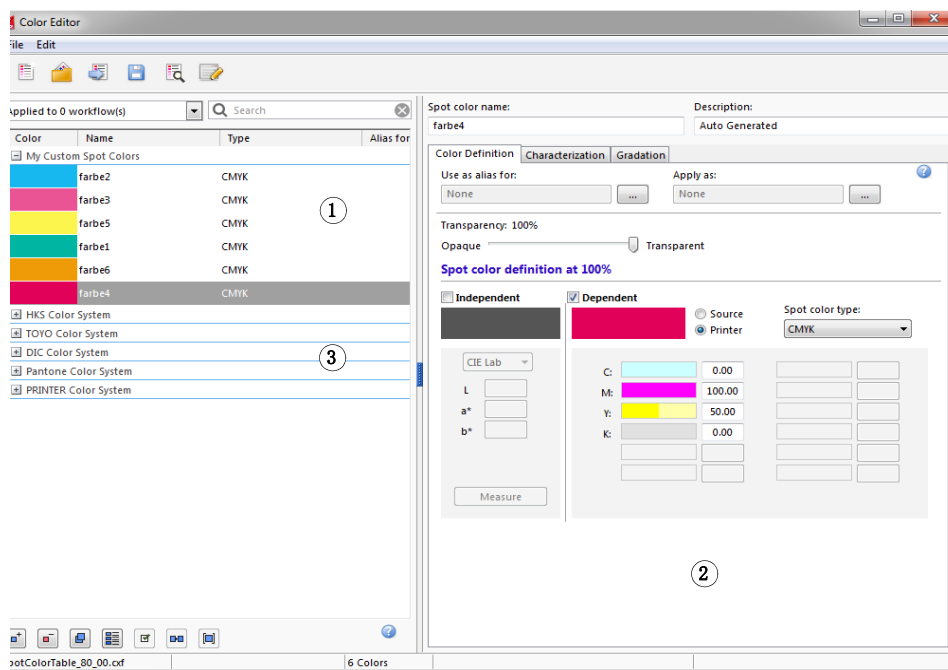
関連参照 :

279 頁の「[スポットカラー](#)」

Color Editor の起動

Color Editor

- 1 スポット カラーのカスタマイズ
- 2 選択したカスタムスポットカラーの定義
- 3 内部 スポット カラーライブラリ



COLOR EDITOR を起動するには（スポットカラージョブが読み込まれている場合）

この方法を用いて、読み込んだジョブのスポットカラーテーブルを編集します。

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブリストでジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポットカラー」ペインを選択します。
- 2 Color Editor をクリックします。

Color Editor が起動します。読み込んだジョブからスポットカラーが表示されます。

また、Color Editor を起動せずに読み込んだジョブのスポットカラーを定義、編集することもできます。しかし、Color Editor はより広範な設定を可能にしています。

COLOR EDITOR を起動するには（スポットカラーのジョブが読み込まれていない場合）

スポットカラーのジョブが読み込まれていない場合、この方法でスポットカラーテーブルを作成または編集します。

- 1 次のいずれかを行います。



- ツールバーで Color Editor をクリックします。
- 「ツール」メニューから、Color Editor をクリックします。

「スポットカラーテーブル」ダイアログが表示されます。

2 次のいずれかを行います。

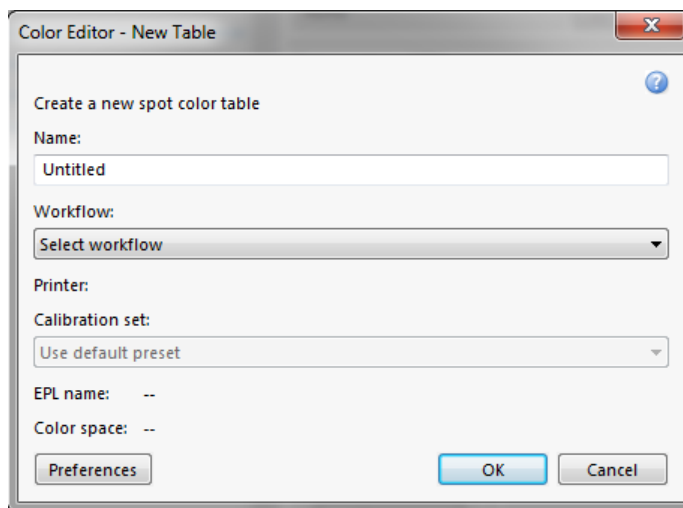
- 前に作成したスポット カラーテーブルを選択し、「OK」をクリックします。

この設定を選択して、既存のスポット カラーテーブルに新しいスポット カラーを追加します。ほとんどの場合、すべてのスポット カラーを1つのスポット カラーテーブル上に保存することをお勧めしています。CXFは、BCT、ICC、またはTAB形式で任意のスポット カラーテーブルを開くことができます。

- 「新しいスポット カラーテーブルを作成します」を選択し、「OK」をクリックします。

お使いのプリンタの色域に最適化されているスポット カラーを定義するには、この設定を選択します。

「新テーブル」ダイアログが表示されます。



- スポット カラーテーブルに新しい名前を入力します。
- 「Fiery XF ワークフロー」を選択します。

Color Editor ワークフローと関連しているプリンタの色域やカラースペースに関する情報を確認します。Color Editor 新しいスポット カラーがプリンタで正しく再現することができるかどうかをチェックするためにこの情報を使います。

スポット カラーテーブルが複数のワークフローで使用される場合は、ワークフローを選択する必要はありません。

- キャリブレーション設定を選択します。

キャリブレーション設定は、選択したプリンタのインクの種類、印刷構成名、ベースリニアリゼーションファイルの設定を定義します。キャリブレーション設定はプリンタに付属するスポット カラーを定義するのに重要です。

– 「OK」をクリックします。

ワークフローやキャリブレーション設定を選択することで、次の目的のために Color Editor を使用することができます：

- L*a*b* スポットカラーを選択したプリンタの色域に変換します。プリンタのカラースペースで定義されているスポットカラーを編集するのに簡単です。
- スポットカラー最適化ファイルを作成、適用することにより、L*a*b* スポットカラーのデルタ E 値を減らすことができます。スポットカラー最適化ファイルは、選択されたスポットカラーとそのグラデーションのカラー精度を回線仕様とする補正プロファイルです。

「環境設定」ダイアログボックスは正確に正しい色にするのに役立つ補足設定を可能にします。「新テーブル」ダイアログボックスから「環境設定」ダイアログボックスを開いたり、後で Color Editor で「環境設定」を設定することができます。

- 「入力なし」を選択して、「OK」をクリックします。

特定のワークフロー向けにスポットカラーを定義するには、この設定を選択します。

Color Editor が起動します。既存のスポットカラーテーブルを開いた場合、スポットカラーが表示されます。

関連参照：

280 頁の「[読み込まれたジョブのスポットカラーを定義するには](#)」

294 頁の「[「環境設定」ダイアログボックス](#)」

「環境設定」ダイアログボックス

「環境設定」ダイアログボックスでは、Color Editor で定義するすべてのスポットカラーに適用される全般的な設定を行います。利用可能な設定の詳細については、この後のセクションで説明します。

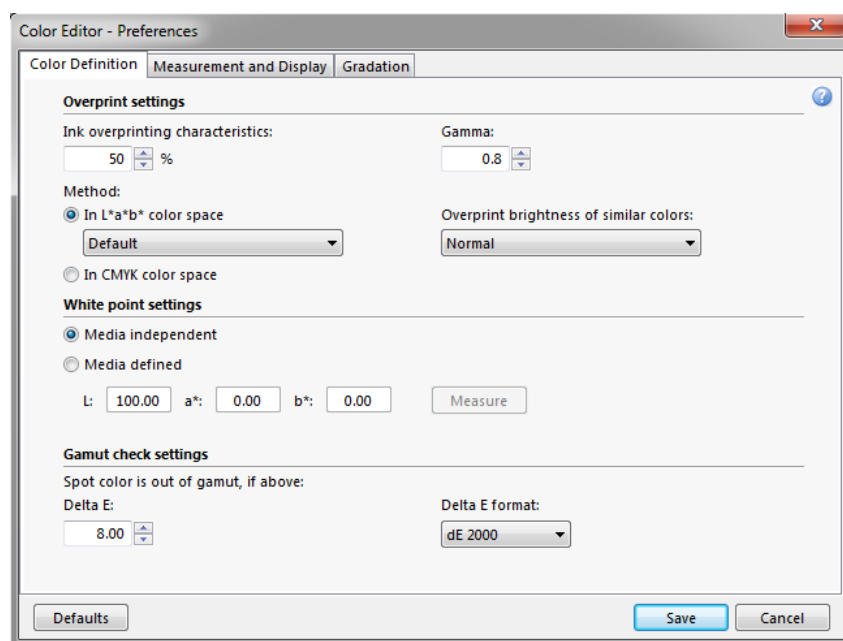
「環境設定」ダイアログを開くには：

1 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「環境設定」をクリックします。
- 「編集」メニューから「環境設定」を選択します。
- 「ファイル」メニューで、「新テーブル」をクリックします。「新テーブル」ダイアログボックスで、「環境設定」をクリックします。

「環境設定」ダイアログボックスが表示されます。



2 設定を完了します。

3 「保存」をクリックします。

すべての環境設定タブにある設定をオリジナルの値にリセットするには、「デフォルト」をクリックします。

「カラー定義」タブ

次の設定を使用できます。

- オーバープリント設定

- インクの上書の特性

通常、2つの異なる色のオブジェクトが重なったとき、ノックアウト効果があります。彼らは互いの上に印刷されません。あるインク層を別のインク層の上に意図的に印刷することをオーバープリントといいます。

オーバープリント設定は、2つ以上のカラーを重ねて印刷する際に、スポットカラーがどのように処理されるかを定義します。

大きな値を設定すると、出力結果は暗くなります。たとえば、オーバープリント値の100%は、カラーがお互いに完全に追加されることを意味します。

設定を低くすると、カラーが不透明になり、他のカラーを一部隠すため、印刷の色が薄くなります。

- ガンマ

スポットカラーのオーバープリントのドットゲインシミュレーションを変更します。この設定は、スポットカラーとプロセスカラー、または2つ以上のスポットカラーが混合しているエリアに適用されます。ここでは、オーバープリント用の非線形動作を定義することができます。

- 方法

CMYKカラー空間でのオーバープリントは、単純なCMYKの追加に基づいています。

L*a*b*カラー空間では、デフォルト設定はブラッドフォードとROMM色順応変換(CATS)に基づいています。CATSは異なる光源の元で対応するカラーを予測することができます。Fiery XFは、ブラッドフォード、CAT、XYZスケールリング、VonKries、Sharp CAT等、多くの異なる色順応モデルをサポートしています。L*a*b*カラーのオーバープリントを定義するCATを選択します。

互いに非常に似ているカラー、例えば、イエローの上にイエロー、レッドの上にマゼンダをオーバープリントして、その明度にアクセントをつけることができます。

- 白色点設定

印刷様式への色合いは、白色点として知られています。印刷様式の白色点は、印刷物のカラー精度に影響を与えます。特に、プルーフワークフローでは、最終印刷構成の色合いが正確にシミュレートできることが重要です。

測定デバイスを用いて印刷構成白色点を測定します。測定された白色点は、スポットカラーの定義を考慮します。スポットカラーの定義に用紙の白色部を含めることで、スポットカラー値は異なる印刷構成で使用される際に簡単に調整され、どのようなメディアセットが使用される場合でも色の精度が維持されます。

- 全域チェック設定

選択したプロファイルを用いて、L*a*b* スポットカラーがどれだけ正確に再現できるかを確認します。また、L*a*b* スポットカラーがお使いのプリンタの色域内にあるかを確認することもできます。色域は、プリンタが再現可能なカラーのすべての範囲を表示します。

ジョブの処理中に、ガモット外のスポットカラーを利用可能な色域にある最も近いカラーにマッピングされます。カラー偏差はデルタ E 値として表示されます。

デルタ E 値として許容制限範囲を定義します。デルタ E は L*a*b* カラー空間における 2 つの色の数学的な違いを測定するために使用されます。

この設定により、ガモット内にあると受け入れられた色域の回りの許容範囲内にスポットカラーを置くことができます。Color Editor は、デルタ E 2000 形式で測定された 5.0 のデフォルトのデルタ E 値を適用します。これらの値は必要に応じて変更することができます。

関連参照：

105 頁の「[コンポジットジョブでのオーバープリント](#)」

305 頁の「[L*a*b* スポットカラーのカラー精度を確認する](#)」

「測定と表示」タブ

次の設定を使用できます。

- 測定デバイス設定

ES-1000 や ES-2000 測定デバイスを用いて、100% インクやグラデーションを定義したり、印刷構成の白色点を測定することができます。「設定」をクリックし、デバイス専用の設定を行います。

- 照明条件

分光学的定量の L*a*b* への変換方法を定義します。

光源（照明）の選択：D-50（水平光）、D-65（人工的な正午の日光）、C（日光）。

観察者角度の選択：デフォルトでは 2 度になっていますが、より大きなビュー角度 10 度が包装および繊維業界でよく利用されています。

- モニタのプロファイル

モニタのプロファイルはコンピュータ画面でのカラー精度をシミュレートし、検証するために利用されます。Windows および Macintosh コンピュータは、オペレーティングシステムソフトウェアの一部として標準モニタのプロファイルを提供します。

オペレーティングシステムのモニタプロファイルを選択するか、カスタムのモニタプロファイルを選択してください。カスタムのモニタプロファイルを選択するには、「選択」をクリックしてプロファイルを参照します。

「グラデーション」タブ

異なるグラデーションを持つスポットカラーがあり、あるグラデーションは印刷時に明るすぎまたは薄くなりすぎる場合、グラデーションカーブに沿って色を追加または削減することによって、明度を変えることができます。

カーブに沿ってポイントを変更するには、ポイントを上（色を追加）または下（色を削減）にドラッグしてください。また、必要な座標をテーブルに直接入力することもできます。

Color Editor のスポット カラーを追加する

本セクションでは、Color Editor のスポット カラーを定義するための基本的な手順について説明します。より具体的な設定については、本資料で該当するセクションを参照してください。

スポット カラーを追加するには

1 Color Editor を起動します。

2 次のいずれかを行います。

- 新しいスポット カラーを追加するには：



- 下のツールバーで、「追加」をクリックします。
- 既存のスポット カラーを右クリックし、「追加」をクリックします。

- 既存のスポット カラーを複製するには：

カスタムスポットカラーを複製したり、内部スポットカラーライブラリーからスポットカラーを複製することができます。内部スポットカラーライブラリーには、主要スポットカラーメーカーによるスポットカラーが含まれていません。



- 下のツールバーで、「複製」をクリックします。
- 既存のスポット カラーを右クリックし、「複製」をクリックします。
- 内部スポットカラーライブラリーからカスタムスポットカラーライブラリーへスポットカラーをドラッグします。

3 「スポット カラー名」に名前を入力します。

名前は、ジョブのスポット カラー名と完全に一致する必要があります。

4 「透明」で、スライダを移動させて透明 / 不透明度（オプション）の度合いを定義します。

透明設定 100%とは、スポットカラーが別の色と重なる場合に下の色がそのまま透けて見えることを意味します。一方、スポットカラーの不透明度の値を 0%にすると、重なった別の色は見えません。

5 「100%でのスポットカラーの定義」で、次のいずれか、または両方を選択します。

- 「自立」は、自立した CIE L*a*b* または CIE LCH カラースペースで 100% のインクの測定を可能にします。デフォルトの測定デバイスは、ES-1000 です。ES-2000 をお持ちの場合は、「環境設定」ダイアログボックスで、最初にこれを選択する必要があります。

測定デバイスを接続し、「測定」をクリックし、画面の指示に従いカラーパッチを測定します。

L*a*b* カラースペースで定義されるスポットカラーは、ダイナミックウェッジに含まれます。

- 「従属」により、ソースプロファイルまたはメディアプロファイルのカラースペースにカラー値を入力できるようになります。「ソース」または「プリンタ」を選択します。次に、ドロップダウンリストボックスから、スポットカラーの種類を選択し、適切なボックスにカラー値を入力します。

お使いのプリンタがホワイトインク、クリアインク、またはメタリックインクをサポートされている場合は、これらのインクチャンネルに対して 100% のカラー値とグラデーションを定義することができます。従属種類は「プリンタ」、スポットカラー種類は「自動」をそれぞれ選択します。追加のインクチャンネルは「1」、「2」、「3」としてリストされます。ポインタを「1」、「2」、「3」のいずれかの上におき、各インクチャンネルを表示させます。

6 次のいずれかを行います。



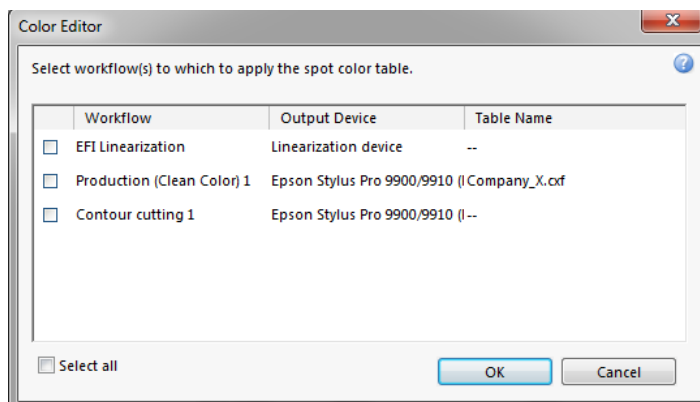
- ツールバーで、「保存」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「保存」をクリックします。

スポットカラーパッチが「マイ・カスタムのスポットカラー」に表示されません。自立 L*a*b* カラー定義は、CMYK / OG / RGB プリンタ従属カラー定義に優先します。

7 スポットカラーテーブルの名前を確認または変更し、「保存」をクリックします。

CXF はスポットカラーテーブルの新しいデフォルトのファイル形式です。ですが、BCT 形式でスポットカラーテーブルを保存することもできます。BCT の形式は、Fiery XF の以前のバージョンと互換性があります。

ダイアログボックスが表示されます。



- 8 該当するチェックボックスを選択して、スポット カラーテーブルを必要なワークフローに適用します。または、「全てを選択します」をクリックします。

ワークフローにすでに割り当てられているスポット カラーテーブルがある場合、オリジナルのスポット カラーテーブルは上書きされますが、再選択リストにはそのまま残ります。

- 9 「OK」をクリックします。

スポット カラーテーブルが作成されます。これは選択したワークフローに適用されます。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

297 頁の「[測定デバイス設定](#)」

304 頁の「[カラーグラデーションを追加する](#)」

314 頁の「[スポット カラーテーブルを Fiery XF ワークフローに適用](#)」

エイリアスの作成

既存のスポット カラーへの固定リンクを作成できます。エイリアスのスポット カラーが、オリジナルのスポット カラーと同一のカラープロパティでありながら、異なる名前で保存されている場合、例えば、「NewSpotColor」という名前のスポット カラーを PANTONE カラーのエイリアスとして設定することができます。

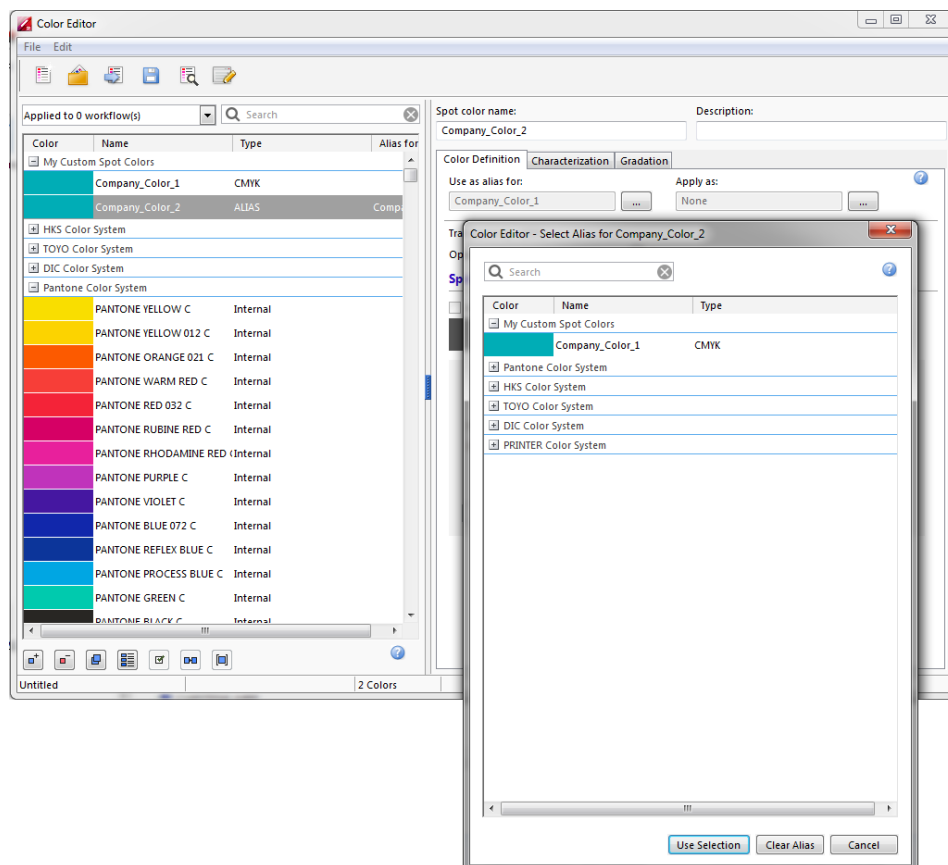
エイリアスのスポット カラーのカラープロパティを編集することはできませんが、グラデーションや透明度を編集することはできます。ただし、オリジナルのスポット カラーに行なわれた任意の変更は、自動的にエイリアスにも適用されます。

エイリアスを作成すると、全く同一のカラー値がグラフィックアプリケーションのスポット カラーの名前を変更せずに両方のスポット カラーに確実に使用されることとなります。

スポット カラーのエイリアスを作成するには

- 1 Color Editor を起動します。
- 2 「マイ・カスタムのスポット カラー」から「スポット カラー」を選択します。

- 3 「エイリアスとして次の項目のために利用します」から、「...」ボタンをクリックします。
「エイリアスの選択」ダイアログボックスが表示されます。



- 4 テーブルから、エイリアスを作成したいスポットカラーを選択します。

既存のカスタムスポットカラーや、内部スポットカラーライブラリーからスポットカラーを選択することができます。

スポットカラーを検索するには、「検索」ボックスにスポットカラー名を入力します。「検索」ボックスにはフィルター機能があり、検索基準を満たすスポットカラーのみが表示されるようになっています。

- 5 「選択を利用します」をクリックします。

元のスポットカラーのカラー値はエイリアスに転送されます。オリジナルのスポットカラーに行なわれた任意の変更は、自動的にエイリアスにも適用されません。

エイリアススポットカラーへのリンクを削除するには、「エイリアスをクリアします」をクリックします。エイリアスを削除する場合、スポットカラーは新しいスポットカラーのデフォルトのカラー値を受けます。

関連参照：

292 頁の「Color Editor の起動」

スポット カラーをプリンタのインクチャンネルに割り当てる

お使いのプリンタが白インク、クリアインク、またはメタリックインクをサポートしている場合、オリジナルのスポット カラー定義に加えて、これらのプリンタインクを割り当てることができます。追加されるインクは、オリジナルのスポット カラーの後ろまたは上に印刷されます。

本機能により、特にお使いのプリンターがマルチパス（多重層）印刷をサポートしていれば、多くの興味深い特殊効果を作成することができます。この様な特殊効果を作成する際には、プリンタ固有の設定を「特別なプリンタ設定」ペインで行わなければなりません。EFI はプリンタインクのワークフローへの取り込み方に関する説明文を別途提供しています。Fiery XF 当社の Web サイトまでアクセスしてください：<http://w3.efi.com/services/proofing-services/knowledge-center>。

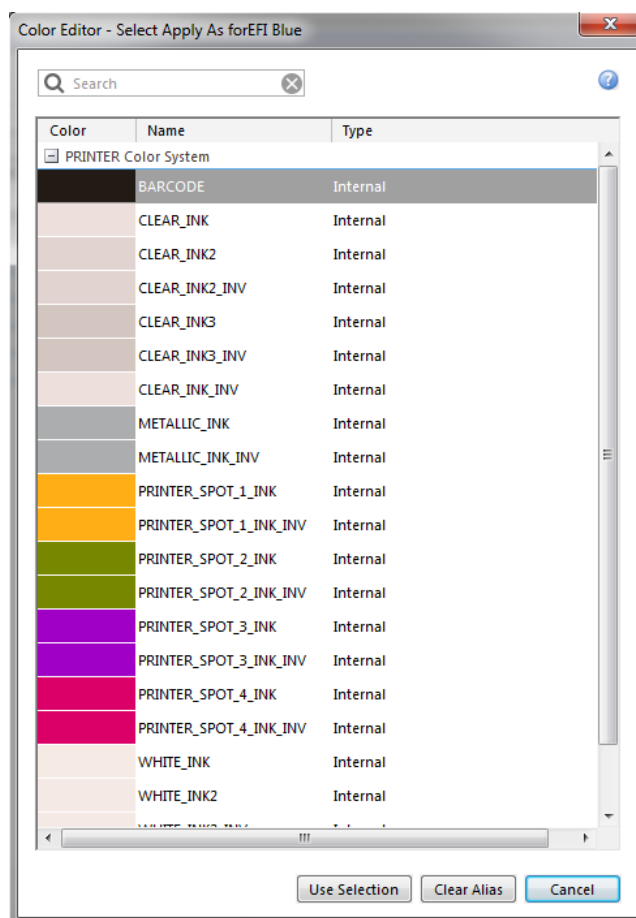
この様に利用可能な設定により、ホワイトまたはカラーメディアセット上で最終プロダクション工程をシミュレートすることができます。お使いのプリンタが適切なインクカラーをサポートしていれば、包装業界で使用されている面白い特殊効果をお楽しみいただけます。

スポット カラーをプリンタのインクチャンネルに割り当てるには

- 1 Color Editor を起動します。
- 2 「マイ・カスタムのスポット カラー」から「スポット カラー」を選択します。

3 「適用」 から、「...」 ボタンをクリックします。

「適用」 ダイアログボックスが表示されます。



4 テーブルから、スポット カラーの印刷に使用するプリンタのインクチャンネルを選択します。

プリンタのインクチャンネルを検索するには、「検索」ボックスに名前を入力します。「検索」ボックスにはフィルター機能があり、検索基準を満たすプリンタインクチャンネルのみが表示されるようになっています。

一部の設定は、「反転」相当語句を持っています。これらは名前内の「INV」の文字が認識されます。反転設定を選択した場合、反転した割合の量のインクが適用されます。つまり、100% カラーには0% カラー、100% インクには0% カラー、30% カラーには70% カラーが適用されます。

反転設定を巧みに利用することで、いかなるカラーのメディアセットでも最終印刷物をシミュレートすることができます。

5 「選択を利用します」をクリックします。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

カラーグラデーションを追加する

スポットカラーごとに最大 99 のカラーグラデーションを定義することができます。L*a*b* または LCH カラースペースで定義されるカラーグラデーションは、ダイナミックウェッジに含むことができます。

カラーグラデーションを追加するには

- 1 **Color Editor を起動します。**
- 2 **「マイ・カスタムのスポットカラー」から「スポットカラー」を選択します。**
- 3 **「キャラクターゼーション」タブをクリックします。**

デフォルトでは、ダイアグラムが 1 つのインクの 0% と 100% のカラー値を示しています。100% は、「カラー定義」タブで定義したフルトーンカラーを意味します。0% は、印刷構成のカラーを意味します。デフォルトでは、0% は、純粋なホワイトの未測定値と等しくなっています。印刷構成が純粋なホワイトでない場合は、カラー値を 0% に変更することができます。

まず、ダイアグラムが 1 色のカラーカーブを表示します。グリッドダイアグラム上にあるドロップダウンリストボックスから表示色を変更できます。また、「すべて」を選択してすべてのインクを同時に表示することもできます。

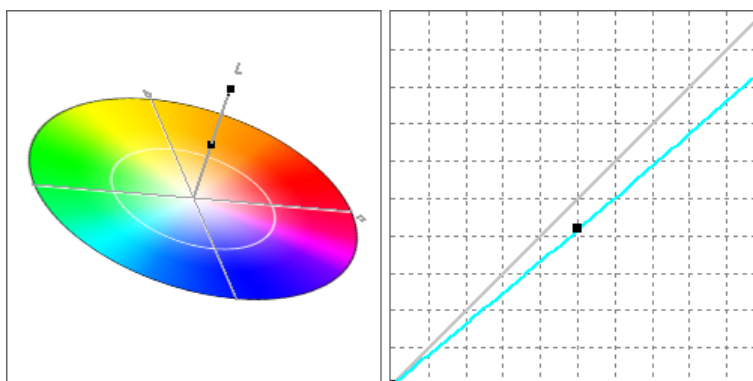
- 4 **「インク」欄に、1 から 99 までのグラデーションを入力します。**

5 次のいずれかを行います。

- プリンタのカラースペースにカラーグラデーションを追加するには、文字化テーブルに適切な値を入力します。
- L*a*b* または LCH カラースペースにカラーグラデーションを追加するには、測定デバイスを接続詞、「測定」をクリックし、画面の指示に従ってカラーパッチを測定します。

デフォルトの測定デバイスは、ES-1000 です。ES-2000 をお持ちの場合は、「環境設定」ダイアログボックスで、最初にこれを選択する必要があります。

スポットカラーとそのグラデーションが表示されます。ダイアグラムを回転させるようにポインタをドラッグしてお好きな角度でスポットカラーを表示することができます。



プリンタのカラースペースにグラデーションを定義後に、ダイアグラムのカーブに沿って点をドラッグすることにより微調整できます。



6 変更を保存します。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

296 頁の「[「カラー定義」タブ](#)」

297 頁の「[測定デバイス設定](#)」

L*a*b* スポット カラーのカラー精度を確認する

選択したプロファイルを用いて、L*a*b* スポットカラーがどれだけ正確に再現できるかを確認することができます。また、L*a*b* スポットカラーがお使いのプリンタの色域内にあるかを確認することもできます。色域は、プリンタが再現可能なカラーのすべての範囲を表示します。ジョブの処理中に、ガモット外のスポットカラーを利用可能な色域にある最も近いカラーにマッピングされます。カラー偏差はデルタ E 値として表示されます。

Color Editor デルタ E 2000 形式で測定された 5.0 のデフォルトのデルタ E 値が適用されます。これにより、効果的に色域をこの値分増加させます。ガモット内にあると受け入れられた色域の回りの許容範囲内にスポット カラーを置くことができます。必要に応じて「環境設定」ダイアログボックスで許容制限範囲を変更できます。

L*A*B* スポット カラーのカラー精度を確認するには

- 1 Color Editor を起動します。
- 2 1 つまたは複数の L*a*b* スポット カラーを選択します。
- 3 下のツールバーから「全域チェック」をクリックします。
- 4 プリンタを選択します。
- 5 印刷構成セットを選択します。



印刷構成設定には、印刷メディアプロファイルに結合されているベースリニアリゼーションファイルの詳細が含まれています。カスタム印刷構成設定を作成した場合は、ここでそれを選択することができます。それ以外の場合は、デフォルトのプリセットを選択します。デフォルトのプリセットは、当該メディア用に選択されている印刷構成設定です。

- 6 「次へ」をクリックします。

Color Editor は、各スポット カラーが選択されたぶりんたのガモット内にあるかを確認し、次の情報を表示します：

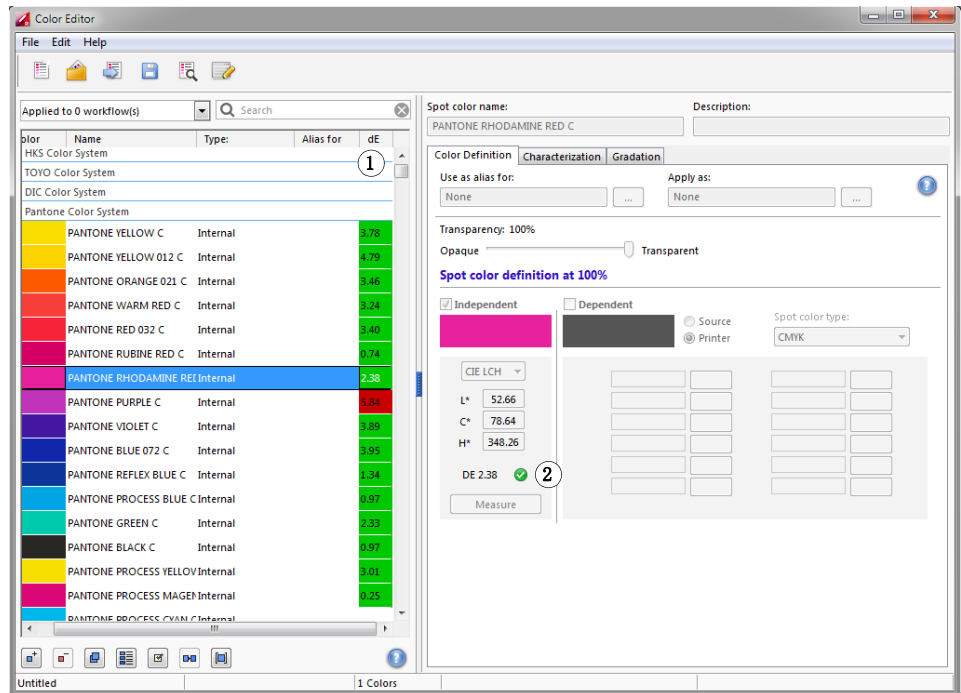
- ガモット内にあるスポット カラーの割合
- 平均デルタ E
- 最大デルタ E

- 7 「完了」をクリックします。

プログラムウィンドウで、選択した各スポットカラーのデルタ E の結果が、dE 列に表示されます。選択されたスポットカラーのデルタ E も、「カラー定義」タブに表示されます。グリーンは「範囲内」にあることを示します。レッドは「範囲外」にあることを示します。

全域チェックの結果

- 1 デルタ E 列
- 2 選択されたスポットカラーのデルタ E

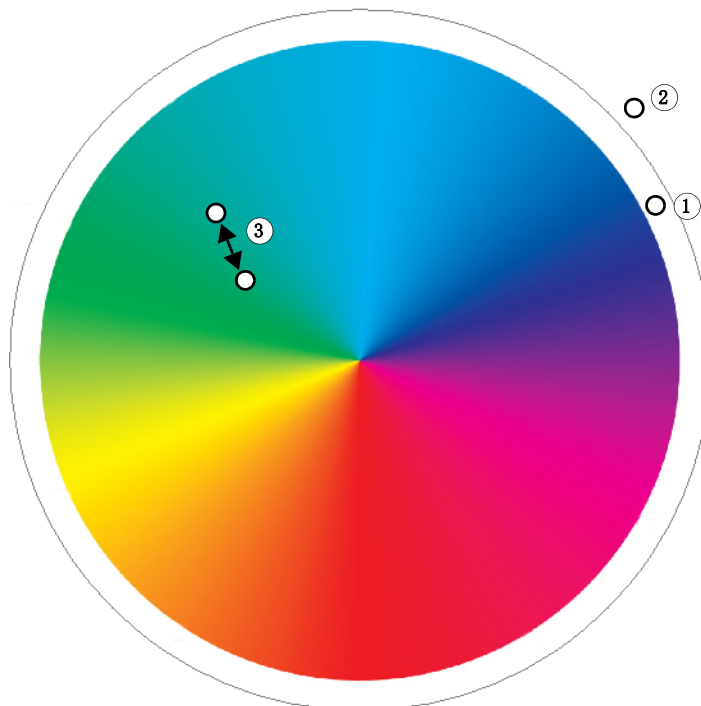


デルタ E 値は、スポットカラーがどれだけ正確に再現できるかを示しています。

スポットカラーが定義された許容制限範囲を超えつつ範囲内（グリーン）にあることが可能であることに注意してください。

全域チェックの結果

- 1 許容制限範囲内にあるデルタ E のスポットカラー 1
- 2 許容制限範囲外にあるデルタ E のスポットカラー 2
- 3 色域内にあるスポットカラー 3



上のダイアグラムでは、スポットカラー以下のような結果になります：

スポットカラー	結果	説明
1	グリーン	スポットカラーはガモット範囲外にありますが、許容制限範囲内です。
2	レッド	スポットカラーはガモット範囲外にあり、許容制限も範囲外です。
3	グリーン	スポットカラーはガモット範囲内にあります。
	レッド	スポットカラーはガモット範囲内にありますが、許容制限の範囲外にあります。

スポットカラーがガモット範囲外の場合は、デルタ E 値を減らすことができるかもしれません。次の方法を試してください：

- プリンタと印刷構成設定の別の組み合わせに切り替えます。プリンタと印刷構成セットを切り替えることで、どの組み合わせが最高の結果をもたらすかを素早く見つけることができます。

- スポットカラー最適化ファイルを適用します。スポットカラー最適化ファイルは、選択されたスポットカラーとそのグラデーションのカラー精度を回線仕様とする補正プロファイルです。デルタ E の許容制限範囲外にあるガモット範囲内のスポットカラーを最適化することができます。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

296 頁の「[「カラー定義」タブ](#)」

309 頁の「[L*a*b* スポットカラーを最適化する](#)」

L*a*b* スポットカラーをプリンタのカラースペースに変換する

L*a*b* スポットカラーをプリンタのカラースペースに変換することができます。プリンタのインクカラーで定義されているスポットカラーを編集するのに簡単です。

L*A*B* スポットカラーをプリンタのカラースペースに変換するには

- 1 **Color Editor を起動します。**
- 2 **1 つまたは複数の L*a*b* スポットカラーを選択します。**
- 3 **下のツールバーから「全域チェック」をクリックします。**
- 4 **プリンタを選択します。**
- 5 **印刷構成セットを選択します。**



印刷構成設定には、印刷メディアプロファイルに結合されているベースリニアリゼーションファイルの詳細が含まれています。カスタム印刷構成設定を作成した場合は、ここでそれを選択することができます。それ以外の場合は、デフォルトのプリセットを選択します。デフォルトのプリセットは、当該メディア用に選択されている印刷構成設定です。

- 6 **「次へ」をクリックします。**
- 7 **「完了」をクリックします。**

スポットカラーをプリンタのカラースペースに変換後、スポットカラーがガモット範囲内にあるかを確認できます。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

305 頁の「[L*a*b* スポットカラーのカラー精度を確認する](#)」

L*a*b* スポットカラーを最適化する

スポットカラー最適化ファイルを適用することにより、スポットカラーのデルタ E 値を減らすことができるかもしれません。スポットカラー最適化ファイルは、選択したプリンタのカラープロパティのためのより良い組み合わせを可能にする補正プロファイルです。

L*A*B* スポット カラーを最適化するには

- 1 測定デバイスに接続します。
- 2 Color Editor を起動します。
- 3 1つまたは複数の L*a*b* スポット カラーを選択します。

カスタムスポット カラーや、内部スポット カラーライブラリーからスポット カラーを最適化することができます。



- 4 下のツールバーで、「最適化」をクリックします。
- 5 測定デバイスを選択します。

「設定」をクリックし、デバイス専用の設定を行います。

- 6 プリンタを選択します。
- 7 印刷構成セットを選択します。

印刷構成設定には、印刷メディアプロファイルに結合されているベースリニアリゼーションファイルの詳細が含まれています。カスタム印刷構成設定を作成した場合は、ここでそれを選択することができます。それ以外の場合は、デフォルトのプリセットを選択します。デフォルトのプリセットは、当該メディア用に選択されている印刷構成設定です。

- 8 「次へ」をクリックします。

最適化ジョブが Job Explorer で作成され、印刷されます。最適化ジョブは最適化されるスポット カラーのチャートで構成されています。

- 9 画面の指示に従ってチャートの測定を行います。

- 10 「次へ」をクリックします。

最適化の結果が表示されます。Color Editor は、達成された平均デルタ E 値と最大デルタ E を表示します。

- 11 次のいずれかを行います。

- これ以上の最適化が可能でなくなるまで、最適化手順を繰り返すため、「反復」をクリックします。最適化テーブルで、最高の組み合わせ結果をクリックし、「完了」をクリックして最適化を保存します。
- 「Verifier」をクリックし、Verifier を開始します。
- 「完了」をクリックし、最適化を保存します。

スポット カラー最適化ファイルは当該スポット カラーテーブルを使用しているすべてのワークフローに適用されます。

スポット カラー最適化ファイルが「スポット カラー」フォルダに保存され、「カラー」タブの「カラーマネージメント」ペインで選択されます。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

Color Editor における一般的な操作

以下のセクションでは、Color Editor を用いて、日々の作業で役立つ一般的な操作について説明します。

新しいスポット カラーテーブルを作成する

新しいスポット カラーテーブルを作成するには

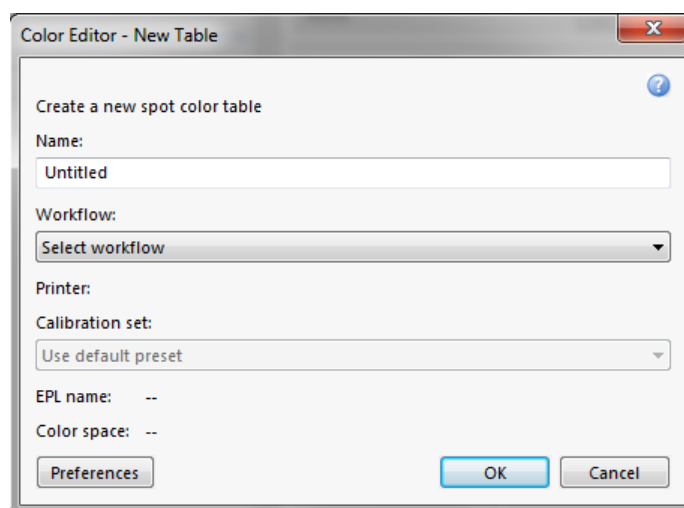
1 Color Editor を起動します。

2 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「新テーブル」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「新テーブル」をクリックします。

「新テーブル」ダイアログが表示されます。



3 スポット カラーテーブルに新しい名前を入力します。

4 「Fiery XF ワークフロー」(オプション) を選択します。

スポット カラーテーブルが複数のワークフローに適用される場合は、ワークフローを選択する必要はありません。スポット カラーは、キャリブレーション設定とプリンタのある 1 つの組み合わせに対してのみ最適化することができます。

5 キャリブレーション設定（オプション）を選択します。

キャリブレーション設定は、選択したプリンタのインクの種類、印刷構成名、ベースリニアリゼーションファイルの設定を定義します。キャリブレーション設定はプリンタに従属するスポットカラーを定義するのに重要です。

ワークフローやキャリブレーション設定を選択することで、次の目的のために Color Editor を使用することができます：

- 選択したプリンタの色域に収まるように L*a*b* のスポットカラーを変換することができます。
- 印刷メディアプロファイルの色域の最適な組み合わせを可能にする L*a*b* 最適化ファイルを作成、適用することにより、デルタ E 値を減らすことができます。

6 「OK」をクリックします。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

スポット カラーテーブルを開く。

既存のスポット カラーテーブルを開き、編集することができます。

スポット カラーテーブルを開くには

1 Color Editor を起動します。

2 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「開く」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「開く」をクリックします。

3 リストからスポット カラーテーブルを選択します。

次のファイル形式をサポートしています：CXF、BCT、ICC、TAB。

4 「開く」をクリックします。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

スポット カラー名の置換

名前の全部または一部を置き換えることにより、カスタムスポット カラーの名前を変更できます。

スポット カラー名を置換するには

1 Color Editor を起動します。

2 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「検索と置換」をクリックします。
- 「編集」メニューで、「検索と置換」をクリックします。

「検索と置換」ダイアログボックスが表示されます。

3 「検索の対象」から、置換したいスポット カラーの名前を入力します。

また、名前の一部から検索することもできます。たとえば、「2013」を検索する場合、Color Editor は名前の中に「2013」のある全てのスポット カラーを検索します。

4 「置換の対象」に新しい名前を入力します。

Color Editor は検索ワードに該当するすべてを置換します。

5 検索オプションを指定します (オプション)。

大文字 / 小文字を考慮に入れたり、フルネームのみを検索することにより、検索内容を変更することができます。

6 スポット カラー名を検索、置換するには、該当するボタンをクリックします。

7 「閉じる」をクリックします。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

スポット カラーのインポート

別のスポット カラーテーブルからインポートしてスポット カラーを追加することができます。

スポット カラーをインポートするには

1 Color Editor を起動します。

2 次のいずれかを行います。



- ツールバーで、「インポート」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「インポート」をクリックします。

「スポット カラー」フォルダが開きます。

3 「スポット カラーテーブル」を選択し、「開く」をクリックします。

次のファイル形式をサポートしています :CXF、BCT、ICC、TAB。

1つのスポットカラーテーブル内に2つの同じ名前のスポットカラーを保存することはできません。両方のスポットカラーテーブルにあるスポットカラー名がある場合は、「競合をインポートする」ダイアログボックスが表示されます。この場合、いずれかのスポットカラーの名前を変更するか、置換することができます。

設定	説明
名前の変更	いずれかのスポットカラーテーブルにあるスポットカラーの名前を変更します。同じ名前の2つのスポットカラーが異なる色の値を持つ場合、これは便利かもしれませんが、この設定を用いて、両方のスポットカラーを維持します。
置換	いずれかのスポットカラーテーブルからスポットカラーを置換することができます。この設定では、名前とスポットカラーの値を上書きし、従って、2つのスポットカラーを簡単に1つにマージすることができます。
キャンセル/すべてキャンセル	競合するスポットカラーをインポートしないでください。この場合、スポットカラーは、スポットカラー・テーブルに変更されないまま残ります。「キャンセル」をクリックして、表示された競合箇所をスキップします。「すべてをキャンセル」をクリックし、すべての競合するスポットカラーをスキップします。

スポットカラーがインポートされます。

関連参照：

292 頁の「[Color Editor の起動](#)」

スポットカラーテーブルを Fiery XF ワークフローに適用

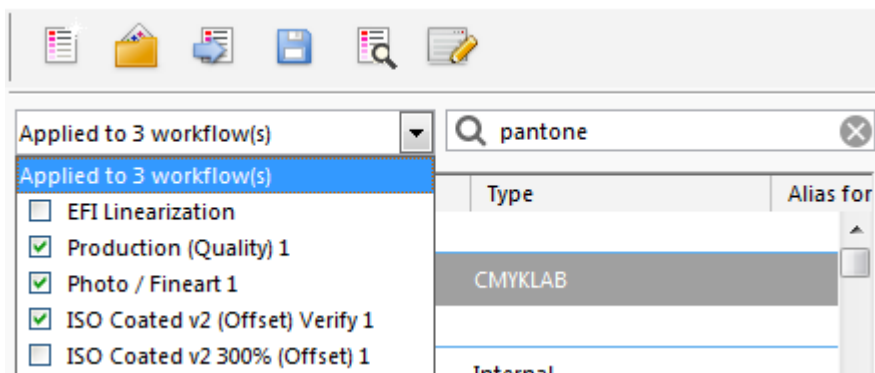
初めて新しいスポットカラーテーブルを保存するときには、どのポットカラーテーブルを適用するかを選択するよう求められます。Fiery XF

本セクションはスポットカラーテーブル作成後に、Color Editor にスポットカラーテーブルを割り当てる方法について説明します。

スポットカラーテーブルを FIERY XF ワークフロー適用するには

- 1 Color Editor を起動します。
- 2 スポットカラーテーブルを開きます。

- 3 ツールバーから、矢印をクリックしてドロップダウンリストボックスを開きます。



- 4 必要に応じて、チェックボックスにチェックを入れるか、既に入っているチェックを外します。



- 5 変更を保存します。

関連参照：

283 頁の「スポット カラーテーブルを選択」

292 頁の「Color Editor の起動」

312 頁の「スポット カラーテーブルを開く。」

FIERY XF ワークフローにおける色濃度の検証

Verifier オプションのライセンスをお持ちの場合、ジョブの色濃度を確認できます。デルタ E 許容範囲値は、リファレンスに対する色精度を検証する際の許容可能な誤差を定義します。

Verifier オプションは、次の最新の標準をサポートしています：

- ISO 12647-7 (校正出力の要件を定義)
- ISO 12647-8 (検証印刷の要件を定義)
- Fogra PSD プリントチェック

次の方法により、色濃度を確認することができます：

- Fiery XF で検証ワークフローを設定できます。この方法は、プロファイル対プルーフ、プルーフ同士、プルーフ対印刷アプリケーションを比較するのに用いることをお勧めします。
- Verifier で直接、2 セットの色値を読み込んだり、測定、比較することができます。この方法は、印刷対プロファイルまたは印刷アプリケーション同士を比較したり、単一のカラーパッチを測定するのに用いることをお勧めします。

関連参照：

329 頁の「[Verifier](#)」

Fiery XF でのワークフローの検証

検証ワークフローは次の目的で推奨します：

- ISO 12647-7、12647-8 または G7 に準拠したプルーフまたはプリントの検証、または Fogra PSD プリントチェックの実施
- ユーザサイトで定義されている標準の検証
- Fogra Proof Certification 認証の取得
- サイト間でカラーの一貫性を検証するため

プロファイル対プルーフの比較は、最も役立つ用途の 1 つです。日常作業において、プリンタで出力されたプルーフの色値と、印刷機をシミュレートしたプロファイルの色値を比較することができます。優れた色の組み合わせは、プルーフが定義された許容範囲内にあり、印刷プロセスが正しく再現されていることを示しています。

Remote Container を作成することにより、複数のサイトで印刷されるジョブの色濃度を確認することができます。Remote Container には、複数のサイトで色精度プルーフを作成するのに必要なすべての情報が含まれています。Remote Container は、FTP サーバ等を用いて、簡単に移動することができます。

検証ワークフローを設定するには

1 System Manager を開きます。ワークフローを新規作成します。

ワークフローを検証するための基本設定が既に行われているデフォルトのワークフローテンプレートをお使いいただけます。ワークフローは、名前に「検証」という言葉が含まれています。一方、選択したコントロールストリップがお使いの測定デバイスと互換性があることを確認してください（下記の 5 手順を参照してください）。

デフォルトのワークフローテンプレート「Remote_Out_(ISOcoated_v2)」を使用する場合、Remote Container が測定結果から作成されます。Remote Container は複数のサイトで色精度を検証するのに必要となります。

最初からカスタム検証ワークフローを設定したい場合は、次の設定を必ず含めるようにしてください：

2 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「レイアウト」タブで「フッター」ペインを開きます。

3 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

4 ジョブチケットを設定します。

ジョブチケットは FOGRA プルーフ認証を実現する前提条件ですが、他の色検証では必須条件ではありません。

5 「検証」タブで、「コントロールストリップ」ペインを開きます。

6 ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

7 次を実行してください。

- 1つまたは2つのコントロールストリップを選択します。

スタティックコントロールストリップか「ダイナミックウェッジ」を選択することができます。

- 各スタティックコントロールストリップは、測定デバイスごとに作成されます。お使いの測定デバイスと互換性のあるスタティックコントロールストリップを選択していることを確認してください。
- ダイナミックウェッジは、ジョブの最も顕著な色で構成されています。従って、各ダイナミックウェッジは、ジョブに固有なものとなります。

下表は、リファレンスごとに選択することができるコントロールストリップのタイプを示しています。リファレンスは、実現したい基準を定義します。

コントロール・ストリップのタイプ	リファレンスのターゲットカラー			
	リファレンスプロファイル	Remote Container の測定ファイル (JDF)	SWOP/GRACoL	Fogra キャラクターリゼーションデータ
EFI Verifier チャート	はい	はい	いいえ	いいえ
IDEAlliance ISO 12647-7	はい	はい	はい	いいえ
Ugra Fogra メディア・ウェッジ	はい	はい	はい	はい
ダイナミックウェッジ	はい	いいえ	いいえ	いいえ

- カラーマネジメントをコントロールストリップに適用するかどうかを指定します。

選択したプロファイルとレンダリングインテントがコントロールストリップに適用される場合は、カラーパッチは、選択したリファレンスプロファイルの色域に圧縮されます。「カラーマネジメントを適用して印刷」を選択し、印刷メディアプロファイルの精度を確認します。

選択したプロファイルとレンダリングインテントがコントロールストリップに適用されない場合は、カラーパッチは、プリンタの全色域を使って印刷されます。「カラーマネジメントを適用して印刷」のチェックボックスを外し、2機のプリンタの色濃度を確認します。

- コントロールストリップをページまたはシートごとに印刷するかどうかを選択します。

デフォルトでは、コントロールストリップが、ページごとに印刷されます。しかし、ネスティングでは、ネスティングの各ページごと、または全体に対してコントロールストリップを印刷することができます。ダイナミックウェッジは、ページに対してのみ生成することができます。

8 「検証」タブで、「コントロールストリップの検証 1」ペインを開きます。

9 ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

10 次を実行してください。

- 「最初のジョブが検証で不合格になった後でジョブの印刷を中止します」を選択します（オプション）。

1つのジョブが検証に失敗した場合は、やはり検証に失敗することになる続きのジョブ（ジョブリストにある）が不必要に印刷されないようにします。例えば、誤った印刷構成がプリンタにロードされている場合にこの状況が発生することがあります。

- 「検証後に自動的にラベルを印刷」を選択します（オプション）。

統合された測定デバイスを持つ一部プリンタは、カラー検証結果を載せたラベルを印刷できます。ラベルには、必要なすべての ISO 12647-7/8- 対応情報が含まれており、ジョブが色検証を通ったか否かに関わらず印刷されます。一方、すべての測定結果が定義した許容範囲内である場合にのみラベルを印刷するように設定するには、「検証結果が合格した場合にのみ印刷」チェックボックスを選択します。

- 「キャラクターリゼーション・データ」から、「参照」を選択します。

– 参照プロファイルから生成

この設定は、シミュレーション（リファレンス）プロファイルにより実現可能な色に対する色出力を測定します。

– MKCheck10 と MKCheck11 キャラクターリゼーション・データ

文字化データセットは、標準の印刷プロセスの印刷条件の組み合わせを定義します。ジョブの色はリファレンスに照らして測定され、リファレンスからの逸脱は、デルタ E で計算されます

Ugra/Fogra メディアウェッジでは、キャラクターリゼーションデータ（Fogra、IFRA、PSR または SWOP）を一セット選択して、標準印刷環境を定義できます。次の表では、どのリファレンスプロファイルに対してどのキャラクターリゼーションデータを使用すべきかを示しています。

IT8 キャラクターリゼーション・データは、FOGRA 研究所が承認した測定データです。この測定は、Altona Test Suite と ISOcoated_v2 シミュレーション（リファレンス）プロファイルに基づいています。

リファレンスプロファイル	キャラクターリゼーション・データ
ISOcoated.icc	Fogra 27
ISOwebcoated.icc	Fogra 28
ISOuncoated.icc	Fogra 29
ISOuncoatedyellowish.icc	Fogra 30
ISOcoated_v2_eci.icc/ ISOcoated_v2_300_eci.icc	Fogra 39
SC_paper_eci.icc	Fogra 40
PSO_MFC_paper_eci.icc	Fogra 41
PSO_SNP_paper_eci.icc	Fogra 42

リファレンスプロファイル	キャラクタリゼーション・データ
PSO_Coated_NPscreen_ISO12647_eci.icc	Fogra 43
PSO_Uncoated_NPscreen_ISO12647_eci.icc	Fogra 44
PSO_LWC_Improved_eci.icc	Fogra 45
PSO_LWC_Standard_eci.icc	Fogra 46
PSO_Uncoated_ISO12647_eci.icc	Fogra 47
PSO_INP_Paper_eci.icc	Fogra 48
PSO_Coated_v2_300_Matte_laminate_eci.icc	Fogra 49
PSO_Coated_v2_300_Glossy_laminate_eci.icc	Fogra 50
PSR_LWC_PLUS_V2_PT.icc	PSR_LWC_PLUS_V2
PSR_LWC_STD_V2_PT.icc	PSR_LWC_STD_V2
PSRgravureMF.icc	PSRgravureMF
PSR_SC_STD_V2_PT.icc	PSR_SC_STD_V2
PSR_SC_PLUS_V2_PT	PSR2_SC_PLUS_V2
ISOnewspaper26v4.icc	IFRA26
PaC.Space_CMYK_gravure_V1a.icc	PaC.Space
GRACoL2013_CRPC6.icc	CRPC6 - IDEAlliance ISO 12647-7 Control Wedge 2013 GRACoL2013_CRPC6 Ref
GRACoL2013UNC_CRPC3.icc	CRPC3 - IDEAlliance ISO 12647-7 Control Wedge 2013 GRACoL2013UNC_CRPC3 Ref
SWOP2013C3_CRPC5.icc	CRPC5 - IDEAlliance ISO 12647-7 Control Wedge 2013 SWOP2013C3_CRPC5 Ref
SWOP2013C5.icc	IDEAlliance ISO 12647-7 Control Wedge 2013 SWOP2013C5 Ref
EFIJMPA3	EFIJMPA3
JapanColor2011Coated	JapanColor

– 測定ファイルを開く

測定ファイルからの当該色の値をリファレンスとして用いることで、ジョブの色出力を検証することができます。測定ファイルは Remote Container (*.RPF) に保存されており、以前に行った検証からのジョブの色測定結果を含んでいます。従って、Remote Container では、複数のサイトで印刷されるジョブの色精度を簡単に確認することができます。

Remote Container が測定ファイル無しに作成された場合、代わりにリファレンスファイルが自動的に使用されます。

- 「デルタ E 形式」から、色偏差を測定するためのトレランスシステムを選択します。

色精度は、デルタ E で測定されます。デルタ E とは、 $L^*a^*b^*$ カラー空間にある 2 つの色の間の数学的差異のことです。

- 「ターゲット許容範囲のプリセット」から、色精度の許容偏差を定義します。「許容範囲」の値により、リファレンスに対する出力の色精度を検証する際の最大許容誤差を定義します。たとえば、許容制限範囲を 3 と定義した場合、デルタ E の測定値が 2.5 であれば、これは色が正確であるとみなされるのに対し、デルタ E の測定値が 3.2 であれば、正確とはみなされません。

ある程度の偏差量はやむを得ません。さまざまな印刷条件 (プリンタ、インク、メディアなど) があり、2 つの異なる出力デバイスで 100% 同一の印刷結果を得ることは一般的には不可能です。

デフォルトでは、ジョブは、すべての色の測定値が定義された許容範囲内にある場合にのみ、正確な色であることを検証します。一方、Verifier で測定承認を可能にすることにより、ジョブが検証に成功するか否かの完全なコントロールを得ることができます。たとえば、デルタ E 値がをわずかに超えている場合でも、強制的に検証に成功させることができます。

既定のターゲット許容範囲のセットを選択するか、または独自に定義することができます。

– 既定の許容範囲

既定のプリセットを認識された基準として利用することができます。既定の許容制限値は、ISO 12647-7 (校正出力)、ISO 12647-8 (検証出力)、または G7 仕様に準拠したプルーフの検証ジョブ、または Fogra PSD プリントチェック用に指定されています。それらの値は、通常のプルーフの作成 (ISO 12647-7 または 12647-8 対応メディアウェッジに基づく検証) に適用できます。または、FograCert のような認証目的で適用できます。

必要に応じて、既定の許容範囲プリセットを変更することができます。

定義されたプリセット	用途:
ISO 12647-7 Contract Proof "Media Wedge"	ISO 12647-7 (contract proofing)
ISO 12647-8 Validation Print "Media Wedge" CD2	ISO 12647-8 (FograCert 検証印刷認証)
G7-ISO12647-7 プルーフィングシステム	G7 仕様に準拠したプルーフの検証ジョブ
ダイナミックウェッジ	スポットカラーを含むジョブの主要色の検証
Fogra PSD Side-by-Side (ISO/TS 15311) Fogra PSD Spot Colors (ISO/TS 15311) Fogra PSD Media-Relative (ISO/TS 15311)	毎日のプロダクションにおける各出力のプリントチェックを行うため、プロセス標準のデジタル準拠レベルの検証 (A、B、C) を行います。 FOGRA PDS スポットカラー (ISO / TS 15311) は、ダイナミックウェッジでのみ利用可能です
G7 グレースケール対応	G7- グレースケール対応出力
日本色校正出力	日本色対応 (校正出力)
ソフトプルーフ (FograCert ソフトプルーフ)	ソフトプルーフ検証 (画面上)

デルタ T 許容制限値は、100% シアン、または 50% マゼンタなど 原色のみ測定することができることに留意してください。CMYK が混ざったカラーのデルタ T 許容制限値を計算することはできません。

– ダイナミックウェッジ

ダイナミックウェッジは、ジョブの最も顕著な色で構成されています。例えば、ジョブが主に青色の影で構成されている場合、ダイナミックウェッジには高い割合の青色パッチが含まれます。ダイナミックウェッジでは、一般的なデルタ E の許容範囲のみを定義することができます。その他の値は、ジョブごとにカラーパッチの構成が異なるため、定義することはできません。

– カスタム

「許容範囲」列の値を編集して独自の許容制限範囲（社内基準）を定義することができます。カスタム許容範囲を使えば、最新の規範に迅速かつ簡単に対応することができます。

カスタム許容範囲は、現在のワークフローにのみ適用可能です。「コントロールストリップの検証」ペインにプリセットとしてカスタム許容範囲を保存することはできません。カスタム許容範囲を保存したい場合は、Verifier に保存することはできます。Verifier からカスタムプリセットを、後で、複数のワークフローに適用することができます。

11 ワークフローを保存します。

ジョブの色精度を検証するには

1 ジョブの読み込み

2つのコントロールストリップを印刷するようにワークフローが設定されている場合は、その1つまたは両方を使って色精度を検証することができます。コントロールストリップを無効にするには、「検証」タブの該当するペインバーにあるチェックボックスを外します。

2 ジョブを印刷します。

印刷後、ジョブは自動的に Verifier に送信されます。ジョブリストでは、ジョブステータスが「検証可能」に変わります。

3 測定デバイスをコンピュータに接続します。

4 Verifier を起動します。次のいずれかを行います。



- ツールバーで Verifier をクリックします。
- 「ツール」メニューから、Verifier をクリックします。
- Job Explorer を開きます。「検証」タブで、「コントロールストリップの検証」ペインを開きます。ペインバーのチェックボックスを選択して、設定を有効にします。「コントロールストリップの検証」ペインで、「検証」ボタンをクリックします。

Verifier が起動します。印刷ジョブが「ジョブリスト/プレビュー」タブに表示されます。

5 「ジョブリスト/プレビュー」タブで、ジョブファイルを展開し、ジョブをダブルクリックします。

Verifier プログラムウィンドウ

1 「ジョブリスト/プレビュー」タブのジョブ

The screenshot shows the EFI Color Verifier application window. It features a 'Jobs to measure' list on the right with a circled '1' next to the selected job '0085 ISO12647_7_Evaluatic'. Below this is a 'Preview' window showing a color calibration chart. The 'Results' section at the bottom right displays a table with columns for 'Delta E', 'Tolerance', and 'Measured'. The 'Comparison Info' section at the bottom left shows details for 'Measurement 1' and 'Measurement 2', including name, protocol, time, and printer information.

Delta E	Tolerance	Measured
Average all patches	3.00	--
Maximum all patches	6.00	--
Delta H		
Maximum CMYK patches	2.50	--
Average Gray patches	1.50	--

選択したリファレンスののカラー値が左側のテーブルに表示されます。

6 画面の指示に従って印刷されたコントロールストリップの測定を行います。

右側のテーブルに測定値が表示されます。比較結果が、「結果」領域に表示されます。

The screenshot displays the EFI Color Verifier software interface. The main window is titled "EFI Color Verifier" and contains several sections:

- Color Space Data:** Two tables showing L, a*, and b* values for 15 color patches. The first table (M1) and second table (M2) are side-by-side. The ΔE column on the right shows the difference between the two measurements, with a value of 4.83 highlighted for patch 11.
- Comparison Info:** Shows the layout (FDGRA39_MKCheck11.i8) and method (XF Workflow Job). It details two measurements: Measurement 1 (Name: FDGRA39_MKCheck11.i8, Time: 14:57:24) and Measurement 2 (Name: Measurement 2, Time: 13:51:16).
- Results:** A table comparing Delta E and Delta H against tolerance and measured values. The results are summarized as "PASSED".
- Measuring device:** Shows the device is connected (EFI ES-1000).

	L	a*	b*		L	a*	b*	ΔE
1	55.00	-37.00	-50.00	M1	54.81	-38.12	-48.74	1.70
2	66.86	-24.73	-37.10	M2	66.94	-24.74	-34.81	2.30
3	79.72	-12.53	-21.75		79.21	-12.43	-19.33	2.48
4	87.68	-5.78	-11.80		86.43	-6.19	-10.76	1.68
5	91.48	-2.97	-6.96		89.95	-3.11	-6.37	1.65
6	48.00	74.00	-3.00		47.05	73.06	-1.33	2.14
7	60.84	50.59	-6.74		59.42	51.44	-7.15	1.71
8	76.42	25.78	-6.91		75.18	23.87	-6.72	2.29
9	86.18	12.01	-5.21		84.66	11.29	-5.08	1.68
10	90.67	5.90	-3.86		89.01	5.41	-3.88	1.73
11	89.00	-5.00	93.00		87.23	-6.82	88.89	4.83
12	90.34	-4.70	62.56		88.60	-6.11	62.44	2.24
13	92.19	-3.47	31.15		90.04	-3.83	30.54	2.26
14	93.62	-1.62	13.27		91.43	-1.77	12.14	2.47
15	94.34	-0.94	5.42		92.06	-1.11	5.01	2.33

Results	Delta E	Tolerance	Measured
Delta E		3.00	2.34
Average all patches		7.00	5.30
Maximum all patches			
Delta H		2.50	2.08
Maximum CMYK patches		1.50	1.40
Average Gray patches			

7 結果を比較します。

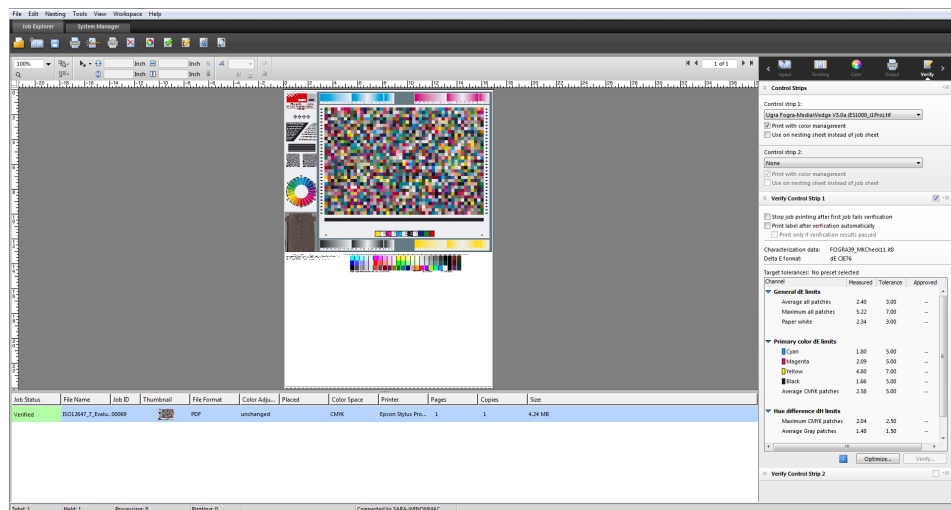
測定結果が許容範囲内であるか否かが「結果」領域に表示されます。

8 次のいずれかを行います。

- 「送信」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「JDFに保存」をクリックして送信します。

JDFに測定データを保存すると、色精度が記録されます。また、複数の測定値データのセットを1つのJDFファイルに保存することができます。

測定結果はFiery XFに送り返されます。結果は、適切な「検証コントロールストリップ」ペインのJob Explorerに表示されます。



色精度が承認されると、ジョブは「検証済み」ステータスを受信します。この場合、検証作業はこれで完了です。色精度が承認されないと、ジョブは「検証に失敗しました」というステータスを受信します。

デフォルトでは、ジョブは、すべての色の測定値が定義された許容範囲内にある場合にのみ、正確な色であることを検証します。一方、Verifierで測定承認を可能にすることにより、ジョブが検証に成功するか否かの完全なコントロールを得ることができます。たとえば、デルタE値がをわずかに超えている場合でも、強制的に検証に成功させることができます。

ジョブが検証に失敗した場合は、ジョブごとに最適化を行うことによって結果を改善することができるかもしれません。このプロセスは、シミュレーション（リファレンス）プロファイルの色域により適した補正プロファイルを作成することにより、ジョブのカラーマネージメントを最適化するものです。その後で、ジョブを再印刷して検証手順を繰り返す必要があります。

ただし、以下の設定が適用されているジョブを最適化することはできません：

- 色調整
- クリーンカラー
- 知覚または彩度レンダリングインテント設定
- ダイナミックレンダリングインテント

9 「最適化」をクリックし、ジョブを再印刷します。

「最適化」ボタンは1つのコントロールストリップのみを最適化します。ジョブに2つのコントロールストリップがあり、同時に両方とも最適化したい場合は、ジョブリストのジョブを右クリックし、「最適化と印刷」をクリックします。

10 それ以上の最適化ができなくなるまで、検証作業を繰り返します。

関連参照：

32 頁の「ジョブを読み込むには」

34 頁の「ジョブを印刷するには」

59 頁の「ワークフローを作成するには」

135 頁の「ジョブチケット」

138 頁の「ダイナミックウェッジを選択するには」

323 頁の「カスタム」

331 頁の「設定 Verifier」

339 頁の「検証結果の分析」

353 頁の「サイト間でカラーの一貫性を検証する」

534 頁の「用語集」

ISO 12647-7 に対応したプルーフの実現

ISO 12647～7に対応したプルーフを実現するには、次の要件を満たす必要があります：

- ワークフローが、次の設定を含むように設定されていること：

設定	説明
コントロール・ストリップ 1	Ugra/FOGRA Media Wedge(v2.2/v3.0)、または任意のISO 12647-7 対応メディアウェッジを選択します。
キャラクターゼーション・データ	FOGRA MKCheck10 または FOGRA MKCheck 11 参照データを選択します。
ジョブチケット	次の情報を含むようにジョブチケットを設定します： <ul style="list-style-type: none"> プルーフニングに使用したソフトウェア名 インク メディアセット シミュレートする印刷環境 使用したカラープロファイル 印刷日時

- Ugra/FOGRA メディアウェッジのデルタ E およびデルタ H 値が、定義した許容範囲内であること。

関連参照：

317 頁の「[検証ワークフローを設定するには](#)」

VERIFIER

Verifier オプションのライセンスをお持ちの場合、ジョブの色濃度を確認できます。Verifier デルタ E 許容範囲値は、リファレンスに対する色精度を検証する際の許容可能な誤差を定義します。

Verifier オプションは 次の最新の標準をサポートしています：

- ISO 12647-7 (Contract Proof の要件を定義)
- ISO 12647-8 (Validation Print の要件を定義)
- Fogra PSD プリントチェック

次の方法により、色濃度を確認することができます：

- Verifier で直接、2 セットの色の値を読み込んだり、測定、比較することができます。この方法は、印刷対プロファイルまたは印刷アプリケーション同士を比較したり、単一のカラーパッチを測定するのに用いることをお勧めします。
- Fiery XF で検証ワークフローを設定できます。この方法は、プロファイル対プルーフ、プルーフ同士、プルーフ対印刷アプリケーションを比較するのに用いることをお勧めします。

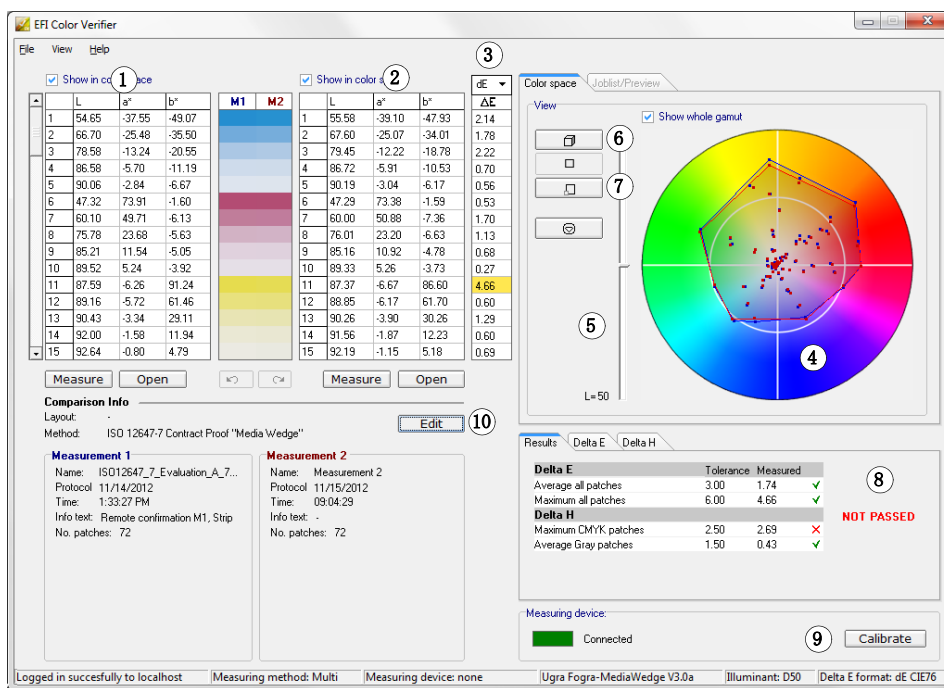
検証を開始

VERIFIER を起動するには

1 次のいずれかを行います。



- ツールバーで Verifier をクリックします。
- 「ツール」メニューから、Verifier をクリックします。



凡例	説明
1	測色テーブル (M1) のカラー値の最初のセットを表示します。
2	測色テーブル (M2) のカラー値の2つ目のセットを表示します。
3	デルタ E の警告表示は、デルタ E におけるリファレンスからの色ずれを表示します。デルタ E とは $L^*a^*b^*$ カラー空間における2色間の数学的差異のことです。
4	2D ビューは $L^*a^*b^*$ カラー空間の任意の断面を表しています。対応するカラー値とデルタ E 値を適切なテーブルで強調表示するためにノードをポイントします。
5	2D ビューで切断面を変更します。スライダーを動かして、任意の L^* 値上にある a^*b^* のサイズを表示します。
6	色域の 3D ビューを表示します。

凡例	説明
7	2D または 3D ビューアが開きます。ビューアウィンドウは表示された 2D または 3D ビューの拡大図です。3D ビューアでは、包括的な設定ができます。
8	結果領域には、測定値が定義されている範囲内であるかどうかが表示されます。タブをクリックして、デルタ E などが、各カラーチャネルで定義されている許容範囲内であるかどうかを示すこともできます。
9	測定デバイスへの接続を設定します。
10	「環境設定」ダイアログボックスが開きます。

Verifier の外観をカスタマイズできます。

関連参照：

342 頁の「[3D ビューア](#)」

345 頁の「[Verifier ユーザーインターフェースのカスタマイズ](#)」

設定 Verifier

下記のために Verifier を使用することができます：

- シミュレーション（リファレンス）プロファイルやキャラクターゼーションデータに対するプルーフ（または印刷）の検証を行うことができます。
- 社内基準の検証を行うことができます
- 2つのプリントの間の色濃度を確認することができます
- 単一のカラーパッチを測定することができます

「環境設定」ダイアログボックスで Verifier を設定します。

「環境設定」ダイアログを開くには

1 次のいずれかを行います。

- 「編集」をクリックします。
- Windows では、「ファイル」メニューから「環境設定」をクリックします。
- Macintosh では、Verifier メニューから「環境設定」をクリックします。

測定デバイスを選択するには

各コントロールストリップとメディアウェッジは、特定の測定デバイスで使用されることを意図しています。測定デバイスを選択すると、その測定デバイスに対応したコントロールストリップとメディアウェッジが選択できるようになります。選択した測定デバイスと互換性がない場合は、コントロールストリップまたはメディアウェッジを測定することはできません。

- 1 測定デバイスに接続します。
- 2 「環境設定」ダイアログボックスを開き、「一般」タブをクリックします。
- 3 「測定デバイス」で、お使いの測定デバイスが選択されていることを確認してください。

この設定は、フィルタの働きをしており、選択された測定デバイスのチャート、コントロールストリップおよびメディアウェッジのみが利用可能になるようにしています。

デバイス固有の設定も可能です。例えば、解像度を選択したり、または単一のカラーパッチを測定するように指定することができます。

ES-1000 測定デバイスを使用しており、単一のカラーパッチとは対照的に、コントロールストリップを測定したい場合は、測定方向を確認することができます。この設定により、カラーパッチがコントロールストリップ上の測定デバイスの動きに準じて測定されることを確実にします。

- 4 「ユーザインターフェース」から、ビープ音を選択します（オプション）。

デフォルトでは、Verifier は測定デバイスで設定されているビープ音を使用します。代わりにオペレーティングシステムのビープ音を使用するには、チェックボックスを選択してください。

- 5 「OK」をクリックします。

VERIFIER を設定するには

Verifier を設定するには、次の3つのステップが必要です：

- カラーストリップまたはメディアウェッジを選択します。
- リファレンスを選択します。
- 許容範囲を定義します。

このセクションでは、Verifier を設定し、色精度を検証するのに必要な基本的な手順について説明します。

- 1 「環境設定」ダイアログボックスを開き、「一般」タブをクリックします。
- 2 「チャートまたはウェッジの選択」から、コントロールストリップまたはメディアウェッジを選択します。

コントロールストリップは、異なる目的のために作成されています。レイアウトやカラーパッチの数が異なるコントロールストリップがあります。下表は、どのコントロールストリップの種類が、どのリファレンスの確認に適しているかを示しています。

コントロール・ストリップのタイプ	リファレンスのターゲットカラー		
	Remote Container の測定ファイル (JDF)	SWOP/ GRACoL	Fogra キャラクター ゼーション・データ
EFI Verifier チャート	はい	いいえ	いいえ
IDEAlliance ISO 12647-7	はい	はい	いいえ
Ugra Fogra メディア・ウェッジ	はい	はい	はい

また、カスタムコントロールストリップを使用することもできます。「追加 (+)」をクリックし、コントロールストリップファイルを参照します。コントロールストリップファイルを選択し、「開く」をクリックします。デフォルトでは、コントロールストリップは、カラー Verifier チャートフォルダから読み込まれるようになっています。

3 「キャラクターゼーションデータ」から、「参照」を選択します。

リファレンスは印刷物の目標色を定義します。ジョブの色はリファレンスに照らして測定され、リファレンスからの逸脱は、デルタ E で計算されます。

Ugra/Fogra メディアウェッジでは、キャラクターゼーション・データ (Fogra、IFRA、PSR または SWOP) を一セット選択して、標準印刷環境を定義できます。下表では、どのシミュレーション (リファレンス) プロファイルに対してどのキャラクターゼーションデータを使用すべきかを示しています。

IT8 キャラクターゼーション・データは、FOGRA 研究所が承認した測定データです。この測定は、Altona Test Suite と ISOcoated_v2 シミュレーション (リファレンス) プロファイルに基づいています。

リファレンスプロファイル	キャラクターゼーション・データ
ISOcoated.icc	Fogra 27
ISOwebcoated.icc	Fogra 28
ISOuncoated.icc	Fogra 29
ISOuncoatedyellowish.icc	Fogra 30
ISOcoated_v2_eci.icc/ ISOcoated_v2_300_eci.icc	Fogra 39
SC_paper_eci.icc	Fogra 40
PSO_MFC_paper_eci.icc	Fogra 41
PSO_SNP_paper_eci.icc	Fogra 42
PSO_Coated_NPscreen_ISO12647_eci.icc	Fogra 43
PSO_Uncoated_NPscreen_ISO12647_eci.icc	Fogra 44
PSO_LWC_Improved_eci.icc	Fogra 45
PSO_LWC_Standard_eci.icc	Fogra 46
PSO_Uncoated_ISO12647_eci.icc	Fogra 47
PSO_INP_Paper_eci.icc	Fogra 48
PSO_Coated_v2_300_Matte_laminate_eci.icc	Fogra 49
PSO_Coated_v2_300_Glossy_laminate_eci.icc	Fogra 50
PSR_LWC_PLUS_V2_PT.icc	PSR_LWC_PLUS_V2
PSR_LWC_STD_V2_PT.icc	PSR_LWC_STD_V2

リファレンスプロファイル	キャラクタリゼーション・データ
PSRgravureMF.icc	PSRgravureMF
PSR_SC_STD_V2_PT.icc	PSR_SC_STD_V2
PSR_SC_PLUS_V2_PT	PSR2_SC_PLUS_V2
ISOnewspaper26v4.icc	IFRA26
PaC.Space_CMYK_gravure_V1a.icc	PaC.Space
GRACoL2013_CRPC6.icc	CRPC6 - IDEAlliance ISO 12647-7 Control Wedge 2013 GRACoL2013_CRPC6 Ref
GRACoL2013UNC_CRPC3.icc	CRPC3 - IDEAlliance ISO 12647-7 Control Wedge 2013 GRACoL2013UNC_CRPC3 Ref
SWOP2013C3_CRPC5.icc	CRPC5 - IDEAlliance ISO 12647-7 Control Wedge 2013 SWOP2013C3_CRPC5 Ref
SWOP2013C5.icc	IDEAlliance ISO 12647-7 Control Wedge 2013 SWOP2013C5 Ref
EFIJMPA3	EFIJMPA3
JapanColor2011 Coated	JapanColor

4 自動的に設定されるキャラクタリゼーションデータを読み込むように選択します (オプション)。

この設定では、手動でキャラクタリゼーションデータを検索し、読み込む手間を省きます。コントロールストリップを測定している場合、リファレンスに対して、測定値が自動的に検証されます。キャラクタリゼーションデータは定義されたフォルダから読み込まれます。

デフォルトでは、キャラクタリゼーションデータは IT8_CharacterizationData フォルダから読み込まれます。ただし、デフォルトのフォルダを変更して、そこからキャラクタリゼーションデータを読み込むことができます。

5 「ユーザインタフェース」から、「測定承認を有効にする」をクリックします (オプション)。

デフォルトでは、ジョブは、すべての色の測定値が定義された許容範囲内にある場合のみ、正確な色であることを検証します。一方、測定承認を可能にすることにより、ジョブが検証に成功するか否かの完全なコントロールを得ることができます。たとえば、デルタ E 値がをわずかに超えている場合でも、強制的に検証に成功させることができます。

6 「比較設定」タブをクリックし、ターゲット許容範囲を定義します。

「許容範囲」の値により、リファレンスに対する出力の色精度を検証する際の最大許容誤差を定義します。例えば、許容制限範囲を3に定義した場合、デルタ E 測定値が 2.5 であった場合、色精度として受け入れられ、「合格」の結果が生成されます。一方、デルタ E 測定値が 3.2 の場合は「不合格」の結果が生成されます。

さまざまな印刷条件（プリンタ、インク、メディアなど）があり、2つの異なる出力デバイスで 100% 同一の印刷結果を得ることは一般的には不可能であるため、ある程度の色ずれはほぼ避けられません。

既定のターゲット許容範囲のセットを選択するか、または独自に定義することができます。

- 既定の許容範囲

既定のプリセットを認識された基準として利用することができます。既定の許容制限値は、ISO 12647-7（校正出力）、ISO 12647-8（検証出力）、または G7 仕様に準拠したプルーフの検証ジョブ、または Fogra PSD プリントチェック用に指定されています。それらの値は、通常のプルーフの作成（ISO 12647-7 または 12647-8 に準拠したメディアウェッジに基づく検証）に適用できます。または、FograCert のような認証の目的で適用できます。「チャート」のプリセットと同様に「メディアウェッジ」のプリセットも必要になります。

定義されたプリセット	説明
ISO 12647-7 Contract Proof "Media Wedge"	ISO 12647-7 (contract proofing)
ISO 12647-8 Validation Print "Media Wedge" CD2	ISO 12647-8 (FograCert 検証印刷認証)
G7-ISO12647-7 プルーフィン グシステム	G7 仕様に準拠したプルーフの検証ジョブ
ダイナミックウェッジ	スポットカラーを含むジョブの主要色の検証
Fogra PSD Side-by-Side (ISO/TS 15311) Fogra PSD Spot Colors (ISO/TS 15311) Fogra PSD Media-Relative (ISO/TS 15311)	毎日のプロダクションにおける各出力のプリントチェックを行うため、プロセス標準のデジタル準拠レベルの検証（A、B、C）を行います FOGRA PDS スポットカラー（ISO / TS 15311）は、ダイナミックウェッジでのみ利用可能です
G7 グレースケール対応	G7- グレースケール対応出力
日本色校正出力	日本色対応（校正出力）
ソフトプルーフ（FograCert ソフトプルーフ）	ソフトプルーフ検証（画面上）

デルタ T 許容制限値は、100% シアン、または 50% マゼンタなど 原色のみ測定することができることに留意してください。CMYK が混ざったカラーのデルタ T 許容制限値を計算することはできません。

- **ダイナミックウェッジ**

ダイナミックウェッジは、ジョブの最も顕著な色で構成されています。例えば、ジョブが主に青色の影で構成されている場合、ダイナミックウェッジには高い割合の青色パッチが含まれます。ダイナミックウェッジでは、一般的なデルタ E の許容範囲のみを定義することができます。その他の値は、ジョブごとにカラーパッチの構成が異なるため、定義することはできません。

- **カスタム許容範囲**

独自の許容限度（社内基準）を定義できます。カスタム許容範囲を使えば、最新の規範に迅速かつ簡単に対応することもできます。

「規定値と参考値」ボタンは以下の通り、ジョブの検証に影響を与えます。

定義されたプリセット	説明
規定	規定値が評価されます。測定値のいずれかが許容範囲を超えている場合は、測定結果が適切でなく、Verifier ジョブの検証が不合格になることを知らせるメッセージが表示されます。
参考	参考値が評価されます。参考値は参照用のみで、ジョブが検証に合格するか不合格になるかには影響を及ぼしません。規定許容範囲だけが考慮されます。つまり、参考値が定義された許容範囲外にある場合でも、ジョブの評価を行うことができます。
オフ	「オフ」を選択すると、許容制限範囲は評価されず検証結果にも含まれません。

必要な許容制限範囲を定義しているときは、それらをプリセットとして保存することができます。「保存」をクリックして、一意の名前を定義します。

カスタムの許容範囲プリセットを Fiery XF に転送し、これを検証ワークフローに適用します。プリセットで Fiery XF を使用できるようにするには、「Fiery XF クライアントのプリセットを表示する」を選択します。

ダイナミックウェッジ用のプリセットを作成するには、「ダイナミックウェッジで使用」を選択します。

7 「OK」をクリックします。

関連参照：

348 頁の「[一般設定](#)」

349 頁の「[デフォルトのフォルダを変更するには](#)」

349 頁の「測定データの保存と読み込み」

380 頁の「デフォルトのフォルダ」

ISO 12647-7 に対応したプルーフの実現

この操作では、メディアウェッジの印刷と測定が必要となります。Verifier は Ugra/Fogra メディアウェッジと IT8.7/4 プロファイリングチャートの使用をサポートしています。下の例は、Verifier を使用して ISO 12647-7 仕様に準拠したプルーフを作成する方法を示しています。

仕様に対応したプルーフを作成するには、次の基準を満たす必要があります。

- プルーフ上で印刷されたジョブチケットには、次の情報が含まれている必要があります。
 - プルーフィングに使用したソフトウェア名
 - インク
 - 印刷メディアの種類
 - シミュレートする印刷環境
 - 使用したカラープロファイル
 - 印刷日時
- Ugra/FOGRA メディアウェッジのデルタ E およびデルタ H 値が、定義した許容範囲内であること。

測定により ISO 12647-7 対応を検証するには

- 1 ISO 12647-7 対応のメディアウェッジを含むジョブが印刷されていることを確認します。
- 2 測定デバイスをコンピュータに接続します。
- 3 Verifier を起動します。

4 「環境設定」ダイアログを開き、次の設定が行われていることを確認します：

「全般」タブ：

- 「測定デバイス」で、測定デバイスを選択します。

ES-2000 を使用している場合は、3つの測定条件から選択することができます。次のように、ISO 13655 で定義されています。

– M0

照明サンプルの UV コンテンツは定義されていません。測定は、1 ステップで実行されます。

– 測定 1

照明サンプルの UV コンテンツが D50 に定義されています。測定は、2 ステップで実行されます。

– 測定 2

照明サンプルのスペクトラル電力配分が 420 nm ~ 700 nm の波長範囲にあり、波長 400 nm 未満の実質的な放射電力がない状態になればなりません。UV カットに対応しています。測定は、2 ステップで実行されます。

お使いのプリンタに UV カット測定装置が内蔵されている場合、適切なチェックボックスにチェックを入れることで、非 UV カット装置をシミュレートさせることができます。ヨーロッパでは、非 UV カラー値は、通常、ブルーフィングで使用されます。

- 「チャートまたはウェッジの選択」で、印刷したメディア・ウェッジを選択します。

「比較設定」タブで：

- 「許容範囲」で、「ISO 12647-7 Contract Proof Media Wedge」を選択します。

5 「OK」をクリックして「環境設定」ダイアログボックスを閉じます。

6 測定値 (M1) の最初のセット：「Fogra_MKCheck11」フォルダから、Fogra キャラクターゼーション・データセット（例えば、ISOcoated_v2_eci.icc 用に Fogra39.it8）を読み込みます。

7 測定値 (M2) の二番目のセット：「測定」をクリックして、メディアウェッジを測定します。

8 「ファイル」メニューで、「保存」をクリックします (オプション)。

測定データの記録を *.txt または *.csv 形式に保存することができます。ファイルは、どの EFI プルーフソフトウェアでも開くことができます。

9 結果を分析します。

リファレンスデータと測定データとを比較することにより、ISO 12647-7 に対応しているかを検証するには

- 1 Verifier を起動します。
- 2 「環境設定」ダイアログボックスを開きます。
- 3 「比較設定」タブで：「ISO 12647-7 Contract Proof Media Wedge」を選択します。
- 4 「OK」をクリックして「環境設定」ダイアログボックスを閉じます。
- 5 測定値（M1）の最初のセット：「開く」をクリックし、Ugra/FOGRA メディアウェッジの測定結果を読み込みます。
- 6 測定値（M2）の二番目のセット：「開く」をクリックします。「Fogra_MKCheck11」フォルダから、Fogra キャラクターゼーションデータセット（例えば、ISOcoated_v2_eci.icc 用に Fogra39.it8）を読み込みます。
- 7 結果を分析します。

関連参照：

339 頁の「[検証結果の分析](#)」

349 頁の「[測定データの保存と読み込み](#)」

351 頁の「[測定データを読み込むには](#)」

検証結果の分析

測定データを得れば、その結果を分析することができます。

- 「結果」タブ






「結果」タブでは、結果の概要が表示されます。測定値のどれかが許容範囲外の場合は、Verifier 「NOT OK」のメッセージが表示されます。「結果」タブでマウスのポインタを動かすと、テーブルで対応するカラーパッチが強調表示されます。

Results	Delta E	Delta H	Delta T	Delta Ch	Delta L
Delta E		Tolerance	Measured		
Average all patches	3.00	0.16	✓		
Maximum all patches	6.00	0.36	✓		
Delta H					
Maximum CMYK patches	2.50	0.11	✓		
Average Gray patches	2.50	0.16	✓		
Delta T (tone value difference)					
Maximum CMYK patches	10.00	0.24	✓		

PASSED

緑のチェックマークは、全体的な測定が許容制限範囲内であることを示します。測定値が最大許容値を超えると、赤い十字により警告が出されます。

残りのタブには、結果の詳細内訳が含まれています。タブ数は、定義する許容制限範囲により異なります。たとえば、ISO 12647-7 メディア・ウェッジまたは G7 を選択した場合、デルタ T 値は評価されません。

Results		Delta E	Delta H	Delta T	Delta Ch	Delta L
Primary color maximum delta E				Average outer gamut patches		
		Tolerance	Measured		Tolerance	Measured
	Cyan	5.00	0.17	✓	-	--
	Magenta	5.00	0.07	✓		
	Yellow	5.00	0.11	✓		
	Black	5.00	0.29	✓		
	White	3.00	0.12	✓		
	CMYK	5.00	0.16	✓		

- デルタ E テーブル

選択したリファレンスに応じて、デルタ E、デルタ H、デルタ T またはデルタ Ch で色ずれを表示するには、表の見出しのドロップダウンリストボックスを使用することができます。

dE ▾
ΔE
2.14
1.78
2.22
0.70
0.56
0.53
1.70
1.13
5.00
0.27
4.66
0.60
1.29
0.60
0.69

- リファレンスデータの並び替え

ECI2002 ランダムチャートを測定している場合は、IT8.7/4 カラーパッチを再編成することにより、視覚的に配置された IT8.7/4 チャートに照らして評価することができます。テーブルを右クリックし、コンテキスト・メニューから「リファレンスデータとしてソート」をクリックしてください。リファレンスデータを参照すると、次のことが起こります：

- 視覚調整された IT8.7/4 のカラーパッチの表示がソートし直されて、ECI2002 ランダムチャートに合った順序になります。
- すべての非 ECI2002 値が無視されます。

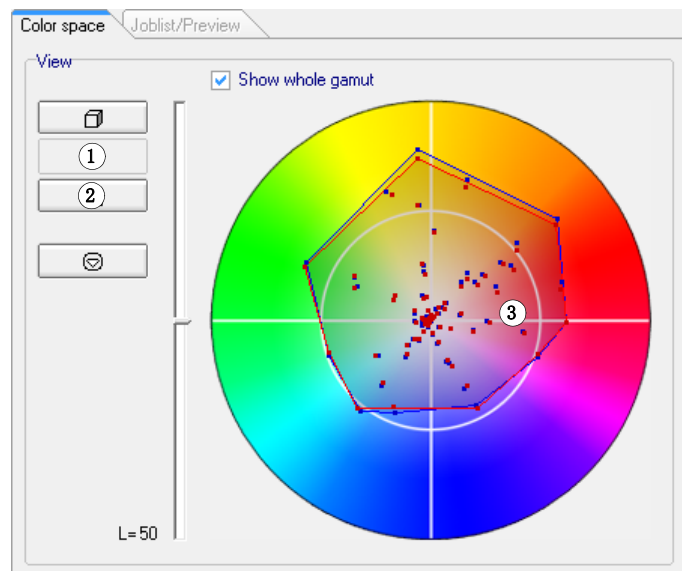
リファレンスデータとしてソートすることで、IT8.7/4 チャートとコントロールストリップとして選択しているどの Ugra/Fogra メディアウェッジとの組み合わせでも比較することができます。これは、Ugra/Fogra メディアウェッジのデータのみが使用されるためです。同様に、この設定を選択すると、キャラクターゼーションデータが IT8.7/4 データではなく ECI2002 としてのみ使用可能な印刷状況を検証するために、テストフォーム「ISO12647_7_Evaluation_A.pdf」を使用することができます。

- 2D ビューア

2D ビューアで、「全体の色域を表示」が、特定の L 値での $L^*a^*b^*$ カラースペースの断面を表示します。スライダーを動かして、任意の L^* 値上にある a^*b^* 軸上のサイズを表示することができます。

2D ビューア

- 1 2D ビューを表示
- 2 2D ビューを拡大
- 3 $L^* = 50$ での切断面

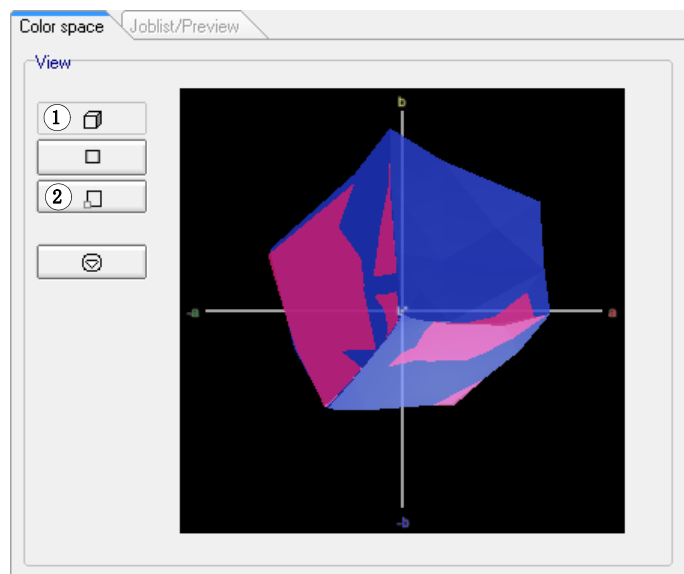


- 3D ビューア

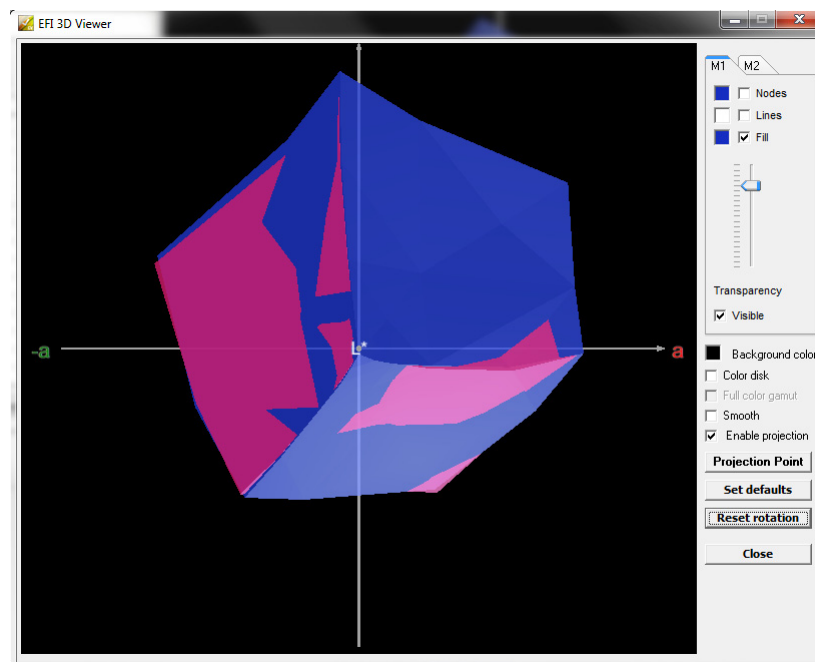
3D ビューアは、両測定データセットの全色域を示しています。3D モデルをドラッグしてこれを回転することができます。3D モデルをあらゆる方向から表示して、測定されたカラー値がリファレンスの色域に合っていない場所を探ることができます。

3D ビューア

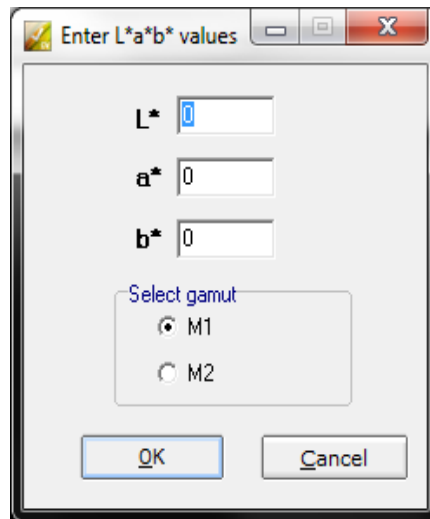
- 1 3D ビューを表示する
- 2 3D ビューを拡大



拡大された 3D ビューは、測定データの表示補足設定を可能にしています。



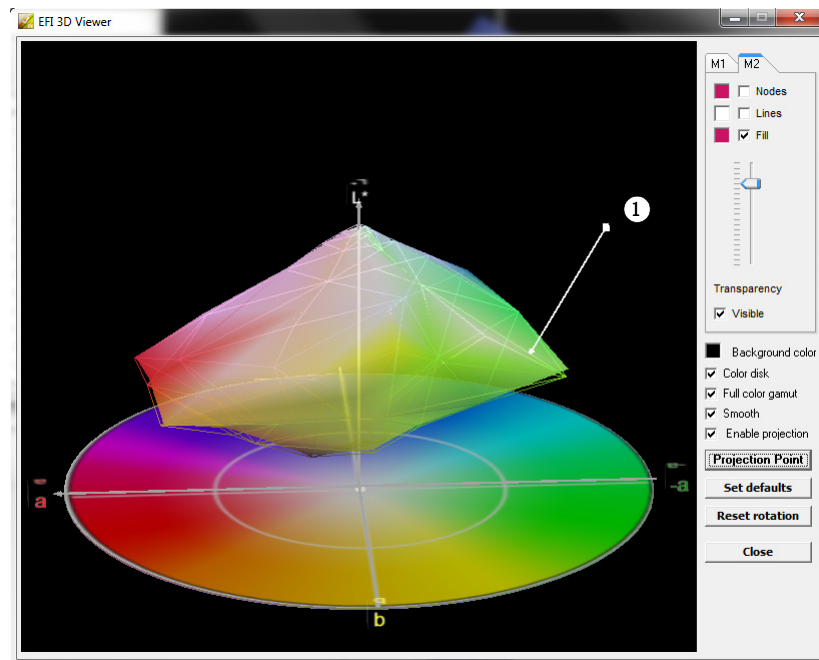
拡大した 3D ビューを使って、 $L^*a^*b^*$ カラーが利用可能な色域でどのように再現されるかを確認することができます。色域外の色は利用できる色域に最も近い点にマッピングされます。「投影を有効にする」を選択し、投影点をクリックして、ダイアログボックスに $L^*a^*b^*$ 値を入力します。M1 または M2 色域のいずれかにマッピングしたいかを選択します。



次のダイアグラムは、3D ビューアで利用可能な一部の設定に適用され、どのように色域外の色が利用できる色域に近いの点にマッピングされるかを示しています。

3D ビューア

- 1 利用できる色域の端にマッピングされる色域外の色



検証結果の印刷

プロトコル、ラベル、またはスクリーンショットとして、検証結果を印刷することができます。

プリンタを設定するには

1 次のいずれかを行います。

- Windows では、「ファイル」メニューから「プリンタの選択」をクリックします。
- Macintosh では、Verifier メニューから「ページの設定」をクリックします。

2 「印刷設定」ダイアログボックスで、使用するプリンタを選択します。

3 「OK」をクリックします。

検証結果を印刷するには

1 「表示」メニューで、「印刷」をポイントして、項目をクリックします。

- スクリーンショット

現在のプログラムウィンドウの内容を印刷することができます。

- プロトコル

印刷したプロトコルには、ISO-12647-7 および ISO-12647-8 仕様に準拠した情報が含まれています。また、CMYK グラデーションカーブも表示され、グラデーションカーブにはリファレンスおよび測定ポイントが示されています。

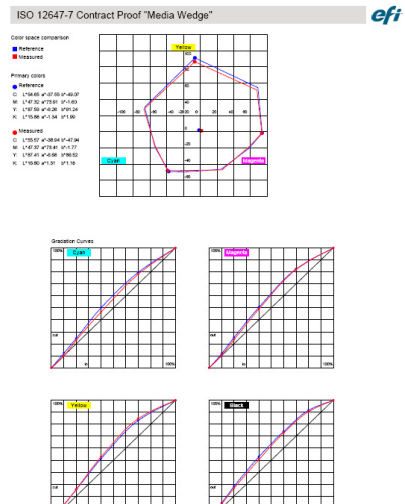
ISO 12647-7 Contract Proof "Media Wedge" efi

Print created by: Dan @ EPI
 Last calibration: -
 Profiling system: Ugra Pigeon-MediaWedge V3.2a
 Delta E Summar: 0.8 CIE97
 Reference profile: -
 Reference printing conditions: ISO 12647-7 Contract Proof "Media Wedge"
 Measuring device: E71 63-100
 Measurement conditions: -
 Measuring methodology: -
 Printer: -
 Proof substrate: -
 Printing substrate: -
 Colorset: -
 Job ID/Name: -

Color name	Difference	Tolerance	Status	Overall Result
Average of patches	1.72 0.8	3.50	Pass	
Minimum of patches	1.74 0.8	Pass 11	Pass	
Printer angle	0.71 0.8	Pass 40	Pass	
CMY	3.21 0.8	Pass 11	Pass	
Magenta	0.53 0.8	Pass 6	Pass	NOT PASSED
Yellow	1.74 0.8	Pass 11	Pass	
Black	0.93 0.8	Pass 46	Pass	
Max difference - CMYK	2.83 0.8	3.50	Not Pass	
Max diff. average group	0.47 0.8	1.50	Pass	

Measuring data analysis

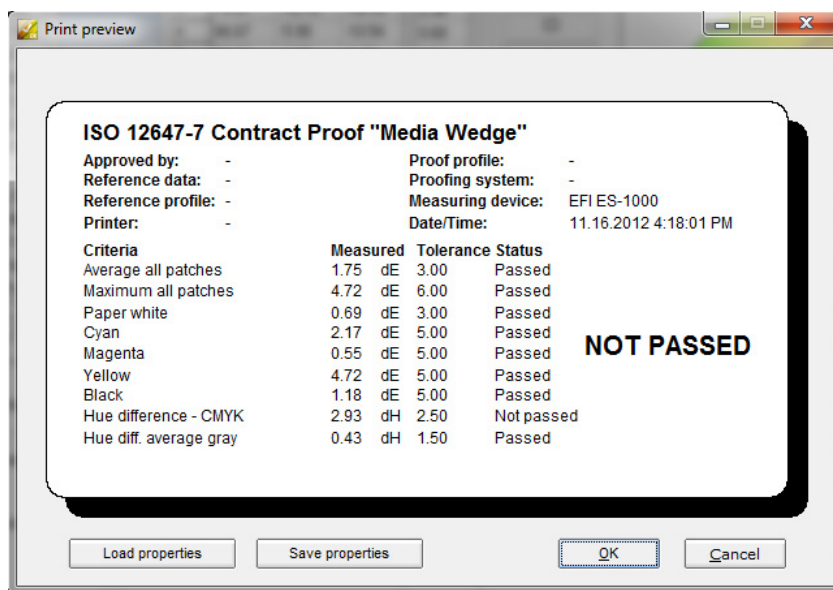
Patch #	L*	a*	b*	M*	S*	Cu*	Col. Diff.	Tolerance	Status	Time	Lab. #
1	38.12	20.44	24.49	38.12	20.44	24.49	0.00	1.50	Pass		0.00
2	65.43	21.44	24.49	65.43	21.44	24.49	0.00	1.50	Pass		0.00
3	82.74	21.44	24.49	82.74	21.44	24.49	0.00	1.50	Pass		0.00
4	39.92	-13.96	34.35	39.92	-13.96	34.35	0.00	1.50	Pass		0.00
5	52.26	-13.96	34.35	52.26	-13.96	34.35	0.00	1.50	Pass		0.00
6	97.06	-13.96	34.35	97.06	-13.96	34.35	0.00	1.50	Pass		0.00
7	49.25	20.29	54.91	49.25	20.29	54.91	0.00	1.50	Pass		0.00
8	70.82	20.29	54.91	70.82	20.29	54.91	0.00	1.50	Pass		0.00
9	82.74	20.29	54.91	82.74	20.29	54.91	0.00	1.50	Pass		0.00
10	39.92	-39.92	19.96	39.92	-39.92	19.96	0.00	1.50	Pass		0.00
11	52.26	-39.92	19.96	52.26	-39.92	19.96	0.00	1.50	Pass		0.00
12	64.60	-39.92	19.96	64.60	-39.92	19.96	0.00	1.50	Pass		0.00
13	82.74	-39.92	19.96	82.74	-39.92	19.96	0.00	1.50	Pass		0.00
14	39.92	39.92	19.96	39.92	39.92	19.96	0.00	1.50	Pass		0.00
15	52.26	39.92	19.96	52.26	39.92	19.96	0.00	1.50	Pass		0.00
16	64.60	39.92	19.96	64.60	39.92	19.96	0.00	1.50	Pass		0.00
17	82.74	39.92	19.96	82.74	39.92	19.96	0.00	1.50	Pass		0.00
18	39.92	0.00	0.00	39.92	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
19	52.26	0.00	0.00	52.26	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
20	64.60	0.00	0.00	64.60	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
21	82.74	0.00	0.00	82.74	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
22	39.92	59.97	0.00	39.92	59.97	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
23	52.26	59.97	0.00	52.26	59.97	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
24	64.60	59.97	0.00	64.60	59.97	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
25	82.74	59.97	0.00	82.74	59.97	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
26	39.92	0.00	59.97	39.92	0.00	59.97	0.00	1.50	Pass		0.00
27	52.26	0.00	59.97	52.26	0.00	59.97	0.00	1.50	Pass		0.00
28	64.60	0.00	59.97	64.60	0.00	59.97	0.00	1.50	Pass		0.00
29	82.74	0.00	59.97	82.74	0.00	59.97	0.00	1.50	Pass		0.00
30	39.92	0.00	0.00	39.92	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
31	52.26	0.00	0.00	52.26	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
32	64.60	0.00	0.00	64.60	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
33	82.74	0.00	0.00	82.74	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
34	39.92	0.00	0.00	39.92	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
35	52.26	0.00	0.00	52.26	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
36	64.60	0.00	0.00	64.60	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
37	82.74	0.00	0.00	82.74	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
38	39.92	0.00	0.00	39.92	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
39	52.26	0.00	0.00	52.26	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
40	64.60	0.00	0.00	64.60	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
41	82.74	0.00	0.00	82.74	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
42	39.92	0.00	0.00	39.92	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
43	52.26	0.00	0.00	52.26	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
44	64.60	0.00	0.00	64.60	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
45	82.74	0.00	0.00	82.74	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
46	39.92	0.00	0.00	39.92	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
47	52.26	0.00	0.00	52.26	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
48	64.60	0.00	0.00	64.60	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
49	82.74	0.00	0.00	82.74	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00
50	39.92	0.00	0.00	39.92	0.00	0.00	0.00	1.50	Pass		0.00



印刷する前に、ジョブ固有の情報を「プロトコールプロパティ」ダイアログボックスに入力します。「プロパティを保存」をクリックすると、定義されたデータフォルダに情報を保存し、この先のジョブのテンプレートとして後に読み込むことができます。

- ラベル

ラベルには、ISO 12647-7 と 12647-8、または G7 や Fogra PSD プリントチェックに対応しているかを確認するのに必要なすべての基準が含まれています。



印刷する前に、ジョブ固有の情報を「印刷プレビュー」ダイアログボックスに入力します。「プロパティを保存」をクリックすると、定義されたデータフォルダに情報を保存し、この先のジョブのテンプレートとして後に読み込むことができます。

Verifier ユーザーインターフェースのカスタマイズ

Verifier の外観をカスタマイズできます。

表示言語を変更するには

デフォルトでは、Verifier は、オペレーティング・システムの言語で表示されます。Windows の表示言語を変更するには、以下の手順に従ってください。Macintosh では「システム環境設定」の言語環境から言語を変更できます。

PC でサポートされているアジア系言語を表示するには、Verifier がダブルバイトフォント対応のオペレーティングシステムで動作している必要があります。

- 1 「環境設定」ダイアログボックスを開き、「一般」タブをクリックします。
- 2 「ユーザーインターフェース」から、言語を選択します。

- 3 「OK」をクリックします。
- 4 新しい言語を有効にするため、Verifier を再起動します。

表示言語を変更した場合、その言語用のヘルプセットも必ずインストールしてください。そうでない場合は、ヘルプは利用できません。サポートされている言語のヘルプセットは、ソフトウェア DVD からインストールできます。

デルタ E の警告表示を変更するには

デルタ E テーブルは、デルタ E で表したリファレンスからのずれを表示しています。

dE ▾
ΔE
2.14
1.78
2.22
0.70
0.56
0.53
1.70
1.13
5.00
0.27
4.66
0.60
1.29
0.60
0.69

デフォルトでは、ずれは、次のカラーコードで示されます：

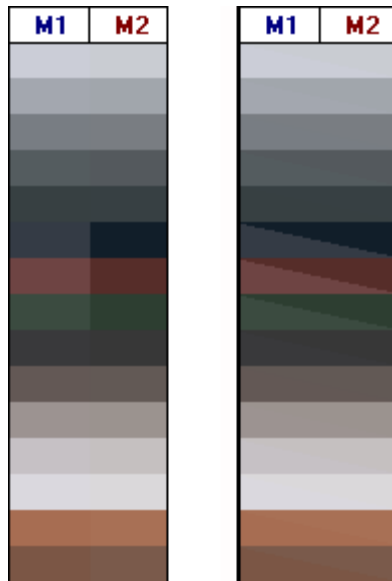
カラー	デルタ E 値
ホワイト	カラーパッチのデルタ値は定義された許容範囲内です。
イエロー	カラーパッチのデルタ値が定義された平均的な許容制限範囲を超えていますが、最大許容制限範囲は超えていません。
レッド	カラーパッチのデルタ値は、許容された最大許容制限範囲を超えており、従って、検証に失敗しました。

色分けされた警告表示を削除することができます。

- 1 「環境設定」ダイアログボックスを開き、「一般」タブをクリックします。
- 2 「ユーザインタフェース」の「デルタ E の警告表示を有効にする」チェックボックスをオフにします。
- 3 「OK」をクリックします。

M1/M2 テーブルの表示モードを変更するには

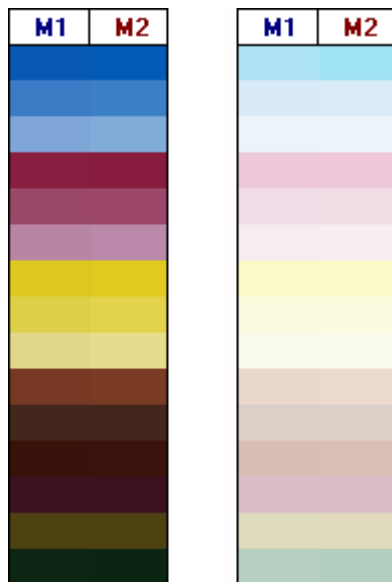
「並べて表示」と「重ねて表示」の2つの表示モードがあります。



- 1 デルタ E テーブルを右クリックして、項目をクリックします。

明度設定を調整するには

表示されたカラー値の明度を調整することができます。



1 「環境設定」ダイアログボックスを開き、「一般」タブをクリックします。

2 必要に応じて、「モニタのガンマ」でスライダを動かします。

明度を上げるには、スライダを左に移動します。明度を下げるには、スライダを右に移動します。

3 「OK」をクリックします。

関連参照：

331 頁の「「環境設定」ダイアログを開くには」

一般設定

カラー値を表示するためのカラースペースとデルタ E フォーマットを選択できます。また、照明ソースを選択することもできます。照明ソースは、色が人間の目によってどのように認識されるかに大きな影響を与えています。

カラースペースを変更するには

測定値が表示されるカラースペースを変更することができます。

1 次のいずれかを行います。

- 「表示」メニューで、「カラースペース」をポイントして、項目をクリックします。
- 測色テーブル内の任意の場所を右クリックして、カラースペースをポイントし、項目をクリックします。

「RGB」、「L*a*b*」、「XYZ」、「CIELCH」、「濃度」の中から選択できます。L*a*b* はデフォルトのカラースペースです。

「濃度」は、カラー値がすでに表示されている場合にのみ使用できます。色精度を確認するプルーフでは、表示濃度値とプロダクション実行中の濃度値を比較することができます。ただし、個々のインクジェットインクの濃度値は印刷用インクの濃度同じではありません。これは、オフセット印刷機上のインク構成が、インクジェットプリンタのインクが異なっているためです。

デルタ E フォーマットを変更するには

色精度は、デルタ E で測定されます。デルタ E とは、L*a*b* カラースペースにある 2 つの色の間の数学的差異のことです。

1 色偏差を測定するためのトレランスシステムを選択します。次のいずれかを行います。

- 「表示」メニューで、「デルタ E フォーマット」をポイントして、項目をクリックします。
- デルタ E テーブル内の任意の場所を右クリックして、項目をクリックします。

「dE CIE L*a*b*」、「dE CMC」、「dE 94」、および「dE 2000」から選択できます。

スペクトルデータ変換のための照明ソースと観察者角度を指定するには

異なる照明ソースは色を異なって表します。スペクトルデータを L*a*b* カラースペースに変換するには、Verifier が照明（光源）の設定と観察者角度を考慮します。

- 1 「環境設定」ダイアログボックスを開き、「一般」タブをクリックします。
- 2 「一般」から、スペクトルデータ変換に必要な照明ソースをクリックします。

D-50 (5003 K) は晴れた朝 / 夕方の地平線にある日光の国際標準となっており、D-65 (6504 K) は真昼の光（正午）を表し、および C (6774 K) の平均昼光を意味していますが、紫外線を除外しています。

- 3 「一般」から、スペクトルデータ変換に必要な観察者角度をクリックします。

表示角度は目の色感度に影響を与えます。色感度が最も敏感な眼の中心窩の領域に色が当たる場合、色は最も正確に認識されます。標準的なビュー角度は「2°」ですが、包装産業や繊維産業では「10°」が使用されることがあります。

- 4 「OK」をクリックします。
-

デフォルトのフォルダを変更するには

Verifier はデフォルトフォルダを使ってデータの保存と読み込みを行います。デフォルトフォルダを変更することができます。

- 1 「環境設定」ダイアログボックスを開き、「一般」タブをクリックします。
- 2 「デフォルトフォルダを定義する」で、「選択」をクリックします。

「フォルダの参照」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 必要なファイルを選択し、「OK」をクリックします。
- 4 「OK」をクリックします。

関連参照：

331 頁の「[「環境設定」ダイアログを開くには](#)」

534 頁の「[用語集](#)」

測定データの保存と読み込み

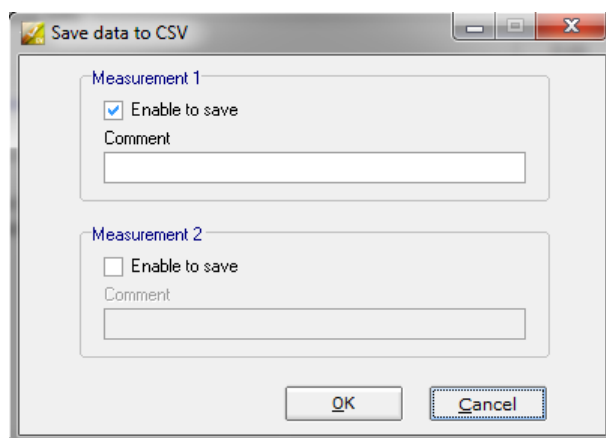
CSV、TXT または JDF 形式で測定データを保存することができます。デフォルトでは、ファイルは Temp フォルダに保存されます。複数の測定値データのセットを 1 つのファイルに保存することができます。

CSV または TXT ファイルに測定データを保存するには

- 1 「ファイル」メニューで、「保存」をクリックします。
「名前をつけて保存」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ファイル名を入力し、ファイルタイプを選択します。

3 「保存」をクリックします。

「CSV/TXT にデータを保存」ダイアログボックスが表示されます。



4 測定データのいずれかまたは両方のセットに対応するチェックボックスを選択します。

5 「OK」をクリックします。

JDF ファイルに測定データを追加するには

JDF ファイルには、ジョブの設定や測定データを（該当する場合）が含まれています。JDF ファイルは Remote Container に保存されます。

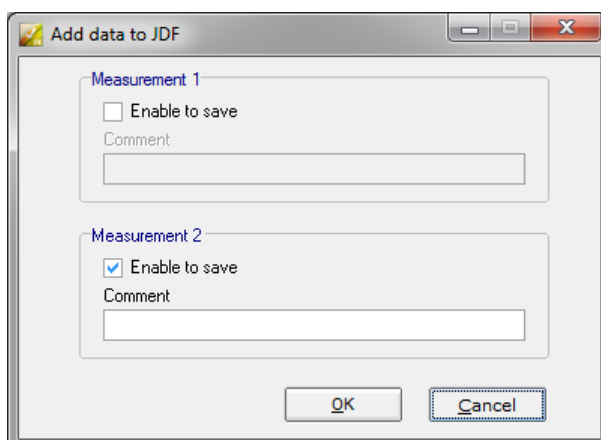
1 「ファイル」メニューで、「JDF にデータを追加」をクリックします。

このコマンドを使って新しく JDF ファイルを作成することはできません。測定データは既存の JDF ファイルにのみ追加可能です。

「名前をつけて保存」ダイアログボックスが表示されます。

2 JDF ファイルを選択し、「保存」をクリックします。

「JDF にデータを追加」ダイアログ ボックスが表示されます。

**3 測定データのいずれかまたは両方のセットに対応するチェックボックスを選択します。****4 「OK」をクリックします。**

クリップボードに測定データをコピーするには

スプレッドシートに挿入するために、測定結果をクリップボードにコピーすることができます。カラー値は表示されたカラースペース (RGB、L*a*b*、XYZ、CIELCH、Density) に、またはスペクトルデータとしてコピーすることができます。スペクトルデータは、測定装置で直接計算され、照明条件に影響されません。スペクトルデータを使って、同等の L*a*b*、XYZ、Density を計算することができます。

- 1 M1 または M2 テーブルを右クリックし、「クリップボードにコピーする」をポイントし、M1/M2 テーブルまたはスペクトルデータをクリックします。**
- 2 クリップボードのデータを表計算プログラムに挿入します。**

測定データを読み込むには

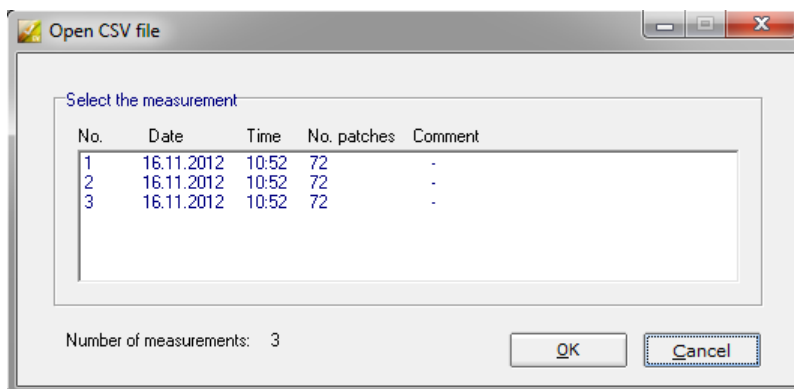
CSV、TXT または JDF 形式で測定データを読み込むことができます。

1 次のいずれかを行います。

- 「開く」をクリックします。測定値の最初のセット (M1) を開くのと、測定値の 2 番目のセット (M2) を開くのと、2 つの「開く」オプションがあります。
- 「ファイル」メニューで、「M1 を開く」か「M2 を開く」をクリックします。
- いずれかのテーブルの任意の場所で右クリックし、「M1 を読み込む」または「M2 を読み込む」をクリックします。

2 ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

次のダイアログボックスが表示されます。読み込まれているファイル形式により、ダイアログボックスの表示が多少異なる場合があります。



3 一連の測定データを選択し、「OK」をクリックします。

異なる Fiery XF サーバにログオンする

Fiery XF から Verifier を起動すると、自動的に Fiery XF クライアントと同じ Fiery XF 同じサーバにログオンします。

異なる FIERY XF サーバにログオンするには

ネットワーク内のどの Fiery XF サーバにもログオンすることができます。

1 次のいずれかを行います。

- Windows では、「ファイル」メニューから「ログイン」をクリックします。
- Macintosh では、Verifier メニューから「ログイン」をクリックします。

「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

2 Fiery XF ログイン資格情報を入力します。

3 Fiery XF サーバコンピュータの IP アドレスを入力します。

サブネットワーク内の有効な Fiery XF サーバの一覧と IP アドレスが表示されます。どの TCP/IP アドレスを使用するか不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

4 「OK」をクリックします。

接続されている Fiery XF サーバがプログラム・ウィンドウの下に表示されます。

サイト間でカラーの一貫性を検証する

リモートコンテナを使って1つのファイルに Fiery XF ジョブとその設定を保存します。Remote Container は、FTP サーバ等を用いて、簡単に移動することができます。リモートコンテナには異なる場所でジョブの色が正確なレプリカを作成、検証するために必要なすべての情報を含んでいます。

ジョブ印刷後、または検証ワークフローでコントロールストリップが Verifier で測定され、測定結果が Fiery XF に送信された後、Remote Container は作成されず。

Remote Container には次の内容が含まれます：

- ジョブファイル（PDF、イメージ EPS または TIFF / 1 ビットのみ）
- JDF ファイル（ジョブの設定や測定データ（該当する場合））
- リファレンスプロファイル
- コントロールストリップ
- スポットカラーテーブル
- L*a*b* 最適化（オプション）

どの EFI プルーフィングプログラムでも Remote Container を読み込んで処理することができます。

Remote container の作成

Remote Container を作成するために、任意のワークフローを設定することができます。または、ワークフローテンプレート「Remote_Out_(ISOcoated_v2)」を使用して、新しいワークフローを作成することもできます。このワークフローは、すべての基本設定内容でセットアップされています。デフォルトのワークフロー設定は、必要に応じて変更することができます。

どのワークフローをする場合でも、選択したコントロールストリップが、お使いの測定デバイスと互換性があることを確認してください。

REMOTE CONTAINER を作成するためにワークフローを設定するには

カスタムワークフローを設定する場合は、次の設定内容を含めるようにしてください：

- 1 **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「出力」タブで、「リモートファイル出力」ペインを開きます。

2 自動または手動で Remote Container を作成するようにワークフローを設定します。

- 自動ワークフローでは、印刷後、または確認ワークフローでコントロールストリップが Verifier で測定され、測定結果が Fiery XF に送信された後、Remote Container は自動的に作成されます。
- 手動ワークフローでは、準備が整った段階で、Job Explorer で Remote Container を作成することができます。



3 変更を保存します。

手動で REMOTE CONTAINER を作成するには

Remote Container は、PDF、Image EPS、mono TIFF のジョブからのみ手動で作成できます。手動で Remote Container を作成するようにワークフロー設定されている場合は、この手順に従ってください。

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「出力」タブで、「リモートファイル出力」ペインを開きます。
- 2 「手動」をクリックしてください。次に、このペイン上の残りの設定を完了します。
- 3 次のいずれかを行います。
 - 「出力」タブで、「ファイル出力」ペインを開き、「今すぐ作成」をクリックします。
 - ジョブリストでジョブを右クリックし、「Remote Container 作成」をクリックします。

関連参照：

467 頁の「リモートファイル出力」

316 頁の「Fiery XF でのワークフローの検証」

受信者側でリモートジョブを処理するには

どの EFI プルーフィングプログラムでも Remote Container を読み込むことができます。Remote Container に保存されている情報により、異なるサイトでオリジナルの色精度を印刷して確認することができるようになります。

受信者側でワークフローを設定するには

任意のワークフローに Remote Container をインポートすることができます。しかし、この場合は、後述するように、いくつかの設定が必要になります。

または、ワークフローテンプレート「Remote_In」を使用して、新しいワークフローを作成することもできます。このワークフローは、検証ワークフローで Remote Container を処理するために必要なすべての基本設定内容でセットアップされています。デフォルトのワークフロー設定は、必要に応じて変更することができます。

どのワークフローをする場合でも、選択したコントロールストリップが、お使いの測定デバイスと互換性があることを確認してください。

カスタムワークフローを設定する場合は、次の設定内容を含めるようにしてください：

- 1 **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。
- 2 「リモートジョブインポート」から、「リモートジョブの設定を利用します」を選択します。

この設定によりジョブを読み込んだ時に、オリジナルに使用したシミュレーション（リファレンス）プロファイルを含むすべてのカラー管理の設定内容が自動的に読み込まれます。

- 3 「検証」タブで、「コントロールストリップの検証 1」ペインを開きます。次を実行してください。

- ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。
- 「キャラクターゼーション・データ」から、「測定ファイルを開く」を選択します。

この設定は、異なるサイトにおけるジョブの色濃度を検証する際に、必要になります。これにより、Remote Container からのカラー値がリファレンスとして確実に使用されるようになります。Remote Container が測定データ無しで作成された場合、代わりにシミュレーション（リファレンス）ファイルが使用されます。

- 「ターゲット許容範囲のプリセット」から、色精度の許容偏差を定義します。

「許容範囲」の値により、リファレンスに対する出力の色精度を検証する際の最大許容誤差を定義します。たとえば、許容制限範囲を 3 と定義した場合、デルタ E の測定値が 2.5 であれば、これは色が正確であるとみなされるのに対し、デルタ E の測定値が 3.2 であれば、正確とはみなされません。



- 4 **変更を保存します。**

受信者側で REMOTE CONTAINER を処理するには

元のプルーフを作成したときに使用したプリンタモデルおよび印刷構成を使用すれば最も正確な結果が得られます。さらに、正確さを向上するためには、オリジナルと複製の印刷に使用するプリンタのキャリブレーションを行っておいてください。



- 1 **Remote Container を読み込みます。**

他のジョブ同様、Remote Container を読み込むことができます。

2つのコントロールストリップを印刷するようにワークフローが設定されている場合は、その1つまたは両方を使って色精度を検証することができます。コントロールストリップを無効にするには、「検証」タブの該当するペインバーにあるチェックボックスを外します。



2 ジョブを印刷します。

印刷後、ジョブは自動的に Verifier に送信されます。ジョブリストでは、ジョブステータスが「検証可能」に変わります。

3 測定デバイスをコンピュータに接続します。

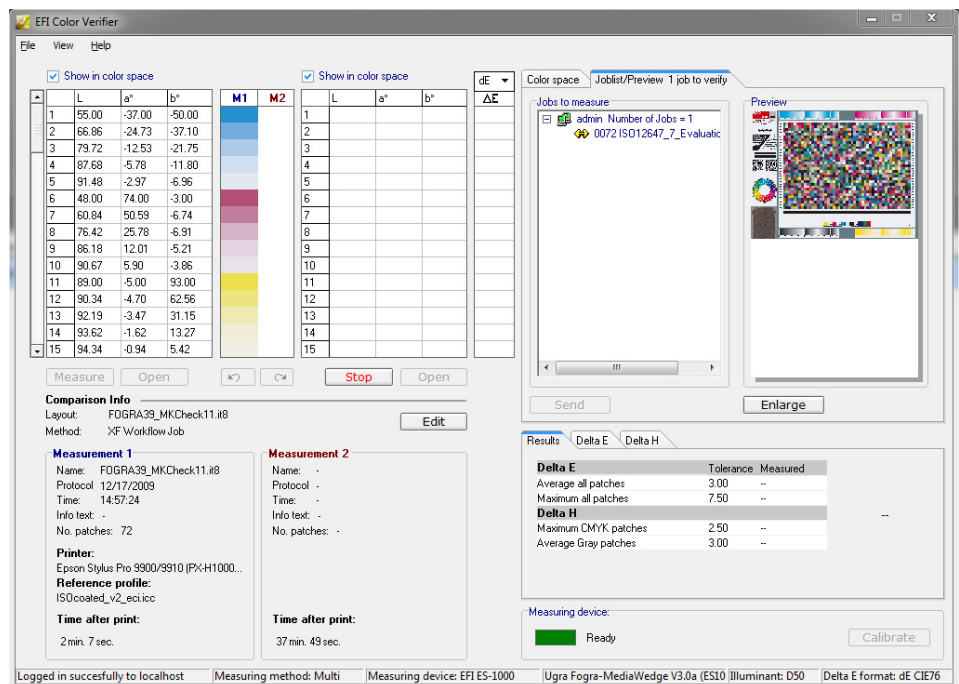
4 Verifier を起動します。次のいずれかを行います。



- ツールバーで Verifier をクリックします。
- 「ツール」メニューから、Verifier をクリックします。
- Job Explorer を開きます。「検証」タブで、「コントロールストリップの検証」ペインを開きます。ペインバーのチェックボックスを選択して、設定を有効にします。「コントロールストリップの検証」ペインで、「検証」ボタンをクリックします。

Verifier が起動します。印刷ジョブが「ジョブリスト/プレビュー」タブに表示されます。

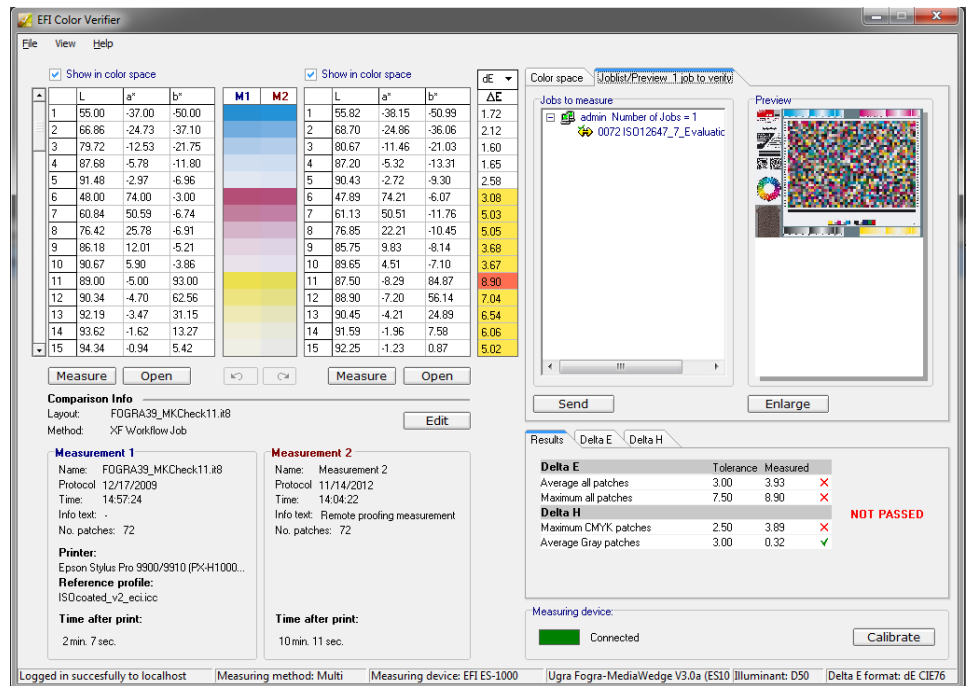
5 「ジョブリスト/プレビュー」タブの「測定するジョブ」欄でジョブリストを拡張、ジョブファイルをダブルクリックします。



Remote Container からの測定値が左側に表示されます。

6 画面の指示に従って印刷されたコントロールストリップの測定を行います。

測定されたカラー値が右側のテーブルに表示されます。比較結果が、「結果」領域に表示されます。

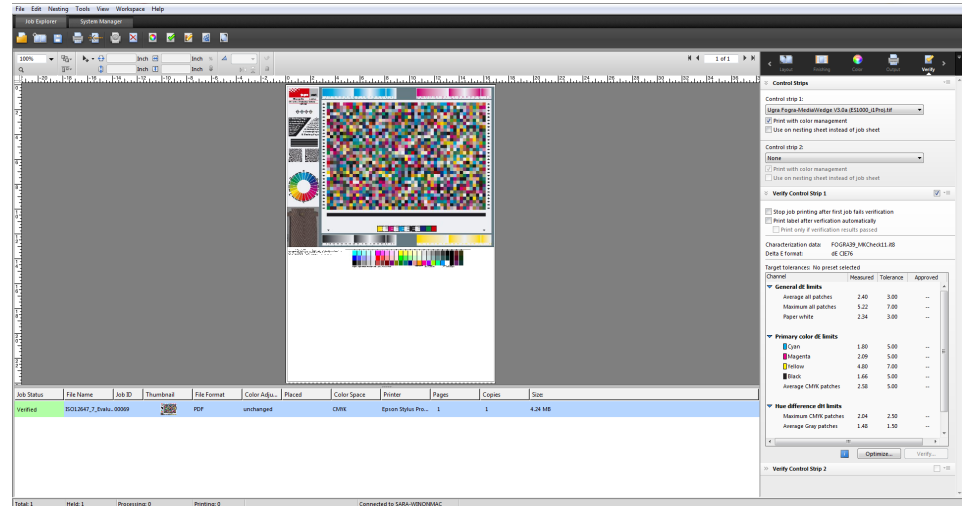


7 結果を Fiery XF に送り返します。次のいずれかを行います。

- 「送信」をクリックします。
- 「ファイル」メニューで、「JDFに保存」をクリックして送信します。

JDFに測定データを保存すると、色精度が記録されます。また、複数の測定値データのセットを1つのJDFファイルに保存することができます。JDFファイルは「Temp」フォルダに保存されます。

測定結果は Fiery XF に送り返されます。結果は、適切な「検証コントロールストリップ」ペインの Job Explorer に表示されます。



色精度が承認されると、ジョブは「検証済み」ステータスを受信します。この場合、検証作業はこれで完了です。色精度が承認されないと、ジョブは「検証に失敗しました」というステータスを受信します。

デフォルトでは、ジョブは、すべての色の測定値が定義された許容範囲内にある場合にのみ、正確な色であることを検証します。一方、Verifier で測定承認を可能にすることにより、ジョブが検証に成功するか否かの完全なコントロールを得ることができます。たとえば、デルタ E 値がをわずかに超えている場合でも、強制的に検証に成功させることができます。

ジョブが検証に失敗した場合は、ジョブごとに最適化を行うことによって結果を改善することができるかもしれません。このプロセスは、シミュレーション（リファレンス）プロファイルの色域により適した補正プロファイルを作成することにより、ジョブのカラーマネジメントを最適化するものです。その後で、ジョブを再印刷して検証手順を繰り返す必要があります。

関連参照：

316 頁の「[Fiery XF でのワークフローの検証](#)」

317 頁の「[検証ワークフローを設定するには](#)」

332 頁の「[Verifier を設定するには](#)」

339 頁の「[検証結果の分析](#)」

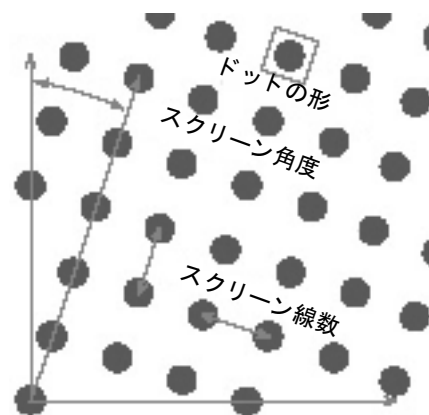
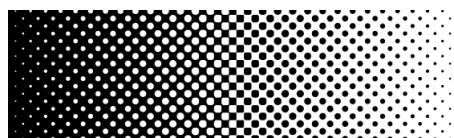
DOT CREATOR

Dot Creator オプションのライセンスをお持ちの場合、連続トーンデータからスクリーニングファイル (*.spt) を作成し、印刷メディアプロファイルを使用してこれらを Fiery XF で実行することができます。

ハーフトーンスクリーニング

従来的な印刷プロセスでは、連続トーンを十分な品質で出力するのは困難です。なぜなら、写真とは異なり、オフセット印刷では明度の違いを直接再現することができないからです。印刷用紙には、色のある用紙と、色のない用紙があります。色を「ほんの少しだけ」印刷することはできないのです。

ハーフトーンスクリーニングとは、この問題を克服するために使用するプロセスの名称です。このプロセスでは、色はドットの並びで表され、各ドットのサイズとドット間の間隔を調整することによって色の濃さの違いが表現されます。各ドットのサイズが大きく、ドット間の隙間が狭いほど、再現されるカラートーンは暗くなります。



従来のインクジェットプルーフの場合、プリンタードライバはカラーマネージメントモジュール (CMM) から色情報を得て、プリンタで使用可能なすべてのインクを使用してジョブを印刷します。

ところが、Fiery XF はスクリーン出力用に 4 つのプロセスマネージャーの情報のみを送信します。このため、カラー管理が適用されたジョブのスクリーンファイルを出力することはできません。スポットカラーなどのカラーは、CMYK インクを使用して、ドット間の隙間を調整したり、ドットを重ねたりして、ドットの印刷を操作することによって再現されます。

ハーフトーンスクリーニングは、複合ジョブと分版ジョブに適用することができます。

- コンポジット出力

コンポジット出力は、ワイドスクリーン線数を使用したより正確な印刷技術のシミュレーションを行うことができます。

コンポジット出力では、プロセスカラーやスポットカラーなどすべての色が同じページ上に印刷されます。カラーは、定義されたスクリーン線数で、他のカラーの上に重ねられて印刷されます。この方法は、従来のインクジェットプリンタでのシルクスクリーンのシミュレーションに使用されます。

- 分版出力

分版出力は、例えば、シルクスクリーン業界でワイドスクリーン線数を用いる従来型イメージセッター技術に代わるものです。

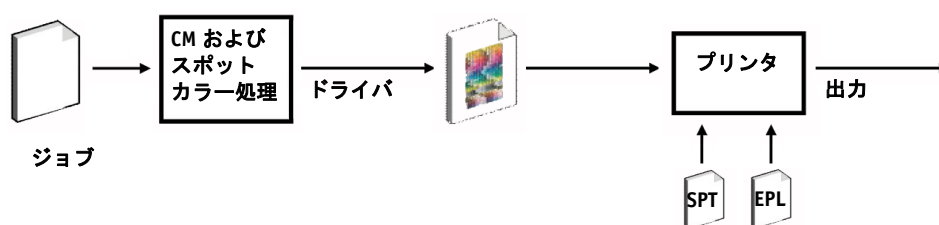
分版出力の場合、各カラーチャンネルは異なるページに印刷されます。プロセスカラーやスポットカラーなど、すべての色は濃度の異なるグレーで再現されます。この方法は、従来のインクジェットプリンタを使用して、透明のドットフィルム上に印刷する際に使用できます。

Fiery XF でのスクリーニングの方法

Fiery XF は、v1 スクリーニングおよび v2 スクリーニングの 2 つのスクリーン方法をサポートしています。

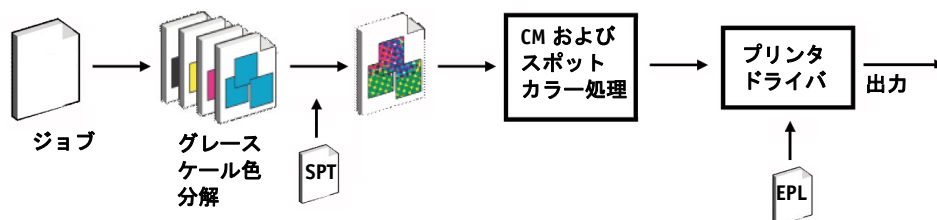
- v1 スクリーニング

v1 スクリーニング方法では、スクリーニングファイルは出力データに適用されます。プリンタドライバがスクリーニングファイル进行处理して出力データを作成します。つまり、用紙の白色部分やフルトーンもスクリーン処理されます。



- v2 スクリーニング

v2 スクリーニング方法では、スクリーニングファイルは入力データに適用されます。入力データがまずグレースケールに色分解されたあと、SPT ファイルがスクリーンデータを作成します。その後、色分解されたファイルは、1ビットファイルと同様に処理されます。v2 スクリーニングでは、OneBit オプションのライセンスが必要です。



この方法では、より高いスクリーン線数を使用することができますが、印刷メディアの白色点のシミュレーションおよびフルトーンのスクリーン処理は行われません。

v2 のスクリーニング法を適用する場合、次のことに注意してください：

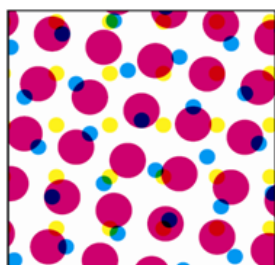
- 入力ファイルのデータは、CMYK 色空間で定義されている必要があります。v2 スクリーニングは、RGB または L*a*b* データには適用できません。
- スクリーニング解像度とプリンタ解像度は同一でなければなりません。
- v2 スクリーニングを持つジョブからリモートコンテナを作成することはできません。

次の表では、2つのスクリーニング方法の違いを説明します。

	v1 スクリーニング	v2 スクリーニング
AM スクリーニング - 最大スクリーン線数	100 lpi (スクリーン設定による)	最大 150 lpi (プリンタの構成による)
ジョブの各色で定義可能なスクリーン設定	設定可能。スポットカラーは CMYK のうちのいずれかのスクリーン設定にリンクされます (デフォルトはブラック)。	設定可能。スポットカラーは CMYK のうちのいずれかのスクリーン設定にリンクされます (デフォルトはブラック)。
出力	純粋のインクジェット CMYK スクリーニングを使用したコンポジット出力	コンポジット出力にはジョブの各色のスクリーニング情報が含まれています。
ドットの形	純粋なインクジェットドット	色管理されたドット。ライトインクの使用。
カラーの正確さ	純粋のインクジェットドットのオーバープリント	カラー管理されたドットのオーバープリント

	v1 スクリーニング	v2 スクリーニング
ペーパー・ホワイト・シミュレーション	スクリーン処理	コントーン処理
フルトーンの再現	スクリーン処理	コントーン処理
コントーンプリンタモードのサポート	いいえ	はい
リニアリゼーション / プロファイリング	スクリーニングファイルを使用した新しいリニアリゼーションおよびプロファイリングファイルの作成が必要。	スクリーニング解像度がプリンタの解像度と同一である限りは、既存のベースリニアリゼーションファイルに接続できます。
速度	-	v1 に比べ 50% 以上遅い
ドットのシャープさ	-	v1 より若干シャープさにかける

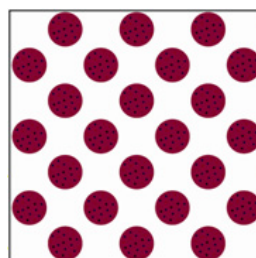
v1 スクリーニング、印刷プレス、v2 スクリーニングでの出力の違いを次の図で示します。



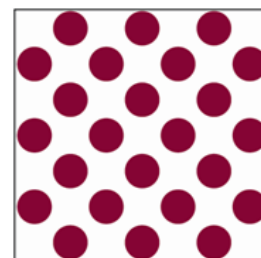
v1 スクリーニング

純粋のインクジェット CMYK。純粋のインクジェットドットのオーバープリントによるカラーマネージメント。

色精度、異なるスクリーニング方法。



印刷機



v2 スクリーニング

色管理されたドット。標準色とライトカラーインクジェットハーフトーンによるカラーマネージメント。

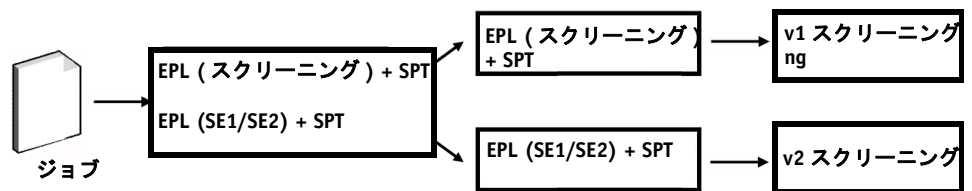
色精度、同一のスクリーニング方法。

Fiery XF は異なる方法により、v1 スクリーニングと v2 スクリーニングを実行します：

- v1 方法では、新しいベースリニアリゼーションファイルと、スクリーニングファイルを組み込んだ新しい印刷メディアプロファイルを作成する必要があります。新しい印刷メディアプロファイルを作成するには、Color Tools オプションのライセンスが必要です。
- v2 方法では、既存のベースリニアリゼーションファイルおよび印刷メディアプロファイルにスクリーニングファイルを結合することができます。ただし、スクリーニングファイルとベースリニアリゼーションファイルは同じプリンタ解像度で作成する必要があります。

Fiery XF は、ベースリニアリゼーションファイルからのハーフトーン処理方法に基づいて、自動的にスクリーニング方法を適用します。

ベースリニアリゼーションファイルからハーフトーン処理方法	適用されたスクリーニング方法
スクリーニング	v1 スクリーニング
誤差拡散 (SE1) または確率的スクリーニング (SE2)	v2 スクリーニング



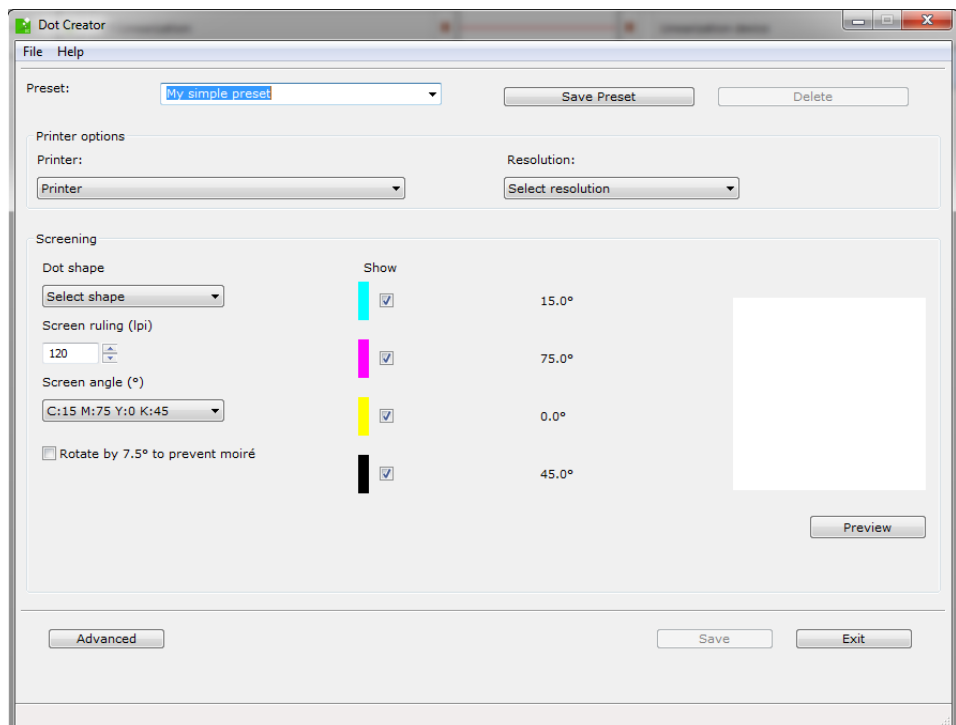
Dot Creator の起動

DOT CREATOR を起動するには

1 次のいずれかを行います。

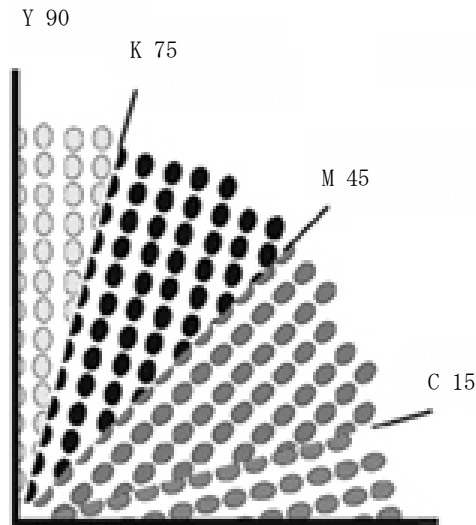


- ツールバーで Dot Creator をクリックします。
- 「ツール」メニューから、Dot Creator をクリックします。



スクリーニングファイルの作成

シアン (C)、マゼンタ (M)、イエロー (Y)、ブラック (K) の4つのプロセスカラーに、ハーフトーンスクリーンがそれぞれ1つずつ作成されます。ライトインクはサポートされていません。各ハーフトーンスクリーンは回転され、それぞれが異なる角度で印刷されて、それによってモアレが現れないようにしています。通常の印刷順序は、シアン マゼンタ イエロー ブラックです。



Dot Creator は、業界標準のスクリーン角度設定を提供しています：

- C=15、M=75、Y=0、K=45
- C=8、M=51.5、Y=27、K=75
- C=18.4、M=71.6、Y=0、K=45

これらの定義済み設定のいずれかをベースに、ハーフトーンスクリーンを作成することができます。

既定のスクリーン角度を使用してスクリーニングファイルを作成するには

必要に応じて、手順のどの段階でもプリセットとして設定を保存することができます。設定を保存することで、後日、さらに変更を加える場合に、このプリセットを素早く簡単に再度読み込むことができます。

- 1 Dot Creator を起動します。
- 2 ハーフトーンプリンターを選択します。
- 3 解像度を選択します。
- 4 ドットの形状を選択します。

円、ダイヤモンド、四角、線、楕円から選択します。

5 スクリーン線数とスクリーン角度を選択します。

6 「モアレが現れないように 7.5 度ずつ回転」を選択します（オプション）。

この設定は、一般的にフレキソグラフィック印刷で使用されているスクリーン角度をシミュレートするために、反時計回りに 7.5° ずつ、すべてのスクリーン角度を回転させます。

モアレ現象が現れるのは、スクリーン線数がわずかに異なる 2 つのハーフトーンスクリーンが重なり合ったり、回転角度にほとんど差がない場合です。C15 度、M45 度、K75 度、Y90° または 0 度というスクリーン角度が、最高の結果を生みます。

モアレ現象を起こさずに印刷できるのは、通常スクリーン線数が 150 lpi までです。

7 「プレビュー」をクリックしてプレビューを表示します。

8 設定をプリセットとして保存します（おぶしょん）。

設定を保存することで、後日、独自の設定を素早く簡単に再度読み込むことができます。

9 「保存」をクリックします。

スクリーニングファイルがスクリーニングフォルダに保存されます。

スクリーニングファイルを作成したら、これをメディアプロファイルに組み込むことができます。

カスタムのスクリーン角度を使用してスクリーニングファイルを作成するには

必要に応じて、手順のどの段階でもプリセットとして設定を保存することができます。設定を保存することで、後日、さらに変更を加える場合に、このプリセットを素早く簡単に再度読み込むことができます。

1 Dot Creator を起動します。

2 「詳細」をクリックします。

3 ハーフトーンプリンターを選択します。

コントーンプリンタにはスクリーニングファイルを適用することはできません。

4 解像度を選択します。

5 ドットの形状を選択します。

円、ダイヤモンド、四角、線、楕円から選択します。

6 「モアレを抑止」を選択します（オプション）。

Dot Creator はモアレパターンのリスクを評価し、それに応じて設定を変更します。

モアレ現象が現れるのは、スクリーン線数がわずかに異なる 2 つのハーフトーンスクリーンが重なり合ったり、回転角度にほとんど差がない場合です。C15 度、M45 度、K75 度、Y90° または 0 度というスクリーン角度が、最高の結果を生みます。

モアレ現象を起こさずに印刷できるのは、通常スクリーン線数が 150 lpi までです。

7 プロセスカラーごとに、スクリーン線数およびスクリーン角度を入力します。

8 「プレビュー」をクリックしてプレビューを表示します。

「表示」列のチェックボックスを選択または選択を外すことにより、プレビューから選択された色を表示または非表示にすることができます。

9 「保存」をクリックします。

スクリーニングファイルがスクリーニングフォルダに保存されます。

スクリーニングファイルを作成したら、これをメディアプロファイルに組み込むことができます。

関連参照：

366 頁の「[印刷メディアプロファイルにスクリーニングファイルを組み込む](#)」

印刷メディアプロファイルにスクリーニングファイルを組み込む

印刷メディアプロファイルにスクリーニングファイルを組み込むには二つの方法があります：

- 新しいベースリニアリゼーションファイルと新しい印刷メディアプロファイルを作成することができます。
- スクリーニングファイルを既存の印刷メディアプロファイルに結合することができます。

次の前提条件が適用されます：

- スクリーニングファイルとベースリニアリゼーションが同一のプリンター解像度で作成されていること。
- ベースリニアリゼーションファイルが、ハーフトーン方法「誤差拡散 (SE1)」または「確率的スクリーニング (SE2)」用に作成されていること。

印刷メディアプロファイルに組み込むとき、ジョブが、スクリーニングファイルで定義されているスクリーン角度で出力されます。

スポット カラーオプションのライセンスをお持ちの場合は、個々のジョブのスクリーン角度を変更することができます。

スクリーン角度は、1 ビットファイルには適用されません。

関連参照：

157 頁の「ベースリニアリゼーションファイルを作成または編集する」

167 頁の「プロファイルコネクタ」

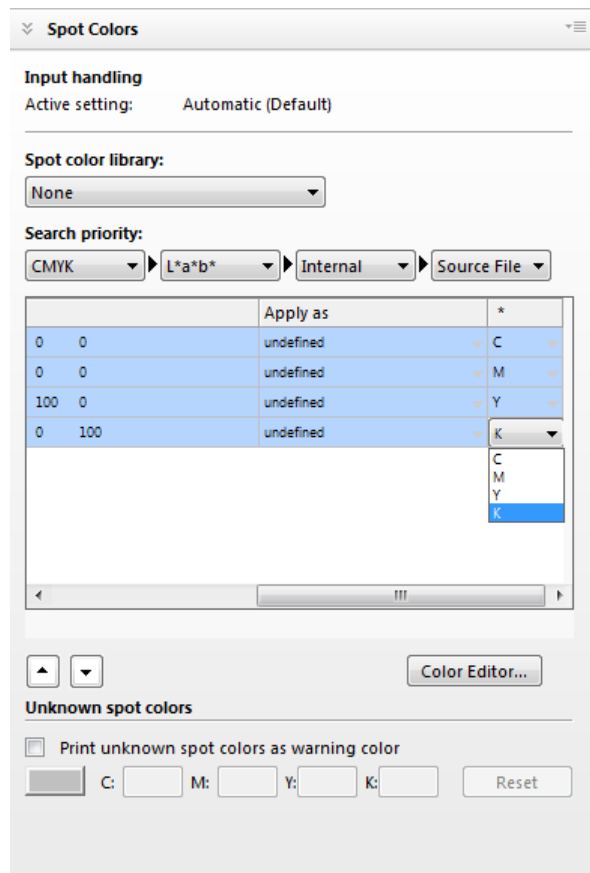
367 頁の「スクリーン角度の変更」

スクリーン角度の変更

スポットカラーオプションのライセンスをお持ちの場合は、読み込んだジョブのスクリーン角度を変更することができます。この設定は、色分解したグレーフィルムを透明な印刷メディアに印刷するときに便利です。デフォルトでは、すべてのスポットカラーはブラックのスクリーン角度を使用してスクリーンが作成されます。

スクリーン角度を変更するには

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「スポットカラー」タブを選択します。



スポットカラーテーブルは、各色ごとに使用されているスクリーン角度を示しています。スポットカラー用のデフォルト設定はブラックですが、“*”列の他のどのプロセスカラーのスクリーン角度でも選択することができます。この列を表示するには、右にスクロールします。

ジョブ速度を上げる

多くの要因が Fiery XF のジョブの処理速度に影響を与えます。次のセクションでは、ジョブの処理速度を上げる方法を説明します。

一般的なヒント

下記は、ジョブ処理速度を上げるのに役立つ一般的なヒントです：

- プレビューの設定を無効にします。プレビューの設定を無効にすることで、プレビューファイルの作成に要していただろう時間を節約することができます。
- コンピュータが同時に複数のタスクを実行していないことを確認してください。不要なタスクをシャットダウンすると、Fiery XF で使えるシステムのリソースが増えます。
- 複雑な PostScript ジョブを PDF/X-1a 形式に変換します。
- 低い印刷解像度のキャリブレーション設定を選択します。720×720 dpi で印刷することは、1440×1440 dpi で処理するよりもデータ量が 4 倍以下になることを意味します。
- グラフィックプログラムでは、Fiery XF に読み込む前に、より低い入力解像度にジョブを変換してください。
- プロダクションワークフローでは、スピーディなジョブ出力のために特に設計されたワークフローテンプレートを選択します。
- プリンタの CMYK インクを使用し、コンポジットジョブとして異なるファイルを印刷するために、in-RIP セパレーションを無効にします。必要な場合は、処理速度がさらに速い「コンポジットジョブでのオーバープリントをシミュレートする」を選択することができます。
- in-RIP セパレーションを適用する場合、ソースファイルのスポットカラーを検索するために検索の優先順位を設定しないでください。Fiery XF にスポットカラーを定義するためのソースファイルのスキャンを指示することにより、全体的な処理時間が長くなります。
- ジョブを回転したり、最少メディア消費量を選択したりしないでください。
- 色調整も、絶対に必要でない限り、その適用は避けてください。
- 最終的な実行特性をシミュレートすることは避けてください。
- 別のハードドライブにプロファイルフォルダとシステムフォルダをインストールします。

関連参照：

- 59 頁の「ワークフローを作成するには」
- 77 頁の「プレビューのアクティベーション」
- 91 頁の「ジョブの回転」
- 101 頁の「In-RIP セパレーション」
- 105 頁の「コンポジットジョブでのオーバープリント」
- 143 頁の「メディアプロファイル」
- 185 頁の「色調整を行う」
- 287 頁の「検索順序を変更する」
- 377 頁の「独特の印刷特性をシミュレートする」
- 384 頁の「プロファイルフォルダとシステムフォルダの変更」

「RIP して即時に印刷」

デフォルトでは、Fiery XF がジョブのプロセスを完了し、印刷を開始します。

RIP して即時に印刷すると、ジョブのプロセスと印刷が同時に行われます。ジョブデータの 1 チャンクがプロセスされた瞬間に印刷されます。

この設定は、ジョブの出力速度を上げます。一方、プリンタは時々一時停止することがあり、これが印刷物に不要な線を残すことにつながる場合があります。

RIP を有効にして、即時印刷するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「速度」ペインを開きます。
- 2 「RIP して即時に印刷」を選択します。
- 3 変更を保存します。



RIP 解像度

RIP 解像度は、ジョブをプロセスするために利用されている解像度です。ジョブは印刷解像度に変換されます。

RIP 解像度は印刷速度と印刷品質に影響を与えます。RIP 解像度が高いほど、印刷品質が高くなる一方で、ジョブの印刷時間が長くなります。逆に、RIP 解像度が低いほど印刷時間は短縮されますが、ドラフト用のような印刷品質となります。

印刷解像度よりも高い RIP 解像度でジョブをプロセスすることはできません。

1 ビットファイルを処理する場合は、この設定を使用しないでください。低 RIP 解像度を選択すると、印刷物にファジィなドットが現れます。

RIP 解像度を下げるには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「速度」ペインを開きます。
- 2 「高速」にスライダを動かします。
- 3 変更を保存します。



双方向印刷

ワークフローに対して双方向印刷を設定することができます。双方向印刷は、印字ヘッドが両方向で印刷しますから、単方向印刷より高速です。しかし、精度が落ちる可能性があります。一部プリンタは双方向印刷をサポートしていません。

双方向印刷を有効にするには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「速度」ペインを開きます。
- 2 「双方向で印刷します印刷します」を選択します。
- 3 変更を保存します。



Adobe のプリントエンジン

使用している Adobe のプリントエンジンの数を増やすことによって、ジョブの処理をスピードアップすることができます。通常、ジョブは 1 つの CPU コアで 1 つずつ次々に処理されます。Adobe PostScript 3 のエンジン数と Adobe PDF プリントエンジン数を増やすことで、同時に複数の PostScript / PDF のジョブを処理することができます。

ADOBE のプリントエンジンの数を増やすには

- 1 System Manager を開きます。「ツール」メニューから、「システム情報」をクリックします。

「システム情報」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「一般設定」で、使用するプリントエンジンの数を増やします。

CPSI および APPE ためのプリントエンジン数は、デフォルトで、オペレーティングシステムで使用可能な CPU コアの最大数に等しくなります。例えば、32 ビットコンピュータでは 2 つ、64 ビットコンピュータでは 4 つとなります。

- 3 変更を保存します。



この設定は、すべてのワークフローに適用される全体設定です。新しい値を有効にするために、Fiery XF サーバを再起動する必要があります。

マルチスレッドのハーフトーン処理

コントーンからハーフトーンデータへの変換には、ジョブ処理中、最も時間がかかります。マルチスレッドのハーフトーン処理を有効にすることによって、ハーフトーンデータへのジョブの変換は、複数の CPU コア間で分担され、これにより、出力速度を上げることができます。

マルチスレッドのハーフトーン処理はすべてのワークフローに自動的に適用される全体設定です。しかし、すべての出力デバイスがこの機能をサポートするわけではありません。EFI プリンタドライバで駆動されている特定のハーフトーンプリンターのみ、この機能に対応しています。

一般的に、次のタイプのジョブであれば、このオプションでパフォーマンスの向上が期待できます。

- ハーフトーンメソッド SE1 を適用するジョブ。SE1 ハーフトーンは SE2 ハーフトーンよりも処理に時間がかかります。
- 解像度の高いジョブ

複数のジョブを同時に処理すると、いくつかのジョブの出力速度が低下することがあります。これは、1つのジョブのみ高優先度として割り当て、複数の CPU コアで処理することが可能なためです。従って、まず、このジョブを印刷し、他のジョブは1つの CPU コアで1つずつ処理します。

マルチスレッドのハーフトーン処理を有効にするには

- 1 System Manager を開きます。「ツール」メニューから、「システム情報」をクリックします。
「システム情報」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「一般設定」で、「マルチスレッドのハーフトーン処理を使用する」を選択します。
- 3 変更を保存します。



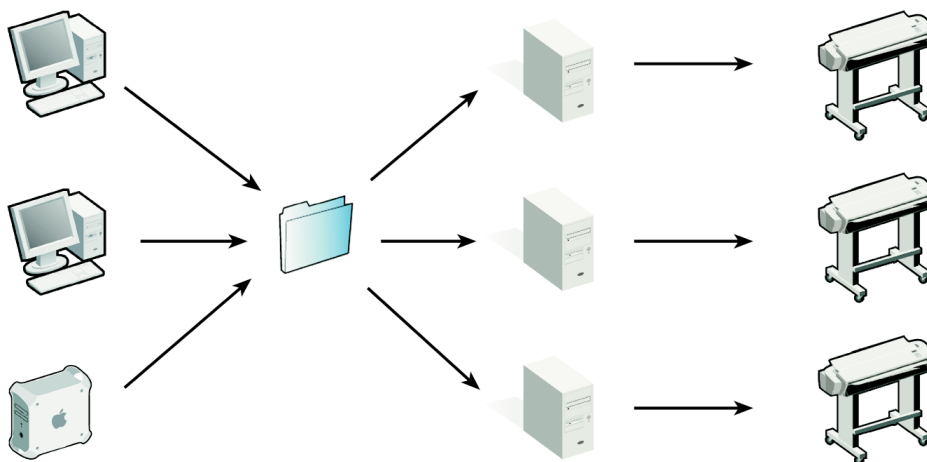
負荷分散

ホットフォルダを介して、Fiery XF にジョブを読み込む場合、インストールされた1つまたは複数の Fiery XF 上にセットアップされたワークフローによりホットフォルダが監視されるよう設定することができます。負荷分散を利用すると、ホットフォルダに配置されているジョブが利用可能となった最初のアイドルワークフローに自動的に転送されます。

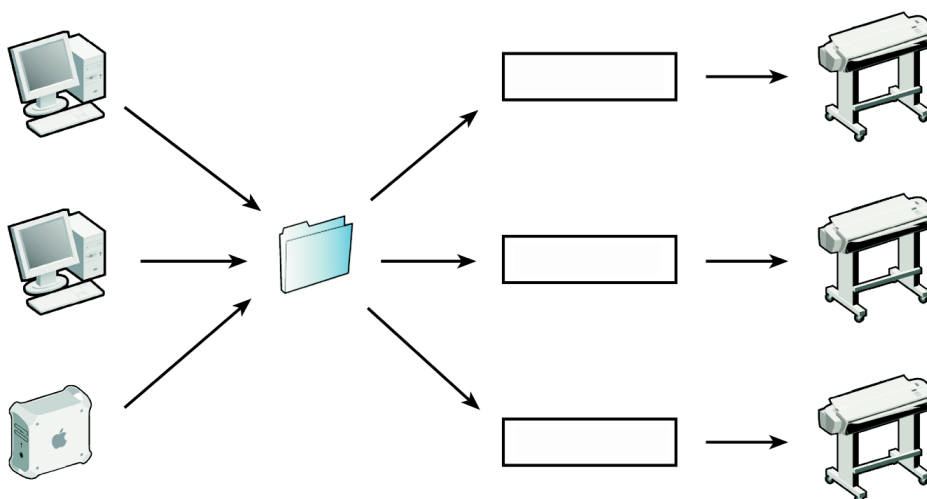
負荷分散により、すべての利用可能なシステムリソースが可能な限り効率的に確実に利用されるようになります。例として、1つのワークフローが大容量のジョブを処理中の場合、または、Fiery XF サーバに問題が発生した場合、ジョブ処理は異なるワークフローを通して継続することができます。ジョブの処理が開始されると、何度も処理されないよう、または、2つのワークフローが同時に処理されないよう、JobFolder に自動的に開きます。

次の図は、負荷分散を利用したケースを解説したものです。

負荷分散の例：異なる
Fiery XF サーバーを使用した
場合



負荷分散の例：異なるワーク
フローを使用した場合



次の点に注意してください：

- 同じホットフォルダを監視しているワークフローのコンフィグレーションが全く同一であるとは限りません。そのためワークフローの設定が異なる場合や、別のプリンタが接続されている場合に、満足できる色が得られない場合があります。
- この設定は、マルチファイルフォーマット（例：1ビット、DCS、Scitex、Tiff/ITまたはデルタリスト）でのジョブには適用できません。

負荷分散を設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで「ジョブ検出」ペインを開きます。
- 2 ホットフォルダを設定します。

- 3 「負荷分散を有効にする」を選択します。
- 4 2つ目のワークフローには、上記の手順を繰り返します。

最初のワークフローで設定したのと同じホットフォルダを選択していることを確認してください。



- 5 変更を保存します。

関連参照：

193 頁の「[ホットフォルダを介した印刷](#)」

優先度の高い印刷

優先度の高いワークフロー設定をすることにより、ジョブの処理速度を上げることができます。優先度の高いワークフローでは、同じ出力デバイスに印刷される他のワークフローのジョブより先にすべてのジョブが処理されます。すでに処理中のジョブがまず出力を完了させます。

優先度の高いワークフローを設定するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「速度」ペインを開きます。
- 2 「優先度の高いワークフロー」を選択します。
- 3 変更を保存します。



ジョブに優先度の高いステータスを割り当てるには

Job Explorer で複数のジョブが同時に処理されているときに、そのうちの1つだけに優先度の高いステータスを割り当てることができます。優先度の高いジョブは、印刷キューの一番上、RIP 済みの隣に置かれます。

- 1 Job Explorer を開きます。ジョブリストで、「処理中」の状態にあるジョブを右クリックして、「高優先度」をクリックします。

ジョブを右クリックし、「標準優先度」をクリックすることにより、高優先度ステータスをジョブから削除することができます。

印刷品質の向上

以下のセクションでは、可能な限り最高の印刷品質を実現する方法について説明します。

一般的なヒント

以下は、可能な限り最高の印刷品質を実現するために役立つ一般的なヒントです：

- プリンターが正しくキャリブレーションされていることを確認します。一部のプリンターでは、System Manager の特別タブから有効にすることができる内部キャリブレーション機能を持っています。
- ジョブに適した高品質のメディアを使用してください。例えば、CMYK のプルーフジョブ用プルーフメディアを使用したり、写真画像の鮮やかな出力にはフォト用紙を使用します。
- ジョブに適したプロファイルとレンダリングインテントを選択していることを確認してください。
- プリンターの再リニアリゼーションを行ってください。再リニアリゼーションを実行することで、メディアプロファイルが作成されたリファレンスプリンターに合わせてインク濃度を調整します。再リニアリゼーションは、プリンターの色再現プロパティが一定であることを確認するのに役立ちます。
- 印刷メディアプロファイルを最適化し、お使いのプリンターから最適な色の結果が確実に得られるようにします。
- 「検証失敗」となった検証ジョブに対しては、ジョブによっては最適化を行うことによって許容範囲にすることができます。このプロセスは、シミュレーションプロファイルの色域により適した補正プロファイルを作成することにより、ジョブのカラーマネージメントを最適化するものです。
- Color Editor を使ってスポットカラーを最適化します。印刷物のスポットカラーの色品質に満足していない場合は、別の印刷物で真の色により近い再現を測定することにより、これを置換することができます。
- CMY のインクを除去するために純粋なブラックインクの使用を強制します。CMY のインクを除去することにより、彩度の高いブラックを実現することができます。
- RGB から CMYK への変換時にカラーマネージメントで発生する可能性のあるカラー不純物を取り除きます。
- 個別のインクチャンネルの割合を微調整することにより、色調整を行います。

関連参照：

142 頁の「プロファイルとレンダリングインテントの選択」

162 頁の「印刷メディアプロファイルの最適化」

170 頁の「プリンタの再リニアリゼーション」

185 頁の「ジョブの色の微調整」

186 頁の「ブラックインク」

186 頁の「プロセスカラーとセカンダリカラー」

309 頁の「L*a*b* スポット カラーを最適化する」

316 頁の「Fiery XF でのワークフローの検証」

「RIP して即時に印刷」

デフォルトでは、Fiery XF がジョブのプロセスを完了し、印刷を開始します。

RIP して即時に印刷すると、ジョブのプロセスと印刷が同時に行われます。ジョブデータの 1 チャンクがプロセスされた瞬間に印刷されます。

この設定は、ジョブの出力速度を上げます。一方、プリンタは時々一時停止することがあり、これが印刷物に不要な線を残すことにつながる場合があります。

RIP を無効にして、即時印刷するには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「速度」ペインを開きます。
- 2 「RIP して即時に印刷」の選択を外します。
- 3 変更を保存します。



RIP 解像度

RIP 解像度は、ジョブをプロセスするために利用されている解像度です。ジョブは印刷解像度に変換されます。

RIP 解像度は印刷速度と印刷品質に影響を与えます。RIP 解像度が高いほど、印刷品質が高くなる一方で、ジョブの印刷時間が長くなります。逆に、RIP 解像度が低いほど印刷時間は短縮されますが、ドラフト用のような印刷品質となります。

印刷解像度よりも高い RIP 解像度でジョブをプロセスすることはできません。

1 ビットファイルを処理する場合は、この設定を使用します。高 RIP 解像度を選択すると、印刷物がくっきりとしたドットで印刷されます。

RIP 解像度を上げるには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「速度」ペインを開きます。
- 2 「高品質」にスライダを動かします。
- 3 変更を保存します。



双方向印刷

ワークフローにおいて双方向印刷を無効にすることができます。双方向印刷は、印字ヘッドが両方向で印刷しますから、単方向印刷より高速です。しかし、精度が落ちる可能性があります。一部プリンタは双方向印刷をサポートしていません。

双方向印刷を無効にするには

- 1 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「速度」ペインを開きます。
- 2 「双方向で印刷します印刷します」の選択を外します。
- 3 変更を保存します。



印刷済みジョブの長さを補正する

出力サイズを調整することによって、印刷されたイメージの長さの不整合を補正できます。このような不整合は、プリンタと印刷構成の特定の組み合わせにより生じます。

サンプルフォルダにある Lineal_01.ps ファイルは、印刷するイメージのサイズを調整するのに役立ちます。このファイルは、長さと幅 0.5 m x 0.5 m の定規の目盛りで構成されています。

この設定は、一部のプリンターのコントロールパネルで使用できるハードウェア設定とは無関係です。

印刷済みジョブの長さを調整するには

- 1 ファイル「Lineal_01.ps」を印刷し、ルーラーマークの長さを測定します。
測定が正確でない場合、ズレを補正することができます。
- 2 System Manager を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「メディア」タブで、「メディアの設定」ペインを開きます。
- 3 「メディアサイズの修正」から、目標の長さを実際の長さを入力します。
- 4 変更を保存します。



印刷メディアの長さ補正をベースリニアリゼーションファイルに統合することができます。

関連参照：

157 頁の「ベースリニアリゼーションファイルを作成または編集する」

167 頁の「プロファイルコネクタ」

独特の印刷特性をシミュレートする

次の印刷方法に関連付けられた特定の印刷特性をシミュレートすることができます。

- グラビア印刷

インクがシリンダから均等に転送されない場合にグラビア印刷で発生する効果をシミュレートできます。

- フレキソ印刷

印刷する最小のドットのサイズを定義できます。フレキソ印刷では、フレキソ印刷プレート上にエッチングすることができる最小のドットを2%まで小さくできますが、フォトポリマープレート素材と印刷プロセスにより、プレス上で12%まで大きくできる場合があります。

- オフセット印刷

印刷機上の出力に最も似せてイメージを再現できます。この設定では、印刷機への出力にかなり酷似するイメージが生成されます。

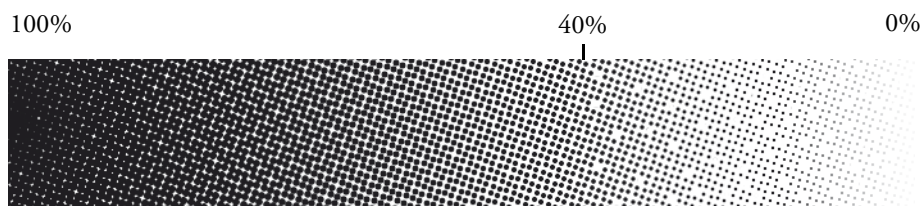
印刷方法をシミュレートするには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「出力」タブで、「詳細印刷オプション」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「出力」タブで、「詳細印刷オプション」ペインを開きます。

2 「最終的な実行特性をシミュレート」から、次のいずれかの操作を行います：

- グラビア印刷の場合は、ドット抜けの範囲を%で定義します。図は、最大40%までのドット抜けシミュレーションを示したものです。



- フレキソ印刷では、最初の印刷可能なドットがどこからスタートするかを定義します。この設定はコントーンデータに適用できますが、ハーフトーンデータには適用できません。図は、10%という設定により、10%よりも小さいドットがどのように無視されるようになるかを示しています。



- オフセット印刷の場合は、ノイズの追加レベルを定義します。

**3 変更を保存します。**

グラデーションのスムージング

インクジェットプロダクション印刷で色ムラのあるグラデーションを滑らかにすることができます。色ムラのあるグラデーションは、無地の可視ブロックまたはバンディングとして低コントラストの明るいエリアに表れる場合があります。この多くは、極端に画像を圧縮したために発生します。

この設定を用いて、インクジェットプロダクション印刷で色ムラのあるグラデーションを滑らかにすることができます。色ムラのあるグラデーションは、無地の可視ブロックまたはバンディングとして低コントラストの明るいエリアに表れる場合があります。この多くは、極端に画像を圧縮したために発生します。

グラデーションを滑らかにする

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「出力」タブで、「詳細印刷オプション」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「出力」タブで、「詳細印刷オプション」ペインを開きます。

2 「ダイナミックスムージング」から、「グラデーションや圧縮アーティファクトを滑らかにする」をクリックしてください。

3 変更を保存します。



照明条件をシミュレートする

デフォルトで、Fiery XF にある印刷構成プロファイルは標準 D-50 光源をベースにするようになっています。ジョブを加工して、異なる光源をシミュレートすることができます。

照明条件をシミュレートするには

1 次のいずれかを行います。

- System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。
- Job Explorer を開きます。ジョブ一覧でジョブをクリックします。「カラー」タブで「カラーマネージメント」ペインを開きます。

2 ペイン内の「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

3 「光の適応」から、次のいずれかの操作を行います：

- 光源を選択します。
- カスタムの照明条件の $L^*a^*b^*$ 値を入力します。

従来の測定デバイスを用いて光源を測定することができます。

4 変更を保存します。



プログラムの構造

下表は、Fiery XF のフォルダ構造をまとめたもので、素早く簡単にファイルを検索できるようにしています。

最も良く利用される一部フォルダの直接リンクも利用可能です：

- Windows の場合、「スタート」ボタンをクリックし、「全てのプログラム」をポイントし、EFI > Fiery XF > リンク > 開くフォルダの順にクリックします。
- Macintosh では、ドック内のリンクアイコンをクリックして、開く ?? フォルダをクリックします。

デフォルトのフォルダ

- インストールフォルダ

別の保存先を選択しない限り、Fiery XF の固定プログラムコンポーネントはデフォルトで次のフォルダにインストールされます：

Windows*	32 bit OS に 32-bit 版 EFI XF をインストールした場合	\Program Files\EFI\Fiery XF (Fiery XF クライアントのみ)
	64 bit OS に 32-bit 版 EFI XF をインストールした場合	\Program Files(x86)\EFI\Fiery XF (Fiery XF クライアントのみ)
	64 bit OS に 64-bit 版 EFI XF をインストールした場合	\Program Files\EFI\Fiery XF (サーバフォルダのみ) \Program Files(x86)\EFI\Fiery XF (他のすべてのプログラムフォルダ)
Macintosh		/Applications/EFI Fiery XF

*Fiery XF をデフォルトの場所にインストールしない場合、サーバフォルダを含めたすべてのプログラムフォルダはユーザ定義のフォルダにインストールされます。

- プログラムファイルフォルダ

Fiery XF フォルダには、次のサブフォルダがあります：

フォルダー名	サブフォルダ名	内容
クライアント		Fiery XF のプログラムファイル。追加ライセンスオプションもここにインストールされます。
	Documentation	HTML Help ファイルと、PDF 形式の取扱説明書が保存されています。
	IT8_CharacterizationData	Fogra の認証で使用する、IT8.7/4 プルーフチャートが保存されています。
	MonitorProfile	デフォルト / カスタムモニタープロファイルが保存されています。
	Samples	<ul style="list-style-type: none"> • EFI_Form_Offset リファレンステストファイル • メディアサイズ補正を計算するための Lineal_01.ps • 印刷と裁断テストファイル • 白インク設定のテストファイル
RGB Profile Connector		プログラムファイル
JDF		プログラムファイル
Application3		Verifier と Color Tools に関連するプログラムファイル。IT8 チャートおよびキャラクタリゼーションデータファイルは、サブフォルダに格納されています。
Tools		Fiery XF サーバ情報用プログラムファイル
	FograCert	FograCert で使用するテストフォームが PDF ファイル形式で保存されています。
	PPD	PPD
	PnP プリンタ (Windows のみ)	サポートしているプリンターのプラグ&プレイファイルが保存されています
	USB Measurement Devices (Windows のみ)	サポートされる測定デバイスのデバイスドライバ

- 作業領域

ジョブ処理に直接関連するすべての作業ファイルは、次のフォルダーにあります。

Windows	\ProgramData\EFI\EFI XF
Macintosh	/Library/Application Support/EFI/EFI XF

ProgramData フォルダが表示されない場合は、お使いのコンピュータ上で隠しフォルダとして設定されている可能性があります。「コントロールパネル」を開き、「すべての非表示となっているファイルとフォルダを表示する」を検索します。「表示」タブで、詳細設定の「すべての非表示となっているファイル、フォルダ、ドライブを表示する」が選択されていることを確認してください。

EFI fiery XF フォルダは、下記のフォルダとサブフォルダを含んでいます。

フォルダー名	サブフォルダ名	内容
クライアント	Working	一時ファイルを保存します。以下の項目を保存するために使用します： <ul style="list-style-type: none"> Color Tools のプロファイリングファイルとベースリニアリゼーション 手動で作成された Remote Container
	Log	ログファイル。テクニカルサポート時に使用します。
	ClientPreview	プレビューファイル

フォルダー名	サブフォルダ名	内容
サーバ	バックアップ	システムコンフィグレーションのバックアップファイル
	ControlCharts	HP Zx100 プリンターで使用するコントロールストリップ
	ControlStrip	フッター用コントロールストリップ
	Environments	環境として保存する場合のファイルのバックアップ
	「エクスポート」	印刷時に、ファイルへ出力を選択した場合のデフォルトフォルダ
	JobFolder	ジョブの一時フォルダ
	Log	ログファイル。テクニカルサポート時に使用します。
	Logo	ジョブチケットに対して選択されたロゴファイルのコピー
	出力	プリント (bco) ファイル
	プレビュー	プレビューファイル
	プロファイル	カラー出力に影響を与えるプロファイルとファイル
	...\Balance	デフォルト 3cc のファイル、VCC と VPC ファイル
	...\Monitor	モニタのプロファイル
	...\Reference	<ul style="list-style-type: none"> 業界で一般的に使われているプロファイル デバイスリンクプロファイル
	...\Reference Additional	世界で一般的に使われている追加のリファレンスプロファイル
	...\Spotcolor	スポット・カラー・テーブル
	\SpotColorOptimization	スポットカラー最適化ファイル
	リモート	Remote Container (RPF ファイル)
	スクリーニング	スクリーニングファイル (SPT)
	Tickets	Fiery XF Control のすべての動作を保存したレコード。サポートケースに重要。

- メディアプロファイル

シートプロファイルは次のフォルダーにインストールされます。

Windows	\ProgramData\FlexLM\Media Profiles
Macintosh	/Library/Application Support/EFI/EFI Media Profiles

- ライセンスファイル

ライセンスファイルは、次のフォルダにインストールされます：

Windows	Program Files\FlexLM
Macintosh	...:Applications/FlexLM

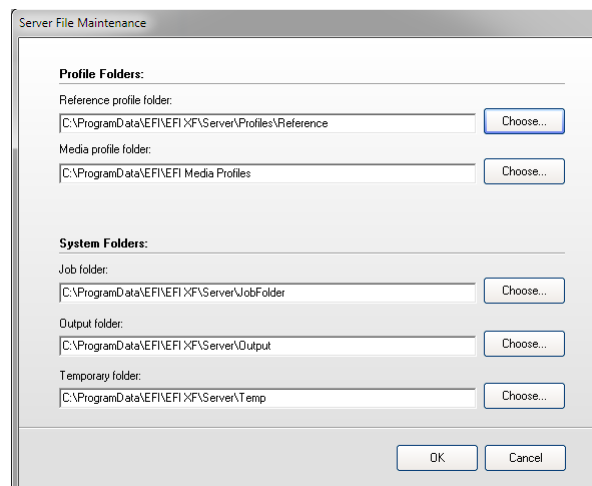
プロファイルフォルダとシステムフォルダの変更

重要なサーバーのフォルダへのパスを再定義し、メディアプロファイル、リファレンスプロファイル、JobFolder、出力ファイル、および CPSI と APPE ファイルを含む一時ファイルの新しい場所を選択することができます。例えば、C ドライブ上のディスク領域を解放するために別のパーティションに印刷メディアプロファイルを移動することができます。

プロファイルフォルダとシステムフォルダを別の場所に移動するには

- 1 Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF サーバの停止」をクリックします。
- 2 Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「サーバファイルのメンテナンス」をクリックします。

「サーバファイルのメンテナンス」ダイアログボックスが表示されます。



- 3 適切な「選択」ボタンをクリックして、新しいフォルダを参照します。
- 4 「OK」をクリックします。

クリーンアップ FIERY XF

Fiery XF はジョブ処理中に異なる種類のファイルを作成します。一部のファイルは、ジョブ完了後もサーバプログラムフォルダに無期限に残るため、データ容量は時間と共に非常に大きくなる可能性があります。

不要になったとき、次の種類のファイルを削除することにより Fiery XF をクリーンアップすることができます：

ファイルの種類	説明
ソースファイル	Fiery XF に読み込むジョブごとに、ソースファイルが「サーバ\JobFolder」フォルダに作成されます。ソースファイルを削除する場合、ジョブ自体は、ジョブリストから削除されません。
出力ファイル	ジョブをプリンタに送信すると、出力ファイル（印刷ファイル）が「サーバ\出力」フォルダに作成されます。
プレビューファイル	プレビュー機能が有効な場合は、同時にプレビューファイルが「サーバ\プレビュー」フォルダ内に保存されます。
テンポラリファイル	さまざまな一時ファイルが「サーバ\Temp」フォルダ内に作成されます。
スポット・カラー・テーブル	スポットカラーを定義するときにスポットカラーテーブルが、「サーバ\プロファイル\スポットカラー」フォルダに作成されます。変更を保存するたびに、新しいスポットカラーが、その名に追加された連続番号がつけられて作成されます。 現在使用しているスポットカラーテーブルをクリーンアップすることができません。
ジョブリスト	ジョブリストからすべてのジョブを削除することができます。しかし、ジョブが処理中であれば、ジョブリストを削除することはできません。
ログファイル	ログファイルは「サーバ\ログ」フォルダ内に作成されます。これらのファイルは、すべての Fiery XF が行った処理を記録し、EFI サポートが問題解決を行う際に必要となります。

すぐにファイルを削除するには

出力ファイル、プレビューファイル、一時ファイル、すぼとからテーブル、ジョブリストのすべてのファイル、またはログファイルを削除するには、次の手順に従ってください。

- 1 **System Manager** を開きます。「システム」メニューで、「クリーンアップ」をポイントして、項目をクリックします。

または、「すべて」をクリックして、すべての種類のファイルを削除します。

特定基準が満たされた場合にファイルを削除するには

ソースファイル、出力ファイル、プレビューファイルを削除するには、次の手順に従ってください。

- 1 **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ワークフロー」タブで、「基本情報」ペインを開きます。

- 2 「ソースファイル」で、ソースファイルを削除するときを指定します。

ソースファイルは次の段階で削除することができます：

- 印刷の直後
- 一定の日数が経過した後。一定の日数を入力します。
- ホットフォルダから。ソースファイルをホットフォルダから削除するには、このチェックボックスを選択します。

ソースファイル削除の設定は、自動的に出力 / プレビューファイルに適用されます。

- 3 「出力 / プレビューファイル」に、出力・プレビューファイルを削除するときを指定します。

出力およびプレビューファイルを削除することができます：

- 印刷の直後
- 一定の日数が経過した後。一定の日数を入力します。

すでにソースファイルを削除する設定を行っている場合、その設定は自動的に出力やプレビューファイルにも適用されます。ソースファイルが削除されていなければ、独立設定を行うことが可能です。

トラブルシューティング

Fiery XF で作業中に問題が発生した場合は、以下の解決策を試してください。それでも問題が解決しない場合は、EFI サポートにお問い合わせください。

サーバおよびログオンにおける問題

サーバのユーザインターフェイスが表示されない。どうすればログオンできますか？

- 原因： サーバはサービスとして実行し、ユーザインターフェイスがありません。すべての動作はクライアントソフトウェアから起動します。
- 解決方法： クライアントソフトウェアを起動するには、次のいずれかの手順を実行します：
- クライアントソフトウェアを起動するには、Windows のデスクトップ上からアイコンをクリックします。または Macintosh の Dock からアイコンをクリックします。
 - Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF クライアントの起動」をクリックします。

Windows で作業しています。サーバがクライアントからの接続を受け付けません。どうすればいいですか？

- 原因： 接続をブロックするファイアウォールが設定されています。
- 解決方法： 50005 - 50026 ポートのロックを解除します。より詳しい情報は、Windows ヘルプを参照してください。

Windows で作業しています。Fiery XF にログオンできたが、ユーザ、ワークフロー、出力デバイスが表示されない。

- 原因： 接続をブロックするファイアウォールが設定されています。
- 解決方法： 50005 - 50026 ポートのロックを解除します。より詳しい情報は、Windows ヘルプを参照してください。

ログオンを試みると、次のようなエラーメッセージがでます：「管理者というユーザは不明です。正しい名前を入力していることを確認してください。」

原因： usr_0000.xml ファイルが見つからない可能性があります。

解決方法： チケットフォルダで、usr_0000.xml ファイルを検索します。

usr_0000.xml ファイルがあれば、それを「Tickets」フォルダ以外のフォルダにカットアンドペーストします。サーバを再起動します。新しい usr_0000.xml ファイルが自動的に作成されます。

usr_0000.xml ファイルが見つからず、usr.0000.bak ファイルが見つかった場合は、サーバを再起動します。サーバを再起動中に、新しい usr_0000.xml が自動的に作成されます。

usr.0000.xml または usr.0000.bak file のどちらも見つからない場合は、EFI サポートに連絡して、新しい usr.0000.xml ファイルを手手してください。このファイルを「Program Files ¥EFI ¥EFI Colorproof XF ¥Server ¥Tickets」フォルダにコピーします。

スタート画面は開きますがしばらくすると閉じてしまう。これはなぜですか？

原因： この動作は、Microsoft Windows がウイルスやその他のセキュリティ上の脅威による被害を避けるために データ実行防止 (DEP) 機能を使用していることによって起こります。

解決方法： 次の方法で、Fiery XF に対して DEP 機能を無効化します。

1 「コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

2 「システムの詳細設定」ダイアログをクリックします。

「システムプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
「詳細」タブが選択されています。

3 パフォーマンスの「設定」をクリックします。

4 「データ実行防止」タブをクリックします。

5 「選択したものを除くプログラムおよびサービスに対して DEP を有効にする」を選択します。次に「追加」をクリックして、クライアントフォルダの場所を参照します。

6 拡張子が「*.exe」のアプリケーションファイルをすべて選択し、DEP に影響されないプログラムリストに追加します。

7 次に、「追加」をクリックして、サーバフォルダを参照します。同じ方法で、サーバのフォルダに格納されているすべてのアプリケーションファイルを追加します。

ライセンスの問題

Fiery XF がライセンスを見つけることができません。

- 原因： FlexLM のフォルダ内の別の dongle ID のライセンスがあるかもしれません。
- 解決方法： ソフトウェアのライセンスが取得されている dongle が、接続されていることを確認してください。
- 原因： 基本ライセンス（複数可）が、FlexLM のフォルダから削除された可能性があります。古いバージョンからソフトウェアをアップグレードした場合でも、前のバージョンのオリジナルライセンスが必要です。
- 解決方法： 前のバージョン（複数可）と、アップグレードライセンスのライセンスが正しく FlexLM のフォルダにインストールされていることを確認してください。

Activation Web サイトからダウンロードしたライセンスファイルをインストールできない。

- 原因： ダウンロードしたライセンスファイルのファイル拡張子が間違っている可能性があります。
- 解決方法： ライセンスファイルのファイル拡張子を確認します。拡張子が「*.txt」のライセンスが Fiery XF では認識されません。拡張子を txt から lic に変更してください。
- ファイルの拡張子が表示されていない場合、コントロールパネルを開いて、「すべての非表示となっているファイルとフォルダを表示する」を探します。「表示」タブで、詳細設定の「すべての非表示となっているファイル、フォルダ、ドライブを表示する」が選択されていることを確認してください。

有効なライセンスがない。

- 原因： Fiery XF Control が実行していない可能性があります。
- 解決方法： クライアントへログインする前に、Fiery XF Control がオンラインになっていることを確認します。Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF サーバの起動」をクリックします。

原因： Fiery XF が必要とする Windows サービスが実行されていません。

解決方法： Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF サーバのコンフィグレーション」をクリックします。次のサービスが起動していることを確認します。

- EFI License Manager
- EFI XF サーバ
- DebugLog

必要に応じて、現在実行していないサービスを選択し、「サービスの再起動」をクリックします。

原因： ドングルが検出されません。

解決方法： ドングルを別の USB ポートに接続してください。

ドングルが検出されたかどうかを確認するには、Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「ドングル ID を表示する」をクリックします。

ドングルが検出されない場合は、ドングルドライバを再インストールします。最新のドングルドライバは <http://www.aladdin.com/support/hasp.aspx> からダウンロードすることができます。エンドユーザーのダウンロードのためのセクションで、HASP HL?? デバイスドライバを選択します。

原因： ライセンスファイルに登録されているドングル ID が間違っている可能性があります。

解決方法： 購入したオプションのライセンスファイルに示されるドングル ID が正しいことを確認します。

ドングル ID を確認するには、Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「ドングル ID を表示する」をクリックします。

ライセンスのドングル ID を確認するには、ライセンスファイルをテキストエディタ（Wordpad など）で開きます。

ライセンス・ファイルに次の情報が含まれることを確認します。

- サーバコンピュータの名前
- ドングル ID

ドングル ID が一致しない場合、次までメールを送信してください：

- eu.activation@efi.com(欧州、アジア、豪州、アフリカ地域)
- activation@efi.com (北南米地域)

メールには、以下の情報を記載してください：

- ドングル ID と一致しなかったライセンスの EAC コード
- 正しいドングル ID (Fiery XF Control から取得)
- 正しく入力できなかったドングル ID (ライセンスファイルに印刷されています)

原因： ソフトウェアを旧バージョンからアップデートした場合、旧バージョンのライセンスが FlexLM フォルダから削除された可能性があります。

解決方法： Fiery XF は、アップグレード・ライセンスの ??? かに、以前のすべてのバージョンのライセンス・ファイルが必要とします。必要に応じて、削除されたライセンスを再インストールします。ライセンスを再インストールするには、Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF を起動」をクリックします。

ドングルがインストールされたかを確認するには、Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「ライセンス情報を表示する」をクリックします。少なくとも 1 つのサーバ、1 つのクライアント、1 つの出力オプション M のライセンスが必要です。

原因： システムの日付および時刻が正しく設定されていない可能性があります。

解決方法： Windows の BIOS 設定を調べます。

原因： ライセンスファイルが検出されていない可能性があります。

解決方法： ライセンスファイルをすべて再インストールしてください。「default.lic」以外のライセンスファイルを「FlexLM」フォルダから削除し、各ファイルを個別に再インストールします。Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF を起動」をクリックします。

必ず Fiery XF Control 使ってインストールしてください。ライセンスファイルを単純に FlexLM にコピーしないでください。

一定の数以上の出力デバイスをセットアップまたは接続できない。

原因： 十分な数の出力オプションライセンスがありません。

解決方法： 追加の出力オプションライセンスを購入してください。

原因： 2 つの異なる接続タイプを介して同じプリンタを設定しようとしているかもしれません。

解決方法： すべてのプリンタ（リニアリゼーションデバイスを含む）が同じ接続タイプを使用していることを確認します。

使用しているプリンタがプリンター一覧に表示されない。

原因： 別のライセンスが必要な出力デバイスを接続しようとしている
かもしれません。

解決方法： インストールされたライセンスがお使いのプリンタ機種をサ
ポートしていることを確認してください。

Fiery XF が利用可能な十分なライセンスがないと通知するのはなぜですか？

原因： プリンタには2つの IP アドレスが設定されている場合が多くあ
り、これにより、Fiery XF がこれを2台の異なる出力デバイスと
認識してしまいます。この問題は、リニアリゼーションデバイ
スとの接続で発生する場合があります。

解決方法： 出力デバイスの複数インスタンスが、同一の IP アドレスで
Fiery XF に設定されていることを確認してください。

関連参照：

43 頁の「ソフトウェアのライセンスング」

48 頁の「ライセンスファイルを再度生成する」

印刷の問題

ジョブを読み込むことができません。

原因： Fiery XF 使用済みのディスク容量は、少なくとも 2.5% は空き容
量として残しておく必要があります。空きディスク容量が 2.5%
未満か 5 GB 未満となっている場合、ジョブを読み込んだり、
処理することができない場合があります。

解決方法： ハードディスクに十分な空き容量があることを確認します。

原因： 有効な出力のライセンス数が足りない可能性があります。お使
いのソフトウェアは、最大 10 出力デバイスへの接続を設定する
ことができる 30 日間ライセンスが同梱されている可能性があ
り、標準型永久ライセンスには最大 18 インチの中型プリンタ用
出力オプションが含まれています。

解決方法： 十分な数のライセンスがあるかを調べるには次の手順を実行し
ます：

- 1 **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、すべてのワークフ
ローからすべての出力デバイスを切断します。次に、リニアリゼーシ
ョンデバイスをクリックします。

- 2 「デバイス」タブで、「情報」ペインを開きます。「メーカー」から、「メーカーを選択します」を選択します。
- 3 設定を保存します。
- 4 1つの出力デバイスを1つのワークフローに接続します。
- 5 Job Explorer で、ジョブの読み込みを試みてください。

それでもジョブを読み込めない場合、ディスクの使用済み容量が95%を超えていないことを確認します。必要なら、ハードディスク上で不要なファイルを削除してスペースを確保します。

ジョブの処理中に Output フォルダに bco ファイルが作成されます。次の手順で異なるフォルダを定義することにより、ジョブの処理中に Fiery XF が必要とするハードディスク容量を減らすことができます：

- 6 Fiery XF サーバを停止します。
- 7 「サーバ」フォルダで、「チケット」フォルダを開きます。
- 8 テキストエディタで、sys_0000.xml ファイルを開きます。
- 9 Print type= で始まる行を検索し、新しいパスを入力します。

原因： サーバ実行中に、 dongle がコンピュータから外れた可能性があります。

解決方法： dongle が正しく挿入されていることを確認してください。

「無効なページの高さ」というエラーメッセージが出るのはなぜですか？

原因： 境界線からの情報が無視されています。

解決方法： System Manager を開きます。レイアウト領域で、「ワークフロー」をクリックします。「ファイル」タブで、「PS / EPS / PDF」ペインを開きます。「サイズ定義」で、「ページサイズを計算する」を選択します。

リニアリゼーションを処理できません

- 原因： 破損したベースリニアリゼーションファイルが適用されていません。
- 解決方法： **System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「メディア」タブで「印刷構成」ペインを開きます。出力デバイス用に選択されているキャリブレーション設定を確認します。
- プロファイルコネクタのベースリニアリゼーションファイルを開きます。Color Tools と同梱されていたツールです。選択した印刷メディアプロファイルの名前が接続されている印刷メディアプロファイルのものと一致していることを確認します。
- それでも解決しない場合は、プロファイルコネクタ内のベースリニアリゼーションファイルと印刷メディアプロファイルをもう一度結合してみてください。

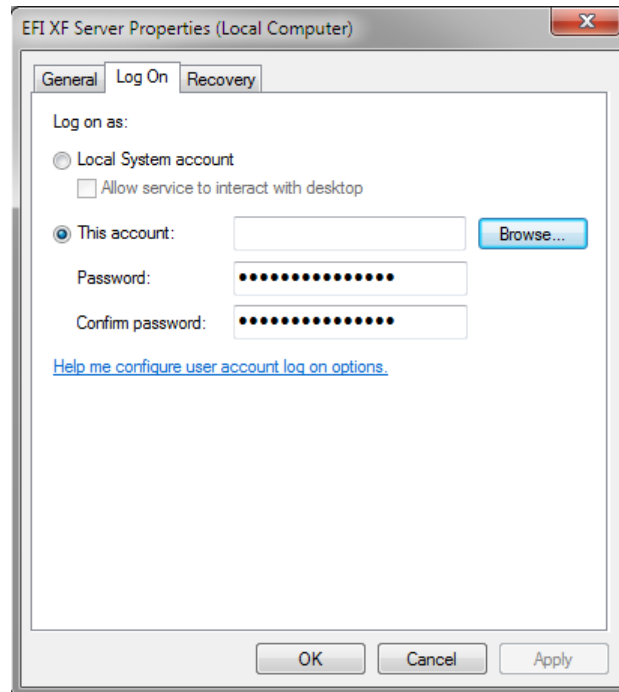
「コマンドエラー」というエラーメッセージは、どういう意味ですか？

- 原因： 一部のプリンタが、2種類の異なるインクタイプを使用しているかもしれません（例：Ultrachrome Photo と Matte Fiery XF で選択しているインクのタイプが、プリンタに装填されているインクのタイプと異なる場合、エラーメッセージが表示されます。
- 解決方法： 出力デバイスに対応した適切なタイプのインクを選択していることを確認します。ブラックインクカートリッジによって、使用しているインクのタイプを識別できます。**System Manager** を開きます。レイアウト領域で、「出力デバイス」をクリックします。「メディア」タブで、「印刷構成」ペインを開き、正しいインクタイプの設定を行います。

ホットフォルダを作成したが、ホットフォルダへ印刷ジョブを送信できない。何が問題ですか？

- 原因： Fiery XF サーバは Windows 上でサービスとして実行しています。デフォルトでは、ローカルコンピュータに対してログイン権限が定義されています。これは、Fiery XF はネットワーク環境に配置されているフォルダと通信できないことを意味します。そのために、ホットフォルダを通じてジョブを印刷しようとした場合に問題が起こることがあります。
- 解決方法： 次の通り、Fiery XF サーバにネットワークアクセス権限を割り当ててください。

- 1 Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF サーバのコンフィグレーション」をクリックします。
- 2 「EFI XF サーバ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックし、「ログオン」タブをクリックします。



- 3 「このアカウント」をクリックし、Fiery XF 用にネットワークアクセス権限を割り当てます。
- 4 「OK」をクリックします。

カラーマネージメントの問題

CMM の初期化に失敗しました

原因： 「カラーマネジメント」ペインの設定が不適切であるか、印刷メタデータファイルが壊れている可能性があります。

解決方法： ワークフローのカラーマネジメント設定を確認してください。出力デバイスの品質設定も確認してください。

印刷メディアプロファイルの問題

サプライヤーから受け取った印刷メディアプロファイルを使用したいと思っています。Fiery XF でそれを選択することができないのはなぜですか？

原因： 印刷メディアプロファイルが、ベースリニアリゼーションファイルに接続されていません。

解決方法： Fiery XF で選択できるようにするためには、印刷メディアプロファイルが常にベースリニアリゼーションファイルに結合されていなければなりません。印刷メディアプロファイルがベースリニアリゼーションファイルに結合されていることを確認してください。

印刷メディアプロファイルを作成しましたが、Fiery XF でそれを選択することができないのはなぜですか？

原因： プロファイルが一意的な名前で作成されていないために、利用できる印刷メディアプロファイルのリストの中で認識されていない可能性があります。

解決方法： Fiery XF の中でプロファイルを容易に検出できるように一意的な印刷メディア名でキャリブレーション設定を作成することをお勧めします。ベースリニアリゼーションファイルを作成し、既存の印刷メディアプロファイルに結合して、新しいキャリブレーション設定を作成することができます。

原因： ベースリニアリゼーションファイルが「プロファイル」フォルダに保存されていません。

解決方法： ベースリニアリゼーションファイルと ICC プロファイルが「EFI Media Profiles」フォルダに保存されているか確認します。

「選択したプロファイルが無効」というエラーメッセージが表示される。

原因： 印刷メディアプロファイルがベースリニアリゼーションファイルに正しく結合されていないかもしれません。ベースリニアリゼーションファイルにリンクしている印刷メディアだけが、出力デバイスの「印刷構成」ペインにリストされます。印刷メディアがリストされていない場合、Fiery XF はベースリニアリゼーションファイルを検出できません。

解決方法： 印刷メディアプロファイルがベースリニアリゼーションファイルに正しく結合されていることを確認してください。

「カラーマネージメント」ペインからワークフローのプロファイル選択内容を確認します。

Fiery XF が私のインストールしたメディア・プロファイルを検出できないのはなぜですか？

原因： メディア・プロファイルへのパスが正しくない可能性があります。

- 1 **Fiery XF Control** を右クリックし、「**Fiery XF サーバの停止**」をクリックします。
- 2 **Fiery XF Control** を右クリックし、「**サーバファイルのメンテナンス**」をクリックします。
- 3 次のいずれかを行います。
 - メディア・プロファイルへのパスを修正します。
 - メディア・プロファイルを指定されたメディア・プロファイルフォルダにコピーします。

関連参照：

179 頁の「サードパーティ製のメディアプロファイル」

157 頁の「ベースリニアリゼーションファイルを作成または編集する」

167 頁の「プロファイルコネクタ」

USB デバイスの問題

USB 測定デバイスをコンピュータに接続すると、デバイスドライバをインストールするよう求められる。デバイスドライバは自動的に検出されないのか。

原因： USB デバイスをコンピュータに接続したときに、デバイスドライバが自動的に検出されない場合があります。

解決方法： デバイスドライバを DVD からインストールするよう求める画面が表示された場合は、DVD のコンテンツを表示し、「USB 測定デバイス」フォルダを参照し、適切なデバイスドライバをインストールします。

または、メーカーの Web サイトから最新のデバイスドライバをダウンロードしてください。

USB デバイス（例：ドングル）が検出されません。

原因： デバイスドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

解決方法： 次の手順でデバイスドライバをインストールしてください。

- 1 「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」を選択します。
- 4 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」のリストを展開し、検出されていないデバイスを検索します。検出されていないデバイスの横に「？」
- 5 デバイスエントリを右クリックし、「ドライバソフトウェアの更新」をクリックします。
- 6 該当するデバイスを右クリックし、メニューから「ドライバの更新」を選択します。

原因： USB ケーブルが旧式の可能性があります。

解決方法： ES-1000 または ES-2000 測定デバイスに同梱されていた USB ケーブルを使用してください。最新測定デバイスで低品質ケーブルを使用すると、問題が発生する場合があります。

原因： サードパーティ製ソフトウェアが測定デバイスにアクセスする場合があります。

解決方法： 測定デバイスにアクセスしているすべてのサードパーティ製ソフトウェアを無効にするか、アンインストールしてください。

- 原因： ES-1000 や ES-2000 測定デバイスは、サービスとして実行されます (Windows のみ)。サービスは動作を停止する場合があります。
- 解決方法： サービスを再始動する： Fiery XF Control アイコンを右クリックし、「Fiery XF サーバのコンフィグレーション」をクリックします。サービスリストから、「EFI ES1000」または「EFI ES2000」を選択し、「サービスを再始動」をクリックします。

オペレーティングシステムを Mac OS x 10.8 にアップデートしてから、 dongle を検出しなくなりました。なぜですか？

- 原因： dongle ドライバをアップデートする必要があります。
- 解決方法： 最新版は次から入手できます：
<http://sentinelcustomer.safenet-inc.com/sentineldownloads/?s=&c=End+User&p=Sentinel+HASP&o=Mac&t=Runtime+%26+Device+Driver>。
「Sentinel HASP/LDK Mac OS X Run-time GUI Installation」をダウンロードの上、インストールしてください。

EFI サポート

Fiery XF の使用中に問題が発生し、本書では解決できない場合は購入した販売店までテクニカルサポートについてお問い合わせください。

再販売業者または代理店に問い合わせる場合は、必ず次の情報を用意してください。

- ソフトウェアのバージョン名およびリリース番号
- ライセンス情報
- プリンターモデル
- オペレーティングシステムとバージョン番号
- インストールされている追加的ハードウェアとソフトウェアの詳細 (例： ISDN ボード、ウイルススキャナ)

お住まいの地域の連絡先を検索するには

1 次のいずれかを行います。

- 「ヘルプ」メニューで、「EFI テクニカルサポート」をクリックします。
- <http://www.efi.com/support/contact-by-product.asp> をご覧ください。

ナレッジセンター

EFI では、本書の情報を補足するために、オンラインナレッジセンター用意しています。ナレッジセンターには Fiery XF の使用に関する役立つ情報とヒントがあります。また、特定のプリンタをどのように最適にリニアリゼーションできるか、レイヤー印刷に成功する方法に関する記載もあります。Fiery XF のある機能についてわからないことがあれば、次の web サイト（英語のみ）にアクセスしてください。

<http://w3.efi.com/en/services/fiery-wide-format-services/knowledge-center>

オンラインユーザフォーラム

オンラインフォーラムは、Fiery XF のすべてのユーザに開かれています。EFI チームのメンバーに宛てて、Fiery XF に関連する問題を掲載することができます。また、その他のフォーラムメンバーとのオープンな議論ができ、その他のユーザーと交流するための理想的なプラットフォームとなります。フォーラムにメンバー登録するには、次の web サイト（英語のみ）にアクセスしてください。

<http://proofingforums.efi.com>

Fiery Global University

Fiery Global University は、必要なときに 24 時間いつでも自分のペースで進められる、インターネットベースの使いやすいトレーニングコンテンツを提供し、使いやすく、自分のペースで進められる、インターネットベースのプラットフォームです。Fiery XF の一部の複雑な機能の使い方に対するヒントになるトレーニングビデオを提供しています。Fiery Global University には、当社の Web サイトからアクセスできます：

<http://w3.efi.com/en/Fiery/dm/promo/fiery-global-university>

アンインストール

このセクションでは、Fiery XF（ライセンスオプションと自由に利用できるツールを含む）とメディアプロファイルのアンインストール方法について説明します。

WINDOWS でアンインストールするには

- 1 コントロールパネルを開きます。
- 2 次のいずれかを行います。
 - Windows 7/8 「プログラム」から、「プログラムのアンインストール」をクリックします。
 - Windows サーバ 2008: 「ソフトウェア」をクリックします。
- 3 インストール済みプログラムのリストで、アンインストールするプログラムをクリックします。
- 4 次のいずれかを行います。
 - Windows 7/8 「アンインストール」をクリックします。
 - Windows サーバ 2008: 「削除」をクリックします。
- 5 画面に表示された指示に従って、手順を完了します。

アンインストール後、ソフトウェアを再インストールする前にコンピュータを必ず再起動してください。

MACINTOSH でアンインストールするには

- 1 ソフトウェア DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 ドライブアイコンをダブルクリックして、DVD を組み込みます。
- 3 「Uninstallers」フォルダを開き、アンインストールしたいプログラムをダブルクリックします。

Fiery XF を削除するには、Color Profiler Suite もアンインストールする必要があります。

- 4 画面に表示された指示に従って、手順を完了します。

アンインストール後、ソフトウェアを再インストールする前にコンピュータを必ず再起動してください。

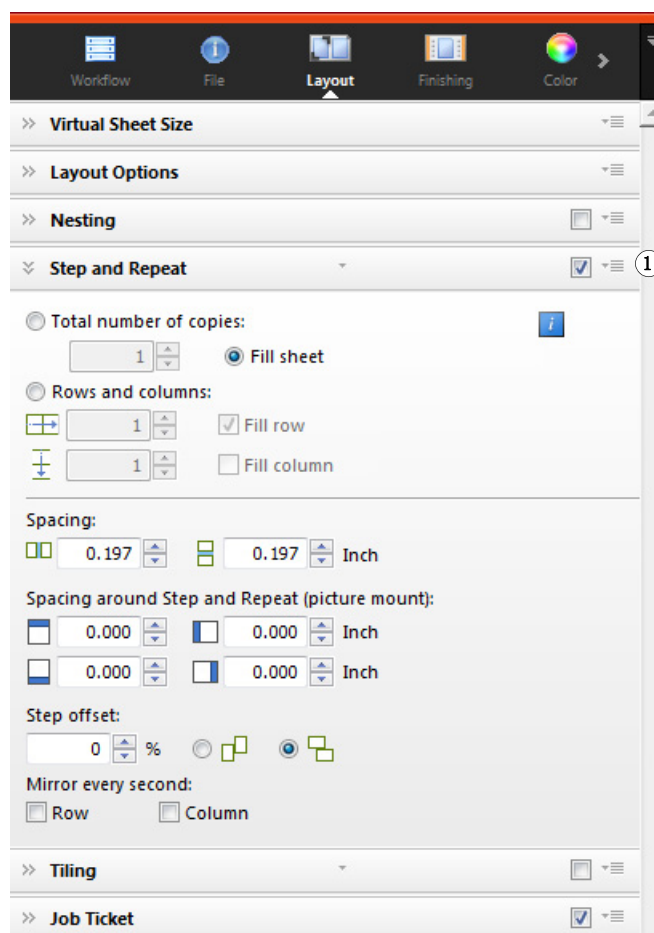
機能と設定のサマリー

本セクションでは、Fiery XF で使用可能な機能と設定のサマリーを記載しています。ペインやダイアログボックスの一部では、適切なライセンスが必要な機能について説明あり、Fiery XF の設定では表示されない場合があります。

- Fiery XF クライアントのプロパティ・インスペクター

また、Fiery XF のユーザーインターフェースに文脈対応ヘルプとして説明が表示されます。プロパティインスペクタのメニューボタンから文脈対応ヘルプにアクセスできます。メニューボタンを右クリックし、「ヘルプ」をクリックします。

プロパティ・インスペクター 1 「メニュー」ボタン



- 407 頁の「ユーザーアカウント」
- 408 頁の「ワークスペース」
- 409 頁の「ジョブ検出」
- 410 頁の「PS/EPS/PDF」
- 413 頁の「1 ビット (System Manager)」
- 414 頁の「1 ビット (Job Explorer)」
- 415 頁の「TIFF/IT, Scitex CT/LW」
- 416 頁の「ジョブの統合」
- 418 頁の「JDF チケット」
- 419 頁の「ソース・ファイル情報」
- 420 頁の「警告とエラー」
- 421 頁の「サブファイル」
- 422 頁の「ジョブのバリエーション」
- 423 頁の「バーチャルシートサイズ」
- 424 頁の「レイアウト・オプション」
- 426 頁の「ジョブチケット」
- 428 頁の「ネスティング (System Manager)」
- 430 頁の「ネスティング (Job Explorer)」
- 432 頁の「ステップ&リピート (System Manager)」
- 434 頁の「ステップ&リピート (Job Explorer)」
- 436 頁の「タイリング (System Manager)」
- 438 頁の「タイリング (Job Explorer)」
- 441 頁の「N アップ」
- 443 頁の「ブックレット」
- 445 頁の「Crop マーク、FOTOBA マーク、および KIPCut マーク」
- 446 頁の「Grommet マーク」
- 447 頁の「切り取り (System Manager)」
- 450 頁の「切り取り (Job Explorer)」
- 453 頁の「色調整」
- 454 頁の「カラーマネージメント」
- 458 頁の「カラーマネージメント (クレータプリント)」
- 461 頁の「スポットカラー (System Manager)」
- 462 頁の「スポットカラー (Job Explorer)」
- 464 頁の「印刷設定」
- 465 頁の「詳細印刷オプション」
- 467 頁の「リモートファイル出力」
- 468 頁の「印刷メディア設定」
- 469 頁の「ファイル出力」
- 471 頁の「メディア設定」
- 472 頁の「印刷構成」
- 473 頁の「印刷バーの構成」
- 474 頁の「コントロールストリップ」
- 475 頁の「コントロールストリップの検証 (System Manager)」
- 476 頁の「コントロールストリップの検証 (Job Explorer)」
- 478 頁の「基本的な情報」

- 479 頁の「プレビュー」
- 480 頁の「速度」
- 481 頁の「情報」
- 482 頁の「接続」
- 485 頁の「印刷構成」
- 486 頁の「メディア設定」
- 487 頁の「特別なプリンタ設定」
- 488 頁の「デバイス」
- Color Editor
 - 489 頁の「スポットカラーの管理」
 - 490 頁の「「カラー定義」タブ」
 - 491 頁の「「文字化」タブ」
 - 492 頁の「「グラデーション」タブ」
 - 493 頁の「環境設定：「カラー定義」タブ」
 - 495 頁の「環境設定：「測定と表示」タブ」
 - 496 頁の「環境設定：「グラデーション」タブ」
 - 497 頁の「新しいスポットカラーのエリアスの選択」
 - 498 頁の「新しいスポットカラーのインクチャンネルを選択」
 - 499 頁の「スポットカラーの検索と置換」
 - 500 頁の「新しいスポットカラーテーブルを作成します」
 - 501 頁の「スポットカラーテーブルをワークフローに適用」
 - 502 頁の「L*a*b* スポットカラーのカラー精度を確認する」
 - 503 頁の「L*a*b* スポットカラーをプリンタのカラースペースに変換する」
 - 504 頁の「L*a*b* スポットカラーの最適化」
 - 505 頁の「スポットカラーテーブルをインポートする際のネーミングの競合を解決する」
- Color Tools
 - 506 頁の「ベースリニアリゼーションファイルの作成」
 - 510 頁の「ベースリニアリゼーションファイルの作成」
 - 514 頁の「ベースリニアリゼーションファイルの作成」
 - 522 頁の「印刷メディアプロファイルの最適化」
 - 527 頁の「プロファイルコネクタ」
 - 529 頁の「再リニアリゼーションを実行する」
 - 532 頁の「視覚的補正を行う」

タブ

ジョブおよびワークフローの設定はタブ上で調整されています。各タブはペインに分割されています。例えば、「ワークフロー」タブは次の3つのペインで構成されています：基本的な情報、プレビュー、速度。

プロパティインスペクターのタブバーで適切なボタンをクリックして、各タブで利用可能なペインを表示することができます。

メニューバーの右側にあるメニューボタンには次の項目があります：

- 表示

タブの表示と隠すを切り替えます。「表示」をポイントし、横にあるチェックマークのない項目をクリックし、タブバーに追加します。横にチェックマークのある項目をクリックすると、これをタブバーから削除することができます。タブバーにすべてのタブを追加するには、「すべて」をクリックします。

一度に最大5つのタブがタブバーに表示されます。表示されていないタブを表示するには、左右にスクロールします。一方、メニューボタンからショートカットを使うこともできます。メニューボタンをクリックし、項目をクリックしてタブに直接移動し、利用可能なペインを表示します。

- [Workspace (ワークスペース)]

Fiery XF のカスタム ビューはワークスペースとして知られています。ワークスペースは各ユーザが見て使用できる Fiery XF の領域を定義します。各ユーザの基本ワークスペースは、当該ユーザを作成するときの管理者により定義されています。Fiery XF は各ユーザごとにカスタマイズ可能です。

複数のワークスペースを割り当てられている場合は、どのワークスペースを表示するか選択することができます。

さらに、管理者権限がある場合は、次の操作を行うことができます。

- 必要ではないワークスペースの領域を隠すことにより、ユーザインターフェースのビューをカスタマイズできます。
- 新規ワークスペースとして Fiery XF の現在のビューを保存したり、不要となったカスタムワークスペースを削除することができます。
- ワークスペースマネージャで Fiery XF のカスタムビューを作成したり変更することができます。ワークスペースマネージャにより、Fiery XF の機能から個々の設定を選択し、独自の名前で保存することができます。

関連参照：

31 頁の「[プロパティインスペクタ](#)」

71 頁の「[ワークスペース](#)」

ペイン

ジョブおよびワークフローの設定はタブ上で調整されています。各タブはペインに分割されています。例えば、「ワークフロー」タブは基本的な情報、プレビュー、および速度のペインで構成されます。

「プロパティインスペクタ」のどこかで右クリックすると、メニュー項目が利用可能となります。

- 「表示」をポイントし、横にあるチェックマークのない項目をクリックし、ペインに表示します。横にチェックマークのある項目をクリックすると、これをペインから隠すことができます。「すべて」をクリックし、選択したタブのすべてのペインを表示します。
- ショートカットも利用可能です。項目をクリックし、選択したペインに直接アクセスし、利用可能な設定を表示します。

ペインバーの右側にあるメニューボタンには次の項目があります：

- 展開 / 折りたたみ
各ペインの設定を展開または折りたたみます。ペインを展開して設定を表示します。
- 隠す
ペインを隠して見えなくします。隠されたウィンドウを再表示するには、プロパティインスペクタのどこかで右クリックし、「表示」をポイントし、横にチェックマークのない項目をクリックします。
- デフォルトにリセット
一部のペインでは、現在の設定をデフォルト値に戻すことができます。

一部のペインでは、現在の設定をプリセットとして保存することができます。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。カスタムプリセットは削除可能ですが、定義済みプリセットを削除することはできません。選択したプリセットが、ペインのヘッダーに表示されます。ペインヘッダーにある下矢印をクリックして、プリセットを保存、選択、または削除することができます。

関連参照：

31 頁の「[プロパティインスペクタ](#)」

ユーザーアカウント

新規ユーザを生成するか、既存ユーザのプロファイルを変更します。

ユーザプロファイルは、Fiery XF にログインするためのユーザ名とパスワードで構成されています。ユーザ プロファイルは、ユーザの役割も定義しています。管理者またはユーザ。

- 管理者は、System Manager でシステムコンフィグレーションを作成、セットアップ、管理することや、Job Explorer でジョブを読み込んだり、ジョブ固有の設定を作成する権限があります。
- ユーザはジョブを読み込んだり、Job Explorer でジョブ固有の設定を作成する権限があります。

各ユーザーの Fiery XF のビューをワークスペースを割り当てることでカスタマイズすることができます。

関連参照：

58 頁の「[System Manager でシステムコンフィグレーションの作成](#)」

ワークスペース

ワークスペースは Fiery XF のカスタム ビューです。これは、各ユーザが見て使用できる設定を定義します。ユーザがアクセス権を持っていない設定は、表示されません。

定義済みのワークスペースは、設定の特定の範囲へのアクセスを提供します。管理者は、カスタムのワークスペースを生成することもできます。各ユーザに 1 つ以上のワークスペースを割り当てることができます。ワークスペースマネージャを開くには、「編集」をクリックします。

関連参照：

71 頁の「[ワークスペース](#)」

ジョブ検出

- ホットフォルダ

ホットフォルダを設定することにより、Fiery XF クライアントをコンピュータにインストールしていないユーザが Fiery XF にジョブを送信することができますようになります。ホットフォルダは Fiery XF によって日常的にモニタリングされるネットワーク上のフォルダです。ホットフォルダにあるジョブは、ワークフローに自動的に読み込まれます。

- 負荷分散を有効にする

ホットフォルダが複数のワークフローによりモニタリングされるようにします。負荷分散を利用すると、ホットフォルダに配置されているジョブが利用可能となった最初のアイドルワークフローに自動的に転送されます。

- 仮想プリンタの作成

Fiery XF を仮想プリンタとしてセットアップし、ユーザがグラフィックスプログラムの印刷コマンドで Fiery XF を選択できるようにします。

- リモートジョブインポート :

Remote Container は 1 つのファイルに CMYK ジョブとその設定を保存します。Remote Container は、複数のサイトで印刷されるジョブのカラー精度を検証するために主に利用されます。Fiery XF の Remote Container を処理する場合、ジョブ設定、またはワークフロー設定を適用することができます。

関連参照 :

193 頁の「[ホットフォルダを介した印刷](#)」

371 頁の「[負荷分散](#)」

212 頁の「[仮想プリンタを使った印刷](#)」

354 頁の「[受信者側でリモートジョブを処理するには](#)」

420 頁の「[警告とエラー](#)」

PS/EPS/PDF

- フォントがない場合、ジョブ処理を停止する

PDF ジョブに埋め込まれていないフォントが含まれている場合、デフォルトでは、無いフォントはフォントクーリエで置換されます。希望する場合には、無いフォントを検出した場合にジョブの処理を停止するよう Fiery XF に指示を出すこともできます。

- 複数ページの PDF ファイルを単独ページのジョブに分割します (System Manager のみ)

デフォルトでは、複数ページの PDF ジョブは単一のジョブとして読み込まれます。従って、ジョブの設定がすべてのページに適用されます。個々のページに設定を行う場合は、別々のジョブとして各ページを読み込ませます。

- サイズ定義

PDF ジョブでは、ページサイズがメディア ボックス、クロップボックス、ブリードボックス、アート ボックス、またはトリム ボックスによって定義されます。PostScript ジョブでは、ページサイズは境界ボックスによって定義されます。Fiery XF はジョブからこのページサイズ情報を取得できます。一方、ページサイズの定義は、一部グラフィックスプログラムから印刷する場合に生じる切り上げまたは切り下げによる誤差のため、必ずしも同一のものとはなりません。このような低精度は、印刷物のイメージをゆがませる可能性があります。

この問題を解決するには、ジョブからのページサイズ情報を無視するよう Fiery XF に指示することができます。この場合、ページサイズはジョブ処理中に Fiery XF によって計算されます。ジョブから情報を引き出す場合よりも処理速度は遅いですが、印刷はより正確なものになります。

- In-RIP セパレーション

In-RIP セパレーションは、外部 RIP や DTP プログラムで定義され、単一ジョブファイルとして保存されたスポット カラーです。in-RIP 情報を別ファイル (有効) として出力するか、出力デバイスのカラー空間に変換し、複合ジョブ (無効) として印刷するか、選択することができます。

In-RIP セパレーションを含んだ PostScript ファイルには、通常、In-RIP 情報が確実に正確に解釈されるために特別な PostScript コマンドを必要とします。一方、全ての PostScript プリンタが in-RIP をサポートしているわけではありません。PostScript level 3 はサポートしていますが、PostScript level 2 はサポートしていません。

in-RIP セパレーションを強制することにより、特別な PostScript コマンドが無い場合でも、当該ファイルを作成するのに使用した PostScript プリンタの種類に関わらず、グラフィックスプログラムから in-RIP 情報を確実に処理することができます。

- コンポジットジョブでのオーバープリントをシミュレートする

あるインク層を別のインク層の上に意図的に印刷することをオーバープリントといいます。オーバープリントは、隣接するカラー間のギャップを回避する場合に使用されます。

印刷機では、一度にインク一色のみが印字されます。つまり、各印刷版は一色のコンポーネントでのみ構成されています。

重複する色は互いにその上には印刷されないため、複合ジョブとして重複する色を印刷することはできません。一方、Fiery XF では、この効果をシミュレートすることができます。

- 作業カラー・スペース

使用されるカラー空間は、どのソースプロファイルが PDF にジョブに適用されるかを決定します。主に RGB イメージを含む PDF ジョブでは、RGB ソースプロファイルを適用することにより、最高のカラー品質を確保します。

校正ワークフローで使用されるカラー空間ワークフローとして、カットの輪郭を持つ PostScript ジョブのために CMYK が使用される必要があります。

- EPS ジョブ検出

別のジョブをロードする際、Fiery XF はジョブが完了したと想定する前に 5 秒間待機します。この待機時間は増減することができます。例えば、大容量の個別 ESP ジョブには、全てのカラーセパレーションが受信され、1 つのジョブとして処理可能となるまでにより長い時間が必要となる場合があります。逆に、EPS 複合ファイルでは、待機時間を削減することにより、できるだけ早くジョブを出力することができます。

Fiery XF が受信した PS ファイルや PDF ファイルの解像度を正しく復元したり変換することが困難となる場合があります。ステップと繰り返しのジョブでは、切り上げ・切り下げ誤差が生じ、イメージの右側や底部に白い余白が出力される場合があります。入力解像度を選択することで、切り上げ・切り下げ誤差を防ぐことができます。

- PDF プリントエンジン

カット輪郭を持つジョブや、最大 255 のセパレーションのある PDF ジョブでは、「Adobe PostScript 3 エンジン」(CPSI)を使用します。この設定はジョブを PostScript 形式に変換します。

ICC プロファイルや ICC プロファイルタギングを持つ PDF のジョブの処理や、最大 32 のセパレーションを持つ PDF の処理には「Adobe PDF Print Engine」(APPE)を使用します。32 以上のセパレーションがあるジョブには、CPSI が自動的に適用されます。APPE は CPSI より速く複合ジョブを処理できます。

- Image EPS/PDF プリントエンジン

周囲 PDF フレームの無い単一の EPS 位マージを出力するには「ネイティブ」設定を使用します。PDF フレームのある EPS イメージの出力には「Adobe PostScript 3 Engine」を使用します。

イメージが RGB の場合、選択されたソースプロファイルが適用されるため、「Adobe PostScript 3 Engine」は処理時間も早く、より良い出力品質となります。ジョブが複数の EPS イメージを含む場合、この設定が自動的に適用されます。

関連参照：

99 頁の「[PostScript と PDF ジョブ](#)」

1 ビット (System Manager)

画像セッター、プレートセッター、またはデジタル印刷ソリューションによりプリプレス業界で作成された 1 ビットのファイル进行处理できます。

1 ビットファイルは外部 RIP によってすでにリッピングされているため、Fiery XF の統合 RIP は適用されません。デジタルプルーフの印刷時に、スクリーン情報 (スクリーンドットの形やサイズ、スクリーン線数) が 1 ビットファイルから抽出されます。

<:cnmk 5> このため、OneBit オプション で出力されるデジタルプルーフは色精度が高いだけでなく、最終印刷実行の正確なスクリーン表現も提供します。

Fiery XF がジョブ名と各ジョブに属する全ての 1 ビットファイルを正しく認識するのを確実にするために、全ての処理ファイルに対して利用される文字シーケンスを必ず選択または定義してください。事前定義された文字シーケンスがいくつか用意されています。変数には次の意味があります。

%j	ジョブ名を表します。
%c	1 ビットファイルの名前を表します。
%f	「無視」を意味します。これは、ほとんどの場合、一部の RIP ソリューションによってファイル名に自動的に追加される連続番号 (たとえば、フィルム番号) を無視するように Fiery XF に指示するために利用されます。番号を挿入することによって、無視される文字数 (例えば、%4f) を定義することができます。

デフォルトでは、Fiery XF はファイル名を右から左に分析し、ファイル拡張子を考慮に入れません。

関連参照：

263 頁の「1 ビットファイル」

1 ビット (Job Explorer)

1 ビットのファイル校正法を選択します。

- 面付けプルーフ

面付けを行う前に最終確認を行います。面付けプルーフは色精度が高くないことに注意してください。従って、この設定は、印刷コピーの要素の内容と完全性をチェックする目的でのみ使用する必要があります。

- 校正出力

色精度の高い画面プルーフを生成します。校正出力はカラーマネージメントが適用されています。校正出力は、多くの場合、顧客と印刷業者の間の拘束力のある色契約とみなされます。校正出力は、通常、印刷に進む前に生成される最後のプルーフです。

- シャープドットによる校正出力

迅速な色精度の高い画面プルーフを生成します。印刷品質は、標準の校正出力の印刷品質よりも少し低くなる場合があります。

TIFF/IT, Scitex CT/LW

- 優先権の付与先

TIFF/IT ファイルは、CT (イメージ・データ) ファイルと LW (テキスト・データ) ファイルで構成されています。TIFF/IT ファイルに優先度を与えると、ジョブの処理を開始する前に両方のファイルが検出されるまで Fiery XF は待ちます。ファイルの 1 つだけで構成される CMYK TIFF ファイルに優先順位を与えると、ファイルが検出されると同時に Fiery XF はジョブの処理を開始します。

- ファイル認識 :

TIFF/IT ファイルや Scitex CT/LW ファイルの多くは、最終ページ付きで作成されます。最後のページは、CT ファイルと LW ファイルが同じジョブの一部であるとして検出されることを確実にします。

最終ページを使用できない場合、Fiery XF はファイルを名前によって照合しようとし、ファイル名の最後の文字が異なる場合、同じジョブに属するものとして検出されません。Fiery XF に適切な数の文字を無視するように指示し、両方のファイルが事実上同じ名前に短縮されるようにすることができます。

最後のページがなく、Fiery XF がその名前からファイルとジョブを合致することができない場合、ジョブは処理できません。

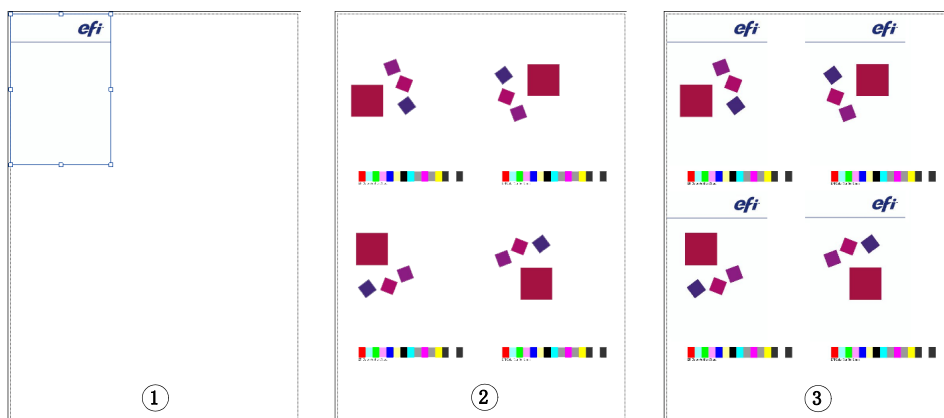
関連参照 :

108 頁の「[TIFF/IT と Scitex のジョブ](#)」

ジョブの統合

ジョブの統合

- 1 マスタージョブ
- 2 マルチページのコンテンツファイル（ネスティングとして Fiery XF にインポート）
- 3 統合済みファイル



ジョブの統合機能を使って、1つのジョブの上に別のジョブを重ねていきます。マスタージョブは、コンテンツ・ジョブの背景イメージを形成します。例えば、マスター・ジョブを全てのジョブで繰り返される会社のロゴで構成させることができます。

任意の2つのファイルを統合することができます。唯一の前提条件は次のとおりです。

- 「マスタ」ファイルと「コンテンツ」ファイルは同じ用紙サイズでなければなりません。（プラスマイナス0.1インチのサイズの違いは許容範囲内です。）
- 「コンテンツ」ジョブの背景色は、100%透明でなければなりません。
- 「マスタ」ファイルと「コンテンツ」ジョブの拡張子は同じでなければなりません。

ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。

「マスタ」（背景）と「コンテンツ」ジョブのファイル名には、マスタとコンテンツの両方のジョブに共通するキーワードを含める必要があります。

以下の表は、ジョブの統合ジョブ名のいくつかの例を示しています。

マスタとコンテンツのジョブのファイル名	共通のキーワード	次によって識別されるマスタファイル:	次によって識別されるコンテンツファイル:
2013_Master_Customer.pdf 2013_Content_Customer.pdf EFI_Master.pdf EFI_Content.pdf	2013, カスタマ EFI	マスター	コンテンツ
2013_EFI.pdf 2013_Exhibition.pdf EFI_January_2013.pdf Exhibition_January_2013.pdf	2013 January_2013	EFI	エキシビション

関連参照 :

131 頁の「[ジョブの統合](#)」

JDF チケット

JDF チケットは、JDF 準拠アプリケーションから Fiery XF に読み込まれる各 JDF ジョブごとに生成されます。場合により、グラフィックスプログラムから直接読み込むなど、別の方法でジョブを読み込む必要がある場合があります。これは、イメージが JDF 準拠アプリケーションによりサポートされていない形式である場合に必要となる場合があります。この場合は、まず空の JDF ジョブを Fiery XF に送信し、そのあとで JDF チケットを添付してイメージをコンテンツ・ファイルとして追加することができます。

関連参照：

272 頁の「[コンテンツファイルを追加する](#)」

ソース・ファイル情報

ファイル名、カラー空間、ジョブの容量、選択した出力デバイス等のジョブ関連の情報を表示します。

警告とエラー

ジョブの処理に影響を与えるメッセージを表示します。

「警告」はジョブに関する問題を警告しますが、ジョブの処理をキャンセルしません。

「エラー」はジョブの処理の継続を妨げる重大な問題を報告します。「最終エラー」列を追加することによって、ジョブリストに最後に報告されたエラーを表示することができます。ジョブリストで、任意の列見出しを右クリックし、「最終エラー」をクリックします。

サブファイル

次のタイプのジョブに含まれるリストページ: ネスティング、ステップ&リピート、Scitex、TIFF-IT、ワンビット。

ジョブのバリエーション

このペインの設定は Cretaprint ワークフローに固有です。

- ジョブのプルーフを印刷してカラー精度を確認することができます。プルーフは Cretaprint Proofing Workflow で処理され、プルーフプリンタで出力されます。
- Photoshop 内の元のファイルを編集することでジョブの色を調整することができます。Photoshop が Fiery XF 顧客と同じコンピュータにインストールされている必要があります。変更は元のファイルのバリエーションとして保存されます。
- 印刷ファイルは元のジョブまたはジョブのバリエーションから作成できます。印刷ファイルは Cretaprint プリンタ用に設定された Export フォルダに RPF 形式で保存されます。RPF ファイルは Cretaprint プリンタで出力されます。Cretaprint TIFF 出力オプションのライセンスをお持ちの場合は、TIFF 形式で印刷ファイルを作成することができます。

詳細については、クイックスタートガイドを参照してください。

バーチャルシートサイズ

デフォルトの印刷メディアサイズは、プリンタに設定されている印刷構成のサイズに対応しています。ほとんどの場合、これが正しい設定となります。異なる用紙サイズを使用することが役立つ場合もあります。たとえば次のように入力します。

- 小さい用紙サイズを選択することにより、ロール紙がプリンタにセットされたときなど、入れ子にページをアレンジする際に柔軟に行うことができます。
- 大きい用紙サイズを選択することにより、大容量のジョブをファイルに印刷し（タイリングを作成せずに）、異なるプリンタ上で出力することができます。

定義済み用紙サイズを選択するか、用紙寸法を入力しカスタムの用紙サイズを定義することもできます。

レイアウト・オプション

このペインの設定を用いて用紙上の単一ページ、ネスティング、ステップ&リピートジョブを調整します。

- 印刷エリアを超過したジョブを印刷します

通常、ジョブが選択した用紙サイズに適合しない場合は、ジョブは印刷されません。この設定を選択すると、ジョブは印刷されますが、用紙に収まらない部分はトリミングされます。

- 回転

ジョブを 90°、180° または 270° に回転します。「最小限のメディア消費量」を選択すると、それによりメディアの無駄が省ける場合は、画像は自動的に回転されます。

- ミラー

水平軸または垂直軸に沿ってジョブを上下に回転します。

- ページを拡大縮小

ジョブのサイズを増減するために、拡大縮小係数を定義します。拡大縮小係数はプリンタの余白を考慮します。例えば、シートの幅に合わせて用紙の幅に合わせて縮尺されたジョブは余白として定義されている非印刷可能領域には重なりません。

- 「位置」

用紙の特定の座標でジョブの上部、左角の位置を決定するために x および y 座標を入力します。

- ページを用紙に位置合わせする：

デフォルトでは、ページは用紙の左揃えに配置されます。配置の設定を変更するには、ダイアグラム内のセルをクリックします。例えば、真ん中のセルを選択すると、ジョブは選択された用紙の水平/垂直方向の中央に配置されます。ロールメディアでは、水平方向の配置のみ可能です。この設定は、単一ジョブ、ネストされたページ、およびタイルに適用されます。

配置の設定は用紙サイズに基づいて決定され、プリンタの余白を考慮しません。例えば、用紙に左揃えされたジョブは、プリンタ余白により定義された非印刷可能領域には重なる場合があります。

- ジョブ・マージン

垂直および水平方向の余白を定義します。余白を追加することにより、用紙により正確に画像を配置することができます。プリンタのハードウェア余白が、この設定の上に適用されます。

- フッターを整列します

フッター位置揃えは、「ページをシートに位置合わせする :」設定に影響されません。このチェック ボックスを選択すると、フッターをページ下の左揃えに配置します。

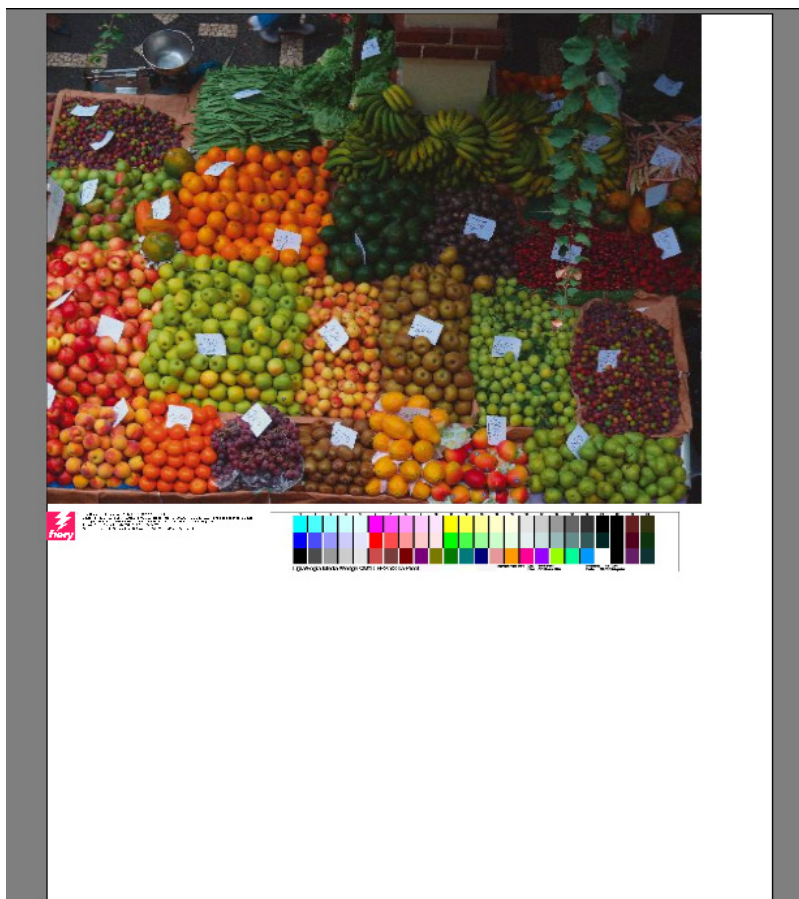
関連参照 :

92 頁の「[ジョブの拡大縮小](#)」

98 頁の「[シート上のページの位置合わせ](#)」

134 頁の「[フッター](#)」

ジョブチケット



フッターには以下の情報を表示させることができます：

- ジョブ関連の情報を含んだジョブチケット。ジョブチケットは特定の印刷結果を達成するためにどのような設定が適用されたを伝えます。
- 最大2つのコントロールストリップまたは印刷構成 ウェッジ。コントロールストリップと印刷構成 ウェッジは、校正ジョブの色の一貫性を確認するために利用されます。コントロールストリップと印刷構成 ウェッジは「確認」タブから選択できます。

このペインにある設定を使って、フッターのレイアウトを定義することができます。ジョブ チケットの内容を選択するには、「編集」をクリックします。

ページごと、またはネスティングごとにジョブチケットを印刷することができます。

- 単一ジョブでは、「ページのジョブチケット」を選択します。

- ネスティングでは、ネスティング全体に対する1つのジョブチケットを作成するために「ネスティングのジョブチケット」を選択します。「ページのジョブチケット」を選択し、ネスティングの各ページのジョブチケットを作成します。

関連参照：

139 頁の「フッターのレイアウト」

ネスティング (System Manager)



連続する複数のジョブを単一ジョブとして出力するためにネスティングを作成します。ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

- 次の値以上でネスティングを作成する

ネスティングを作成するための基準を定義します。条件が一致するとすぐに、ネスティングから読み込まれたジョブが生成されます。その後読み込まれたすべてのジョブは、次のネスティングの一部となります。

- 最適化

用紙上でできるだけ少ないスペースを占めるようネスティングされたページを調整したり、印刷後に切断箇所をできるだけ少なくなり、それが真っ直ぐで水平または垂直となるようにページを調整することができます。

- 方向

ページは元の向きのままネスティングすることも、縦向きや横向きにすることも可能です。用紙の空間をより有効利用するために、ページが自動回転するのを許可することもできます。

- 拡大縮小

すべてのネスティングされたページを同じサイズに縮尺することもできます。「均一スケールリング」を選択して、この設定を有効にします。次に、リストからデフォルトのサイズを選択するか、幅と高さを入力し、プラス (+) ボタンをクリックして、カスタムサイズを定義します。

- スペース

ネスティングされたページ間の水平および垂直距離を定義します。ジョブごとのコントロールストリップとジョブチケットが考慮されます。

ピクチャマウントをシミュレートするために、ネスティングの周囲に境界線を定義することができます。この設定は印刷不可能な余白も考慮します。

- 未処理のジョブを無視します

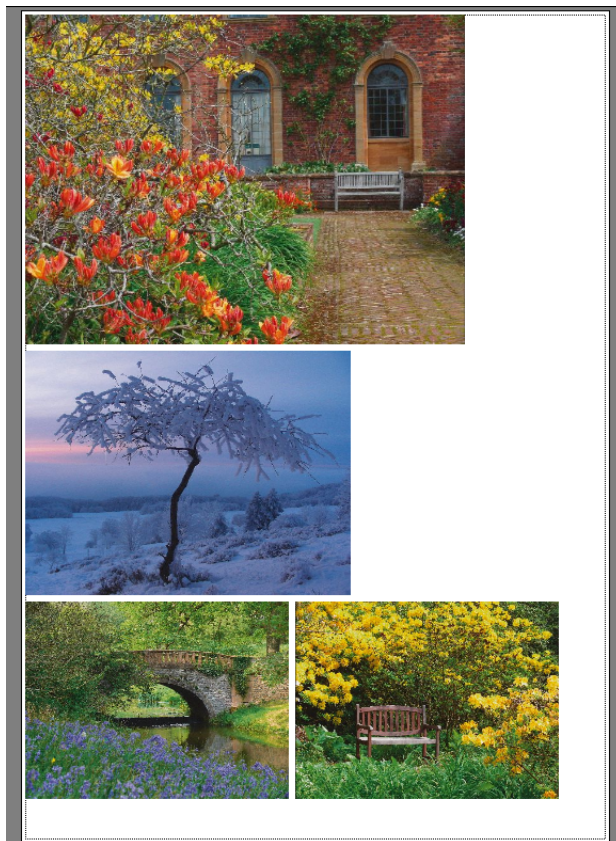
ジョブに未明のスポットカラーが含まれている場合等、ジョブに処理できないページが含まれている場合、デフォルトでは、ネスティングは印刷されません。例外：ネスティングに用紙に収まらないページが含まれている場合、ネスティングは用紙からはみ出した分は除いて印刷されます。

「処理されないジョブを無視する」を選択と、ネスティングを印刷し、処理できないジョブを除外するよう Fiery XF に指示することができます。

関連参照：

111 頁の「[ネスティング](#)」

ネスティング (Job Explorer)



連続する複数のジョブを単一ジョブとして出力するためにネスティングを作成します。ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

ネスティングを作成するには、次のいずれかの手順を実行します。

- ジョブリスト内で、一つまたは複数のジョブを右クリックします。「新規ネスティング」をクリックします。
- ジョブリスト内で、一つまたは複数のジョブをクリックします。次に、ツールバーの「ネスティング作成」をクリックします。

次の設定が使用可能です。

- 最適化

用紙上でできるだけ少ないスペースを占めるようネスティングされたページを調整したり、印刷後に切断箇所をできるだけ少なくなり、それが真っ直ぐで水平または垂直となるようにページを調整することができます。

- 方向

ページは元の向きのままネスティングすることも、縦向きや横向きにすることも可能です。用紙の空間をより有効利用するために、ページが自動回転するのを許可することもできます。

- 拡大縮小

すべてのネスティングされたページを同じサイズに縮尺することもできます。「均一スケールリング」を選択して、この設定を有効にします。次に、リストからデフォルトのサイズを選択するか、幅と高さを入力し、プラス (+) ボタンをクリックして、カスタムサイズを定義します。

- スペース

ネスティングされたページ間の水平および垂直距離を定義します。ジョブごとのコントロールストリップとジョブチケットが考慮されます。

ピクチャマウントをシミュレートするために、ネスティングの周囲に境界線を定義することができます。この設定は印刷不可能な余白も考慮します。

- 適用

プレビューに変更内容を更新するには「適用」をクリックします。

- 未処理のジョブを無視します

ジョブに未明のスポットカラーが含まれている場合等、ジョブに処理できないページが含まれている場合、デフォルトでは、ネスティングは印刷されません。例外：ネスティングに用紙に収まらないページが含まれている場合、ネスティングは用紙からはみ出した分は除いて印刷されます。

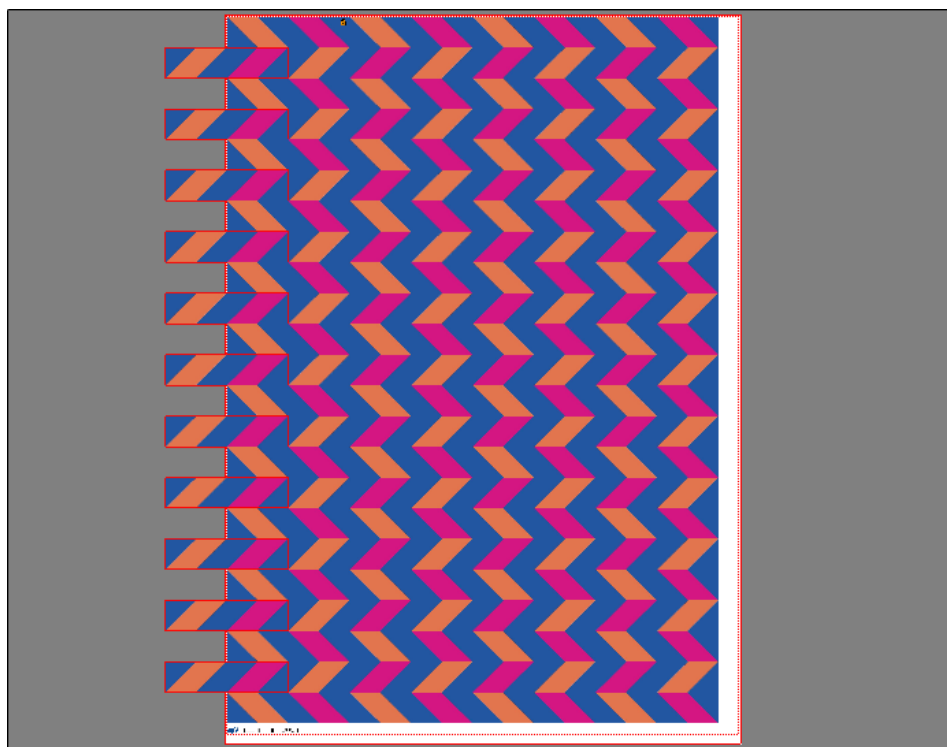
「処理されないジョブを無視する」を選択と、ネスティングを印刷し、処理できないジョブを除外するよう Fiery XF に指示することができます。

単純なステップ&リピートを作成するためにコピー&ペースト (Ctrl + C と Ctrl + V) を使用してジョブの複製を作成することもできます。その後、「適用」をクリックし、複製したページを用紙上に並び替えます。

関連参照：

111 頁の「ネスティング」

ステップ&リピート (System Manager)



ステップ&リピートを作成して、1つのジョブの複数のコピーを作成して、それを1つの印刷ジョブとして出力することができます。利用可能な設定は、様々な面白い壁紙のパターンを可能にします。ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

- 合計数：

必要な部数を入力します。コピーを行に配置し、オリジナルのイメージは合計数に含まれています。または、用紙に収まる限り多くのコピーを作成します。

- 行と列を設定

コピーで収める行数と列数を入力します。または、用紙に収まる限り多くの行や列にコピーを収めます。

- スペース

コピー間の水平および垂直距離を定義します。

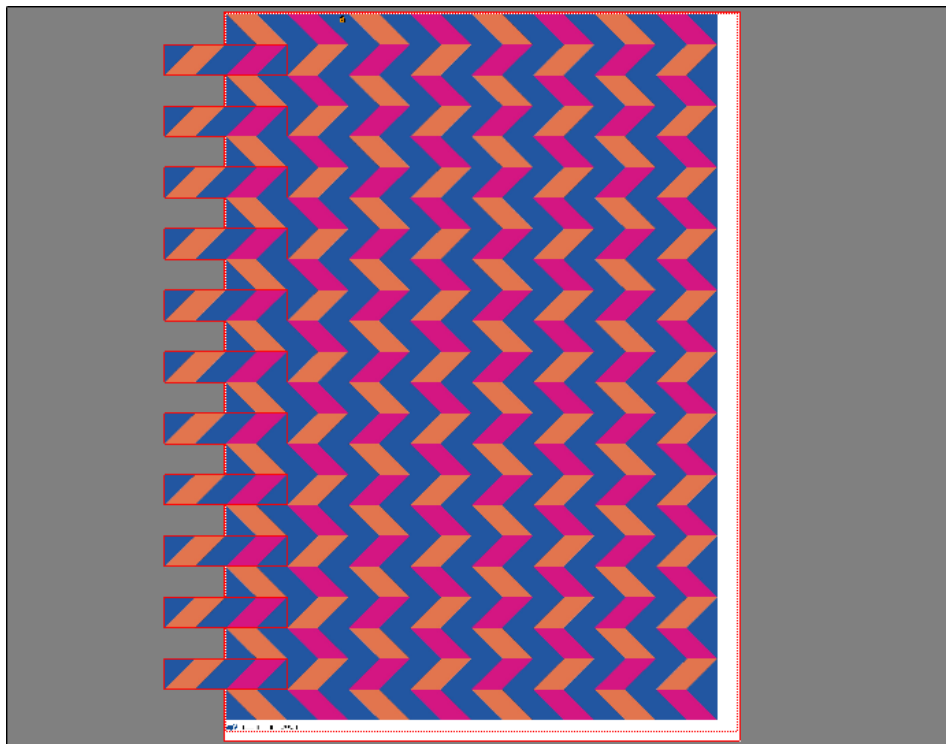
ピクチャマウントをシミュレートするために、ステップ&リピートの周囲に境界線を定義することができます。この設定は印刷不可能な余白も考慮します。

- ステップ オフセット (生産オプションが必要になります)
コピー間の水平方向または垂直方向のシフト量を定義します。
- 1 秒ごとにミラー表示しています (生産オプションが必要になります)
他方の行または列を反転します。

関連参照 :

128 頁の「[ステップ & リピート](#)」

ステップ&リピート (Job Explorer)



ステップ&リピートを作成して、1つのジョブの複数のコピーを作成して、それを1つの印刷ジョブとして出力することができます。利用可能な設定は、様々な面白い壁紙のパターンを可能にします。ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

- 合計数：

必要な部数を入力します。コピーを行に配置し、オリジナルのイメージは合計数に含まれています。または、用紙に収まる限り多くのコピーを作成します。

- 行と列を設定

コピーで収める行数と列数を入力します。または、用紙に収まる限り多くの行や列にコピーを収めます。

- スペース

コピー間の水平および垂直距離を定義します。

ピクチャマウントをシミュレートするために、ステップ&リピートの周囲に境界線を定義することができます。この設定は印刷不可能な余白も考慮します。

- ステップ オフセット (生産オプションが必要になります)
コピー間の水平方向または垂直方向のシフト量を定義します。
- 1 秒ごとにミラー表示しています (生産オプションが必要になります)
他方の行または列を反転します。
- 適用
プレビューに変更内容を更新するには「適用」をクリックします。

ステップ&リピート生成後、オリジナルのジョブの左上隅にある南京錠アイコンは、ジョブを変更することはできないことを示しています。オリジナルのジョブのサイズや方向を変える場合は、まず、ペインバーでチェックボックスを外して全てのコピーを削除する必要があります。変更後、ペインバーのチェック ボックスを再度選択して「適用」をクリックします。

関連参照：

128 頁の「[ステップ & リピート](#)」

タイリング (System Manager)



タイリング機能は、通常、プリンタの最大印刷サイズを超える画像を印刷するのに使用します。画像はタイルとして印刷されるため、つなぎ合わせて、拡大サイズのポスターやバナーを作成することができます。ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

- 標準タイリング

デフォルトのタイルサイズは、出力デバイス用に設定されている用紙のサイズに等しくなっています。必要に応じ、タイル寸法を入力するか、用紙に合う列と行の数を定義しカスタムのタイルサイズを設定することができます。

- オーバーラッピング

オーバーラッピング用余白は、2つの隣接するタイルで重複する境界線を定義します。オーバーラッピング領域のある印刷により、印刷後、より正確にタイルをつなぎ合わせることができます。

- 接着領域：

接着領域は、印刷後にタイルを接着するために印刷されないボーダーラインです。印刷物にのみ表示されます。プレビューで表示することはできません。フッターや接着領域が共に定義されている場合は、重複します。

- 糊付け領域を重複領域のみに適用

デフォルトでは、接着領域はオーバーラッピング用余白に追加されています。チェックボックスをオフにすると、オーバーラッピング用余白のないタイルとなります。この場合、接着領域は各印刷タイル周辺の印刷されていないボーダーとなります。ボーダーは傷つきやすいメディア上に印刷されたタイルの端部を保護するのに役立ち、再印刷の必要性をなくします。

- 2つのタイルごとに 180° 度回転

UV インクを用いるグランデ形式のプリンタを使用する場合に、カラー密度の不整合が発生する場合があります。この機能は、大規模な領域に印刷される単一色（たとえば、青空色）の色逸脱を抑制します。ファイルを1つおきに 180 度回転させる機能は、タイルをつなぎ合わせる際の見えないつなぎ目を作成するのに役立ちます。

- オーバーラッピング マーク

オーバーラッピング マークは、印刷後に正確にタイルの位置揃えをするための目に見える補助マークです。オーバーラッピング マークの長さ、厚さ、色を指定することができます。

通常のマークがオーバーラップエリアの各端に印刷されます。オーバーラップエリアの長さに沿って点線が印刷されます。

点線は、通常のマークでは離れすぎてタイルの正確な位置揃えが難しくなる広範なオーバーラップエリアでの利用をお勧めしています。

- タイルフッター：

オーバーラッピング用余白を作成して、タイル番号、ファイル名、プリンタ名、プリンタ解像度、カスタムテキスト、タイルマークを印刷することができます。タイル番号は、タイルを正しい順序でつなぎ合わせるのに、タイルマークはつなぎ目をきれいにするのに便利です。ボックスを使って、次の項目を定義してください：

- マークの長さおよび厚さ
- タイルマークとタイルの間の距離

タイルフッターは印刷物にのみ表示されます。プレビューで表示することはできません。フッターや接着領域が共に定義されている場合は、重複します。

- タイルからネスティングを生成します

タイルをネストとしてまとめて印刷し、これを回転可能とすることで、メディア消費量を削減できる場合があります。タイル間の水平方向および垂直方向の距離を定義することができます。

関連参照：

121 頁の「[タイリング](#)」

タイリング (Job Explorer)



タイリング機能は、通常、プリンタの最大印刷サイズを超える画像を印刷するのに使用します。画像はタイルとして印刷されるため、つなぎ合わせて、拡大サイズのポスターやバナーを作成することができます。ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

- 標準タイリング

デフォルトのタイルサイズは、バーチャルシートサイズと同一となります。必要に応じ、タイル寸法を入力するか、用紙に合う列と行の数を定義しカスタムのタイルサイズを設定することができます。タイリング作成後、つなぎ目がごちなく無いように各タイルのサイズを変更することができます。

- オーバーラッピング

オーバーラッピング用余白は、2つの隣接するタイルで重複する境界線を定義します。オーバーラッピング領域のある印刷により、印刷後、より正確にタイルをつなぎ合わせるすることができます。

- 接着領域：

接着領域は、印刷後にタイルを接着するために印刷されないボーダーラインです。印刷物にのみ表示されます。プレビューで表示することはできません。フッターや接着領域が共に定義されている場合は、重複します。

- 糊付け領域を重複領域のみに適用

デフォルトでは、接着領域はオーバーラッピング用余白に追加されています。チェックボックスをオフにすると、オーバーラッピング用余白のないタイルとなります。この場合、接着領域は各印刷タイル周辺の印刷されていないボーダーとなります。ボーダーは傷つきやすい印刷構成上に印刷されたタイルの端部を保護するのに役立ち、再印刷の必要性をなくします。

- 2つのタイルごとに180°度回転

UVインクを用いるグランデ形式のプリンタを使用する場合に、カラー密度の不整合が発生する場合があります。この機能は、大規模な領域に印刷される単一色（たとえば、青空色）の色逸脱を抑制します。ファイルを1つおきに180度回転させる機能は、タイルをつなぎ合わせる際の見えないつなぎ目を作成するのに役立ちます。

- 重複したマーク

オーバーラッピングマークは、印刷後に正確にタイルの位置揃えをするための目に見える補助マークです。オーバーラッピングマークの長さ、厚さ、色を指定することができます。

通常のマークがオーバーラップエリアの各端に印刷されます。オーバーラップエリアの長さに沿って点線が印刷されます。

点線は、通常のマークでは離れすぎてタイルの正確な位置揃えが難しくなる広範なオーバーラップエリアでの利用をお勧めしています。

- タイルフッター：

オーバーラッピング用余白を作成して、タイル番号、ファイル名、プリンタ名、プリンタ解像度、カスタムテキスト、タイルマークを印刷することができます。タイル番号は、タイルを正しい順序でつなぎ合わせるのに、タイルマークはつなぎ目をきれいにするのに便利です。ボックスを使って、次の項目を定義してください：

- マークの長さおよび厚さ
- タイルマークとタイルの間の距離

タイルフッターは印刷物にのみ表示されます。プレビューで表示することはできません。フッターや接着領域が共に定義されている場合は、重複します。

- タイルからネスティングを生成します

タイルをネストとしてまとめて印刷し、これを回転可能とすることで、メディア消費量を削減できる場合があります。タイル間の水平方向および垂直方向の距離を定義することができます。

- 適用

プレビューに変更内容を更新するには「適用」をクリックします。

- タイリングプレビュー ...

「タイリングをプレビュー」をクリックし、タイリングを拡大表示します。1つまたはすべてのタイルを同時にプレビューすることができます。タイルは、タイル番号順に重ねて表示されます。PDF ファイルとしてプレビューを保存し、印刷後にタイルをつなぎ合わせるさいのガイドとして使用することができます。

タイルは、「タイリングプレビュー」ウィンドウで編集することはできません。しかし、Job Explorer でタイルのサイズを変更すると、「タイリングプレビュー」ウィンドウにすぐに変更が適用されます。

関連参照：

121 頁の「[タイリング](#)」

Nアップ

本の印刷では、時間と媒体の無駄を省くために、異なるページを印刷機の刷り1回分でまとめて印刷するのが普通です。多くの場合に、製本業者はページ印刷で16アップまたは32アップを基準としています。

ペインバーの [チェックボックス] を選択して、設定をアクティベーションします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

- ・ シートごとのページ

2アップ、4アップ、6アップ、9アップ、16アップから選択します。

- ・ 回転しない

デフォルトでは、用紙の空間をより有効利用するためにページが自動回転されます。ページが回転されないようにするには、チェックボックスを選択してください。

- ・ エレメント間の間隔

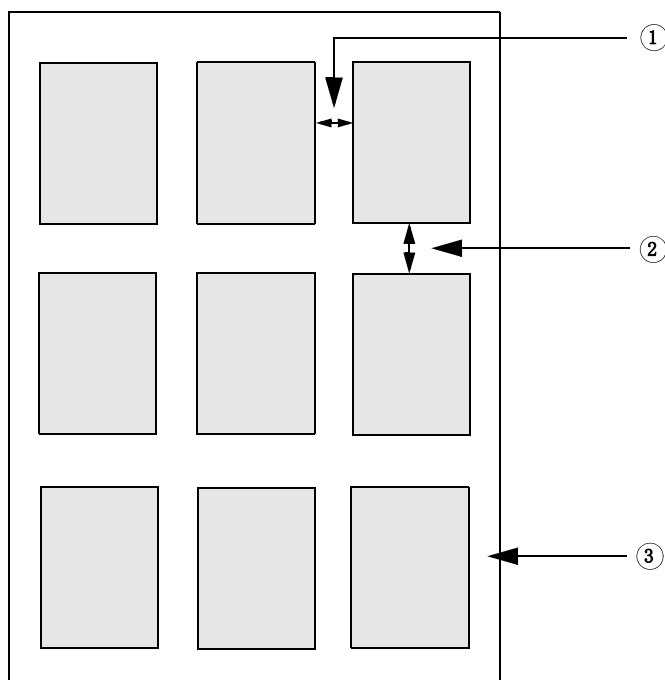
ページ間の水平および垂直距離を定義します。

- ・ Nアップの周囲（ピクチャー・マウント）:

マージンを使用し、Nアップのページを用紙に配置します。この設定は印刷不可能な余白も考慮します。

9アップ

- 1 エレメント間の水平間隔
- 2 エレメント間の垂直間隔
- 3 Nアップ周囲のマージン



- ・ 適用（Job Explorer のみ）
プレビューに変更内容を更新するには [適用] をクリックします。

ブックレット

この設定は、中央で折る両面の2アップブックレットを作成します。2アップとは2ページを1枚に印刷することを意味しています。ブックレットを作成するには両面印刷プリンタが必要です。

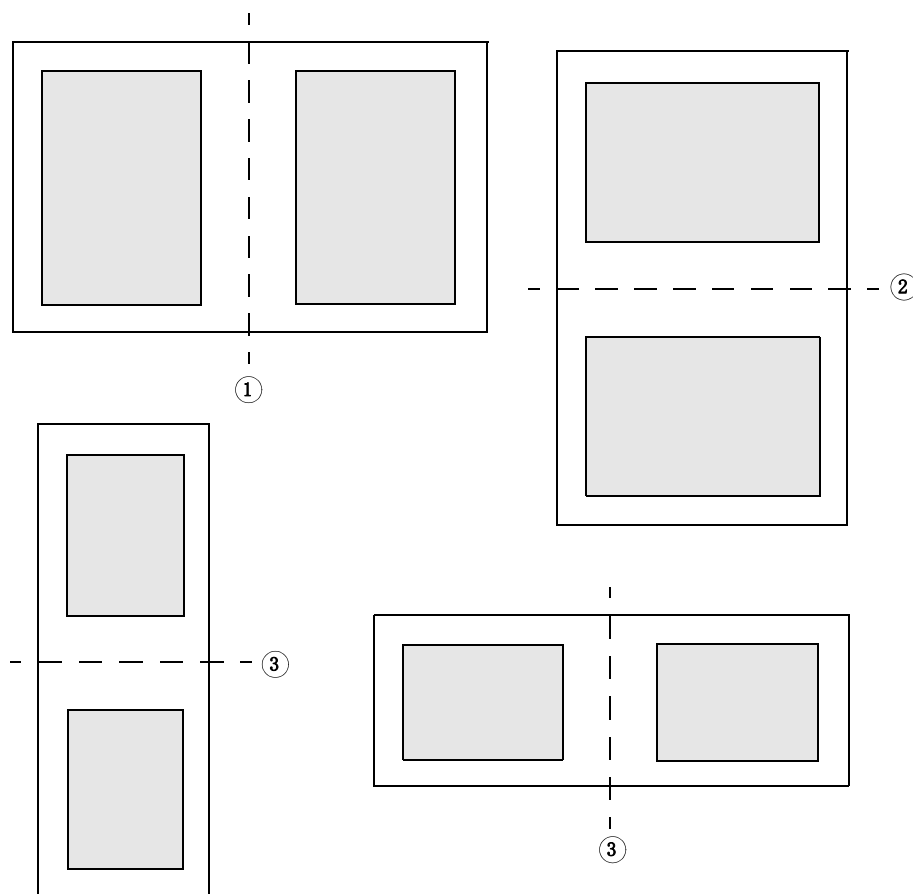
ペインバーの [チェックボックス] を選択して、設定をアクティベーションします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

・ 折りたたみ方向

折りたたみ方向を選択します。最も普通の種類のブックレットはその長端にそって折ります。縦形式のブックレットは中央で折り、横形式のブックレットは水平に折ります。長端にそって折るブックレットを作成するには、必要に応じて「横向き」または「縦向き」を選択します。短い方の端でブックレットを折るには、「長端に対して直交」を選択します。

折りたたみ方向

- 1 縦折り
- 2 横折り
- 3 長端に対して直交



- ・ 回転しない

デフォルトでは、用紙の空間をより有効利用するためにページが自動回転されます。ページが回転されないようにするには、チェック ボックスを選択してください。

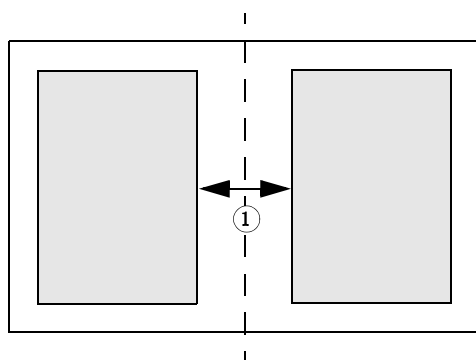
- ・ ブックレットの周囲（ピクチャー・マウント）

マージンを使用し、2アップ ブックレットのページを用紙に配置します。左側と右側、または上部と下部で異なるマージンを定義してガッター マージンを作成できます。ガッター マージンとは、印刷された資料を綴じるために使用する余白のことです。マージンはブックレットの向き合うページで同じになっており、ガッター マージンは常に内部のマージンになります。

この設定は印刷不可能な余白も考慮します。

余白

1 ガッター マージン



- ・ 適用（Job Explorer のみ）

プレビューに変更内容を更新するには [適用] をクリックします。

Crop マーク、FOTOBA マーク、および KIPCut マーク

Crop マーク、FOTOBA、および KIPCut マークは、トリムする場所を示す線を印刷します。クロップマークは通常手動でトリミングされ、FOTOBA マークは通常機械により自動的にトリミングされます。

ペインバーで「チェック ボックス」を選択して、設定をアクティベーションします。ページごと、シートごと、タイルごとにマークを印刷することができます。設定したものをプリセットとして保存することができます。

このブリード設定は、画像に対する相対位置を指定します。画像を切ることにより、定義した余白で四隅をクロップすることができます。フレームを追加すると、画像とマークの間にホワイト スペースを入れることができます。

関連参照：

232 頁の「[クロップのマーク](#)」

237 頁の「[FOTOBA のクロップマーク](#)」

239 頁の「[KIPCut マーク](#)」

Grommet マーク

Grommet マークは、Grommet マークを通してロッドを供給することにより広告バナーやフラッグをマウントするために、生産市場で広く使用されています。ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

ページごと、またはシートごとに Grommet マークを印刷することができます。利用可能な設定を用いて画像との関連で Grommet マークの数や位置を定義します。

関連参照：

234 頁の「[Grommet マーク](#)」

切り取り (System Manager)

コンター裁断情報のあるジョブを処理するには、適切なライセンスを必要とします。

- 切り取りマークオプション

このオプションは、i-cut、EUROSYSTEMS、Zünd Cut Center のサポートを提供します。

- 印刷&切り取りオプション

このオプションは、様々な印刷&カット・デバイスのサポートを提供しています。

- 切り取りサーバオプション

このオプションは、直接 Fiery XF でサポートされていない様々な追加的カッターやルーティングテーブルにジョブを出力します。

これらすべての3つのオプションでは、Spot Color オプションも必要となります。Spot Color オプションは、コンター裁断情報が別ファイルとしてエクスポートされるのを確実にする in-RIP セパレーションを可能にします。

ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

- 印刷後に切り取りサーバに送信します (切り取りサーバオプションが必要となります)。

ジョブは、まず Cut Server に送信され、その後カッターに転送されます。適切なデバイスメーカーとデバイスタイプをこのペイン上で選択し、この設定を有効にします。この設定は、i-cut、EUROSYSTEMS、Zünd G3 カッターでは使用できません。

- デバイスメーカー
デバイスタイプ
切り取りマークの種類

カット・デバイスと、切り取りマークの種類を選択します。

- 切り取りマーク数 (i-cut のみ)

水平および垂直方向のエッジに沿って必要な i-cut 切り取りマーク数を入力します。カッターの用紙の配置に役立つ3つ以上のマークが印刷の下辺と右辺に印刷されます。

- 切り取りマーク間の最小間隔 (i-cut/EUROSYSTEMS/Zünd G3 のみ)

2つの切り取りマーク間の最小間隔を定義します。ページのサイズが定義された間隔で完全に割り切れない場合、最後のマークとコーナー間の間隔はこれより短くなる場合があります。

- 背景を付けて印刷 (切り取りマークオプションが必要となります)。

一部メディアタイプでは切り取りマークを検出することが難しい場合があります。この問題は、黄色味がかった背景に切り取りマークを印刷することにより解決できます。

- レイアウト要素間で印刷 (切り取りマークオプションが必要となります)

ステップ&リピートページ間とネストされたページ間で切り取りマークを印刷します。

- ブリード (切り取りマークオプションが必要となります)

ブリード設定は、切り取りマークのイメージに対する相対位置を指定します。画像を切ることにより、定義した余白で四隅をクロップすることができます。フレームを追加すると、画像と切り取りマークの間にホワイトスペースを入れることができます。一部カット・デバイスでは、「ネガティブ・ブリード」をサポートしていません。

- エクスポートパス

コンター裁断情報ファイルを保存するフォルダを定義します。Cut Server に印刷するには、フォルダが Fiery XF と Cut Server とにあるホットフォルダとして設定されている必要があります。

- IP アドレス (Zünd G3 のみ)

ZCC ソフトウェアがインストールされているコンピューターの IP アドレスを入力します。その後、ZCC ソフトウェアが通信で使用する IP ポートを入力します — 例 : 9100、8080、8088

- コンター裁断

表には、業界で一般的によく使われる輪郭タイプがデフォルトとして表示されています。これらは、Fiery XF で自動的に検出されます。カスタムの輪郭タイプを追加できます。コンター裁断情報は、グラフィックス プログラムでスポット カラーとして定義しなければなりません。スポット カラーは Fiery XF で定義されなければなりません。

Fiery XF がジョブからコンター裁断情報を抽出するには、グラフィックプログラムの画像ファイルを作成する際に以下を確認します。

- コンター裁断情報は CMYK のスポットカラーとして定義する必要があります。
- コンター裁断情報は、異なるレイヤー上に作成してください。
- コンター裁断情報のあるレイヤーはジョブの最上位のレイヤーになければなりません。例えば、Illustrator では、コンター裁断情報のあるレイヤーはレイヤーリストの一番上に無ければなりません。

ジョブにたくさんの透明度が含まれる場合、RIPing 速度を遅くする可能性があります。この問題を解決するために、全ての透明度レベルを均一とすることをお勧めします。Illustrator では、「オブジェクト」メニューで、「透明度を均一にする」をクリックし、全てのストロークがアウトラインに変換されるようチェックボックスを外します。

すべての透明度が均一化されると、ジョブの最上レイヤーに無くても、コンター裁断情報が抽出できるようになります。

- コンター裁断情報は別のレイヤーに保存することができます。

Zünd G3 出力デバイスの一部や全ての i-cut 出力デバイスでは、「ベベル 切り取り」または「キス 切り取り」等切り取り方法を定義できます。全ての Zünd G3 デバイスで、切り取りモードや詳細設定が利用できます。

- EPS/PDF からコンター裁断情報を抽出

チェックボックスを選択し、EPS や PDF からコンター裁断情報を抽出します。チェックボックスがオフになっている場合は、コンター裁断情報ファイルには切り取りフレーム（境界ボックス）しか含まれません。

関連参照：

241 頁の「[用紙カット用ファイル作成](#)」

切り取り (Job Explorer)

コンター裁断情報のあるジョブを処理するには、適切なライセンスを必要とします。

- 切り取りマークオプション

このオプションは、i-cut、EUROSYSTEMS、Zünd Cut Center のサポートを提供します。

- 印刷&切り取りオプション

このオプションは、様々な印刷&カット・デバイスのサポートを提供しています。

- 切り取りサーバオプション

このオプションは、直接 Fiery XF でサポートされていない様々な追加的カッターやルーティングテーブルにジョブを出力します。

これらすべての3つのオプションでは、Spot Color オプションも必要となります。Spot Color オプションは、コンター裁断情報が別ファイルとしてエクスポートされるのを確実にする in-RIP セパレーションを可能にします。

ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

- 印刷後に切り取りサーバに送信します (切り取りサーバオプションが必要となります)。

ジョブは、まず Cut Server に送信され、その後カッターに転送されます。適切なデバイスメーカーとデバイスタイプをこのペイン上で選択し、この設定を有効にします。この設定は、i-cut、EUROSYSTEMS、Zünd G3 カッターでは使用できません。

- デバイスメーカー
デバイスタイプ
切り取りマークの種類

カット・デバイスと、切り取りマークの種類を選択します。

- 切り取りマーク数 (i-cut のみ)

水平および垂直方向のエッジに沿って必要な i-cut 切り取りマーク数を入力します。カッターの用紙の配置に役立つ3つ以上のマークが印刷の下辺と右辺に印刷されます。

- 切り取りマーク間の最小間隔 (i-cut/EUROSYSTEMS/Zünd G3 のみ)

2つの切り取りマーク間の最小間隔を定義します。ページのサイズが定義された間隔で完全に割り切れない場合、最後のマークとコーナー間の間隔はこれより短くなる場合があります。

- 背景を付けて印刷 (切り取りマークオプションが必要となります)。

一部メディアタイプでは切り取りマークを検出することが難しい場合があります。この問題は、黄色味がかった背景に切り取りマークを印刷することにより解決できます。

- レイアウト要素間で印刷 (切り取りマークオプションが必要となります)

ステップ&リピートページ間とネストされたページ間で切り取りマークを印刷します。

- ブリード (切り取りマークオプションが必要となります)

ブリード設定は、切り取りマークのイメージに対する相対位置を指定します。画像を切ることにより、定義した余白で四隅をクロップすることができます。フレームを追加すると、画像と切り取りマークの間にホワイトスペースを入れることができます。一部カット・デバイスでは、「ネガティブ・ブリード」をサポートしていません。

- エクスポートパス

コンター裁断情報ファイルを保存するフォルダを定義します。Cut Server に印刷するには、フォルダが Fiery XF と Cut Server とにあるホットフォルダとして設定されている必要があります。

- IP アドレス (Zünd G3 のみ)

ZCC ソフトウェアがインストールされているコンピューターの IP アドレスを入力します。その後、ZCC ソフトウェアが通信で使用する IP ポートを入力します — 例 : 9100、8080、8088

- コンター裁断

表はいずれのスポットカラーが切り取りパスとして利用できるかを示しています。表の適切なチェックボックスを選択して、どの切り取りパスをジョブに適用するが選択できます。コンター裁断情報が未明のスポットカラーである場合、まず、スポットカラーを定義する必要があります。

表を有効にするために、「EPS/PDF からコンターパスを抽出する」を選択します。

Fiery XF がジョブからコンター裁断情報を抽出するには、グラフィックプログラムの画像ファイルを作成する際に以下を確認します。

- コンター裁断情報は CMYK のスポットカラーとして定義する必要があります。
- コンター裁断情報は、異なるレイヤー上に作成してください。
- コンター裁断情報のあるレイヤーはジョブの最上位のレイヤーになければなりません。例えば、Illustrator では、コンター裁断情報のあるレイヤーはレイヤーリストの一番上に無ければなりません。

ジョブにたくさんの透明度が含まれる場合、RIPing 速度を遅くする可能性があります。この問題を解決するために、全ての透明度レベルを均一とすることをお勧めします。Illustrator では、「オブジェクト」メニューで、「透明度を均一にする」をクリックし、全てのストロークがアウトラインに変換されるようチェックボックスを外します。

すべての透明度が均一化されると、ジョブの最上レイヤーに無くても、コンター裁断情報が抽出できるようになります。

- コンター裁断情報は別のレイヤーに保存することができます。
- EPS/PDF からコンター裁断情報を抽出
チェックボックスを選択し、EPS や PDF からコンター裁断情報を抽出します。チェックボックスがオフになっている場合は、コンター裁断情報ファイルには切り取りフレーム（境界ボックス）しか含まれません。

関連参照：

241 頁の「[用紙カット用ファイル作成](#)」

色調整

ジョブのカラー外観を調整するか、明るさ、コントラスト、彩度やシャープネスを変更します。ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。

カラー調整は、CMYK と RGB のジョブには適用できますが、スポットカラーやグレースケールジョブが含まれているマルチカラージョブには適用できません。カラー調整はコントロールストリップにも適用できますが、ダイナミックウェッジには適用できません。

関連参照：

185 頁の「[色調整を行う](#)」

カラーマネージメント

希望の色出力とするためには、慎重にプロファイルを選択し、それぞれのジョブに対してレンダリングを行う必要があります。

- ソースプロファイルは、当該ジョブで希望するカラー特性について説明します。カラー特性は、グラフィックスプログラム、または入力デバイスによって定義されます。
- シミュレーション（リファレンス）プロファイルは、ユーザーのサイトのインクジェットプリンターで印刷機をシミュレートして印刷する場合の、シミュレート対象の印刷機のカラー特性を記述しています。
- レンダリングインテントは、扱いカラー範囲外にあるカラーをどのように調整し、プリンタの扱いカラー範囲内に納まるようにするかを記述しています。各ソースプロファイルやシミュレーション（リファレンス）プロファイルに対してレンダリングインテントを選択することができます。

Fiery XF は、各受信ジョブのカラースペースを検出し、当該カラースペースのレンダリングインテント及び選択されたプロファイルを自動的に適用します。

ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定を有効にします。設定したものをプリセットとして保存することができます。校正、生成、写真、ビジネスグラフィックス、グレースケールへの変換の定義済みのカラーマネージメントプリセットは Fiery XF にあります。ここでは、標準的なワークフローのためにあらかじめ選択されたソースプロファイルとシミュレーションプロファイルが含まれています。

以下の追加設定により、さらにカラー再現を管理することができます。

- 埋め込みプロファイルを利用（利用可能な場合）

埋め込みプロファイルは作成時のジョブのカラー特性を定義します。利用可能な場合、埋め込みプロファイルを適用することをお勧めします。

埋め込みプロファイルがないジョブでは、選択したソースプロファイルが代わりに適用されます。

- ダイナミックレンダリングインテントを利用します

この設定は、各ジョブのカラーを分析し、適切なレンダリングインテントを自動的に適用します。ジョブのカラーが選択したプリンタで正しく再現できる場合は、レンダリングインテント「相対カラーメトリック」が適用されます。ジョブのカラーが扱いカラー範囲域外や、添付されたソースプロファイルの外にある場合、レンダリングインテント「知覚的」が適用されます。知覚的レンダリングインテントには、選択されたカラースペースに全てのカラーを圧縮します。

- プロファイルの

お使いのインプットデバイスにある、またはジョブに埋め込まれている Fiery XF にあるソースプロファイルを選択します。カスタムソースプロファイルはリファレンスフォルダにあるはずで

Fiery XF にはマルチカラーソースプロファイルはありませんが、必要に応じてカスタムマルチカラープロファイルを実行することができます。

- PDF 出力インテントを使用 (使用可能な場合)

この設定は PDF と PostScript ジョブに適用可能です。出力インテントが PDF/X-3 ファイルに埋め込まれている場合、シミュレーション (リファレンス) プロファイルとして確実に適用されます。

この設定が埋め込まれた PDF 出力インテントのないジョブに適用される場合、選択されたシミュレーションプロファイルが代わりに利用されます。シミュレーションプロファイルが全く選択されていない場合、ソースプロファイルが利用されます。

- シミュレーション・プロファイル

Fiery XF で提供されるシミュレーションプロファイルか、お使いのプリンタが提供するものを選択します。カスタムシミュレーションプロファイルはリファレンスフォルダにあるはずです。

「メディアプロファイルを利用します」を選択することもできます。この場合、選択した印刷メディアプロファイルがシミュレーションプロファイルとして適用されます。これにより、出力デバイス、インク、印刷構成の組み合わせで得られる最大の可能扱いカラー範囲を利用できるようになります。

この設定は、異なるカラースペース (RGB, CMYK, Gray 等) におけるエレメントの組み合わせを含む PDF ジョブに適用でき、非常に便利です。シミュレーションプロファイルの代わりに印刷構成プロファイルを適用すると、RGB イメージの色再現が大幅に改善します。これは、印刷メディアプロファイルがより大きなカラースペースを持っているためです。ですから、RGB イメージはより細部まで色を再現し、印刷時にはより再度の高いカラーを再現します。

PDF 以外のジョブの場合、ジョブは直接直接印刷メディアプロファイルのカラースペースに変換されます。

- グレースケールに変換

グレースケールにジョブを変換します。利用可能な 5 つの異なる色合い — 青みがかかった色合い (寒色系グレー) から黄色がかかった色合い (暖色系グレー)。

- L*a*b* 最適化

L*a*b* 最適化ファイルを選択してください。L*a*b* 最適化ファイルを印刷構成プロファイルに適用することで、カラー精度を大幅に改善することができます。L*a*b* 最適化は、シミュレーション (リファレンス) プロファイルの扱いカラー範囲により適しています。

L*a*b* 最適化ファイルを作成するには、Color Profiler オプションか、Verifier オプションが必要になります。

- スポットカラー最適化

CIE L*a*b* カラースペースで適宜されたカスタムスポットカラーの L*a*b* 最適化ファイルを選択します。L*a*b* 最適化ファイルは、印刷構成プロファイルを用いた、L*a*b* 定義のスポットカラーにより適した補正プロファイルです。L*a*b* 最適化ファイルを適用することにより、デルタ E 値を減らし、カラー精度を大幅に改善することができます。

カスタムスポットカラー用に L*a*b* 最適化ファイルを作成するには、巢プリントカラーオプションが必要になります。

- 色最適化

- インクジェットの黒色と同様の黒色

100%ブラックがカラーマネジメントの対象となる場合、印刷時に汚い感じのブラックとなる CMYK に変換されます。この設定を適用すると、全ての 100%黒定義がカラーマネジメントの対象とならず、プリンタの黒インクのみを使って出力されます。この設定は、文書やその他グラフィックプログラムで 100%ブラックとして定義されるエレメントに適用するのに非常に便利です。

また、黒インクの割合 (%) を設定し、CMYK インクと混ぜるのではなく、100%黒が利用される割合を設定することもできます。例えば、グレースケールイメージで、40%しきい値とは、39%ブラックが CMYK インクにより構成されることを意味し、40%ブラックでは、ブラックインクのみで印刷されます。文書や線図はほぼ常に 100%黒で定義されているため、しきい値設定により影響を受ける可能性は低くなります。

- クリーンカラー

生産オプションのライセンスをお持ちの場合、RGB から CMYK へカラースペースへ変換した際に生じた色調の不純物を除去することもできます。「自動クリーニングモード」では、Fiery XF がプリンタ、印刷構成、プロファイルにあわせて最適なカラー調整を行います。「手動クリーニングモード」では、色調の不純物をどの程度除去するかを設定することができます。

「インクジェット黒」と「クリーンカラー」を同時に適用する追加設定も可能です。

- 版補正

Color Tools や Color Profiler Suite で作成した版補正ファイルを選択します。版補正ファイルはワンビットファイルの版特性を変更する際によく利用されます。

- 光の適応

デフォルトで、Fiery XF にある印刷構成プロファイルは標準 D-50 光源をベースにするようになっています。ジョブを加工して、異なる光源をシミュレートすることができます。

関連参照：

144 頁の「ソースプロファイルとシミュレーション（リファレンス）プロファイル」

162 頁の「印刷メディアプロファイルの最適化」

309 頁の「L*a*b* スポット カラーを最適化する」

186 頁の「不純色を除去する」

173 頁の「版特性の修正」

カラーマネージメント（クレータプリント）

このペインに設定をすることで、ジョブごとにお好みの色出力を実現することができます。

ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定を有効にします。

- ファイルがすでにプリンタのカラースペースにあります

この設定により、過去に印刷したジョブのカラープロパティを複製することができます。ソースプロファイルを適用することにより、オリジナルのジョブと色濃度の一貫性を保つことができます。ソースプロファイルにより、カラーガモットが確実に維持され、ガモットのクリッピングが起りません。

お使いのプリンタに新しいインクを装填したときや異なるプリンタをお使いになる場合、この設定をお使いになることをお勧めします。

- 埋め込みプロファイルを使用 (使用可能な場合)System Manager
埋め込みプロファイルを使用 (Job Explorer)

埋め込みプロファイルは作成時のジョブのカラー特性を定義します。ジョブの埋め込みプロファイルを常に適用することをお勧めします。

ジョブに埋め込みプロファイルがない場合や、この設定をオフにしている場合、ソースプロファイルが代わりに適用されます。

- ソースプロファイル

ソース プロファイルは、当該ジョブで希望するカラー特性について説明します。カラー特性は、グラフィックス プログラム、または入力デバイスによって定義されます。Fiery XF ではソースファイルが適用されます：

- ジョブに埋め込みプロファイルがない場合
- 「埋め込みプロファイルを使用」チェックボックスがオフになっている場合

Fiery XF で提供されるソースプロファイルか、お使いのプリンタが提供するものを選択します。カスタムソースプロファイルはリファレンスフォルダにあるはずですが、Fiery XF にはマルチカラーソースプロファイルはありませんが、必要に応じてカスタムマルチカラープロファイルを実行することができます。

ソースプロファイルがジョブと同じカラースペースに有る必要があります。ジョブとソースプロファイルが同じカラースペースにない場合や、埋め込みプロファイルがない場合はジョブを処理することができません。

- 出力モードを選択

出力モードは黒インクの使用に関係しています。

– 最大 GCR

この設定では、最大許容量の黒色インクを自動的に使用しますが、他の色では黒色よりもインク使用量が小さくなります。使用されるインク量をコントロールすることはできません。

– リッチブラック

この設定は、特定の印刷環境で ICC プロファイルが作成された場合にのみ利用できます。Color Tools では最大 4 色について ICC プロファイルを作成できます。Color Tools は、Fiery XF の標準コンポーネントです。マルチカラー ICC プロファイルを作成するには、Color Tools またはサードパーティ製のソフトウェアを使用します。

独自の ICC プロファイルを作成する時に、色エリアに追加される黒色インク量が少なくなるように、黒色点の生成量を短くすることができます。黒色インクを制限することで、カラーインクの使用が自動的に増えます。このプロセスでは、新しいベースリニアリゼーションファイルの作成、ICC プロファイルへのそのリンク、PKGX プロファイルパッケージへの添付が実行されます。

• プルーフ

プルーフは vRGB ジョブまたは色分解されたファイルから作成できます。色分解されたファイルをプルーフすれば、カラー精度は一般に向上しますが、色分解されたファイルの処理には vRGB よりも長い時間がかかります。

インク保存を選択する場合、色分解されたファイルだけをプルーフできます。色分解されたファイルをプルーフすると、個々のインクでのインク保存の効果を正確に評価することができます。

• 参照ターゲット

参照ターゲットにより、2 つの PKGX プロファイルパッケージに共通するカラーガモットを使用して 2 つのジョブを印刷します。窯業では、同じ設計がよく壁タイルと床タイルに使用されています。Fiery XF では、異なる釉薬および焼成条件を考慮に入れ、同じカラー結果となるようにすることができます。

実際に、利用できるカラーガモットが減少しますが、釉薬構成が異なり、別の Cretaprint プリンタで印刷するよう設定された 2 つのジョブの色の一貫性を保証します。

床タイルのワークフローでは、壁タイルのプロファイルパッケージを参照ターゲットとして選択します。壁タイルのワークフローでは、床タイルのプロファイルパッケージを参照ターゲットとして選択します。

• カラー補正曲線

視覚的補正ファイルは、変更済みベースリニアリゼーションファイルです。カラー補正曲線により、個々のカラーチャンネルを微調整し、プリンタの色再現特性を変更することができます。Color Tools でカラー補正曲線を作成することができます。

詳細については、クイックスタートガイドを参照してください。

スポット カラー (System Manager)

スポット カラーは、CMYK などのインクカラーを混ぜるのではなく、もともとある色で印刷可能なカラーを意味します。

- 入力処理

この設定により、どのソースプロファイルを適用するかを管理ができます。

PostScript ジョブのマルチカラーインク チャンネル は、TIFF ジョブのものとは異なる方法で処理されます。ファイル形式や、選択したマルチカラー プロファイルにより、インクチャンネルの一部が失われ、これをスポット カラーとして定義する必要が出る場合があります。

- カスタム スポット カラー ライブラリ

Fiery XF で定義するスポット カラーはスポット カラー表に保存されます。「ドロップダウン」メニューから利用可能なスポット カラー表を選択します。

- 検索の優先順位 :

Fiery XF は各スポット カラー定義を指定された検索順序で検索します。デフォルトの検索順位は、適用されるワークフローテンプレートの種類により異なります。校正ワークフローの検索順位は、生成ワークフローの検索順位とは異なります。Fiery XF は、指定した検索順序に従って、検出した各スポット カラーの最初のインスタンスを適用します。

あるスポット カラー名が複数あり、それぞれに異なるカラー値の定義を持つ場合、例えば、設定した CMYK カラー値を持つソースファイルに埋め込まれたスポット カラーを再定義している場合には、デフォルトの検索順位を変更すると便利かもしれません。

- 不明なスポット カラー

不明スポット カラーを定義しなくても、ジョブを印刷できるように警告カラーを割り当てます。全ての不明スポット カラーは、警告カラーで印刷されます。

関連参照 :

[288 頁の「ソースプロファイルの使用を強制する」](#)

[279 頁の「スポット カラーの定義」](#)

[287 頁の「検索順序を変更する」](#)

[285 頁の「未定義のスポット カラーを出力」](#)

[291 頁の「Color Editor」](#)

スポット カラー (Job Explorer)

スポット カラーは、CMYK などのインクカラーを混ぜるのではなく、もともとある色で印刷可能なカラーを意味します。

未定義のスポット カラーでジョブを送信すると、次のことが起こります。

- ジョブは、プレビュー ウィンドウのグレーボックスとして表示されます。
- 表には、スポット カラーが「不明」としてリストされます。

ジョブを正しく出力するために、この不明のスポット カラーを定義する必要があります。

- 内蔵のスポット カラー ライブラリからカラーをマッピングして、スポット カラーを定義できます。内蔵のスポット カラーライブラリには、主要スポット カラーメーカーによる無数のスポット カラーがあります。
- 選択したカラー空間にカラー値を入力してスポット カラーを定義することも可能です。
- 既存のカスタムスポット カラーにエイリアスを作成することによりスポット カラーを定義することもできます。
- スポット カラーを含む追加プリンタインクチャンネルを選択することによりスポット カラーを定義することもできます。c

次の設定が使用可能です。

- テーブル

表を使ってスポット カラーを定義する。「ソース」列で、不明スポット カラーの横にある下向き矢印をクリックし、定義したいスポット カラーの種類をクリックします。表の「マッピング」列で、スポット カラーを定義する。ツールバーで、「保存」をクリックし、スポット カラー表を作成します。

- カスタム スポット カラー ライブラリ

Fiery XF で定義するスポット カラーはスポット カラー表に保存されます。スポット カラー表を選択する。

- 検索の優先順位：

Fiery XF は各スポット カラー定義を指定された順序で検索します。デフォルトの検索順位は、適用されるワークフローテンプレートの種類により異なります。校正ワークフローの検索順位は、生成ワークフローの検索順位とは異なります。Fiery XF は、指定した検索順序に従って、検出した各スポット カラーの最初のインスタンスを適用します。

あるスポット カラー名が複数あり、それぞれに異なるカラー値の定義を持つ場合、例えば、設定した CMYK カラー値を持つソースファイルに埋め込まれたスポット カラーを再定義している場合には、デフォルトの検索順位を変更すると便利かもしれません。

- Color Editor

スポットカラーの定義、測定、編集を包括的に行うプログラム Color Editor を開きます。

- 不明なスポットカラー

不明スポットカラーを定義しなくても、ジョブを印刷できるように警告カラーを割り当てます。全ての不明スポットカラーは、警告カラーで印刷されます。

関連参照：

279 頁の「[スポットカラーの定義](#)」

287 頁の「[検索順序を変更する](#)」

285 頁の「[未定義のスポットカラーを出力](#)」

291 頁の「[Color Editor](#)」

印刷設定

マルチページドキュメントの各ページを印刷するには、「ページまたはシートを印刷する」を選択し、必要なページ範囲を入力 — 例えば、「2,610-13」と入力して、2、6、10、11、12、13 ページを印刷します。印刷したいコピー数を入力します。

ページの範囲入力した場合、「ページ」設定から適切な項目を選択して、奇数ページと偶数ページを別に印刷できます。

印刷されるページの順番を並び替えることもできます。3 ページの文書を3部コピーする際のデフォルトの順番は以下の通りです。1, 1, 1, 2, 2, 2, 3, 3, 3. 並べ替えコピーでは、次の順序で印刷されます。1, 2, 3, 1, 2, 3, 1, 2, 3. 「逆の順番」を選択して印刷順序を逆にすることができます。

関連参照：

191 頁の「[ジョブを印刷する](#)」

詳細印刷オプション

- セパレーション

スポットカラーのあるジョブを含む CMYK ジョブ、RGB ジョブ、マルチカラーのジョブでセパレーションを出力できます。

セパレート（分版）したジョブを処理する際に、すべての分版ジョブを1つの複合ジョブに統合するか、カラーまたはグレースケールでそれぞれセパレートジョブとして印刷することができます。ジョブの反転（ネガティブ）イメージを印刷することもできます。

- 滑らかなグラデーションと圧縮アーティファクト

この設定を用いて、インクジェットプロダクション印刷で色ムラのあるグラデーションを滑らかにすることができます。色ムラのあるグラデーションは、無地の可視ブロックまたはバンディングとして低コントラストの明るいエリアに表れる場合があります。この多くは、極端に画像を圧縮したために発生します。

- 模擬最終的な実行特性

次の印刷方法に関連付けられた特定の印刷特性をシミュレートすることができます。

- グラビア印刷

インクがシリンダから均等に転送されない場合にグラビア印刷で発生する効果をシミュレートできます。「ドット抜け範囲の設定」から、このスライダーを使って、消失したドットの領域の割合を定義します。

- フレキソ印刷

印刷する最小のドットのサイズを定義できます。フレキソ印刷では、フレキソ印刷プレート上にエッチングすることができる最小のドットを2%まで小さくできますが、フォトポリマープレート素材と印刷プロセスにより、プレス上で12%まで大きくできる場合があります。

「印刷可能な最小ドットの設定」から、スライダーを用いて印刷表面の下のドットの領域の割合を定義します。印刷されないドットは主にハイライト領域で発生します。この設定はコントーンデータに適用できますが、ハーフトーンデータには適用できません。

- オフセット印刷

印刷機上の出力に最も似せてイメージを再現できます。この場合、インクジェットプリントよりも滑らかさに欠ける効果をもたらします。「ノイズ・スムージングの設定」から、スライダーを用いてノイズがスムージングされる割合を定義します。

関連参照：

109 頁の「分版ジョブ」

377 頁の「独特の印刷特性をシミュレートする」

379 頁の「グラデーションのスモーキング」

リモートファイル出力

Remote Container を使って 1 つのファイルに CMYK ジョブとその設定を保存します。Remote Container は、FTP サーバ等を用いて、簡単に移動することができます。Remote Container には異なる場所でジョブの正確なレプリカを作成するために必要なすべての情報を含んでいます。Remote Container は、どの EFI プルーフプログラムでもロードして処理できます。

リモートのコンテナは、自動でも手動でも作成できます。印刷後、または確認ワークフローでコントロールストリップが Verifier で測定され、測定結果が Fiery XF に送信された跡、Remote Container は自動的に作成されます。準備ができたら、Job Explorer の「今すぐ作成」をクリックして手動で Remote Container を作成することができます。Remote Container は、PDF、Image EPS、TIFF のジョブからのみ手動で作成できます。

- 出力先

- ワークフローが Fiery Web Control Center に統合されていない場合、デフォルトで、Remote Container は Remote\Out フォルダに作成されます。
- ワークフローが Fiery Web Control Center に統合されている場合、デフォルトで、Remote Container は Server\Remote\WCC フォルダーに作成されます。

必要に応じて、「選択」をクリックしてカスタムフォルダを定義できます。これにより、例えば、ワークフローごとに別の出力フォルダを定義することができます。デフォルトフォルダのサブフォルダの使用を推奨しています。

出力フォルダをホットフォルダとして設定し、自動的にジョブがワークフローにアップロードするようにもできます。

- 圧縮

Remote Container に保存された印刷ファイルを圧縮し、全体的なデータ量を減らします。ZIP は最も安全な圧縮形式で、データを損失することなくファイルを解凍できます。JPEG 圧縮では、最小量のデータが失われる可能性があります。

- スプールの直後

最初にジョブを印刷したり検証せずに、PDF、画像 PDF、mono TIFF ジョブから Remote Container を作成します。

- 3cc プロファイルを含める

L*a*b* 最適化ファイルは拡張子が 3 cc となります。Remote Container の受信者が送信者と同じプリンタモデルや印刷構成を使用しており、L*a*b* 最適化ファイルを作成できない EFI プロダクトを持っている場合のみ Remote Container の一部として L*a*b* 最適化ファイルを保存することは便利です。

関連参照：

353 頁の「[Remote container の作成](#)」

印刷メディア設定

- ソース

用紙フィードの種類を選択：シングルシートまたはロール紙。

- 形式

デフォルトの印刷メディアフォーマットは、プリンタで設定された形式に対応しています。異なる印刷メディアサイズでジョブを印刷するために、デフォルトの設定を上書きすることができます。異なる印刷メディアフォーマットを選択するか、必要なイメージ・サイズを入力し (+) ボタンをクリックして、カスタムサイズを定義することもできます。

ファイル出力

- デバイスリンクプロファイルを使用する

他社製ソフトウェアプログラムを用いるか、Color Profiler Suite で作成したデバイスリンクプロファイルを適用することができます。デバイスリンクプロファイルは、ソースカラースペース（印刷構成プロファイル）と変換先カラースペース（シミュレーション（参考）プロファイル）を1つのプロファイルに統合します。デバイスリンクプロファイルは、2つの別々のプロファイルが適用される場合よりも、より正確なカラーを再現する傾向があります。

- エクスポートパス

印刷するファイルを保存するフォルダを定義します。「選択」をクリックし、フォルダを参照します。

- ネーミング

文字シーケンスを使って印刷ファイルのネーミング規則を定義します。各文字シーケンスにより、特定情報がファイル名に確実に含まれるようにします。下線 (_) またはハイフン (-) 等の区切り記号を文字シーケンスの間に入れ、ファイル名を読みやすくします。例えば、「% job_ %work」と入力し、ジョブ名やワークフロー名をファイル名に含めます。GS3250LX Pro_ % job_ % jobid 等のカスタムテキストを含めることもできます。

以下の文字シーケンスがあります。

文字シーケンス	説明
%c	カウンタ
%jobid	ジョブ ID
%t	タイル番号
%p	ページ番号
%out	出力デバイス
%cm	カラー・モード
%job	ジョブ名 / ネスト名
%res	「解像度」
%work	ワークフロー
%date	日付

- 圧縮

全体的なデータ量を減らすために、印刷ファイルを圧縮できます。ZIP は最も安全な圧縮形式で、データを損失することなくファイルを解凍できます。JPEG 圧縮では、最小量のデータが失われる可能性があります。PackBits は単色の大きな領域を含む TIFF ファイルのサイズを減らすための非常に効果的です。

- 「解像度」

印刷ファイルの解像度を指定できます画像 ファイルでは、通常、300 dpi の解像度で十分です。ベクター グラフィックスでは、解像度品質の低下を避けるため、1200 dpi 以上をお勧めしています。高解像度を選択するほど、ファイルサイズが大きくなります。品質がそれほど重要ではない場合や、ファイルを電子的に送信する必要がある場合は、データ量を最小限に抑えるため、低解像度を選択します。

- PostScript 以外のファイルの入力解像度を維持する

非 PostScript ファイルの入力解像度を維持することができます。たとえば、この設定を用いて、オリジナルの画像の解像度 (サイズ) に影響を及ぼすことなくデジタルファイルのセットを 1 つのカラースペースに変換することができます。

関連参照 :

150 頁の「[デバイスリンクプロファイル](#)」

58 頁の「[System Manager でシステムコンフィグレーションの作成](#)」

メディア設定

このペインの設定により、異なるメディアプロファイルをロードされたジョブに簡単に適用することができます。

- インクの種類

インクの種類 プリンタに装着されているインクのタイプを選択します。

- 印刷メディア名

メディア名の下で、ベースリニアリゼーションファイルとメディアタイプが組み合わされます。

- キャリブレーション設定

キャリブレーション設定を選択します。キャリブレーション設定は、インクの種類、印刷構成、ベースリニアリゼーションファイルを組み合わせたものです。

「カタログ」をクリックして、メディアで利用できるベースリニアリゼーションファイルの一覧を表示し、生成された印刷条件を表示します。ベースリニアリゼーションファイルは印刷条件の設定を定義し、プリンタの動作が確実にメディアに最適なように調整されます。1つを選択して適用します。

お使いのプリンタとメディアの組み合わせで生成されたキャリブレーション設定を使う場合、最高の印刷結果となります。「NewLinearization」と「プロファイル」をクリックして、ニーズに合わせた印刷条件のベースリニアリゼーションファイルを新規作成します。その後、既存のメディアプロファイルにベースリニアリゼーションファイルを結合することができます。

- 視覚的補正

視覚的補正ファイルは、変更済みベースリニアリゼーションファイルです。Color Tools や Color Profiler Suite の視覚的補正ツールにより、個々のカラーチャンネルを微調整し、プリンタの色再現特性を変更することができます。

関連参照：

172 頁の「[視覚的カラー補正を実行する](#)」

印刷構成

このペインの設定により、異なる出力プロファイルをロードされたジョブに簡単に適用することができます。

- つやタイプ
使用するつやの種類を選択します。
- 印刷バーの構成
使用するインクの組み合わせを持つ印刷バー構成を選択します。
- プロファイル名
プロファイル名を選択します。プロファイルは、印刷解像度、印刷速度、窯温度、窯パス数などの印刷条件を定義します。印刷条件は選択されたプロファイル名の下に一覧で表示されます。プロファイル名と印刷条件は、プロファイルが作成される時に Color Tools で定義されます。
- カタログ (System Manager のみ)
「カタログ」をクリックし、利用可能なプロファイル名を表示し、それぞれが作成された印刷条件を見ることができます。1つを選択して適用します。
- 視覚的補正
視覚的補正ファイルは、変更済み出力 TIFF ファイルです。Color Tools や Color Profiler Suite の視覚的補正ツールにより、個々のカラーチャンネルを微調整し、プリンタの色再現特性を変更することができます。
- 色の設定につやを出す
つや色は印刷の背景色を形成します。ただし、つや色はバッチごとに異なる場合があります。つや色を測定し、測定値をプロファイルに投入することで、色の逸脱を補正することができます。
ベースのつや色の白色点の逸脱を補正するために、この設定を使用します。白色点を調整することにより、バッチ間の色の整合性を実現することができます。
Verifier で、測定デバイスを用いてつやタイルの色値を決定します。該当するボックスに L*a*b* 値を、「プロファイルを更新」をクリックします。
「元の値を表示」を選択し、「プロファイルを更新」をクリックすると、プロファイルを元の値に戻すことができます。この方法でプロファイルを更新すると、現在プロファイルに保存されているつや測定値が、その前に保存されていたつや測定値で置換されます。

関連参照：

172 頁の「[視覚的カラー補正を実行する](#)」

印刷バーの構成

System Manager では、インクチャネルを Cretaprint プリンタで印刷する順序を変更することができます。印刷バーがプリンタで交換され、順序がプロファイルで定義された順序ともはや一致しない場合、上 / 下方向ボタンを使用します。

また、カラーチャネルの複製をとってインク範囲全体を拡大するか、インクをより均一に分布させることもできます。2つの同じカラーチャネルでインク制限が50%であれば、多くの場合に1つのカラーチャネルで100%である場合よりも滑らかな結果が得られます。

左向きの矢印がついたボタンを使用し、印刷バーを元の順序に戻します。

Job Explorer では、利用可能なインクチャネルおよびそれらの印刷順序を表示できますが、変更はできません。

詳細については、クイックスタートガイドを参照してください。

コントロールストリップ

コントロールストリップはフッターの一部として印刷されます。コントロールストリップと印刷構成のウェッジは、カラーパッチの行で構成されています。分光光度計（色測定デバイス）とカラーチェッカープログラム（Verifier 等）を使って、カラーパッチを測定し、印刷物間のカラー一貫性を検証することができます。

Fiery XF にあるコントロールストリップまたはカスタムコントロールストリップを使うことができます。カスタムコントロールストリップはコントロールストリップフォルダにあるはずです。

Fiery XF は、ダイナミックウェッジもサポートしています。ダイナミックウェッジは、ジョブの最も顕著な色で構成されているコントロールストリップです。従って、各ダイナミックウェッジは、ジョブに固有なものとなります。ダイナミックウェッジはコントロールストリップ 1 でのみ利用可能です。

各ジョブに対して最大で 2 つのコントロールストリップまで選択できます。

- カラーマネージメントを適用して印刷

選択したプロファイルとレンダリングインテントをコントロールストリップと画像に適用します。

- ジョブシートの代わりにネスティングシートに利用します

デフォルトでは、コントロールストリップが、ページごとに印刷されます。しかし、ネスティングでは、ネスティングの各ページごと、または全体に対してコントロールストリップを印刷することができます。ダイナミックウェッジは、ページに対してのみ生成することができます。

関連参照：

136 頁の「[コントロールストリップとメディアウェッジ](#)」

コントロールストリップの検証 (System Manager)

ワークフローに Verifier を組み込むことができます。検証ワークフローは次の目的で推奨します：

- ISO 12647-7、12647-8 または G7 に準拠したプルーフまたはプリントの検証、または Fogra PSD プリントチェックの実施
- ユーザサイトで定義されている標準の検証
- Fogra Proof Certification 認証の取得
- サイト間でカラーの一貫性を検証するため

このペインでは、検証を行う許容範囲を定義します。ペインバーの「チェックボックス」を選択して、設定をアクティベーションします。設定をアクティベーションできない場合は、コントロールストリップペインでコントロールストリップを選択していることを確認してください。

- 最初のジョブが検証で不合格になった後でジョブの印刷を中止します

1つのジョブが検証に失敗した場合は、やはり検証に失敗することになる続きのジョブ（ジョブリストにある）が不必要に印刷されないようにします。例えば、誤った印刷構成がプリンタにロードされている場合にこの状況が発生することがあります。

- 検証後に自動的にラベルを印刷

統合された測定デバイスを持つ一部プリンタは、カラー検証結果を載せたラベルを印刷できます。適切なチェックボックスを選択し、ラベルを印刷する条件を定義します。

- 文字化データ

文字化データセットは、標準の印刷プロセスの印刷条件の組み合わせを定義します。

- デルタ E フォーマット

デルタ E は $L^*a^*b^*$ カラースペースにおける 2つの色の数学的な違いを意味します。カラー精度はデルタ E として測定されます。

- ターゲット許容範囲のプリセット：

標準仕様の定義されたプリセットを使用できます。それらの値は、通常のプルーフの生成 (ISO 12647-7 または 12647-8 に準拠した印刷構成ウェッジに基づく検証) に適用できます。または、FograCert のような認証の目的や ISO デジタル印刷検証で適用できます。テーブルに独自のカスタム許容制限範囲を入力することもできます。

関連参照：

316 頁の「[Fiery XF でのワークフローの検証](#)」

コントロールストリップの検証 (Job Explorer)

ワークフローに Verifier を組み込むことができます。下記のために Verifier を使用することができます：

- ISO 12647-7、12647-8 または G7 に準拠したプルーフまたはプリントの検証、または Fogra PSD プリントチェックの実施
- ユーザサイトで定義されている標準の検証
- Fogra Proof Certification 認証の取得
- カラーの一貫性の検証

System Manager の検証ワークフローの許容範囲を定義します。System Manager のペインバーのチェックボックスが選択されている場合、印刷後、ジョブが自動的に Verifier に送信されます。チェックボックスがオフになっている場合は、手動のワークフローを示します。準備ができたら、手動ワークフローにより、Job Explorer で検証するためにジョブを送信できます。

ペインバーの「チェック ボックス」を選択して、設定をアクティベーションします。設定をアクティベーションできない場合は、コントロールストリップペインでコントロールストリップを選択していることを確認してください。

ワークフローのために選択したコントロールストリップを適用し続けている限り、選択した許容範囲は有効のままです。希望する場合は、別のコントロールストリップを選択することができます。この場合、選択された許容範囲に上書きされ、リファレンスプロファイルがカラー検証の基礎を形成します。

- 最初のジョブが検証で不合格になった後でジョブの印刷を中止します

1 ページが検証に失敗した場合は、やはり検証に失敗することになる続きのページ（複数ページを持つジョブの場合）が不必要に印刷されないようにします。例えば、誤った印刷構成がプリンタにロードされている場合にこの状況が発生することがあります。

- 検証後に自動的にラベルを印刷

統合された測定デバイスを持つ一部プリンタは、カラー検証結果を載せたラベルを印刷できます。適切なチェックボックスを選択し、ラベルを印刷する条件を定義します。

- 検証 (ボタン)

Verifier にジョブを送信するには、このボタンをクリックします。ジョブが印刷され、「検証できます」状態を受信してからのみ、このボタンは有効になります。

- 最適化 (ボタン)

Verifier で検証の後に、ジョブが Fiery XF に返送されます。「検証失敗」というステータスを受信した場合、ジョブごとに最適化を行うことによって定義済み許容範囲にすることができます。このボタンをクリックすると、ジョブの最適化が開始されます。その後で、ジョブを再印刷して検証手順を繰り返す必要があります。

次のいずれかが適用されている場合ジョブが最適化することはできません：
色調整、クリーンカラー、知覚または彩度の高いレンダリングインテント、
ダイナミックレンダリングインテント。

関連参照：

316 頁の「[Fiery XF でのワークフローの検証](#)」

基本的な情報

新しいワークフローの名前を入力するか、既存のワークフローの名前を変更します。デフォルトのリニアリゼーションワークフローの名前は変更できません。「説明」ボックスはワークフローテンプレートの設定を表示しています。カスタム設定に反映させるためにテキストを編集したり、コメントを追加することができます。

ジョブのプロセス中に追加ファイルが自動的に作成されます。通常は、ジョブリストからジョブを削除したときのみ、削除されます。必要に応じて、一定基準に従い、ソースファイル、出力ファイル、およびプレビューファイルを削除できます。

関連参照：

385 頁の「[クリーンアップ Fiery XF](#)」

プレビュー

プレビューは、選択したジョブのイメージです。印刷する前にジョブの設定とレイアウト設定を確認できます。ジョブリストからジョブを選択すると、プレビューは Job Explorer に表示されます。

プレビューを作成するには、ペインバーのチェック ボックスをオンにし、解像度を選択します。プレビューイメージで個々のピクセルを編集する場合は、高解像度を選択することをお勧めします。解像度が高いほど、ズームインビューでのイメージが鮮明になり、より正確にイメージを編集できます。

一方、大容量ジョブのプレビューには大量のメモリ スペースを必要とし、作成に時間がかかる場合があります。この場合、低い解像度を選択することをお勧めします。

速度

ジョブの出力を高速化するために次の設定を利用します。

- 優先度の高いワークフロー

優先度の高いワークフロー内のすべてのジョブが印刷キューの上部に直接送信されます。これは、複数のワークフローが同じプリンタに印刷されている場合、優先度の高いワークフローのジョブが最初に印刷されることを意味します。

- 双方向で印刷します

双方向印刷は、印字ヘッドが両方向で印刷しますから、単方向印刷より高速です。しかし、精度が落ちる可能性があります。一部プリンタは双方向印刷をサポートしていません。

- RIP して即時に印刷します。

デフォルトでは、Fiery XF がジョブのプロセスを完了し、印刷を開始します。

RIP して即時に印刷すると、ジョブのプロセスと印刷が同時に行われます。ジョブデータの 1 チャンクがプロセスされた瞬間に印刷されます。

この設定は、ジョブの出力速度を上げます。一方、プリンタは時々一時停止しすることがあり、これが印刷物に不要な線を残すことにつながる場合があります。

- RIP 解像度

RIP 解像度は、ジョブをプロセスするために利用されている解像度です。ジョブは印刷解像度に変換されます。

RIP 解像度は印刷速度と印刷品質に影響を与えます。RIP 解像度が高いほど、印刷品質が高くなる一方で、ジョブの印刷時間が長くなります。逆に、RIP 解像度が低いほど印刷時間は短縮されますが、ドラフト用のような印刷品質となってしまう。

印刷解像度よりも高い RIP 解像度でジョブをプロセスすることはできません。

関連参照：

368 頁の「[ジョブ速度を上げる](#)」

情報

プリンタを設定するには、そのプリンタに適した印刷構成プロファイルをインストールする必要があります。セットアップ中にエラーメッセージが表示される場合は、適切な印刷構成プロファイルを Fiery XF Control からインストールします。

- 名前

ユーザに容易に認識できるように、出力デバイスに名前を与えます。

- 説明

説明領域を使って、プリンタの場所や、その他の情報をメモします。

- メーカー

デバイスのメーカーを選択します。

ファイルを印刷するには、ファイル出力オプションが必要です。EFI をメーカーに選択します。

- デバイスタイプ

出力デバイスを選択します。一部プリンタは、ハーフトーン、コントーン、RGB 等、複数のドライバを持っています。出力デバイスに対応した正しいドライバを選択していることを確認します。

関連参照：

177 頁の「[印刷メディアプロファイルの更新](#)」

接続

出力デバイスへの接続を設定します。次のいずれかの接続方法を選択します。

- システムプリンタに印刷 (Windows のみ)

Windows システム プリンタとして設定されているプリンタを選択します。Fiery XF でも、同じプリンタを設定してください。

- IP ネットワーク経由で印刷

ネットワーク プリンタの IP アドレスを入力します。接続が正しく確立されているかどうかを確認するには、「テスト」をクリックします。プリンタに電源が入っている必要があります。

プリンタがデータ転送に使用する TCP/IP プロトコルのタイプを選択します。ほとんどのプリンタは、RAW プロトコルをサポートし、ポート 9100 に印刷します。LPR プロトコルは、通常、Unix システムか複数のインターフェースを持つプリントサーバ用に予約されています。このフィールドは空白でも構いません。

- ポート経由で印刷

Fiery XF サーバソフトウェア上で実行しているコンピューターに USB で接続されているプリンタを選択します。Fiery XF の起動時にプリンタの電源が入っている必要があります。

- ファイル出力 (ファイル出力オプションまたは VUTEk プリンタ オプションが必要です)

- デバイスリンクプロファイルを使用する

他社製ソフトウェアプログラムを用いるか、Color Profiler Suite で作成したデバイスリンクプロファイルを適用することができます。デバイスリンクプロファイルは、プリンタと用紙の種類の組み合わせを定義したプロファイルです。デバイスリンクプロファイルはプロファイルのフォルダ内に配置する必要があります。

- エクスポートパス

印刷するファイルを保存するフォルダを定義します。「選択」をクリックし、フォルダを参照します。

- ネーミング

文字シーケンスを使って印刷ファイルのネーミング規則を定義します。各文字シーケンスにより、特定情報がファイル名に確実に含まれるようにします。下線 (_) またはハイフン (-) 等の区切り記号を文字シーケンスの間に入れ、ファイル名を読みやすくします。例えば、「% job_ %work」と入力し、ジョブ名やワークフロー名をファイル名に含めます。GS3250LX Pro_ % job_ % jobid 等のカスタムテキストを含めることもできます。

以下の文字シーケンスがあります。

文字シーケンス	説明
%c	カウンタ
%jobid	ジョブ ID
%t	タイル番号
%p	ページ番号
%out	出力デバイス
%cm	カラー・モード
%job	ジョブ名 / ネスト名
%res	「解像度」
%work	ワークフロー
%date	日付

- 圧縮

全体的なデータ量を減らすために、印刷ファイルを圧縮できます。ZIP は最も安全な圧縮形式で、データを損失することなくファイルを解凍できます。JPEG 圧縮では、最小量のデータが失われる可能性があります。PackBits は単色の大きな領域を含む TIFF ファイルのサイズを減らすための

非常に効果的です。

– 「解像度」

印刷ファイルの解像度を指定できます画像ファイルでは、通常、300 dpi の解像度で十分です。ベクターグラフィックスでは、解像度品質の低下を避けるため、1200 dpi 以上をお勧めしています。高解像度を選択するほど、ファイルサイズが大きくなります。品質がそれほど重要ではない場合や、ファイルを電子的に送信する必要がある場合は、データ量を最小限に抑えるため、低解像度を選択します。

– 視覚的補正

視覚的補正ファイルを現在のジョブに適用できます。視覚的補正ファイルは、変更ベースのリニアリゼーションファイルです。Color Tools や Color Profiler Suite の視覚的補正ツールにより、個々のカラーチャンネルを微調整し、プリンタの色再現特性を性を変更することができます。

– PostScript 以外のファイルの入力解像度を維持する

非 PostScript ファイルの入力解像度を維持することができます。たとえば、この設定を用いて、オリジナルの画像の解像度 (サイズ) に影響を及ぼすことなしにデジタルファイルのセットを 1 つのカラースペースに変換することができます。

• JDF ポート経由で印刷します (VUTEk プリンタ オプションが必要です)。

一部 VUTEk プリンタは JDF (ジョブ定義形式) をサポートしています。JDF により Fiery XF がメディア消費量やインク消費量等の情報をプリンタから得ることができます。JDF 対応プリンタをデバイスタイプとして選択すると、JDF ポート経由で印刷できます。

関連参照：

226 頁の「[VUTEk プリンタへの印刷](#)」

172 頁の「[視覚的カラー補正を実行する](#)」

150 頁の「[デバイスリンクプロファイル](#)」

267 頁の「[JDF の統合](#)」

58 頁の「[System Manager でシステムコンフィグレーションの作成](#)」

印刷構成

- インクの種類
インクの種類 プリンタに装着されているインクのタイプを選択します。
- 印刷メディア名
メディア名の下で、ベースリニアリゼーションファイルとメディアタイプが組み合わされます。
- キャリブレーション設定
キャリブレーション設定を選択します。キャリブレーション設定は、インクの種類、印刷構成、ベースリニアリゼーションファイルを組み合わせたものです。
「カタログ」をクリックして、メディアで利用できるベースリニアリゼーションファイルの一覧を表示し、生成された印刷条件を表示します。ベースリニアリゼーションファイルは印刷条件の設定を定義し、プリンタの動作が確実にメディアに最適のように調整されます。1つを選択して適用します。
お使いのプリンタとメディアの組み合わせで生成されたキャリブレーション設定を使う場合、最高の印刷結果となります。「NewLinearization」と「プロファイル」をクリックして、ニーズに合わせた印刷条件のベースリニアリゼーションファイルを新規作成します。その後、既存のメディアプロファイルにベースリニアリゼーションファイルを結合することができます。
- 視覚的補正
視覚的補正ファイルは、変更済みベースリニアリゼーションファイルです。Color Tools や Color Profiler Suite の視覚的補正ツールにより、個々のカラーチャンネルを微調整し、プリンタの色再現特性を性を変更することができます。
このペインで生成した設定をプリセットとして保存することができます。プリセットは、独自の名前で保存される設定グループのテンプレートです。プリセットを保存するには、ペインヘッダーの「メニュー」ボタンをクリックします。
関連参照：
172 頁の「[視覚的カラー補正を実行する](#)」
157 頁の「[ベースリニアリゼーションファイルを作成または編集する](#)」
167 頁の「[プロファイルコネクタ](#)」

メディア設定

- 用紙サイズの校正

出力サイズを調整することによって、印刷されたイメージの長さの不整合を補正できます。このような不整合は、プリンタと印刷構成の特定の組み合わせにより生じます。

サンプルフォルダにある Lineal_01.ps ファイルは、印刷するイメージのサイズを調整するのに役立ちます。このファイルは、長さと幅 0.5 m x 0.5 m の定規の目盛りで構成されています。

- 印刷構成サイズ

- ソース

用紙フィードの種類を選択 : シングル シートまたはロール紙。

- 形式

通常、メディアフォーマットは、プリンタに挿入されている印刷構成のサイズに対応しています。必要なサイズを入力し、(+) ボタンをクリックして、カスタムサイズを定義することもできます。

関連参照 :

376 頁の「印刷済みジョブの長さを補正する」

特別なプリンタ設定

このペインで、プリンタ固有の設定を行います。説明の必要が無い設定内容がほとんどです。さらに情報が必要な場合には、プリンタのマニュアルを参照してください。

Fiery XF で行った設定は、プリンタに同名で行った設定を上書きします。

VUTEk プリンタの場合、このペインの設定を使って VUTEk PrintStation を遠隔操作できます。印刷設定は RTL ファイルで送信されるため、PrintStation でさらに設定を行う必要はありません。

EFI でも、より複雑なプリンタ機能の一部を Fiery XF ワークフローに組み込む方法に関する記事を提供しています。当社の Web サイトまでアクセスしてください：<http://w3.efi.com/services/fiery-wide-format-services/knowledge-center>。

デバイス

このペインでは、プリンタ名と現在のプリンタのステータスを表示します。

オンボード測定デバイスを持つ一部プリンタ モデルでは、測定ステータスも表示されます。

一部プリンタモデルでは、現在のインクレベルを Fiery XF に通信可能です。

スポットカラーの管理

次の設定をカスタムスポットカラーに適用することができます。

- プラス (+) ボタン
新しいスポットカラーを追加します。
- マイナス (-) ボタン
選択したスポットカラーを削除追加します。
- 「複製」ボタン
選択したスポットカラーのコピーを作成します。カスタムスポットカラーや、内部スポットカラーライブラリーからスポットカラーを複製することができます。
- 「すべて選択」ボタン
テーブル内のすべてのカスタムスポットカラーを選択します。複数選択を複製したり、削除することができます。
- 「全域チェック」ボタン
L*a*b* スポットカラーのお使いのプリンタの色域内の割合を確認します。色域は、プリンタが再現可能なカラーのすべての範囲を表示します。ジョブの処理中に、ガモット外のスポットカラーを利用可能な色域にある最も近いカラーにマッピングされます。カラー偏差はデルタ E 値として表示されます。
全域チェックを実行するには、1つまたは複数の L*a*b* スポットカラーを選択し、「全域チェック」をクリックします。スポットカラーが L*a*b* カラースペースで定義されていない場合には、このボタンは使用できません。
ワークフローと印刷構成セットを切り替えることで、どの組み合わせが最高の結果をもたらすかを素早く見つけることができます。
- 「変換」ボタン
選択した L*a*b* スポットカラーをプリンタのカラースペースに変換します。プリンタのインクカラーで定義されているスポットカラーを編集するのに簡単です。
- 「最適化」ボタン
スポットカラー最適化ファイルを適用することにより、スポットカラーのデルタ E 値を減らすことができるかもしれません。スポットカラー最適化ファイルは、選択されたスポットカラーとそのグラデーションのカラー精度を回線仕様とする補正プロファイルです。

関連参照：

291 頁の「[Color Editor](#)」

「カラー定義」タブ

- のためにエイリアスとして利用します

既存のスポットカラーへの固定リンクを作成できます。エイリアスのスポットカラーが、オリジナルのスポットカラーと同一のカラープロパティでありながら、異なる名前で作成されている場合、例えば、「NewSpotColor」という名前のスポットカラーを PANTONE カラーのエイリアスとして設定することができます。

エイリアススポットカラーのカラープロパティを編集することはできませんが、元のスポットカラーに加えた変更は、自動的にエイリアスにも適用されます。

エイリアスを作成すると、全く同一のカラー値がグラフィックアプリケーションのスポットカラーの名前を変更せずに両方のスポットカラーに確実に使用されることとなります。

- 適用

お使いのプリンタが白インク、クリアインク、またはメタリックインクをサポートしている場合、オリジナルのスポットカラー定義に加えて、これらのプリンタインクを割り当てることができます。追加されるインクは、オリジナルのスポットカラーの後ろまたは上に印刷されます。

これら設定により、ホワイトまたはカラーメディアセット上で最終プロダクション工程をシミュレートすることができます。お使いのプリンタが適切なインクカラーをサポートしていれば、包装業界で使用されている面白い特殊効果をお楽しみいただけます。

- 透明度

透明度設定は重なった色に影響を与えます。透明度 100% は、重なった色が透過して見えることを意味します。透明度 0% は、不透明度 100% に等しく、重なった色が完全につぶれて真っ黒になることを意味します。

- 100% でのスポットカラーの定義

フルトーンのスポットカラーを定義します。「自立」を選択すると、CIE L*a*b* または CIE LCH カラー空間のカラーパッチを測定できます。「従属」を選択すると、出力デバイスまたはソースプロファイルのカラー空間における色値を入力できます。

関連参照：

298 頁の「[Color Editor のスポットカラーを追加する](#)」

300 頁の「[エイリアスの作成](#)」

302 頁の「[スポットカラーをプリンタのインクチャンネルに割り当てる](#)」

「文字化」タブ

スポットカラーごとに最大 99 のカラーグラデーションを定義します。L*a*b* または LCH カラースペースで定義されるカラーグラデーションは、ダイナミックウェッジに含みます。

デフォルトでは、ダイアグラムが 1 つのインクの 0% と 100% のカラー値を示しています。100% は、「カラー定義」タブで定義したフルトーンカラーを意味します。0% は、印刷構成のカラーを意味します。デフォルトでは、0% は、純粋なホワイトの未測定の色と等しくなっています。

プリンタのカラースペースにカラーグラデーションを追加するには、文字化テーブルに適切な値を入力します。L*a*b* や LCH カラースペースにカラーグラデーションを追加するには、カラーパッチを測定するか、色値を入力します。

プリンタのカラースペースにグラデーションを定義していれば、ダイアグラムのカーブに沿って点をドラッグすることにより微調整できます。

関連参照：

304 頁の「[カラーグラデーションを追加する](#)」

「グラデーション」タブ

異なるグラデーションを持つスポットカラーがあり、あるグラデーションは印刷時に明るすぎまたは薄くなりすぎる場合、グラデーションカーブに沿って色を追加または削減することによって、明度を変えることができます。

カーブに沿ってポイントを変更するには、ポイントを上（色を追加）または下（色を削減）にドラッグしてください。また、必要な座標をテーブルに直接入力することもできます。

テーブルの業を選択し、を押すと、グラデーションを削除することができます。0% や 100% という値を削除することはできません。

「保存」をクリックして変更を保存します。

環境設定 : 「カラー定義」 タブ

- インクの上書の特徴

通常、2つの異なる色のオブジェクトが重なったとき、ノックアウト効果があります。彼らは互いの上に印刷されません。あるインク層を別のインク層の上に意図的に印刷することをオーバープリントといいます。

オーバープリント設定は、2つ以上のカラーを重ねて印刷する際に、スポットカラーがどのように処理されるかを定義します。

大きな値を設定すると、出力結果は暗くなります。たとえば、オーバープリント値の 100% は、カラーがお互いに完全に追加されることを意味します。

設定を低くすると、カラーが不透明になり、他のカラーを一部隠すため、印刷の色が薄くなります。

- ガンマ

スポットカラーのオーバープリントのドットゲインシミュレーションを変更します。この設定は、スポットカラーとプロセスカラー、または2つ以上のスポットカラーが混合しているエリアに適用されます。ここでは、オーバープリント用の非線形動作を定義することができます。

- 方法

CMYK カラースペースでのオーバープリントは、単純な CMYK の追加に基づいています。

L*a*b* カラースペースでは、デフォルト設定はブラッドフォードと ROMM 色順応変換 (CATS) に基づいています。CATS は異なる光源の元で対応するカラーを予測することができます。Fiery XF は、ブラッドフォード、CAT、XYZ スケーリング、VonKries、Sharp CAT 等、多くの異なる色順応モデルをサポートしています。L*a*b* カラーのオーバープリントを定義する CAT を選択します。

互いに非常に似ているカラー、例えば、イエローの上にイエロー、レッドの上にマゼンダをオーバープリントして、その明度にアクセントをつけることができます。

- 白色点設定

印刷様式への色合いは、白色点として知られています。印刷様式の白色点は、印刷物のカラー精度に影響を与えます。特に、プルーフワークフローでは、最終印刷構成の色合いが正確にシミュレートできることが重要です。

測定デバイスを用いて印刷構成白色点を測定することができます。白色点は、スポットカラーの定義を考慮します。

- 全域チェック設定

選択したプロファイルを用いて、L*a*b* スポット カラーがどれだけ正確に再現できるかを確認することができます。また、L*a*b* スポット カラーがお使いのプリンタの色域内にあるかを確認することもできます。色域は、プリンタが再現可能なカラーのすべての範囲を表示します。

デルタ E 値として許容制限範囲を定義します。デルタ E は L*a*b* カラー空間における 2 つの色の数学的な違いを測定するために使用されます。

この設定により、ガモット内にあると受け入れられた色域の回りの許容範囲内にスポット カラーを置くことができます。

「保存」をクリックして変更を保存します。「デフォルト」をクリックして、すべての環境設定タブにある設定をオリジナルの値にリセットします。

関連参照：

305 頁の「L*a*b* スポット カラーのカラー精度を確認する」

環境設定 : 「測定と表示」 タブ

- 測定デバイスの設定

ES-1000 や ES-2000 測定デバイスを用いて、100% インクやグラデーションを定義したり、印刷構成の白色点を測定することができます。「設定」をクリックし、デバイス専用の設定を行います。

- 照明条件

分光学的定量の $L^*a^*b^*$ への変換方法を定義します。

光源（照明）の選択 : D-50 (水平光)、D-65 (人工的な正午の日光)、C (日光)。

観察者角度の選択 : デフォルトでは 2 度になっていますが、より大きなビュー角度 10 度が包装および繊維業界でよく利用されています。

- モニタのプロファイル

モニタのプロファイルはコンピュータ画面でのカラー精度をシミュレートし、検証するために利用されます。Windows および Macintosh コンピュータは、オペレーティングシステムソフトウェアの一部として標準モニタのプロファイルを提供します。オペレーティングシステムのモニタプロファイルを選択するか、カスタムのモニタプロファイルを選択してください。

「保存」をクリックして変更を保存します。「デフォルト」をクリックして、すべての環境設定タブにある設定をオリジナルの値にリセットします。

関連参照 :

159 頁の「[印刷メディアプロファイルを作成する](#)」

環境設定 : 「グラデーション」 タブ

異なるグラデーションを持つスポットカラーがあり、あるグラデーションは印刷時に明るすぎまたは薄くなりすぎる場合、グラデーションカーブに沿って色を追加または削減することによって、明度を変えることができます。

カーブに沿ってポイントを変更するには、ポイントを上（色を追加）または下（色を削減）にドラッグしてください。また、必要な座標をテーブルに直接入力することもできます。

テーブルの業を選択し、 を押すと、グラデーションを削除することができます。0% や 100% という値を削除することはできません。

必要であれば、「現在のテーブルに適用します」を選択します。チェックボックスがオフになっている場合、設定内容が今後作成されるスポットカラーテーブルに適用されます。

「保存」をクリックして変更を保存します。「デフォルト」をクリックして、すべての環境設定タブにある設定をオリジナルの値にリセットします。

新しいスポット カラーのエイリアスの選択

既存のスポット カラーへの固定リンクを作成します。エイリアスのスポット カラーが、オリジナルのスポット カラーと同一のカラープロパティでありながら、異なる名前で保存されている場合、例えば、「NewSpotColor」という名前のスポット カラーをPANTONE カラーのエイリアスとして設定することができます。

エイリアスのスポット カラーのカラープロパティを編集することはできませんが、グラデーションや透明度を編集することはできます。ただし、オリジナルのスポット カラーに行なわれた任意の変更は、自動的にエイリアスにも適用されます。

エイリアスを作成すると、全く同一のカラー値がグラフィックアプリケーションのスポット カラーの名前を変更せずに両方のスポット カラーに確実に使用されることとなります。

スポット カラーを検索するには、「検索」ボックスにスポット カラー名を入力します。「検索」ボックスにはフィルター機能があり、検索基準を満たすスポット カラーのみが表示されるようになっています。

テーブルで、スポット カラーを選択し、「選択を利用します」をクリックします。カラー値は自動的に新しいスポット カラーに転送されます。

エイリアススポット カラーへのリンクを削除するには、「エイリアスをクリアします」をクリックします。エイリアスを削除する場合、スポット カラーは新しいスポット カラーのデフォルトのカラー値を受けます。

関連参照：

300 頁の「[エイリアスの作成](#)」

新しいスポット カラーのインクチャンネルを選択

お使いのプリンタが白インク、クリアインク、またはメタリックインクをサポートしている場合、オリジナルのスポット カラー定義に加えて、これらのプリンタインクを割り当てることができます。追加されるインクは、オリジナルのスポット カラーの後ろまたは上に印刷されます。

この設定は、金色または銀色のメタリック・カラーが多く使用される包装産業で有用です。ジョブ処理中、カラーマネージメントが元のスポット カラーに適用されますが、プリンタインクはバイパスされます。

プリンタのインクチャンネルを検索するには、「検索」ボックスに名前を入力します。「検索」ボックスにはフィルター機能があり、検索基準を満たすプリンタインクチャンネルのみが表示されるようになっています。

一部の設定は、「反転」相当語句を持っています。これらは名前内の「INV」の文字が認識されます。反転設定を選択した場合、反転した割合の量のインクが適用されます。つまり、100% カラーには 0% カラー、100% インクには 0% カラー、30% カラーには 70% カラーが適用されます。

反転設定を巧みに利用することで、いかなるカラーのメディアセットでも最終印刷物をシミュレートすることができます。

テーブルで、プリンタインク チャンネルを選択し、「選択を利用します」をクリックします。「エイリアスをクリアします」をクリックして、インクを削除できます。

関連参照：

302 頁の「[スポット カラーをプリンタのインクチャンネルに割り当てる](#)」

スポット カラーの検索と置換

名前の全部または一部を置き換えることにより、カスタムスポット カラーの名前を変更します。

「検索の対象」ボックスに対象となる言葉を入力します。「置換の対象」ボックスに置換する言葉を入力します。たとえば、「2013」を検索する場合、Color Editor は名前の中に「2013」のある全てのスポット カラーを検索、置換します。

大文字 / 小文字を考慮に入れたり、フルネームのみを検索することにより、検索内容を変更することができます。

関連参照：

312 頁の「[スポット カラー名の置換](#)」

新しいスポット カラーテーブルを作成します

- 名前

スポット カラーテーブルに新しい名前を入力します。

- ワークフロー

「Fiery XF ワークフロー」を選択します。Color Editor ワークフローと関連している出力デバイスの色域やカラースペースに関する情報を確認します。

Color Editor 新しいスポット カラーが出力デバイスで正しく再現することができるかどうかをチェックするためにこの情報を使います。

- キャリブレーション設定

キャリブレーション設定を選択します。キャリブレーション設定は、選択したプリンタのインクの種類、印刷構成名、ベースリニアリゼーションファイルの設定を定義します。キャリブレーション設定はプリンタに從属するスポット カラーを定義するのに重要です。

- 環境設定

「環境設定」ダイアログボックスでは、Color Editor で定義するすべてのスポット カラーに適用される全般的な設定を行います。

関連参照：

311 頁の「[新しいスポット カラーテーブルを作成する](#)」

294 頁の「[「環境設定」ダイアログボックス](#)」

スポット カラーテーブルをワークフローに適用

新しいスポット カラーテーブルに適用する 1 つまたは複数の Fiery XF ワークフローを選択します。ワークフローにすでに割り当てられているスポット カラーテーブルがある場合、オリジナルのスポット カラーテーブルは上書きされませんが、再選択リストにはそのまま残ります。

関連参照：

314 頁の「[スポット カラーテーブルを Fiery XF ワークフローに適用](#)」

L*a*b* スポット カラーのカラー精度を確認する

選択したプロファイルを用いて、L*a*b* スポット カラーがどれだけ正確に再現できるかを確認することができます。また、L*a*b* スポット カラーがお使いのプリンタの色域内にあるかを確認することもできます。色域は、プリンタが再現可能なカラーのすべての範囲を表示します。ジョブの処理中に、ガモット外のスポット カラーを利用可能な色域にある最も近いカラーにマッピングされます。カラー偏差はデルタ E 値として表示されます。

Color Editor デルタ E 2000 形式で測定された 5.0 のデフォルトのデルタ E 値が適用されます。ガモット内にあると受け入れられた色域の回りの許容範囲内にスポット カラーを置くことができます。

全域チェックを行うと、次の情報が表示されます。

- ガモット内にあるスポット カラーの割合
- 平均デルタ E
- 最大デルタ E

関連参照：

305 頁の「L*a*b* スポット カラーのカラー精度を確認する」

L*a*b* スポット カラーをプリンタのカラースペースに変換する

L*a*b* スポット カラーをプリンタのカラースペースに変換します。プリンタのインクカラーで定義されているスポット カラーを編集するのに簡単です。

関連参照：

309 頁の「[L*a*b* スポット カラーをプリンタのカラースペースに変換する](#)」

L*a*b* スポット カラーの最適化

スポット カラー最適化ファイルを適用することにより、L*a*b* スポット カラーのデルタ E 値を減らすことができるかもしれません。スポット カラー最適化ファイルは、選択されたスポット カラーとそのグラデーションのカラー精度を回線仕様とする補正プロファイルです。

関連参照：

309 頁の「[L*a*b* スポット カラーを最適化する](#)」

スポット カラーテーブルをインポートする際のネーミングの競合を解決する

1つのスポット カラーテーブル内に2つの同じ名前のスポット カラーを保存することはできません。ロードされたスポット カラーテーブルに既にあるスポット カラーをインポートしようとする、競合が発生します。この問題を解決するには、次のいずれかの手順を実行します：

- いずれかのスポット カラーの名前を変更します。

いずれかのスポット カラーテーブルにあるスポット カラーの名前を変更することができます。同じ名前の2つのスポット カラーが異なる色の値を持つ場合、これは便利かもしれません。この設定を用いて、両方のスポット カラーを維持します。

- いずれかのスポット カラーを置換

いずれかのスポット カラーテーブルにあるスポット カラーを置換することができます。この設定では、名前とスポット カラーの値を上書きし、従って、2つのスポット カラーを簡単に1つにマージすることができます。

- 競合しているスポット カラーを除外

競合しているスポット カラーをインポートしないことを選ぶことができます。この場合、スポット カラーは、スポット カラー・テーブルに変更されないまま残ります。「キャンセル」をクリックして、表示された競合箇所をスキップします。「すべてをキャンセル」をクリックし、すべての競合するスポット カラーをスキップします。

関連参照：

313 頁の「[スポット カラーのインポート](#)」

ベースリニアリゼーションファイルの作成

印刷メディアプロファイルはベースリニアリゼーションファイルに基づいています。出力デバイスと印刷メディアタイプのある組み合わせに対する色の最大密度を達成しつつ、できる限り使用するインク量を最小限に抑えるのに必要なインク品質に関する詳細情報を含んでいます。ベースリニアリゼーションファイル作成後、続けて、印刷メディアプロファイルを作成できます。

あなたはホワイトインクをサポートした VUTEk プリンタをお持ちの場合は、白インク流路を直線化することができます。ホワイトリニアリゼーション機能は、透明性と濃色 / ブラックメディアで使用されるために主に作成されました。しかし、カラーメディアでホワイトの利にありゼーションを行うこともできます。EFI は、ホワイトリニアリゼーションの詳細手順を記載した説明書を別途用意しています。当社のウェブサイトまでアクセスしてください：

<http://w3.efi.com/services/proofing-services/knowledge-center>.

ベースリニアリゼーションファイルの新規作成

1 測定デバイスに接続します。

2 「測定デバイス設定」から、次の操作を行います：

- 測定デバイスを選択します。

「設定」をクリックし、デバイス専用の追加設定を行います。このボタンは、すべての測定機器でご利用いただけません。ES-2000 を使用している場合は、3つの測定条件から選択することができます。これらは以下の通り、ISO 13655 で定義されています：

- M0：照明サンプルの UV コンテンツは定義されていません。測定は、1 ステップで実行されます。
- 測定 1 照明サンプルの UV コンテンツが D50 に定義されています。測定は、2 ステップで実行されます。
- 測定 2 照明サンプルのスペクトラル電力配分が 420 nm ～ 700 nm の波長範囲にあり、波長 400 nm 未満の実質的な放射電力がない状態になければなりません。UV カットに対応しています。測定は、2 ステップで実行されます。

測定デバイスがプリンタに内蔵されている場合は、適切なチェックボックスを選択することにより、自動的にベースリニアリゼーションファイルと印刷メディアプロファイルを作成することができます。

お使いのプリンタに UV カット測定装置が内蔵されている場合、適切なチェックボックスにチェックを入れることで、非 UV カット装置をシミュレートさせることができます。ヨーロッパでは、非 UV カラー値は、通常、プルーフングで使用されます。

- ワークフローのタイプに適切であるリニアリゼーション・インテントを選択します。
 - 「プルーフ」設定により、後のステップでシミュレーション（リファレンス）プロファイルを選択することができます。この場合、L*a*b* ターゲット値は、シミュレーション（リファレンス）プロファイルから抽出されます。
 - フォト/プロダクションワークフローでは、シミュレーション（リファレンス）プロファイルを選択することはできません。この場合、最高彩度は、先の淡インクをより多くフルトーン領域に追加することにより、可能な限り最大のカラーガモットに対して計算されます。

3 「リニアリゼーション名」から、ベースリニアリゼーションファイル名を入力します。

デフォルト名は、プリンタの機種、解像度、印刷メディアタイプ、インクタイプから自動的に生成されます。「設定から EPL 名を生成する」チェックボックスをオフにすることにより、カスタムでファイル名を入力することもできます。

4 「プリンタの設定」から、インクの種類 プリンタに装着されているインクのタイプを選択します。

一部プリンタ機種は複数のインクタイプをサポートしています。必ず正しいタイプ名を選択してください。

5 「印刷メディア設定」から、次の操作を行います：

- プリンタに挿入されている印刷メディアに一致するメディアタイプを選択します。
- メディア名を選択するか、カスタム名を入力します。この名前が Fiery XF に表示されます。
- 必要に応じて、実際の印刷メディアの長さターゲットメディアの長さを入力します。

ジョブの出力の長さにおける不整合を修正することができます。不整合は、プリンタとメディアの特定の組み合わせにより生じます。

サンプルフォルダにある Lineal_01.ps ファイルは、印刷するイメージの長さを調整するのに役立ちます。このファイルは、長さ幅 0.5 m x 0.5 m の定規の目盛りで構成されています。

6 「出力設定」から、必要な設定を行います：

- 「解像度」
 - ターゲット解像度を選択します。より高い解像度は出力品質の向上につながりますが、処理能力および印刷性能に影響します。
 - ベースリニアリゼーションファイルにスクリーニングファイルを組み込みたい場合は、スクリーニングファイルを作成するために使用したのと同じ解像度を選択していることを確認してください。

- 印刷モード

印刷モードは、出力の品質を決定します。印刷モードは、プリンタにより異なります。選択した印刷解像度最適な印刷モードのみが表示されます。印刷モードは、出力の品質を決定します - 高品質またはドラフト。

- 印刷方向

双方向の印刷は、印字ヘッドが双方向で印刷するのでより高速になります。しかし、双方向の印刷と比較すると一方向の印刷ではより正確な結果が得られますが、一部プリンタは双方向印刷をサポートしていません。

- ハーフトーン

コントーンプリンタでは、プリンタメーカーのハーフトーン方法がデフォルトで選択されています。

Fiery XF のいずれかのハーフトーン方法を使うプリンタでは、誤差拡散 (SE1) と確率的ハーフトーン (SE2) のどちらかを選択できます。最高品質では SE1 を、より早い RIP スピード印刷では SE2 を、それぞれ選択することをお勧めします。

ベースリニアリゼーションファイルにスクリーニングファイルを取り込みたい場合は、ハーフトーン方法として「スクリーニング」を選択します。カラーモードは CMYK に自動的に切り替わり、「スクリーニング」設定が利用可能になります。

- カラー・モード

ベースリニアリゼーションファイルを作成する方法は 2 つあります：

- リニアリゼーションを行う通常方法は、すべての非 VUTEk プリンタで利用可能です。
- 詳細作成方法は、VUTEk プリンタの特定のモデルでのみ使用できます。一部 VUTEk プリンタは両方の方法をサポートしています。

選択されたカラーモードにより、いずれの方法を使用するかが決まります。詳細カラーモードには、モード名に「Advanced」という言葉が含まれていません。

詳細 VUTEk リニアリゼーションでは、より広いインク範囲を持つ領域において、照明や中間インク・カーブ、インク制限、黒色点、反復グレー最適化、ライトインク動作に対するより詳細な制御ができます。これにより、VUTEk プリンタでよりスムーズな出力および最大のカラーガモットを達成できます。

お使いのプリンタに適したカラーモードを選択します。インクの数と色は重要です。

- マルチカラー

プリンタがライトインク（例えば CMYKcm 等）や追加インク（例えば CMYKOG 等）をサポートしている場合、これらのインクを含むカラーモードを選択します。

詳細設定では、ライトインクを持つカラーモードが利用できます。「詳細設定」をクリックし、標準インクと同等の 100%フルトーンに加えられるライトインクのパーセンテージを定義します。絶対に必要でない限り、デフォルトの設定を変更しないことをお勧めします。

ライトと標準インクの関係は、プリンタにより異なります。一部プリンタでは、フルトーンインクに 5%ライトインクを追加すると、印刷物上でバンディング（白ストライプ）が発生するのを防ぐことができます。

「OK」をクリックして、「設定」ウィンドウに戻ります。

– CMYK

お使いのプリンタが 4 つしかインクを持っていない場合や、ベースリニアリゼーションファイルにスクリーニングファイルを組み込む場合、「CMYK」を選択してください。

お使いのプリンタが、プリンタメーカーのオリジナルハーフトーニング（コントーン）方法を採用する場合、CMYK がデフォルトで選択されています。これは、全体のインク制限（TIL）が既に印刷メディアタイプに組み込まれており、通常 400 パーセントであることを意味しています。すべてのプリンタで使用可能なインクが考慮されていますが、好みに応じて CMYK のインクカーブを編集することができます。

• ドットサイズ

使用可能なドットサイズとそのプロパティはプリンタにより異なります。VUTEk Pro シリーズプリンタでは、2 つの設定があります：

- 固定：各ドットのサイズはインク一滴と同じ大きさです。
- グレースケール：可変ドットサイズ。

• スクリーニング

先に Dot Creator でスクリーニングファイルを作成している場合、ここでそれを選択することにより、ベースリニアリゼーションファイルに組み込むことができます。スクリーニングファイルの作成に関する詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

「次へ」をクリックします。

関連参照：

376 頁の「印刷済みジョブの長さを補正する」

ベースリニアリゼーションファイルの作成

ベースリニアリゼーションの新規作成 (続き)

1 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

2 インクが乾燥するのを待ちます。インクが乾燥するのを待ちます。画面の指示に従ってチャートの測定を行います。

測定後、「チャンネルあたりのインク制限」ウィンドウに戻ります。

3 次のいずれかを実行してください：

- 「詳細設定」をクリックし、各チャンネルのインクの制限を確認します。「詳細設定」ウィンドウで：

- 推奨インク制限が、最適な範囲内にあることを確認します。最適な範囲は、ブルー領域で表されます。必要に応じて、スライダを移動します。
- 必要に応じて、シミュレーション（リファレンス）プロファイルを選択してください。シミュレーション（リファレンス）プロファイルを選択すると、インク制限が確実にプロファイルから取得されます。標準的なシミュレーション（リファレンス）プロファイルまたは印刷会社から提供されたプロファイルを選ぶことができます。

シミュレーション（リファレンス）プロファイルを選択すると、使用可能なカラースペースを制限し、作成した印刷メディアプロファイルがシミュレーション（リファレンス）プロファイルにより適合することを確実にします。プロファイルを選択しない場合は、適切な業界標準が適用されます。

「OK」をクリックし、「チャンネルあたりのインク制限」ウィンドウに戻ります。

- 「パッチの表示」をクリックし、ポインターをカラーパッチ上において $L^*a^*b^*$ 値を表示させます。リニアリゼーションプロセスのどの段階においても、現在のパッチを表示することができます。
- 「データのインポート」をクリックし、先のセッション中に作成を開始したベースリニアリゼーションファイルをインポートします。リニアリゼーションプロセスのどの段階においてもデータをインポートすることができます。
- 「測定」をクリックし、再びチャートを測定します。リニアリゼーションプロセスのどの段階においてもチャートを再測定することができます。

4 「次へ」をクリックします。

「リニアリゼーション」ウィンドウが表示されます。

5 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

- 6 **インクが乾燥するのを待ちます。インクが乾燥するのを待ちます。画面の指示に従ってチャートの測定を行います。**

測定後、「リニアリゼーション」ウィンドウに戻ります。

- 7 **「詳細設定」をクリックし、ノーマル・スタート、色調値の増加、ドット ゲインを確認します。**

特殊なアルゴリズムが、ライトから標準インクの間係を計算し、ダイナミックなドット ゲインを考慮に入れているため、通常は、デフォルト値で良好な結果を達成できます。変更を加える必要がない場合は、次のことを確認します：

標準インクで最適な出発点は、印刷構成、インク、解像度の組み合わせにより異なります。新聞紙では、インクが過度に紙面に適用されないようにライトインクのパーセンテージを最小限としておくことをお勧めします。この場合、選択した領域内が大きいドットで印刷され、印刷結果が粗い画像になることがあります。これとは対照的に、写真やブルーフィングメディアに印刷する場合、スムーズな印象を与えるために、通常、ライトインクの割合は高くされています。

インク全体の制限 (TIL) も同様に重要です。最大値は、インクチャンネルあたり 100% です。例えば、お使いのプリンタが CMYK インクをサポートしている場合、可能な最大 TIL 値は、400 パーセントです。

色調値の増加は、ドット・ゲインが適用されるパーセンテージを表します。ドット・ゲインは、プレート上のドット・サイズと印刷するページ上の対応するドット・サイズとの差異を表します。経験則として、インクジェット印刷でもドット・ゲインを考慮に入れることをお勧めします。従来、欧州ではグラデーションカーブの 40% 入力領域にドットゲインが定義されており、米国および太平洋地域では、50% のドットゲインが定義されています。

「OK」をクリックして、「リニアリゼーション」ウィンドウに戻ります。

- 8 **「次へ」をクリックします。**

「インク全体の制限」ウィンドウが開きます。

- 9 **「印刷」をクリックします。**

初期のインク全体の制限 (TIL) を適用してチャートが印刷されます。初期 TIL は、チャンネルあたりのインク制限で定義した値の合計に等しくなります。これが最大許容値です。通常、印刷メディアに光沢があるほど、TIL 値が高くなります。

- 10 **インクが乾燥するのを待ちます。画面の指示に従ってチャートの測定を行います。**

測定後、「インク全体の制限」ウィンドウに戻ります。

11 視覚的に印刷されたインク全体の制限チャートを評価します。インクの乾燥が遅い場合またはブリードが目に見える場合に TIL を定義し直します。以下のように、TIL を再定義することができます：

- 測定による自動最定義

チャート測定後、過度にインクがメディア上に使用された場合でも、Fiery XF が最高の TIL を計算します。

- 視覚的

TIL はビジュアル・チャートから読み取ることができます。この方法はにじみや斑点等物理的影響を考慮するときに役に立ちます。測定装置は、このような効果を「見る」ことはできません。ドロップダウンリストから最高の TIL があるカラム番号を選択してください。

- 数値解析

使用する正確な TIL の定義を知っている場合は、カスタムのパーセンテージを入力することができます。

この手順で選択した TIL がベースリニアリゼーションに保存されます。

12 「次へ」をクリックします。

「品質管理」ウィンドウが開きます。

13 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。以下を確認します：

- グレー・バランス

黒いストライプと CMY ストライプが同じであることが理想的です。しかし、混合した CMY インクから純粋の黒を得ることはできません。

- TIL

- 個々のカラーパッチのエッジが明確に定義されていることを確認します。
- 多くのインクが使用されすぎていることにより、印刷構成が丸くなっていることを確認してください。
- インクが汚れていないことを確認し、メディア上に均等に適用されていることを確認してください。

- ライトから標準インクへのトランジション

原色ストライプを調べ、ライトから標準インクへのトランジションがスムーズであるかを確認します。肌の色合いを印刷しているとき、スムーズなトランジションは特に重要です。標準インクをすぐに追加すると、ペッパー効果が発生する場合があります。

14 インクが乾燥するのを待ちます。画面の指示に従ってチャートの測定を行います。

測定後、「品質管理」ウィンドウに戻ります。

15 「次へ」をクリックします。

ベースリニアリゼーションの概要が表示されます。

ベースリニアリゼーションファイルを保存する前に、印刷構成の名前を変更することができます。また、ベースリニアリゼーションファイルを作成するために適用された設定のレポートを印刷することができます。

16 「保存して終了」をクリックします。

既存のベースリニアリゼーションファイルを変更した場合は、元のファイルを上書きすることを確認します。

これで、新しいメディアプロファイルを作成することができます。または、プロファイルのコネクタを使用して、ベースリニアリゼーションファイルを既存のメディアプロファイルにつなげることができます。

ベースリニアリゼーションファイルの作成

ベースリニアリゼーションの新規作成 (続き)

次の手順を行うときは、黒色点の定義および CMY/K トランジションで最高の結果を出そうとすることをお勧めします。これら 2 つのステップは、CMYK がもっと全体に影響を与える一方、個々のインク制限はがモットの非常に限られた領域にしか影響を与えません。黒色点と CMY/K トランジションの最適な組み合わせを見つけることに集中することで、200%、300%、または 400% の i インク制限の必要がほとんど、あるいは全く無くなります。

1 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

2 次のいずれかを実行してください：

- インクが乾燥するのを待ちます。「測定」をクリックし、画面の指示に従ってチャートの測定を行います。
- 「データのインポート」をクリックし、先のセッション中に作成を開始したベースリニアリゼーションファイルをインポートします。リニアリゼーションプロセスのどの段階においてもデータをインポートすることができます。一度に複数のファイルを読み込む場合は、自動的に適切なチャンネルに振り分けられます。
- 「パッチの表示」をクリックし、ポインターをカラーパッチ上において $L^*a^*b^*$ 値を表示させます。リニアリゼーションプロセスのどの段階においても、現在のパッチを表示することができます。

「CMYK のチャンネル」タブで、Color Tools が最大限のガモットと可能な限りスムーズなグラデーションのためのインク制限とリニアリゼーションカーブを自動的に計算します。必要に応じて、次のステップにより、得られたインク制限およびリニアリゼーションカーブを調整することができます。

「制限」タブにより、リニアリゼーションが作業を開始する前に、ハードなインク制限をプリンタドライバに適用することができます。これは、TX3250r プリンタで繊維メディアに印刷し、ブリードを制御する必要がある場合に非常に便利です。540 dpi と 1080 dpi のデフォルト値は TX3250r プリンタ用に特別に適用されることに注意してください。これらの値は既に非常に適切なものとなっていますが、ここから始めて調整、変更することが可能です。

3 「次へ」をクリックします。

「物理的インク制限」ウィンドウが開きます。このステップでは、先のステップで Color Tools により自動的に決定された標準および標準 / ライト インク カーブを変更することができます。これは、インク消費量、厚さ、粒性等を制御したい場合に重要です。

4 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

5 インクが乾燥するのを待ちます。その後、デフォルト設定を確認します。

- 「中間インク最大限度」および「ライト・インク最大限度」

リニアリゼーションにどのくらい標準/ライトインク Color Tools を使用するかを決定します。ここで入力した値が最大値となります。Color Tools はライトや標準インクの最大可能使用量を選択しますが、ユーザが定義した最大量は超えません。値が低い場合が良い結果となる場合もあります。

結果として得た標準/ライトインクカーブを更新するために、値を変更後、「適用」をクリックします。「印刷」をクリックして、結果を確認することができます。

このアルゴリズムの利点は、ユーザが手動では決して定義することが無かったライト/標準カーブを可能とすることです。結果として得たカーブが「おかしく」見えるかもしれませんが、安心してください！

- ライト・インク最大限度（フルトーン）

この設定は、フルトーン領域に適用される Color Tools ライトインクの最大量を定義します。この機能を VUTEK TX3250r プリンタで使う最も簡単で効果的な方法は、設定を「0」に設定し、フルトーンではライトインクを全く使わないようにすることです。

あなたは、ライトインクカーブがフルトーンでは全て 0% となり、インクの量を大幅に減らすことが分かります。

UV プリンタでは、フルトーンで、一定量のライトインクが必要となります。ライトインクを追加することで、カラーガモットを増やし、ざらつきを大幅に軽減することができます。値を変更して、「値」をクリックします。「印刷」をクリックし、印刷されたチャート上で変更による違いを確認します。

ヒント：

- デフォルトでは、CMYK のライトインク最大限度は TX3250r では 50% に設定されています。これは良い出発点です。これは良い出発点です。
- TX3250r で作業するときは、全てのチャンネルに対してライトインク最大限度（フルトーン）を 0% にすることを検討してください。

- 手動のカーブ編集

手動でライト/標準カーブを変更しないことをお勧めします。やむを得ずそれを行う場合は、カーブ上の点を新しい位置までドラッグしライト/標準カーブを変更します。より正確な位置決めを行うには、キーボードの矢印を使うこともできます。いくつかの点では、意図的に水平移動が無効化されていることに注意してください。

- 「メモ」タブ

「メモ」タブでは、ユーザのリニアリゼーションにメモを添付することができます。例えば、VUTEk の PrintStation 設定（速度、スムージング、キュア、シャッター）を記録することができます。メモはリニアリゼーションレポートに含まれます。

6 「次へ」をクリックします。

「グレー・バランス」ウィンドウが開きます。このステップでは、CMY グラデーションカーブをニュートラルグレーに位置を揃える。

7 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

8 次のいずれかを実行してください：

- インクが乾燥するのを待ちます。「測定」をクリックし、画面の指示に従ってチャートの測定を行います。
- 「データのインポート」をクリックして、ベースリニアリゼーションファイルをインポートします。Fiery XF と一緒にインポートされたファイル等、既存のベースリニアリゼーションファイル（EPL）を開きます。「すべて解除」をクリックし、プリンタ / 印刷構成 / インク の組み合わせのためのこの手順を始めから行います。この手順に従うことにより、リニアリゼーションを 0 から新規作成せずに、既存の EPL のグレーバランスの微調整を素早く効率的に自身の印刷構成に行うことができます。その後、カスタム印刷構成プロファイルを作成することをお勧めします。
- 「パッチの表示」をクリックし、ポインターをカラーパッチ上において L*a*b* 値を表示させます。リニアリゼーションプロセスのどの段階においても、現在のパッチを表示することができます。

Color Tools は「平均デルタ C」の値を表示します。この値は、グレー・バランス全体の彩度（鮮やかさ）における平均誤差を表しています。この値が大きいほど、グレー・バランスの中で色に大きなシフトが発生しています。最適化の余地があるかどうか矢印で示されます。「印刷」をクリックして次のチャートを測定し、必要に応じてこれを繰り返します。デルタ色度が合理的に低い値になり、グレー・バランスが安定するまでこのプロセスを繰り返します。

最後の反復プロセスは、「マイナス (-)」をクリックすることで削除することができます。例えば、誤って間違ったチャートを測定した場合や、先の反復プロセスにより低いデルタ彩度となってしまった場合にこれを修正することができます。すべての反復をリセットするには、「すべて解除」をクリックします。

9 「次へ」をクリックします。

「黒色点の定義」ウィンドウが開きます。この手順で、ユーザのプリンタ、用紙とインクの組み合わせで可能な最も暗い（中性）色を見つけることができます。デフォルトでは、リニアリゼーションで最も暗い点は、CMYKの100 100 100100であると仮定されています。しかし、現実には、C、M、Y、Kの異なる組み合わせにより、より暗い色を生成することが可能となります。この手順によって、最適な組み合わせを見つけて、リニアリゼーションでプリンタのガモットを十分に活用できるようになります。

10 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。チャートは測定可能かつ視覚的要素で構成されています。

11 次のいずれかを実行してください：

- インクが乾燥するのを待ちます。「測定」をクリックし、画面の指示に従ってチャートの測定を行います。測定後、Color Toolsは自動的に「推奨の」黒色点の定義を提示します。この推奨値は、できる限り暗い黒色点に基づいていますが、それでも比較的ニュートラルです。
- 「データのインポート」をクリックして、ベースリニアリゼーションファイルをインポートします。Fiery XFと一緒にインポートされたファイル等、既存のベースリニアリゼーションファイル（EPL）を開きます。
- 「パッチの表示」をクリックし、ポインターをカラーパッチ上においてL*a*b*値を表示させます。リニアリゼーションプロセスのどの段階においても、現在のパッチを表示することができます。

12 視覚的要素を使って、推奨値を確認します。

印刷されたチャート上では、Color Toolsが推奨するパッチ番号（例、パッチ番号13）を検索します。パッチの右側に、その黒色点の明るいバージョンから全ての黒色点までのスムーズで、段階的なトランジションが表示されます。これは、パッチのニュートラル性に関する1つの考えを与えてくれます。

または、別の黒色点の方がいいと思う場合は、それぞれのC、M、Y、Kのボックスに、ターゲットの黒色点となる気に入っているパッチのCMYKの組み合わせを入力します。また、任意のC、M、Y、Kの値のカスタムの組み合わせを入力することもできます。ターゲット黒色点はインク全体の制限とは無関係です。

視覚的要素を使って、インクの厚さ（UVインク）や、ブリード、斑点形成（水性、溶性、油性インク）に関する黒色点の定義を確認します。

「ニュートラルな黒色点だけを一覧表示」チェックボックスにチェックを付けた状態で、「推奨された」黒色点を選択することを推奨します。

ヒント：

- K = 100%から始め、CMY インクの量を減らしていきます。例えば、UV プリ
ンタでは、75 75 75 100 というようにします。
- TX3250r で最も一般的なのは：
 - DirectFlag & 用紙転送：CMYK 50 50 50 100
 - Poplin：CMYK 60 60 50 100

経験豊かなユーザであれば、印刷せずにターゲットの黒色点の定義を入力することが可能です。

13 「次へ」をクリックします。

「詳細制限（中間ライト・インク）」ウィンドウが開きます。この手順では、さまざまな 200%、300%と 400%のインクの制限を適用することもできます。ライトインクは一時的に自動的に Color Tools により減少し、この手順は標準インクに集中します。

14 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

15 デフォルト設定を確認します。

変更を加える前に、印刷されたチャート上でデフォルト設定を確認します。200%、300%、400%のグラデーションを確認してください。インク制限（斑点形成、ブリード、ディテールの損失、インクの厚さによる）を適用する必要がある場合は、適切なボックスにターゲット値を入力します。

- 絶対値を表示

Color Tools は「相対的」および「絶対的」なインク制限を区別します。

例えば、200% のインク制限に対して、160%の「相対的」インク制限を入力することができます。その後、「印刷」をクリックして、結果を確認します。「印刷」をクリックすると、「相対的」なインク制限が 200% に再設定されます。新しく印刷されたチャートを見て、190%を正しい値として使うよう決定することができます。すべてのインク制限を「相対的」に表示することにより、これが可能になります。

その後、「絶対値を表示」チェックボックスをオンにすると、Color Tools が 152 パーセントと表示します。これはインク制限に使用される実際の値です。

インク制限に使用する最終値をダブルチェックする場合は、インク制限の定義には、相対値を使用し、「絶対値を表示」を選択するだけにしておくことをお勧めします。

- CMY/K トランジション

この設定により、「影の領域」のガモット形成とインク使用量をさらに細かく制御できるようになります。これにより、逆作用を及ぼさずにソリッドな影の領域を構築することができます。逆作用は、カラートランジションにより、濃さを増さなければならない場合に逆に明るくなってしまう現象です。

原則として、UV プリンタで逆作用がある場合は、CMY/K トランジションを増やし、影の領域を埋め、逆作用に対処します。

Solvent/Dye-sub (Textile) では、CMY/K トランジションの最高の設定は、高いインクロードからブリードを受け入れるかどうか大きく左右されます。CMY/K のトランジションを増加させると、アンブレラ効果を回避することはできませんが、追加ブリードを受け入れられなくなる可能性があります。アンブレラ効果を回避するために、以下を試すこともできます：

- 印刷したたチャート上で CMY グラデーションを確認します。トランジションのエンドポイントに向かうカラーキャストがある場合、適切なインク制限を適用することにより、これを切り離すことができます。
- 詳細が潰れてしまっていたり、ブリードがあるばあいは、適度なインク制限を 200% の組み合わせに適用します。
- 一般的に、詳細インク制限ステップで K を持つカラー組み合わせで多くのインク制限を適用するよりも、黒色点を調整することをお勧めします。適切な黒色点を見つけることにより、詳細インク制限ステップでインク制限をする必要がほとんどあるいは全くなくなるでしょう。詳細インク制限ステップで適切なインク制限を適用します。
- TX3250r で、測定値からプロファイルを作成し、適切な黒色点の生成設定（黒色幅 > 10 および黒開始 = 5-6）とするなら、詳細インク制限ステップで一定量のブリードが許容可能です。ブリードは広いガモットを達成するのに役立ちます。

プロファイリング中、黒色を生成するために、次のプリセットのいずれかを選択します。

プリセット	用途：
インクジェット デフォルト	VUTEk プリンタを含むすべてのインクジェットプリンタのプリセットのデフォルト
EFI VUTEk TX3250r 直接印刷	フラッグメディア上に印刷するためのプリセット
EFI VUTEk TX3250r 転送印刷	用紙上でまず印刷し、その後他のメディアに転送するためのプリセット

- CK、MK、YK、CYK、YMK トランジションのエンドポイントがすべて非常に暗くなる傾向にある場合は、黒色点生成ステップまで戻り、黒の量を例えば 95% に減らすことができます。上記のトランジションのエンドポイントは一定のカラー キャストを示し、完全な黒にはなりません。
- 詳細インク制限ステップで K を持つすべてのカラーの組み合わせで強いブリードがある場合は、黒色点生成ステップで CMY の量を減らすことができます。様々なインク制限や CMY / K のトランジションを調整するよりも、この方法のほうが素早く簡単に問題を解決できます。
- CMY / K のトランジションで設定されている 2.0 というデフォルト値は、ほとんどの UV プリンタに適しています。
- DirectFlag およびポプリンメディアで作業しているときには、TX3250r の CMY / K のトランジションを 4.0 に設定する必要があります。
- 転写紙では、TX3250r の CMY / K のトランジションを 2.0 以下に調整する必要があります。

16 「次へ」をクリックします。

「詳細制限（最大ライト・インク）」ウィンドウが開きます。このステップで、200%、300%、400%のインク制限で使用されるライトインクの量を制御します。この設定は、先に物理的インク制限ステップで定義したライト / 標準インクの曲線とは無関係です。

まず、デフォルト位置で設定されたスライダーと一緒にチャートを印刷することをお勧めします。

17 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

18 インクの厚さを確認します。

印刷したチャート上で、ブリードや斑点形成、逆作用がないかを確認します。逆作用は、カラートランジションにより、濃さを増さなければならない場合に逆に明るくなってしまふ現象です。

これらのいずれかがある場合、スライダーをさらに左に動かし、組み合わせられたライトインクの量を減らします。通常の場合、これで問題があつと言う間に解決します。

トランジションが滑らかではないと感じる場合、スライダーをさらに右に動かし、組み合わせのライトインクを追加します。一方、望ましくない効果（上記参照）が生じたり、インク消費量が増加します。

スライダーを移動した後、チャートをもう一度印刷し、印刷物上で効果を確認します。

黒い長方形も確認してください。内部の円と星の明るさが、周囲の 100% ブラックの部分より暗くなっている必要があります。逆作用がある場合、「詳細制限 (中間ライト・インク)」ステップで 100 % のブラックのインクの制限を減らします。

19 「次へ」をクリックします。

このステップでは、代表的なカラーパッチを測定することによって、リニアリゼーションの「カラーベース」をキャプチャします。

20 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

21 次のいずれかを実行してください：

- インクが乾燥するのを待ちます。「測定」をクリックし、画面の指示に従ってチャートの測定を行います。
- 「データのインポート」をクリックして、ベースリニアリゼーションファイルをインポートします。Fiery XF と一緒にインポートされたファイル等、既存のベースリニアリゼーションファイル (EPL) を開きます。
- 「パッチの表示」をクリックし、ポインターをカラーパッチ上において L*a*b* 値を表示させます。リニアリゼーションプロセスのどの段階においても、現在のパッチを表示することができます。

22 「次へ」をクリックします。

ベースリニアリゼーションの概要が表示されます。

ベースリニアリゼーションファイルを保存する前に、印刷構成の名前を変更することができます。また、ベースリニアリゼーションファイルを作成するために適用された設定のレポートを印刷することができます。このレポートは JPEG ファイルとして作成され、報告内容を簡単に文書化します。このレポートには、インク制限、リニアリゼーション設定、ライト / 標準インクの曲線、そしてユーザの記入したメモが記載されています。

23 「保存して終了」をクリックします。

既存のベースリニアリゼーションファイルを変更した場合は、元のファイルを上書きすることを確認します。

これで、新しいメディアプロファイルを作成することができます。または、プロファイルのコネクタを使用して、ベースリニアリゼーションファイルを既存のメディアプロファイルにつなげることができます。

印刷メディアプロファイルの最適化

シミュレーション（リファレンス）プロファイルに対して印刷メディアプロファイルを最適化することができます。しかし、まず印字品質を確認し、最適化が本当に必要であることを確認します。

メディアプロファイルを作成するには

1 「プロファイル」から、「ワークフロー」を選択します。

出力デバイスに接続された任意のワークフローを選択できます。ワークフローを選択すると、印刷メディアプロファイルとシミュレーション（リファレンス）プロファイルが自動的に取得されます。シミュレーション（リファレンス）プロファイルは、印刷メディアプロファイルを最適化するとき達成したいターゲットカラーを表しています。

ワークフローで「EFI リニアリゼーション」を選択する場合、次を選択することができます：

- 印刷メディアプロファイルに接続されているベースリニアリゼーションファイル。
- シミュレーション（リファレンス）プロフィール - 例えば、印刷会社の CMYK プロファイルやデジタルカメラの RGB プロファイル。また、ISOcoated v2 等の標準化された ICC プロファイルを使用することもできます。

2 測定デバイスに接続します。

3 「測定デバイスの設定」から使用する測定デバイスを選択します。

「設定」をクリックし、デバイス専用の追加設定を行います。このボタンは、すべての測定機器でご利用いただけません。ES-2000 を使用している場合は、3つの測定条件から選択することができます。これらは以下の通り、ISO 13655 で定義されています：

- M0
照明サンプルの UV コンテンツは定義されていません。測定は、1 ステップで実行されます。
- 測定 1
照明サンプルの UV コンテンツが D50 に定義されています。測定は、2 ステップで実行されます。
- 測定 2
照明サンプルのスペクトラル電力配分が 420 nm ~ 700 nm の波長範囲にあり、波長 400 nm 未満の実質的な放射電力がない状態になければなりません。UV カットに対応しています。測定は、2 ステップで実行されます。

お使いのプリンタに UV カット測定装置が内蔵されている場合、適切なチェックボックスにチェックを入れることで、非 UV カット装置をシミュレートさせることができます。ヨーロッパでは、非 UV カラー値は、通常、プルーフィングで使用されます。

4 「最適化チャート」から、チャートを選択します。

印刷メディアプロファイルを作成するために使用したのと同じチャートを使用することをお勧めします。

- 46

これは、46 カラー・パッチを持つ単純なコントロール・ストリップです。これは小さいので、全てのプリントアウトに適合します。46 カラー・パッチには自動的に計算される追加情報が含まれ、最終シミュレーション（リファレンス）プロファイルが標準の IT8 チャートを使用して作成されたプロファイルと同等の品質を持っていることを確実にします。これにより、よりスムーズな印刷物を得ることができます。

- 234

このチャートは 234 色のパッチを印刷します。

- 928 (IT8 7/3)

このチャートは 928 色のパッチを印刷します。

- 1485 (ECI 2002)

この ECI 2002 チャートには 1485 色に分類されたパッチがあります。このチャートを使用すると、パッチ数が多くなるため、印刷プロファイルの品質が向上します。ISO 規格に合わせて最適化するために、このチャートを選択します。

- 1485 ランダム (ECI 2002)

この ECI 2002 チャートには 1485 色にランダムに配置されたパッチがあります。このチャートを使用すると、パッチ数が多くなるため、印刷プロファイルの品質が向上します。ISO 規格に合わせて最適化するために、このチャートを選択します。

- 1617 (CGATS IT8.7/4)

この IT8.7/4 チャートには 1617 色に分類されたパッチがあります。DIN ISO 標準 12647-7 の基本を形成します。1617 カラーパッチを持つチャートは FOGRA 認定または G7 プロセスで必要です。このチャートは、EFI でインクジェットプリンタ用の印刷メディアプロファイルを作成するために使用されます。

- 1617 ランダム (CGATS IT8.7/4)

この IT8.7/4 チャートには 1617 色にランダムに配置されたパッチがあります。DIN ISO 標準 12647-7 の基本を形成します。1617 カラーパッチを持つチャートは FOGRA 認定または G7 プロセスが必要です。

- 4028

このチャートは 4028 色のパッチを印刷します。これは、EFI で Fiery トナープリンタ用の印刷メディアプロファイルを作成するために使用されます。

5 必要に応じて、「オプションで追加する特性化データの使用」を選択します。

この設定により、以下からオリジナルの IT 8 の文字化データを読み込むことができます。

- シミュレーション（リファレンス）プロファイルシミュレーション（リファレンス）プロファイルの作成

選択するデータが、選択したプロファイルに必ず一致するようにしてください。各 IT8 リファレンス・プロファイルに含まれているデータのリストは、「Server\IT8_CharacterizationData」フォルダにある Readme ファイルに含まれています。ISO 標準「ISOcoated v2」に従って最適化したい場合は、FOGRA39L74.IT8 を選択します。

- 異なる印刷メディアプロファイル

異なる印刷メディアプロファイルから IT8 文字化データを選択することで、あるプリンタの印字品質を別のプリンタに合わせるすることができます。

元の測定データがない場合は、このチェックボックスをオフのままにしてください。

6 「最適化方法」から、次のいずれかの最適化方法を選択します。

- 印刷メディアプロファイルを最適化する

この設定により、最適化された結果が、直接印刷メディアプロファイルに確実に適用されるようになります。

- 新規の L*a*b* 補正プロファイルの作成

この設定により、拡張子が 3cc のファイルが作成されます。また、より正確なプリンタの調整が可能になります。L*a*b* 最適化ファイルを適用することにより、デルタ E 値を減らし、カラー精度を大幅に改善することができます。

- 既存の L*a*b* 補正プロファイルの最適化

この設定により、以前に作成した L*a*b* 最適化ファイルを選択、最適化できるようになります。まだ以前の L*a*b* 最適化ファイルを作成していない場合は、デフォルトファイル「neutral.3cc」を読み込み、最適化することができます。既存の L*a*b* 補正プロファイルを最適化することにより、より簡単に最適化を得ることができます。

7 「用紙の白色部分設定」から、次のいずれかを選択します：

- デフォルト - 絶対カラーメトリック

この設定は、シミュレーション（リファレンス）プロファイルからレンダリングインテント「絶対カラーメトリック」を適用します。

- 用紙白を抑制

この設定は、用紙の白色部分シミュレーションを行わずにレンダリングインテント「絶対カラーメトリック」を適用します。レンダリングインテント「絶対カラーメトリック」が Fiery XF の「カラーマネジメント」ペインで選択されていることを確認します。

- 現在の用紙白を維持（変更なし）

この設定は、最適化から用紙の白色部分を除外します。しかし、印刷メディアプロファイルのレンダリングインテント「絶対カラーメトリック」は適用され続けます。

8 最適化コントロールのための基準を選択

測定装置が内蔵されているプリンタでは、最適化手順は自動的に繰り返すことができます：

- 最適化は、定義されたサイクル数で繰り返すことができます。
- 必要なデルタ E の平均値に到達するまで、最適化を繰り返すことができます。

両方のチェックボックスを選択した場合、定義されたサイクル数に達する前に最適なデルタ E 値が達成される場合、サイクル数が削減されます。定義されたデルタ E の平均値が達成できない場合は、定義されたサイクル数が実行されたときに最適化手順が停止します。

9 「次に進む」をクリックします。

「印刷および最適化」ウィンドウが開きます。

10 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

11 インクが乾燥するのを待ちます。インクが乾燥するのを待ちます。画面の指示に従ってチャートの測定を行います。

測定後、「印刷および最適化」ウィンドウに戻ります。

最初の測定は、最適化の基礎を形成します。

- 「パッチの表示」をクリックし、ポインターをカラーパッチ上において L*a*b* 値を表示させます。最適化プロセスのどの段階においても、現在のパッチを表示することができます。
- 「データのインポート」をクリックし、先のセッション中に作成を開始した最適化ファイルをインポートします。最適化プロセスのどの段階においてもデータをインポートすることができます。
- 「測定」をクリックし、再びチャートを測定します。最適化プロセスのどの段階においてもチャートを再測定することができます。

12 「最適化」をクリックします。

お使いのプリンタに測定装置が内蔵されており、それを最適化のために選択している場合、このステップは必要ありません - 最適化は定義された基準に従って自動的に実行されます。

最適化テーブルは平均デルタ E、最大デルタ E、用紙の白色部分、ターゲットガモット内にある色のパーセンテージを表示します。

上向きの緑の矢印は、プロファイルがその後最適化可能であることを示しています。停止マークは、これ以上の最適化が可能ではないことを示しています。

13 それ以上の最適化ができなくなるまで、手順を繰り返します 10 12

更なる最適化が可能ではないときは、最終印刷物上で目視し、カラー・グラデーション等が過剰最適化による悪影響を受けていないことを確認するのに便利です。

14 最適化テーブルで、「結果の最高のセット」をクリックし、「完了」をクリックして最適化を保存します。

15 「はい」をクリックし、選択した反復内容を新しいプロファイルとして選択することを確認します。

「別名で選択したプロファイルを選択する」ダイアログボックスが開きます。

16 L*a*b* 最適化ファイルの名前を入力して、「保存」をクリックします。

「最適化プロファイル」ダイアログボックスが表示されます。

17 次のいずれかを行います：

- 「はい」をクリックし、ワークフローのための L*a*b* 最適化ファイルを選択します。
- 「いいえ」をクリックし、ワークフローでこれを選択せずに L*a*b* 最適化ファイルを「バランス」フォルダに保存します。Fiery XF 中、これをいつでも選択できます。L*a*b* 最適化ファイルを選択する方法に関する詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

プロフィールコネクタ

次の目的でプロフィールコネクタを使用することができます：

- 印刷メディアプロフィールやデバイスリンクプロフィールにベースリニアリゼーションファイルを接続することができます。ソースプロフィールは、印刷メディアプロフィールやデバイスリンクプロフィールが、ジョブの処理中に適用されるかどうかを決定します。

埋め込まれている CMYK ソース・プロフィールを持つジョブでは、デバイスリンクプロフィールが適用されます。埋め込まれている RGB ソース・プロフィールを持つジョブでは、印刷メディアプロフィールが適用されます。

- 新しいメディアプロフィールを作成せずに、お使いのプリンタの出力品質を向上させるために作成した新しいベースリニアリゼーションファイルを接続することができます。

また、プロフィールコネクタを用いて、既存のベースリニアリゼーションファイルに迅速に変更を加えることができます。たとえば次のように入力します。

- Dot Creator で作成したスクリーニングファイルを v2 スクリーニングのために組み込むことができます。
- 印刷方向を変更することができます。
- インク全体の制限を変更することができます。
- 印刷されたジョブの長さにおける不整合を修正することができます。

ベースリニアリゼーションファイルを編集して接続するには

- 1 「プリンタのリニアリゼーション」から「選択」とをクリックし、ベースリニアリゼーションファイルを選択します。

このベースリニアリゼーションファイルは、新しい印刷メディアプロフィール用のベースリニアリゼーションファイル、または既存のベースリニアリゼーションファイルです。

- 2 「メディア名」から、メディア名を入力します。

ここで入力した名前が Fiery XF で表示されます。

その後、新しいメディア名を入力することをお勧めします。新しいメディア名を入力した場合、メディアはそれに接続されるベースリニアリゼーションファイルをただ一つ持っていることとなります。

既存メディアの名前を入力した場合は、印刷メディアプロフィールはそれに接続される複数のベースリニアリゼーションファイルを持っていることを意味します。Fiery XF では、どのベースリニアリゼーションファイルを適用するか選択することとなります。

3 次のいずれかを実行してください：

- 「印刷メディアの長さ補正」から、実際のメディアの長さターゲットとするメディアの長さを入力します。

ジョブの出力の長さにおける不整合を修正することができます。不整合は、プリンタとメディアの特定の組み合わせにより生じます。

サンプルフォルダにある Lineal_01.ps ファイルは、印刷するイメージの長さを調整するのに役立ちます。これは 0.5 m x 0.5 m の長さの幅のルーラーマークで構成されています。印刷ジョブのサイズを調整する方法の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

- 「片方向印刷」を選択します。

双方向の印刷は、印字ヘッドが双方向で印刷するのでより高速になります。しかし、双方向の印刷と比較すると一方向の印刷ではより正確な結果が得られます。

- インク全体の制限を変更します。

表示される値は、現在のベースリニアリゼーションファイルに保存された値です。ベースリニアリゼーションファイルを新規作成せずにインク全体の制限を変更することができます。しかし、この設定は、結果を確認するためのチャートの印刷や測定を行う機会が無い場合、経験豊かなユーザが素早く問題を解決するためにのみ使用します。

- 「Dot Creator スクリーニング」から、「選択」をクリックし、スクリーニングファイルを選択します。

この設定を用いて、v2 のスクリーニングのために作成されたスクリーニングファイルを実行します。より詳しい情報は、オンラインヘルプを参照してください。

4 「Dot Creator スクリーニング」から、「選択」をクリックします。スクリーニングファイルを選択し、「開く」をクリックします。

5 「プロファイルへの接続」から、次のいずれかまたは両方の操作を行います。

- 「印刷メディアプロファイル」チェック・ボックスを選択し、「選択」をクリックします。印刷メディアプロファイルを選択し、「開く」をクリックします。
- 「デバイスリンク」チェック・ボックスを選択し、「選択」をクリックします。デバイスリンクプロファイルを選択し、「開く」をクリックします。

6 「OK」をクリックして終了します。

これで、Fiery XF で完了したキャリブレーション設定を選択することができます。より詳しい情報は、オンラインヘルプを参照してください。

再リニアリゼーションを実行する

すべてのプリンタは（大量生産された同機種プリンタでさえ）、わずかに異なる色のプロパティを持っています。これに加えて、プリンタの色再現は、時間経過に従って変わることがあります。

再リニアリゼーションを実行することにより、色の逸脱を補正することができます。再リニアリゼーションは、インク濃度を印刷メディアプロファイルが作成されたリファレンスプリンタのものに調整するため、確実にプリンタの色再現プロパティが一定のままになります。

次のような場合には再リニアリゼーションを実行することをお勧めします：

- 実際にご使用のプリンタ上では作成されていないメディア・プロファイル（たとえば、Fiery XF に付属しているメディアプロファイル）を使用する場合。
- プリンタヘッドを交換した後。
- プローフが先のプルーフ結果と一致しなくなった場合。例えば、インクのにじみがあったり、インクがメディア上に均等に適用されていない場合や、メディアにインクが多く使用されすぎているために印刷が荒れている場合。

原則として、再リニアリゼーションは、2 週間に 1 回程度の間隔で実行することをお勧めします。

測定によりプリンタを再リニアリゼーションするには

測定によりプリンタを再リニアリゼーションする際は、ベースリニアリゼーションファイルでインク濃度を最適化します。

- 1 測定デバイスに接続します。
- 2 「ベースリニアリゼーション」から「選択」をクリックし、ベースリニアリゼーションファイルを選択します。
- 3 「測定デバイス」から使用する測定デバイスを選択します。

「設定」をクリックし、デバイス専用の追加設定を行います。このボタンはすべての測定デバイスで使用できるわけではありません。ES-2000 を使用している場合、これら 3 つの測定条件を選択することができます。これらは以下の通り、ISO 13655 で定義されています：

- M0

照明サンプルの UV コンテンツは定義されていません。測定は、1 ステップで実行されます。

- 測定 1

照明サンプルの UV コンテンツが D50 に定義されています。測定は、2 ステップで実行されます。

- 測定 2

照明サンプルのスペクトラル電力配分が 420 nm ~ 700 nm の波長範囲にあり、波長 400 nm 未満の実質的な放射電力がない状態になければなりません。UV カットに対応しています。測定は、2 ステップで実行されます。

お使いのプリンタに UV カット測定装置が内蔵されている場合、適切なチェックボックスにチェックを入れることで、非 UV カット装置をシミュレートさせることができます。ヨーロッパでは、非 UV カラー値は、通常、ブルーフィングで使用されます。

測定装置が内蔵されているプリンタでは、最適化手順は自動的に繰り返すことができます：

- 最適化は、定義されたサイクル数で繰り返すことができます。
- 必要なデルタ E の平均値に到達するまで、最適化を繰り返すことができます。

両方のチェックボックスを選択した場合、定義されたサイクル数に達する前に最適なデルタ E 値が達成される場合、サイクル数が削減されます。定義されたデルタ E の平均値が達成できない場合は、定義されたサイクル数が実行されたときに最適化手順が停止します。

4 「印刷」をクリックします。

チャートが印刷されます。

5 インクが乾燥するのを待ちます。インクが乾燥するのを待ちます。画面の指示に従ってチャートの測定を行います。

このステップ中に、測定されたインク制限は、ベースリニアリゼーションファイルのインク制限と比較されます。

測定後、「設定」ウィンドウに戻ります。デルタ E の結果と、推奨の処理方法が共に表示されます。次に進む前に、次のいずれかの操作を実行できます：

- 「詳細設定」をクリックし、L*a*b* と比較されるデルタ E の結果を表示します。「OK」をクリックして、「設定」ウィンドウに戻ります。
- 「パッチの表示」をクリックし、ポインターをカラーパッチ上において L*a*b* 値を表示させます。再リニアリゼーションプロセスのどの段階においても、現在のパッチを表示することができます。
- 「データのインポート」をクリックし、先に得た測定値をインポートします（例えば、Fiery XF でサポートされていない測定装置で得られた測定データ）。測定値は、ベースリニアリゼーションファイルを新規作成するための基本として使用されています。再リニアリゼーションプロセスのどの段階においてもデータをインポートすることができます。
- 「測定」をクリックし、再びチャートを測定します。リニアリゼーションプロセスのどの段階においてもチャートを再測定することができます。

6 次のいずれかを行います。

- 測定されたデルタ E が許容範囲内にある場合は、プリンタの再リニアリゼーションプロセスに進みます：

「再リニアリゼーション」をクリックします。再びチャートを印刷、測定します。このステップの間、中間のインク制限（20%、40%等）はベースリニアリゼーションファイルのインク制限に調整されます。100%のインク制限は影響を受けません。

- 測定されたデルタ E が高すぎ、改善が可能な場合は、プリンタの再リニアリゼーションプロセスを開始する前に 100%のインクの制限を再定義します：

「再インク制限および再リニアリゼーション」をクリックします。最初のチャートを印刷、測定します。このステップ中に、100%のインク制限は、ベースリニアリゼーションファイルのインク制限に調整されます。

必要に応じて、「詳細設定」ウィンドウで、インクカラーのインク全体の制限を減らすことができます。[OK] をクリックして変更を保存します。[OK] をクリックして変更を保存します。

「次へ」をクリックします。2つ目ののチャートを印刷、測定します。このステップの間、中間のインク制限（20%、40%等）はベースリニアリゼーションファイルのインク制限と一致するように調整されます。100%のインク制限は影響を受けません。

さらに最適化を行うことができるかもしれません。「最適化&印刷」をクリックし、再リニアリゼーションプロセスを繰り返します。このプロセスは、必要なだけ何度でも実行できます。複数の測定値セットを作成する場合、最良の結果は、最適化テーブルに緑色で強調表示されます。

再リニアリゼーションを保存する前に、最適化の結果の詳細が記載されたレポートを印刷することができます。レポートには再リニアリゼーションが作成された印刷条件の詳細も記載されています。

7 「終了」をクリックして、再リニアリゼーションを完了します。

現在のベースリニアリゼーションファイルを上書きするか、新しい名前でも結果を保存して新しいベースリニアリゼーションファイルを作成することができます。

これで、Fiery XF で新しいベースリニアリゼーションファイルを選択することができます。より詳しい情報は、オンラインヘルプを参照してください。

視覚的補正を行う

次の目的で、「視覚補正」ツールを使用することができます：

- 個々のインク チャネルのインク曲線を変更する
- 1ビットファイルによく適用される版特性を修正する

版特性は、スクリーンドットが版セッターに出力される際のサイズを制御します。視覚的補正ツールを使って、異なる印刷構成上で異なるドットゲインの補正を行うことができます。

カラーマネージメントツールは、通常、適切にカラーマネージメントを適用するのに入力されるリニアデータに依存しているため、カラー精度の高い出力のためには1ビットファイルのノンリニア版特性を補正する必要があります。版特性を修正する決まった方法はありません。しかし、コントーンファイル形式の場合には、簡単な方法を適用することで、50%パッチに5%増加することで55%を得ることができます。

視覚的補正は、完全に手動の調整に基づいているので、使用経験の豊富なユーザーによる応急的な方法としてのみ実行される必要があります。

視覚的カラー補正を実行するには

1 「補正の種類」から、次のいずれかの操作を行います：

- 「再リニアリゼーション」をクリックし、個々のインク チャネルのインク曲線を変更する。この種の補正は Fiery XF でのカラー マネージメント後に適用されます。
- 「版補正」をクリックし、1ビットファイルの版特性を変更するか、任意のサポートされているファイル形式に合わせて入力データを変更します。この種の補正は Fiery XF でのカラー マネージメント前に適用されます。

版特性を編集することもできます

2 「カラーモード」から、「プリンタのインクカラー」を選択します。

適切な色のラジオ ボタンが利用可能になります。

3 編集したいインクカラーを選択します。

すべてのインクカラーにグローバル変更を適用することも、各インクごとに変更することもできます。たとえば、グローバル変更を適用する CMYK を選択するか、C、M、Y、Kそれぞれを個別に選択し、変更します。

4 インク曲線に沿って色を増量または減量します。

たとえば、イエローとシアンを減らすことによって、緑の色合いを修正できます。

出力インクの比率を変更するには、テーブルに入力値および出力値を入力するか、曲線上の新しい位置までポイントをドラッグします。

次の操作により、変更を元に戻すことができます：

- テーブルの行を選択し、「削除」ボタンをクリックします
- カーブに沿ってノードを選択し、ダイアグラムの外へドラッグします
- 「リセット」をクリックすると全ての変更を削除できます

5 必要に応じて、ガンマ設定やリニア設定を変更します。

- ガンマ

この設定はすべてのカラー値の明度、主に中間のカラー・トーンに影響を与えます。

- リニア

この設定は、すべてのカラー値の明度に等しく影響を与えます。

適切なスライダを動かすか、ボックスに値を入力します。

6 「OK」をクリックします。

視覚的再リニアリゼーションを実行すると、視覚的補正ファイル (*.vcc) が作成されます。Fiery XF における視覚的補正ファイルの選択に関する詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

視覚的版補正を実行すると、版補正ファイル (*.vpc) が作成されます。Fiery XF における版補正ファイルの選択に関する詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

用語集

この用語集では、本書で使用されている用語について簡単に説明します。

ベースリニアリゼーション

プリンタの濃度特性は線形ではなく、50% 付近で最大色濃度が得られます。そのため、プロファイル作成用のテストチャートには、これより高い濃度に対する差分カラーパッチがありません。

ベース・リニアリゼーションは、プリンタの濃度曲線をリニアにし（入力値 = 出力値）、それによって ICC 互換のカラー・マネジメントに重要な基礎となります。

C

6,774K（ケルビン）を表わす色温度で、ほぼ正午の太陽の光に相当します。

キャリブレーション設定

キャリブレーション設定は印刷条件の設定を定義し、プリンタの動作が確実にメディアに最適なように調整されます。

彩度の差異

を [デルタ Ch](#) 参照

CIELAB

1931 年に Commission Internationale d'Eclairage（CIE）がカラー測定の国際標準として提唱したモデルに基づくカラーモデル。1976 年、このモデルは改正され、CIELAB と名付けられました。L*a*b* カラーは、デバイス独立型の知覚に合わせたものとして作成されました。L*a*b* カラーは、輝度または明度成分（L*）と彩度成分で構成されています：a* 成分（グリーンからレッド）および b* 成分（ブルーからイエロー）。

CIELCH

直角座標の代わりに明度、彩度および色相角の円柱座標を使用する、CIELAB に似たカラースペース。

版特性の補正

1 ビットファイルの非線形の版特性を、カラーマネジメントで処理される前に直列化する機能。これにより、連続直線トーンのデータをベースにした用紙プロファイルを使用できるようになります。

1 ビットファイルで計算された非線形の版特性から色精度プルーフを作成するには、非線形 1 ビットファイルを使って IT8 ターゲットに基づく用紙プロファイルが必要です。

コンポジットジョブ

コンポジットジョブは、すべてのカラー情報を 1 つのファイルに含んでいます。これを一枚のシート上に印刷することができます。

「分版ジョブ」も参照してください。

CSV

Verifier でカラー測定結果を保存するためのファイル形式。CSV ファイルは、どのスプレッドシート・アプリケーションでも開いて編集できます。

デルタ Ch

2 つの色の間の CIE a^*b^* カラースペースの距離。

デルタ E

2 つの色の間の CIELAB カラースペースの距離。デルタ E は、カラーマネージメント環境で全体的なカラートレランスを確認するために使用されます。

デルタ E 2000

デルタ E CIE 94 色差式の最初のメジャーバージョン。L* は認識されている明度の違いを正しく反映していると想定する dE 94 とは異なり、dE 2000 では、カラーが明度の範囲のどこにあるかに応じて、L* の重みづけが変わります。

デルタ E 94

3D 楕円をコンテナとして使用する、色承認のためのトレランスシステム。CIE 94 は、CMC に似ていますが、色相輝度の調整にいくぶん劣ります。CIE 94 の色は、人間の目に見える色の差異と 95% 一致しています。CIE 94 は、塗料および塗装産業で主に使用されています。

デルタ E CIE 76

1931 年に Commission Internationale d'Eclairage (CIE) がカラー測定の国際標準として提唱したモデルに基づくカラーモデル。1976 年、このモデルは改正され、CIELAB と名付けられました。L*a*b* カラーは、デバイス独立型の知覚に合わせたものとして作成されました。L*a*b* カラーは、輝度または明度成分 (L*) と彩度成分で構成されています：a* 成分 (グリーンからレッド) および b* 成分 (ブルーからイエロー)。

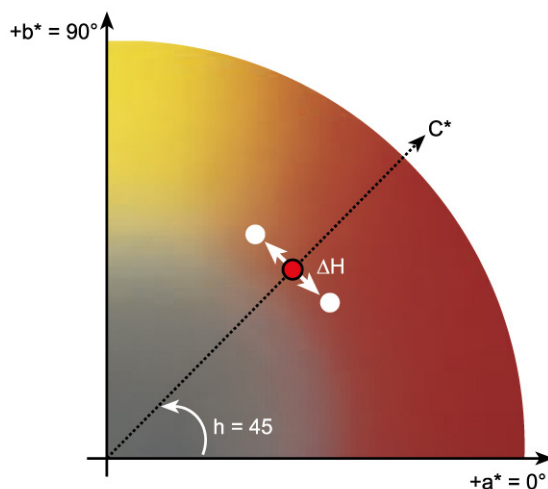
デルタ E CMC

CIELCH に基づくトレランスシステム。色を 3D の楕円で表現し、人間の目に見える通りに色を表します。CIE の色は、人間の目に見える色の差異と 95% 一致しています。CMC は、主に繊維産業で使用されています。

デルタ H

色相差。カラーホイール（色相環）では、色相は2つのカラー間の角度で定義されています。

デルタ H



「色相」も参照してください。

デルタ T

ISO 12647 標準は、デルタ T を通常プリントショップなどで言われるドットゲイン（視覚的な部分 - 光のトラップ効果および機械的な部分 - ドットの広がりを含むドットゲイン）とは異なり、純粋なドットゲインのカラーメトリック値として定義しています。

ドットゲインは純粋な原色のみで測定できます。たとえば、シアンのフルトーンをオフセット印刷をシミュレートしてインクジェットプリンタに出力した場合、CMYK 値は「100, 0, 0, 0」とはならず、マゼンタ、イエロー、ブラックを含むシアンになります。

デバイスリンクプロファイル

デバイスリンクプロファイルは、プリンタと印刷メディアタイプの固定された組み合わせを示します。

デバイスリンクプロファイル：は、Color Profiler Suite によって生成されます。デバイスリンクプロファイルは、プロファイルコネクタを使ってベースリニアリゼーションファイルと印刷メディアプロファイルに結合する必要があります。Color Tools でプロファイルコネクタがで利用可能です。

ドットゲイン

をトーン値参照

最終ページ

TIFF/IT ファイルや Scitex CT/LW ファイルの多くは、最終ページ付きで作成されます。最終ページファイルには、CT ファイルと LW ファイルから抽出された情報が含まれています。

- ・ CT ファイルと LW ファイルが同じジョブに属していることを明確に認識できる
- ・ 写真が、必ず、最終出力ファイル内の右座標に正しく配置される

最終ページは、ページの左上隅に配置されない写真を持つジョブを出力する場合に不可欠です。

ガンマ

元の色と再現した色間のコントラストの割合。「1」のガンマ値は、元のプルーフと印刷したプルーフが同じコントラスト幅であることを意味します。

ハーフトーンスクリーニング

連続トーンイメージを、均等に配置されたドットのパターンに変換するプロセス。ドットの濃さは常に一定ですが、サイズが変化します。印刷領域のカラートーンは、このドットのサイズに左右されます。各ドットのサイズが大きいほど、再現されるカラートーンは暗くなります。

色相

色の際立った波長の範囲を表わします。色のシステムまたはモデルは、色を色相、彩度、明度によって定義します。色相は黄色や緑色などの色合いを表わし、彩度は色の強度を、明度は色の明るさを表わします。

JDF

Job Definition Format。製版、印刷、その他の各工程におけるやり取りを標準化するためにグラフィックス産業で使われているファイル形式。

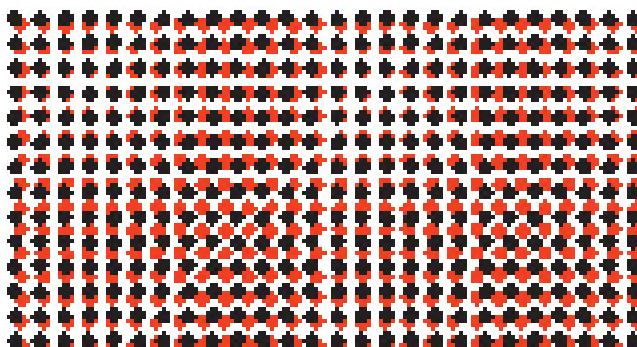
JDF ファイルには、印刷の解像度や印刷メディアなど、色再現に影響する設定がすべて含まれています。

L*a*b*

を [CIELAB](#) 参照

モアレ

ハーフトーンスクリーン間の相対角度が適切でないために生じる干渉パターン。各ハーフトーンスクリーン間の角度を 30 度に保てばモアレを最小限に抑制できます。ただし、90 度の角度内で 4 色を振り分ける必要があるため、これは不可能です。この問題への対処策として一般的なのが、最も明るく、視覚的に最も目立たないイエローをシアンから 15 度だけ離し、各ハーフトーン角度を垂直軸から 7.5 度ずつ回転する方法です。



ページ

シート上のイメージです。でサポートされているファイル形式すべてが配置可能です。ネスティングでは、複数のページを 1 枚のシート上に配置可能です。

PDF

Portable Document Format。無償の Adobe Reader™ を使って異なるプラットフォームで表示および印刷できる、文書のフォーマット手法。

印刷構成セット

印刷構成設定には、印刷メディアプロファイルに結合されているベースリニアリゼーションファイルの詳細が含まれています。

プリンタリニアリゼーション

色の濃度を再調整し、ベースリニアリゼーションの作成に使用した元の状態にプリンターを戻すための処理。

カラーの量

各インクチャンネルの最大インク量を定義し、カラーの過飽和やブリーディングを防ぐための処理。

Remote container

イメージファイルと設定の送信に使用するファイル形式。これは、主に、これは、Verifier と一緒に使用されます。Remote container では、pdf ファイル（印刷ファイル）と jdf ファイル（設定ファイル）で構成されており、これらは拡張子 RPF を持つ圧縮ファイル内に収められています。

RGB

レッド、グリーン、ブルーの光を個別に取り込み、組み合わせてフルカラーイメージを作成する、デジタルカメラやコンピュータモニターで採用されている補助カラーシステム。

分版ジョブ

印刷機では、一度にインク一色のみが文書上に印字されます。プレスで使用されている各印刷版は単色成分で構成されています。

分版ジョブは、プロセス印刷用に、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック (CMYK) の4版に分けるか、または、スポットカラー印刷に必要な版数に分ける (一色につき一版) アートワークです。各分版ジョブは、シングルプロセスまたはスポットカラーで印刷します。

「[コンポジットジョブ](#)」も参照してください。

スクリーン角度

ハーフトーンスクリーンが回転され、印刷される角度。4色分解の各要素は、色の重複によるモアレ効果を抑止するため、特定の角度を付けて配置されたスクリーンを通じて印刷される必要があります。スクリーンは正確に配置する必要があります。さらに、色の各要素が印刷される順序も、仕上げ印刷イメージに影響を与えることがあります。

「[ハーフトーンスクリーンニング](#)」および「[モアレ](#)」も参照してください。

スクリーン線数

ハーフトーンスクリーンに含まれるドット列の1インチあたりの数。スクリーン線数の値が大きければドットのサイズは小さくなり、トーンの変化が滑らかに見えるようになります。

「[ハーフトーンスクリーンニング](#)」も参照してください。

シート

シートとは、ネスティング機能での出力サイズを表わします。このサイズは、出力デバイスで定義された印刷メディアサイズと同等、以上、以下のいずれでもかまいません。定義されたシートサイズがプリンタでサポートされているメディアサイズより大きい場合には、ジョブがタイリングされて出力されます。

System Manager で

システム設定は、ユーザ、ワークフロー、および出力デバイスで構成されています。これは、ファイル入力からファイル出力まですべての作業プロセスを処理します。

TIFF/IT

イメージデータが TIFF/IT 形式に保存される場合、ジョブのピクセルデータは2つの異なるファイルに保存されます。

- ・ CT (連続トーン) ファイルには、低解像度およびハーフトーンのデータ (写真など) が記述されます。CT ファイルは、スポットカラーごとに作成されることもあります。
- ・ LW (ラインワーク) ファイルには、高解像度のテキストまたはライングラフィックスが記述されます。

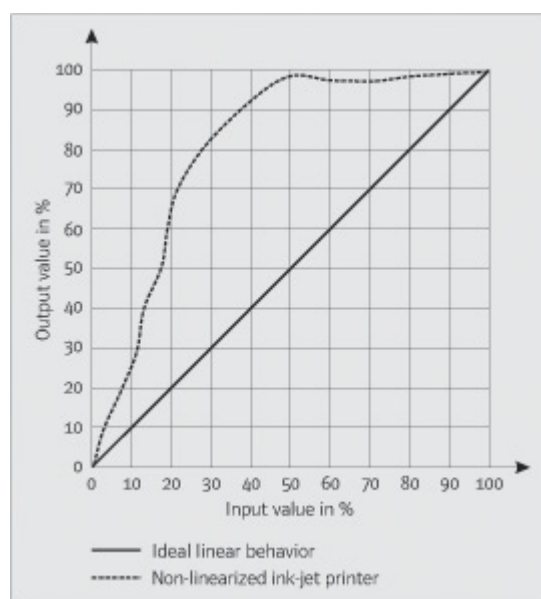
ジョブを出力するには、これらのファイルをもう一度結合する必要があります。

「最終ページ」も参照してください。

インク全体の制限

全体のインク制限は、プリンタが色の最大濃度を実現するポイントを表します。

ほとんどのインクジェットプリンタでは、色濃度は線状に上がりません。多くの場合、グラフにあるとおり約 50% で色の最大濃度に達します。



トーン値

メディア上にインクが適用された時のハーフトーンドットの広がり量。この広がりのため、カラーはより暗いまたはより強いカラーになります。トーン値の度合いは、通常プレスの種類またはメディアの吸収性に拠ります。

たとえば、スクリーン印刷では濃度が 15% 増加するため、50% ブラックのベタの画像は、印刷すると約 65% ブラックで表示されます。

白色点

印刷において、白色点是用紙の白い部分を表します。比色用語において、白色点は、白色光源または他の放射オブジェクトの色度として定義されています。白色点は、対応する色温度や色度座標においても使用される言葉です。

XYZ

CIE（Commission Internationale de l'Éclairage）が開発したデバイス独立型のカラーモデル。RGBの値は、 x 、 y および z を座標として使用するシステムに数学的に変換されます。 x および z 値に特定の知覚的相互関係がない限り、 y 値は明度（輝度）を表します。

索引

A

Adobe のプリントエンジン 99
数の増加 370
切り替える 99
APPE 99

C

Color Editor
起動する 292
設定 294
Color Tools 156
CPSI 99

D

Dot Creator 359
起動するきどうする 363

E

EPS ジョブ検出 100

F

Fiery Global University 400
Fiery XF
言語 32
更新 175
測定システム 32
アンインストール 401
クリーンアップ 385
パスワード 58
プログラム
構造 380
表示、保存 73
ウィンドウ 27
フォルダ、デフォルトの変更 384
ログオフ 37
Fiery XF クライアント
起動する 20, 23
終了 36
Fiery XF コントロール 18
終了 21
処理 20
アイコン、表示 18, 21

Fiery XF サーバ
起動する 22
停止 20
ログイン 23
Fiery XF ファイル、アップロード 178
Fiery XF の
コンター裁断情報 242
Fiery XF の終了 36
FOTOBA のクロップマーク 237

G

Grommet マーク 234
「詳細レイアウト」で 261

I

In-RIP セパレーション 101
ISO 対応プルーフ、実現 327, 337
i-cut マーク 244
「詳細レイアウト」で 261

J

JDF 267
コンテンツファイル 272
ジョブ情報 272
チケット 273
プリント MIS 268
Job Explorer 27
カスタマイズ 28

K

KIPCut のクロップマーク 239

P

PANTONE PLUS スポット カラーライブラリ 290
PDF ジョブ 99
単一のページを読み込む 107
非埋め込みフォント 106
ページサイズの定義 103
PDF プリントエンジン 99
PostScript 3 エンジン 99
PostScript ジョブ 99

R

- Remote Container
 - 作成 353
 - 内容 353
- RIP 解像度 369, 375
- RIP して即時に印刷 369, 375

S

- Scitex ジョブ 108
- System Manager 30
 - カスタマイズ 58
- System Manager で
 - システムコンフィグレーション設定 58

T

- TIFF/IT ジョブ 108

U

- Unidriver、印刷 200
- USB デバイス、問題 398
- USB デバイス
 - 問題 398

V

- Verifier
 - Fiery XF にログオンする 352
 - 起動するきどうする 330
 - 設定 331
 - 測定データ、読み込みと保存 349
 - 明度の設定 349
 - サイト間での色精度 354
 - デルタ E フォーマット 348
 - リモート環境 353
- Verifier の
 - カスタマイズ 345

W

- Windows ユーザ、設定 197

Z

- Zünd 246
- Zünd カットセンターに
 - 印刷 246
- 位置合わせ
 - フッター 141
- 位置揃え
 - ネスト済みページ 120

印刷

- Caddon キャビネット 229
- Fiery 出力デバイスへ 224
- Unidriver を使用 200
- VUTEk プリンタへ 226
- 部数 192
- 問題 392
- 「詳細レイアウト」で両面印刷 261
- ジョブ 34

印刷中

- Fiery XF から直接 191
- 印刷およびカットデバイス 248
- 未定義のスポット カラー 285
- 優先度
 - 高 373
- ジョブの長さ、調整 376
- ファイル 223

印刷特性、シミュレーション 377**印刷範囲外の余白、表示 90****印刷およびカットデバイス、設定 248****印刷の****問題 392****印刷メディアサイズ****仮想 35****プリンタで 61****印刷メディアプロファイル****問題 396****サードパーティ 179****仮想プリンタ****設定 212****による印刷 213****仮想プリンター****Fiery XF での設定 212****仮想プリンタを使った****印刷 212****環境設定、バックアップと復元 277****起動****Fiery XF クライアント 23****Fiery XF サーバ 22****検証結果の****印刷 344****承認 334****分析 339****言語、ユーザインタフェース 32****更新****Fiery XF 175****再リニアリゼーション 170**

- 最適化プロファイル
 - 作成 162
 - 選択 163
- 作業カラースペース、適用 104
- 削除
 - 一時ファイル 385
- 視覚的カラー補正 172
- 出力インテント、埋め込み 145
- 出力デバイス、設定 61
- 出力デバイス/プリンタ
 - 設定 61
- 照明条件、シミュレーション 379
- 詳細レイアウト 261
- 色
 - 反転 188
- 色域 142
 - 比較 169
- 色精度
 - 検証 323
 - 最適化 323
- 色調整 185
- 色濃度、検証 316
 - サイト間 353
- 色反転 188
- 切り取りサーバ 251
- 切り取りサーバに
 - 印刷 251
- 設定
 - ジョブの統合 131
 - タイリング 121
 - ネスティング 111
 - マルチコピー 128
 - ユーザ 58
 - ワークフロー 59
- 全域チェック、スポット カラー 305
- 双方向印刷
 - 無効 376
 - 有効化 370
- 測定単位、変更 32
- 測定システム 32
- 速度、ジョブ 368
- 提供品目 15
- 特大印刷 95
- 配置
 - ページ 82
- 配置ツール 82
- 白色点定義、スポット カラー 296

- 版特性
 - 修正 173
 - 選択 174
- 非埋め込みフォント、PDF ジョブ 106
- 表示オプション 82
- 品質、ジョブ 374
- 不純色、除去
 - ブラック 186
 - プロセスカラーとセカンダリカラー 186
- 負荷分散 371
- 分版ジョブ 109
- 分版ジョブ、ジョブ検出 100
- 文脈対応ヘルプ 17
- 変更
 - 元に戻す 34
 - 保存 33
- 変更の取り消し 34
- 変更の保存 33
- 埋め込み
 - 出力インテント 145
 - ソース・プロファイル 145
- 用紙カット用ファイル作成 241

Numerics

- 1 ビットファイル 263

Symbols

- 「詳細レイアウト」で両面印刷 261

あ

- アップデート
 - メディアプロファイル 177
- アンインストール 401

い

- インストールフォルダ、デフォルト 380

お

- オーバープリント
 - コンボジットジョブ 105
 - スポット カラー 296
- オフセット印刷、シミュレーション 377
- オフラインシステムコンフィグレーション 67
- オンラインシステムコンフィグレーション 65
- オンラインヘルプ 17

か

- カスタマイズ
 - Job Explorer 28
 - System Manager 58
 - ワークスペース 72
- カスタムワークスペース
 - 削除 75
- カラー
 - 不純色、除去 186
 - 補正 172
- カラー補正 172
- カラー・グラデーション、スムージング 379
- カラー・マネージメント
 - プリセット 144
- カラースペース、作業 104
- カラーの正確さ
 - 検証
 - リモートサイトで 354
 - 色の微調整 185
- カラーマネージメント 142
 - 問題 395
- カラーマネージメントの
 - 問題 395

き

- キーボードショートカット 37
- キャリブレーション設定 143

く

- グラデーション、スムージング 379
- グラビア印刷、シミュレーション 377
- グラフィックプログラムの
 - コンター裁断情報 242
- グレースケール、変換 188
- クロップマーク 232

こ

- コンター裁断情報 241
 - 処理中 258
 - 「詳細レイアウト」で 261
 - スポット カラーとして定義 253
- コントロールストリップ
 - 選択 136
 - ダイナミックウェッジ 138
- コンポジットジョブ、オーバープリント 105

さ

- サーバの
 - 問題 387
- サポート 399
- サポートされているファイル形式 32
- サムネイル 79

し

- シート
 - サイズ 35
 - マージン 90
- シート上の
 - ページの位置合わせ 98
- システム条件 16
- システム設定
 - オンライン / オフライン 65
 - バックアップとリストア 275
 - リニアリゼーションワークフロー 154
- システムコンフィグレーション
 - 設定 51
- システムコンフィグレーションの切断 69
- システムコンフィグレーションを接続する 66
- シミュレーション (リファレンス) プロファイル
 - 作成 164

ジョブ

- Fiery XF を使った印刷 191
- JDF 271
- PostScript と PDF 99
- 移動 80
- 印刷 34
- 印刷された長さ、調整 376
- 回転 91
- 色精度の検証 323
- 色精度の最適化 323
- 速度を上げる 368
- 特大印刷 95
- 読み込み 189
- 反転 92
- 品質の向上 374
- 分版ジョブ 109
- 編集 91
- 優先度
 - 高 373
- クロップ 95
- コピー 80
- コンポジット、オーバープリント 105
- リセット 34
- リモート 354
- ジョブから対象外とされる
 - スポット カラー 286
- ジョブチケット 135
- ジョブの
 - 拡大縮小 92
 - 削除 34
 - 読み込み 32
 - キャンセル 35
 - ロード中 33
- ジョブの回転 91
- ジョブの拡大縮小 92
- ジョブの統合 131
- ジョブの読み込み 32, 189
- ジョブの反転 92
- ジョブのキャンセル
 - 処理中 35
 - ロード中 33
- ジョブのクロップ 95
- ジョブのリセット 34
- ジョブリスト
 - 表示 79
 - カスタマイズ 78
 - サムネイル 79
- ジョブリストの
 - カスタマイズ 78

す

- スクリーニングの方法 360
- スクリーニングファイル
 - 作成 364
 - 使用 366
- スクリーン角度
 - 既定 364
 - 変更 367
 - カスタム 365
- ステップ&リピート 128
 - 編集 129
 - 名前の変更 130
 - セットアップ 128
- スポット カラー
 - 検索順序 287
 - 最適化 309
 - 照明条件 297
 - 全域チェック 305
 - 対応のメーカー 281
 - 追加 280, 298
 - 定義する 279, 298
 - 内部ライブラリ 281, 290, 298
 - 白色点定義 296
 - 別のスポット カラーへのマッピング 282, 300
 - 編集 284
 - 未検出 280
 - 未定義の印刷 285
 - 名前の変更 312
 - インクシーケンス 286
 - インポート 313
 - エイリアスの作成 282, 300
 - オーバープリント設定 296
 - グラデーション 298, 304
 - プリンタのインク、使用 282, 302
 - プリンタのカラースペースに変換する 309
- スポット カラーテーブル
 - 開く 312
 - 削除 290
 - 新規 311
 - 選択 283, 314
 - 編集 284
 - ワークフローに適用する 314
- スポット・カラー
 - コンター裁断情報 253

せ

- セカンダリカラー、不純色の除去 186

セットアップウィザード / アシスタントで
システムコンフィグレーション
設定 52

そ

ソース
マルチカラー、適用 288
ソースプロファイル
選択 144
埋め込み 145
ソースプロファイルの
使用を強制する 288

た

ダイナミックウェッジ 138
ダイナミックスムージング、グラデーション 379
ダイナミックレンダリングインテント 147
タイリング 121
設定のエクスポート 126
編集 123
セットアップ 121
タイル
印刷 126
非表示 126
分割 125
マージ 125
タイルサイズ 123
ロックされたタイルのサイズ 125

て

デバイスリンクプロファイル 150
作成 163
デルタ E
許容範囲、定義 321, 335
警告表示 346

と

トラブルシューティング 387
ドングル ID、検出 21
ドングル ID の検出 44

な

ナレッジセンター 400

ね

ネスティング 111
作成 111
編集 114
名前の変更 119
「詳細レイアウト」で 261
シート、追加 116
フッター 120
プレビューのアップデート 114
ページ
位置揃え 118, 120
追加 115
複製 116
ロック位置 120

は

ハーフトーン・スクリーニング
ファイル、作成 364
ハーフトーンスクリーニング 359
パスワード 58
バックアップと復元 275

ふ

ファイアウォールの設定 24
ファイル
出力 223
サポートされるフォーマット、32
ファイル、クリーンアップ 385
フッター 134
位置合わせ 141
コントロールストリップ 136
ジョブチケット 135
ダイナミックウェッジ 138
ネスティング 120
レイアウト 139
ブラックインク、不純色を除去 186
プリセットメニュー 31
プリンタ
再リニアリゼーション 170
セットアップ 61
プリンタのインク、使用 282, 302
プリント MIS
Fiery XF のメディアデータベース 270
統合 268
プリントエンジン 99
フレキシソ印刷、シミュレーション 377

- プレビュー
 - 拡大縮小 82
 - 強制 78
 - サイズ 82
 - ネスティングのアップデート 114
- プレビューウィンドウ 81
- プレビューの
 - アクティベーション 77
- プログラム
 - 構造 380
 - 表示、保存 73
 - アーキテクチャ 15
 - ウィンドウ 27
 - フォルダ、デフォルトの変更 384
- プロセスカラー、不純色の除去 186
- プロパティインスペクタ、カスタマイズ 31
- プロパティインスペクタの
 - カスタマイズ 31
- プロファイル
 - 検査 169
 - 作成 154
 - 色域の比較 169
 - シミュレーション（リファレンス） 144
 - 作成 164
 - 編集 168
 - ソース 144
 - デバイスリンク 150
 - 作成 163
 - マルチカラー 144
 - メディア 143
 - 最適化 162
 - 作成 159, 183
 - アップデート 177
 - サードパーティ 179
 - モニタ 152, 297
 - 作成 166
- プロファイルコネクタ 167
- プロファイルの
 - 使用を強制する 288
- へ
- ページサイズの定義、PDF ジョブ 103
- ページの位置揃え
 - ネスト済みページ 120
- ページの配置 82
 - ガイド 85
 - グリッド 86
 - シートの端のオーバーラッピング 89
 - スナップ先 83
 - フレーム 88
 - マーク 87
 - ルーラー 83
- ベースリニアリゼーションファイル
 - 作成 157
 - 編集 157, 167
- ヘルプ 17
- ほ
- ホットフォルダ 193
 - 作成 193
 - 負荷分散 371
- ホットフォルダを介した印刷 193
- ま
- マーク
 - FOTObA 237
 - Grommet 234
 - i-cut 244
 - KIPCut 239
 - クロップ 232
- マルチカラーソースプロファイル 144, 288
- マルチスレッドのハーフトーン処理 371
- め
- メディア・プロファイル
 - 最適化 162
 - 作成 159
 - サードパーティ製ソフトウェアの使用 183
 - インストールフォルダ 384
- メディアウェッジ、選択 136
- メディアプロファイル
 - 選択 143
 - アップデート 177
- も
- モニタのプロファイル 152, 297
 - 作成 166
- ゆ
- ユーザ、設定 58

ユーザインタフェース 27

言語 32

測定システム 32

ユーザフォーラム 400

ら

ライセンスリング 43

ライセンス

インストール 21

インストールフォルダ 384

ライセンスファイルを再度生成する 48

ライセンス設定

問題 389

ライセンス設定の

問題 389

ランダムなリファレンスデータ 341

り

リニアリゼーションデバイス、設定 155

リファレンスプロファイル (シミュレーションプロファイル)

選択 144

編集 168

れ

レンダリングインテント 148

選択 146

ろ

ログイン 23

ログオフ 37

ログオンの

問題 387

わ

ワークスペース 71

割り当て 58, 76

作成 72

選択 71

編集 75

カスタマイズ 72

ワークフロー

色濃度の検証 316

優先度

高 373

オンライン / オフライン 65

セットアップ 59

テンプレート、カスタム 36

リモート 353